

# 新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書 I

— 鎌ヶ谷市五本松No.3 遺跡 —

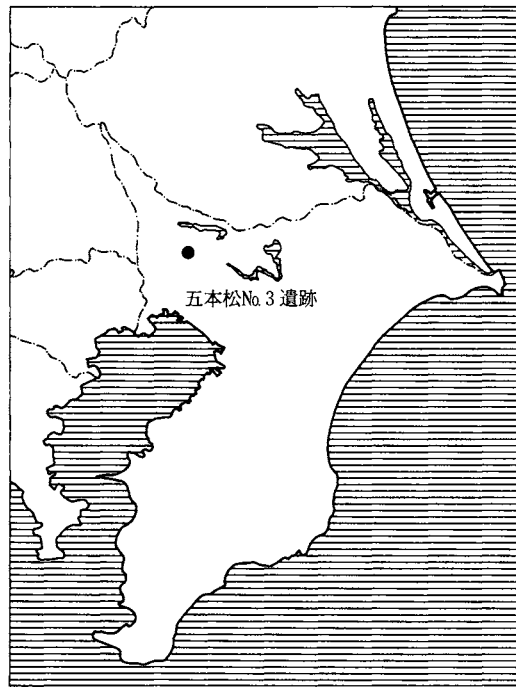
平成15年3月

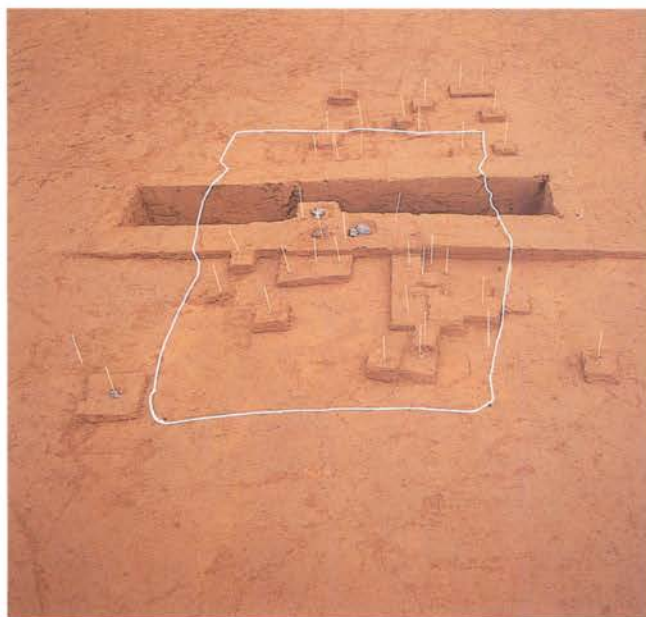
都市基盤整備公団千葉地域支社

財団法人 千葉県文化財センター

# 新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書 I

かまがや ごほんまつ  
— 鎌ヶ谷市五本松No.3 遺跡 —





旧石器時代土坑





第II a 文化層接合資料



第V文化層尖頭器石器群



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第457集として、都市基盤整備公団の新鎌ヶ谷地区整備事業関連に伴って実施した鎌ヶ谷市五本松No.3遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器群が5つの時期に渡って検出され、中でも旧石器時代土坑の検出は全国的にも希な例であり、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。この報告書が、学術資料として、また埋蔵文化財保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘作業から整理作業まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年3月25日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水 新次

## 凡 例

- 1 本書は、都市基盤整備公団による新鎌ヶ谷地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

五本松No.3 遺跡 千葉県鎌ヶ谷市初富字五本松918ほか (遺跡コード224-010)
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は都市基盤整備公団(旧住宅・都市整備公団)千葉地域支社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第3章3節1、6章2節を研究員小笠原永隆が、第4章1節の遺物、第5章第1節3(1)及び第6章3節を印西調査室長糸川道之が行い、その他の執筆及び編集は上席研究員矢本節朗が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化財課、都市基盤整備公団千葉地域支社千葉西部開発事務所、鎌ヶ谷市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図「白井」(NI-54-19-14-3)  
〃 〃 「松戸」(NI-54-25-2-3)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。座標系は日本測地系を用いている。

# 本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査の経緯と経過	1
2	調査の方法	4
3	遺跡の位置と環境	4
(1)	遺跡周辺の歴史的環境	4
(2)	層序区分	8
第2章	旧石器時代	11
第1節	概要	11
第2節	第I文化層	13
1	第1ブロック	13
第3節	第II a文化層	14
1	第2ブロック	16
2	第3ブロック	17
3	第4ブロック	20
4	第5ブロック	23
5	第6ブロック	28
6	第7ブロック	30
7	第8ブロック	34
8	第9ブロック	35
9	旧石器時代土坑	54
10	第10ブロック	54
第4節	第II b文化層	59
1	第16ブロック	59
第5節	第III文化層	80
1	第17ブロック	80
2	第18ブロック	83
3	第19ブロック	86
4	第20ブロック	91
第6節	第IV文化層	98
1	第21ブロック	98
第7節	第V文化層	101
1	第22ブロック	103
2	第23ブロック	107
3	第24ブロック	111
4	第25ブロック	114



5	第26ブロック	117
第8節	礫群	121
1	第1礫群	121
2	第2礫群	121
3	第3礫群	122
4	第4礫群	122
5	第5礫群	122
6	第6礫群	126
7	第7礫群	128
第9節	単独出土石器	128
1	単独出土1	129
2	単独出土2	129
3	単独出土3	129
4	単独出土4	129
第3章	縄文時代	163
第1節	概要	163
第2節	遺構と遺物	163
1	陥穴	163
2	土坑	166
第3節	包含層出土遺物	168
1	土器	168
2	石器	180
第4章	奈良・平安時代	184
第1節	遺構と遺物	184
1	住居跡	184
2	竪穴建物跡	187
3	土坑	188
第5章	中・近世	191
第1節	遺構と遺物	191
1	土坑	191
2	溝	192
3	その他の遺物	194
(1)	土器	194
(2)	銭貨	194
第6章	まとめ	195
第1節	旧石器時代	195
第2節	縄文時代	198
第3節	奈良・平安時代	198
報告書抄録		巻末

## 挿 図 目 次

第1図	調査範囲と確認トレンチ・グリッド	3	第35図	第9ブロック出土石器7	45
第2図	遺跡周辺の地形	5	第36図	第9ブロック出土石器8	46
第3図	遺跡の位置と周辺遺跡	7	第37図	第9ブロック出土石器9	47
第4図	基本層序	9	第38図	第9ブロック出土石器10	48
第5図	旧石器ブロック分布図	12	第39図	第9ブロック出土石器11	49
第6図	第1ブロック器種別分布	13	第40図	第9ブロック出土石器12	50
第7図	第1ブロック母岩別分布	14	第41図	第9ブロック出土石器13	51
第8図	第1ブロック出土石器	14	第42図	第9ブロック出土石器14	52
第9図	第IIa文化層ブロック分布	15	第43図	第9ブロック出土石器15	53
第10図	第2ブロック器種別分布	17	第44図	旧石器時代土坑	55
第11図	第2～6ブロック母岩別分布	18	第45図	第10ブロック器種別分布	56
第12図	第2ブロック出土石器	19	第46図	第10ブロック母岩別分布	57
第13図	第3ブロック器種別分布	20	第47図	第10ブロック出土石器1	58
第14図	第3ブロック出土石器1	21	第48図	第10ブロック出土石器2	59
第15図	第3ブロック出土石器2	22	第49図	第10ブロック出土石器3	60
第16図	第4ブロック器種別分布	23	第50図	第16ブロック器種別分布	61
第17図	第4ブロック出土石器1	24	第51図	第16ブロック母岩別分布	62
第18図	第4ブロック出土石器2	25	第52図	第16ブロック出土石器1	63
第19図	第5ブロック器種別分布	26	第53図	第16ブロック出土石器2	65
第20図	第5ブロック出土石器	27	第54図	第16ブロック出土石器3	66
第21図	第6ブロック器種別分布	28	第55図	第16ブロック出土石器4	67
第22図	第6ブロック出土石器	29	第56図	第16ブロック出土石器5	68
第23図	第7ブロック器種別分布	31	第57図	第16ブロック出土石器6	69
第24図	第7～9ブロック母岩別分布	32	第58図	第16ブロック出土石器7	70
第25図	第7ブロック出土石器	33	第59図	第16ブロック出土石器8	71
第26図	第8ブロック器種別分布	34	第60図	第16ブロック出土石器9	72
第27図	第8ブロック出土石器	35	第61図	第16ブロック出土石器10	73
第28図	第9ブロック器種別分布	36	第62図	第16ブロック出土石器11	74
第29図	第9ブロック出土石器1	38	第63図	第16ブロック出土石器12	75
第30図	第9ブロック出土石器2	39	第64図	第16ブロック出土石器13	76
第31図	第9ブロック出土石器3	40	第65図	第16ブロック出土石器14	77
第32図	第9ブロック出土石器4	42	第66図	第16ブロック出土石器15	78
第33図	第9ブロック出土石器5	43	第67図	第16ブロック出土石器16	79
第34図	第9ブロック出土石器6	44	第68図	第16ブロック出土石器17	80

第69図	第17ブロック器種別分布	81	第106図	第26ブロック出土石器 3	120
第70図	第17ブロック母岩別分布	81	第107図	第 1～3 礫群接合分布	123
第71図	第17ブロック出土石器	82	第108図	第 4～7 礫群接合分布	124
第72図	第18ブロック器種別分布	83	第109図	第 7 礫群接合分布	125
第73図	第18～20ブロック母岩別分布	84	第110図	礫群石材構成比グラフ	126
第74図	第18ブロック出土石器	85	第111図	礫群重量分布	127
第75図	第19ブロック器種別分布	87	第112図	単独出土 1 器種別分布	128
第76図	第19ブロック出土石器 1	88	第113図	単独出土石器 1	128
第77図	第19ブロック出土石器 2	89	第114図	単独出土 2 器種別分布	129
第78図	第19ブロック出土石器 3	90	第115図	単独出土石器 2	129
第79図	第19ブロック出土石器 4	91	第116図	単独出土 3 器種別分布	130
第80図	第20ブロック器種別分布	92	第117図	単独出土石器 3	130
第81図	第20ブロック出土石器 1	93	第118図	単独出土石器 4	130
第82図	第20ブロック出土石器 2	94	第119図	上層遺構分布図	164
第83図	第20ブロック出土石器 3	95	第120図	S K 001・003・006・007・011・012	165
第84図	第20ブロック出土石器 4	96	第121図	S K 014・015・031・032・033・034 ・035・022	167
第85図	第20ブロック出土石器 5	97	第122図	縄文土器 1	169
第86図	第21ブロック器種別分布	98	第123図	縄文土器 2	170
第87図	第21ブロック母岩別分布	99	第124図	縄文土器 3	171
第88図	第21ブロック出土石器 1	100	第125図	縄文土器 4	173
第89図	第21ブロック出土石器 2	101	第126図	縄文土器 5	174
第90図	第 V 文化層ブロック・礫群分布	102	第127図	縄文土器 6	175
第91図	第22ブロック器種別分布	103	第128図	縄文土器 7	176
第92図	第22・23ブロック母岩別分布	104	第129図	縄文土器 8	177
第93図	第22ブロック出土石器 1	105	第130図	縄文土器 9	178
第94図	第22ブロック出土石器 2	106	第131図	縄文土器 10	179
第95図	第23ブロック器種別分布	108	第132図	縄文時代石器 1	181
第96図	第23ブロック出土石器 1	109	第133図	縄文時代石器 2	182
第97図	第23ブロック出土石器 2	110	第134図	縄文時代石器 3	183
第98図	第24ブロック器種別分布	112	第135図	S I 002	185
第99図	第24～26ブロック母岩別分布	113	第136図	S I 002出土土器	187
第100図	第24ブロック出土石器	114	第137図	S I 021	188
第101図	第25ブロック器種別分布	115	第138図	S K 004・005・008・009・010・026	189
第102図	第25ブロック出土石器	116	第139図	S K 023・024・025・036	191
第103図	第26ブロック器種別分布	117	第140図	S D 013	192
第104図	第26ブロック出土石器 1	118	第141図	S D 028・029	193
第105図	第26ブロック出土石器 2	119			



## 表 目 次

第1表	第1ブロック石器属性表 ……………	133	第27表	第19ブロック石器属性表 ……………	151
第2表	第1ブロック組成表 ……………	133	第28表	第19ブロック組成表 ……………	151
第3表	第2ブロック石器属性表 ……………	133	第29表	第20ブロック石器属性表 ……………	152
第4表	第2ブロック組成表 ……………	134	第30表	第20ブロック組成表 ……………	152
第5表	第3ブロック石器属性表 ……………	134	第31表	第21ブロック石器属性表 ……………	153
第6表	第3ブロック組成表 ……………	135	第32表	第21ブロック組成表 ……………	153
第7表	第4ブロック石器属性表 ……………	135	第33表	第22ブロック石器属性表 ……………	154
第8表	第4ブロック組成表 ……………	136	第34表	第22ブロック組成表 ……………	154
第9表	第5ブロック石器属性表 ……………	136	第35表	第23ブロック石器属性表 ……………	155
第10表	第5ブロック組成表 ……………	136	第36表	第23ブロック組成表 ……………	156
第11表	第6ブロック石器属性表 ……………	137	第37表	第24ブロック石器属性表 ……………	157
第12表	第6ブロック組成表 ……………	137	第38表	第24ブロック組成表 ……………	157
表13表	第7ブロック石器属性表 ……………	138	第39表	第25ブロック石器属性表 ……………	157
第14表	第7ブロック組成表 ……………	139	第40表	第25ブロック組成表 ……………	158
第15表	第8ブロック石器属性表 ……………	139	第41表	第26ブロック石器属性表 ……………	158
第16表	第8ブロック組成表 ……………	139	第42表	第26ブロック組成表 ……………	158
第17表	第9ブロック石器属性表 ……………	140	第43表	第1礫群属性表 ……………	159
第18表	第9ブロック組成表 ……………	145	第44表	第2礫群属性表 ……………	159
第19表	第10ブロック石器属性表 ……………	146	第45表	第3礫群属性表 ……………	159
第20表	第10ブロック組成表 ……………	145	第46表	第4礫群属性表 ……………	160
第21表	第16ブロック石器属性表 ……………	147	第47表	第5礫群属性表 ……………	160
第22表	第16ブロック組成表 ……………	149	第48表	第6礫群属性表 ……………	160
第23表	第17ブロック石器属性表 ……………	150	第49表	第7礫群属性表 ……………	161
第24表	第17ブロック組成表 ……………	150	第50表	単独出土石器属性表 ……………	162
第25表	第18ブロック石器属性表 ……………	150	第51表	縄文石器属性表 ……………	183
第26表	第18ブロック組成表 ……………	150			

## 図 版 目 次

巻頭図版 1	旧石器時代土坑	図版 1	五本松No.3遺跡の周辺地形
巻頭図版 2	第II a文化層接合資料	図版 2	基本層序
	第V文化層尖頭器石器群		旧石器土坑検出状況
			旧石器土坑石器出土状況

	旧石器土坑土層状況	第21ブロック
図版 3	第 1 ブロック	第22ブロック 1
	第 2～10ブロック	図版22 第22ブロック 2
	第 2～10ブロック	第23ブロック
図版 4	第 2～9 ブロック	図版23 第24ブロック
	第 9・10ブロック投影	第25ブロック
	第 7～10ブロック	第26ブロック 1
図版 5	第 2～5 ブロック投影	図版24 第26ブロック 2
	第16ブロック	単独出土
	第16ブロック	図版25 SK001・007
図版 6	第18～20ブロック	SK003・011
	第21ブロック	SK006・012
	第22～26ブロック	SK014・015
図版 7	第 1 ブロック	図版26 SK014・015
	第 2 ブロック	SK031・032
	第 3 ブロック	SK032・033
図版 8	第 4 ブロック	SK034・035
	第 5 ブロック 1	図版27 縄文土器 1
図版 9	第 5 ブロック 2	縄文土器 2
	第 6 ブロック	図版28 縄文土器 3
	第 7 ブロック	縄文土器 4
	第 8 ブロック	図版29 縄文土器 5
図版10	第 9 ブロック 1	縄文土器 6
図版11	第 9 ブロック 2	図版30 縄文土器 7
図版12	第 9 ブロック 3	縄文土器 8
図版13	第10ブロック	図版31 縄文土器 9
図版14	第16ブロック 1	縄文土器10
図版15	第16ブロック 2	図版32 縄文時代石器 1
図版16	第16ブロック 3	図版33 縄文時代石器 2
図版17	第16ブロック 4	図版34 SI002
	第17ブロック	SI002カマド・SI021出土状況
図版18	第18ブロック	SI021・SI030
	第19ブロック 1	図版35 SK004・004・005
図版19	第19ブロック 2	SK005・008・009
	第20ブロック 1	SK026・023
図版20	第20ブロック 2	SK024・025
図版21	第20ブロック 3	図版36 SD036

SD013  
SD028  
SD029

図版37 奈良・平安時代出土土器  
中・近世出土遺物



# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

都市基盤整備公団（旧住宅・都市整備公団）は、首都圏における人口増加に対応する事業の一環として新鎌ヶ谷駅東側の隣接地に「新鎌ヶ谷地区土地区画整理事業」を計画した。都市基盤整備公団は、区画整理事業に当たり、千葉県教育委員会と事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。調査は財団法人千葉県文化財センターが委託を受け実施することとなり、都市基盤整備公団との間に平成6年2月に発掘調査委託契約が締結された。

事業地内の台地上には広範囲に遺跡が確認されており、五本松No.3遺跡、林跡No.2遺跡、林跡No.3遺跡、林跡No.4遺跡の4遺跡が所在している。事業地内に所在する遺跡の調査は、事業計画との整合性を図りつつ実施することになり、平成6年12月1日、本遺跡の調査から開始された。平成6年12月19日までに調査対象面積2,422㎡の上層・下層確認調査を行い、遺構・遺物とも確認されず確認調査で終了となった。平成7・8年度は、調査の主体が林跡No.2遺跡、林跡No.3遺跡、林跡No.4遺跡に移行したため本遺跡の調査はなかった。本遺跡の調査は平成9年度より再開され、平成9年6月2日より調査対象範囲15,668㎡の調査が行われた。7月31日までに上層の確認調査が終了し、上層は遺構等が散漫で確認調査で終了となった。引き続き下層確認調査が行われ、9月30日に終了した。確認グリッドの19か所で石器が確認され1,500㎡の本調査に移行し、10月31日に平成6年度の調査を終了した。

平成10年度は、10月1日より調査対象範囲2,980㎡の調査が行われた。10月22日までに上層確認調査が終了し、縄文時代の土坑及び野馬堀が確認され400㎡の本調査に移行した。下層確認調査は、11月5日から行われ、遺物の検出がなく11月16日に下層確認調査終了とともに平成10年度の調査は終了した。

平成11年度は、8月1日より調査対象範囲6,806㎡の調査が行われた。9月14日までに上層・下層の確認調査が終了し、その結果、上層は縄文時代中期の遺物集中箇所と歴史時代の住居跡が検出され600㎡の本調査が行われ、下層では確認グリッド7か所から石器が検出され1,120㎡の本調査が行われた。平成11年度の調査は10月29日に終了した。

平成13年度は、平成14年3月1日より調査対象2,000㎡の調査が行われた。3月18日までに上層確認調査及び調査対象1,200㎡の下層確認調査が終了し、上層は歴史時代の住居跡を確認し80㎡の本調査が行われ、下層は確認グリッド4か所より石器が検出され400㎡の本調査が行われた。

平成14年度は、4月1日より調査対象2,228㎡と平成13年度下層確認調査対象面積の残り800㎡が開始され、4月30日までに2,228㎡部分の上層・下層の確認調査が終了した。上層は遺構が散漫のため確認調査で終了となったが、下層では確認グリッド4か所から石器が検出され1,330㎡の本調査範囲とした。5月1日から800㎡部分の下層確認調査と併せて下層本調査は実施され、800㎡部分からは遺物が検出されなかった。下層本調査は、平成14年5月31日をもって終了した。平成6年度から平成14年度の多年度にわたる調査により本遺跡の調査対象面積約38,000㎡の内、未調査範囲以外の大部分の調査範囲が終了したことになる。

平成11年度までの発掘調査の結果、旧石器時代の石器集中地点27か所（調査終了時の地点数）、土坑1基、縄文時代中期の遺物集中地点1か所、陥穴6基、土坑8基、平安時代の住居跡1軒、竪穴建物跡1基、土

坑6基、中世・近世の溝（野馬掘含む）3条、土坑2基などが検出された。

平成11年度から整理作業が開始され、平成11・12年度及び本年度をもって報告書刊行の運びとなった。なお、本報告は、五本松No.3遺跡の平成6年度から11年度までの成果をまとめたものである。平成13・14年度の発掘調査の成果は、来年度以降に整理作業を行う予定である。

今回報告分における発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

## 発掘調査

### 平成6年度

期 間：平成6年12月1日～平成6年12月19日

組 織：北部調査事務所長 田坂 浩

担当職員：研究員 猪俣昭喜

内 容：上層確認調査・下層確認調査

### 平成9年度

期 間：平成9年6月2日～平成9年10月31日

組 織：北部調査事務所長 折原 繁

担当職員：研究員 花島理典

内 容：上層確認調査・下層確認調査・下層本調査

### 平成10年度

期 間：平成10年10月1日～平成10年11月16日

組 織：北部調査事務所長 折原 繁

担当職員：研究員 花島理典

内 容：上層確認調査・下層確認調査・上層本調査

### 平成11年度

期 間：平成11年8月1日～平成11年10月29日

組 織：北部調査事務所長 折原 繁

担当職員：研究員 花島理典

## 整理作業

### 平成11年度

期 間：平成11年7月1日～平成11年3月31日

組 織：北部調査事務所長 折原 繁

担当職員：主任技師 落合章雄 研究員 花島理典

内 容：水洗・注記～実測の一部（平成6・9・10年度調査分）

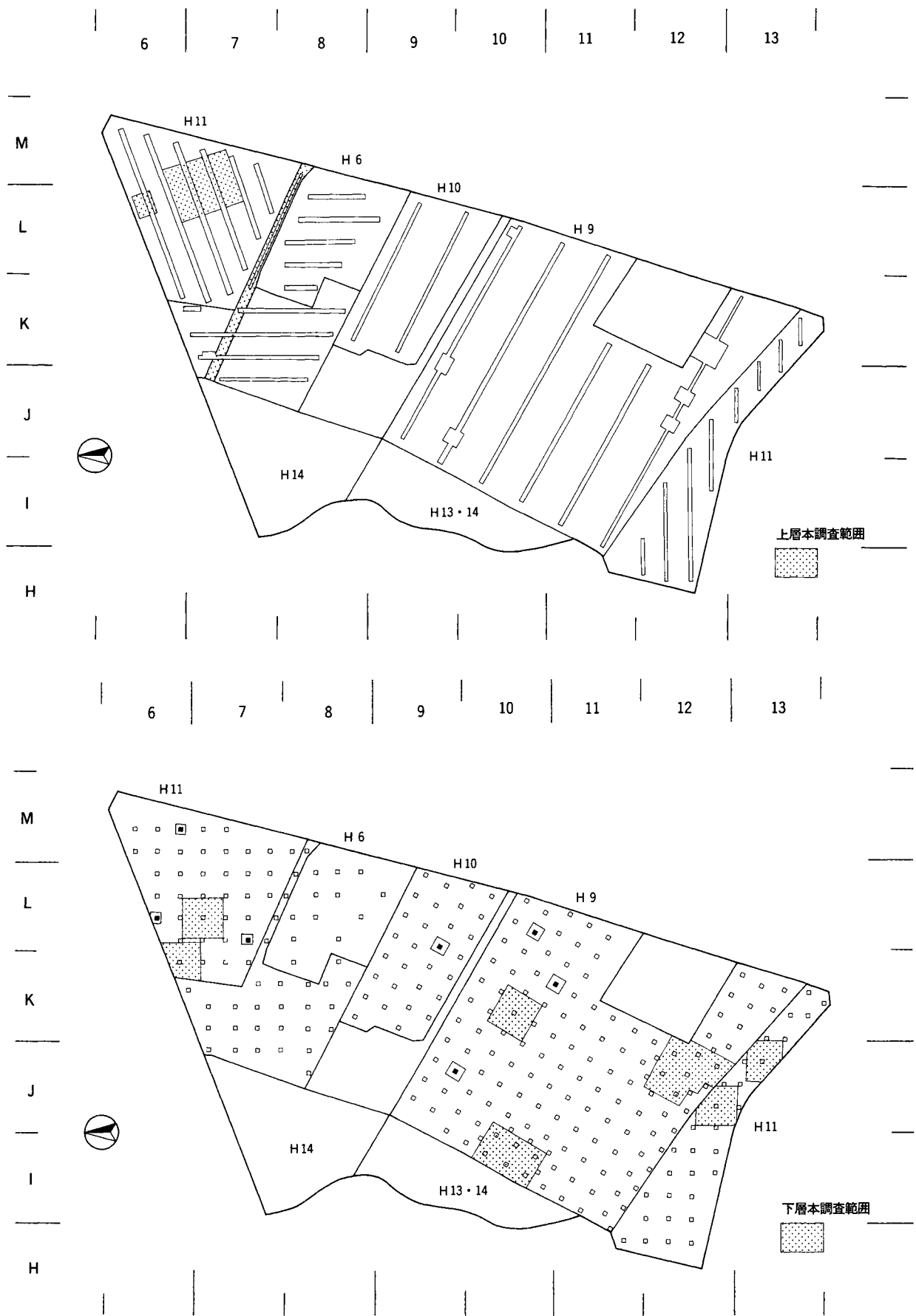
### 平成12年度

期 間：平成12年6月1日～平成12年11月30日

組 織：北部調査事務所長 石田広美

担当職員：上席研究員 落合章雄

内 容：実測の一部～原稿執筆の一部（平成6・9・10年度調査分）



第1図 調査範囲と確認トレンチ・グリッド

## 平成14年度

期 間：平成14年6月1日～平成15年3月31日

組 織：調査副部長兼北部調査事務所長 古内 茂

担当職員：上席研究員 矢本節朗

内 容：原稿執筆の一部～原稿執筆（平成6・9・10年度調査分），水洗注記～原稿執筆（平成11年度調査分），報告書刊行

### 2 調査の方法

**調査区の設定** 新鎌ヶ谷地区事業地内の調査対象範囲全域について、公共座標に合わせて東西南北に覆う40m×40mの方眼網を設定し大グリッドとした。したがって、五本松No.3遺跡、林跡No.2遺跡、林跡No.3遺跡、林跡No.4遺跡の4遺跡に統一した大グリッドを設定している。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて、北から南に1, 2, 3, ……とし、西から東へA, B, C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内は4m×4mに100分割の小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南東隅を99とする。最小グリッドの表記はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、例えば、10K45のようになる。

**上層確認調査** 縄文時代以降の上層の調査は、調査区全域に幅2mのトレンチを東西を基本に設定して、調査対象面積の10%を実施し、遺構・遺物の分布、包含の有無を確認した。

**下層確認調査** 旧石器時代の下層（ローム層中）の確認調査は、調査区全域に2m×2mを調査対象面積の4%設定し、石器等の遺物が出土した地点について周囲を拡張し、遺物集中の存否と広がりを目指す方法を採用した。

**本調査** 上層確認調査の結果に基づき、まず縄文時代以降の陥穴、住居跡、土坑を始めとする遺構及び縄文時代の遺物包含層を対象として精査を行った。その後、下層の確認調査を行い、その結果に基づき、石器が出土した地点の周囲を拡張して石器集中地点の精査を行った。

**遺構番号** 調査時点においては、検出された遺構に対して精査を行った順に001号跡、002号跡……のように一連の番号を付した。本書では、調査時の遺構番号を踏襲して表記しているが、遺構番号の頭に遺構の種別を示す記号を追加した。S Iは住居跡、S Bは掘立柱建物跡、S Kは陥穴、土坑及び土坑墓、S Dは溝状遺構を意味する。したがって、文中ではS I 002, S K 001, のように表記した。例外は旧石器時代の土坑で、種別を示す記号と番号を付さず、単に「旧石器時代土坑」と表記した。なお、調査時において遺構番号の重複・欠番等が認められるため、本報告に当たって遺構番号の変更を行った。変更番号は以下の通りである。

平成9年度調査 013→旧石器時代土坑

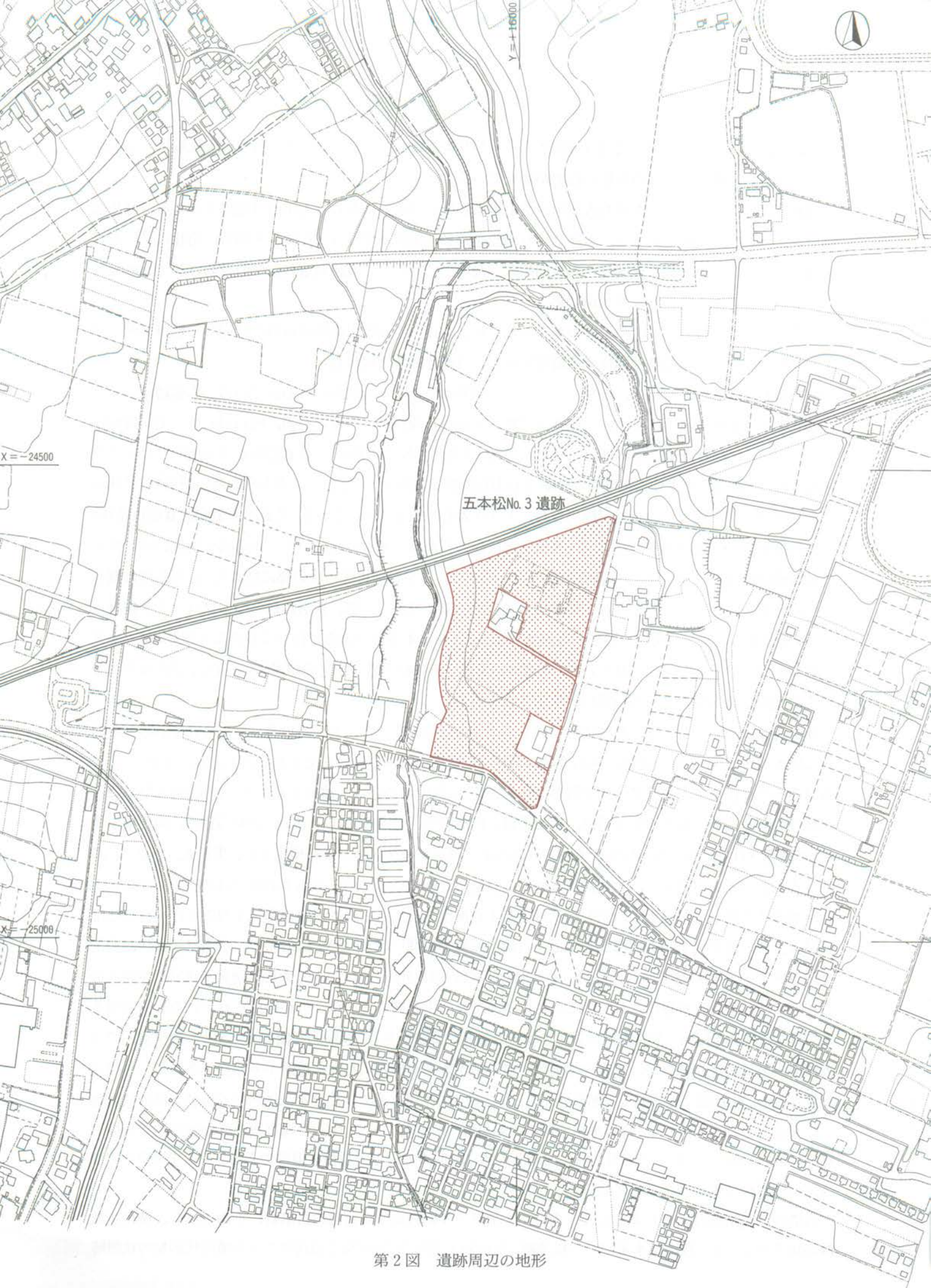
平成10年度調査 011→S K 014, 012→S K 015, 013→S D 013

### 3 遺跡の位置と環境

#### (1) 遺跡周辺の歴史的環境

五本松No.3遺跡は、千葉県鎌ヶ谷市初富字五本松918ほかに所在し、新京成・北総線新鎌ヶ谷駅の東側約1kmに位置している。本遺跡は、千葉県北側に広がる下総台地の北西地域に立地している。本遺跡周辺の下総台地北西部は、本遺跡の南約1kmを北西-南東ラインの分水嶺として、北は、手賀沼を経て利根川に流入する大津川の開析により南北に支谷が入り込む幅の狭い台地地形を呈し、南は、谷地川が北東から南





第2図 遺跡周辺の地形



西へ流れ、小河川を合わせ大柏川（真間水系）となり東京湾に注ぎ込んでいる。谷地川上流域は、小支谷による開析で急峻で複雑な樹枝状の台地が延びている。

遺跡は、手賀沼西岸に注ぎ込む大津川の最上流部右岸の台地上にある。大津川は遺跡をのせる台地北端で東西に分岐し、遺跡付近では、本流により西側を画し、支流は埋没谷となり東を画し、南北に長い舌状台地を形成している。調査区域はこの舌部中間の台地上に当たる。遺跡周辺の台地の標高は26～28m前後で、低地までの比高差はおよそ10mである。

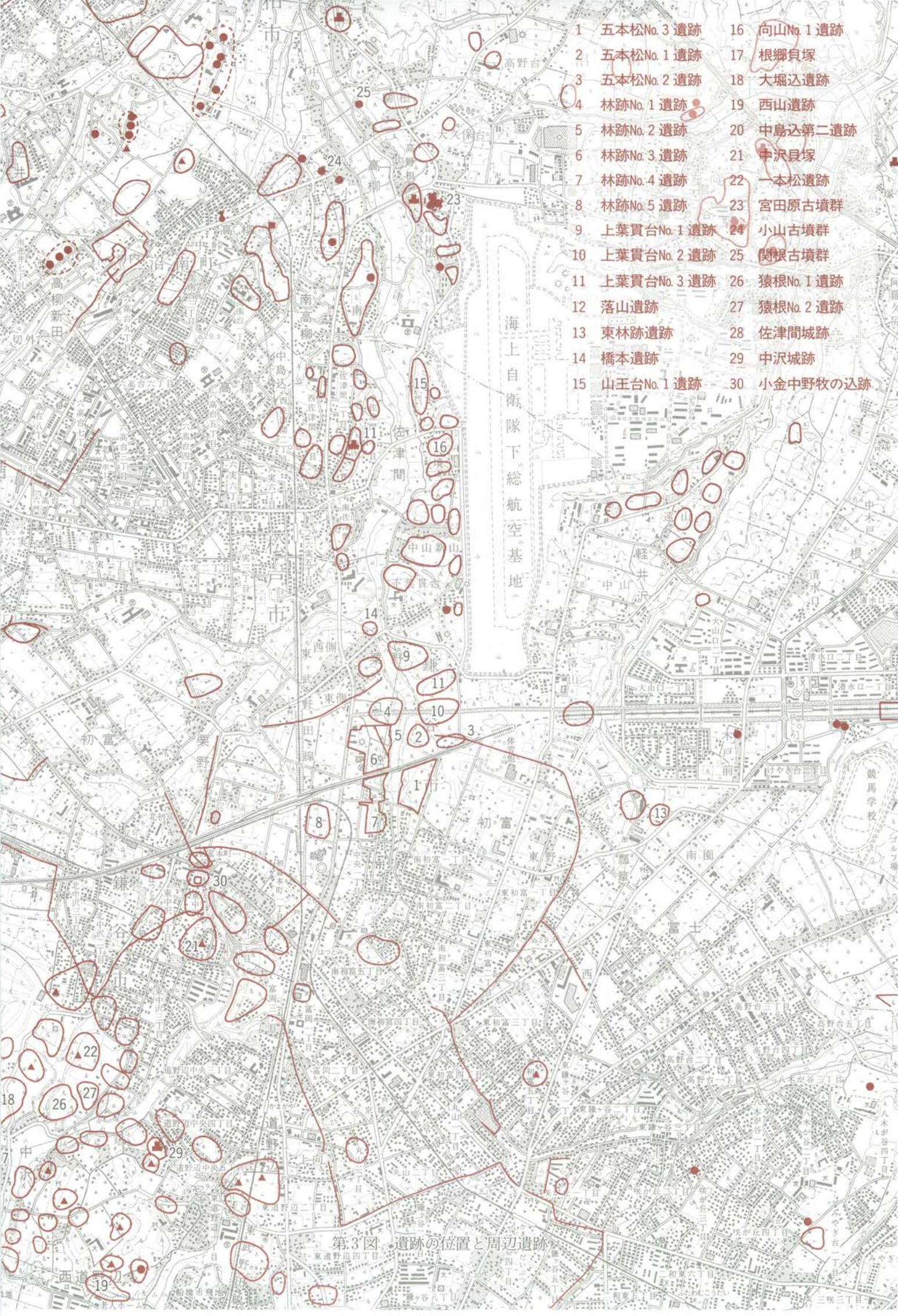
本遺跡の周辺台地には多くの遺跡の存在が知られ、大津川や谷地川流域には河川に面して遺跡が密に分布している。次に、本遺跡に関係する時期を中心に周辺遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡としては、千葉ニュータウン関連事業で多くの調査が行われている。本遺跡をのせる台地北端の五本松遺跡（五本松No.1遺跡<sup>1)</sup>でⅢ層上面から漸移層にかけて石刃、細石刃石核、尖頭器が検出されている。谷津を挟んで東側の上葉貫台遺跡（上葉貫台No.2遺跡<sup>2)</sup>ではⅥ層から3か所のブロックが検出され、珪質頁岩を主体に黒曜石が加わる石刃石器群と把握される。さらに東方向の落山遺跡<sup>3)</sup>では9か所のブロックから数多くの石器が検出され、3つの文化層が設定されている。それぞれ武蔵野Ⅸ層段階（第2黒色帯下部）・Ⅴ層～Ⅳ層下部段階・Ⅳ層上部段階の石器群と考えられている。本遺跡の西側の谷を挟んだ林跡遺跡<sup>4)</sup>では、3次にわたる調査で17地点ものブロックが台地東側の縁辺部に展開した。石器群は概ね4つの文化層に分けられているが、最下層の文化層（第2黒色帯下部、Ⅸ層）は8つのブロックが検出され、凝灰岩製の石斧と石英製の台形石器がまとまる。さらに本事業の調査に伴って林跡No.2遺跡、林跡No.3遺跡でも多量の石器が検出されている。本遺跡の東約1kmには著名な東林跡遺跡<sup>5)</sup>が存在し、詳細は不明であるが武蔵野Ⅶ層段階の石刃石器群が検出されている。

縄文時代の遺跡としては、林跡遺跡で縄文草創期の隆起線土器が表面採集及び検出されている。早期では橋本遺跡<sup>7)</sup>、上葉貫台遺跡、落山遺跡があり、上葉貫台遺跡では撚糸文土器が出土土器の主体を占め、落山遺跡では撚糸文土器と茅山式土器が主体を占める。前期の遺跡は大津川水系に多くの遺跡が認められ、上葉貫台No.2遺跡、五本松No.1遺跡、落山遺跡、佐津間山王台遺跡（山王台No.1遺跡）遺跡<sup>8)</sup>、向山No.1遺跡<sup>9)</sup>が調査されている。五本松No.1遺跡では黒浜期～浮島期の住居跡が3軒検出され、黒浜式、浮島式、諸磯b式土器が多量に出土し、土製挾状耳飾が2点検出されている。山王台No.1遺跡では諸磯式、浮島式土器、興津式土器などが出土し、土製挾状耳飾が1点検出されている。本遺跡の縄文土器の主体を占める中期の阿玉台土器が出土する遺跡としては、谷地川流域で根郷貝塚（根郷No.1遺跡<sup>10)</sup>、大堀込遺跡<sup>11)</sup>、西山遺跡<sup>12)</sup>があり、根郷貝塚では阿玉台期～中峠期の住居跡6軒が検出されている。大堀込遺跡では阿玉台期～加曾利期の住居跡11軒が検出されている。西山遺跡では阿玉台期の住居跡2軒が検出されている。海老川水系では、海老ヶ作貝塚<sup>13)</sup>や高根木戸貝塚<sup>14)</sup>などの著名な遺跡がある。概観的な傾向であるが、縄文前期では大津川水系に遺跡が多いが、縄文中期前半では谷地川水系や海老川水系に遺跡が多く形成されている傾向が見られる。中期後半から後期・晩期の遺跡としては、大津川水系で中島込第二遺跡<sup>15)</sup>で称名寺期の住居跡3軒が検出されている。他には谷地川水系の中沢貝塚<sup>16)</sup>が著名である。中沢貝塚は概ね6か所の地点貝塚が径約130mの馬蹄状に巡っており、堀之内期を主体に晩期まで続く大規模な遺跡である。一本松遺跡<sup>17)</sup>では後期の住居跡7軒が検出されている。

古墳時代の遺跡はあまり多くなく、大津川下流3～4kmの両岸に宮田原古墳群、小山古墳群、関根古墳群が知られている。谷地川水系の一本松遺跡、猿根No.1遺跡<sup>18)</sup>、猿根No.2遺跡<sup>19)</sup>では古墳時代前期の住居跡





- 1 五本松No.3 遺跡
- 2 五本松No.1 遺跡
- 3 五本松No.2 遺跡
- 4 林跡No.1 遺跡
- 5 林跡No.2 遺跡
- 6 林跡No.3 遺跡
- 7 林跡No.4 遺跡
- 8 林跡No.5 遺跡
- 9 上葉貫台No.1 遺跡
- 10 上葉貫台No.2 遺跡
- 11 上葉貫台No.3 遺跡
- 12 落山遺跡
- 13 東林跡遺跡
- 14 橋本遺跡
- 15 山王台No.1 遺跡
- 16 向山No.1 遺跡
- 17 根郷貝塚
- 18 大堀込遺跡
- 19 西山遺跡
- 20 中島込第二遺跡
- 21 中沢貝塚
- 22 一本松遺跡
- 23 宮田原古墳群
- 24 小山古墳群
- 25 関根古墳群
- 26 猿根No.1 遺跡
- 27 猿根No.2 遺跡
- 28 佐津間城跡
- 29 中沢城跡
- 30 小金中野牧の込跡

第3図 遺跡の位置と周辺遺跡



が検出され、集落を形成するようである。

奈良・平安時代の遺跡としては、双賀辺田No.1遺跡<sup>20)</sup>では8世紀末から9世紀中葉にかけての住居跡17軒と掘立柱建物跡14軒が検出され、「子中尾」「吉原」等の墨書土器が88点出土した。大津川中・下流域の沼南町では製鉄遺跡が数多く知られるが、大津川最上流域の林跡No.3遺跡<sup>21)</sup>では、平成9年度の調査で製鉄に関連した遺構が検出されている。

中世では、城郭遺跡として佐津間城跡<sup>22)</sup>、中沢城跡<sup>23)</sup>が知られる。佐津間城跡では郭、土塁、堀が確認され板碑が存在した。土塁・堀の構造から戦国期の時期が与えられている。また、万福寺境内遺跡<sup>24)</sup>からは中・近世の墓地と板碑、蔵骨器、古銭等の遺物が多量に出土している。

近世では、遺跡周辺は「小金三牧」の1つである小金中野牧にあたり、本遺跡の東約1kmで南北方向に延びる野馬土手が西方向に向きをかえ、ちょうど遺跡北側に近接する五本松No.2遺跡まで延び、本遺跡を囲んで存在していた<sup>25)</sup>。

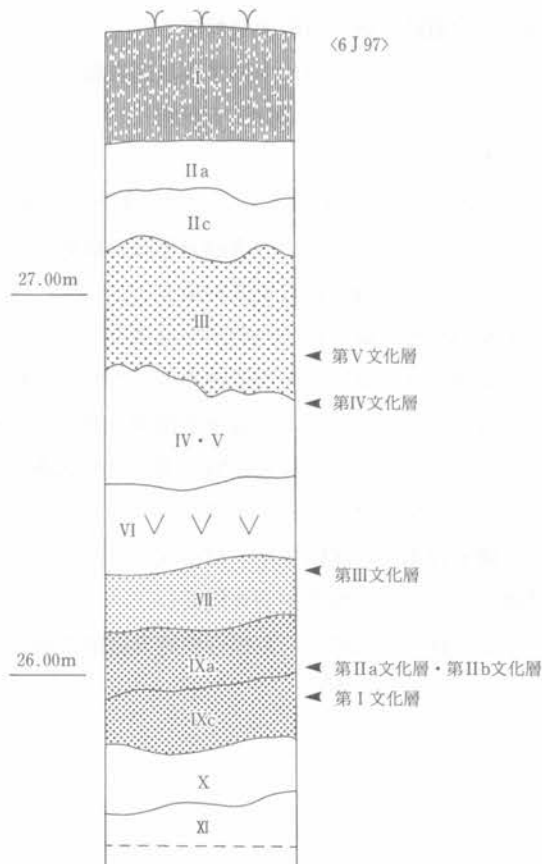
## (2) 層序区分

本遺跡は、前項で説明したように大津川最上流域の台地に位置している。この台地上は地形面では下末吉面（S面）に比定されている。下総台地西部の鎌ヶ谷地域では、これまでの調査例から立川ローム層が厚く、第2黒色帯の黒色化も明瞭であることが知られている。ここでは、これまでの下総台地における立川ローム層中の調査の層序区分を踏まえて、基本的には発掘調査での観察を中心に層序区分を行った結果を示した。

### 基本層序

- I 層：褐色土。表土及び耕作土。削平され天地返しを受けたようにローム小ブロックが混入する。
- II a 層：黒褐色土。黄褐色スコリア、オレンジスコリアをやや多く含む。
- II b 層：赤褐色土。色調は赤色、黄褐色スコリア、オレンジスコリアを含み、全体として黄色味を帯びている。遺跡全域で薄くとぎれとぎれに確認される。いわゆる「新期テフラ層」である。なお、II b 層が分層されていないところではII c 層上部に含めて認識されている。
- II c 層：黒褐色土。遺跡北側で縄文中期前半の阿玉台式土器群を包含する層となっていた。
- III 層：黄褐色ローム土。いわゆるソフトローム層と呼ばれる層である。オレンジスコリアを微量含む。本遺跡ではIV層以下との境界をなす波状帯の下端はIV・V層を切ってVI層に及んでるのが一般的である。層厚は20～40cm前後である。本遺跡の第V文化層はこの層の下部に遺物の垂直分布の集中が見られた。
- IV・V層：黄褐色ローム土。III層は比較的薄くソフト化しているが、IV層とV層は識別されなかった。III層の波状帯下端部から上部がIV層に当たると考えられる。赤色、黒色、オレンジ、白色スコリアを少量含む。濁くとクラックが入る。層厚は20～40cm前後である。
- VI 層：明黄褐色ローム土。始良T n火山灰層（AT層）である。オレンジスコリア、白色パミスを多量に含む。黒色スコリアを少量含む。ATが濃密に分布している範囲をVI層とした。層厚は約20cmである。物井地区周辺の遺跡と比較するとややVI層を厚くとしている。
- VII 層：暗黄褐色ローム土。第二黒色帯上部に相当する層である。VI層よりやや暗色である。赤色、白色スコリアをやや多く含む、黒色スコリアを少量含む。ATはこの層まで拡散している。層厚は約15cmである。

- IX a 層：暗黄褐色ローム土。第二黒色帯中間部に相当する層である。ややVII層より暗色化し，第二黒色帯の中では一番暗い。オレンジスコリアを非常に多量に含む。下部でやや粘性が強まる。ATの拡散が見られなくなる部分から下位をIX a 層としている。層厚は20cm前後である。
- IX c 層：暗黄褐色ローム土。第二黒色帯下部に相当する層である。オレンジスコリアを多く含む。黒色スコリアを少量含む。下部で粘性が強まる。層厚は20cm前後である。
- X 層：明褐色ローム土。立川ローム層最下層に相当する。IX層より明るくなる。オレンジスコリアを多く含む。下部がやや軟質化し粘性を帯びる。層厚は約20cmである。
- XI 層：褐色ローム土。武蔵野ローム層最上層に相当する。上位層より粘性が強くなり，乾燥すると上部でクラックが発達する。



第4図 基本層序

注

- 1 橋本勝雄 1989『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』（財）千葉県文化財センター
- 2 注1文献。
- 3 注1文献。
- 4 高橋博文 1992『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅺ－林跡遺跡－』（財）千葉県文化財センター
- 5 麻生優・織笠明・犬塚俊雄 1984「千葉県鎌ヶ谷市東林跡遺跡の調査」『日本考古学協会第50会総会研究発表要旨』
- 6 田村隆・金子博英 1982「鎌ヶ谷市林跡遺跡採集の隆起線文土器」『奈和』20, 注4文献
- 7 鎌ヶ谷市送電線所在遺跡調査会 1979『橋本遺跡』
- 8 鎌ヶ谷市町史編纂委員会 1967『佐津間山王台遺跡 軽井沢遠山遺跡』
- 9 鎌ヶ谷市教育委員会 1999『平成10年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 猿根No.1遺跡(2次)・向山No.1遺跡(3次)』
- 10 鎌ヶ谷市教育委員会 1988『千葉県鎌ヶ谷市根郷貝塚発掘調査報告書』
- 11 鎌ヶ谷市教育委員会 2001『平成12年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報－大堀込遺跡(4次A地点)－』
- 12 鎌ヶ谷町史編纂委員会 1970『西山遺跡』鎌ヶ谷町史資料集6
- 13 船橋市教育委員会 1972『海老ヶ作貝塚－縄文時代中期集落址調査報告－』  
船橋市教育委員会 1975『海老ヶ作貝塚－第2次発掘調査概報－』
- 14 船橋市教育委員会 1971『高根木戸』
- 15 沼南町教育委員会 1986『中島込第二遺跡－高柳第一特定土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』
- 16 鎌ヶ谷市教育委員会 2000『平成11年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報－中沢貝塚(16次B地点)－』  
鎌ヶ谷町史編纂委員会 1965『中沢貝塚』鎌ヶ谷町史資料集2
- 17 鎌ヶ谷市教育委員会 2002『平成13年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報－一本松遺跡(3次)－』
- 18 鎌ヶ谷市教育委員会 1999『平成10年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報－猿根No.1遺跡(2次)－』
- 19 鎌ヶ谷市教育委員会 1998『平成9年度 鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報－猿根No.2遺跡(4次)－』
- 20 鎌ヶ谷市教育委員会 1988『千葉県鎌ヶ谷市 双賀辺田No.1遺跡発掘調査報告書』
- 21 千葉県文化財センター 1998『千葉県文化財センター年報23－平成9年度－』
- 22 鎌ヶ谷市史編纂委員会 1975『鎌ヶ谷市 佐津間城址・初富向山馬込』
- 23 鎌ヶ谷市教育委員会 1980『鎌ヶ谷市 中沢城発掘調査概要』
- 24 鎌ヶ谷市教育委員会 1985『千葉県鎌ヶ谷市中沢 万福寺板碑発掘調査報告書』鎌ヶ谷市史資料集11
- 25 鎌ヶ谷市教育委員会 1997『鎌ヶ谷市史(中巻)』

## 第2章 旧石器時代

### 第1節 概要

旧石器時代の調査は、平成9年度と平成11年度の2か年に実施され、27,876㎡の調査対象面積のうち、2,620㎡の本調査を実施した。遺物集中地点は調査範囲の縁辺部を主体にほぼ全域、7地点の調査区において調査が実施された。その結果、合わせて1か所の土坑、32か所の石器集中地点が検出された。整理作業の過程で集中分布密度の状況、出土層位、母岩分類、石器群の内容等の検討を行い、これらの石器集中地点は、1か所の土坑、7か所の礫群、21か所のブロック、3か所の単独出土地点によって構成されると把握した。それぞれのブロックと礫群は、出土層位と石器群の特徴から5つの文化層と2つの亜文化層を設定した。

第I文化層は、立川ローム層のIX層下部（第2黒色帯下位）に産出層位があるもので、本遺跡基本土層のIXc層に産出層準が認められる。ブロックは単独であり、第1ブロックが帰属する。

第II文化層は、立川ローム層のIX層上部（第2黒色帯中位）に産出層位があるもので、基本土層のIXa層に産出層準が認められる。1か所の土坑、10か所のブロックと把握され、第2ブロック～第10ブロック、第16ブロックが帰属する。この内、第2ブロック～第10ブロックはブロック群を形成する一群で、第16ブロックとは同一の層準から検出されてはいるが、石器群の内容が異なるため亜文化層を設けた。1か所の土坑、第2ブロック～第10ブロックが第IIa文化層、第16ブロックが第IIb文化層とする。

第III文化層は立川ローム層のVII層（第2黒色帯上位）に産出層位があるもので、基本土層のVII層に産出層準が認められる。4か所のブロックが把握され、第17ブロック～第20ブロックが帰属する。

第IV文化層は、立川ローム層のV層～IV層下部（第1黒色帯～IV層下部）に産出層位があるもので、基本土層のIV・V層～III層下部に産出層準が認められる。ブロックは単独であり、第21ブロックが帰属する。

第V文化層は立川ローム層のIV層上部に産出層位があるもので、基本土層のIII層下部に産出層準が認められる。第1礫群～第7礫群、第22ブロック～第26ブロックが帰属する（第5図）。

次に、ここで各文化層の石器群の概要に触れておく。

**第I文化層** 本遺跡最下層の文化層であり、IXc層の小規模なブロック1か所のみである。特徴的な器種は検出されず各種単独母岩の剥片・礫で構成される。

**第IIa文化層** 黒曜石材を主体とした、集約的な縦長剥片（石刃）生産が行われるブロック群である。本遺跡最大規模のブロック群であり、最も石器の集中する範囲で、石器の密集した土坑が検出されている。石器群は、ナイフ形石器が少量検出されている。なお、平成13年度の調査でこの調査範囲の西側に接して、同一の層準から石器群が検出されている。未整理のため詳細はわからないが同一文化層の石器群であり、当該報告分と併せて、環状に分布している。なお、平成13年度調査分は5か所の遺物集中地点が認められ、今後の整理作業との整合性を考慮し、第10ブロックからの連続した、第11ブロック～第15ブロックの名称をすでに付した。そのため、本報告では、その間のブロック番号を空けて報告している。

**第IIb文化層** 大規模なブロックであり、黒色頁岩・珪質頁岩の石材を主体として、縦長剥片生産が集約的に行われている石器群である。特徴的な器種には、ごく少量のナイフ形石器がある。第IIa文化層と





第5図 旧石器ブロック分布図

の差違は、基本的には石材構成、石材の差違による剥片剥離生産の相違である。いずれも同一の層準に集中分布があり、時期的な相違ではないと考える。

**第Ⅲ文化層** 安山岩Aの石材を主体とする石刃石器群である。連続的な剥片剥離生産の痕跡が希薄であり、製品主体の石器群で構成される。特徴的な器種は、秀麗な石刃と石刃を素材とするナイフ形石器が多数検出された。

**第Ⅳ文化層** 単独のブロックであり、いわゆるチョコレート頁岩を主体として縦長・横長剥片生産を行っている。特徴的な器種としては鋸歯縁の縦長素材ナイフ形石器、横長素材の台形石器が検出されている。

**第Ⅴ文化層** 各種珪質頁岩・黒曜石・安山岩の石材を素材として、東内野型尖頭器を生産している石器群である。素材からの連続した製作は少なく、尖頭器調整剥片や削片が特徴的に見られる。また、本遺跡の礫群はすべて本文化層に帰属する。礫群はブロックに重複するように分布している。

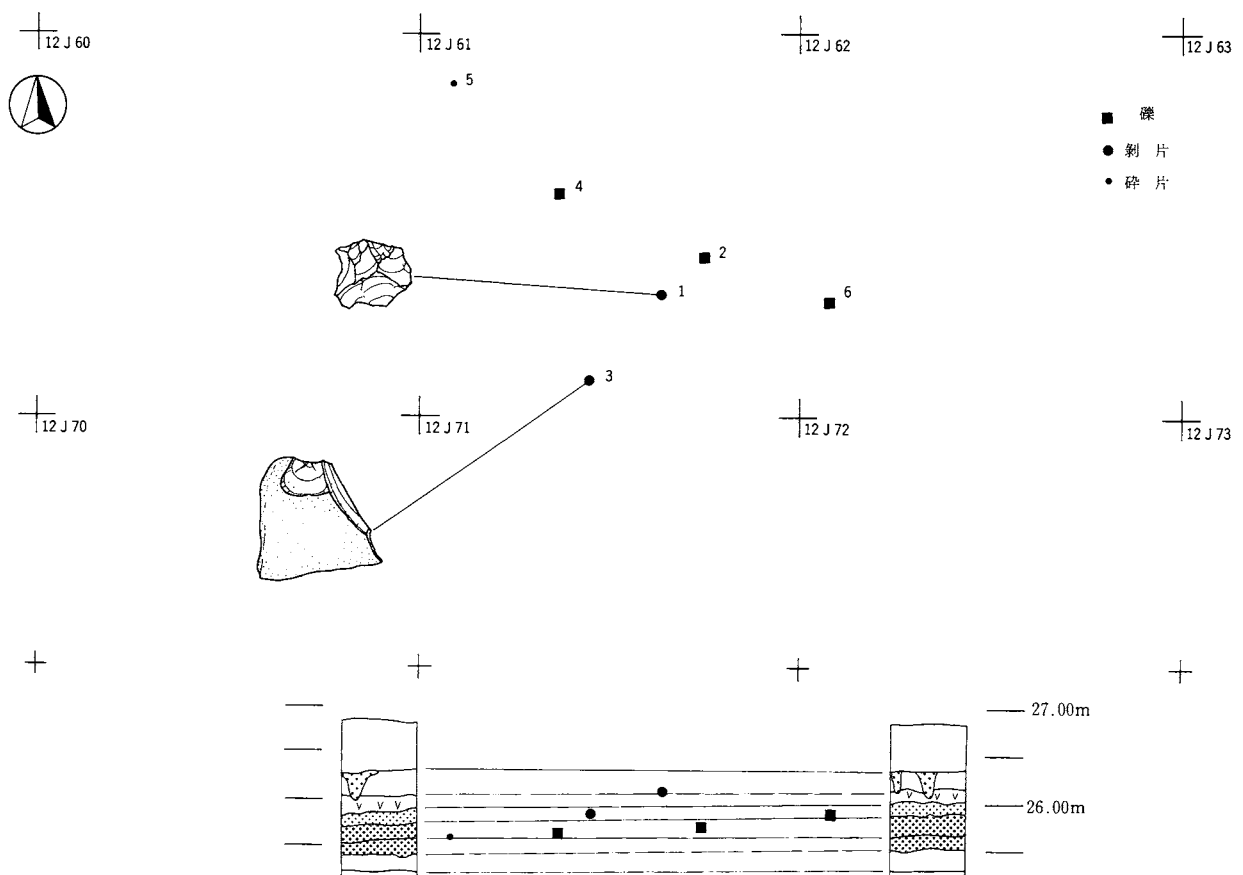
## 第2節 第Ⅰ文化層

第Ⅰ文化層に属するブロックは1か所のブロックであり、調査区の南端の舌状台地の付け根部分に存在する。ブロックはごく小規模なブロックで、主要な器種が存在しない。

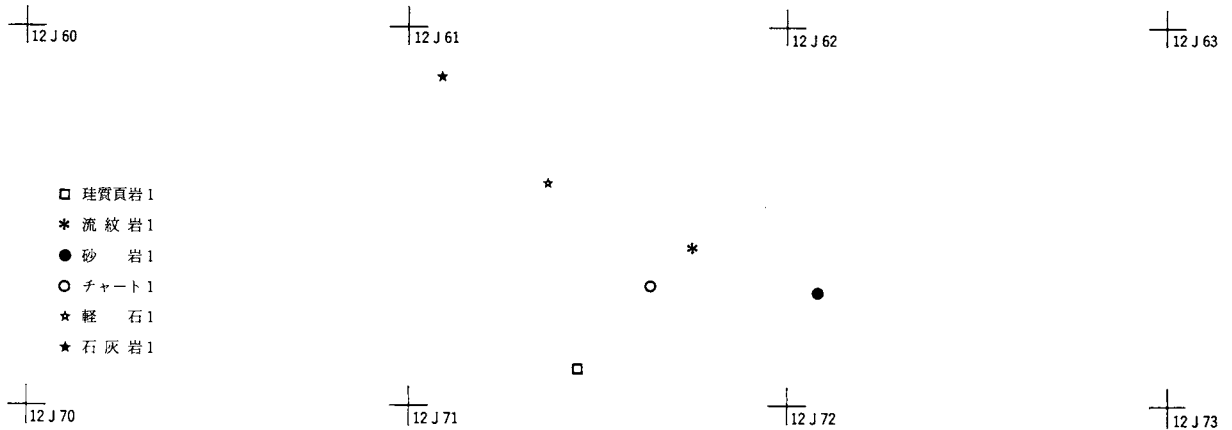
### 1 第1ブロック (第6～8図, 表1・2, 図版3・7)

**分布状況** 調査区南端で調査されたブロックである。12J区西側に位置しており、調査区の北方向に広がる舌状台地付け根の西側括れ部に当たる。現況では立川ローム層の堆積は水平に堆積している。

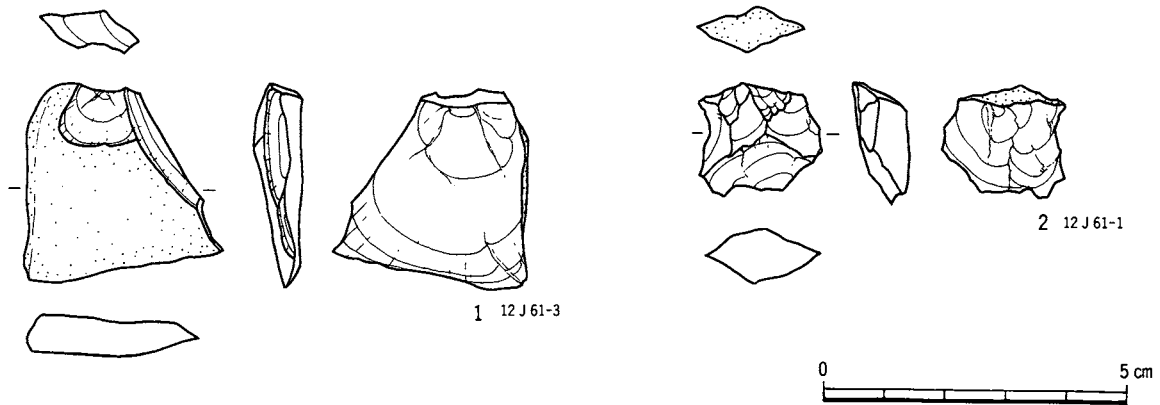
遺物総数は6点で、小規模のブロックとなっている。その分布は散漫であり、数10cmから1mの間隔を



第6図 第1ブロック器種別分布



第7図 第1ブロック母岩別分布



第8図 第1ブロック出土石器

置いて北西側から南東方向に並ぶように散在している。12J61区から12J62区にかけて分布する。分布範囲は南北2.2m、東西4.00mを測る。垂直分布では約0.6mの高低差がある。土層断面の投影ではIXc層上部からVII層にかけて分布し、IXc層に産出層位が求められる。

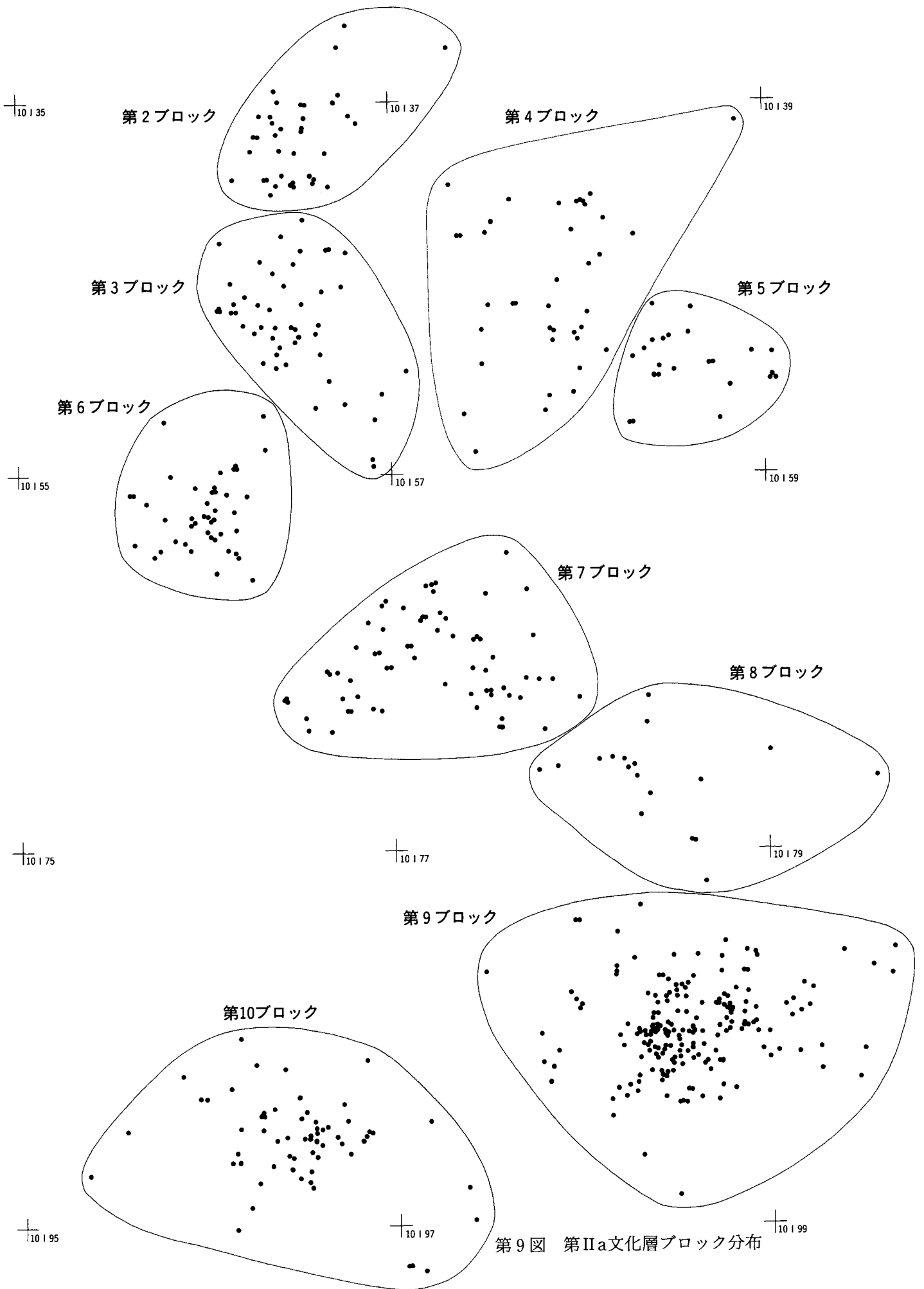
**母岩別資料** 6母岩が認められる。チャート1母岩1点、流紋岩1母岩1点、珪質頁岩1母岩1点、軽石1母岩1点、石灰岩1母岩、砂岩1母岩である。すべて単独母岩となっている。

**出土遺物** 少数で構成されるブロックであり特徴的な利器は出土していない。剥片が2点で、礫が3点出土し器種構成に占める割合が高い。礫は小転石が2点あり、小軽石は礫に含めた。

**剥片** 1は剥片である。表面が黄褐色に風化し、内部が灰褐色の珪質頁岩1を母岩とする。平坦打面の端部が広がる縦長剥片であり、背面に広く自然面が残存する。2は青灰褐色のチャート1を母岩とする。自然面を打面とする横長剥片である。

### 第3節 第II a文化層

第II a文化層に属するブロックは、第2ブロック～第10ブロックの9か所のブロックである。これらのブロックはブロック群を形成し、調査区の南西側の台地縁辺の肩部分に弧を描いて分布している。平成13年度調査でさらに西側の台地斜面部から同一文化層と考えられるブロック群が検出され、環状あるいは南



西方向に開口部のある馬蹄形状を呈する分布を示している。各ブロックは小規模なブロックから中規模なブロックが多いが、第9ブロックのように大規模なブロックも存在し、そのブロックでは遺物の最も集中した範囲から土坑が検出されている。特徴的な器種としてナイフ形石器、台形石器、楔形石器が少数検出されているが、それらは製品の形で持ち込まれているものが大部分である。ブロック群の形成を特徴づけているのは、黒曜石1 a・黒曜石1 b・黒曜石1 c母岩の消費による縦長剥片の生産である。この母岩は9ブロックを中心に分布し、原礫面を持つ亜角礫に復元される接合資料が存在する。ここで、この黒曜石の特徴について記しておく。

黒曜石1 a 透明度の鈍い黒色の地に乳白色の色調が縞状・泡状に入るもの、乳白色を呈するもの。

黒曜石1 b 透明度が強く、比較的粒状班晶・不純物が少なく黒色からたばこ色系の地を呈するもの。

黒曜石1 c 透明度は1 aと1 cの中間で、比較的粒状班晶・不純物が多く黒色を呈するもの。

母岩分類の過程で、上記のような特徴により分類したが、先に記した接合資料により、これらは同一の母岩であることが判明した。この黒曜石は同一母岩内においても特徴が脈状に漸次変化していくもので、母岩分類の困難さを露呈する資料であることが理解された。この黒曜石母岩の石材産地同定分析は行っていないが、各種の特徴により肉眼識別で、高原山産であると判断される。

#### 1 第2ブロック（第10～12図、表3・4、図版3～5・7）

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の北西端に位置しており、調査区の北方向に広がる舌状台地の西側縁辺部に当たる。南側に第3ブロックが近接して、南東側に第4ブロックがやや離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は38点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの南西側に密集して分布し、北東側に数点が散在して分布する状況である。10 I 26・27区から10 I 36区にかけて北東－南西方向に楕円形状に分布する。分布範囲は南北3.8m、東西4.6mを測る。垂直分布ではおよそ0.5mの高低差があり、土層断面への投影では、IX cからVI層下部にかけて分布し、IX a層下部に遺物が集中しており、産出層位はIX a層下部に安定したレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 5母岩が認められ、内訳は黒曜石1母岩35点、安山岩1母岩1点、珪質頁岩1母岩1点、砂岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1 aが33点であり、母岩構成の大部分を占め、他の母岩はすべてブロック内で単独母岩となっている。この黒曜石1 aがブロック分布の中心をなしている。母岩と器種の関係では、磨製石斧は砂岩2の母岩を素材としている。

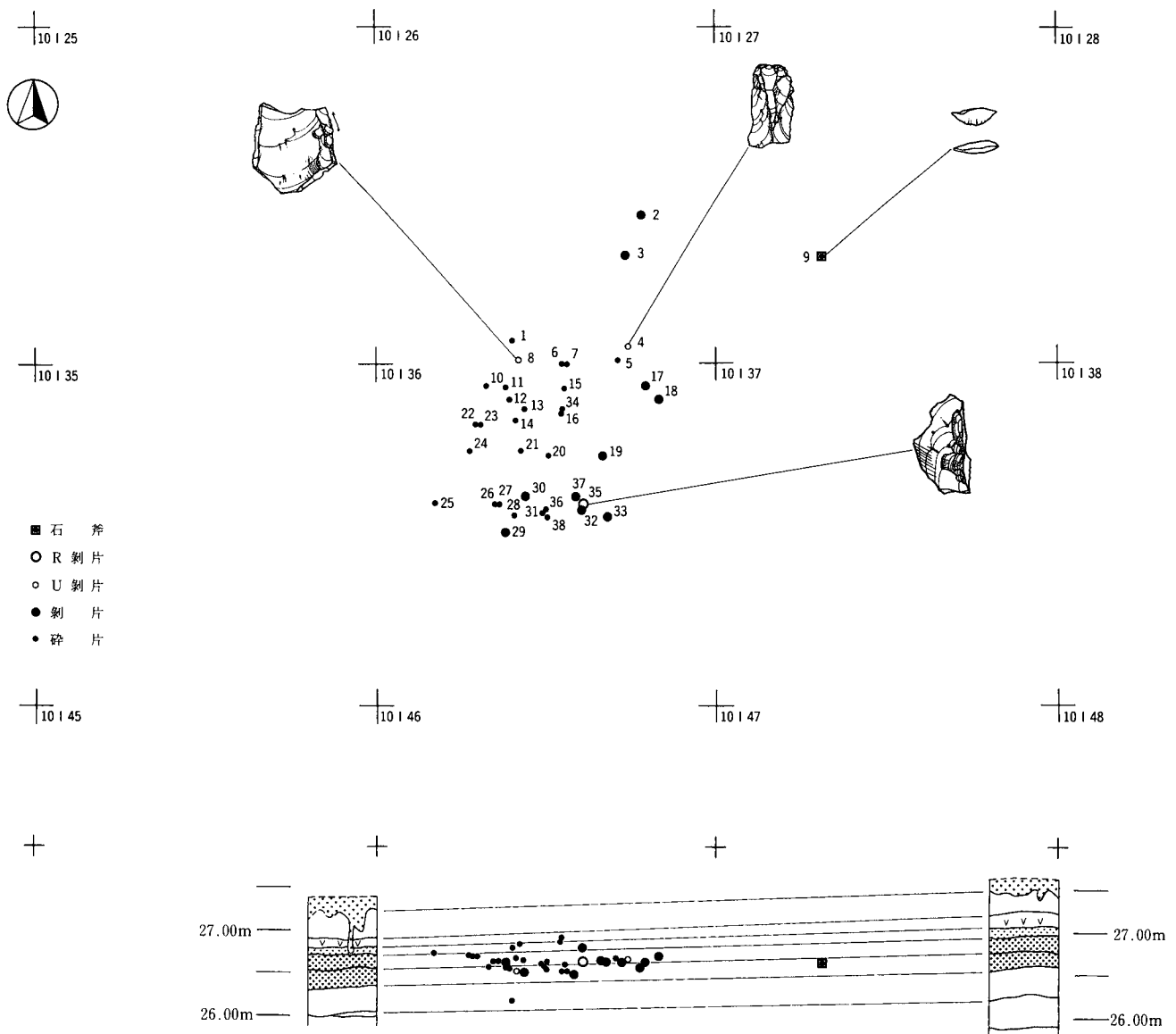
**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な器種では磨製石斧が1点検出されている。他はほとんどが碎片・剥片であり、比較的単純な器種構成となっている。

**磨製石斧** 1は灰褐色を呈する砂岩2を母岩とする磨製石斧である。曲線的な刃部の先端片で、顕著な摩耗痕が全面に認められる。

**R剥片** 2は調整加工のある剥片（以後R剥片と略記する）である。2は黒曜石1 aを母岩としている。素材を縦位に用い側縁を切断した後、背面を中心に平坦な細部加工が施される。

**U剥片** 3・4は微細剥離痕のある剥片（以後U剥片と略記する）である。3・4はいずれも石刃状の縦長剥片を素材とし、3は右側縁の背面・腹面の両面に微細な剥離痕が連続し、4は腹面の左側縁下半部に微細剥離痕が連続する。

**剥片** 5～7は剥片であり、すべて横長剥片である。5は灰緑褐色の珪質頁岩2を石材としている。縦



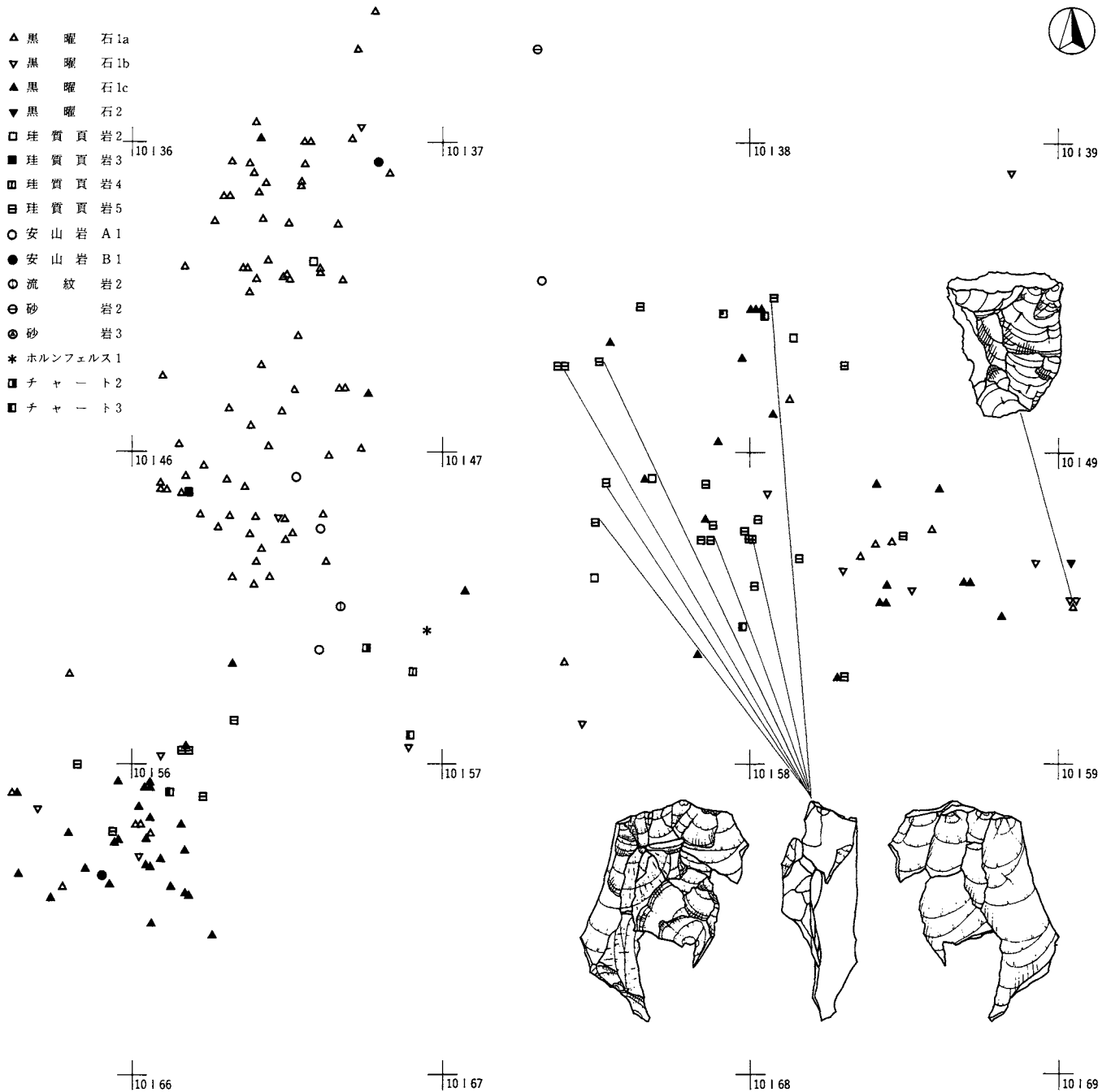
第10図 第2ブロック器種別分布

長剥片の細くなる端部に打面方向と対向する剥離が集中する。6は安山岩B1を母岩としている。安山岩Bはいわゆる「トロトロ安山岩」といわれる灰褐色の器面の風化の著しい安山岩である。石刃に近い平行した両側縁を持つ。7は黒曜石1aを母岩として、下端部が扇状に広がる。

## 2 第3ブロック (第11・13～15図, 表9・10, 図版3～5・7)

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の北西側に位置している。北東側に第2ブロック, 西側に第4ブロック, 南西側に第6ブロックが近接して分布する。現況では, 立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

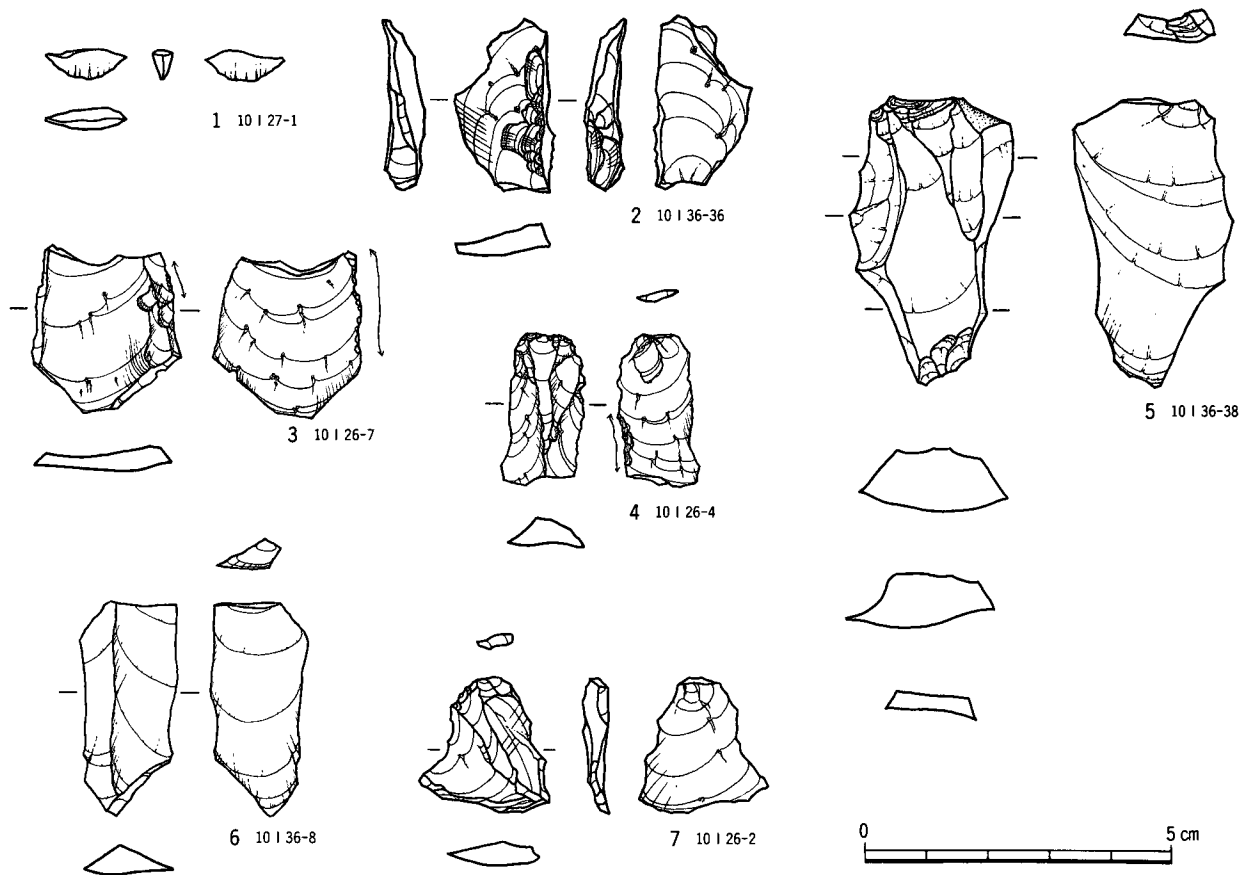
遺物総数は49点であり, 中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの中央部東側に空白部があり, 北西側に密集部があり, やや離れて南西側に疎らに分布する状況である。10 I 36区から10 I 46・47区にかけて北西-南東方向に楕円形状に分布する。分布範囲は南北5.3m, 東西4.0mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差があり, 土層断面への投影では, IX c からVI層下部にかけて分布し, IX c 層上面からIX a 層下部に遺物が集中しており, 産出層位はIX a 層下部に安定したレベルを求めることが出来る。



第11図 第2～6ブロック母岩別分布

**母岩別資料** 9母岩が認められ、内訳は黒曜石1母岩40点、安山岩1母岩3点、珪質頁岩2母岩2点、安山岩A1母岩3点、ホルンフェルス1母岩1、流紋岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1aが36点であり、母岩構成の大部分を占め、北西側の密集した分布を形成し、南東側の疎らな部分に他の母岩が分布している。母岩と器種の関係では、母岩の主体を占める黒曜石1aからR剥片、U剥片がごく少数検出されている。この中には、2ブロックと接合するU剥片が存在する。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器は検出されていない。他はほとんどが碎片・剥片であり、比較的単純な器種構成となっている。



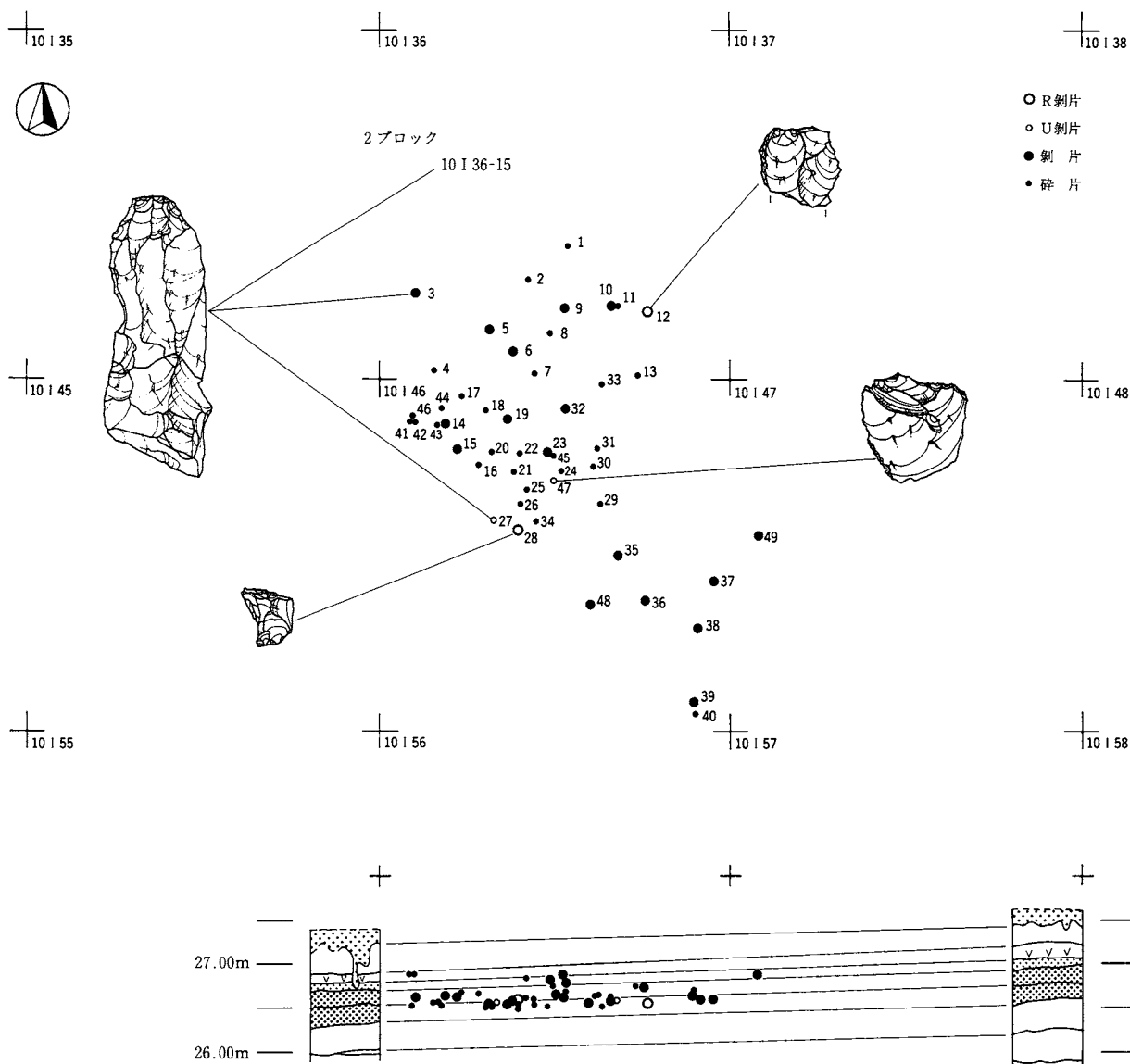
第12図 第2ブロック出土石器

**R剥片** 1・2はR剥片である。1は背面右側面に打面部からの長い剥離が見られ、先端部を切断する細部加工が認められる。2は縦長剥片の左側縁に連続した細部加工が見られる。

**U剥片** 3・12aはU剥片である。3は幅広の剥片の左末端に刃こぼれ状の微細剥離痕が看取される。12aは中形の石刃状の縦長剥片の右側縁に疎らに微細剥離痕が認められる。12aは下端部を欠損し、この部分を同一ブロックの剥片と、さらに右側縁での長い剥離により剥がされ第2ブロックで検出された碎片と接合している。

**剥片** 4～11・12bは剥片であり、すべて縦長剥片である。4は流紋岩2を石材とする。背面の構成から、石核の作業面を切り取るように直角に打面が転移している。5・12は黒曜石1aを母岩としている。5は平行する側縁の上下が欠損する。6は黒曜石1bを母岩とし、下端部が尖る剥片である。7は珪質頁岩3を母岩とし、側面から主要剥離面側に原礫面を残す。8はチャート2、9はチャート3を石材とする。9は上下端部が階段状に剥離し、或いは、楔形石器から剥離された剥片の可能性もある。10はホルンフェルス1を石材とする。貝殻状の剥片である。11a・bは珪質頁岩4を母岩としている剥片の接合資料である。珪質頁岩4は乳黄白色の地に白い脈が縞状に入る珪質頁岩で、11bは第7ブロック出土である。この素材はおそらく、亜角礫状或いは板状の石核を呈していたと思われ、接合資料から上下に打面転移して縦長剥片を剥離したことが想定される。





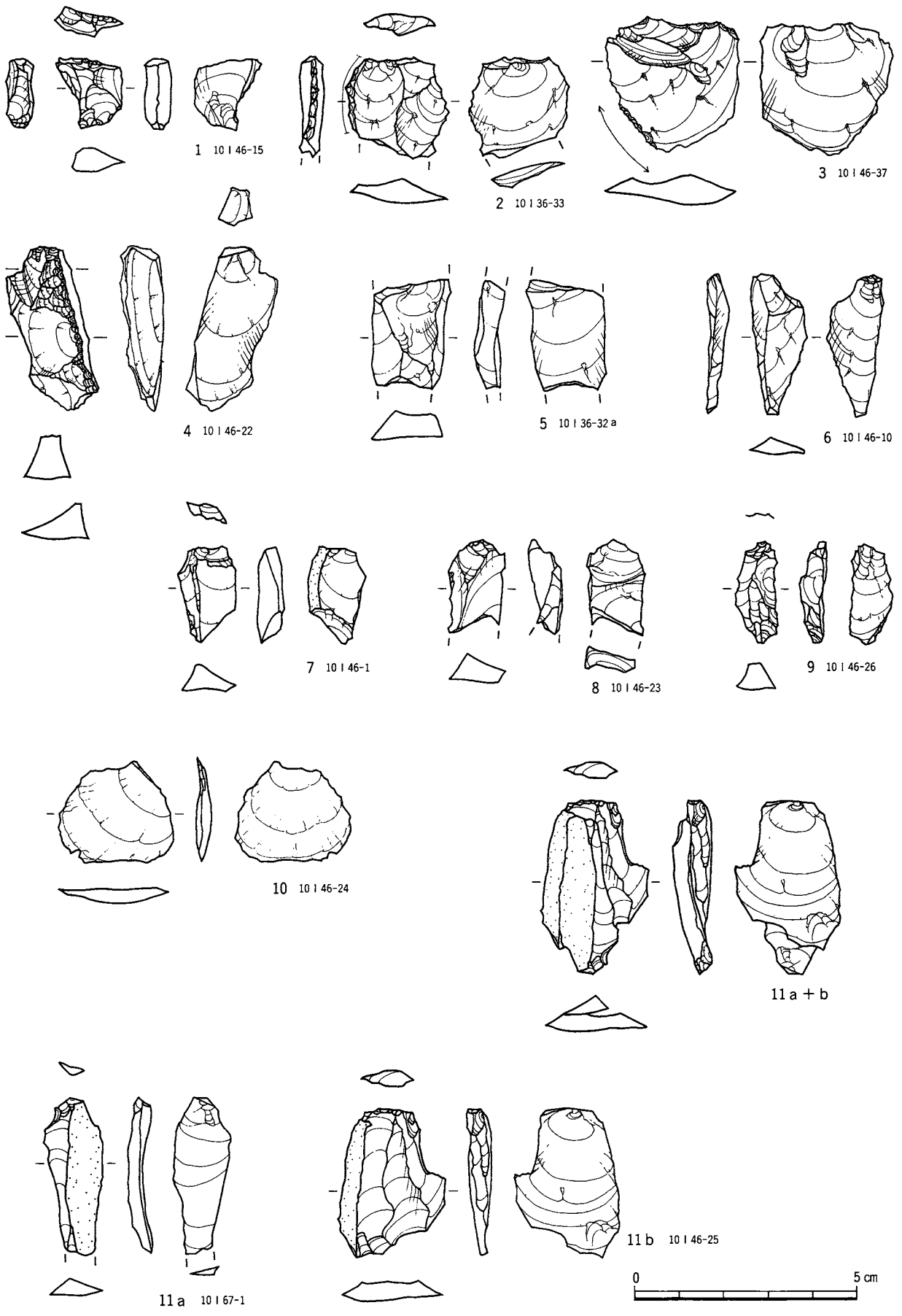
第13図 第3ブロック器種別分布

### 3 第4ブロック (第11・16~18図, 表7・8, 図版3~5・8)

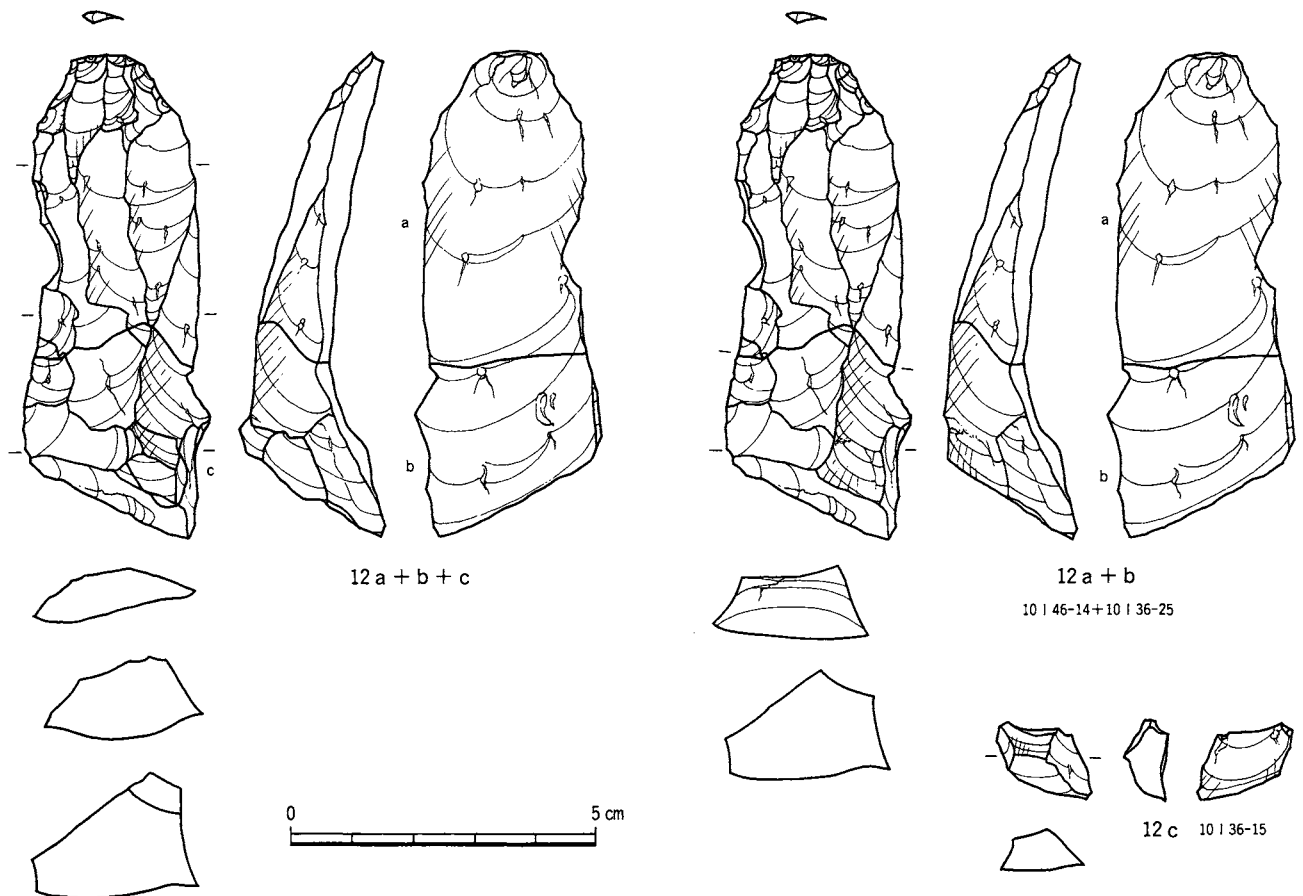
**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の北側に位置している。北西側に第2ブロック, 東側に第5ブロック, 西側に第3ブロックが近接して分布する。現況では, 立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は45点であり, 中規模なブロックである。その分布は広い範囲に散漫に分布する。ブロックの中央部東側と北東側にやや集中する範囲があり, 距離を置いて北東側に1点, やや離れて西側に疎らに分布する状況である。10 I 37・38区から10 I 47・48区にかけて北東-南西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北7.1m, 東西6.1mを測る。垂直分布ではおよそ0.5mの高低差があり, 土層断面への投影では, IX cからVI層にかけて分布し, IX c層上面からIX a層に遺物が集中しており, 産出層位はIX a層に安定したレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 6母岩が認められ, 内訳は珪質頁岩2母岩25点, 黒曜石1母岩13点, チャート1母岩3,



第14図 第3ブロック出土石器1



第15図 第3ブロック出土石器2

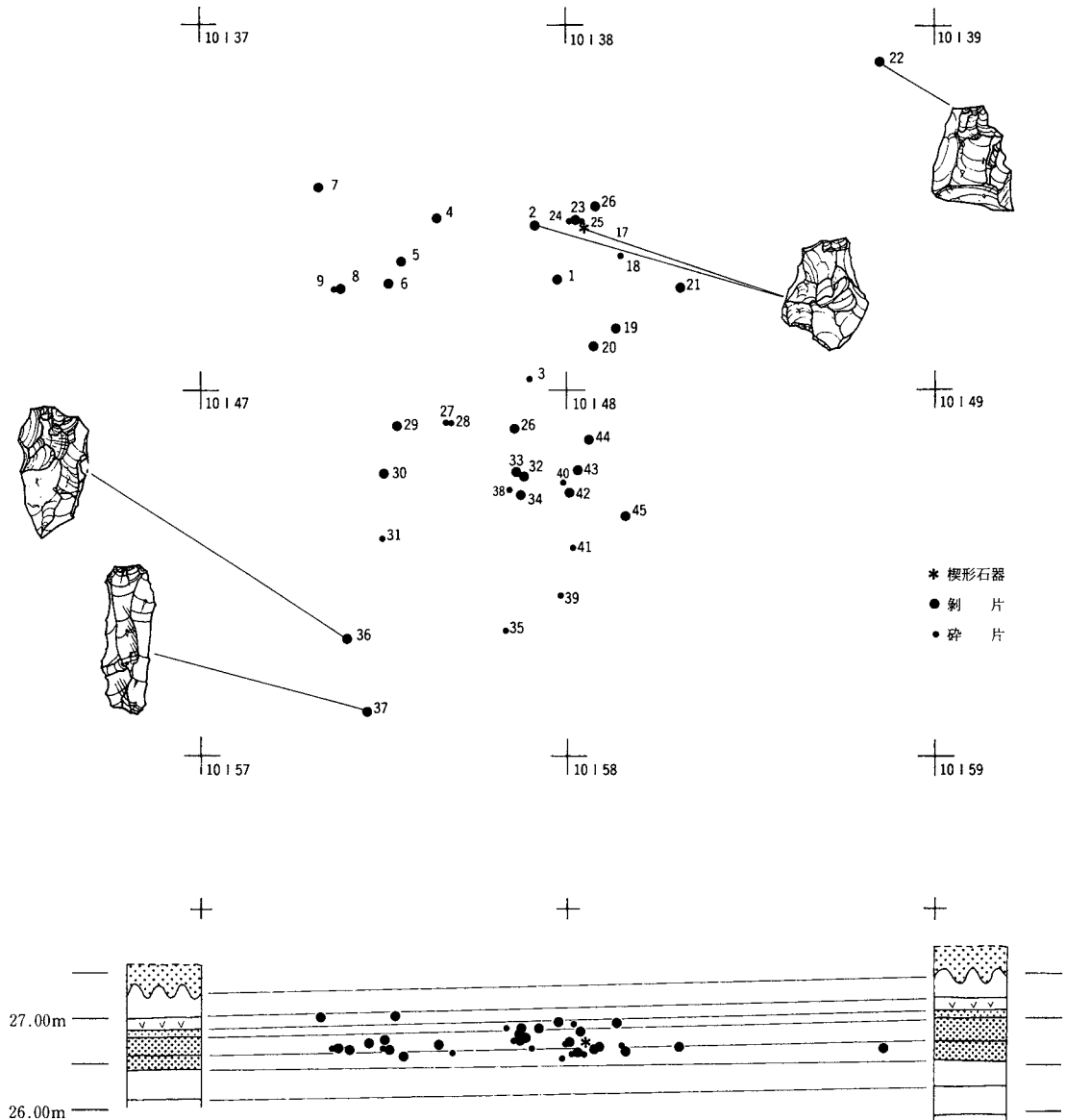
砂岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、珪質頁岩5が18点、黒曜石1cが10点、珪質頁岩2が7点であり、この3母岩で母岩構成の主体を占め、分布の中央のやや集中した分布を形成している。母岩と器種の関係では、チャート3から楔形石器が製作されている。母岩の主体を占める珪質頁岩5・黒曜石1c・珪質頁岩2からは剥片、碎片が生産され、主要な利器は検出されていない。珪質頁岩5の剥片が接合する好資料が存在する。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器は、楔形石器1点のみである。他はほとんどが碎片・剥片であり、比較的単純な器種構成となっている。

**楔形石器** 1a・bは楔形石器と剥片が接合した接合資料である。1bとは節理面で接合しており、剥離方向は明確でないが、1bの主要剥離方向から接合図下方向からの剥離により1bが剥離されたと考えられる。このときの剥離は通常の剥片剥離で、その後、1aの上下端を加撃点とした両極技法が認められる。上端打面は平坦打面で下端打面は線状打面となっている。

**R剥片** 2はR剥片である。2は底面を抜ける下端部が幅広になるもので、この下端縁と底面とのなす稜上に細部加工と微細な剥離痕が連続する。

**剥片・碎片** 1b・3～7b～d・f・gは剥片である。7a・eは碎片である。3・5は黒曜石1bを、4は黒曜石1aを石材とする。3は背面構成から剥片と分類したが、形状は石刃に類似する。4はやや厚みがあり末端が尖る。5は頭部調整が顕著で、下端部は主要剥離方向と対向する先行剥離が看取される。6は灰緑色を呈する珪質頁岩2を石材とする。下端部が細くなる。7a～gは珪質頁岩5を石材とす



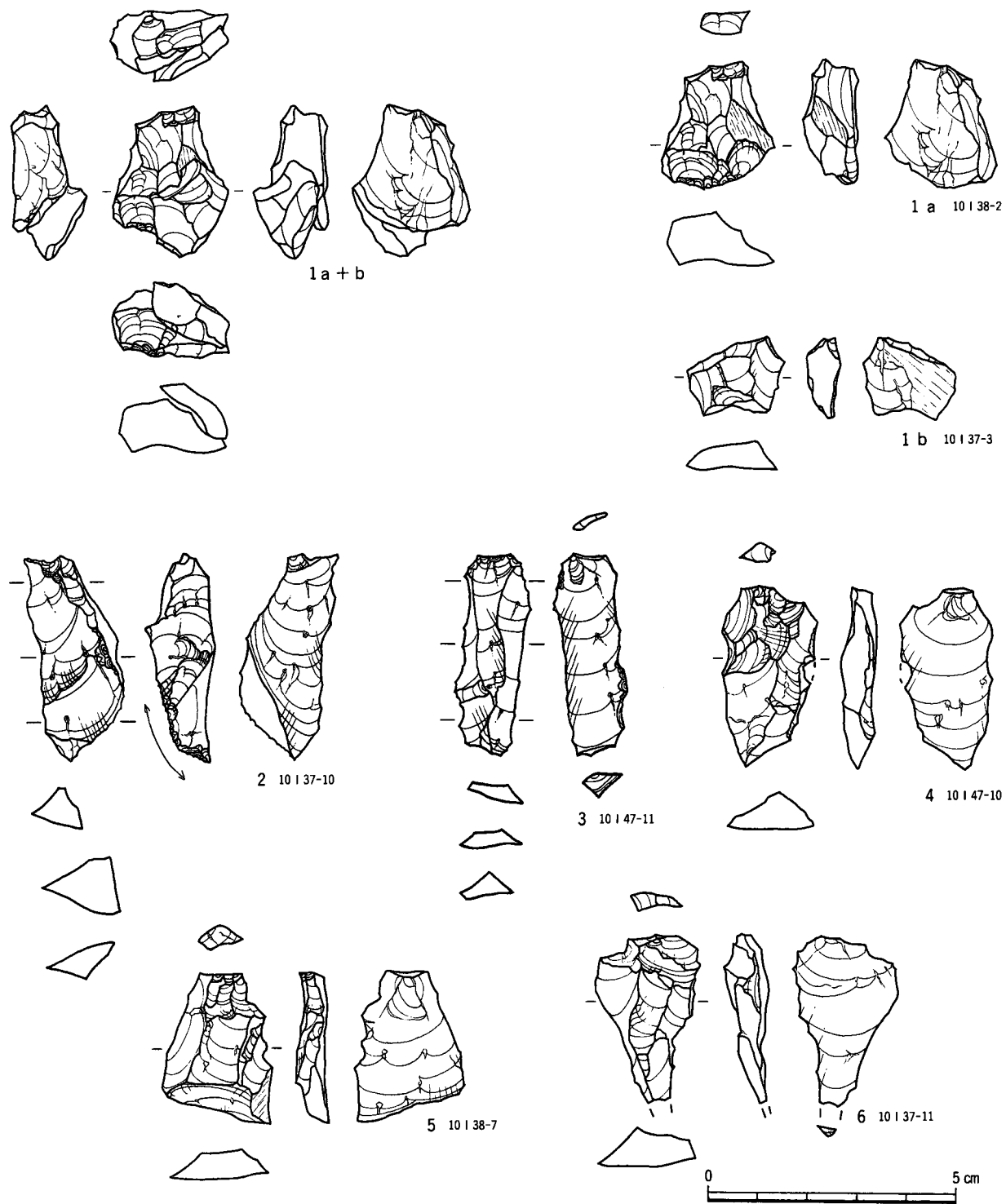
第16図 第4ブロック器種別分布

る接合資料である。剥片剥離工程は、先ず7 aが正面上端からの剥片剥離により剥がれ、上部が欠損する。次に上面右側の7 bを始めに、7 c・7 d, 7 e・7 fが連続的に剥離され、さらに、7 gの背面上部に観察される剥離がされた後に、7 gが剥離される。一連の剥片剥離は、上面から見て右から左に打面を巡るように弧を描いて打点が移動している。作出された剥片の背面構成や、7 gに底面があることから、想定される石核素材は、直径7, 8 cmほどの角柱状の石核素材が考えられる。

#### 4 第5ブロック (第11・19・20図, 表9・10, 図版3~5・8・9)

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の北東側に位置している。北西側に第4ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

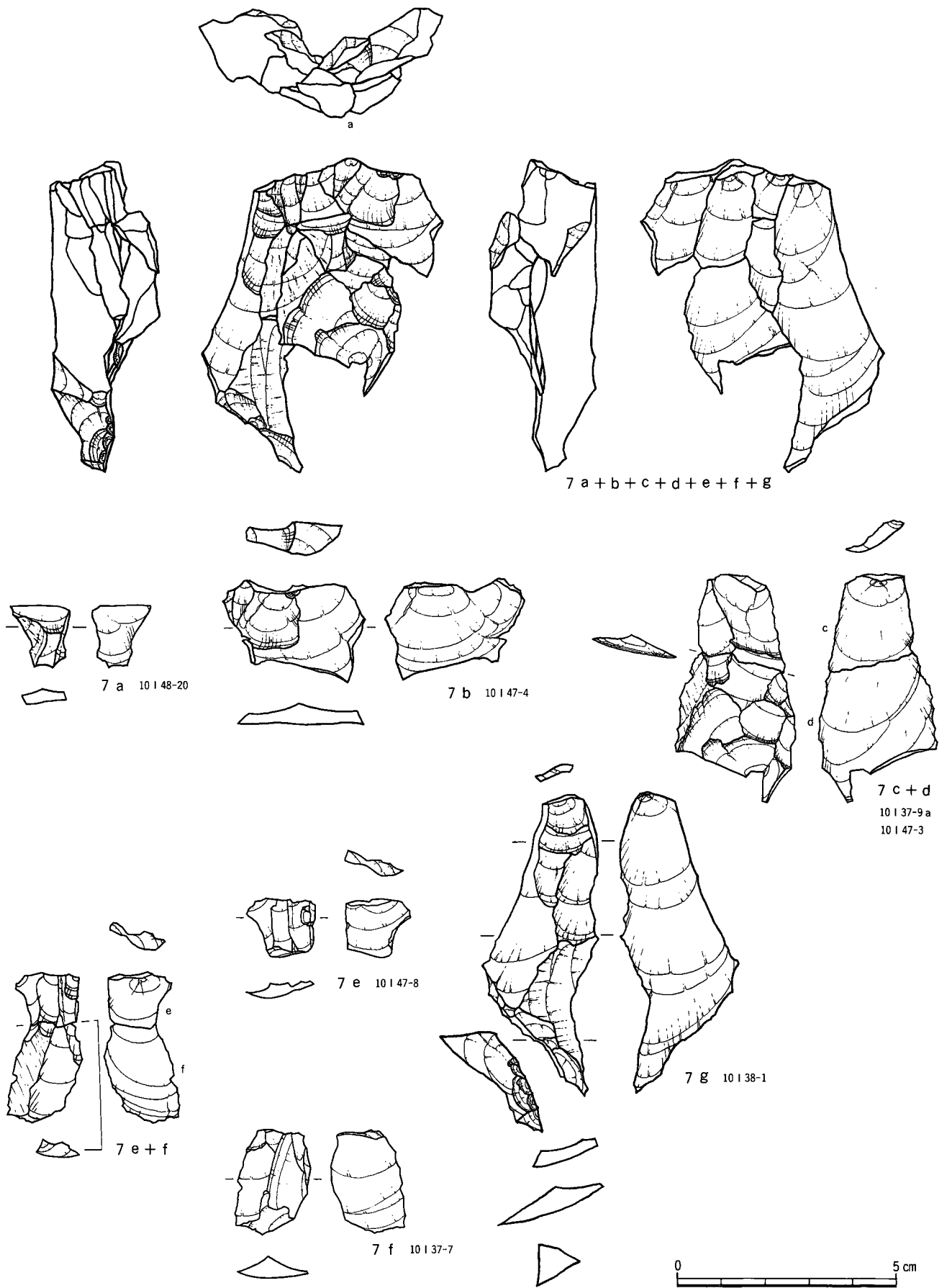
遺物総数は22点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまって分布する。ブロックの北西側と東側にやや集中する範囲があり、1点が南西側に離れて分布する状況である。10 I 48区から10 I 49区にかけて東-西方向に楕円形状に分布する。分布範囲は南北2.6m, 東西3.2mを測る。垂直分布では



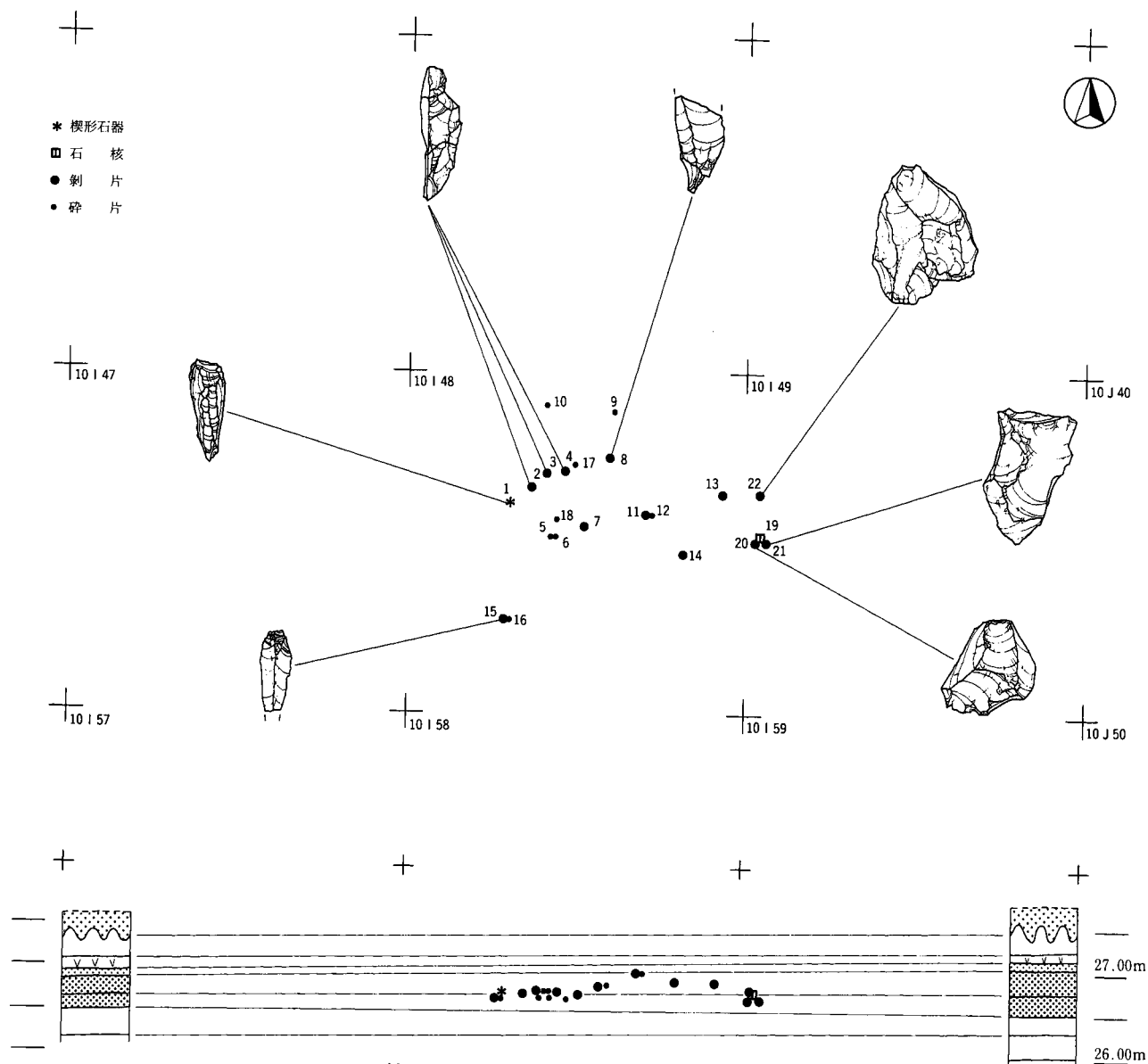
第17図 第4ブロック出土石器1

およそ0.4mの高低差があり、土層断面への投影では、IX c層からVI層にかけて分布し、IX c層上面からIX a層に遺物が集中しており、産出層位はIX a層に安定したレベルを求めることができる。

**母岩別資料** 5母岩が認められ、内訳は黒曜石2母岩20点、珪質頁岩1母岩2点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1 cが9点、黒曜石1 aが5点、黒曜石1 bが5点であり、この黒曜石1の母岩で母岩構成の大部分を占め、分布のやや集中した部分を形成している。これまでの第1ブロックから第4ブ



第18図 第4ブロック出土石器2



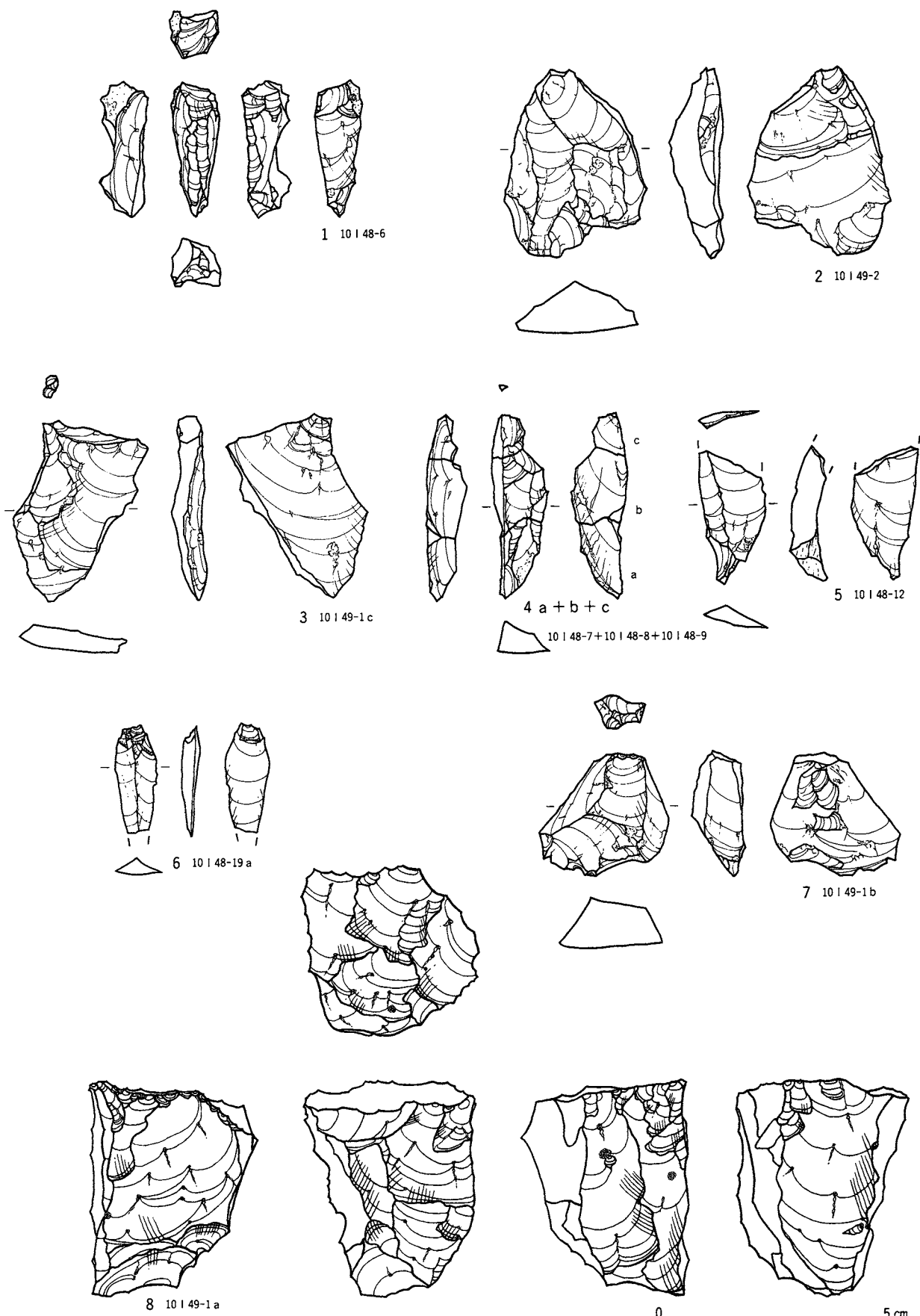
第19図 第5ブロック器種別分布

ロックでは、黒曜石1の母岩内で、黒曜石1 aの占める割合が高かったが、当ブロックでは、黒曜石1 cの割合が高くなっていることが特徴的である。また、黒曜石2は不透明な煉瓦色から赤色を呈する地に黒色の色調が縞状・泡状に入る特徴的なもので、確証はないが高原山産の黒曜石と思われる。本遺跡で唯一の資料となっている。母岩と器種の関係では、黒曜石1 b母岩から楔形石器と石核が検出されている。母岩の主体を占める黒曜石1 cからは碎片、剥片が生産され、主要な利器は検出されていない。

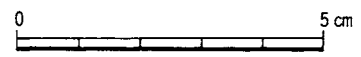
**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器は、楔形石器1点のみである。他はほとんどが碎片・剥片であり、比較的単純な器種構成となっている。

**楔形石器** 1は楔形石器である。下端部が尖る形状を呈し、上端打面は平坦打面から、下端打面は点状打面から両極剥離が行われ、正面で上端からの細長い剥離痕が2面看取される。

**剥片** 2～7は剥片である。2は黒曜石2を母岩とする。下半部が幅広くなる厚みのある縦長剥片であり、背面では上下方向からの剥離痕が器面を覆う。3～5は黒曜石1 aを石材とする。3～5は末端が尖



第20図 第5ブロック出土石器





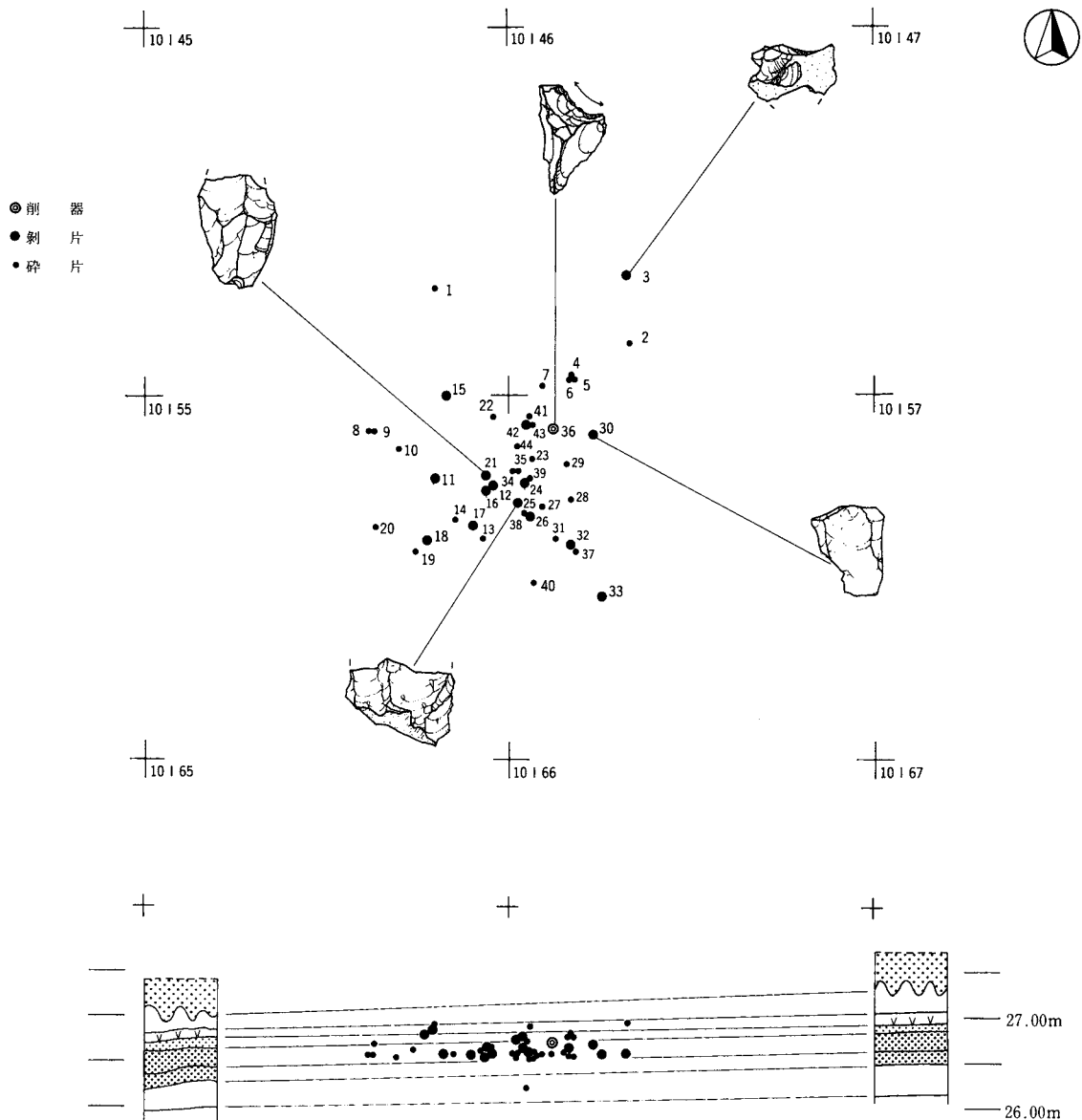
る形状のもので、4のように側面を形成するものや、原礫面を末端に残置するものがあり、剥片剥離作業の初期の段階に剥離された資料が多い。6は珩質頁岩5を母岩とした縦長剥片で、頭部調整が顕著である。7・8は黒曜石1bを母岩とする。7は下端部が広がる横長剥片で、打面調整が認められる。

**石核** 8は石核である。上面の打面が平坦な剥離で構成され、正面から右側面、裏面へと打面を巡るように打点転移して剥片剥離が進行している。左側面は先行する素材の剥離面と下端部からの剥離により覆われる。

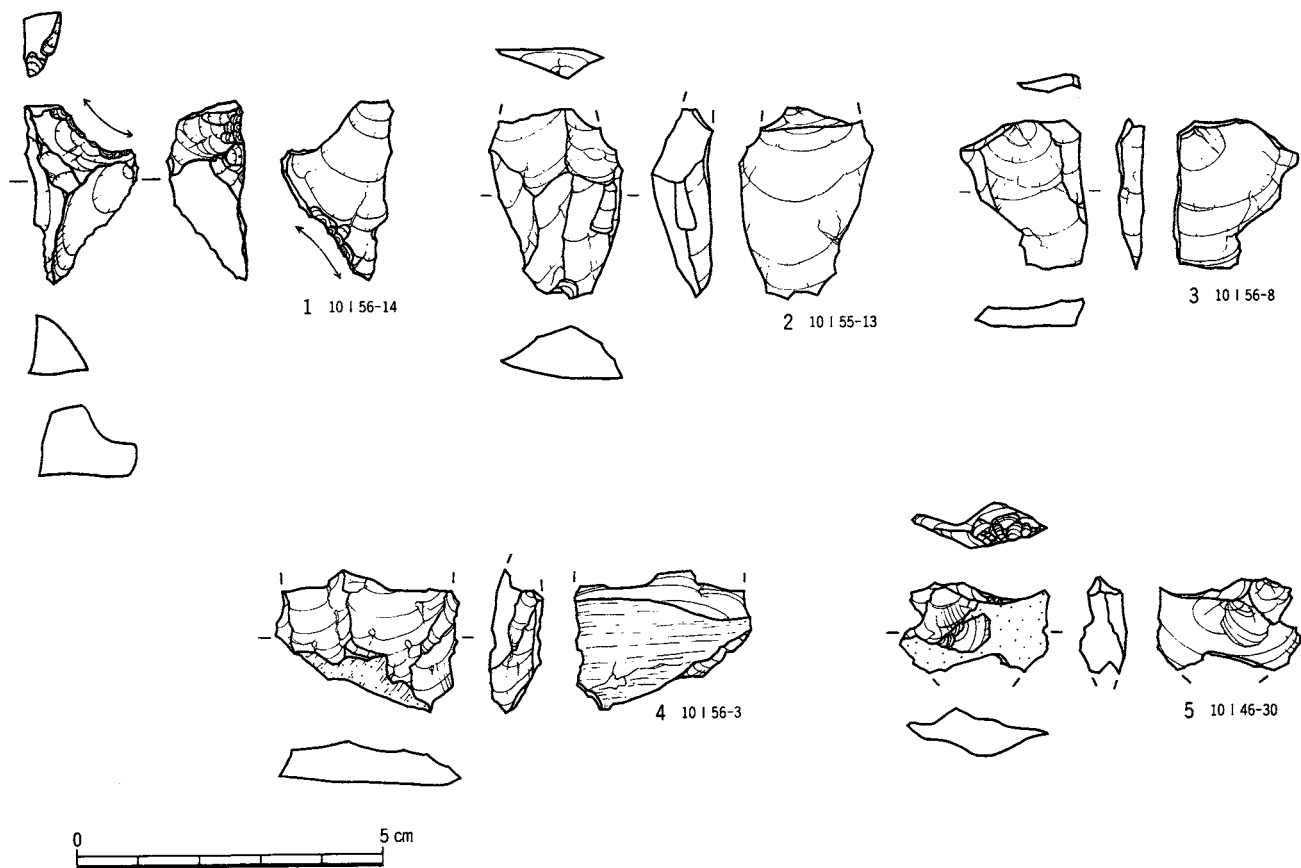
5 第6ブロック (第11・21・22図, 表11・12, 図版3～5・9)

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の西側に位置している。北東側に第3ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は44点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまって分布する。ブロックの中央部が密集し、そこから北側から西側にかけて散漫に分布する状況である。10 I 45・46区から10 I 55・



第21図 第6ブロック器種別分布



第22図 第6ブロック出土石器

56区にかけて南-北方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北3.4m, 東西2.9mを測る。垂直分布では、1点が低く投影されるが、サンプリング・エラーと思われる、その他はおよそ0.5mの高低差がある。土層断面への投影では、IX c層上面からVI層にかけて分布し、IX a層に遺物が集中しており、産出層位はIX a層に安定したレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 6母岩が認められ、内訳は黒曜石1母岩36点、珪質頁岩1母岩6点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1cが27点、黒曜石1aが6点、珪質頁岩5が6点であり、この黒曜石1cの母岩で母岩構成の主体を占め、分布の密集した部分を形成している。珪質頁岩5はこの密集部の北側に分布する。第5ブロックの傾向と同様に、当ブロックでは黒曜石1cの割合が高くなっていることが特徴的である。母岩と器種の関係では、チャート3で削器が生産されている。母岩の主体を占める黒曜石1cからは碎片、剥片が生産され、主要な利器は検出されていない。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器は、削器1点のみである。他は碎片・剥片であり、比較的単純な器種構成となっている。

**削器** 1は削器である。厚い縦長剥片の上半部をノッチ状に抉る調整加工が集中する。裏面下端部にも抉るような加工が集中し、使用痕と思われる縁辺の潰れが観察される。

**剥片** 2~5は剥片である。2・3は珪質頁岩5を母岩とする。それぞれ形状の整った縦長剥片である。4は黒曜石1b, 5は黒曜石1cを母岩とする。4・5共に背面に原礫面を残置する横長剥片である。4は腹面が節理面となっている。

## 6 第7ブロック（第23～25図，表13・14，図版4・9）

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の中央部に位置している。北側に第3～6ブロックがやや離れて分布し，南東側に第8ブロックが近接して分布する。現況では，立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は67点であり，大規模なブロックである。その分布は広い範囲に散在して分布する。ブロックの南側に空白部があり，そこから北側に弧を描くように放射状に分布する状況である。10 I 56・57・58区から10 I 66・67区にかけて東－西方向に長く北側が膨らむ楕円形状に分布する。分布範囲は南北3.8m，東西6.3mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では，IX c層上面からVII層にかけて分布し，IX a層下部に遺物が集中しており，産出層位はIX a層に安定したレベルを求めることが出来る。

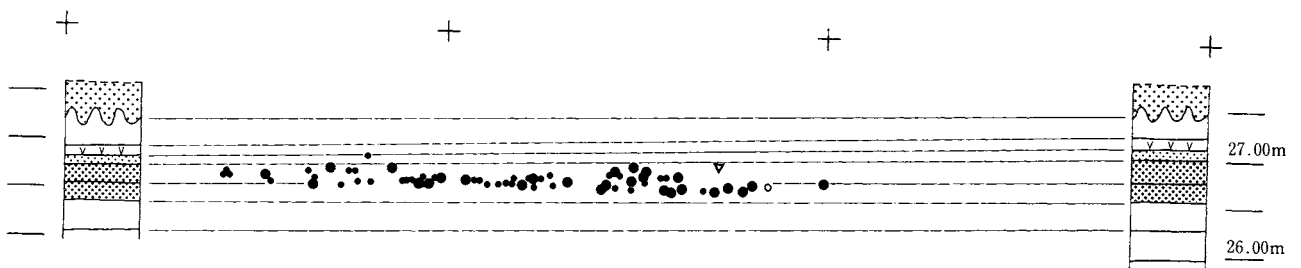
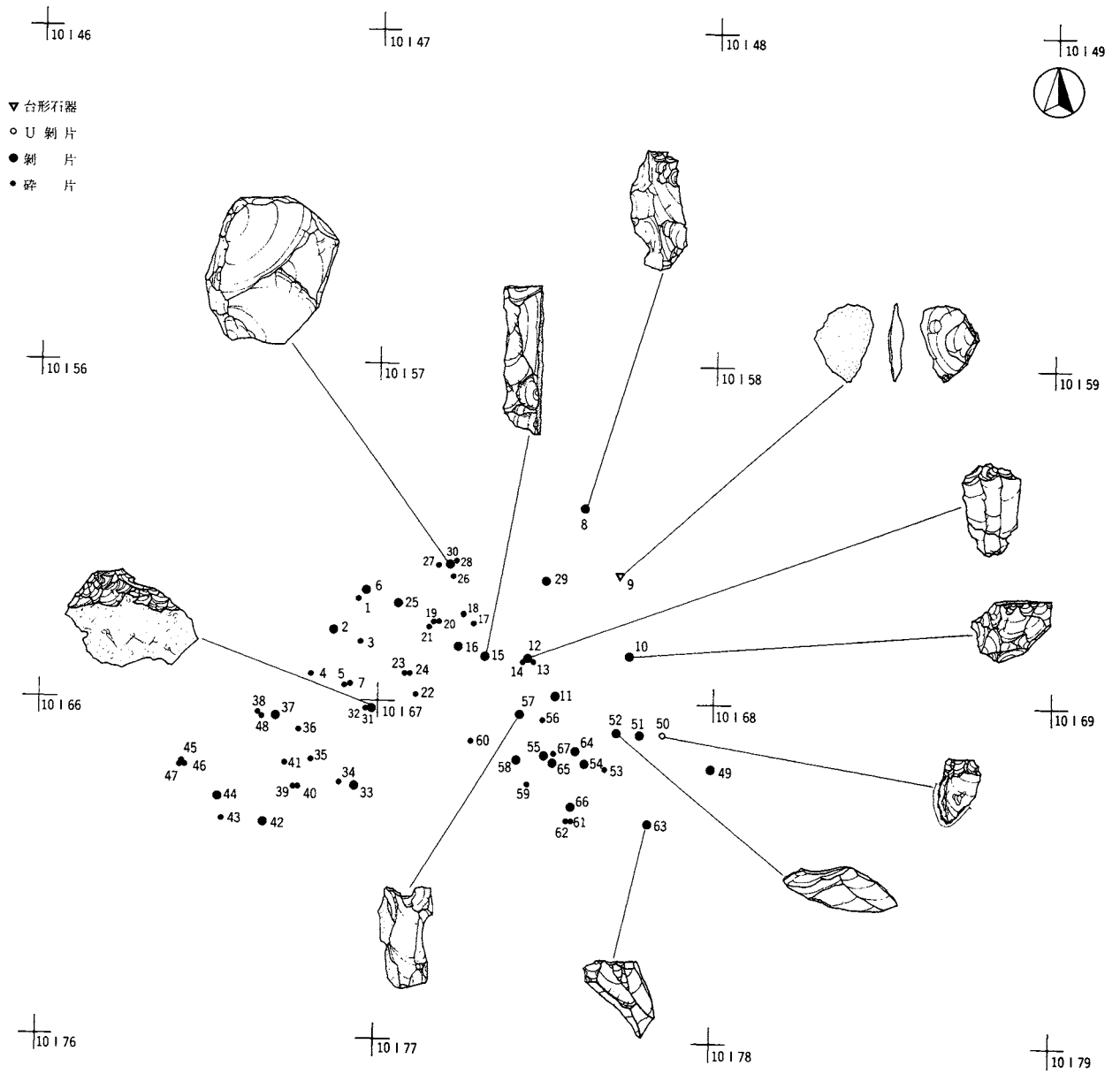
**母岩別資料** 8母岩が認められ，内訳は黒曜石1母岩29点，珪質頁岩2母岩20点，安山岩1母岩15点，流紋岩1母岩3点である。点数の多い母岩を挙げると，黒曜石1 bが27点，珪質頁岩4が19点，安山岩B 1が15点であり，この3母岩で母岩構成の大部分を占める。母岩の分布を見ると，黒曜石1 bは分布範囲の全域に，珪質頁岩4は東側に，安山岩B 1は西側にそれぞれ分布する。当ブロックでは，黒曜石1 a，黒曜石1 cは少量の検出で，黒曜石1 bの割合が非常に高くなっている。母岩と器種の関係では，珪質頁岩4で台形石器が生産されるのみであり，母岩の主体を占める黒曜石1 b，安山岩B 1からは碎片，剥片が生産され，主要な利器は検出されていない。

**出土遺物** 大規模なブロックであるが，主要な利器は，台形石器1点のみである。U剥片が1点ある他は碎片・剥片であり，比較的単純な器種構成となっている。

**台形石器** 1は台形石器とした。背面は平坦な自然面であり，素材の打面部両側縁を細かなブランディングにより，平面形が扇状に仕上げられている。

**U剥片** 2は黒曜石1 bを母岩とするU剥片である。器体の鋭角に尖る末端部の両側縁に刃こぼれ状の微細剥離痕が連続する。

**剥片** 3～11は剥片である。3～7・9が縦長剥片で，8・10・11が横長剥片である。3・6・9・10が珪質頁岩4を母岩とする。3は右側面が平坦な自然面であり，背面構成では左右からの剥離面が見られる。4・11は安山岩B 1を母岩とするものである。4は打面を更新した剥片剥離作業によって作出されたもので，右側面には背面を打点とする先行した剥離面が看取される。5は黒曜石1 aを母岩とするもので，背面で左右からの剥離により横断面が甲高となる。6は左側面に自然面を残置する。7は流紋岩3を母岩とするもので，整った石刃状の上端部が切断状に欠損する。9は主要剥離方向の剥離面が顕著である。8は黒曜石1 cを母岩とするもので，背面に平坦な節理状の原礫面を持ち打点部からの細かな剥離が集中する。右側面には背面からの剥離が観察され，打面を更新する剥離による剥片である。10は背面に周縁方向からの剥離が集中する。打面は節理状の自然面である。11は点状打面で，幅広の逆扇状の平面形状を呈する。

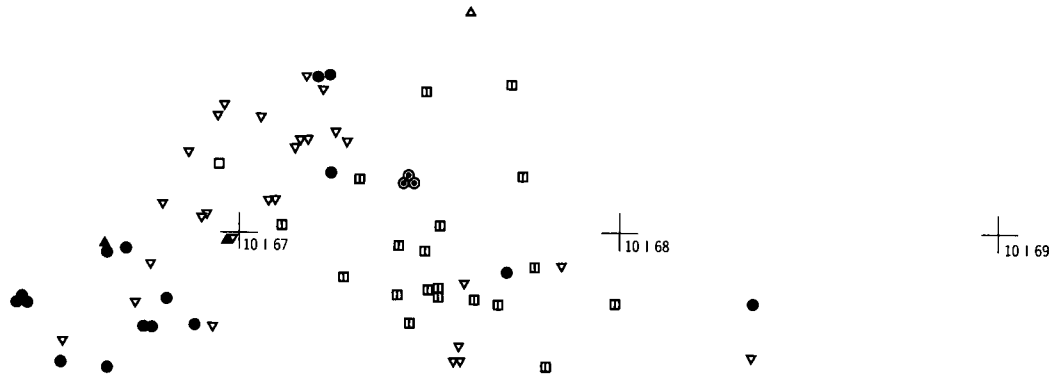


第23図 第7ブロック器種別分布

10 | 57

10 | 58

10 | 59



10 | 77

10 | 78

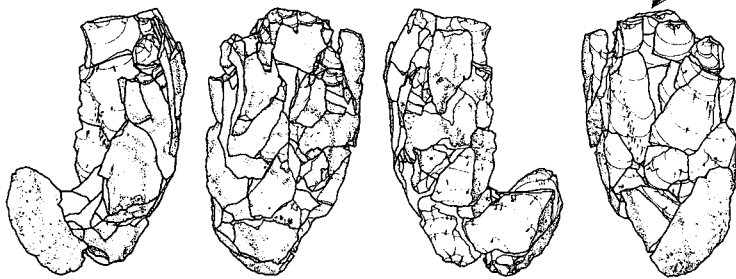
10 | 79

- ▲ 黒曜石 1a
- ▼ 黒曜石 1b
- ▲ 黒曜石 1c
- 珪質頁岩 2
- ▣ 珪質頁岩 4
- ▤ 珪質頁岩 5
- ▥ 珪質頁岩 6
- ▦ 珪質頁岩 7
- 安山岩 B 1
- ★ 黒色頁岩 1
- ★ 黒色頁岩 2
- ⊙ 流紋岩 2
- ⊙ 流紋岩 3
- ⊙ 砂岩 4

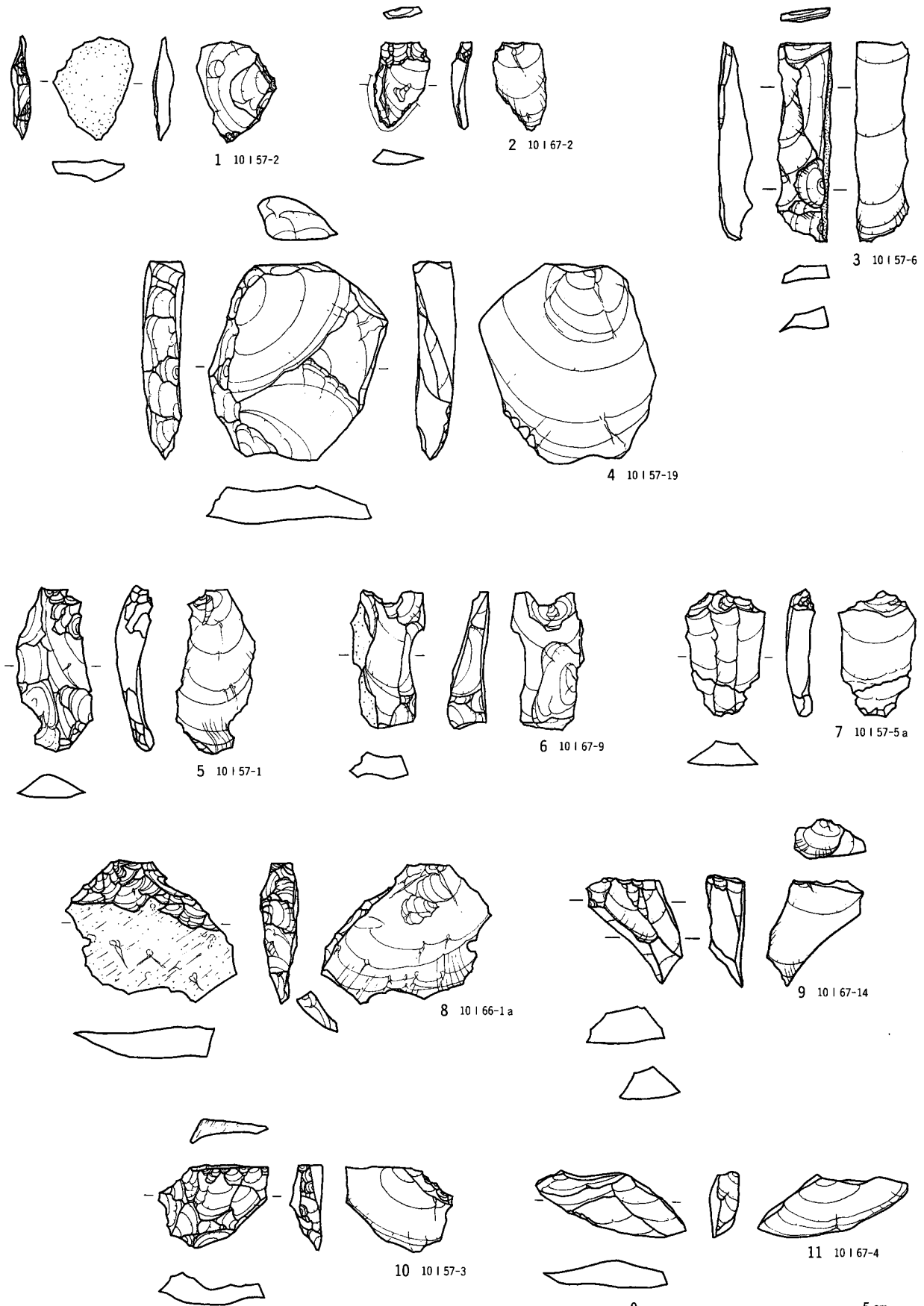
10 | 87

10 | 88

10 | 89



第24図 第7～9ブロック母岩別分布



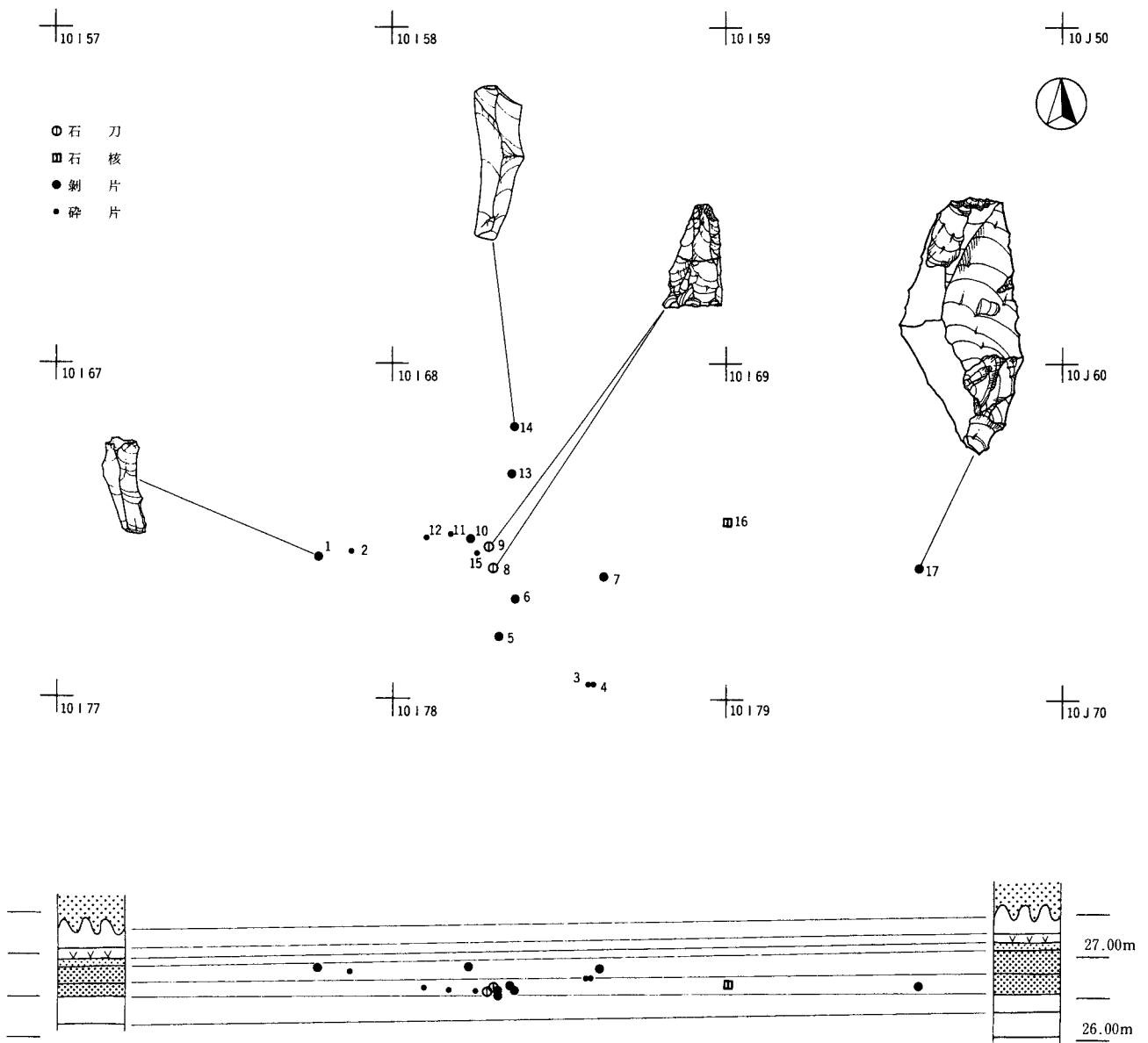
第25図 第7ブロック出土石器

7 第8ブロック (第24・26・27図, 表15・16, 図版3・4・9)

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の中央部東側に位置している。北西側に第7ブロックが、南側に第9ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は南西側に緩やかに傾斜する。

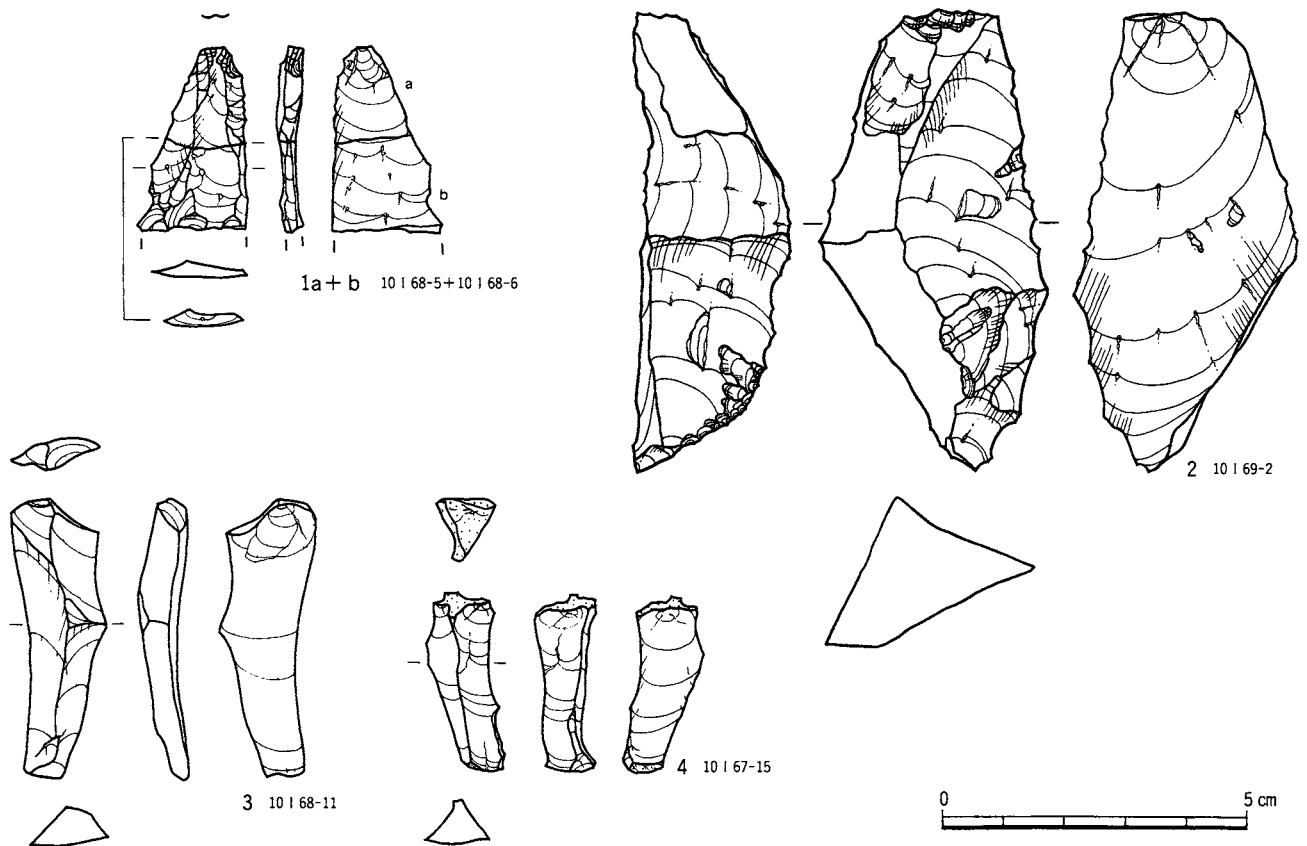
遺物総数は17点であり、小規模なブロックである。その分布は広い範囲に散在して分布する。ブロックの西側がややまとまり、そこから東側に数mはなれて散在する状況である。10 I 67区から10 I 69区にかけて東-西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北3.0m、東西7.2mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影ではやや低く投影され、IX c層上面からIX a層にかけて分布し、IX c層に遺物が集中しており、産出層位はIX c層にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 4母岩が認められ、内訳は黒曜石1母岩13点、珪質頁岩1母岩2点、安山岩1母岩1点、流紋岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1bが10点であり、この母岩で母岩構成の



第26図 第8ブロック器種別分布





第27図 第8ブロック出土石器

主体を占める。母岩の分布を見ると、黒曜石1 bは分布範囲の中心部を形成している。当ブロックでは、黒曜石1 cは少量の検出で、黒曜石1 bの割合が非常に高くなっている。母岩と器種の関係では、黒曜石1 bで石刃が2点（1個体）生産されるのみであり、主要な利器は検出されていない。

**出土遺物** 小規模なブロックであるが、主要な利器は、石刃2点のみである。石核が1点が出土するほかは碎片・剥片であり、単純な器種構成となっている。

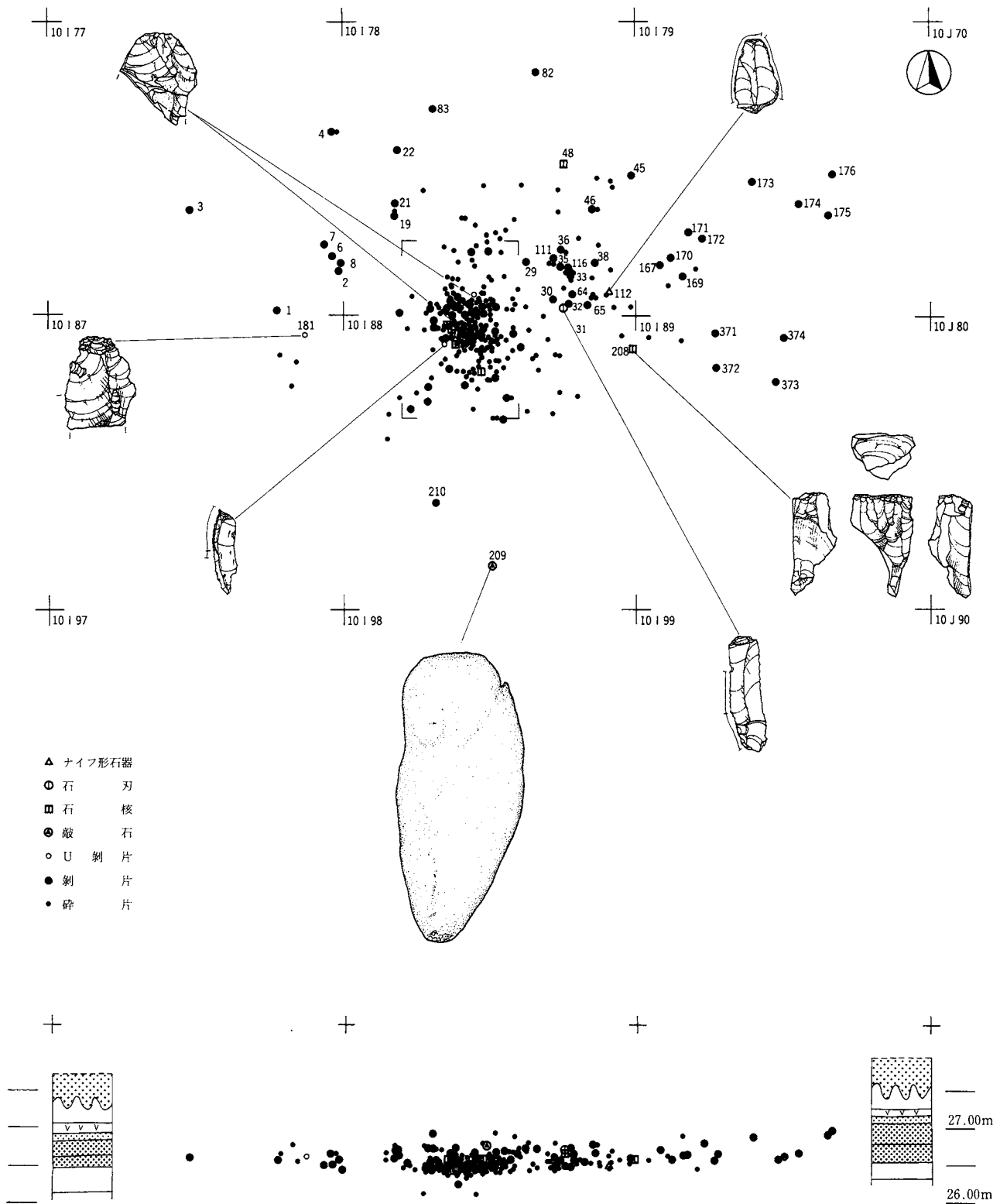
**石刃** 1 a・bは石刃とした。器体中央で横位に割れたものが接合した。下半部がに最大幅を持つもので、さらに末端を欠損している。

**剥片** 2～4は剥片である。すべて縦長剥片である。2は黒曜石1 cを母岩とする。2は大形で厚みがあり、横断面三角形状を呈する。背面で主要剥離面と対向する剥離が見られる。下半部で稜上調整が顕著である。3は安山岩B 1を母岩とするもので、細長い石刃状剥片の上下方向からの剥離痕が対向する。4は珪質頁岩4を母岩とする。打面部と底面が自然面で覆われ、母岩の形状がこの個体の長軸巾ほどの板状の素材であることが考えられる。

#### 8 第9ブロック（第24・28～43図，表17・18，図版3・4・10～12）

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の南東側に位置している。北側に第8ブロックが近接して、南西側に第10ブロックがやや離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積は西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は374点であり、大規模なブロックである。その分布は中央部が密集して分布し、周縁部に向かって放射状に分布が散漫になる状況である。放射状に分布する南東側に分布の空白部が存在する。密集部



第28図 第9ブロック器種別分布

においてIX c層とIX a層の境界で遺物分布に重複して旧石器時代土坑が検出されている。10 I 77・78・79区から10 I 87・88・89区にかけて東-西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北4.4m、東西8.8mを測る。垂直分布ではおよそ0.8mの高低差がある。北側の高い位置での投影のため約0.2mほど低いレベルに投影されている。土層断面への投影では、XI層からIX a層にかけて分布し、IX c層とIX a層の境界に遺物が集中しており、産出層位はIX c層上面からIX a層下部に安定したレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 9母岩が認められ、内訳は黒曜石1母岩363点、珪質頁岩3母岩4点、黒色頁岩2母岩3点、安山岩1母岩2点、砂岩1母岩1点、流紋岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石1bが219点、黒曜石1cが112点、黒曜石1aが32点である。この3母岩で母岩構成のほとんどを占める。他の母岩は1、2点の単独或いはごく小数の母岩となっている。母岩の分布を見ると、黒曜石1bは分布範囲の全域に分布し、当ブロックの分布傾向を形成している。黒曜石1aは比較的密集部の狭い範囲に分布し、黒曜石1cは密集部の周囲に比較的多く、密集部の東側にややまとまって分布している。黒曜石以外の母岩はブロックの周縁部に分布している。当ブロックでは、黒曜石1bの割合が非常に高くなっているが、黒曜石1c、黒曜石1bも数多く存在する。母岩と器種の関係では、流紋岩2でナイフ形石器1点、珪質頁岩6で石刃1点が生産されているのみである。また、ブロックの南端で砂岩4を母岩とする敲石1点が密集部分から離れて検出されている。母岩構成の主体を占める黒曜石1b・1cの器種構成は碎片が圧倒的に多く、それに剥片が加わる。黒曜石1aは、黒曜石母岩の中では数量の割合が少ないが、器種構成で石核が占める割合が高く、総重量では黒曜石1bを上回る。

**出土遺物** 大規模なブロックであるが、主要な利器は、ナイフ形石器、石刃がそれぞれ1点のみである。U剥片が1点ある他は碎片・剥片であり、主要な利器の割合が低い器種構成となっている。

**ナイフ形石器** 1は流紋岩2を母岩としている。石刃状素材の打面部を基部に設定し、打面部から両側縁下部にかけて微細な加工が集中する。両側縁から先端部の刃部全縁に刃こぼれ状の使用痕が連続する。

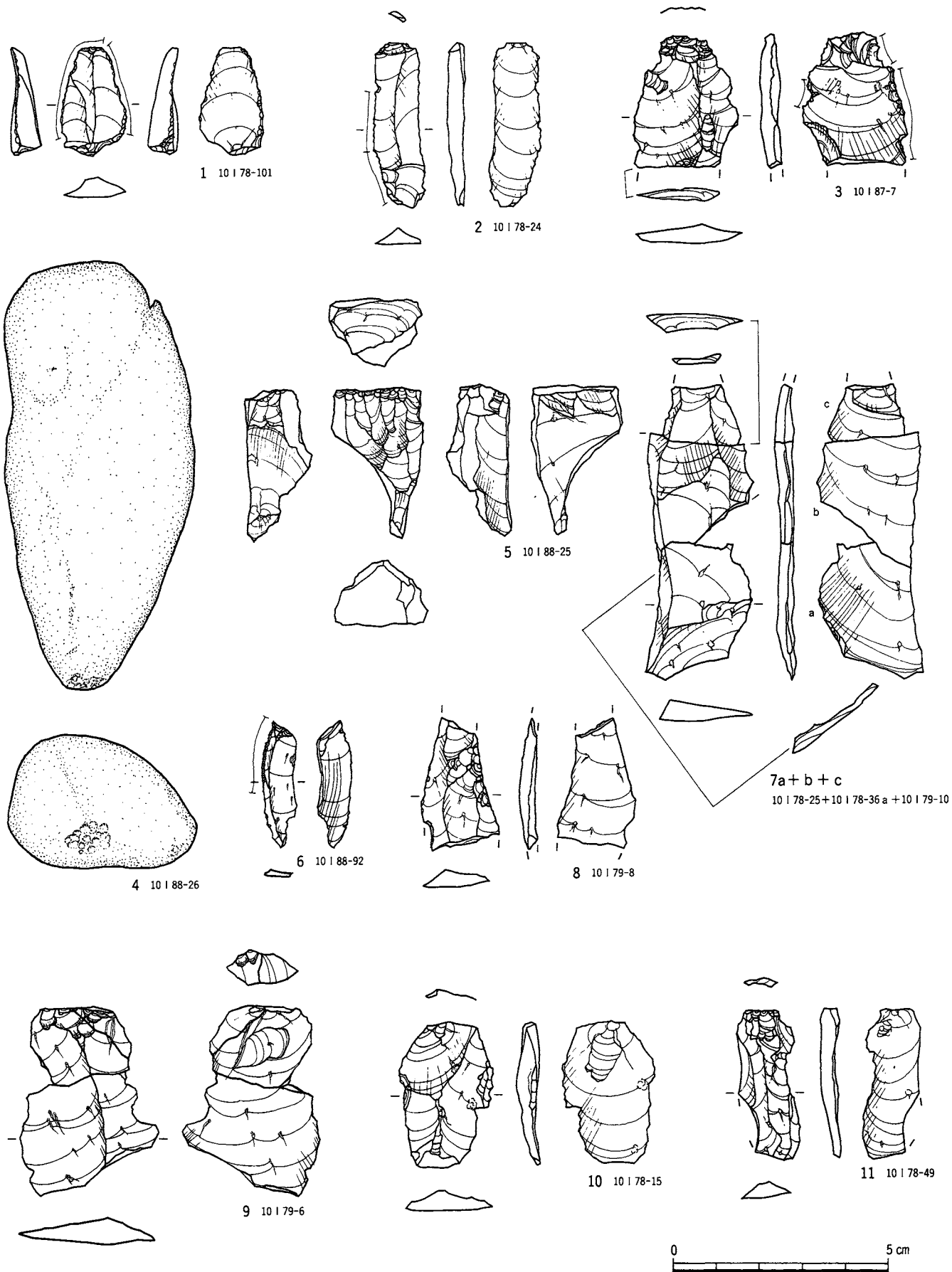
**石刃** 2は石刃とした。珪質頁岩6を母岩とする。上下からの対向する剝離面で構成される。背面右側縁には刃こぼれ状の微細剝離痕が見られる。

**U剥片** 3は黒曜石1bを母岩とする。頭部調整が顕著な縦長剥片であり、腹面の両側縁に使用痕が認められる。6は背面のポジティブな左側縁に微細剝離痕が連続する。

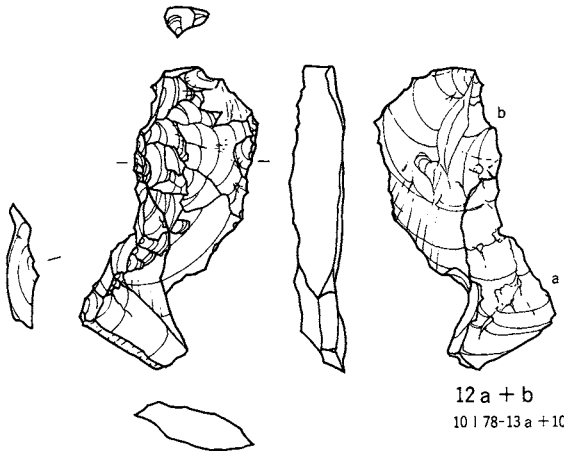
**敲石** 4は細長い楕円礫で、一端が尖る形状を呈している。その端部に敲打痕が集中する。砂岩の素材は粒の比較的大きな軟質のものである。

**石核** 5・21n・21s・21x・21ae・21ai・21akは石核である。5は黒曜石1bを母岩としている。厚みのある剥片素材の石核で、上端の平坦打面から正面～右側面を作業面として足の長い剝離が連続する。鋭角に尖る末端部の両側縁に刃こぼれ状の微細剝離痕が連続する。

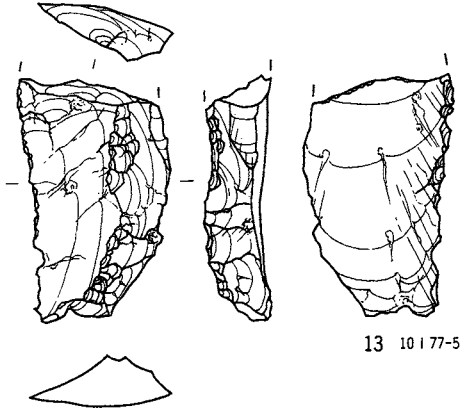
**剥片** 7～20は剥片である。7～16が黒曜石石材のもので、17～20がその他の石材のものである。14a・16は横長剥片であり、その他が縦長剥片である。7a・b・cや8・9・13をみると、器体を横断するように折れている。これが意図的に切断したものかどうか判然としないが、器体を薄く長く仕上げるよう剥片剝離作業が行われている。剥片は概して平坦打面のもので多く、打面調整もさほど顕著ではない。14a・bは厚みのある縦長剥片と横長剥片の接合資料である。背面は平坦な原礫面である。16a・bは横長剥片の接合資料である。17は乳緑色を呈する珪質頁岩5を母岩とする。大形の石刃状剥片である。18は透明度のある乳白色の流紋岩質の珪質頁岩7を母岩とする。いわゆるオパールである。19は灰褐色を呈する黒色



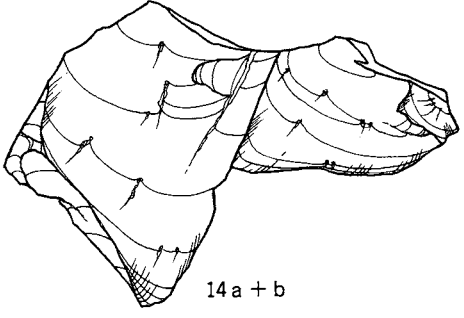
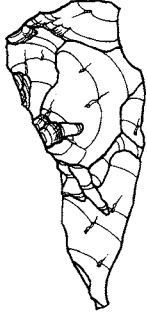
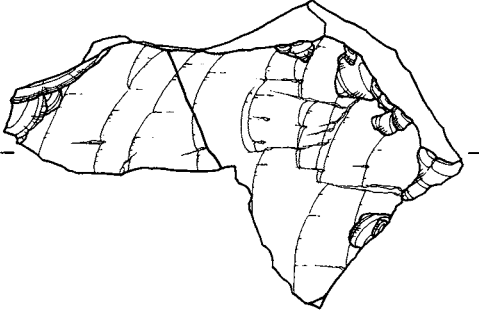
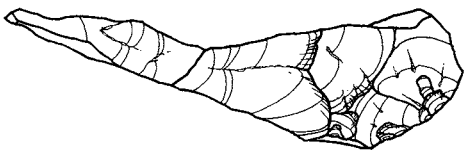
第29図 第9ブロック出土石器 1



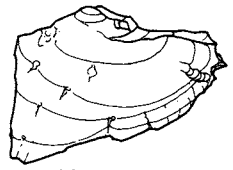
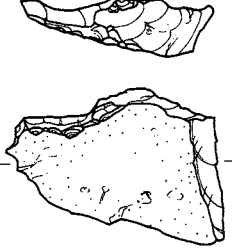
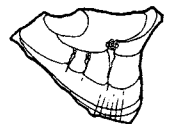
12 a + b  
10 | 78-13 a + 10 | 78-27



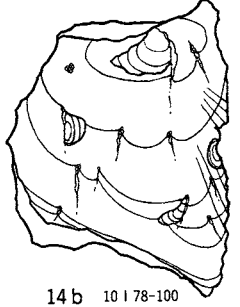
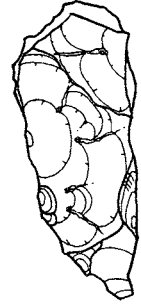
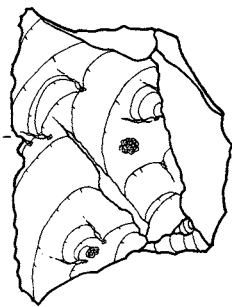
13 10 | 77-5



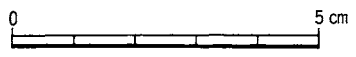
14 a + b



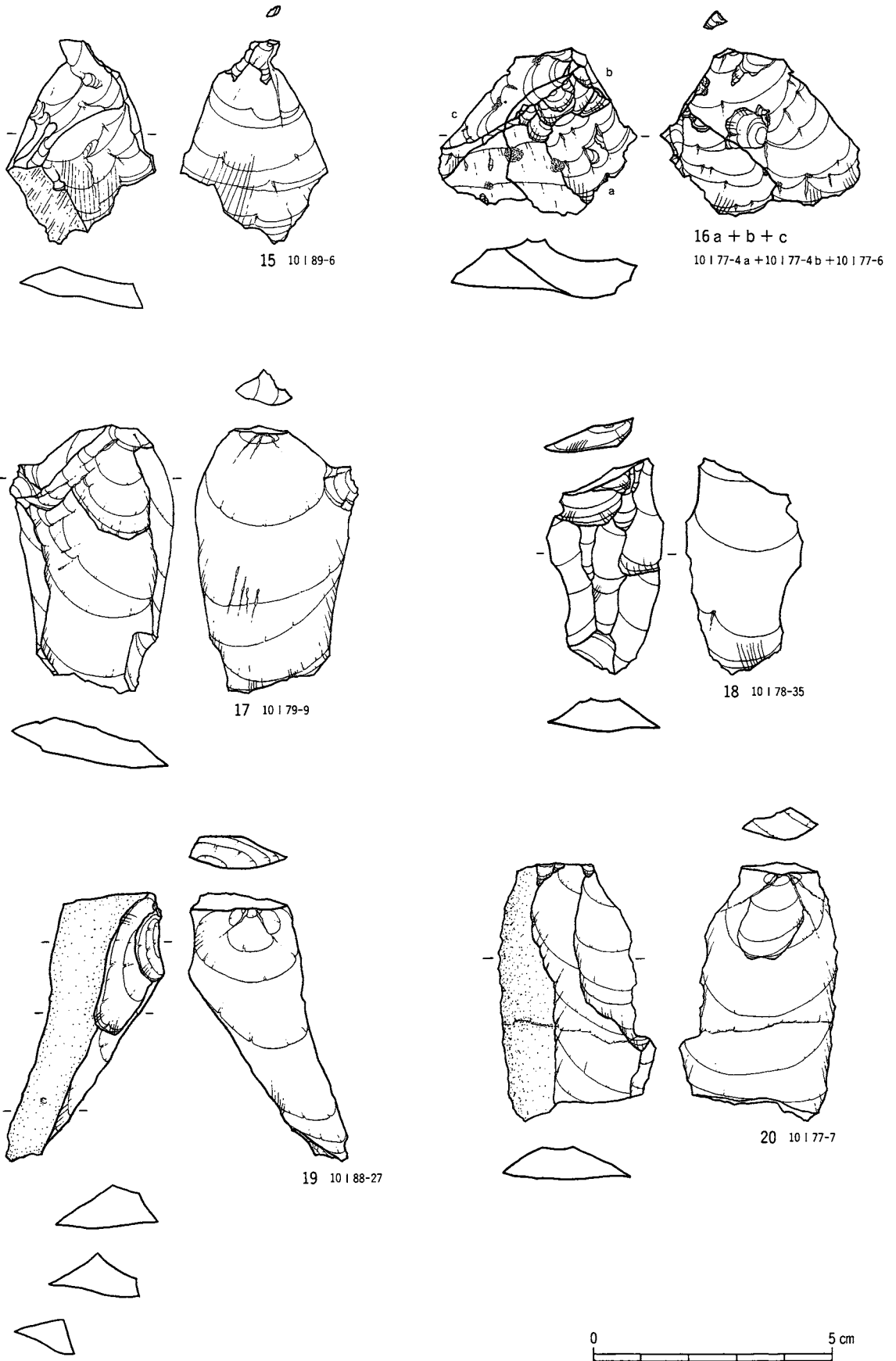
14 a 10 | 78-68



14 b 10 | 78-100



第30図 第9ブロック出土石器 2



第31図 第9ブロック出土石器3

頁岩2を母岩とする。背面に原礫面を残している。20は黒色頁岩1を母岩とするもので、色調は黒色頁岩2と同様であるが、原礫面は粗面である。珪質頁岩、黒色頁岩を石材とする剥片類は、ブロック内に単独母岩として搬入されており、概して大形の石刃状剥片である。

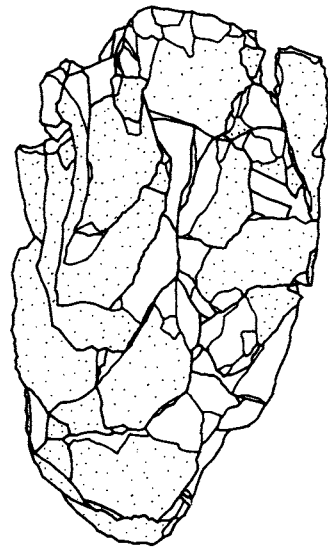
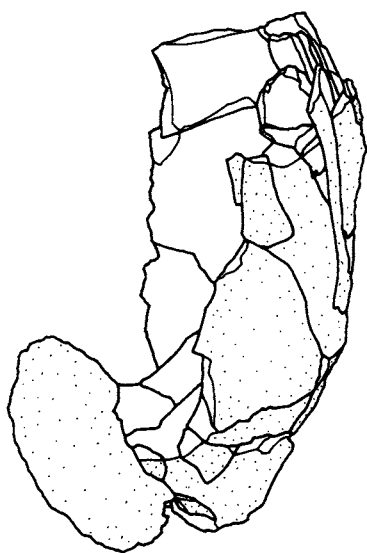
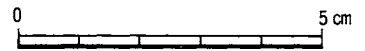
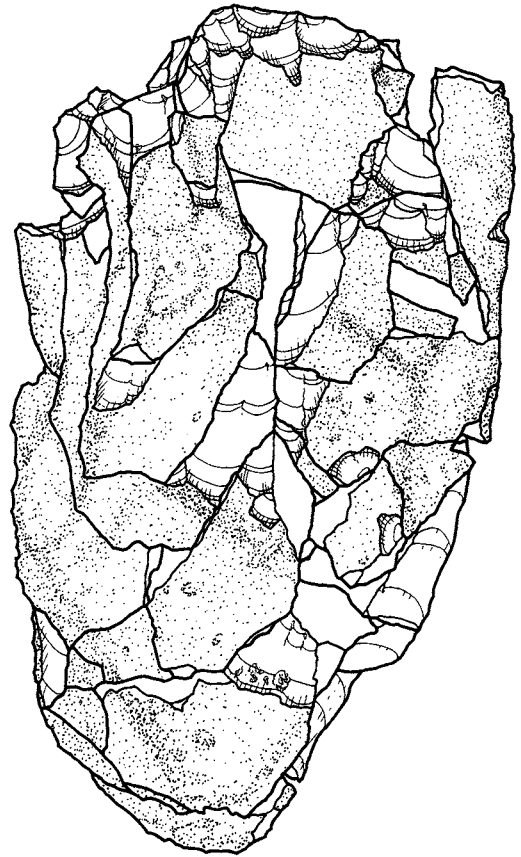
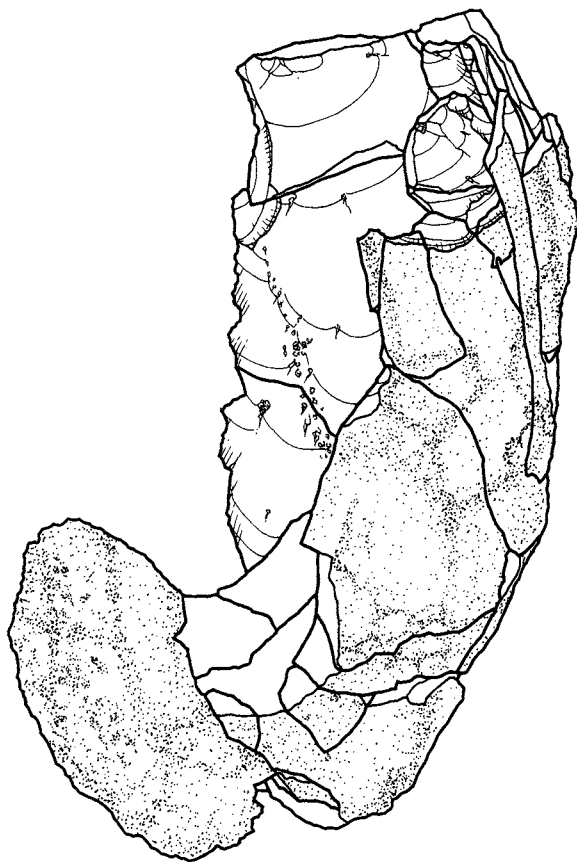
**接合資料** 21は土坑を中心に検出された接合資料である。39点が接合し素材の形態が復元される好資料である。剥片剥離工程の連続性を考慮して、A群・B群・C群の3つの群に分割して説明していく。

A群では、先ず原礫面を持つa, bが連続して削出される。e + fの剥離の間に介在してc + dが削出されている。この後1回ほどの剥離があり、e + fが削出されている。c + dはB群のuに先行して剥離されており、tとの前後関係は不明であるが、A群の初期の剥片剥離はB群に先行していることが想定される。次に、l + mの上面に接合するg + hが削出され、このg + hとlとの先後関係不明で、mに接合するi, jが削出される。さらに、lとmが削出されている。mの背面構成をみるとe + fに先行して、接合資料正面の空白部の剥離が行われている。次に、nに接合するkが削出されている。nはmと右側面で接合し、oと裏面で接合している。nの上面の剥離面とoの剥離面は連続することから、n + o + p + q ~ sという個体で剥離されている。その後nの裏面を主要剥離面として、oから分割するようにnが削出される。その後、oからq ~ sが剥離されている。pはq ~ sとは接合せず関係が判然としないが、おそらくq ~ sの削出と一緒に剝がれたものと思われる。さらに、sを石核としてqとrが剥離されている。

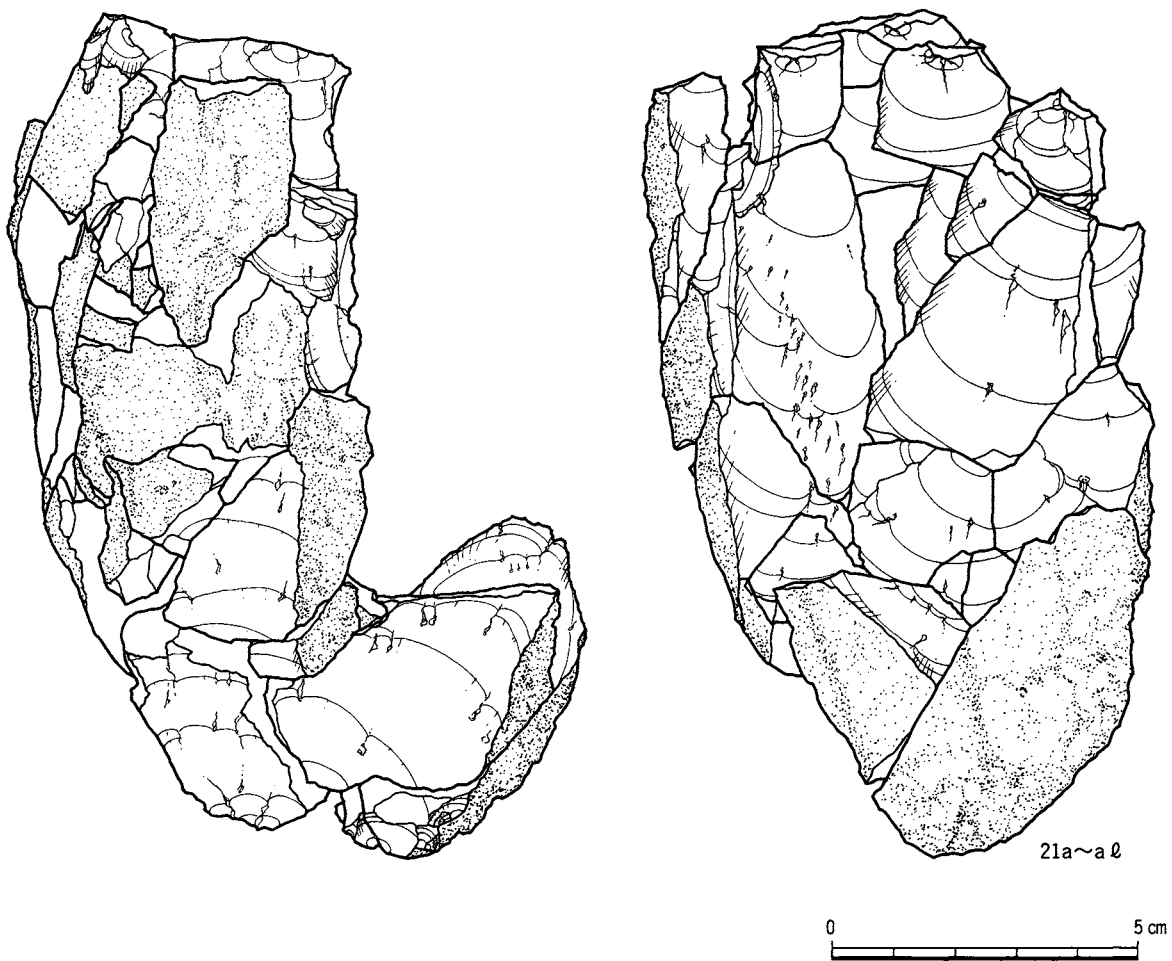
B群では、先ず原礫面を持つtが削出される。次に、数回の剥離が介在してuが剥離される。さらに連続してv + wが削出されている。vとwは接合しないが同一の剥離により削出されている。次にaeの上面に接合するxが切断状に削出されている。y + zはA群のc + d, e + fの主要剥離面で接合し、これらに後続して剥離されlに先行する。次に、1回の剥離でaa ~ aeが削出される。さらに、abが不純物が脈状にはいる方向に沿って、切断状に分割される。aaはこの後にacから剥離されている。ac + adはabの後に削出され、この衝撃でacとadに分割している。aeは残核である。B群のaa ~ aeの剥片剥離は、A群のm ~ sに先行しており、B群の削出後に、m以後の工程が進行している。

C群では、先ずakに接合するafが削出される。次にaf ~ ahが削出される。ahに接合するaf, agは、この剥離以前に母岩整形初期の段階で剥離されたものであろう。さらに、ai + aj, akは1回の剥離で削出されている。ai + ajはajの右側面とakの右側面で接合し、akを石核として剥離されている。さらにこのai + ajは、ajを石核としてaiが削出されている。B群は、afの削出は先後関係が不明であるが、他の個体の剥離はA群、B群の剥片剥離工程の後に、剥片剥離していることが看取される。



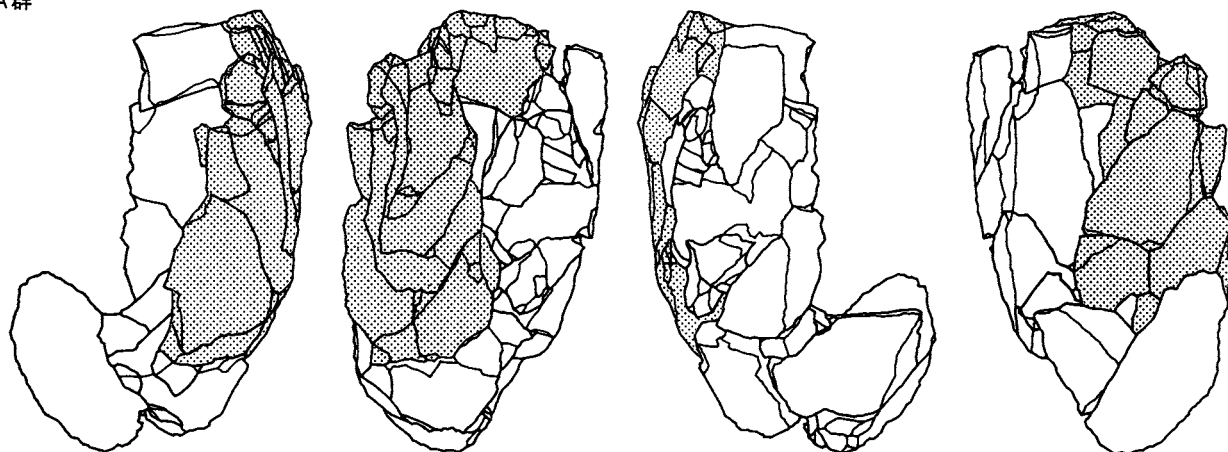


第32図 第9ブロック出土石器4

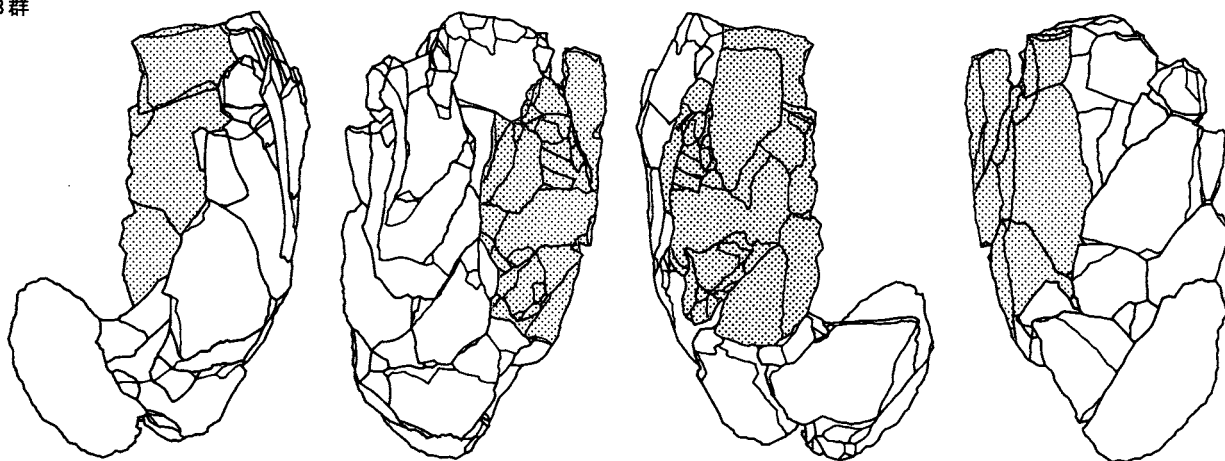


第33図 第9ブロック出土石器5

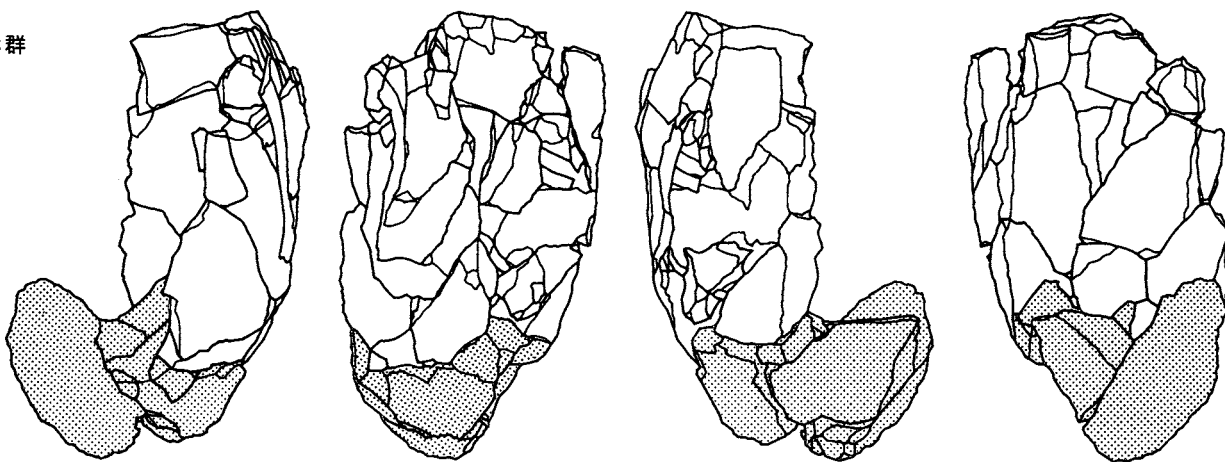
A群



B群

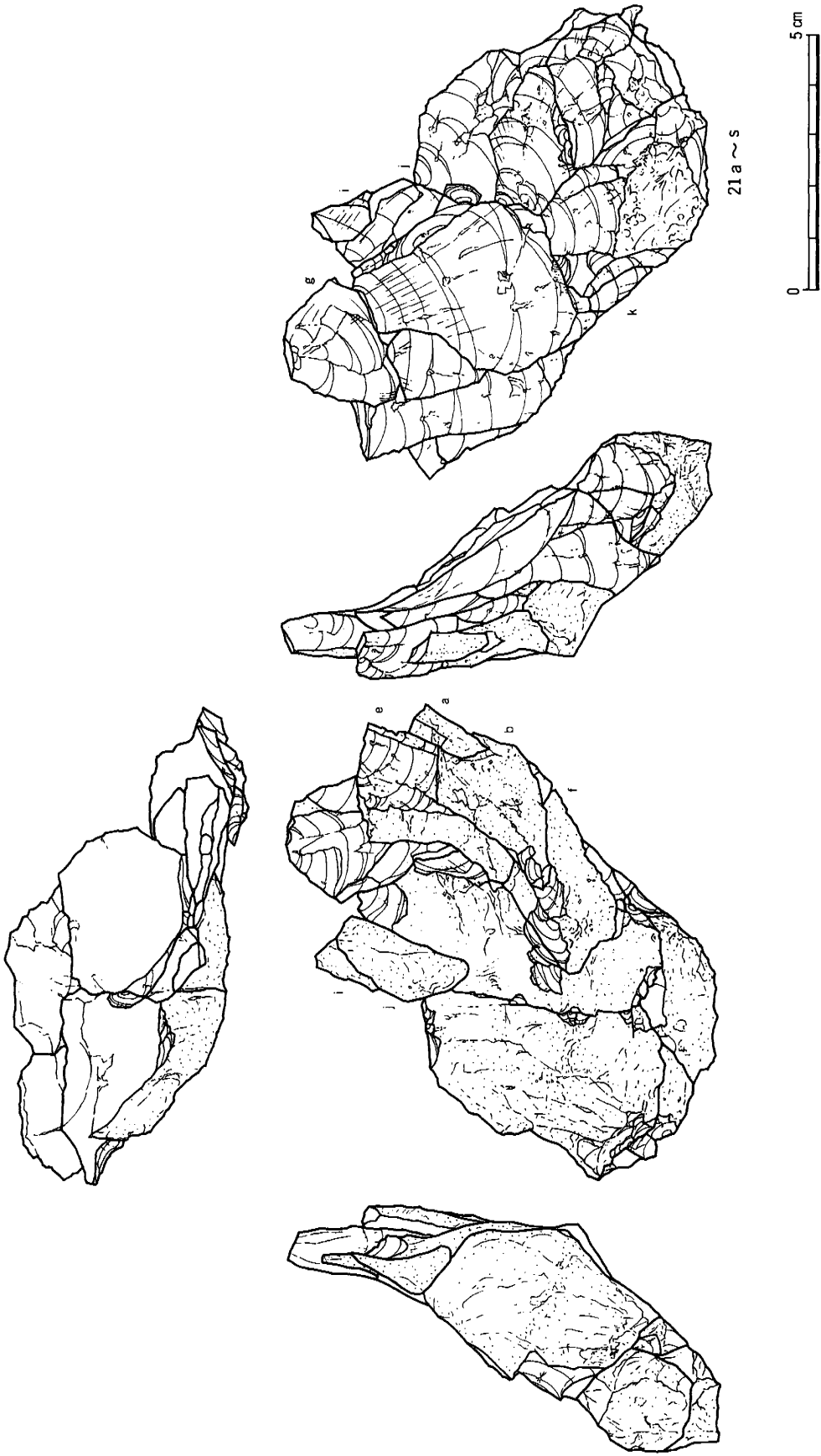


C群

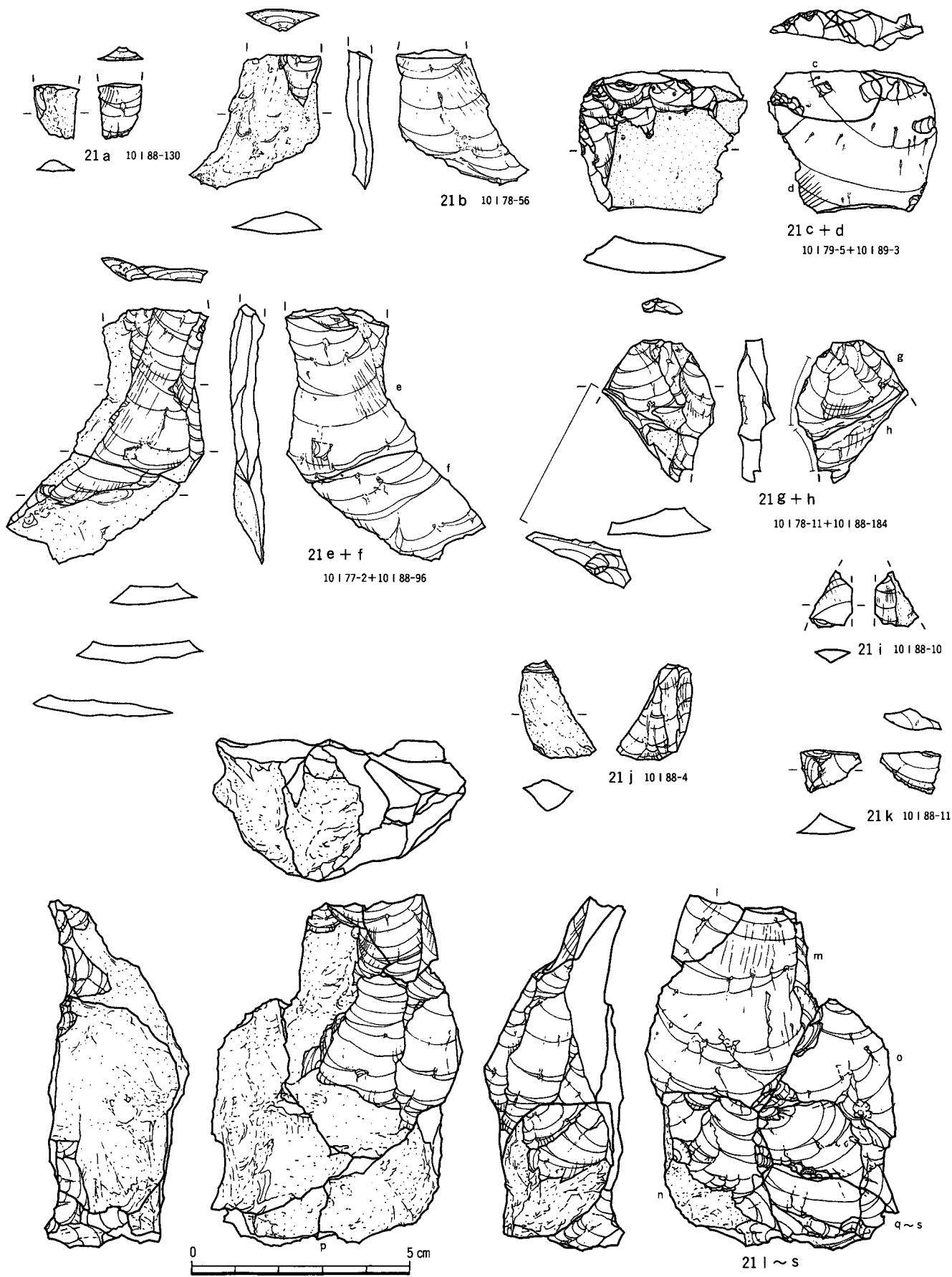


第34図 第9ブロック出土石器6

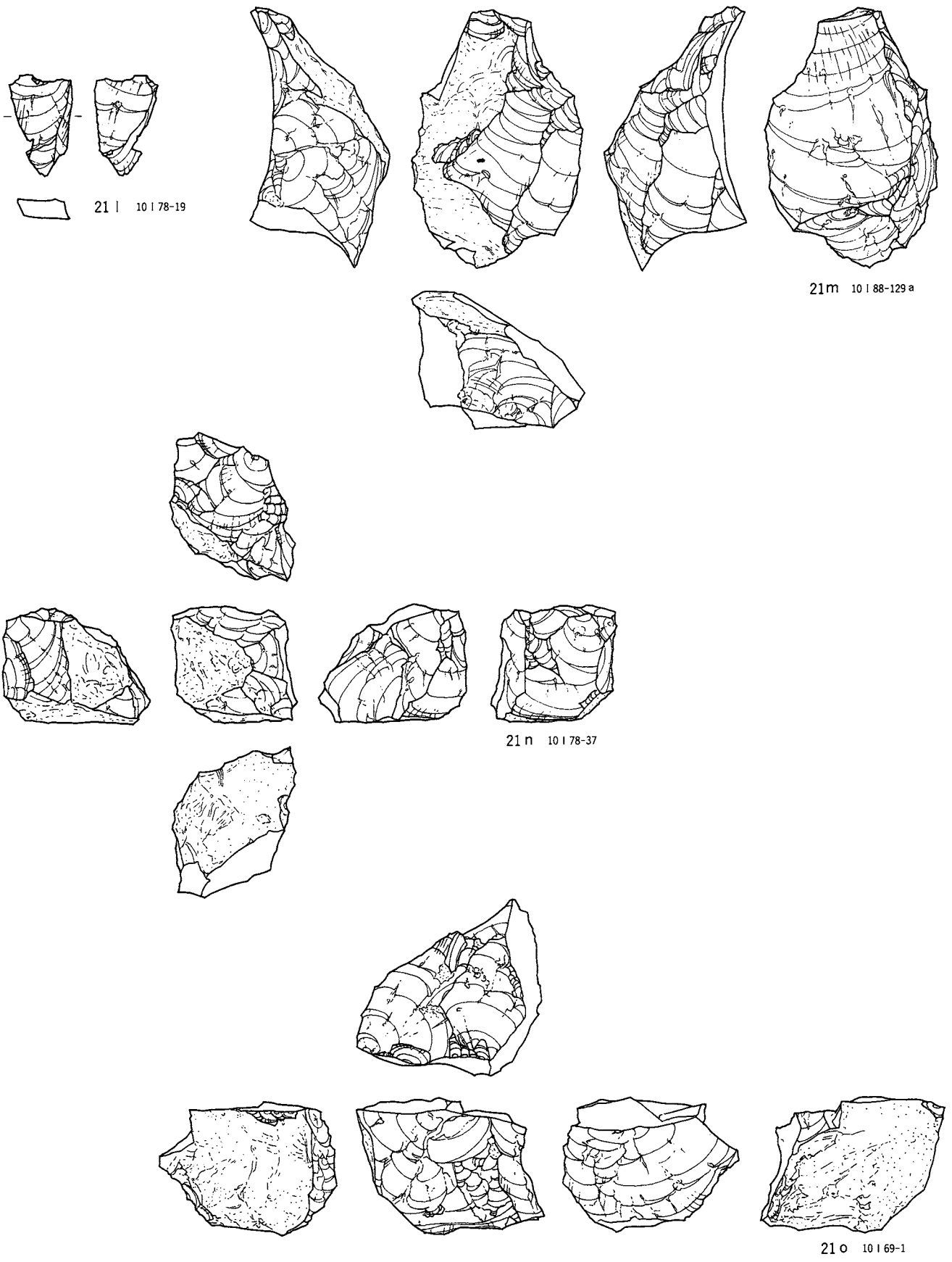
A群



第35図 第9ブロック出土石器7



第36図 第9ブロック出土石器 8



21 | 10 | 78-19

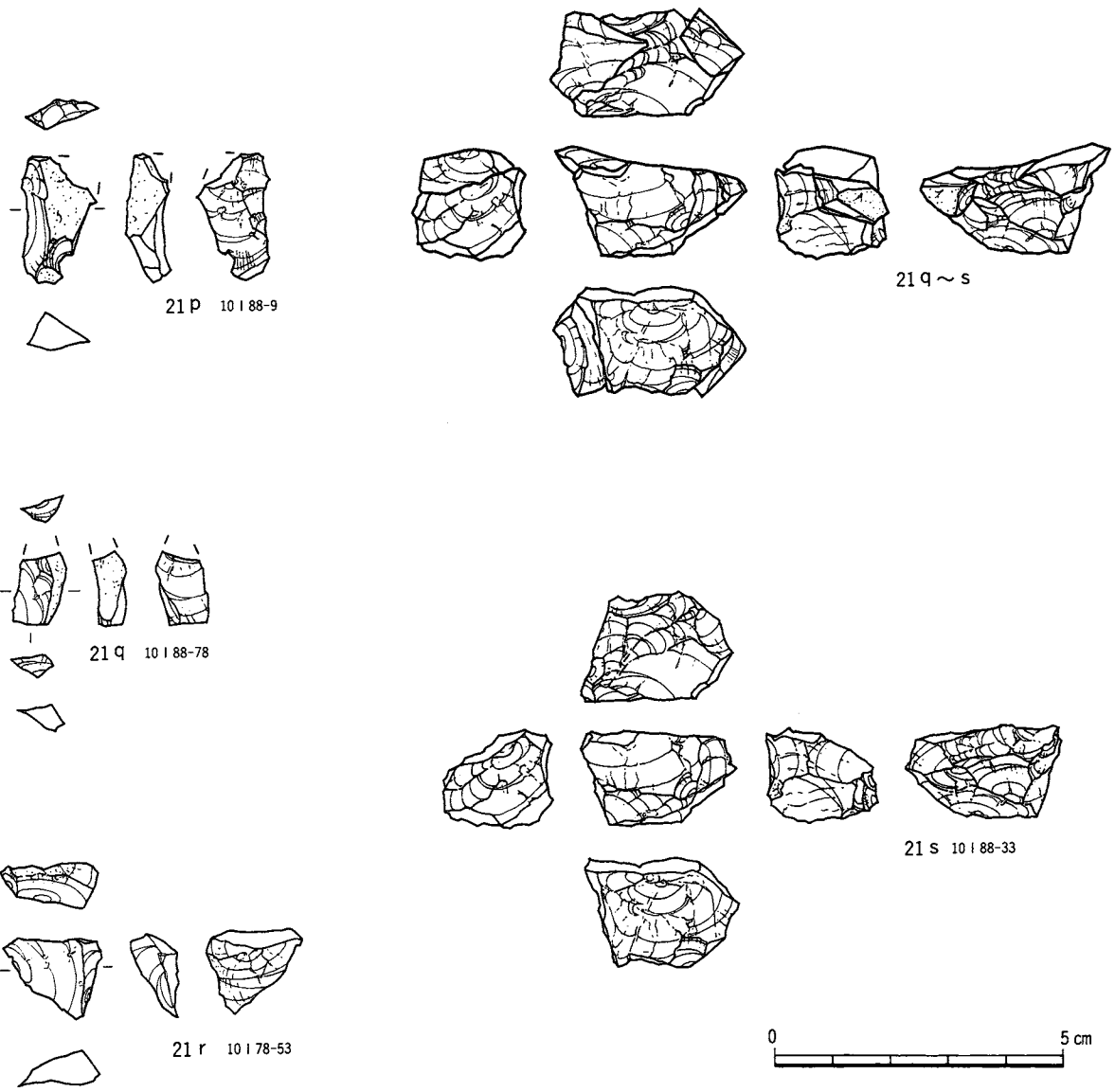
21m | 10 | 88-129 a

21 n | 10 | 78-37

21 o | 10 | 69-1

0 5 cm

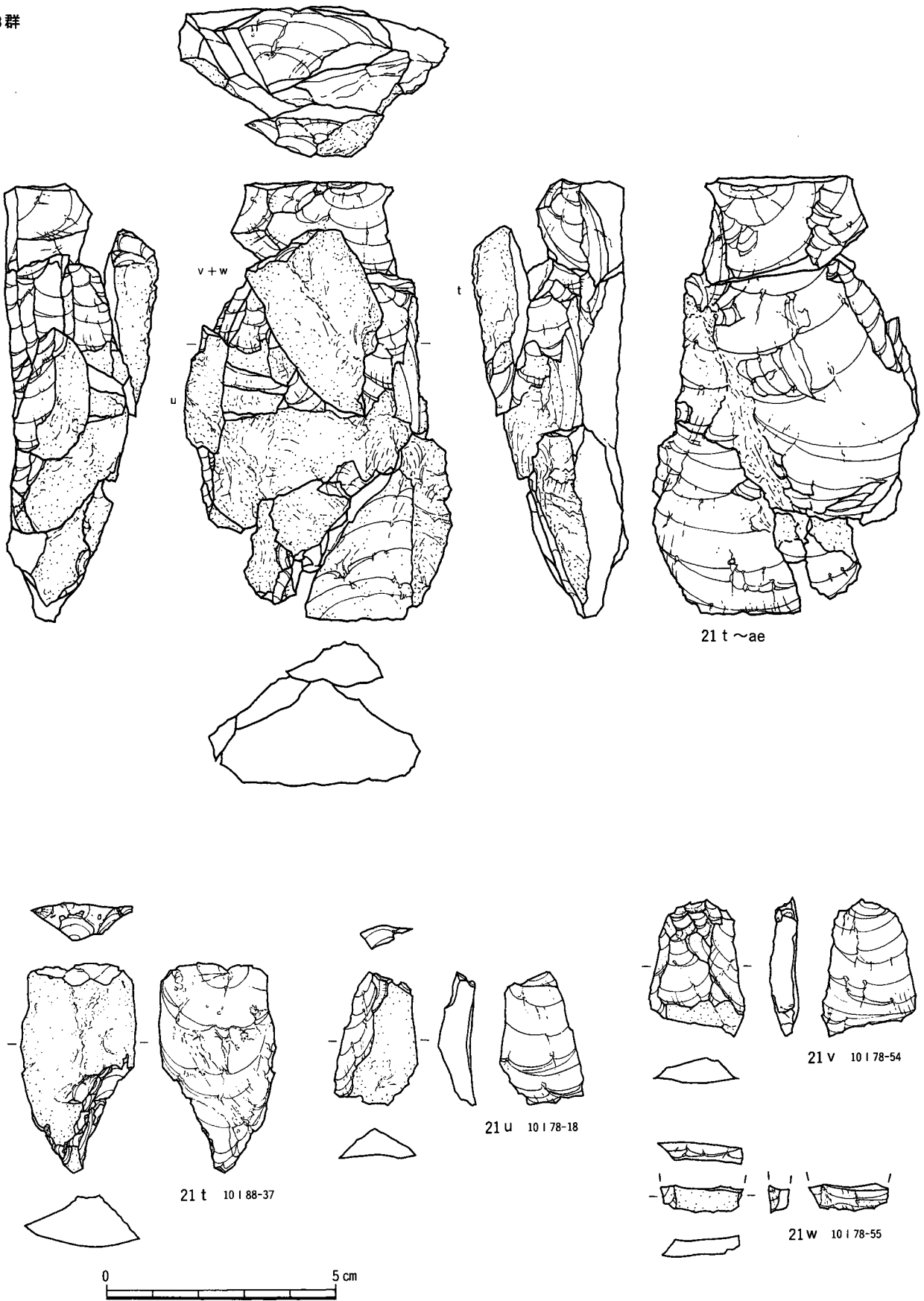
第37図 第9ブロック出土石器9



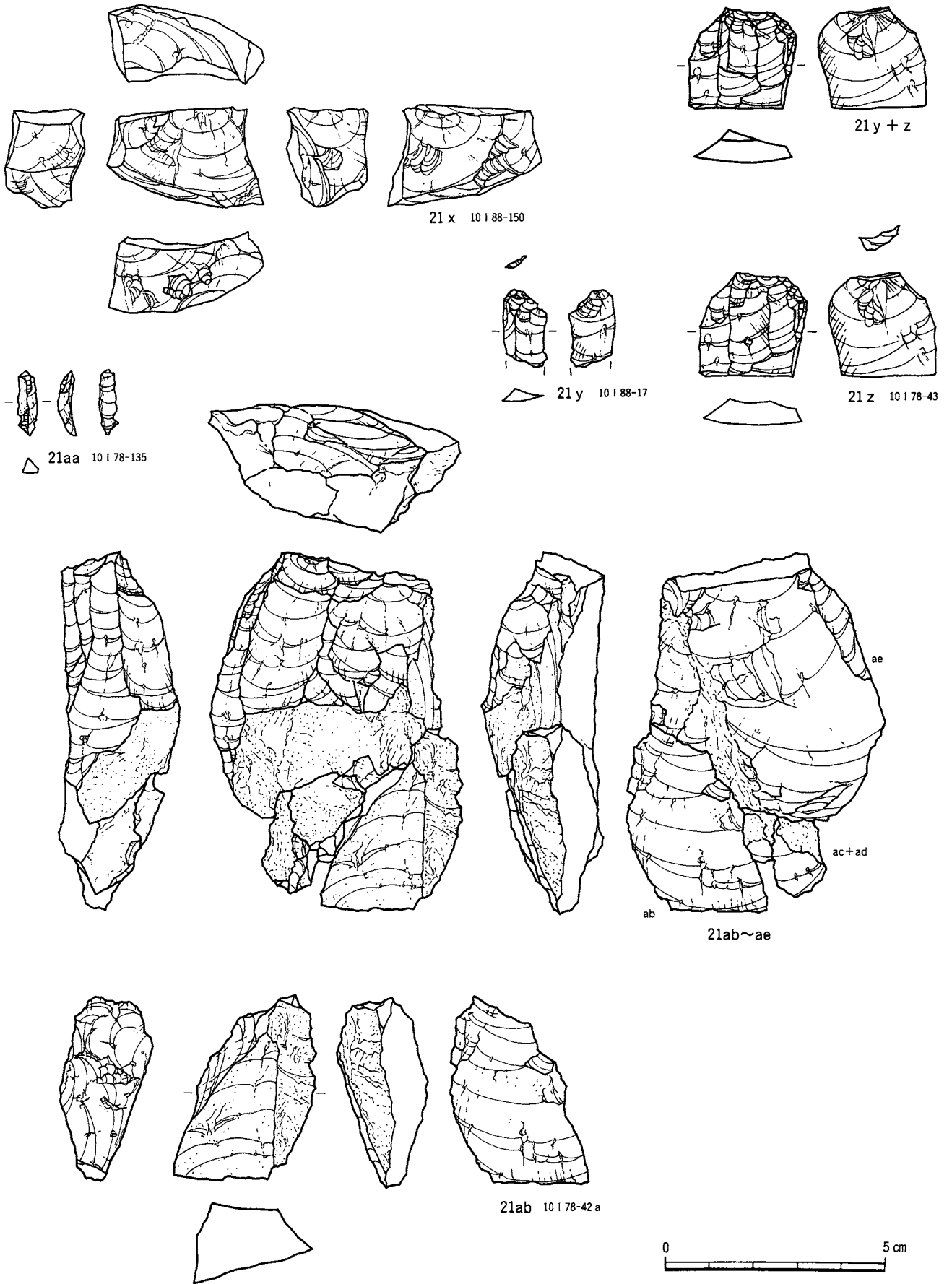
第38図 第9ブロック出土石器10



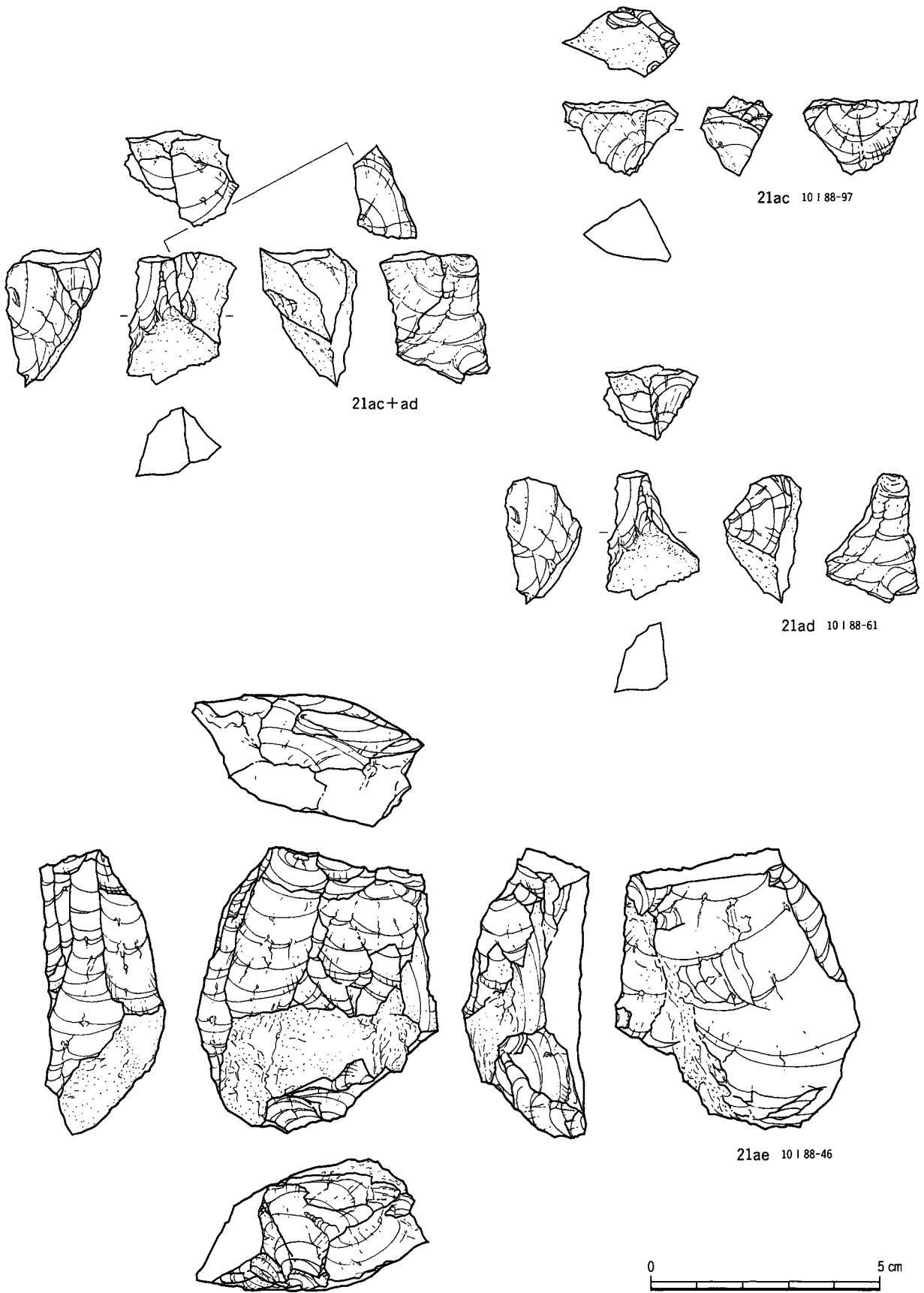
B群



第39図 第9ブロック出土石器11

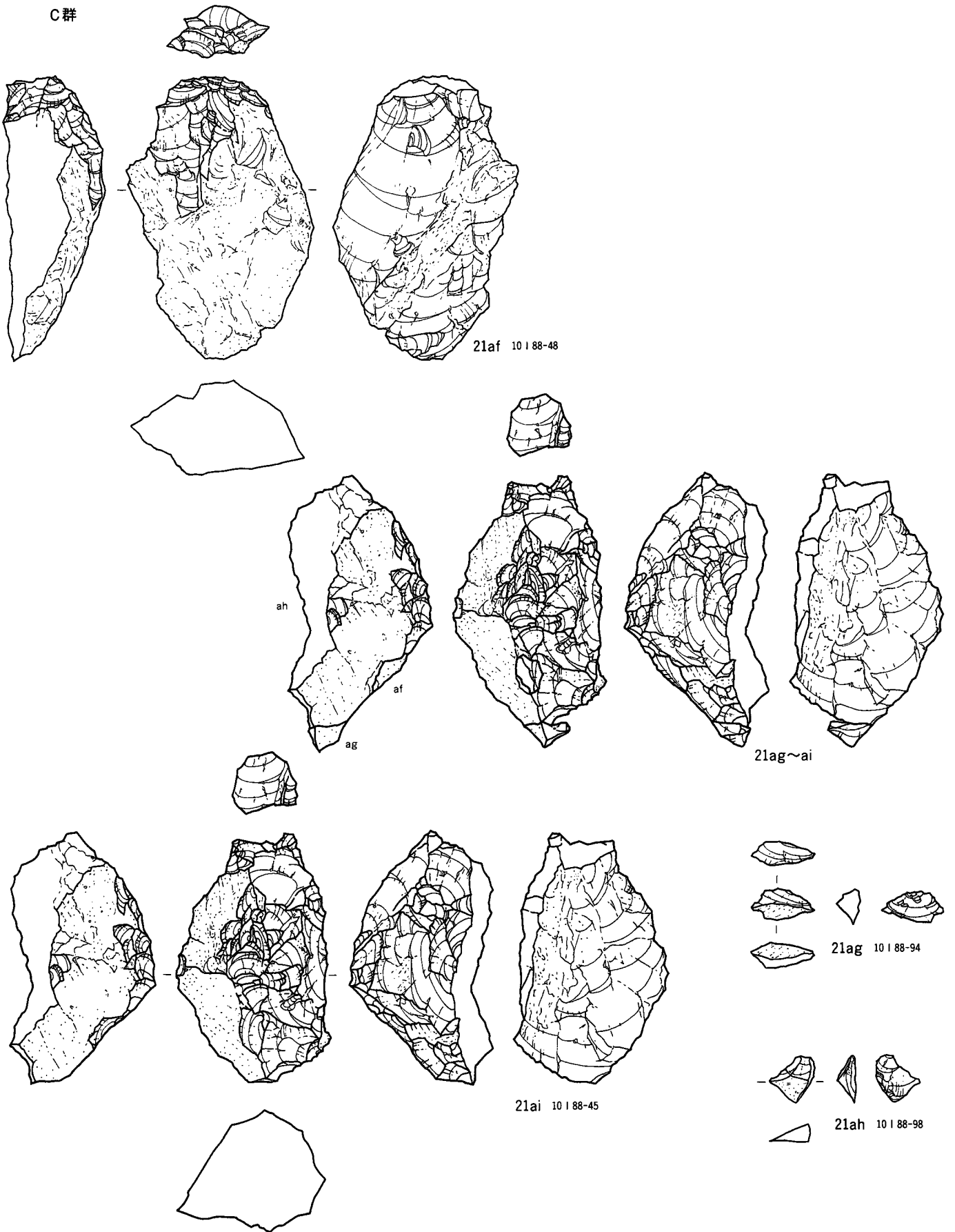


第40図 第9ブロック出土石器12

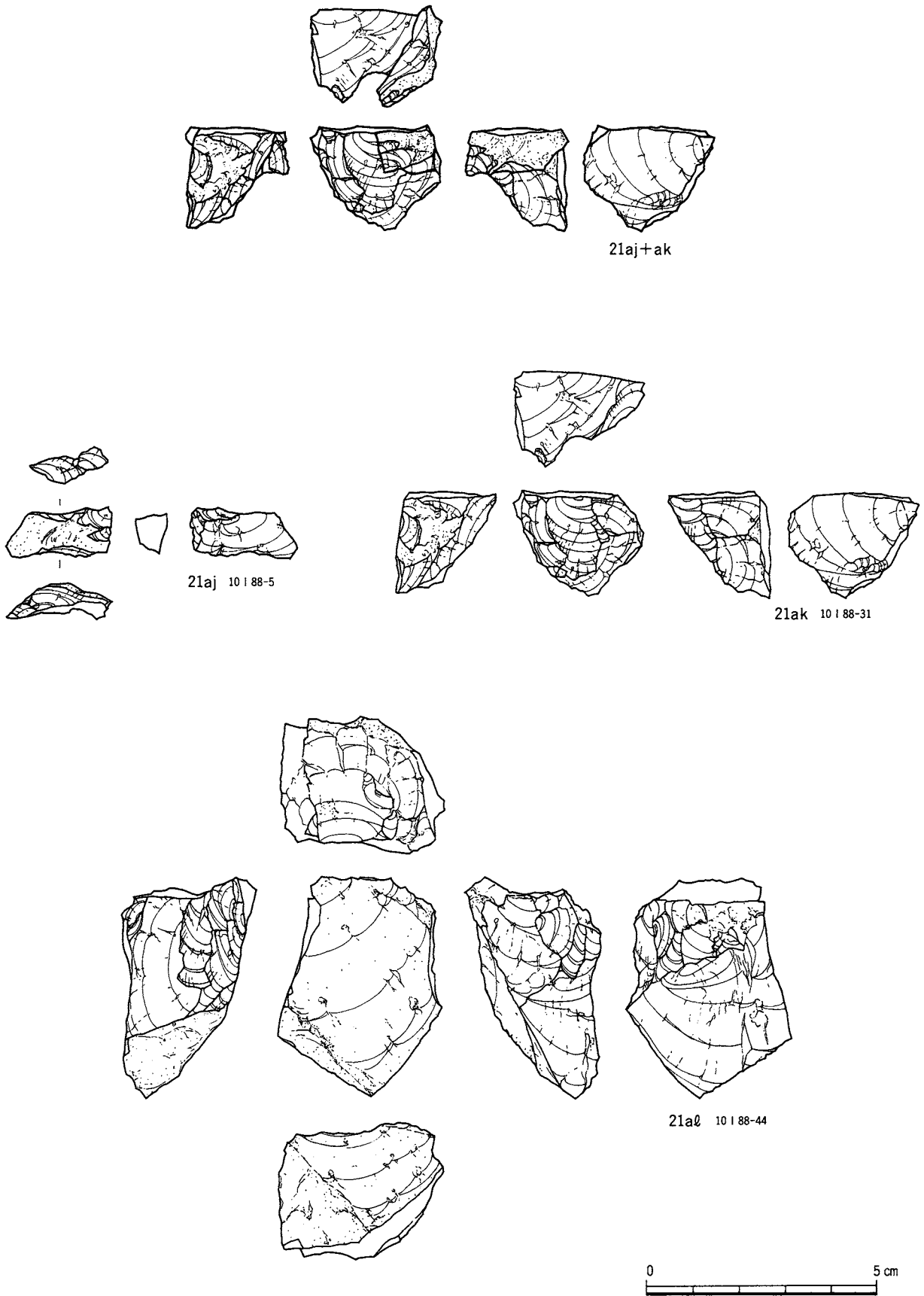


第41図 第9ブロック出土石器13

C群



第42図 第9ブロック出土石器14



第43図 第9ブロック出土石器15

## 9 旧石器時代土坑（第44図，巻頭図版1・図版2）

第9ブロックの中央部の遺物の最も密集する範囲で検出された土坑である。10 I 78・88区に位置している。平面形は隅丸の長方形を呈し，掘り込みの上場ラインは内外に蛇行している。長軸1.9m，短軸1.2mを測る。確認面からの深さは10cmを測る。長軸方位はN-12°-Wである。掘り込みは浅く皿状になり，壁は緩やかに立ち上がるが，西壁ではやや急角度で立ち上がる。覆土はIX c層よりも明るい明黄褐色硬質ローム土である。オレンジ色スコリア粒子（径2mm前後）を大変多く含んでいた。覆土中からは，土坑の掘り込みに沿うように万遍なく遺物が分布し，黒曜石1の母岩から消費された剥片・碎片・石核が多量に検出された。先に記載した接合資料の大部分がこの土坑から検出されている。石器を埋納した土坑という性格よりも，穴を掘った窪みで石器製作をその場で行ったか，石器製作により生産された剥片・碎片類を集め廃棄したような状況である。

## 10 第10ブロック（第45～49図，表19・20，図版3・4・13）

**分布状況** 調査区南西側で調査されたブロックである。ブロック群の南端に位置している。北東側に第9ブロックが2m～3m離れて分布する。現況では，立川ローム層の堆積は南西側に緩やかに傾斜する。

遺物総数は64点であり，中規模なブロックである。その分布は中心が密集し，周りは広い範囲に散在して分布する。ブロックの中央部が西側がややまとまり，そこから東西側に1m～2，3mはなれて散在する状況である。10 I 85・86・87区から10 I 96・97区にかけて東-西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北5.0m，東西8.2mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では，IX c層からVI層にかけて分布し，IX a層に遺物が集中しており，産出層位はIX a層下部にレベルを求めることが出来る。

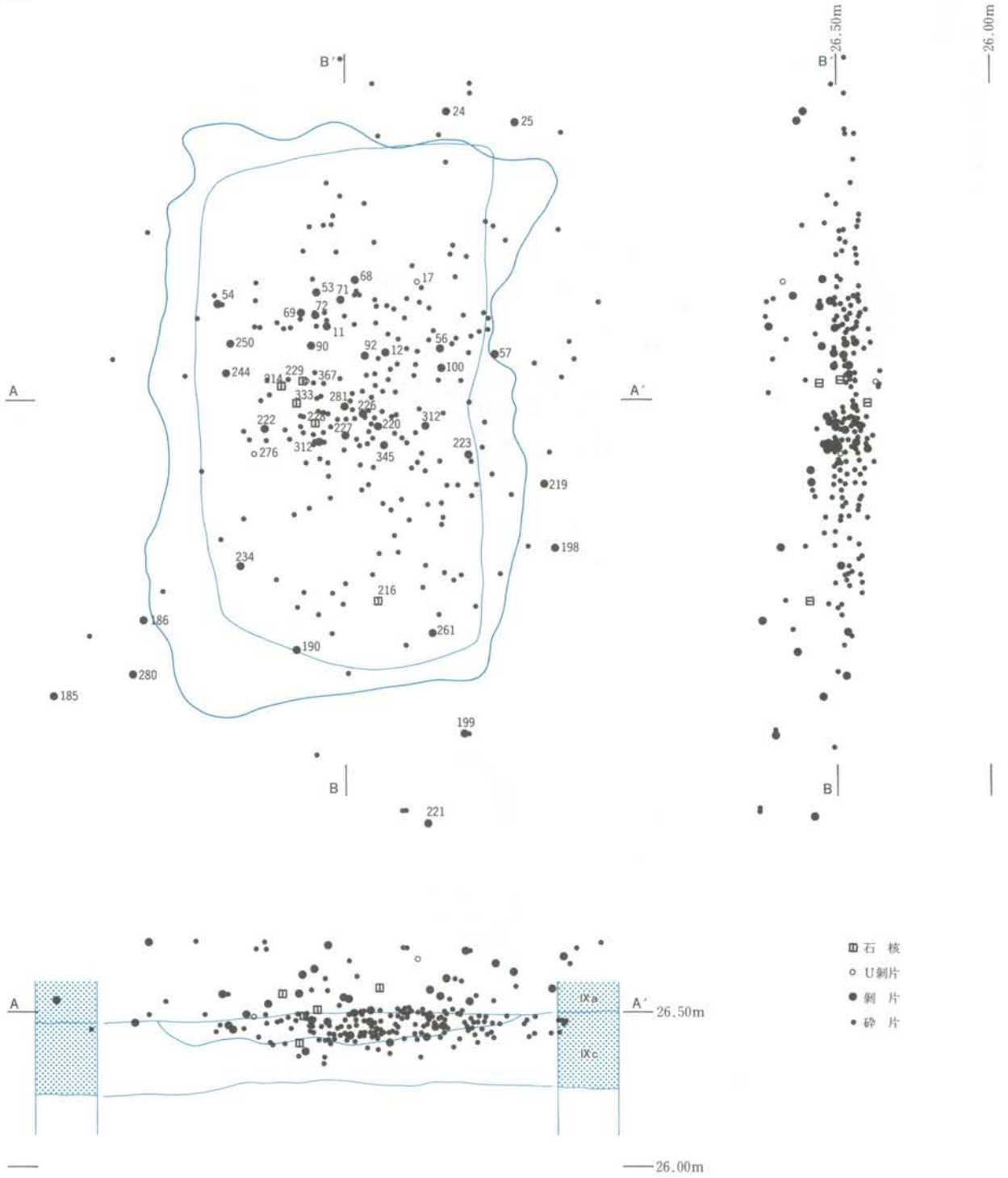
**母岩別資料** 7母岩が認められ，内訳は黒曜石1母岩58点，黒色頁岩2母岩2点，ホルンフェルス1母岩1点，珪質頁岩1母岩1点，結晶片岩1母岩1点，砂岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると，黒曜石1bが54点，黒曜石1cが4点であり，この母岩で母岩構成の大部分を占めている。母岩の分布を見ると，黒曜石1b，黒曜石1cは分布範囲の中心部から西側に分布している。その他の単独母岩の資料は，それぞれ中心部から東側に数mはなれて分布している。母岩と器種の関係では，黒曜石1bでナイフ形石器が1点，ホルンフェルス2でナイフ形石器が1点，結晶片岩1で敲石が1点，砂岩5で敲石が1点生産されるのみである。当ブロックの主要な母岩の黒曜石1bからは，ナイフ形石器以外は碎片・剥片が主体的に生産されている。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが，主要な利器は，ナイフ形石器2点，敲石2点である。他はR剥片が1点検出されるのみであり，単純な器種構成となっている。

**ナイフ形石器** 1・2はナイフ形石器である。1は単独母岩のホルンフェルス2を母岩としている。素材の礫面のカーブを生かして先端の縦断面が鋭利になる。素材の打面部を基部に設定し，基部から右側縁は2/3ほど，左側縁は半分ほど調整加工が施されている。2は平面形は切出形の形状を呈する。素材の打面を基部に設定し，右側縁下半を直線的にブランディングしている。

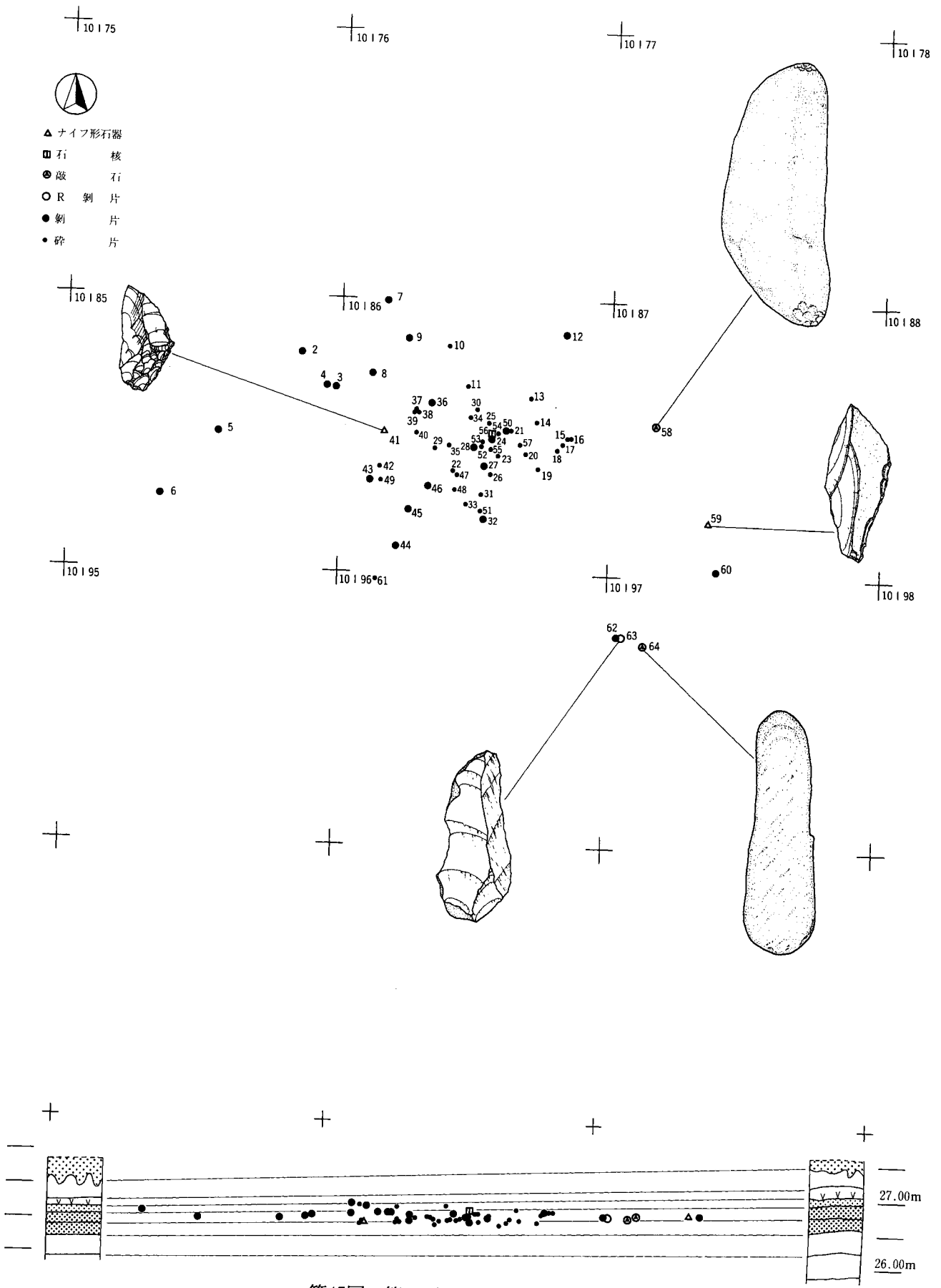
**敲石** 3・4は敲石である。3は砂岩5を母岩とするもので，上下端部に敲打痕が見られる。4は結晶片岩1を母岩とするものである。扁平棒状礫を素材にして，下端部から右側縁にかけての斜部に敲打痕が集中する。

**R剥片** 5はR剥片とした。主要剥離面下端からの平坦加工と細部加工が看取される。或いは刃器のり

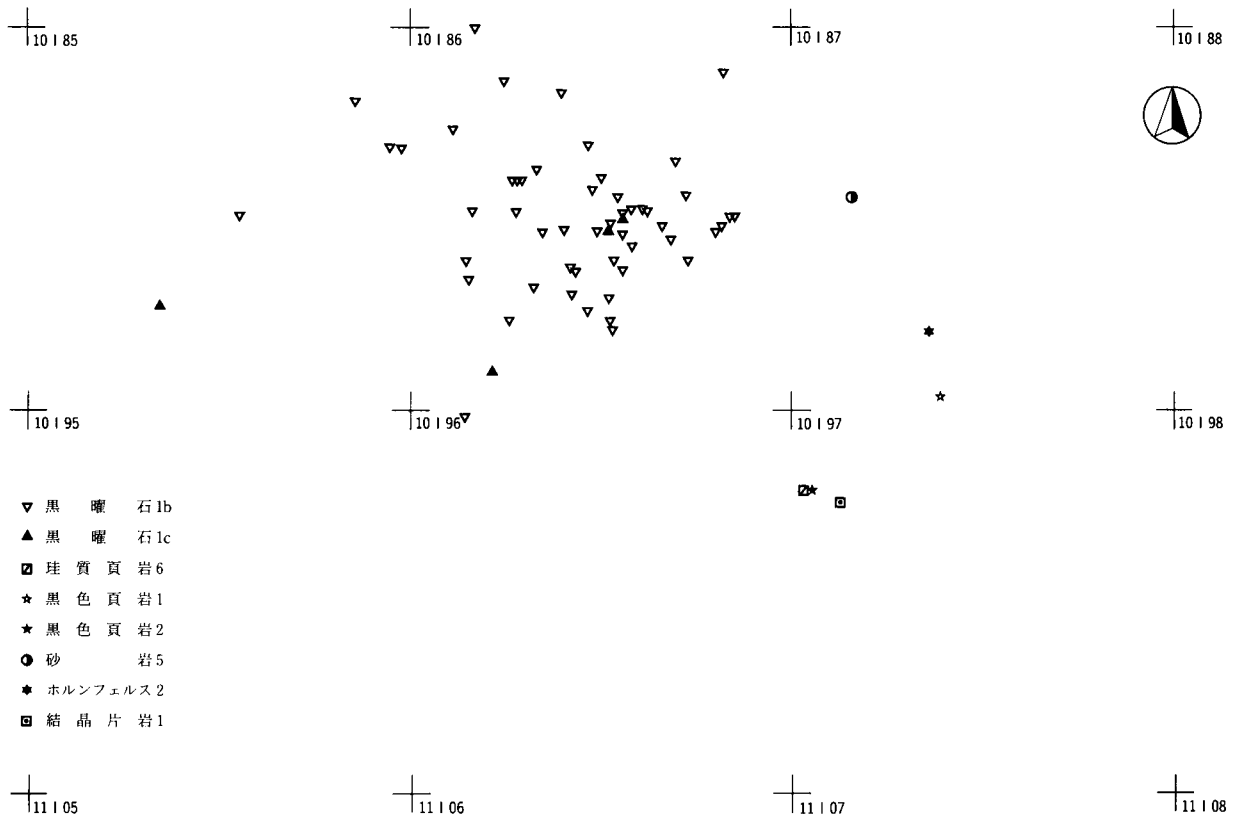


第44図 旧石器時代土坑 (S = 1/20)





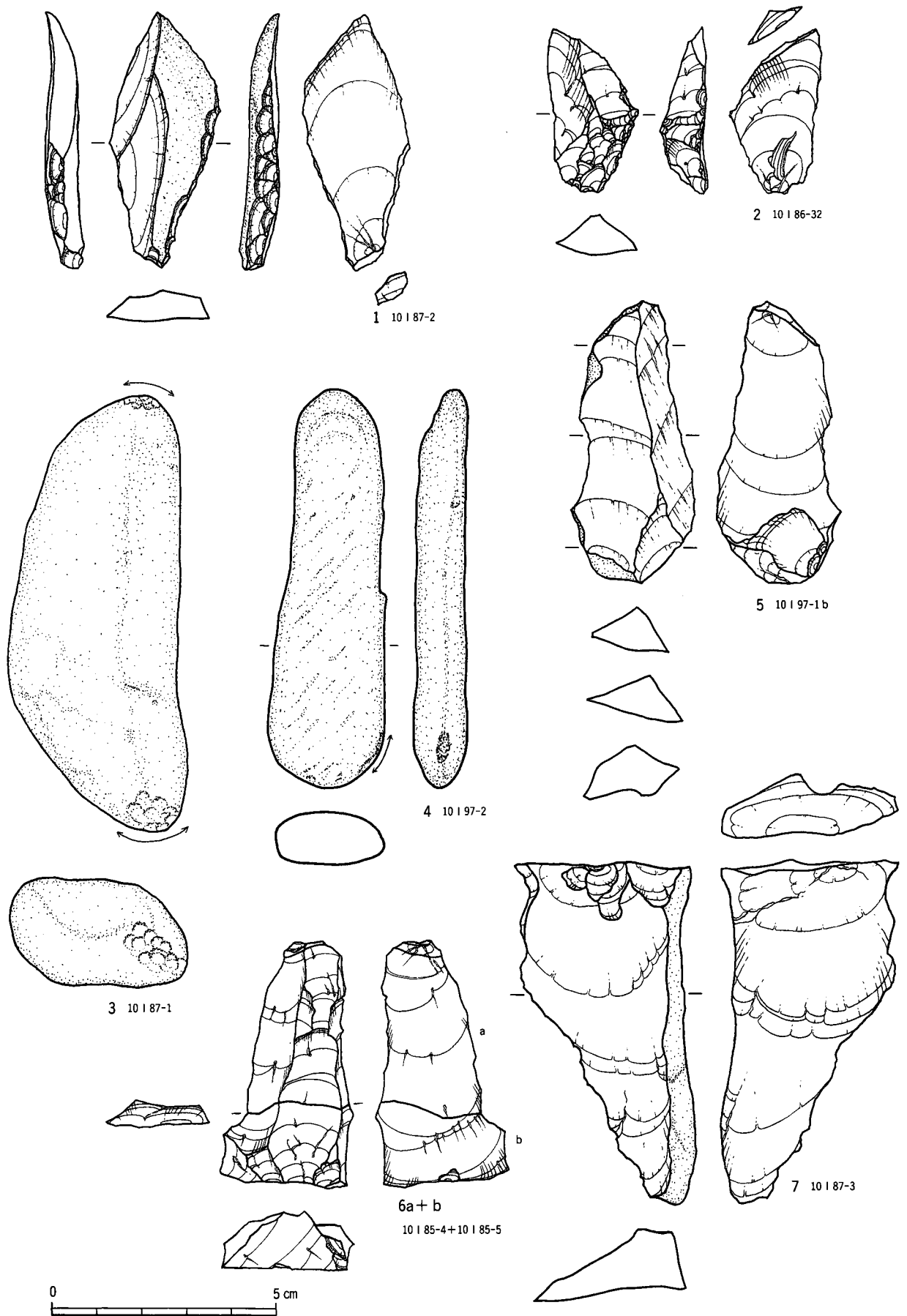
第45図 第10ブロック器種別分布



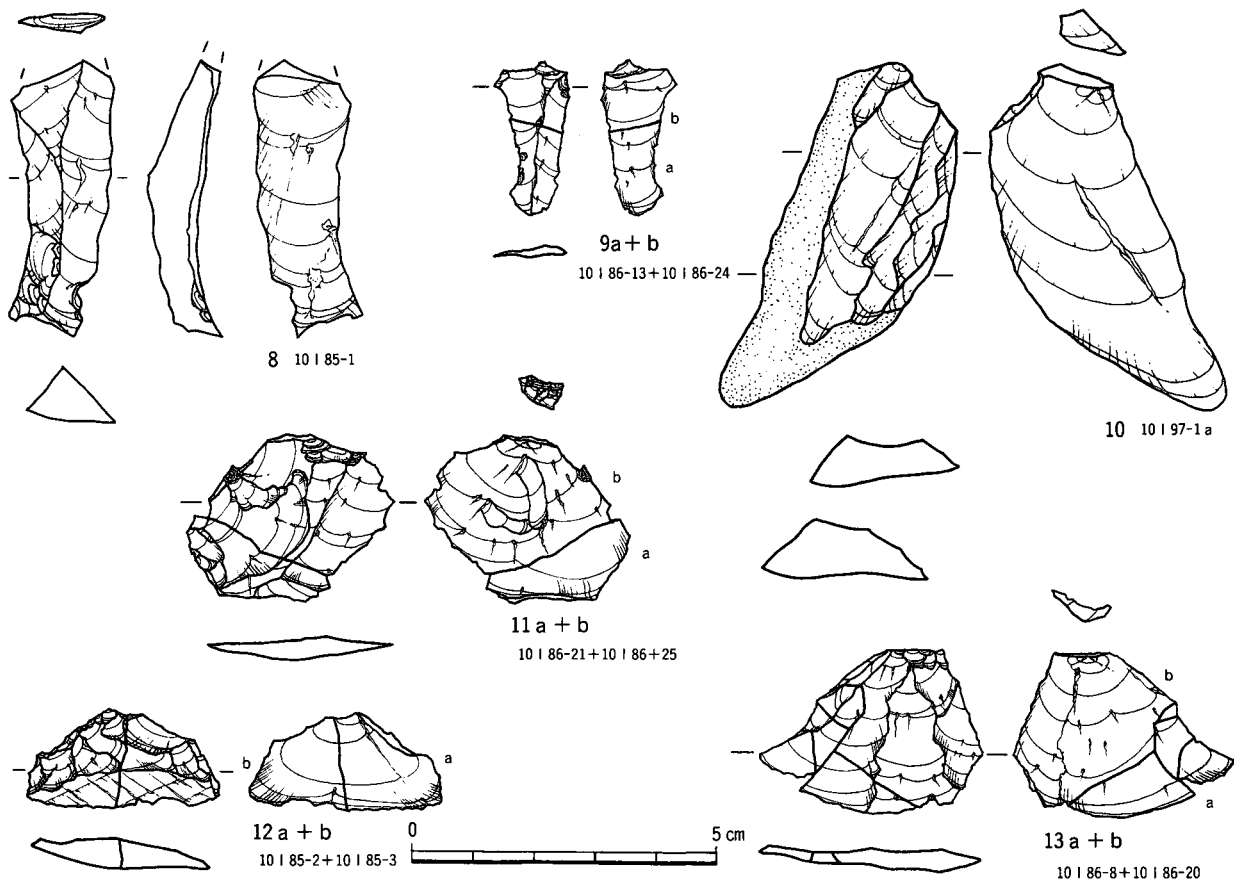
第46図 第10ブロック母岩別分布

ダクションとも考えられるが、判然としないためR剥片とした。

**剥片** 6～13は剥片である。6～10が縦長剥片、11～13が横長剥片である。6 a・6 b・8・11～14は黒曜石1 bを母岩とする。6は背面は上下からの剝離面が観察され下端に底面を持つ。7は黒色頁岩1を母岩とするもので、打面が幅広で末端が細くなる形状の大形剥片である。8は稜上の末端部に先行する調整が見られる。10は黒色頁岩2を母岩とする。平坦打面で、背面構成から石核の角から縦長剥片が連続的に削出されていることが観察される。いずれも末端部が扇状に広がる形状を呈している。11は打面調整が顕著である。12は点状打面、13は平坦打面である。器厚が薄く、いずれも欠損して検出されたものが接合している。14 a～eは剥片の接合資料である。上面の平坦面を打面として、14 aが削出され、14 b背面から14 e左側面の剝離作業が数回行われ、次に14 b, 14 c・dの縦長剥片が連続して削出されている。さらに、打面を14 e左側面に転移して、14 eを削出している。背面に原礫面を残置するものが多く、比較的、剥片剝離工程初期段階の資料である。



第47図 第10ブロック出土石器 1



第48図 第10ブロック出土石器 2

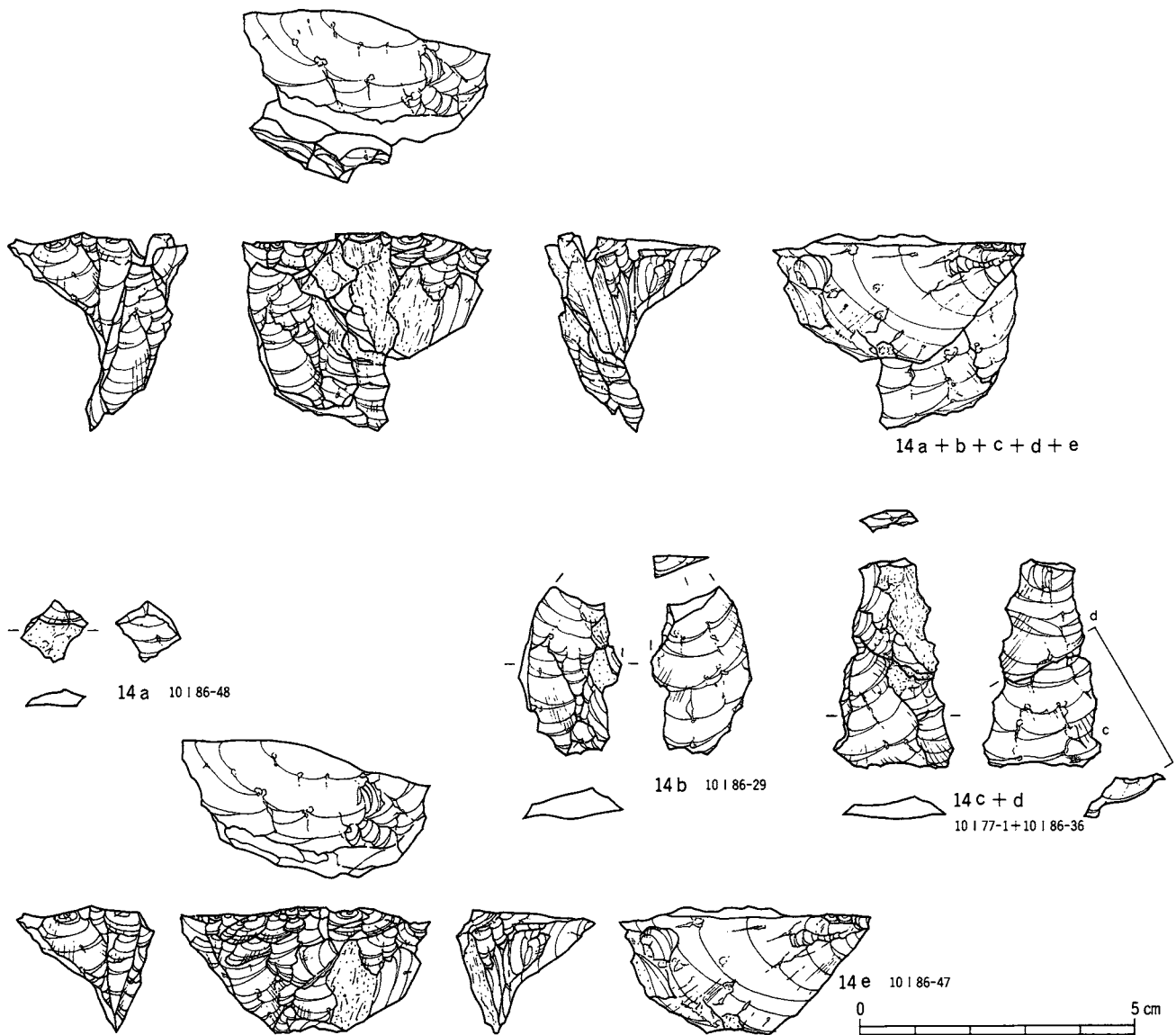
#### 第4節 第II b文化層

第II b文化層に属するブロックは、第16ブロックの1か所のブロックである。このブロックは単独で検出され、調査区中央南側の台地背部分に分布している。特徴的な器種としてナイフ形石器が少数検出されているが、それらは製品の形で持ち込まれているものが大部分である。ブロック群の形成を特徴づけているのは、黑色頁岩、珪質頁岩の各種石材を用いた集中的な石材消費による縦長剥片・横長剥片の生産である。第II a文化層と出土層位は同じであるが、出土地点の違い、石材消費の様相の違いから亜文化層を設定した。

##### 1 第16ブロック (第50～68図, 表21・22, 図版5・14～17)

**分布状況** 調査区中央南側で調査されたブロックである。単独で構成されるブロックである。現況では、立川ローム層の堆積はほぼ水平に堆積する。

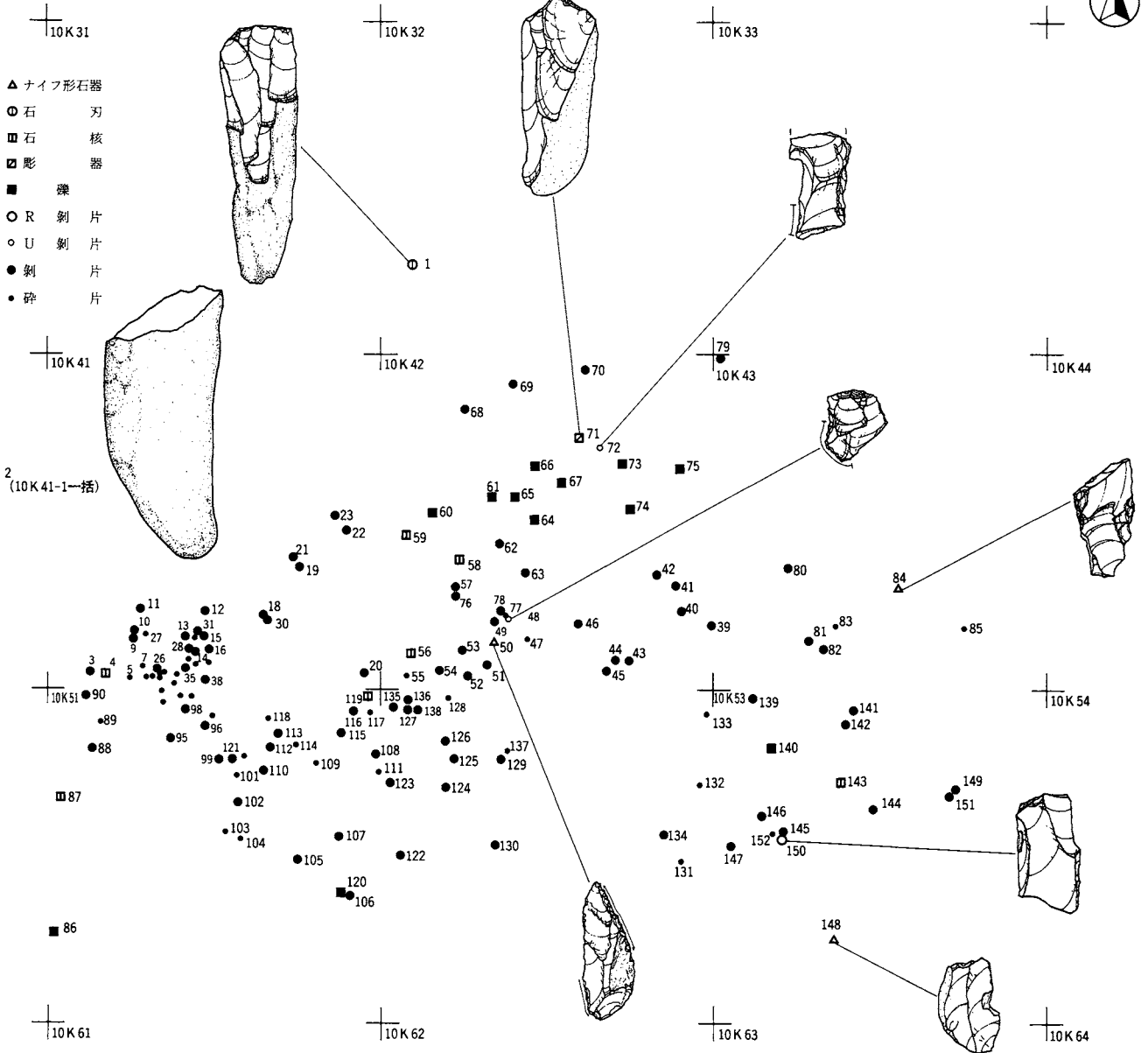
遺物総数は152点であり、大規模なブロックである。その分布は広い範囲に散在する。ブロックの西側中心部と南東側に空白部がある。西側ではその周りにやや密集する部分があり、放射状に分布密度が希薄になる。南東側の空白部の周りは密集部がなく北半に散在して分布する状況である。10K32・41・42・43区から10K51・52・53区にかけて東-西方向に長く北側に膨らむ楕円形状に分布する。分布範囲は南北8.0m、東西10.9mを測る。垂直分布ではおよそ0.6mの高低差がある。土層断面への投影では、X層上面からVII層



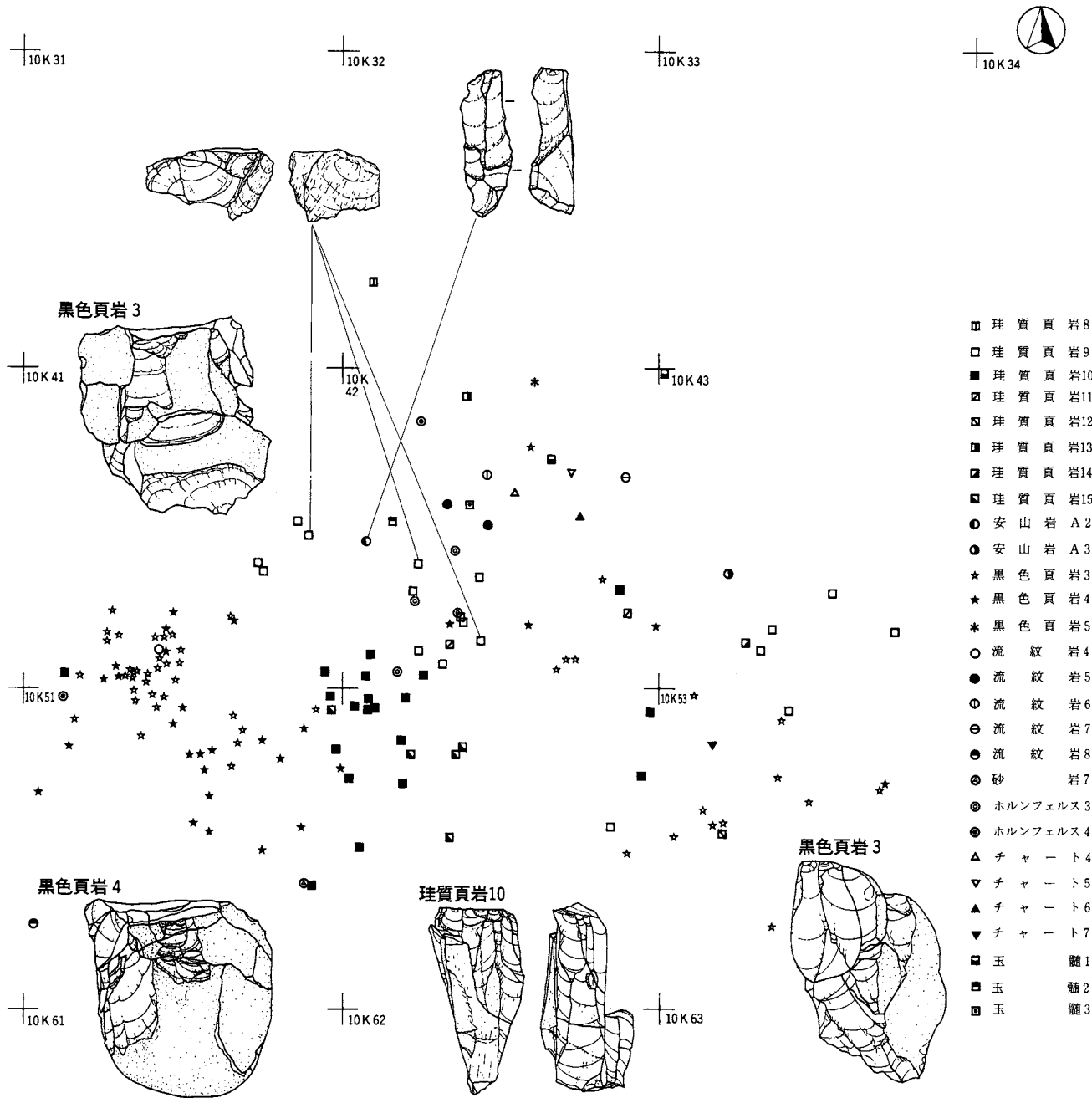
第49図 第10ブロック出土石器 3

にかけて分布し、IX c層とIX a層の境界付近に遺物が集中しており、産出層位はIX c層上面～IX a層下部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 29母岩が認められ、内訳は黒色頁岩3母岩79点、珪質頁岩8母岩49点、流紋岩5母岩6点、チャート4母岩4点、ホルンフェルス2母岩6点、砂岩2母岩2点である。点数の多い母岩を挙げると、黒色頁岩3が51点、黒色頁岩4が27点、珪質頁岩9が18点、珪質頁岩10が20点、珪質頁岩15が5点、ホルンフェルス3が4点であり、これらの母岩で母岩構成の主体を占めている。その他の母岩は単独或いはごく少数の母岩となっている。母岩の分布を見ると、黒色頁岩3、黒色頁岩4は分布範囲の西側に、珪質頁岩9は北側から東側に、珪質頁岩10は中心部にそれぞれまとまって分布している。母岩と器種の関係では、珪質頁岩9、珪質頁岩11でナイフ形石器が、珪質頁岩10で石刃が、黒色頁岩3で彫器が生産されている。当ブロックの主要な母岩の黒色頁岩3、黒色頁岩4からは、彫器以外は碎片・剥片が主体的に生産されている。黒色頁岩3、黒色頁岩4、珪質頁岩10などの接合資料が存在し、素材を復元する好資料となっている。



第50図 第16ブロック器種別分布



第51図 第16ブロック母岩別分布

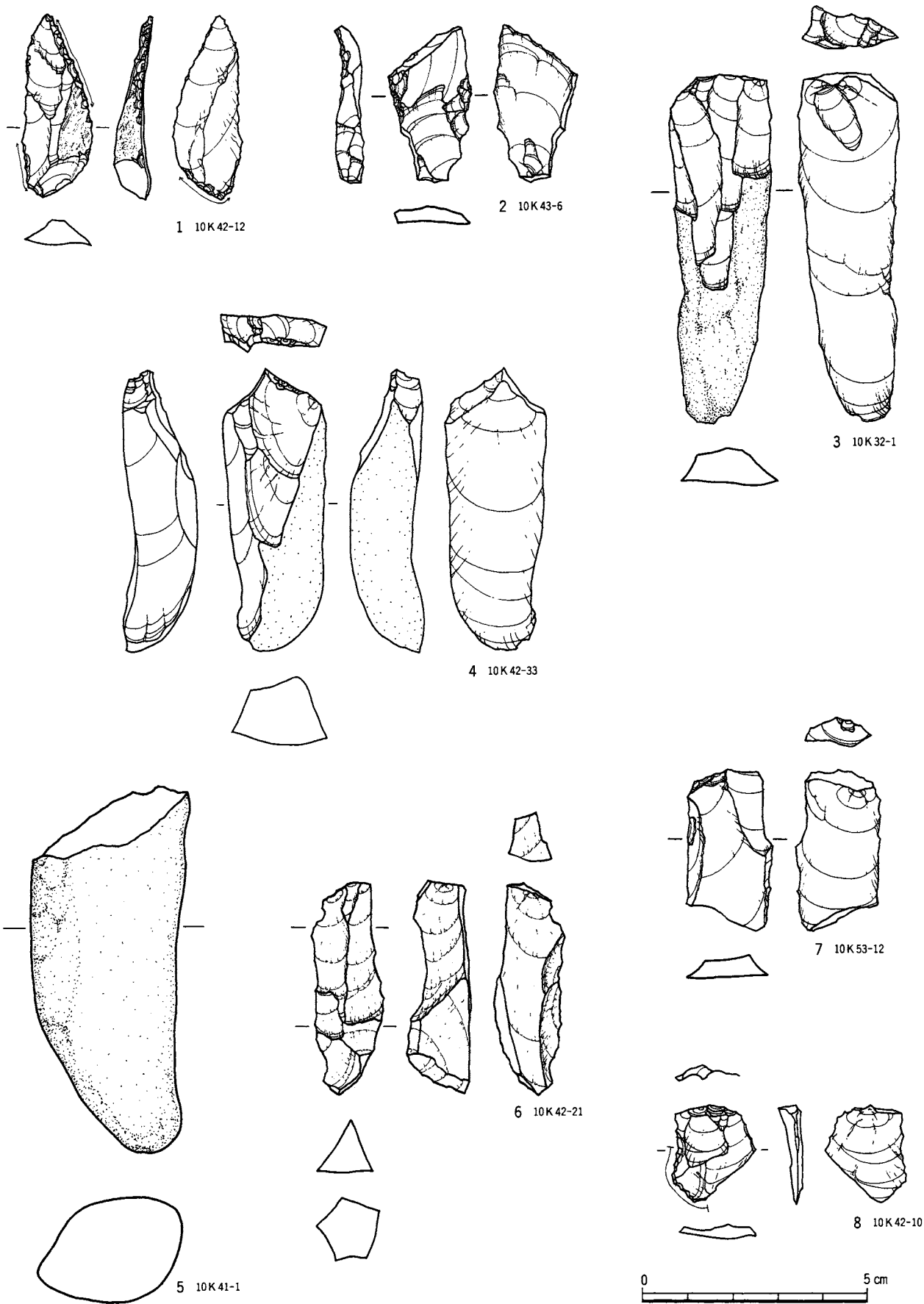
る。

**出土遺物** 大規模なブロックであるが、主要な利器は、ナイフ形石器 3 点、石刃 1 点、彫器 1 点、敲石 1 点である。他は R 剥片が 1 点検出されるのみであり、単純な器種構成となっている。

**ナイフ形石器** 1・2・27b はナイフ形石器である。1 は珪質頁岩 11 を母岩としている。素材の打面部を端部に用い、素材を斜めに調整加工して器体を仕上げている。背面右側縁上半と左側縁下端から基部にかけて細かな調整加工が施されている。2 は素材の打面部を基部にして末端を刃部としている。左側縁下半を槌状剝離により細くし、両側縁上半は細かな平坦剝離により調整されている。

**石刃** 3 は珪質頁岩 8 を母岩とする中形石刃である。下半部に礫面が残置する。打面は調整打面となり、





第52図 第16ブロック出土石器 1

背面に5条ほどの連続的な剥離面を持つ。

**彫器** 4は黒色頁岩3を母岩とする彫器である。器厚のある縦長剥片の打面部から両側縁を斜めに切り取るように槌状剥離が観察される。背面右側の剥離には剥離面方向から背面に向かって使用痕と思われる微細剥離痕が看取される。

**敲石** 5は砂岩6による敲石である。器体上半を欠損する棒状の先端に敲打痕が見られる。

**石核** 6は石核とした。角柱状の石刃状剥片を素材として、素材の打面部を打面にして、素材の主要剥離面を斜めに切り取るように縦長剥片を削出している。剥片剥離の手法はリダクション・システムと同様である。

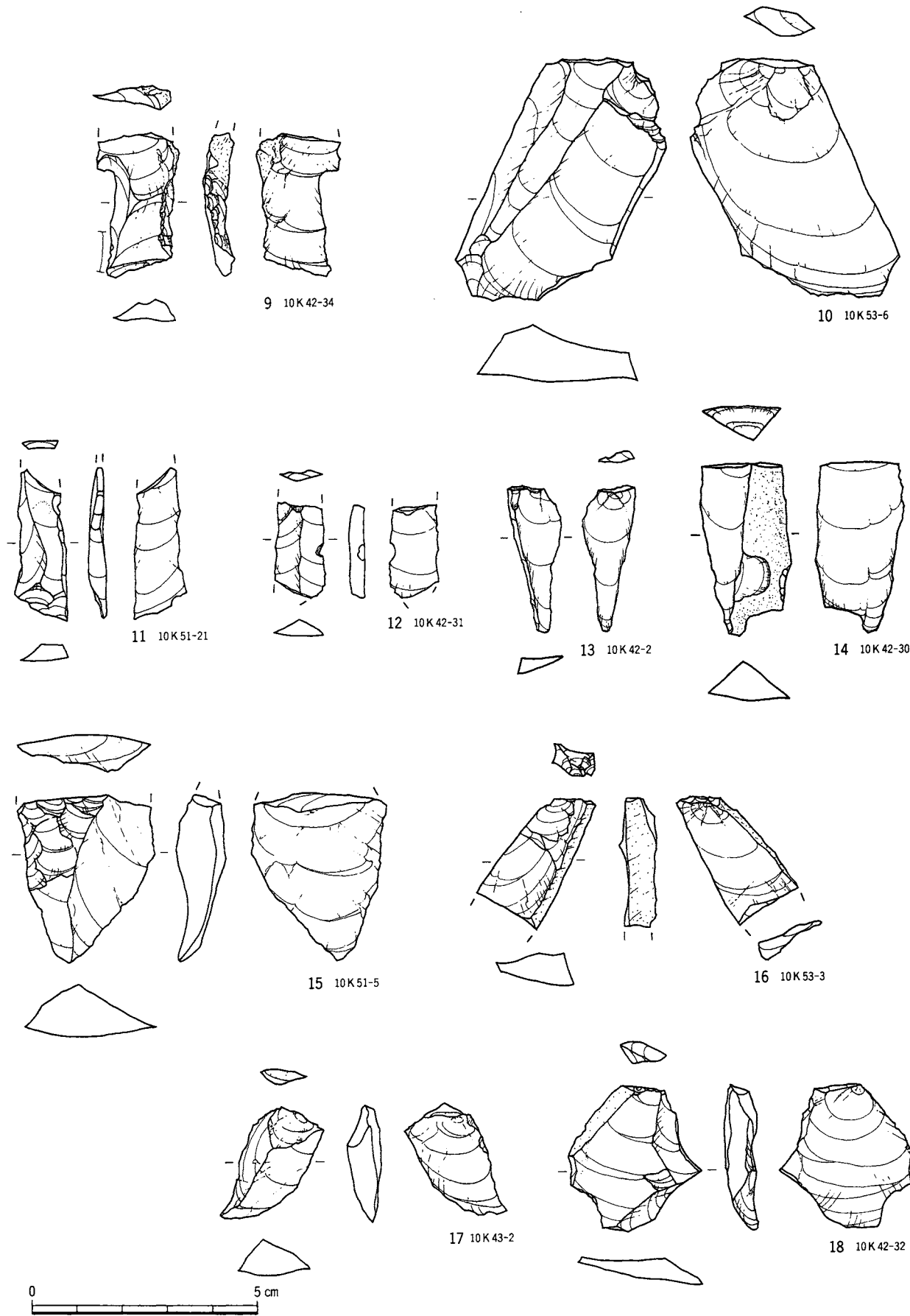
**R剥片** 7は珪質頁岩12を母岩とするR剥片である。背面右側縁端部に細部加工が認められる。

**U剥片** 8・9はU剥片である。8は珪質頁岩9を母岩とする。背面左側縁に連続した刃こぼれ状の微細剥離痕が見られる。9は玉髓1を母岩とする。左下端部に刃こぼれ状の微細剥離痕が疎らに認められる。

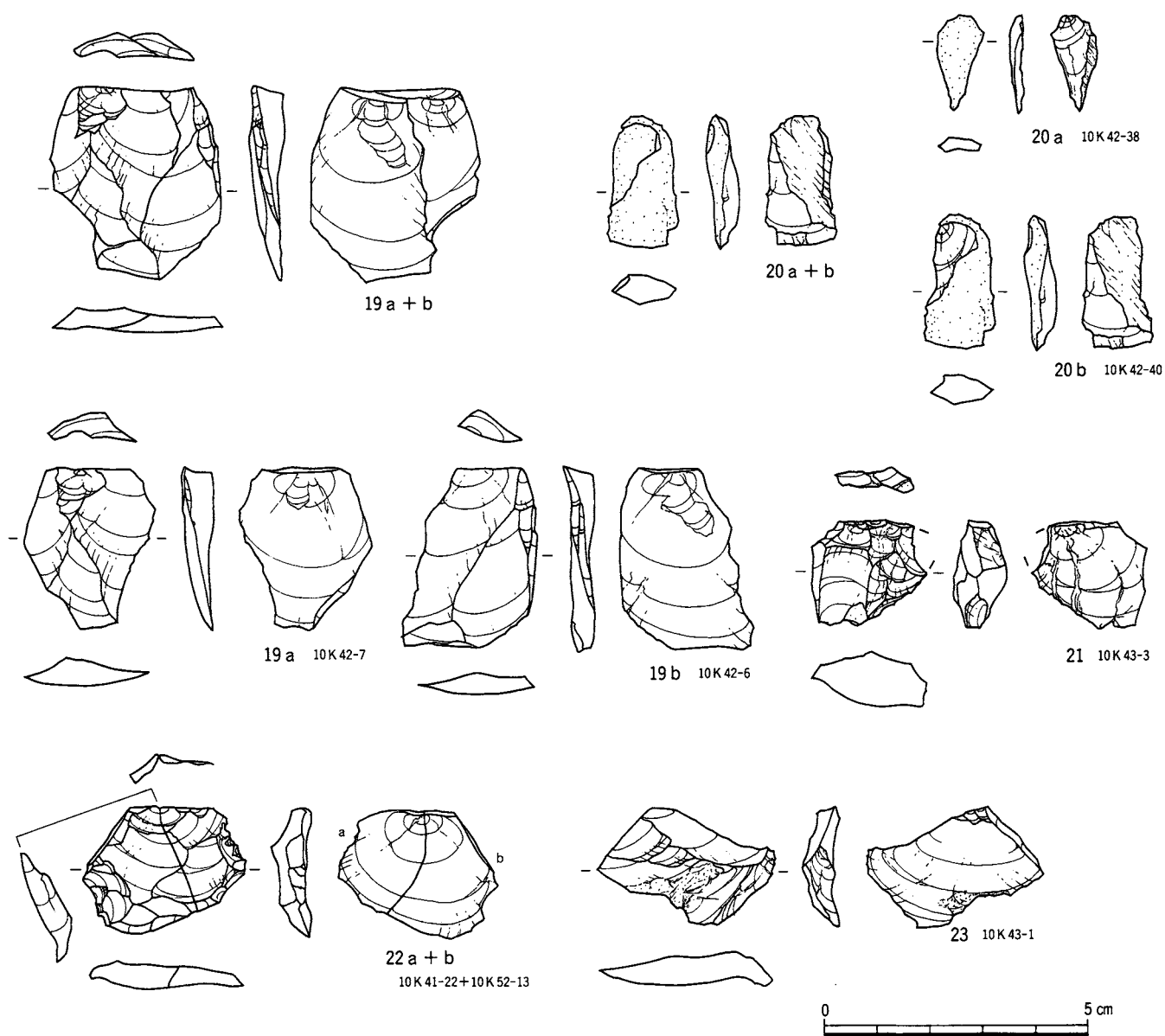
**剥片** 10～23は剥片である。10～20が縦長剥片、10は黒色頁岩3を母岩とするもので、平坦打面から剥離された石刃に近いものである。11～14も小型の石刃に近い形状を呈する。15はホルンフェルス4を母岩とする末端部が尖る形状である。16は珪質頁岩9を母岩とするもので、右側面は節理状の平坦な自然面である。17は安山岩A3を母岩とするものである。18は単独母岩の黒色頁岩5を母岩とするものである。漆黒の珪化度の強いものである。19a・bは黒色頁岩3を母岩とする接合資料である。平坦な打面から打点を横に移動してやや幅広の剥片が剥離されている。20a・bはホルンフェルス3を母岩とする接合資料で、小礫状の素材から剥片剥離している。21は珪質頁岩14を母岩とする。石英脈が入り、黄褐色から茶褐色に風化する色調の珪質頁岩である。22は珪質頁岩9を母岩とする。背面は四方からの剥離面で構成される。23は玉髓1を母岩とする。点状打面で扇状の形状を呈する。

**接合資料** 24a～hは石核と剥片の接合資料である。珪質頁岩10を母岩としている。珪質頁岩10は原礫面が茶褐色に風化し、内面が深青の地色に乳青白色が縞状に入る石材である。原礫面は節理状に平坦な面である。まず、右側面で剥離が進行し、上端の打面に先行する面からは24aが、下端の打面からは24b・cが剥離される。その後、上端の打面に先行する面から24dが剥離される。次に上端の打面は4回ほどの平坦な調整により打面を更新し、その面を打面として正面から右側面で2回の剥片剥離がある。その後、正面を作業面として24eが削出される。24eは石核の下端打面を切り取るように裏面に突き抜けて剥片剥離されている。次に正面を作業面として3回ほどの剥離があり、その後24fが削出される。さらに、正面と右側面の角を作業面として24gが剥片剥離されて、24hが残核となっている。24hは左側面から正面、右側面に細長い剥離面をもち、下端部が楔状に尖る形態の石核となっている。上下に打面を転移し、打面を更新しながら打点を左右に移動させ、石刃状剥片を連続的に剥片剥離していることが想定される資料である。

25a～xは石核と剥片の接合資料である。黒色頁岩4を母岩としている。母岩は漆黒から青灰色を呈する亜角礫の黒色頁岩である。まず上面を作業面として左側面から25bが、正面を作業面として上面から25aが剥離される。その後、25bの剥がされた面を打面として25cが、25cの剥がされた面を打面として25dが削出される。さらに、上面を打面として裏面側を作業面として25e・fが剥離される。次に上面を作業面として左側面から25g・h・iが削出される。さらに左側面を打面として25jが剥離される。その後左側面を打面として25n、25o・pが剥がされる。次に、左側面で上面を打面として25k、25l、25mが



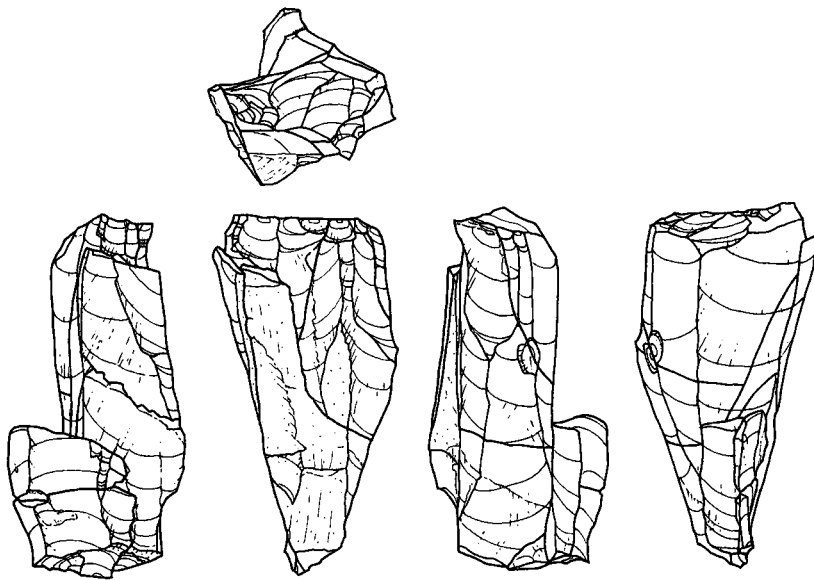
第53図 第16ブロック出土石器 2



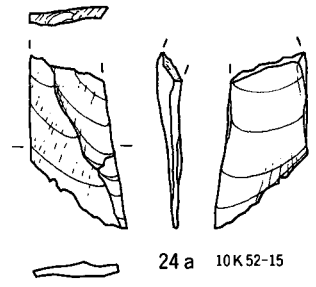
第54図 第16ブロック出土石器 3

連続して剥離されている。その後、左側面を作業面として裏面から横方向に25 q, 25 r が剥離される。次に左側面を作業面として上面から25 s が削出される。さらに左側面の25 s の剥離面を打面として、裏面に向かって25 v, 25 u が連続して剥離される。その後、25 u の剥離面を打面として左側面で25 t が剥離されている。25 x は残核で、上面、左側面、右側面、裏面を作業面として、数回単位の剥離で打面を転移させながら剥片剥離作業が進行していることが理解される。

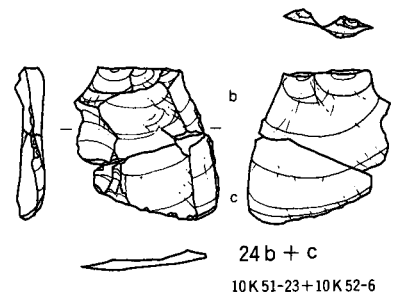
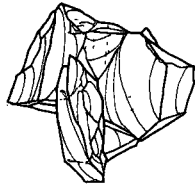
26 a ~ c は石核と剥片の接合資料である。珪質頁岩 9 を母岩とする。まず左側面を作業面として上面から26 a が削出される。次に左側面から26 b が剥離されている。26 c は残核で、上面から側面に自然面を残す剥片素材の石核となっている。



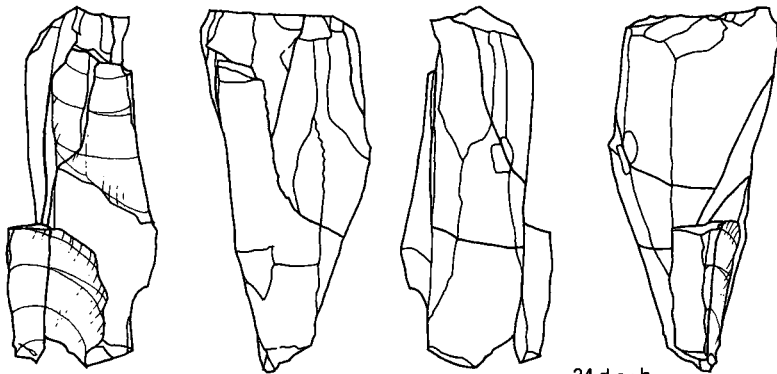
24 a ~ h



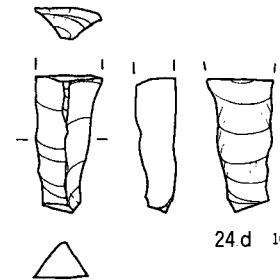
24 a 10K52-15



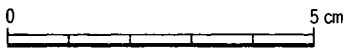
24 b + c  
10K51-23+10K52-6



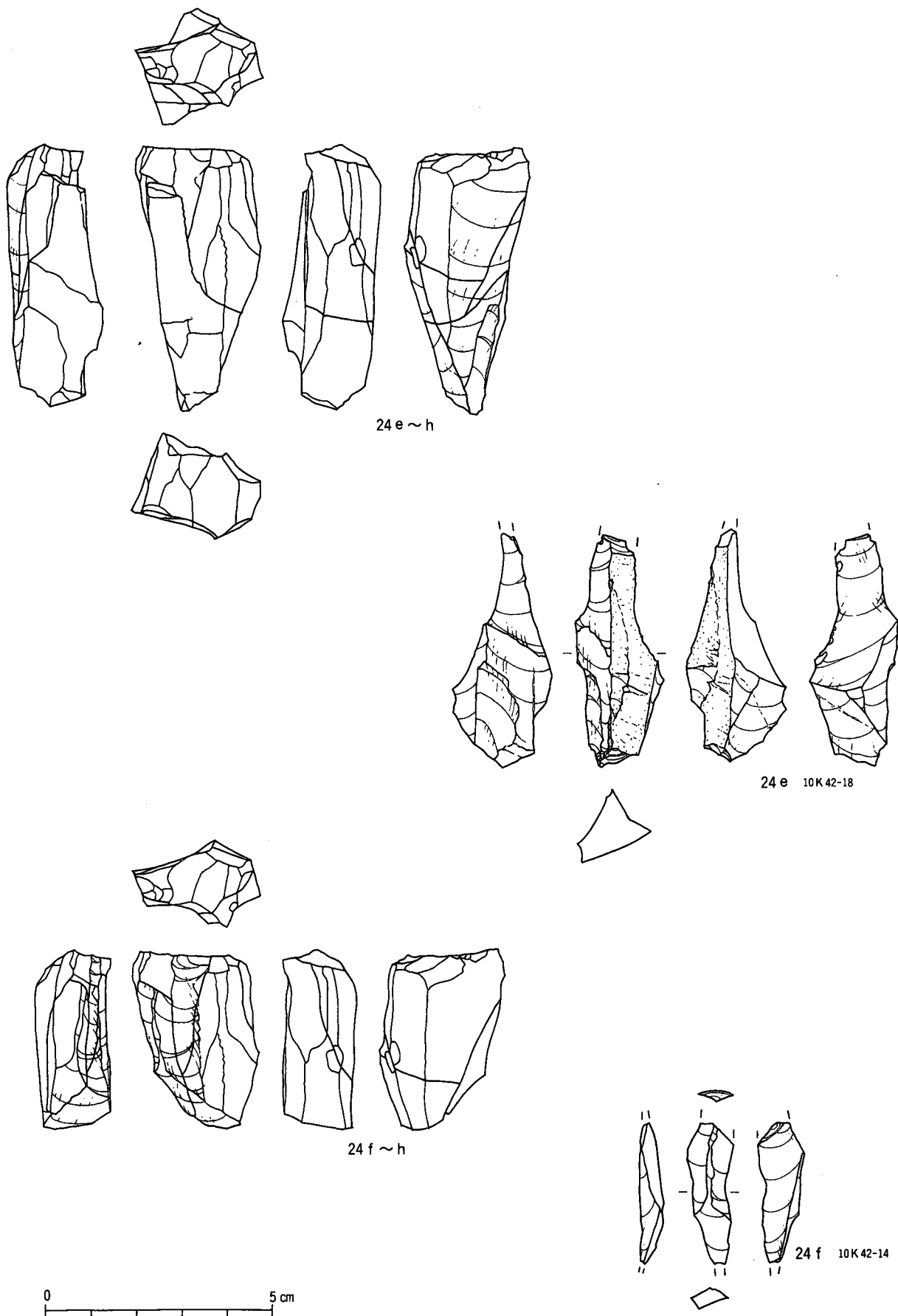
24 d ~ h



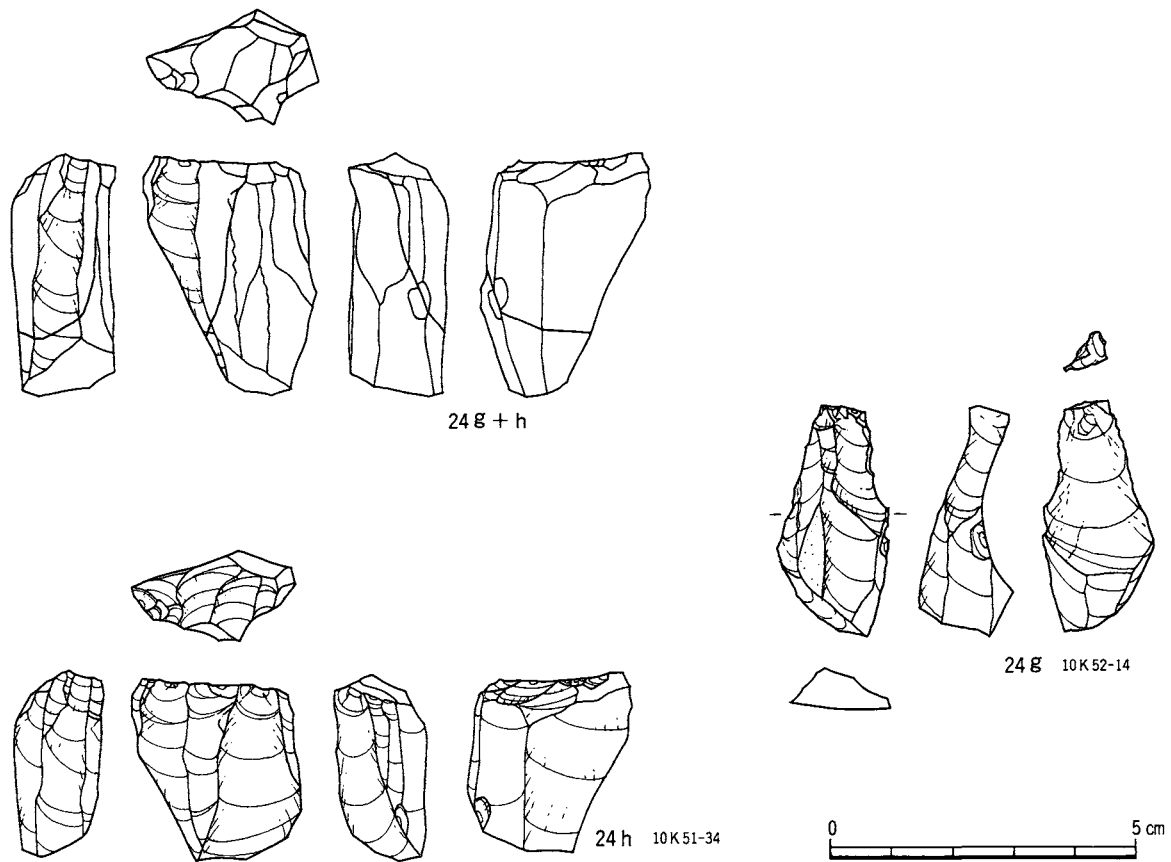
24 d 10K52-11



第55図 第16ブロック出土石器 4



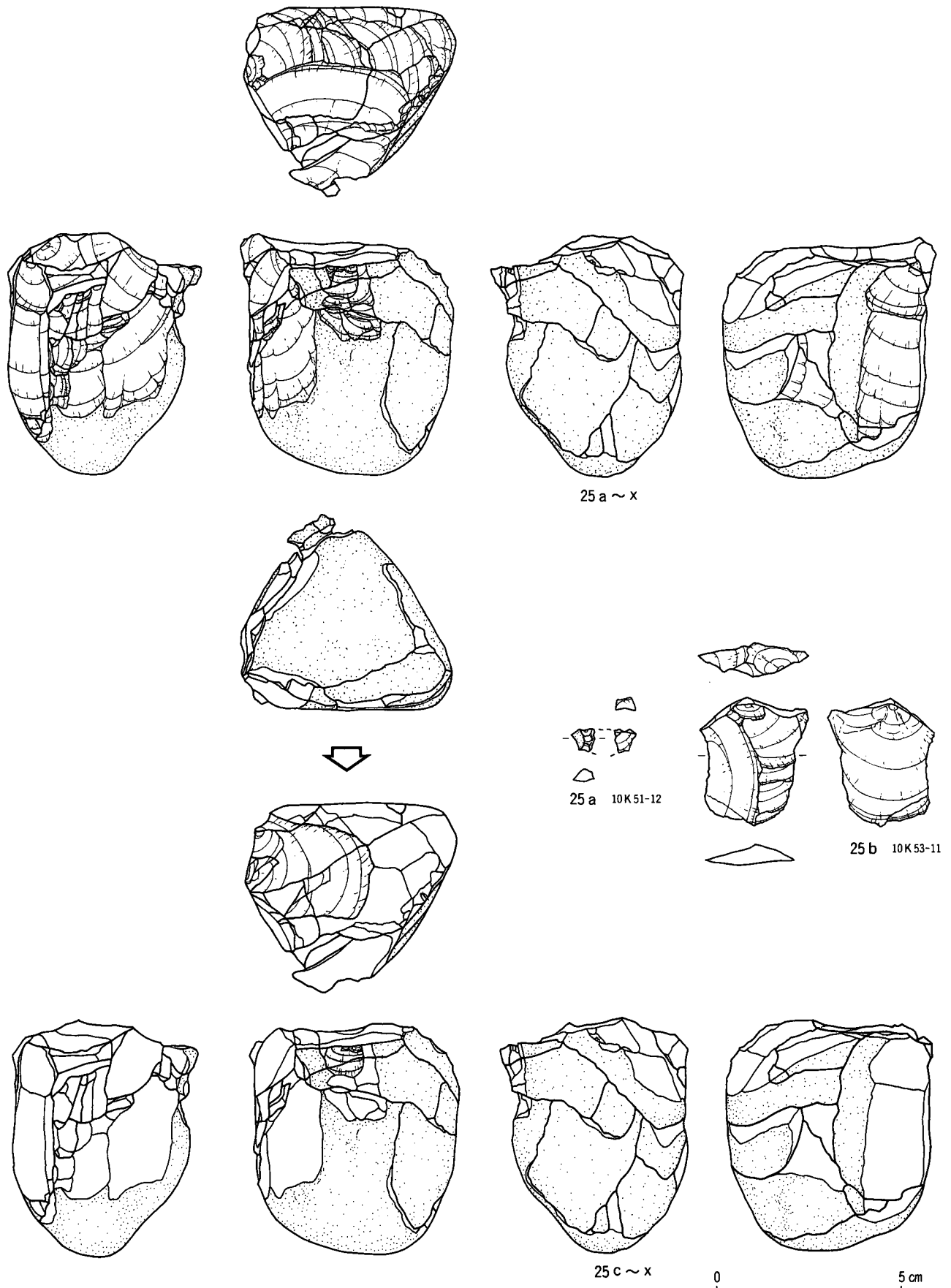
第56図 第16ブロック出土石器 5



第57図 第16ブロック出土石器6

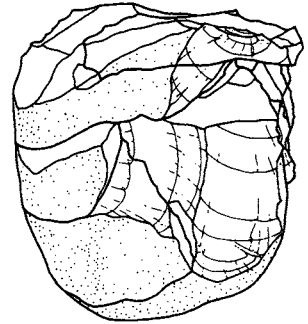
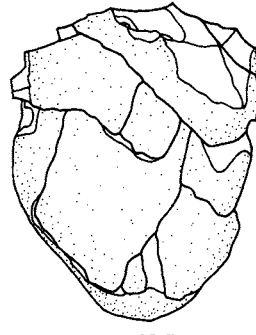
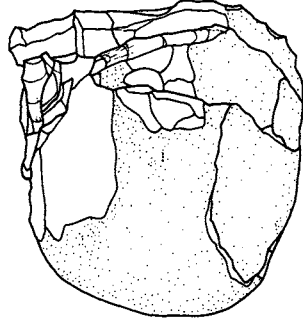
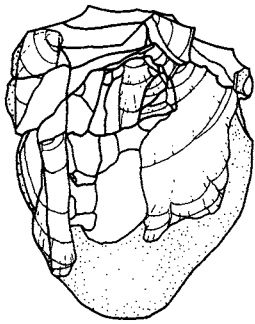
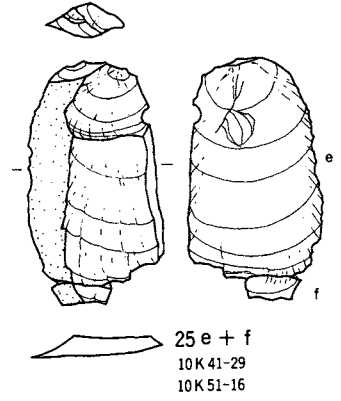
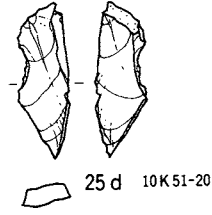
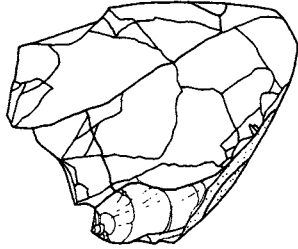
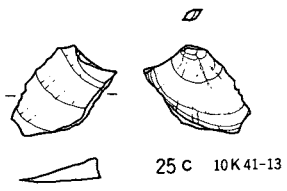
27a～dは剥片とナイフ形石器の接合資料である。黒色頁岩3を母岩としている。母岩は表面が風化し灰褐色を呈し、大形の楕円礫と思われる。まず27aが上面から剥離される。次に、やや右に打点を移動して27bが剥離され、さらに27bの突き抜けた面を打面として27cが削出されている。27bは上端部が細部調整されてナイフ形石器となっている。その後打面が更新され、27dの上面を打面として数回の剥離が行われた後、27dが剥離されている。剥片剥離作業は打面を更新しながら左から右に打面を移動して石刃状の縦長剥片が剥離されていると把握される。

28a～pは剥片と石核の接合資料である。黒色頁岩3を母岩とする。まず正面の原礫面を作業面として28a・b、28cが削出される。次に正面で28d・eが剥離される。さらに28d・eが抜けた面を打面として28fが削出される。その後、前後関係は不明であるが、28gと28hが上面を打面として剥離されている。次に打面を左側縁に移して、数回の剥離の後、28kが正面を作業面として横から削出され、その後28mが削出される。さらに、この正面の剥離面を打面として、右側縁を打点にして裏面で28nが剥離されている。この剥離と前後関係が不明であるが、上面を打面として右側面で28i、28jが剥離され、その後28lが剥離される。次に、裏面を打面として、上面を作業面として28oが剥離されている。さらに裏面を打面に正面に向かって幅広な剥離、右側縁を打面とする正面・裏面への剥離が行われて28p(29)が残核となる。29をみると上面の打面を基調として左側面、正面の剥離、左側縁を打面として打面を転移しながら正面と裏面への剥離が行われていることが想定される。

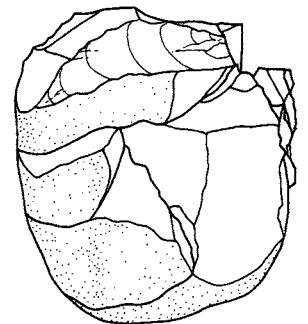
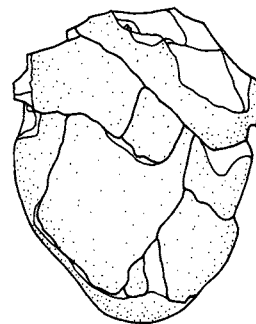
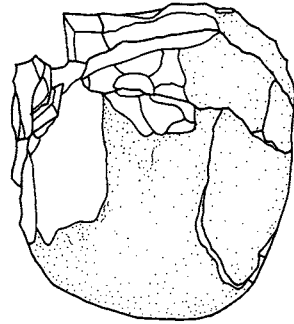
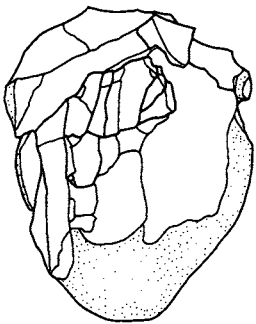
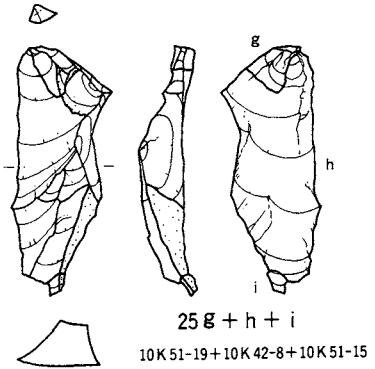
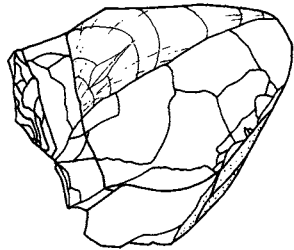


第58図 第16ブロック出土石器 7

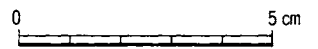




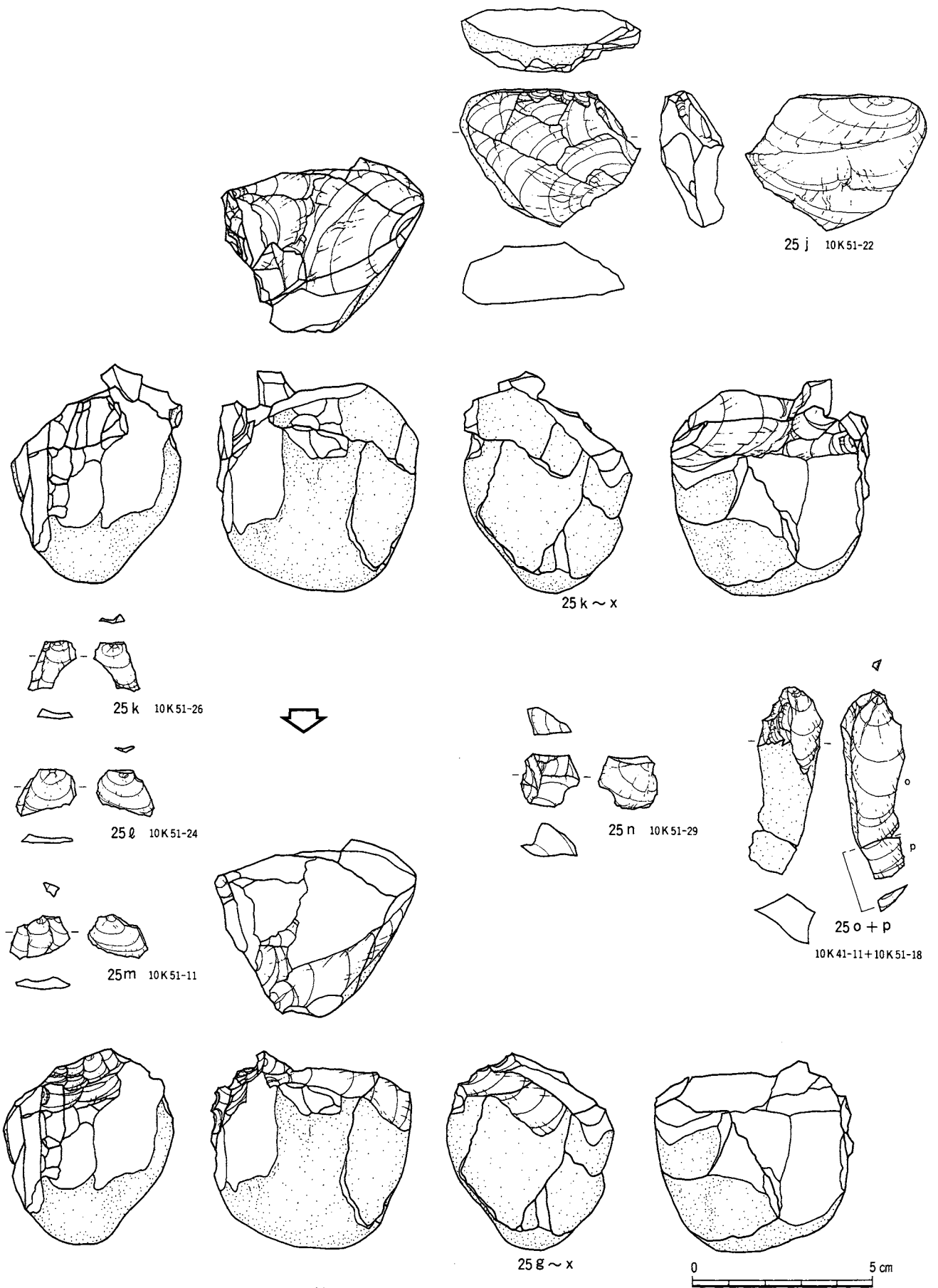
25 g ~ x



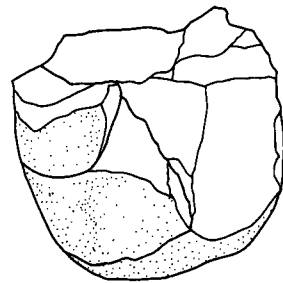
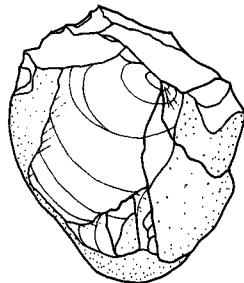
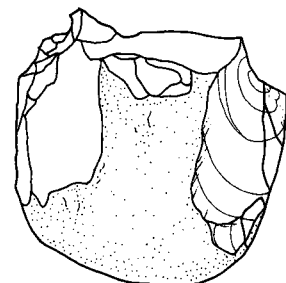
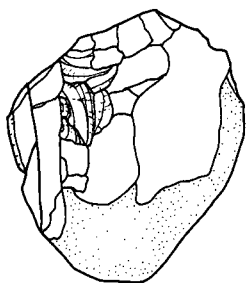
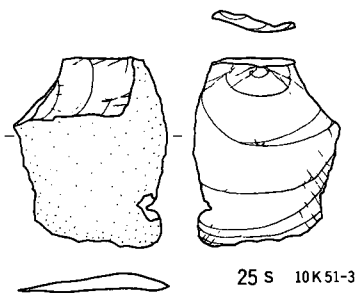
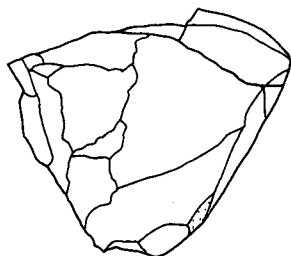
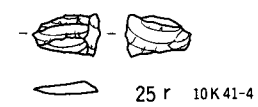
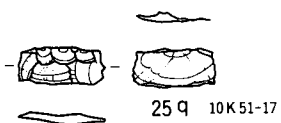
25 j ~ x



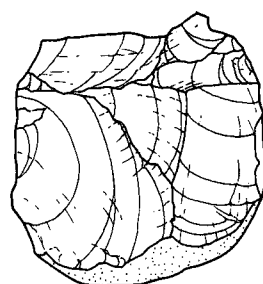
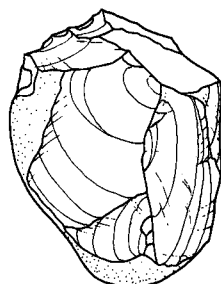
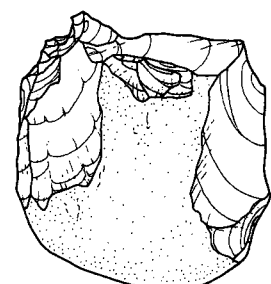
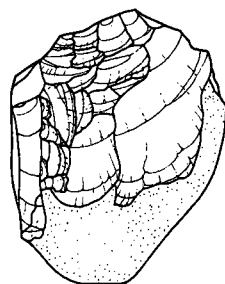
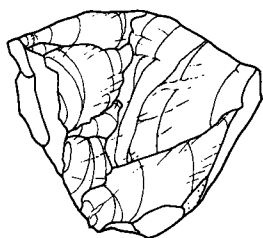
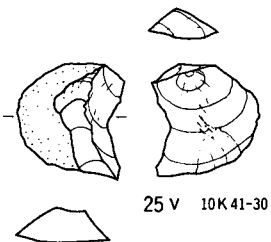
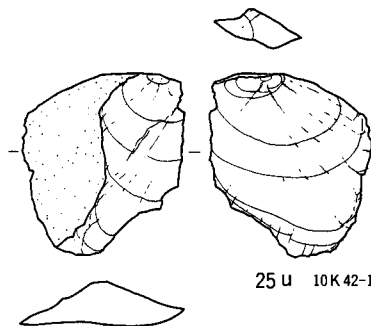
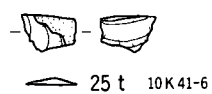
第59図 第16ブロック出土石器 8



第60図 第16ブロック出土石器 9



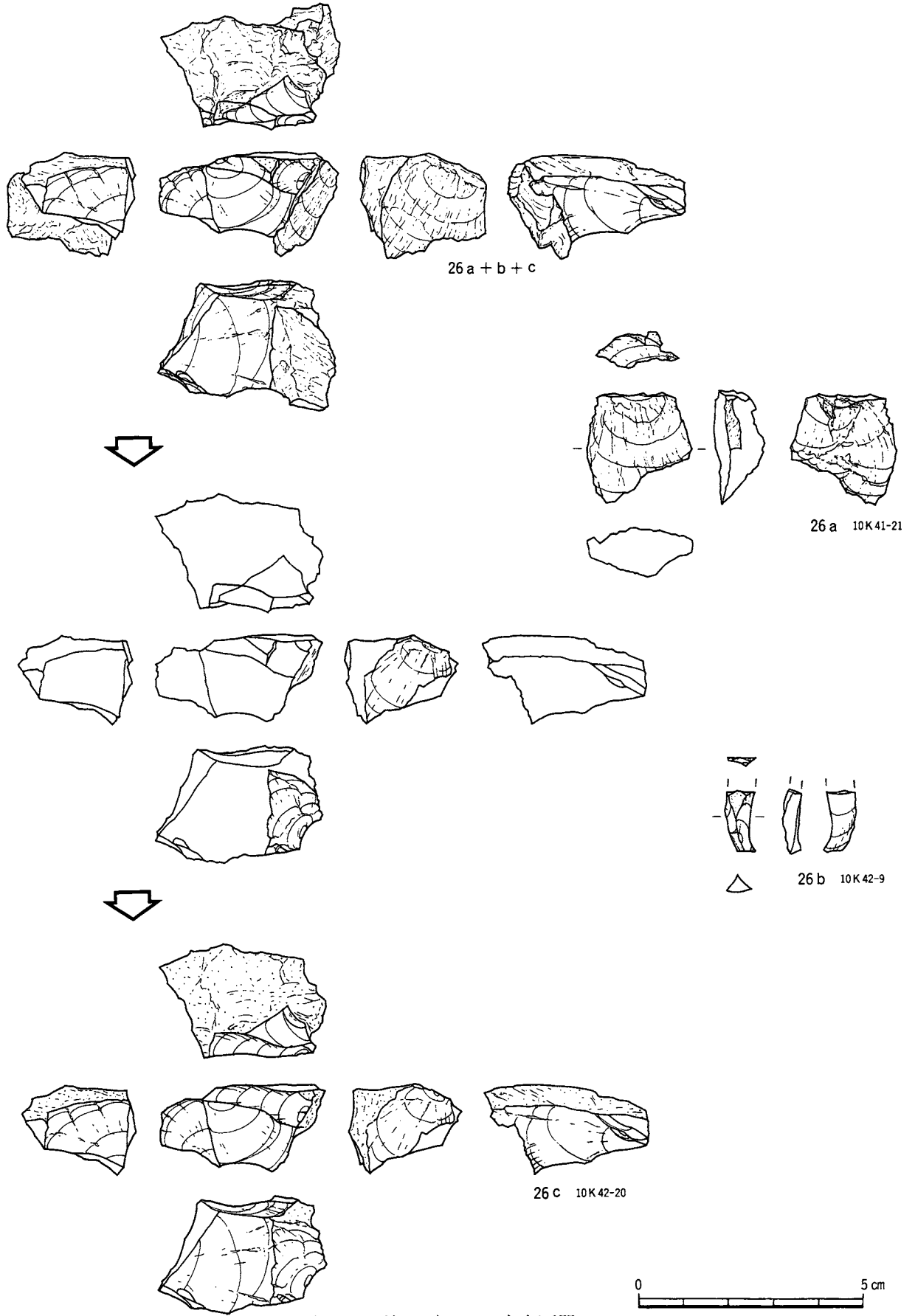
25 t ~ x



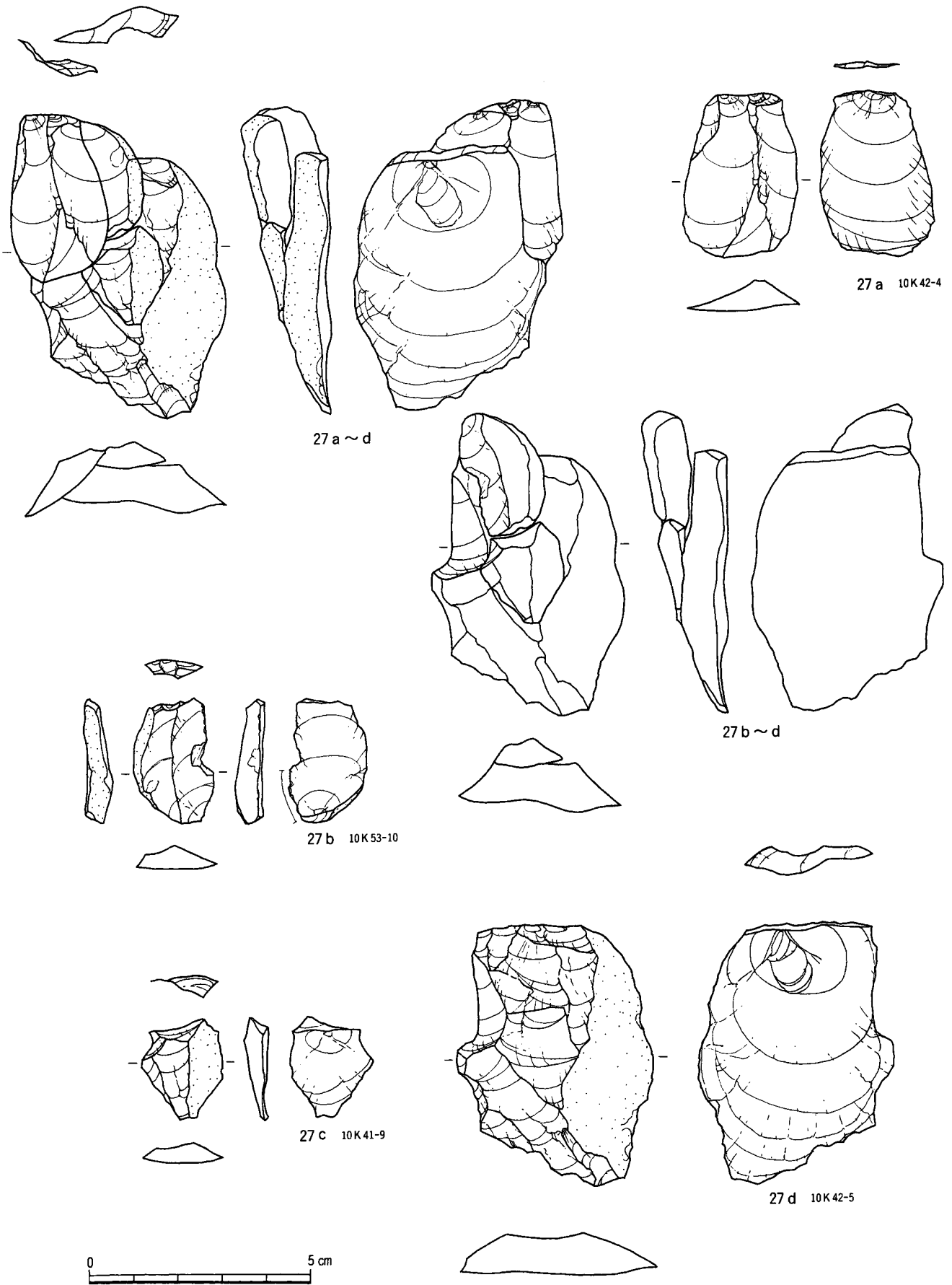
25 x 10K51-2



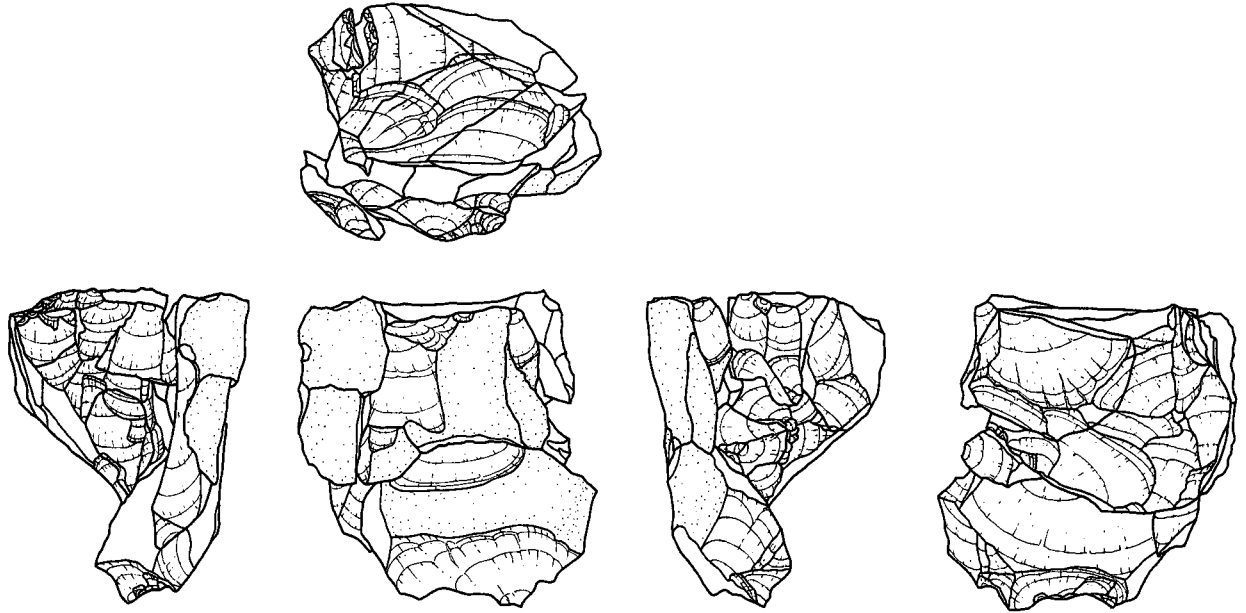
第61図 第16ブロック出土石器10



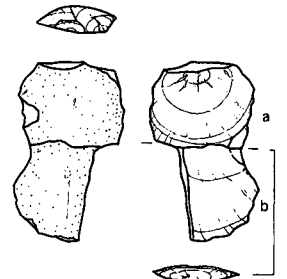
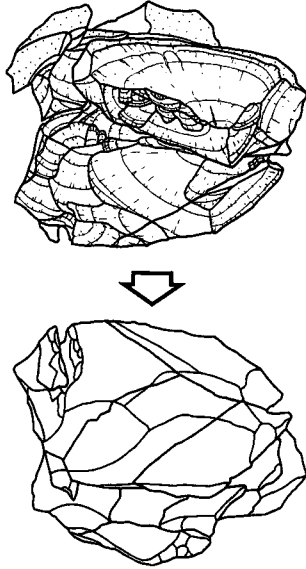
第62図 第16ブロック出土石器11



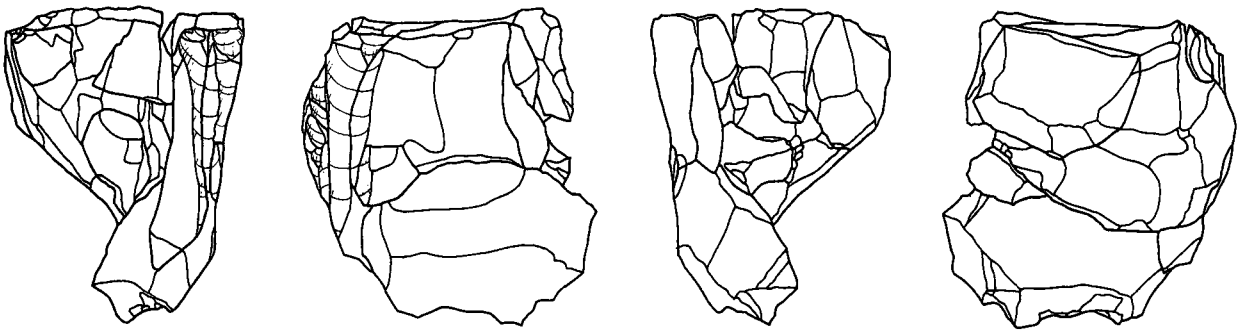
第63図 第16ブロック出土石器12



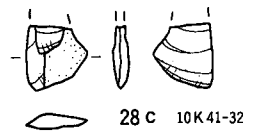
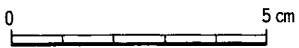
28 a ~ p



28 a + b  
10K 51-28+10K 51-30

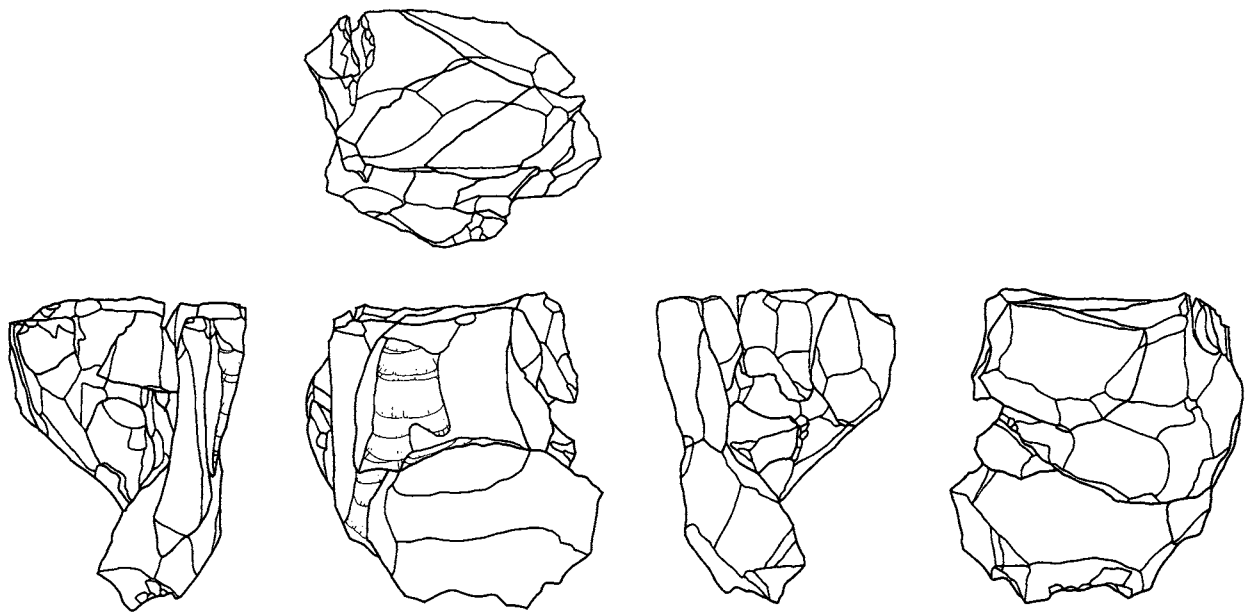


28 c ~ p

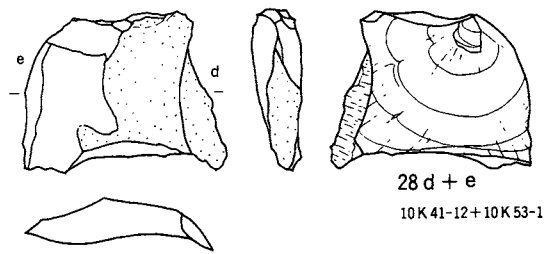


28 c 10K 41-32

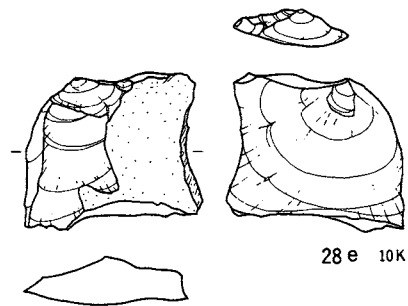
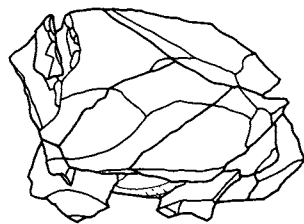
第64図 第16ブロック出土石器13



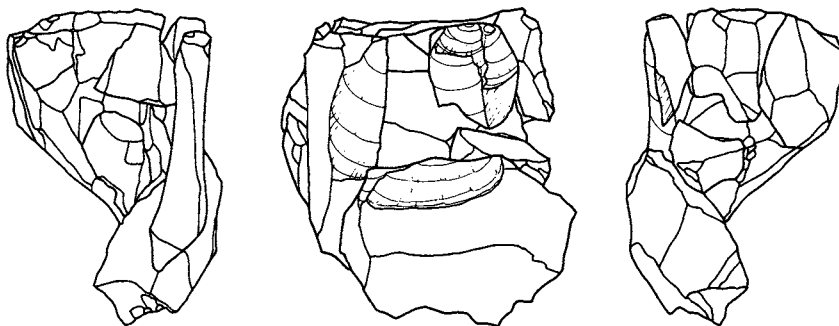
28 d ~ p



28 d + e  
10K 41-12+10K 53-1



28 e 10K 53-1

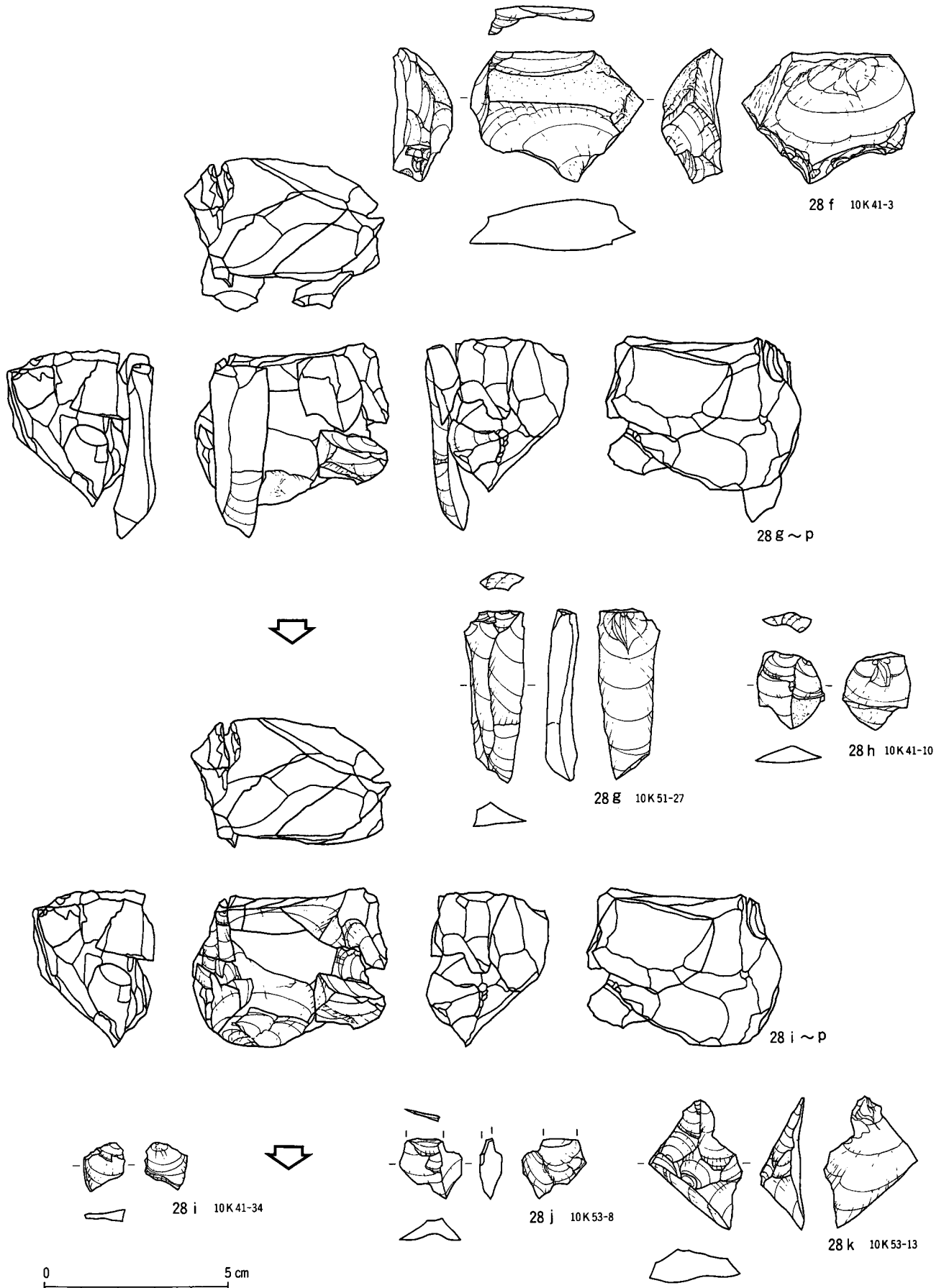


28 f ~ p



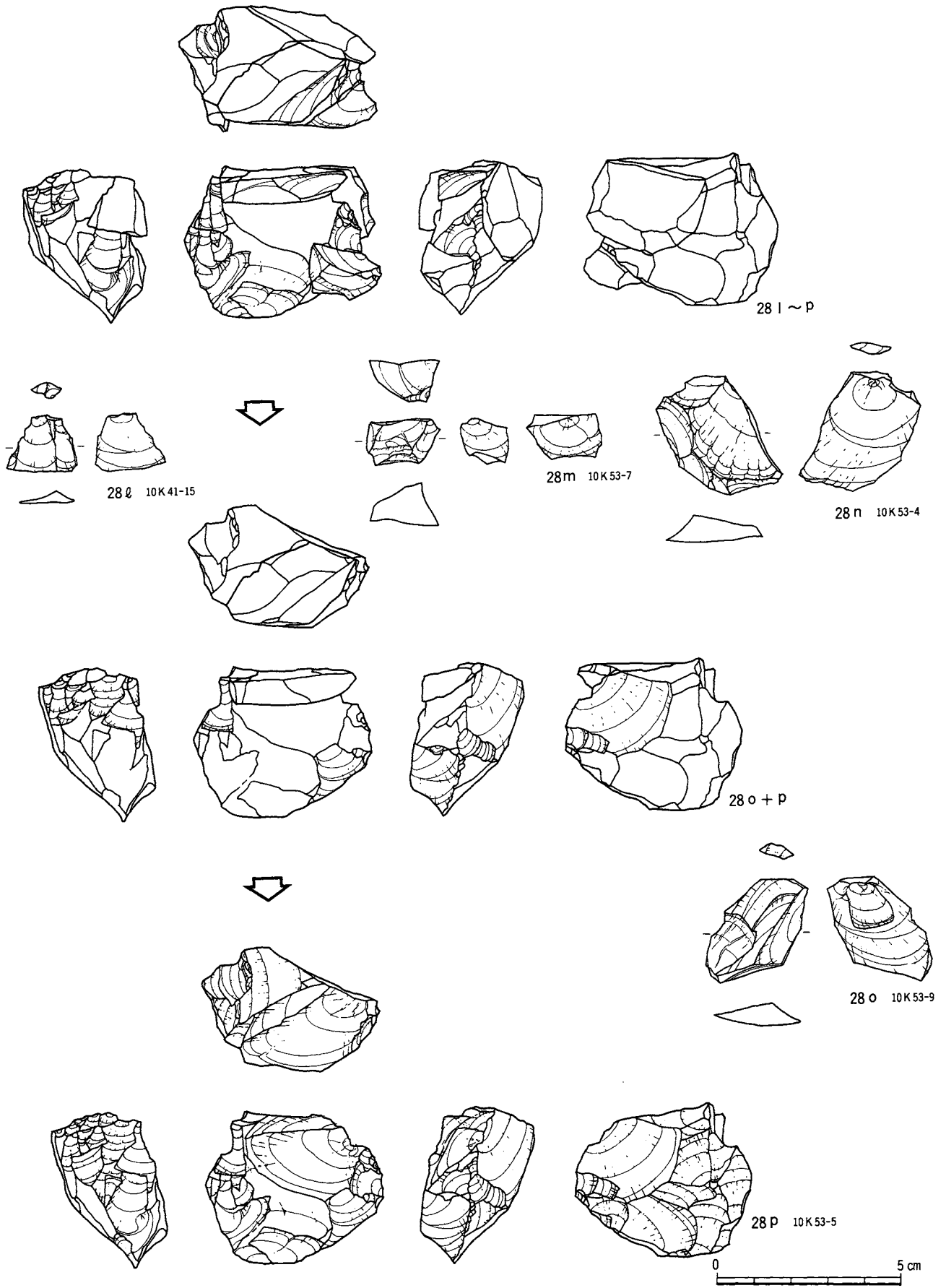
第65図 第16ブロック出土石器14



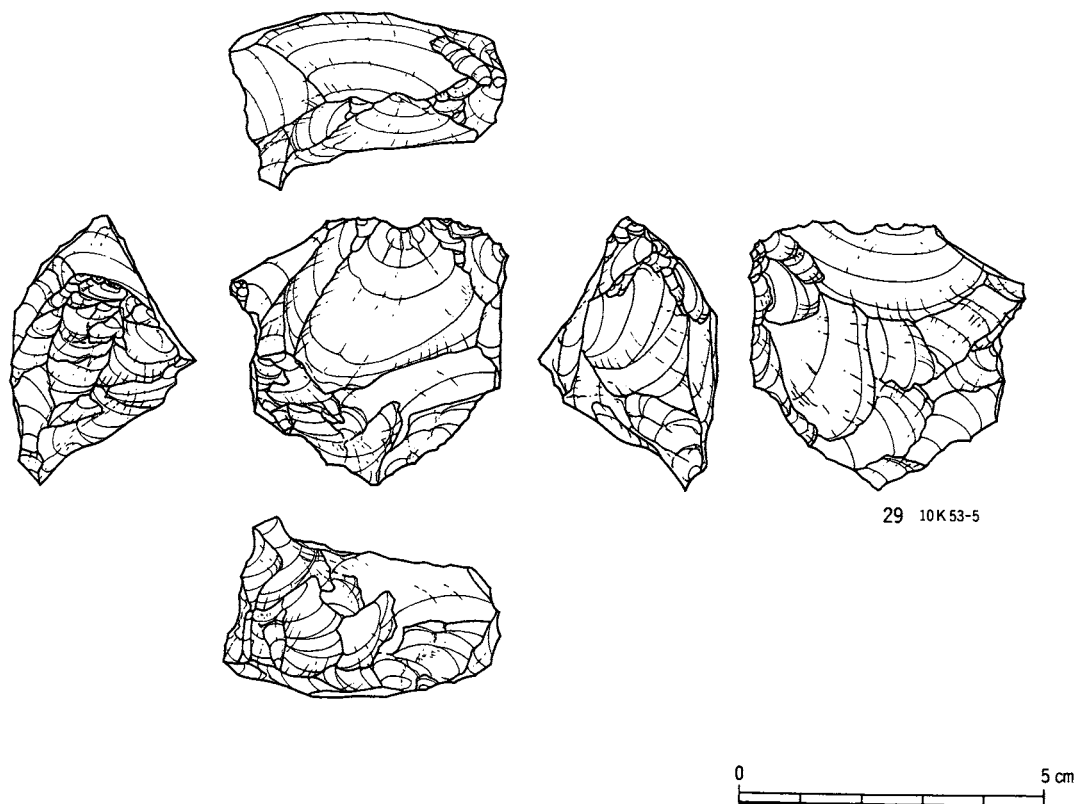


第66図 第16ブロック出土石器15





第67図 第16ブロック出土石器16



第68図 第16ブロック出土石器17

## 第5節 第Ⅲ文化層

第Ⅲ文化層に属するブロックは、第17～第20ブロックの4か所のブロックである。このブロックは1か所が単独で検出され、10数m離れて3つのブロックがブロック群を形成している。調査区北端から北側の台地先端側に分布している。特徴的な器種として石刃が多量に検出され、ナイフ形石器も多く検出されている。それらは製品の形で持ち込まれているものが大部分である。さらに石材は安山岩Aで大部分が構成されている。母岩ブロック群の形成を特徴づけているのは、こうした母岩消費の希薄な安山岩Aを石材とする石刃石器群である。

### 1 第17ブロック (第69～71図, 表23・24, 図版6・17)

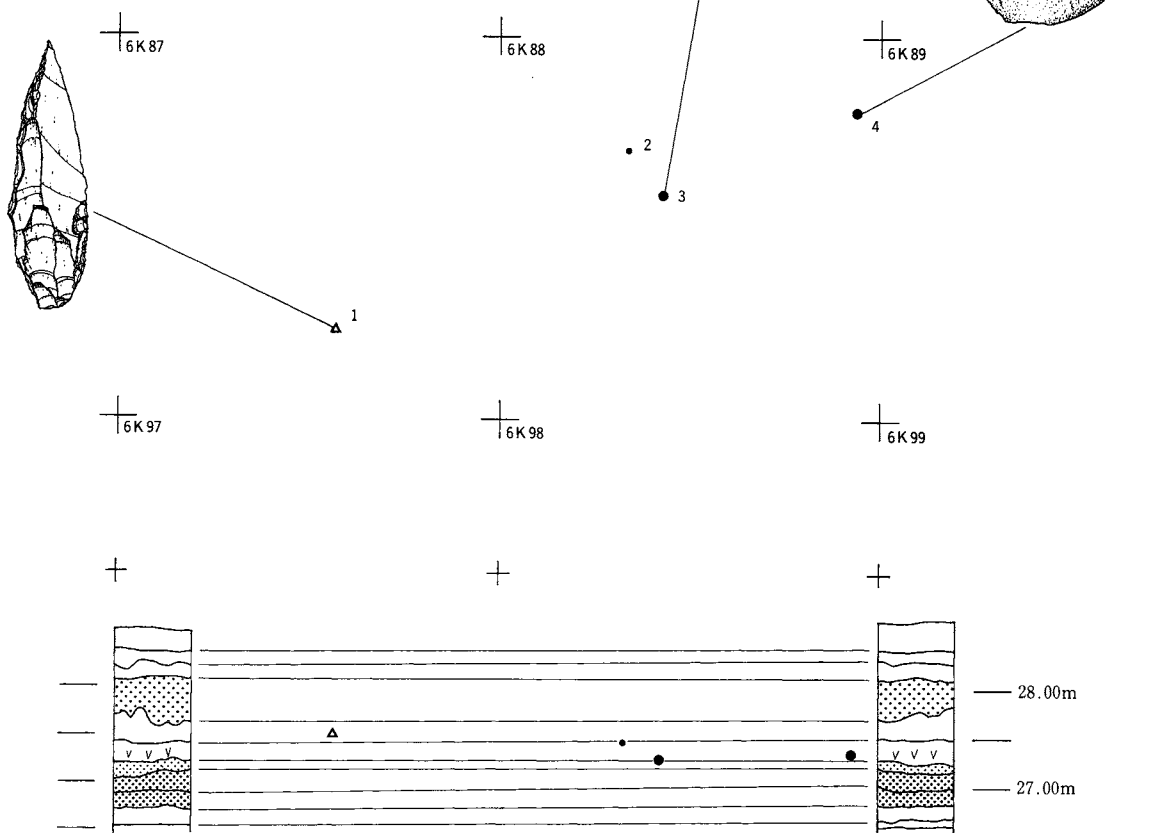
**分布状況** 調査区北端で調査されたブロックである。第18ブロック～第20ブロックが南東方向に10数m離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積はほぼ水平から僅かに西方向に傾斜して堆積している。

遺物総数は4点であり、ごく小規模なブロックである。その分布はやや広い範囲に散在する。北側が調査区外で石器の分布はさらに北側に広がる可能性がある。北東から南西に散在している状況である。6 K 87区から6 K 88区にかけて北東-南西方向に長い直線上に分布する。分布範囲は南北2.4m、東西5.4mを測る。垂直分布ではおよそ0.3mの高低差がある。土層断面への投影では、Ⅶ層からⅣ・Ⅴ層にかけて分布し、産出層位はⅦ層～Ⅵ層に求めることができる。

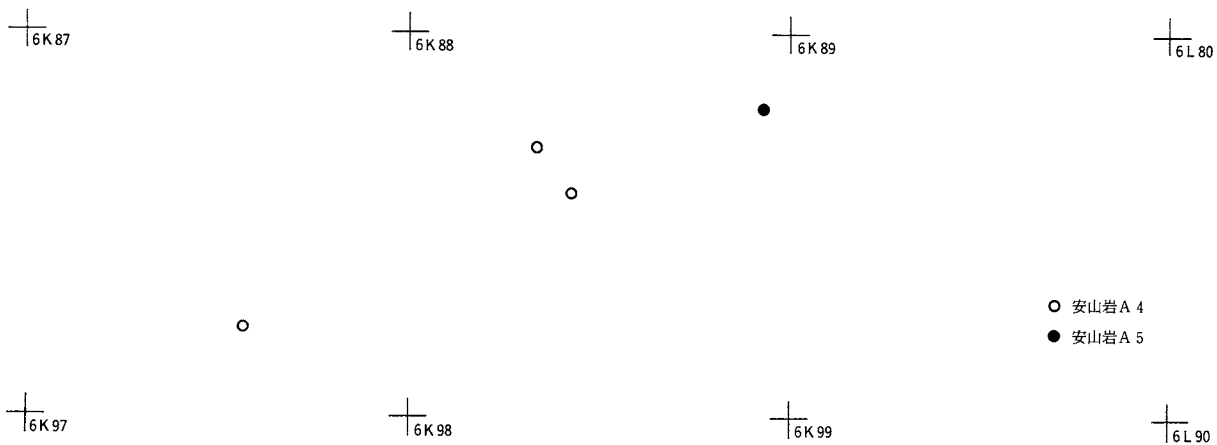
**母岩別資料** 2母岩が認められ、内訳は安山岩2母岩4点である。点数の多い母岩を挙げると、安山岩A4の3点であり、この母岩で母岩構成の主体を占めている。他の母岩は単独母岩となっている。母岩の分



- ▲ ナイフ形石器
- 剥片
- 砕片



第69図 第17ブロック器種別分布



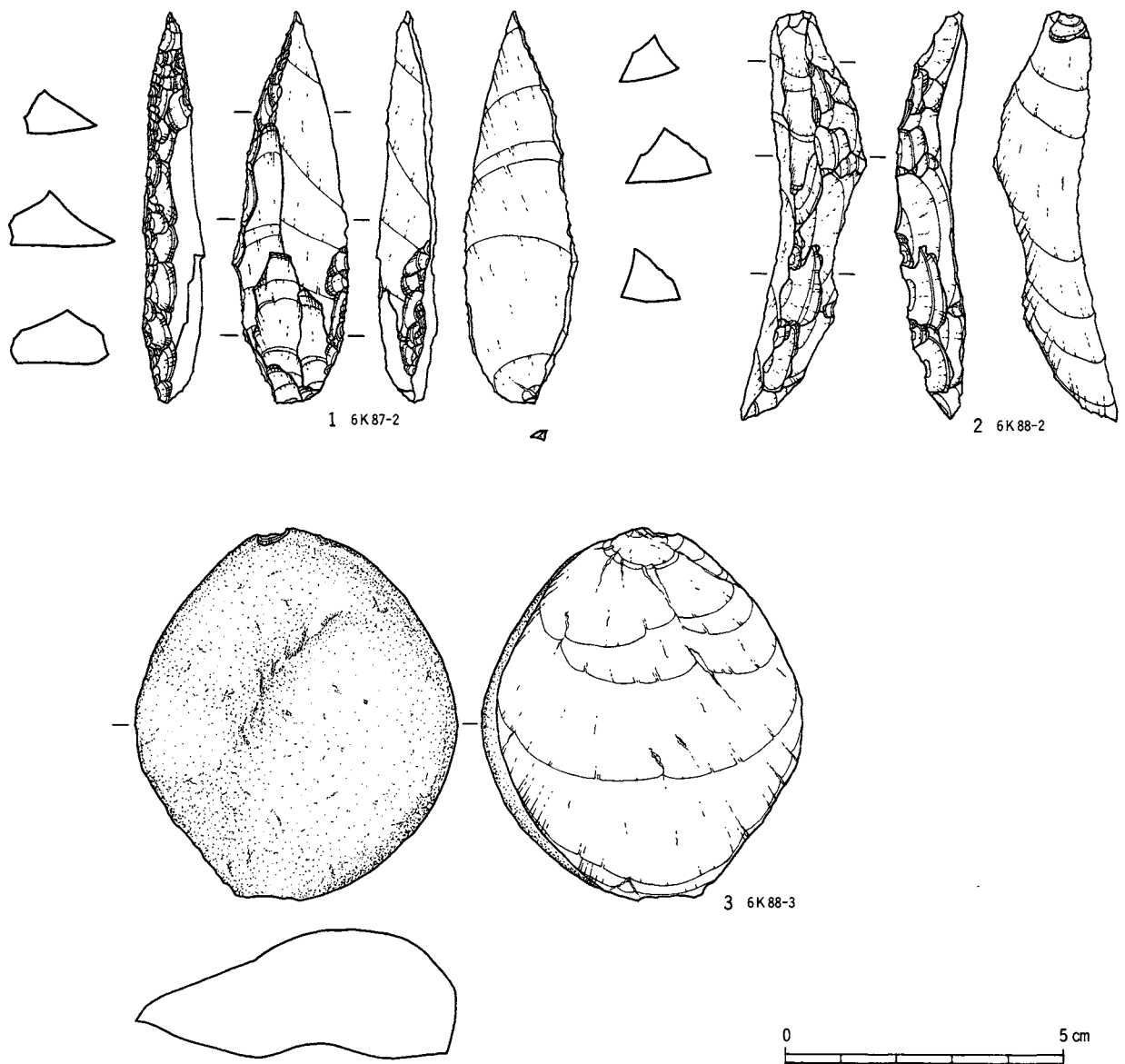
第70図 第17ブロック母岩別分布

布を見ると、安山岩A4が西側に散在している。母岩と器種の関係では、安山岩A4でナイフ形石器が生産されている。

**出土遺物** 小規模なブロックであるが、主要な利器はナイフ形石器1点が検出されている。

**ナイフ形石器** 1はナイフ形石器である。形状は先端が尖る柳葉形を呈する流美なものである。石刃素材の打面を基部に設定し、左側縁全縁と右側縁基部側にブランディングが施される。上半は背面からのブランディングが観察される。

**剥片** 2・3は剥片である。2は安山岩A4を母岩とする。2は端部が尖る石刃状の剥片で中央稜で左面からの稜上調整が基部から端部まで連続する。3は安山岩A5を母岩とする。3は背面が礫面で覆われる厚みのある大形の剥片で、主要剥離面は素材を裁断したように平坦な面となっている。



第71図 第17ブロック出土石器

2 第18ブロック (第72～74図, 表25・26, 図版6・18)

**分布状況** 調査区北側で調査されたブロックである。ブロック群の北端に位置している。南側に第19ブロックが約2m離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積は南西側に僅かに傾斜する。

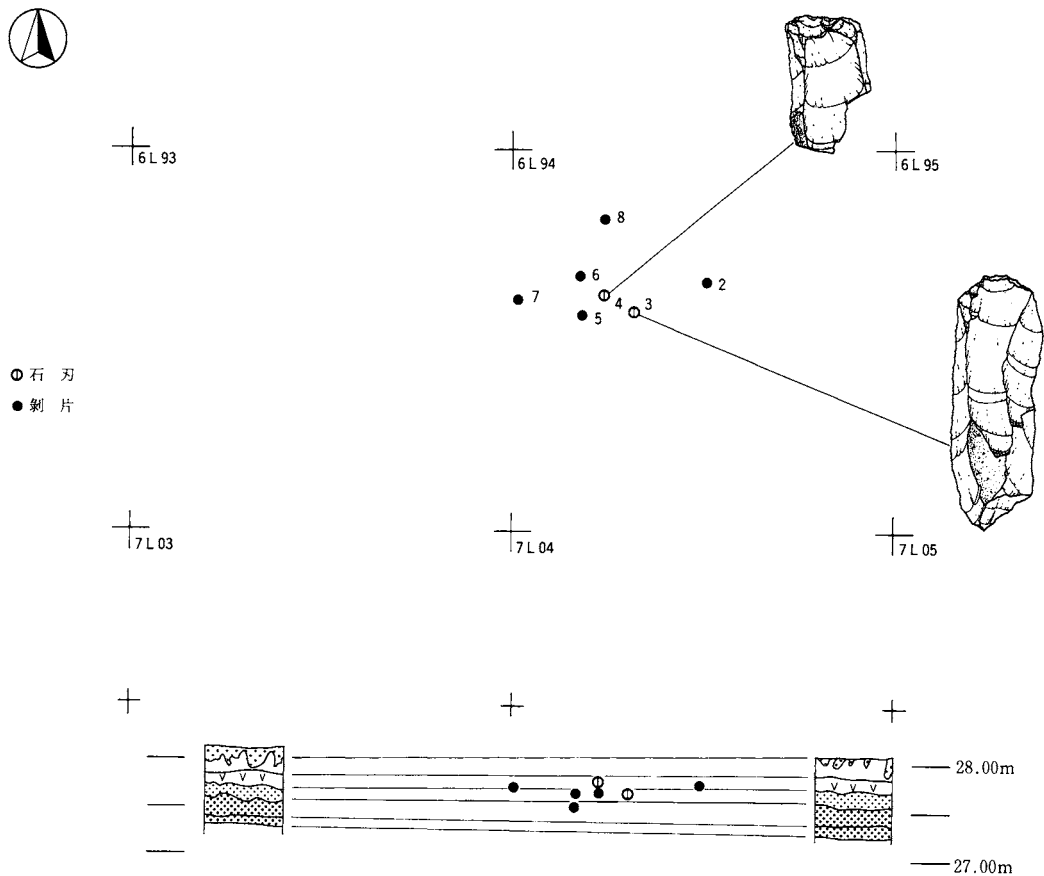
遺物総数は8点であり、小規模なブロックである。その分布は狭い範囲にまとまって分布する。ブロックの南側がややまとまり、北側と東側に離れて散在する状況である。6L94区に東-西方向に楕円形状に分布する。分布範囲は南北1.0m、東西2.1mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では、IX a層からVI層にかけて分布し、VII層上部からVI層下部に遺物が集中しており、産出層位はVII層上部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 5母岩が認められ、内訳は安山岩A 4母岩6点、珪質頁岩1母岩2点である。点数の多い母岩を挙げると、安山岩A 6が3点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、安山岩A 6は分布範囲の南側に分布している。母岩と器種の関係では、安山岩A 6・安山岩A 7で石刃がそれぞれ1点生産されるのみである。

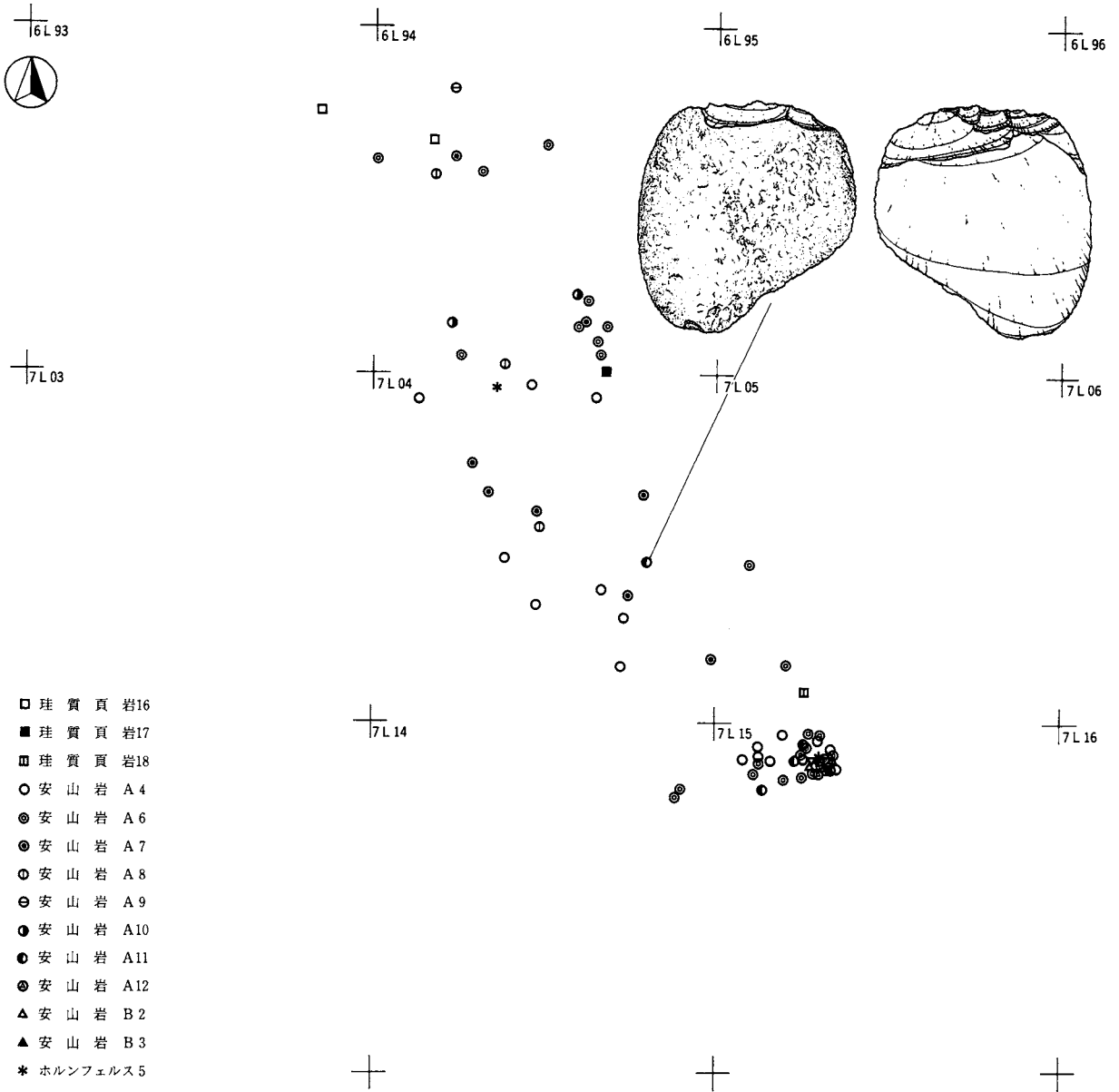
**出土遺物** 小規模なブロックであるが、主要な利器は石刃2点が検出されている。

**石刃** 1・2は石刃である。1は安山岩A 6を母岩とする。打面は打面調整が顕著で、両側縁は3条の剥離面が平行し、下端部に礫面が残置している。2も3条の剥離面が平行し、左下端部に礫面が残置する。

**剥片** 3～7は剥片である。3～6・7 bが縦長剥片、7 aが横長剥片である。3は安山岩A 9を母岩とする単独母岩である。長楕円礫を裁断したような大形の縦長剥片である。4は安山岩A 8を母岩とする。右

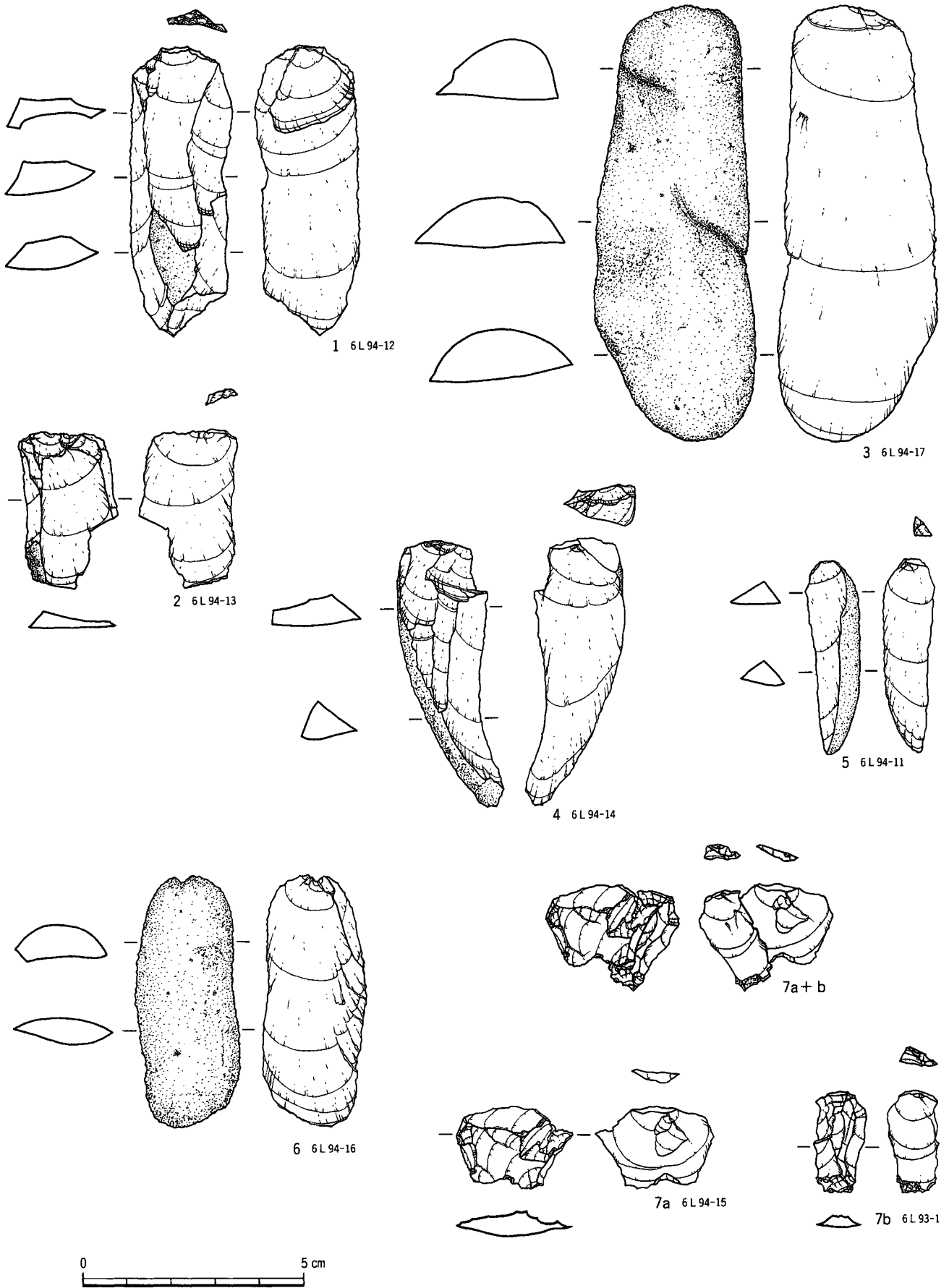


第72図 第18ブロック器種別分布



第73図 第18～20ブロック母岩別分布

側縁に礫面を残置し，平坦打面に調整加工が認められる。5・6は安山岩A 6を母岩とする。5は右側縁が礫面となっている。6は3と同様の形状を呈している。7 a・bは珪質頁岩16の剝片の接合資料である。7 aの背面をみると打面を90度転移しながら剝片剝離が進行している。



第74図 第18ブロック出土石器

### 3 第19ブロック (第73・75～79図, 表27・28, 図版6・18・19)

**分布状況** 調査区北側で調査されたブロックである。ブロック群の中央に位置している。北側に第18ブロックが離れて、南東側に第20ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は南西側に僅かに傾斜する。

遺物総数は29点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの中央に空白部があり、その北側がまとまり、南側が散在する状況である。6 L94区から7 L04・05区に北西～南東方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北4.3m, 東西3.9mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では、IX a層からVI層にかけて分布し、VII層上部からVI層下部に遺物が集中しており、産出層位はVII層上部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 8母岩が認められ、内訳は安山岩A6母岩27点, 珪質頁岩1母岩1点, ホルンフェルス1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、安山岩A4が8点, 安山岩A6・安山岩A7が7点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、安山岩A4は南北に散在しており、安山岩A6は北東側にやや集中して分布している。母岩と器種の関係では、安山岩A4でナイフ形石器が2点, 安山岩A10で2点生産されている。さらに、安山岩A7で石刃が4点生産され、器種構成に製品の占める割合が高いブロックである。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器はナイフ形石器7点, 石刃5点が検出されている。

**ナイフ形石器** 1～6はナイフ形石器である。1は素材の打面を残置し、打面部を基部に設定する刺突形のもので、左側縁全縁と右側縁先端に調整加工が認められる。2は幅広の縦長剥片を素材として、左側面上端に疎らな細部加工が施される。3は基部及び右側縁下半部が切断され、上半部に素材を斜めに切るようにブランディングが集中する。4 a・bは右側縁が礫面となる横断面が三角形を呈するもので、稜上下半部に連続した加工と、基部に主要剥離面からの細部加工が看取される。中央で欠損したものが接合した。5は石刃を素材とするものがある。石刃素材の打面部を基部に設定して、先端部を左側縁側に斜めに切り取るようにブランディングが施される。6は珪質頁岩17を母岩とする。素材の打面部を先端側に設定し、打面部を斜めに切断するように背面右側縁の一側縁にブランディングが連続する。

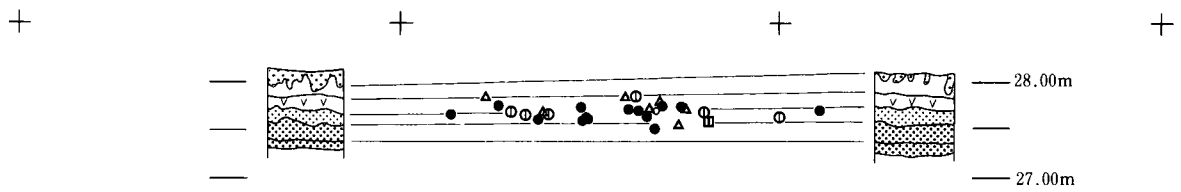
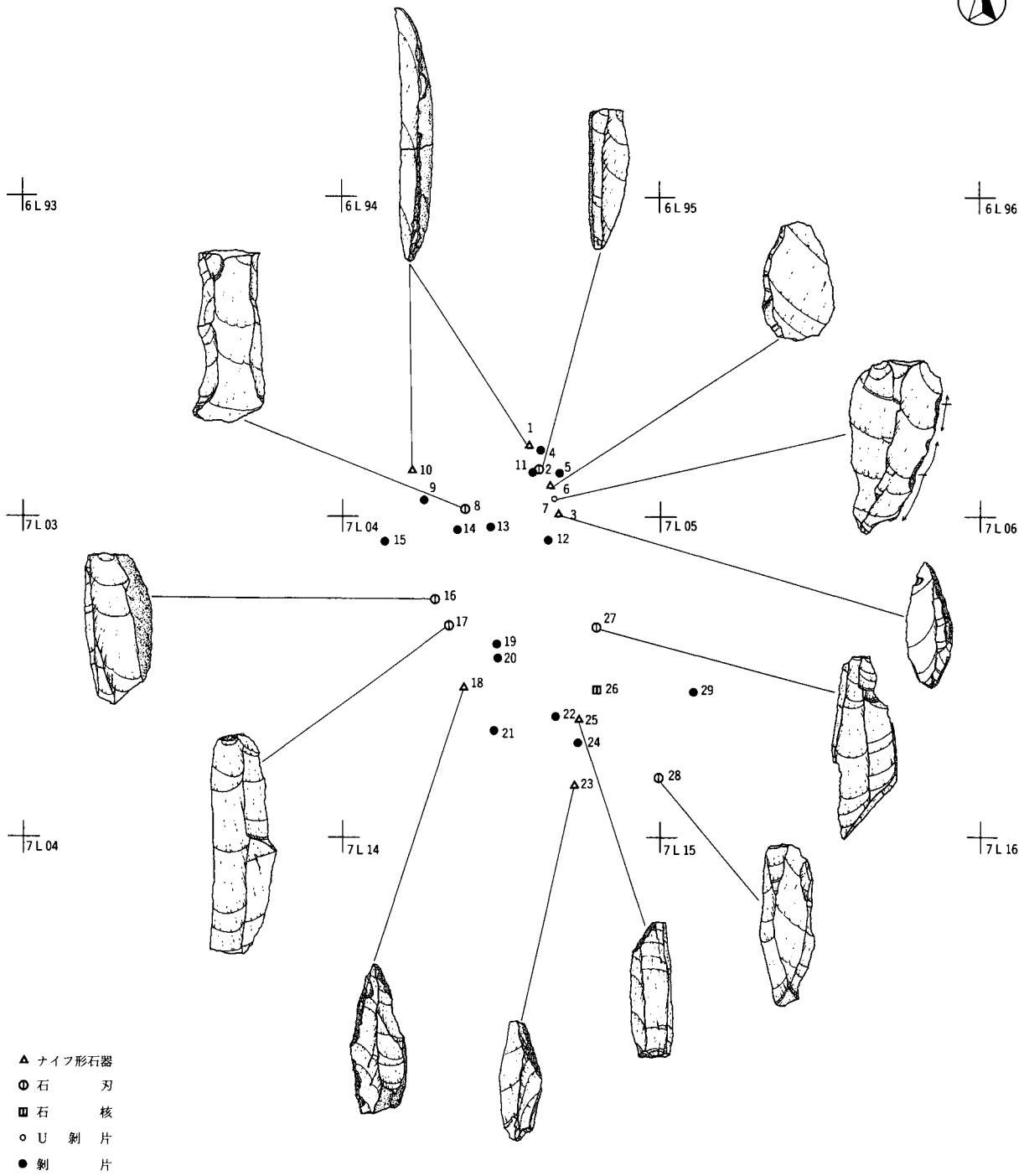
**石刃** 7～11・15は石刃である。7は平行する両側縁をもつ。8は右側面に自然面を残置し末端が尖る。9は打面調整が見られ、末端に礫面が見られる。10は右側縁に、11は左側縁に自然面を残置している。

**U剥片** 12はU剥片である。石刃状剥片の背面右側縁に刃こぼれ状の微細剥離痕が連続する。

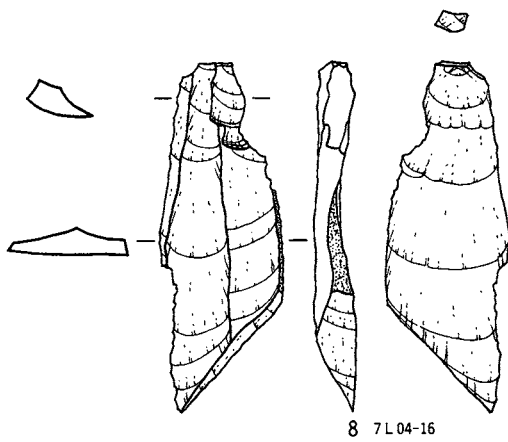
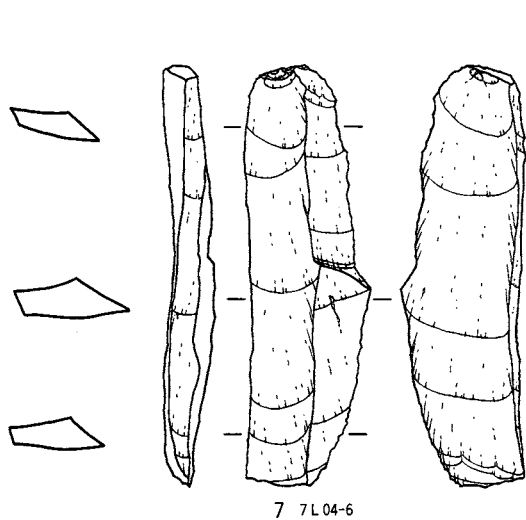
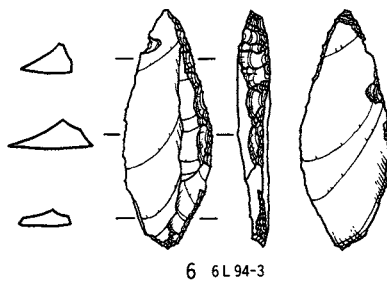
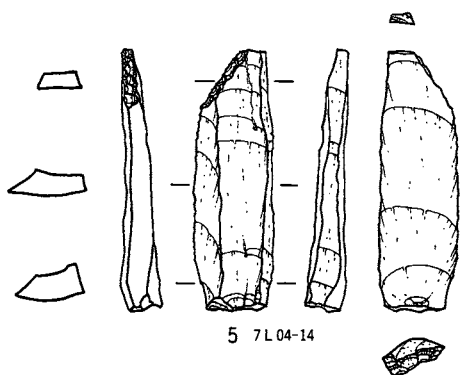
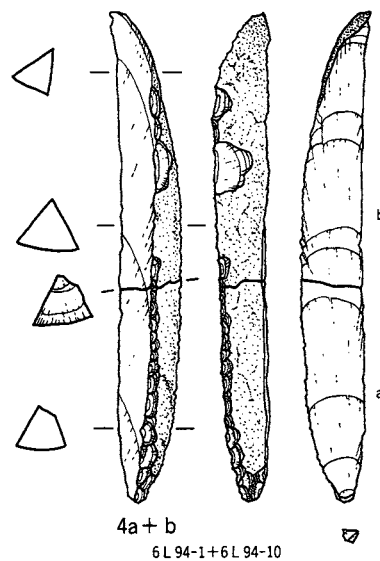
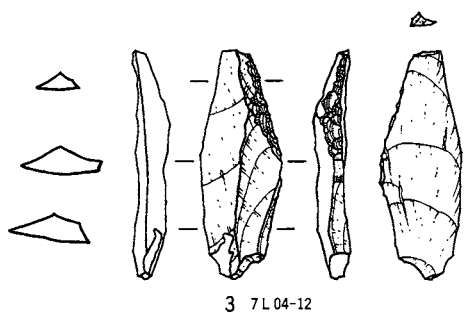
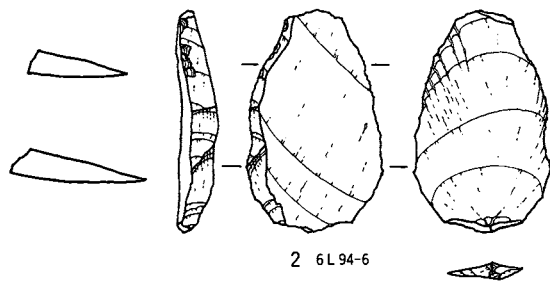
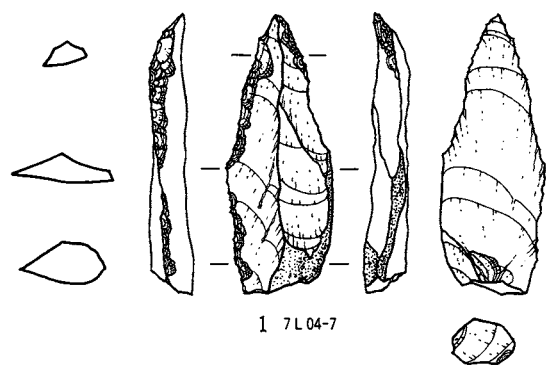
**剥片** 13・14, 16～27は剥片である。13・14, 16～26が縦長剥片, 27が横長剥片である。13は大形の石刃状剥片で下端部に底面を残し、礫面となっている。14は稜上調整が看取される横断面三角形のものである。15の打面には調整が顕著である。16・18・19は末端が尖る形状を呈する。17の背面には上下からの剥離が見られる。20～24は石刃状剥片の片縁に自然面が残るものである。25・26は幅広で器厚のあるもので、25は下半部に大きく礫面を残している。26は下半部が広くなり背面の基部以外は礫面となる。27は下端部に自然面が見られる。

**石核** 28は石核である。安山岩A11を母岩とする。礫面を背面に残置する剥片を素材として、素材の打面部を打面として、背面と主要剥離面に打面を転移して剥離が進行する。剥離面からは横長剥片が剥離されていることが想定される。

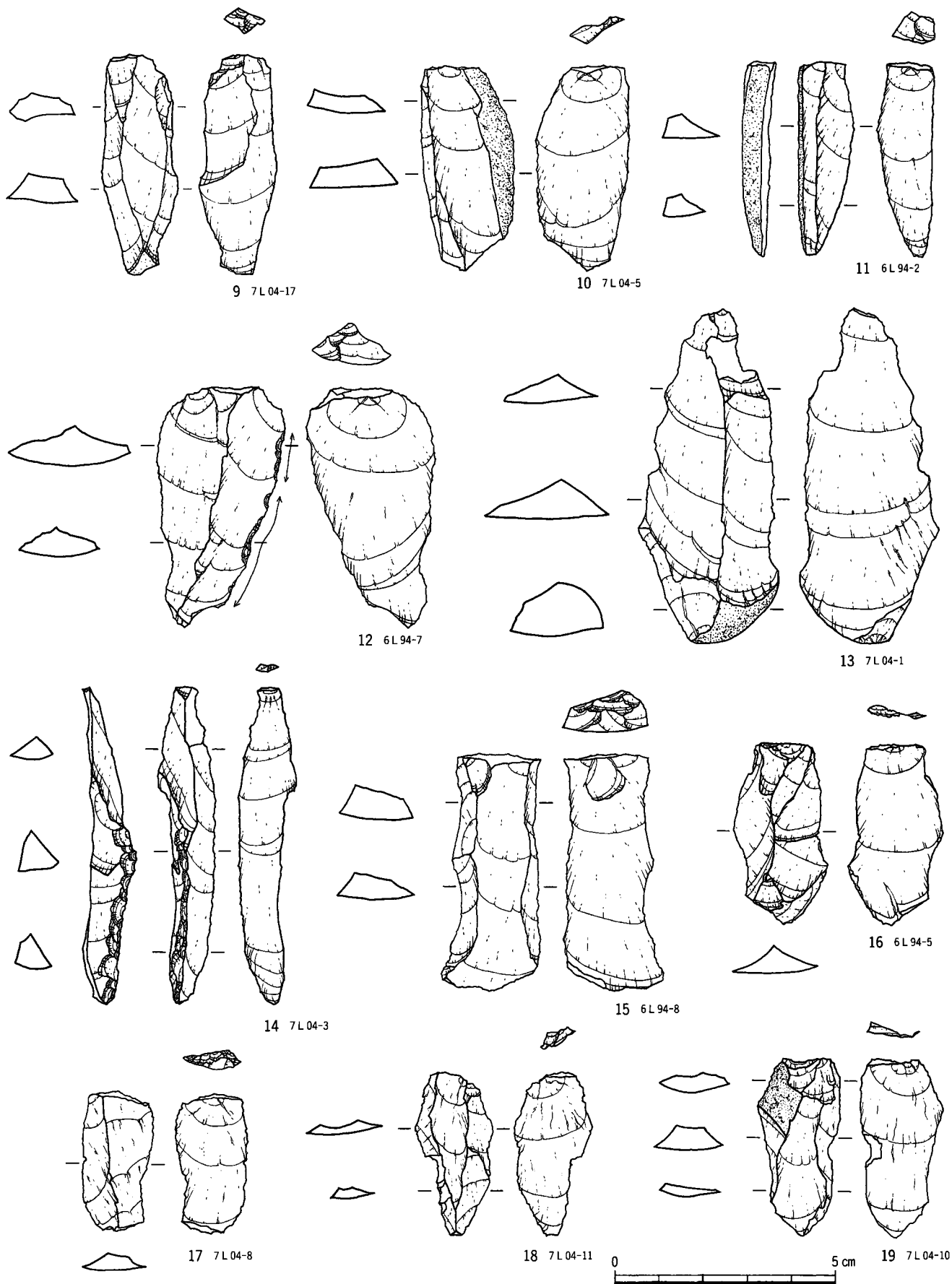




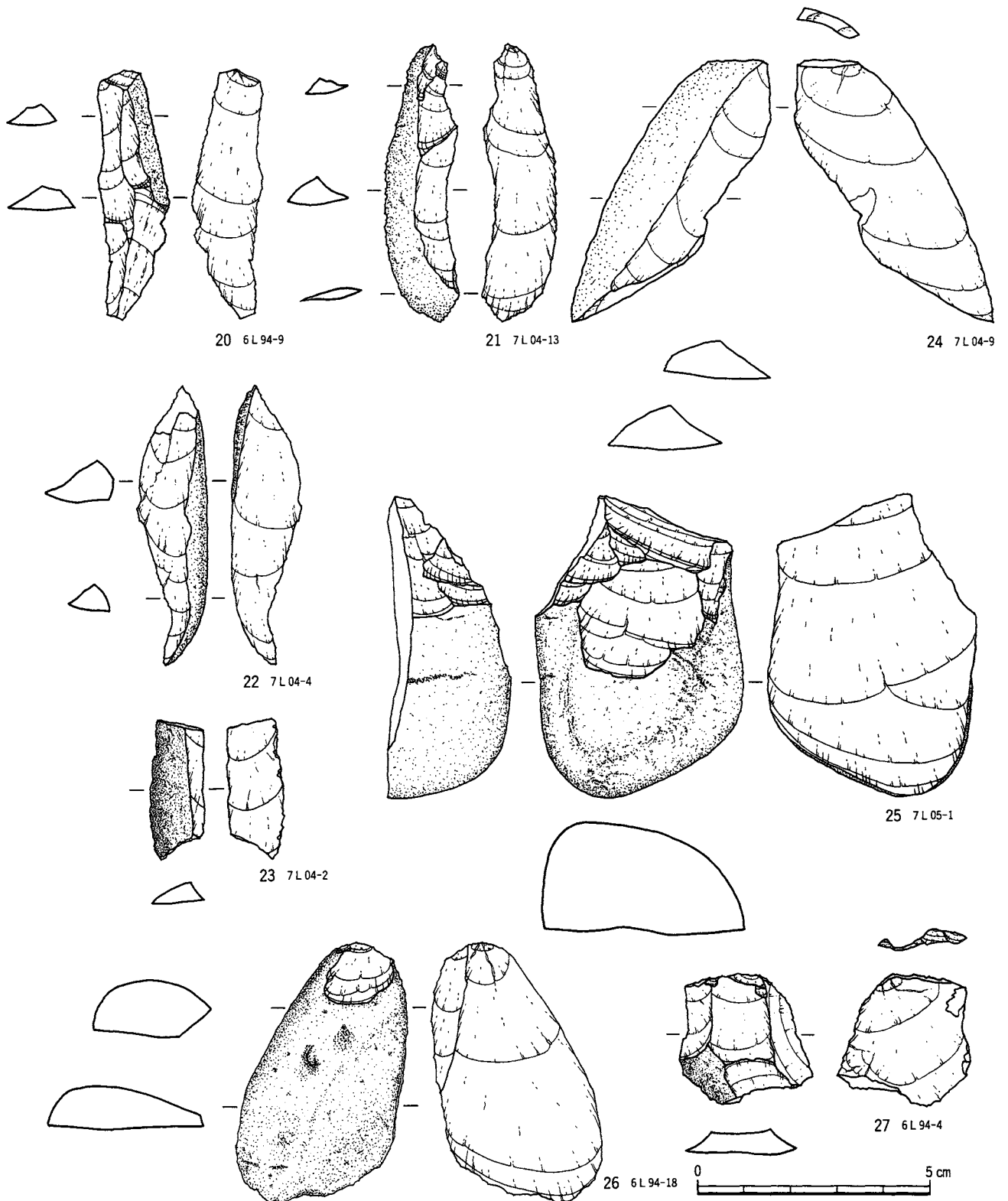
第75図 第19ブロック器種別分布



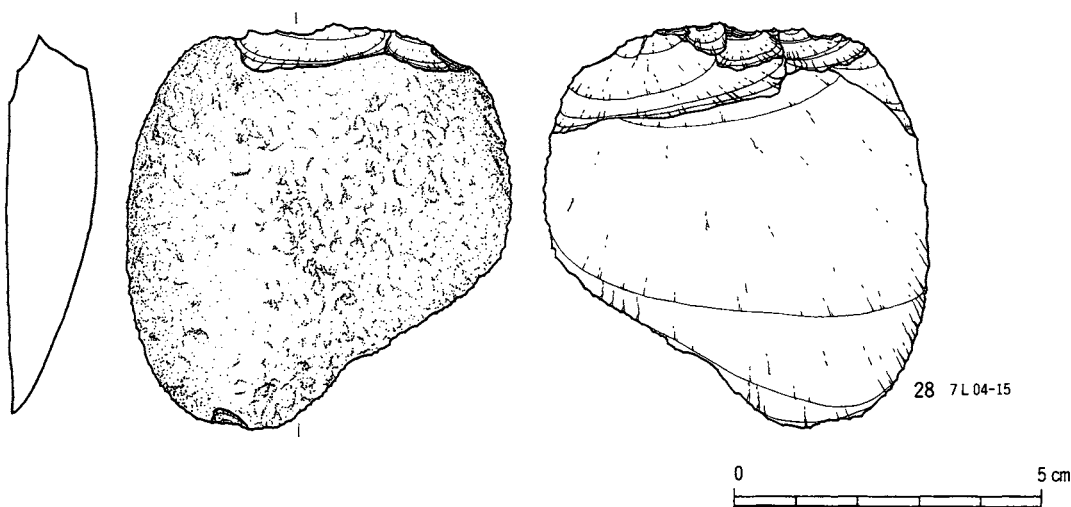
第76図 第19ブロック出土石器 1



第77図 第19ブロック出土石器 2



第78図 第19ブロック出土石器 3



第79図 第19ブロック出土石器 4

4 第20ブロック (第73・80～85図, 表29・30, 図版19～21)

**分布状況** 調査区北側で調査されたブロックである。ブロック群の南端に位置している。北西側に第19ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は南西側に僅かに傾斜する。

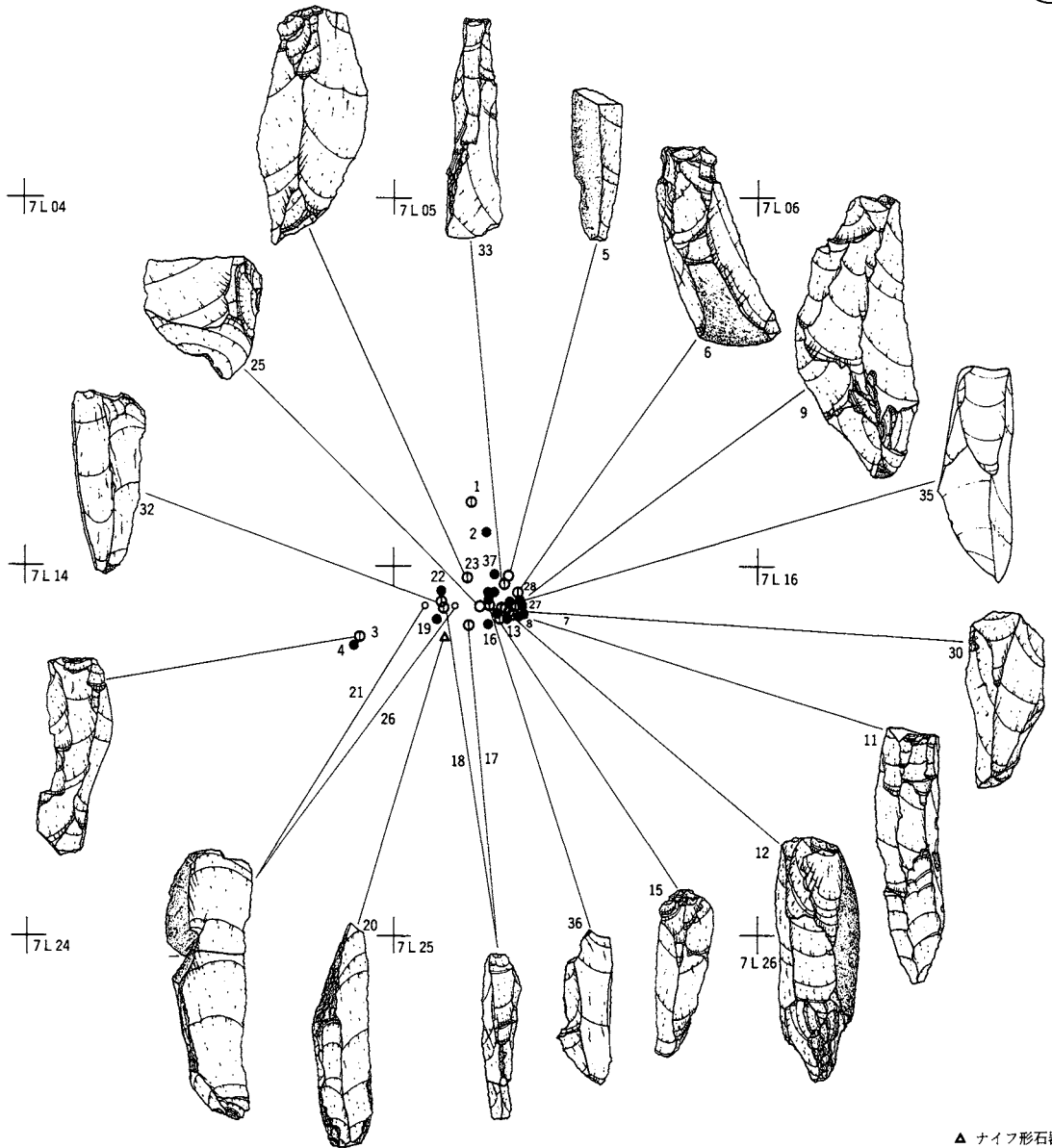
遺物総数は37点であり、中規模なブロックである。その分布は狭い範囲に集中する。ブロックの西側に密集部があり、その北側と西側に離れて散在する状況である。7 L05区から7 L14・15区に北東-南西方向に楕円形状に分布する。分布範囲は南北1.6m, 東西2.0mを測る。垂直分布ではおよそ0.3mの高低差がある。土層断面への投影では、Ⅶ層からⅥ層にかけて分布し、Ⅶ層上部からⅥ層下部に遺物が集中しており、産出層位はⅦ層上部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 8母岩が認められ、内訳は安山岩A 4母岩32点, 安山岩B 2母岩3点, 珪質頁岩 1母岩1点, ホルンフェルス 1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、安山岩A 6が16点, 安山岩A 4が10点, 安山岩A11が5点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、安山岩A 4は密集部に分布し、安山岩A 6はブロックの全域に分布している。母岩と器種の関係では、安山岩A11でナイフ形石器が1点生産されている。安山岩A 4で6点, 安山岩A 6で6点, 安山岩A11で2点, 安山岩B 3で1点石刃が生産されている。石刃の割合の高い器種構成となっている。

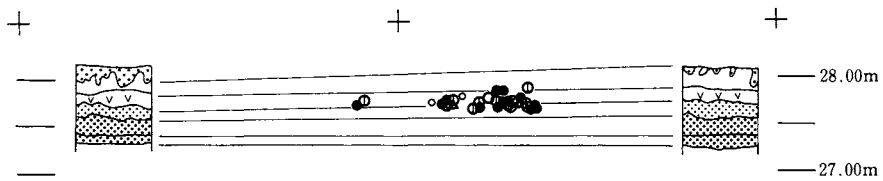
**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器はナイフ形石器1点, 石刃15点が検出されている。

**ナイフ形石器** 1はナイフ形石器である。石刃を素材としている。素材の打面を残置して打面部を基部に設定し、基部側の両側縁は細かな調整が施され、先端部は素材を斜めに切断するように背腹両面からブランディングが看取される。

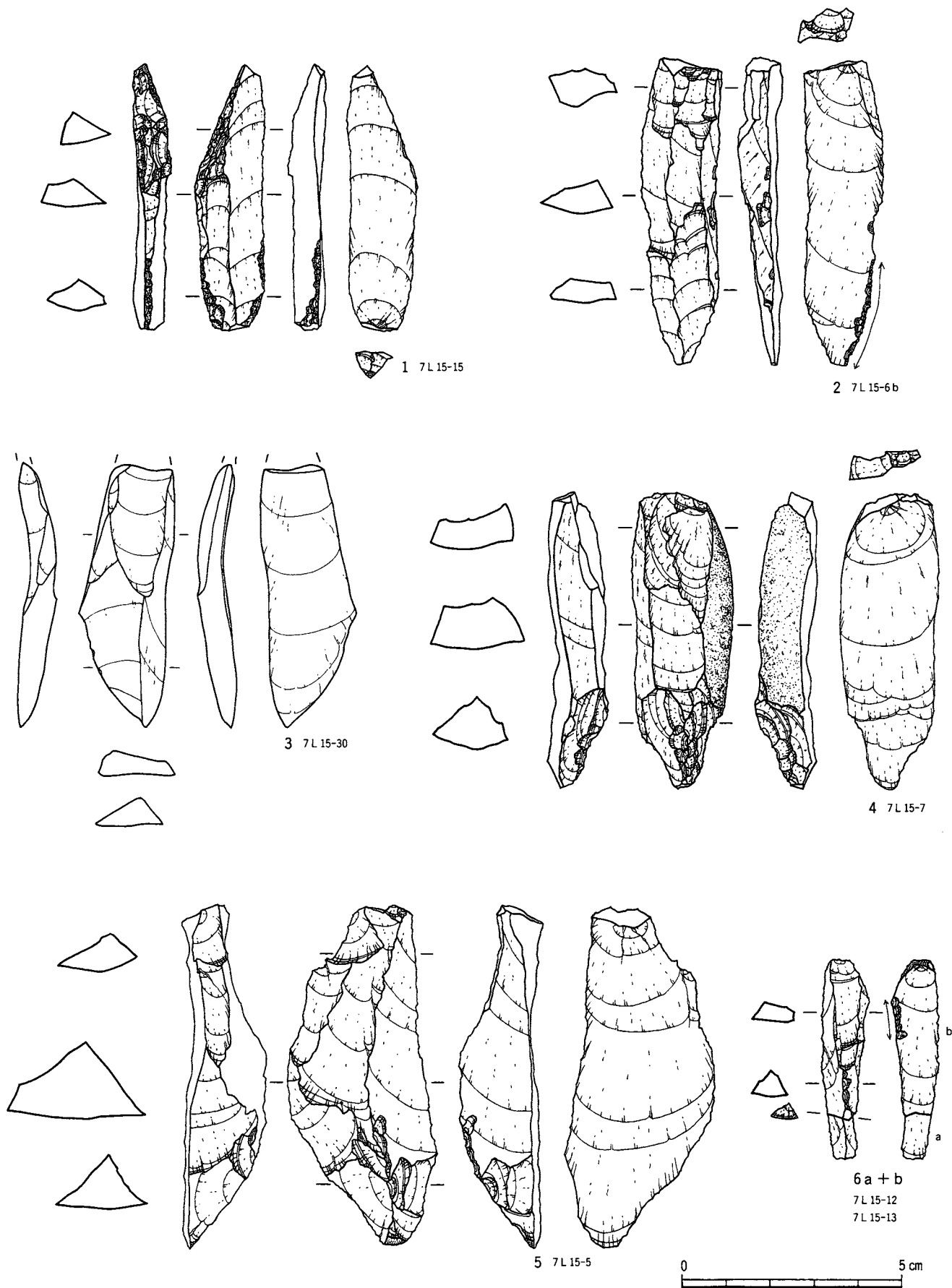
**石刃** 2～8, 12～14, 16～19は石刃である。2～5は中形の石刃である。2は上下からの剥離面が見られ、腹面末端に微細剥離痕が認められる。3は安山岩B 3を母岩としている。4は下端部の稜上調整が顕著である。5は下半部に最大幅を持つものである。6 a・bは小形のもので腹面左側縁上半に微細剥離痕が集中する。7は両側縁に、8は右側縁に礫面が残置する。12～14は末端が尖るものである。16～19は下端部が丸みを持ち、それぞれ礫面を残置している。



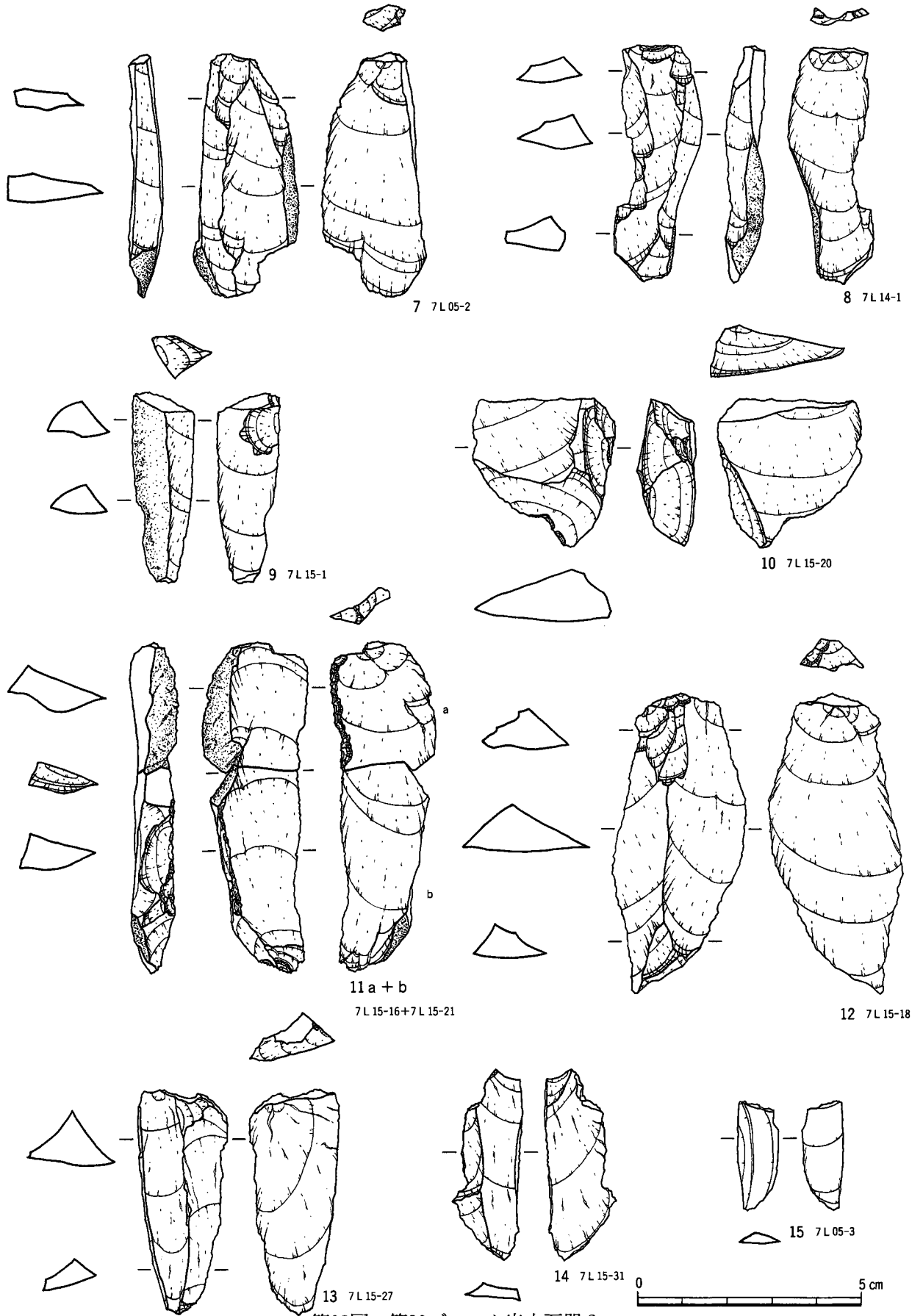
- ▲ ナイフ形石器
- ⊙ 石 刃
- ⊖ R 剥片
- ⊕ U 剥片
- 剥片



第80図 第20ブロック器種別分布

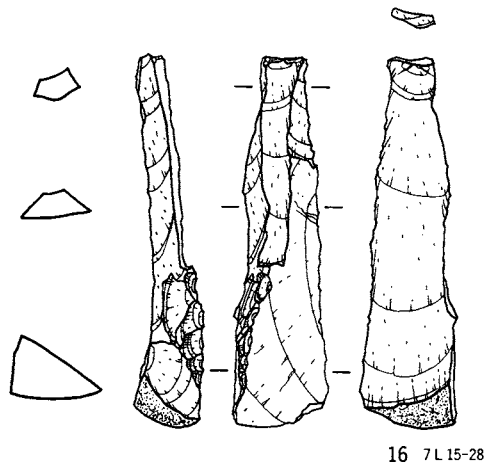


第81図 第20ブロック出土石器 1

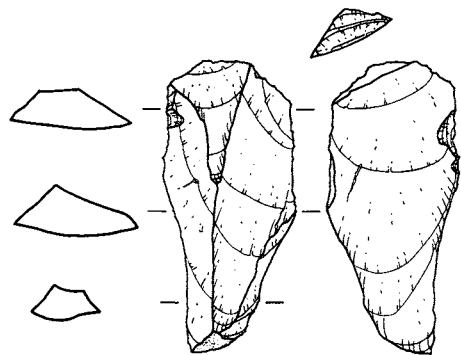


第82図 第20ブロック出土石器 2

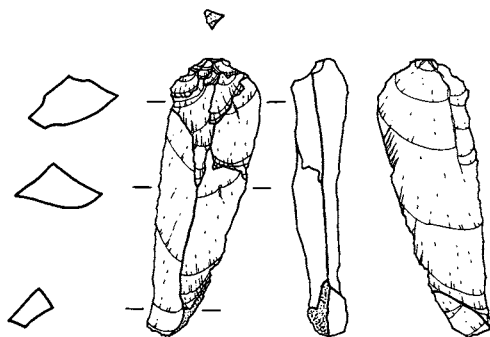




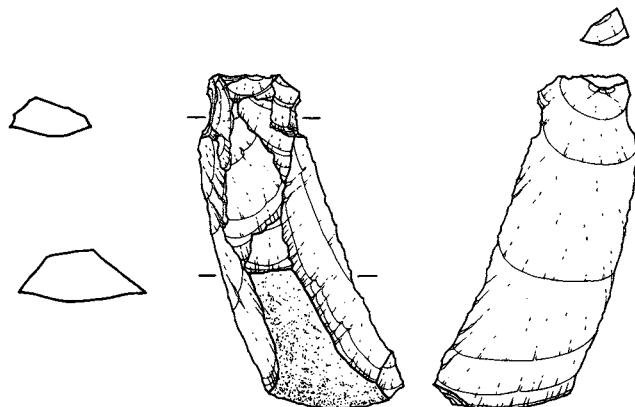
16 7L 15-28



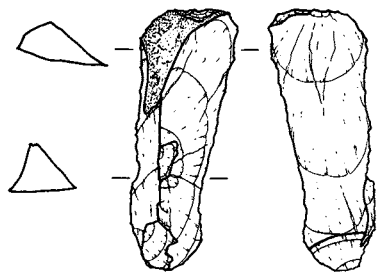
17 7L 15-25



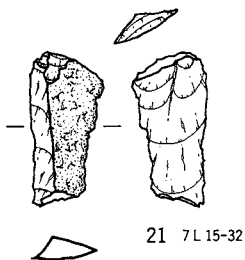
18 7L 15-10



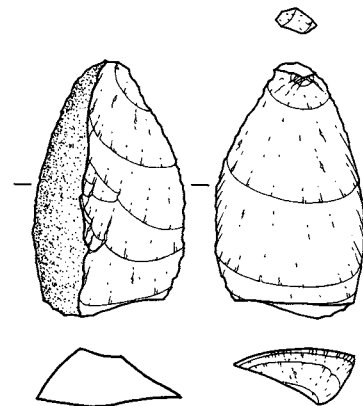
19 7L 15-2



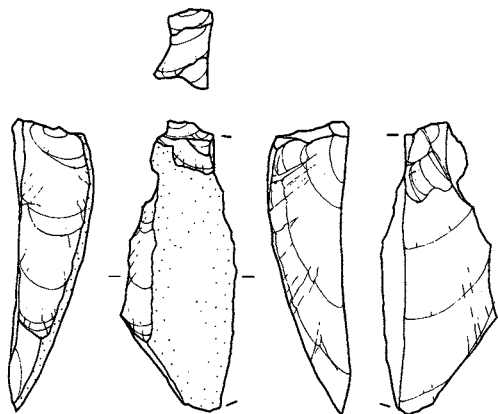
20 7L 15-17



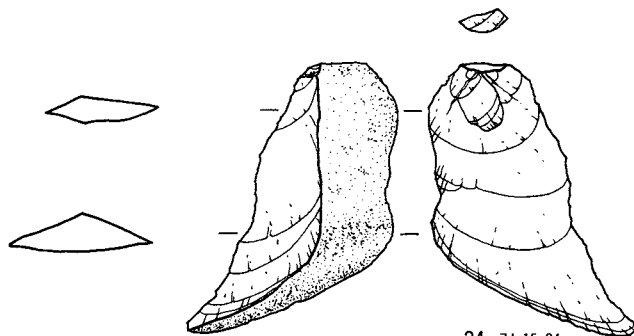
21 7L 15-32



22 7L 14-2



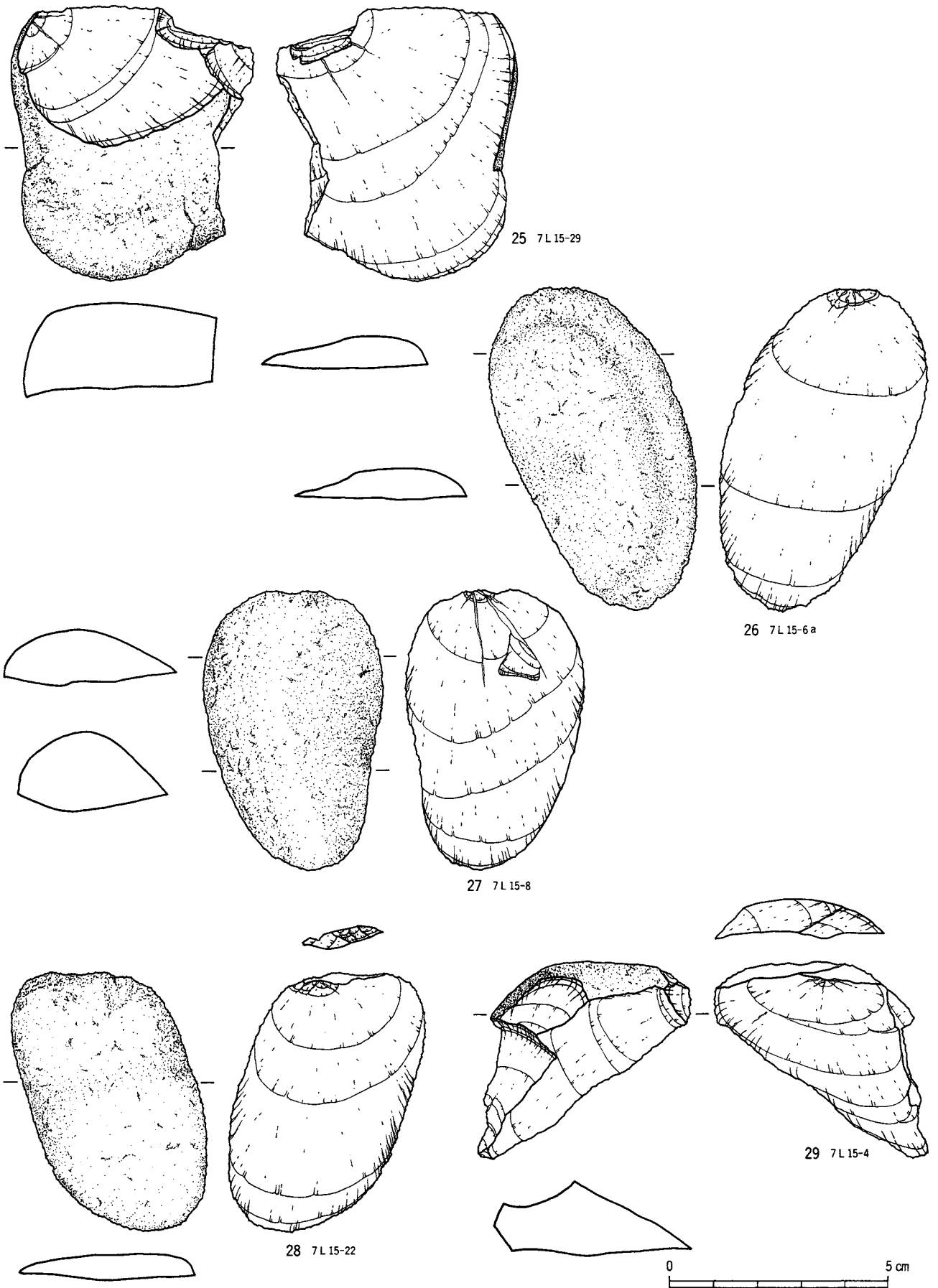
23 7L 15-23



24 7L 15-24



第83図 第20ブロック出土石器 3

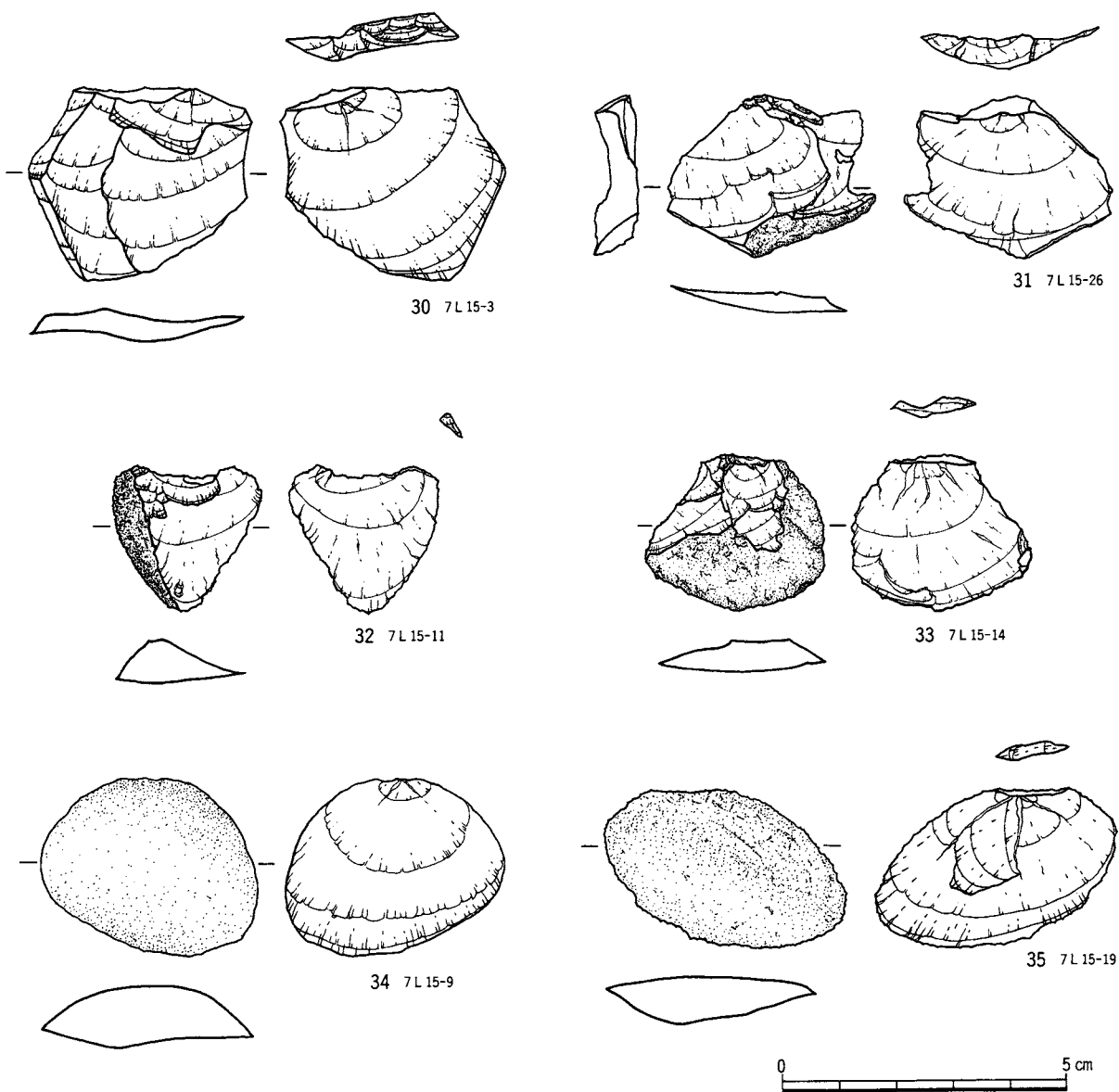


第84図 第20ブロック出土石器 4

**R 剥片** 9・10はR剥片である。9は石刃状剥片の腹面右側縁に平坦な剥離痕面が見られる。10は右側縁に背腹からの広い二次加工が認められる。

**U 剥片** 11a・bはU剥片である。腹面左側縁上半に刃こぼれ状の連続した微細剥離痕が見られる。

**剥片** 15・20～35は剥片である。15・20～28が縦長剥片、29～35が横長剥片である。15は珪質頁岩18を母岩とする。21～24は片縁に礫面を残置するものである。25～28は器厚のある大形剥片で礫面を広く残置するものである。楕円形状を呈し、主要剥離面が裁断状に平坦となる。29は上端部に礫面を残す。30は安山岩B2を母岩としている。31～33は礫面が一部残置している。34・35は背面が礫面となるもので、貝殻状の形状を呈する。



第85図 第20ブロック出土石器 5

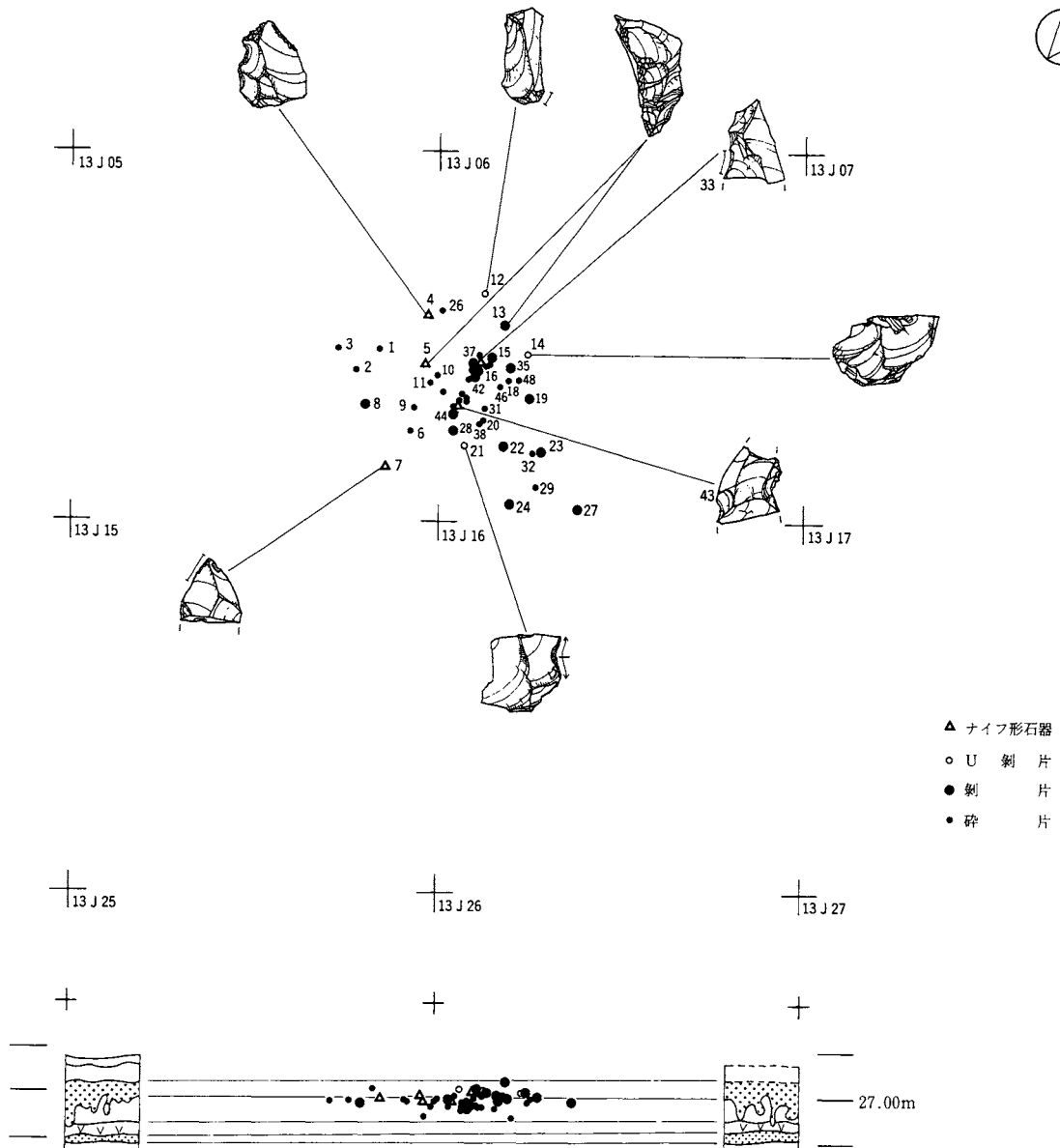
## 第6節 第IV文化層

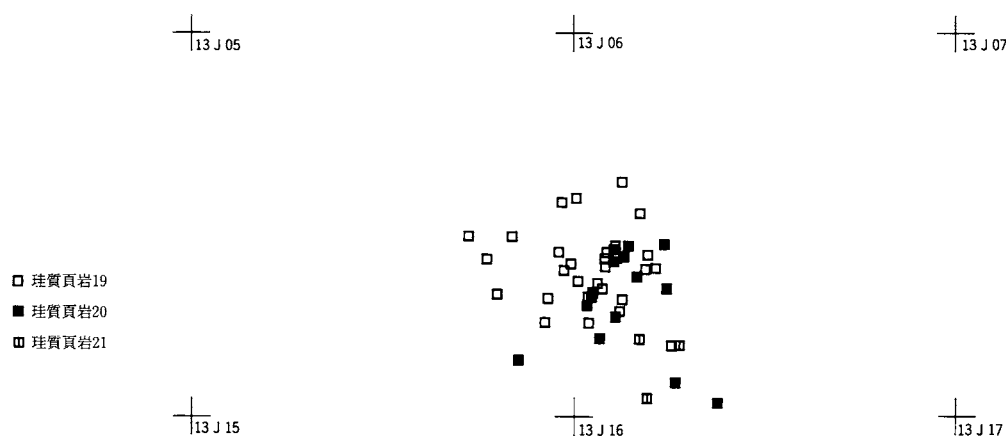
第IV文化層に属するブロックは、第21ブロックの1か所のブロックである。このブロックは単独で検出され、調査区南端の台地背付け根部分に分布している。特徴的な器種としてナイフ形石器が少数検出されている。それらは珩質頁岩の母岩消費により生産されている。ブロック群の形成を特徴づけているのは、珩質頁岩の各種石材を用いた石材消費による横長剝片の生産と素材調整である。

### 1 第21ブロック (第86～89図, 表31・32, 図版6・21)

**分布状況** 調査区南端で調査されたブロックである。単独で構成されるブロックである。現況では、立川ローム層の堆積はほぼ水平に堆積する。

遺物総数は49点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの中心部にやや密集する部分があり、放射状に分布密度が希薄になる状況である。13J05区から13J06区にかけて





第87図 第21ブロック母岩別分布

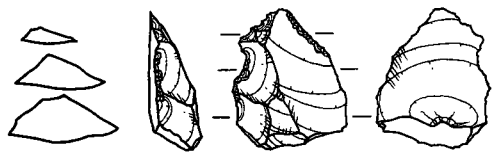
て北西－南東方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北2.4m，東西2.7mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では，Ⅳ・Ⅴ層からⅢ層にかけて分布し，Ⅳ・Ⅴ層上部付近に遺物が集中しており，産出層位はⅣ・Ⅴ層にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 3母岩が認められ，内訳は珪質頁岩3母岩49点である。点数の多い母岩を挙げると，珪質頁岩19が31点，珪質頁岩20が15点であり，この2つの母岩で母岩構成の大部分を占めている。珪質頁岩19はいわゆるチョコレート頁岩と呼ばれるもので，珪化の発達した良質な珪質頁岩である。珪質頁岩20も良質な母岩であるが，色調は乳灰褐色を呈し，濃い褐色が縞状に入る母岩である。珪質頁岩21は灰褐色の色調を呈するが，縞状の褐色が見られず，薄い黄茶褐色に風化した自然面を持つものである。母岩の分布を見ると，珪質頁岩19は分布範囲の北西側に，珪質頁岩20，珪質頁岩21は南東側にそれぞれまとまって分布している。母岩と器種の関係では，珪質頁岩19，珪質頁岩20でナイフ形石器が生産されている。当ブロックの主要な母岩の珪質頁岩19からは，碎片・剝片が主体的に生産されている。

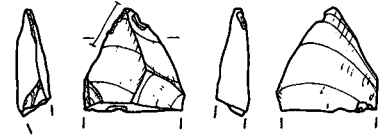
**出土遺物** 中規模なブロックであり，主要な利器は，ナイフ形石器5点である。他はU剝片が3点検出されるのみであり，単純な器種構成となっている。

**ナイフ形石器** 1～5 aはナイフ形石器である。1・5 aは珪質頁岩19を母岩としている。2～4は珪質頁岩20を母岩としている。1は厚みのある幅広縦長剝片を素材として，素材の打面部を基部に設定して背面左側縁部で平坦調整と微細な加工が見られる。2は下半部が欠損し形状は不明であるが，左側縁に調整が認められる。3は横長剝片を横位に用いたものである。左側縁に細かな調整加工が見られる。4は上下端部を欠損するが，素材の横長剝片を横位に用いたもので，右側縁にブランディングが顕著である。横断面形が台形となり左側縁の刃部角は鈍角となる。5 a・bはナイフ形石器と調整剝片の接合資料である。まず打面部側から器体を突き抜ける調整が行われ5 bが削出される。その後5 aの素材打面部が切断状に剝離され，さらにその剝離面から背面左側縁の細部調整が行われている。

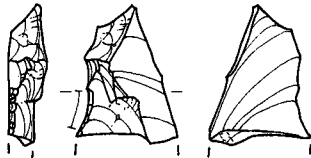
**U剝片** 6・7 b・8はU剝片である。6は珪質頁岩20を母岩とする。平坦な打面の横長剝片の右側縁下端部から末端にかけて微細剝離痕が疎らに認められる。7 a～cはU剝片と剝片の接合資料である。平



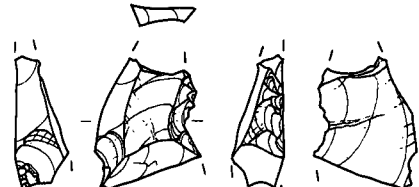
1 13J05-4



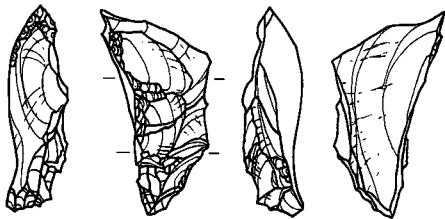
2 13J05-7



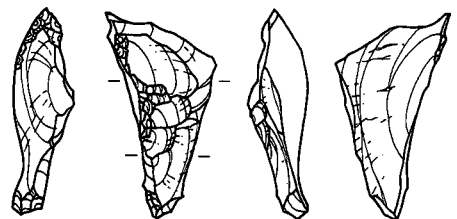
3 13J06-22



4 13J06-32



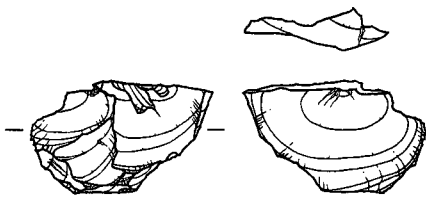
5a + b



5a 13J05-5



5b 13J06-2



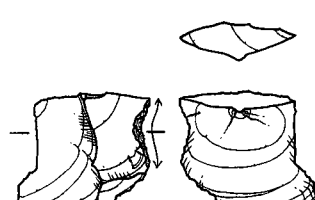
6 13J06-3



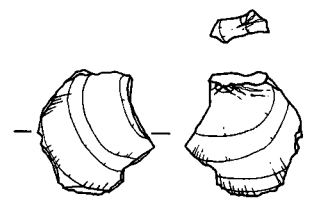
7a + b + c



7a 13J06-16



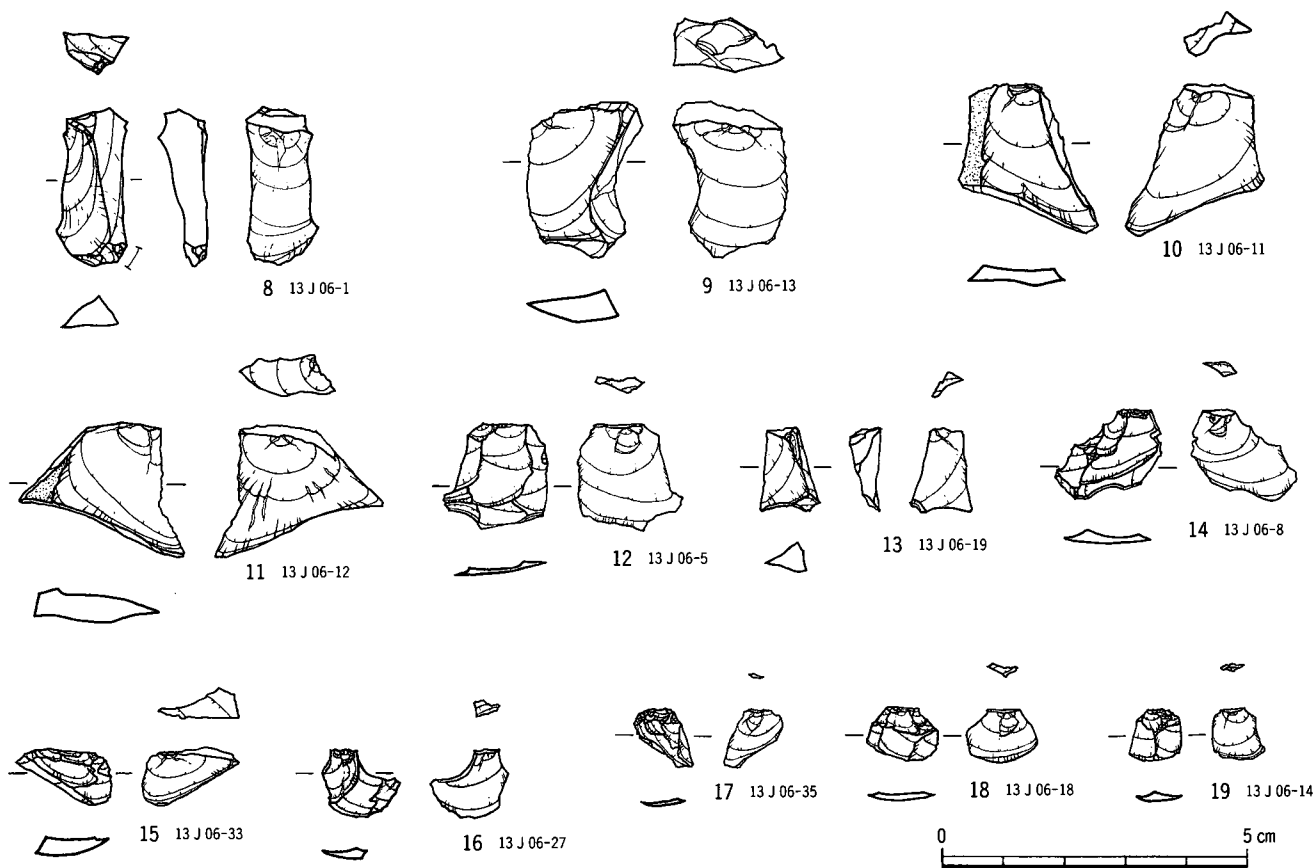
7b 13J06-10



7c 13J06-4



第88図 第21ブロック出土石器 1



第89図 第21ブロック出土石器 2

坦な打面から比較的幅広な剥片を削出している。7 bの背面右側縁上半に抉入する微細剥離痕が看取される。8は珪質頁岩19を母岩とするもので、縦長剥片の末端に微細剥離痕が集中する。

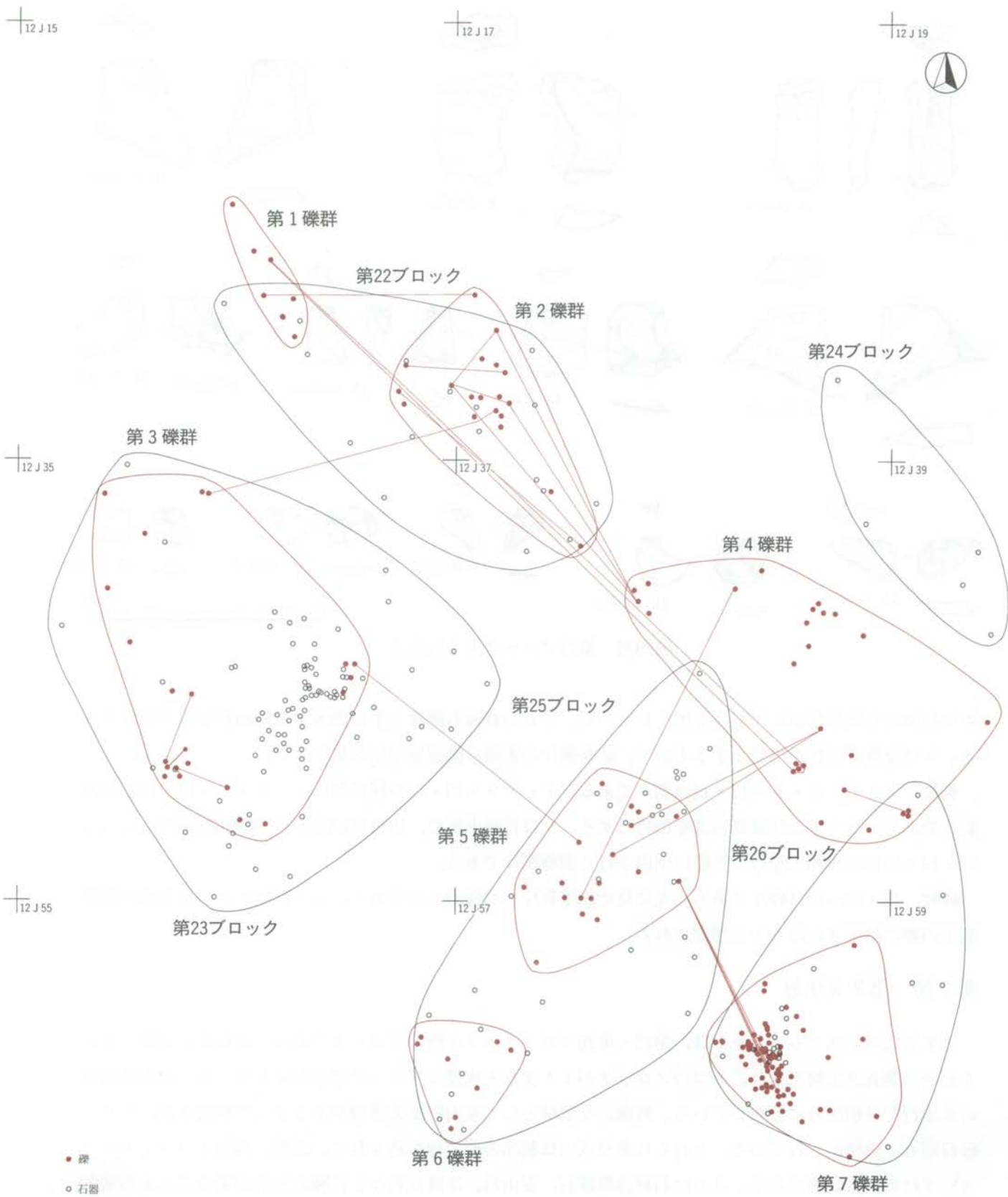
**剥片** 7 a・7 c・9～12・14は剥片である。7 c・9・10・12が縦長剥片，7 a・11・14・15が横長剥片である。9～11は珪質頁岩21を母岩とする。9は背面上端に，10・11は左側縁に原礫面を残している。12・14・15は二次加工を行った際に削出される調整剥片である。

**碎片** 13・16～19は碎片である。先に見た調整剥片と同様のものであり，ここではナイフ形石器の調整加工の際に削出されたものと想定される。

## 第7節 第V文化層

第V文化層に属するブロックは，第22～第26ブロックの5か所のブロックである。これらのブロックは1か所の調査区で検出され，5つのブロックがまとまり大規模なブロック群を形成している。調査区南側の台地背付け根部分に分布している。特徴的な器種として東内野型尖頭器がまとまって検出され，ナイフ形石器も少量検出されている。それらは素材或いは製品の形で持ち込まれて，調整，再加工（メンテナンス）されている状況である。さらに石材は黒曜石，安山岩，珪質頁岩など各種のものがあることも特徴的である。ブロック群の形成を特徴づけているのは，こうしたリダクション・システム的な母岩消費のあり方と，各種石材により生産される東内野型尖頭器石器群である。

また，これらのブロック群には礫群が認められる。本遺跡で検出された礫群はすべて，本文化層に属す



第90図 第V文化層ブロック・礫群分布

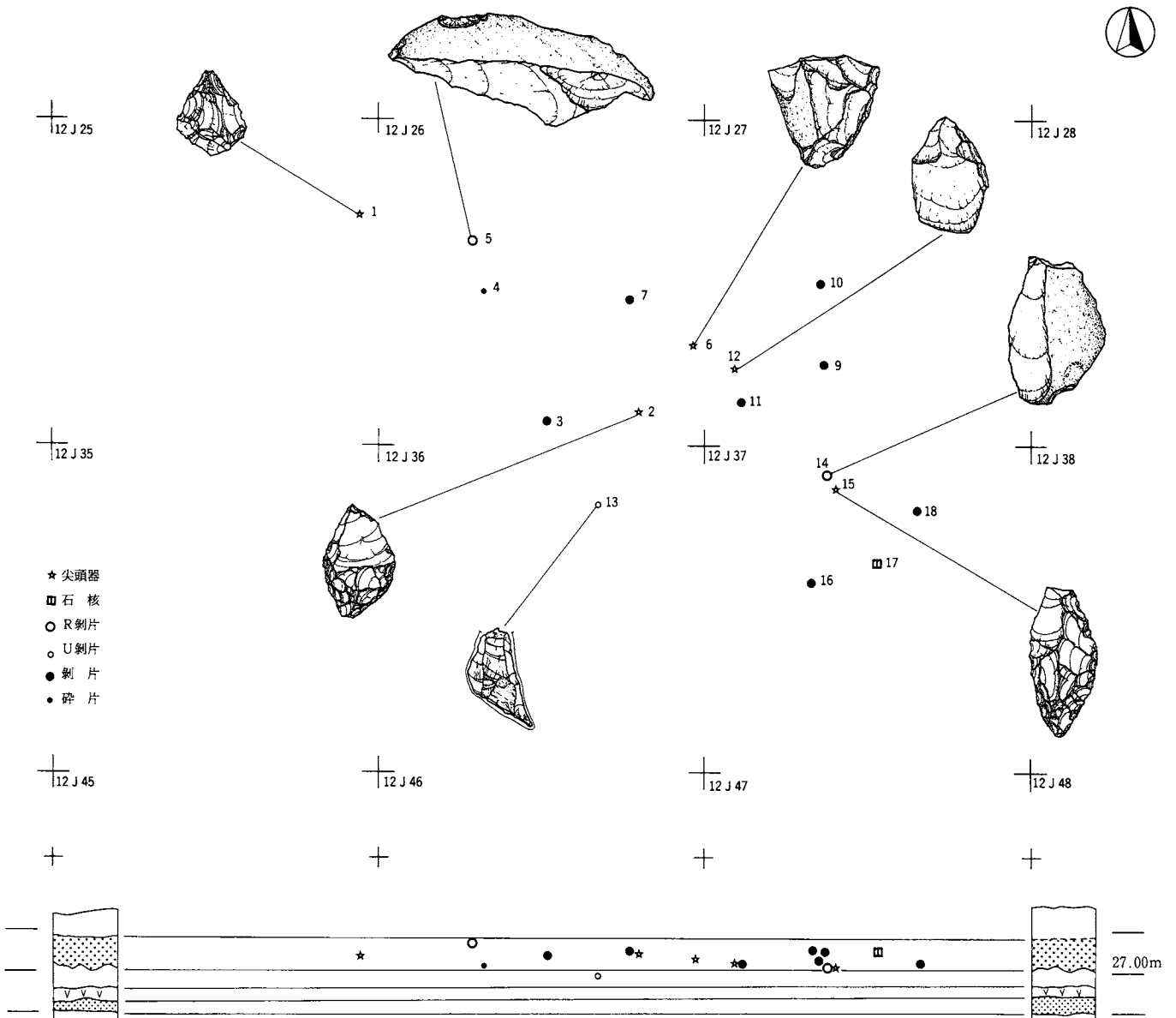


るものである。第1礫群～第7礫群の7か所の礫群が展開している。これらはブロック群に重複するように分布している。

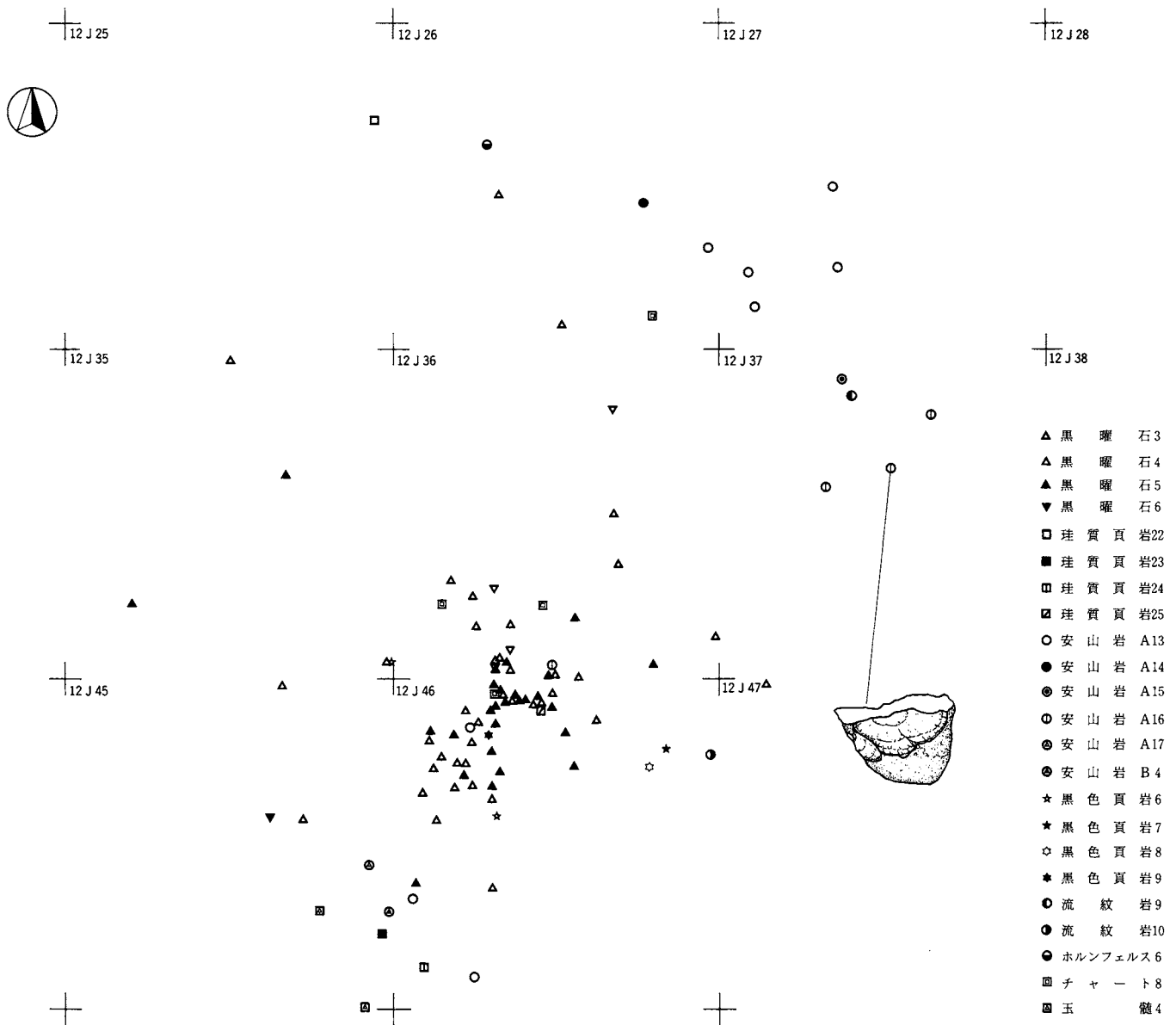
1 第22ブロック (第90～94図, 表33・34, 図版6・21・22)

**分布状況** 調査区南側で調査されたブロックである。ブロック群の北端に位置している。南側に第23ブロックが近接して、南東側に第25ブロックが離れて、東側に第24ブロックが離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積はほぼ水平に堆積している。

遺物総数は18点であり、小規模なブロックである。その分布は散漫である。ブロックの中央部が分布が希薄であり、その周りに散在する状況である。12J 25・26・27区から12J 36・37区にかけて北西-南東方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北4.4m, 東西6.8mを測る。垂直分布ではおよそ0.5mの高低差がある。土層断面への投影では、IV・V層からIII層にかけて分布し、III層下部に遺物が集中しており、産出層位はIII層下部にレベルを求めることが出来る。



第91図 第22ブロック器種別分布

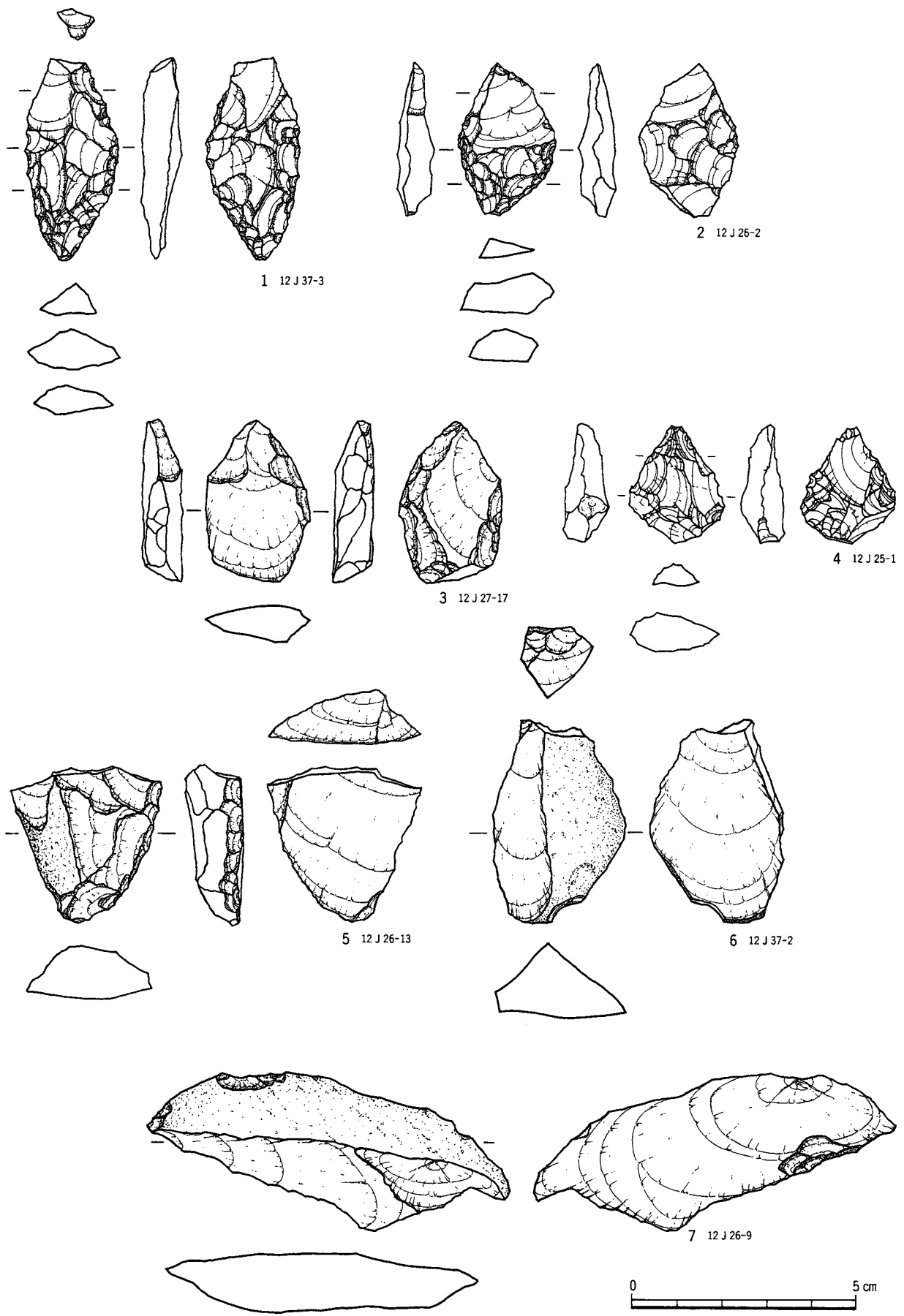


第92図 第22・23ブロック母岩別分布

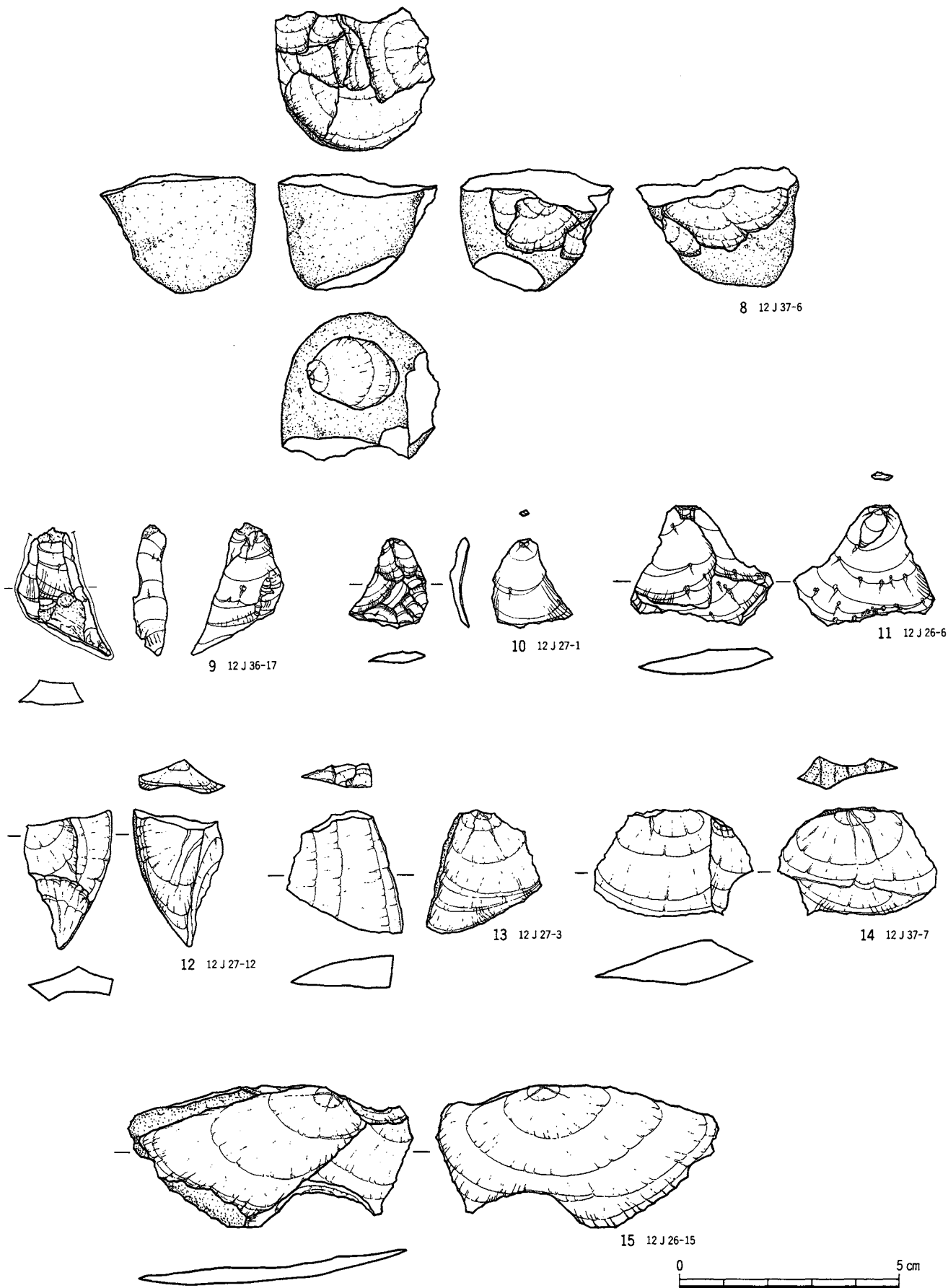
**母岩別資料** 10母岩が認められ、内訳は安山岩A4母岩10点、黒曜石2母岩4点、ホルンフェルス1母岩1点、チャート1母岩1点、珪質頁岩1母岩1点、流紋岩1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、安山岩A13が5点、安山岩A16が3点、黒曜石3が3点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、安山岩A13は北東側にまとまっており、安山岩A16は南東端にまとまっている。母岩と器種の関係では、安山岩A13で尖頭器が2点生産されている。さらに、単独母岩の珪質頁岩21、チャート8、流紋岩8でも尖頭器がそれぞれ生産され、製品の形で搬入されていることが理解される。

**出土遺物** 小規模なブロックであるが、主要な利器は尖頭器5点が検出されて、器種構成に占める製品の割合の高いブロックである。

**尖頭器** 1～5は尖頭器である。1～3が東内野型尖頭器である。1は流紋岩9を母岩とする。表面左側に先端からの平坦な剝離が見られ、先端を欠損する。左側縁の調整はこの剝離の後に行われている。剝



第93図 第22ブロック出土石器1



第94図 第22ブロック出土石器 2

片素材のものと想定され、横断面はやや山形を呈する。2はチャート8を母岩とするものである。表裏に素材面を残し、縦長剥片素材のものであることが想定される。表面左側縁に先端からのやや角度のある平坦剥離が見られる。3・5は安山岩A13を母岩とする。縦長剥片を素材としている。素材の主要剥離面で先端からの平坦剥離が看取される。4は珪質頁岩22を母岩とする。乳白色を呈し珪化度の強いものでオパールである。基部側が膨らむ小型の尖頭器で基部に素材面を残している。5は尖頭器未成品である。表面に礫面を残しており、楕円礫を裁断したような縦長剥片を素材としていることが想定される。上端を欠損する。

**R剥片** 6はR剥片とした。安山岩A15を母岩とする。楕円礫を裁断した縦長剥片の打面部を切断し、その切断面を調整している。背面左側には平坦な剥離が先端から施されている。安山岩Aの石材による東内野型尖頭器の素材の初期段階の形状を示していると想定される。7は礫面を打面とする大形のもので、背腹面に平坦な剥離が集中する。この資料も尖頭器の素材である可能性がある。

**石核** 8は石核である。楕円礫の分割面を打面として、右側面裏面で剥離作業が見られる。また、作業面と打面を入替え分割面での剥片剥離が進行する。

**U剥片** 9はU剥片である。周辺に微細剥離痕が連続する。

**尖頭器調整削片** 10は黒曜石3を母岩とする。東内野型尖頭器の先端からの面取りにより削出された調整削片であり、扇状を呈している

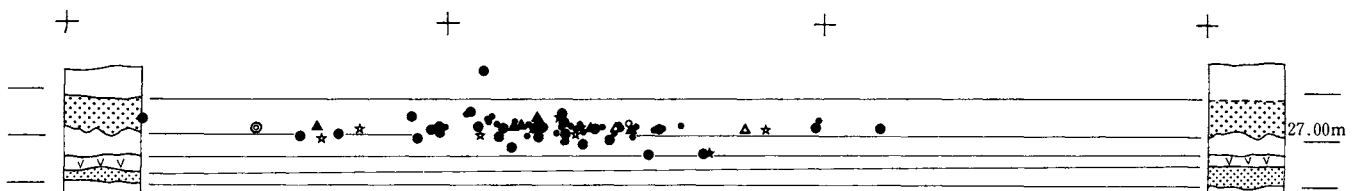
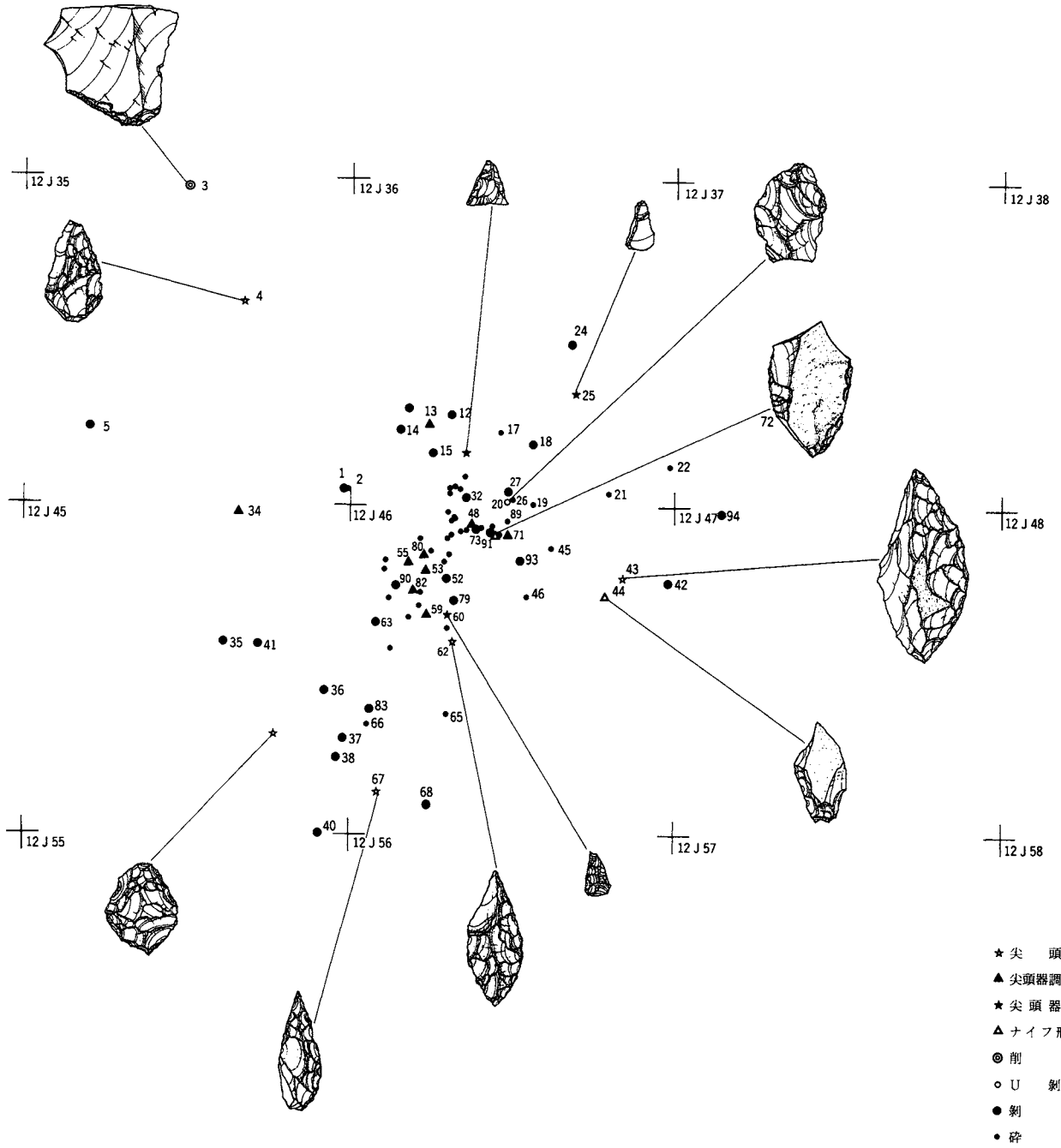
**剥片** 11～15は剥片である。11は尖頭器の調整剥片と思われるもので、周辺調整の際に削出されたものであろうか。12・13は安山岩A13を母岩とする縦長剥片、14は安山岩A16を母岩とした横長剥片である。15は安山岩14を母岩とした大形薄手の横長剥片である。

## 2 第23ブロック (第90・92・95～97図, 表35・36, 図版6・22)

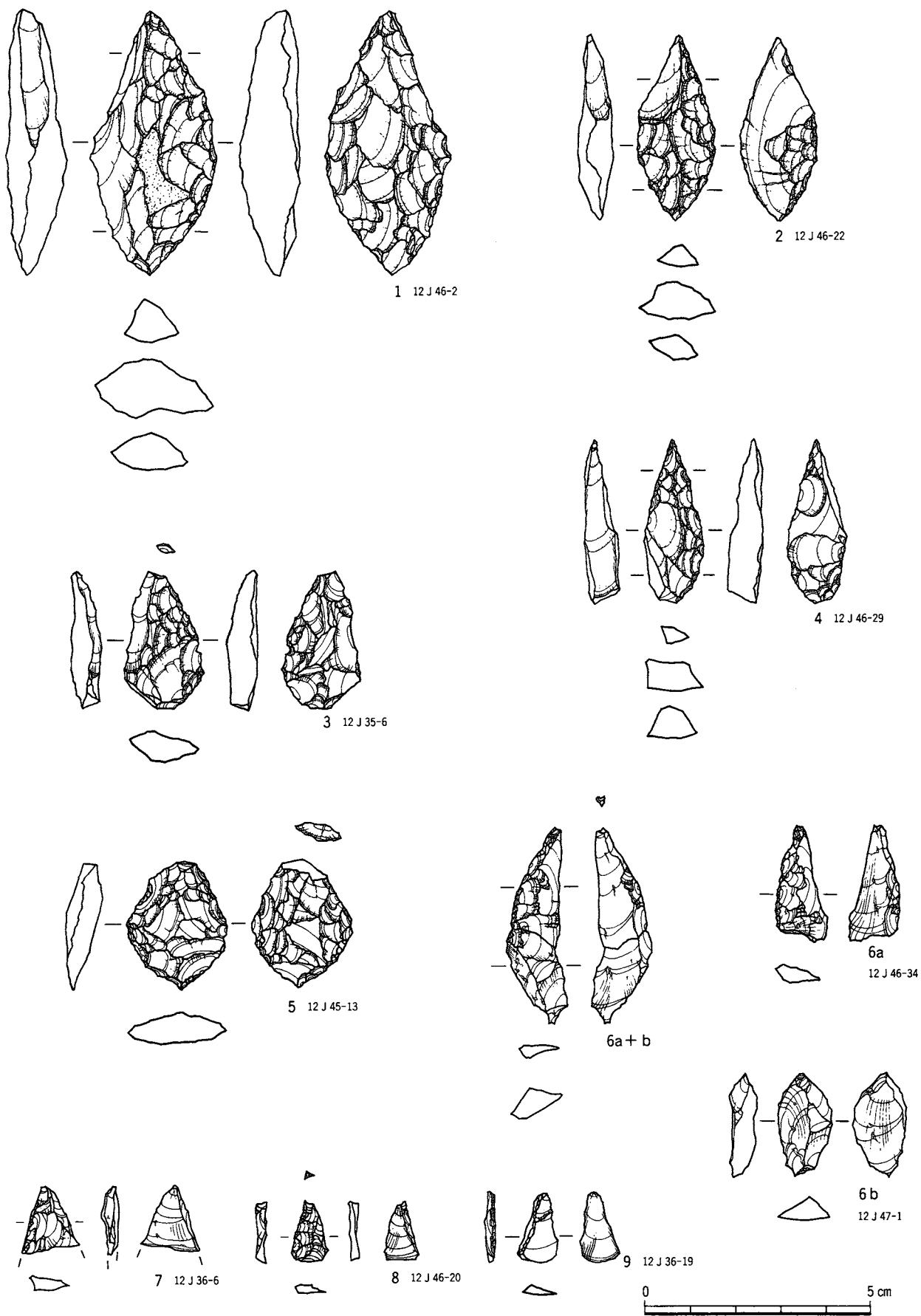
**分布状況** 調査区南側で調査されたブロックである。ブロック群の北西端に位置している。北側に第22ブロックが近接して、南東側に第25ブロックが離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積は僅かに西側に傾斜して堆積している。

遺物総数は94点であり、大規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの中央部に密集部があり放射状に分布が希薄になるが、北東側は数m離れて点在する状況である。12J35・36区から12J45・46・47区にかけて北西-南東方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北8.0m、東西7.8mを測る。垂直分布ではおよそ0.5mの高低差がある。土層断面への投影では、IV・V層からIII層にかけて分布し、III層下部に遺物が集中しており、産出層位はIII層下部にレベルを求めることが出来る。

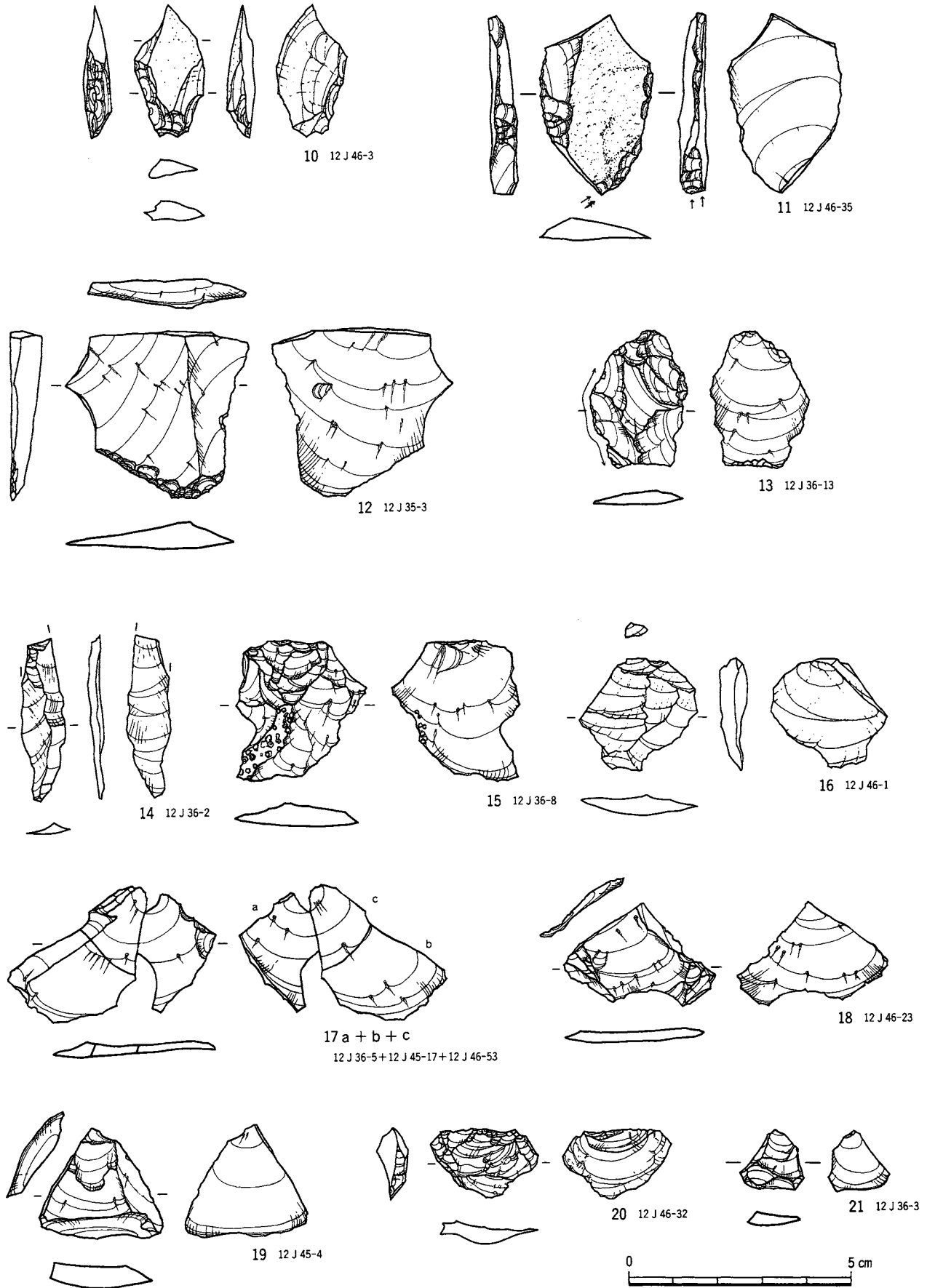
**母岩別資料** 18母岩が認められ、内訳は、黒曜石4母岩74点、安山岩A3母岩5点、黒色頁岩4母岩5点、珪質頁岩3母岩3点、チャート1母岩3点、玉髓1母岩2点、流紋岩1母岩1点、安山岩B1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石3が43点、黒曜石5が27点、黒曜石4が3点、安山岩A13が3点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、黒曜石3・黒曜石5は分布の全域に広がっている。単独の母岩或いはごく少数で構成される母岩は分布の周縁に分布する傾向が見られる。母岩と器種の関係では、黒曜石6で尖頭器が1点生産されるが、他の尖頭器は単独或いは2点で構成される母岩であり、製品の形で搬入されていることが理解される。主要な母岩である黒曜石3からは、削片が1点検出される他は、碎片・剥片が多量に生産され、尖頭器の調整削片も5点検出されている。当ブロックで生産或いはメンテナンスされた尖頭器は搬出されていることが考えられる。



第95図 第23ブロック器種別分布



第96図 第23ブロック出土石器 1



第97図 第23ブロック出土石器 2



**出土遺物** 大規模なブロックであり、主要な利器は尖頭器 5 点、ナイフ形石器 2 点が検出されて、他に削器 1 点が検出されている。

**尖頭器** 1～5 は尖頭器である。1～4 が東内野型尖頭器である。1 は黒色頁岩 7 を母岩とする。表面が風化して灰褐色を呈する母岩である。表面に素材の礫面を残す大形のもので、表面左側に先端からの角度のある平坦剥離が見られる。左側縁の調整はこの剥離の前に行われている。2 は黒色頁岩 6 を母岩とする。横長剥片を素材として横位に打面部を設定して器体を整形している。先端を鋭角にするような先端からの平坦剥離が見られる。左側縁の調整はこの剥離の前に行われている。3 は黒曜石 5 を母岩とする。下半部が膨らむ小形のもので、先端から突き抜けるような平坦加工が左側縁に見られる。左側縁の調整はこの剥離前に行われている。4 は珪質頁岩 24 を母岩とする。細身の器体の左側縁を裁断するような先端からの剥離が見られる。この面を打点に左側縁上半の調整が認められる。

**尖頭器調整削片** 6～9 は尖頭器調整削片である。6 a・b, 8 は黒曜石 5 を母岩とする。7・9 は黒曜石 3 を母岩とする。6 a・b は器体の下端部が欠損したものが接合した。7 も下端部を欠損するもので扇状に広がる。8 は小形のもので先行する細かな調整が背面を覆う。9 も小形扇状のものであるが、側縁からの調整は疎らで背面に素材の剥離面を残している。

**ナイフ形石器** 10・11 はナイフ形石器とした。10 は黒色頁岩 8 の単独母岩である。10 は横長剥片を素材として、横位に用いている。基部側の両側縁に調整が施される。形状は先端が鋭角となるペン先を呈するもので、東内野尖頭器に伴出する特徴的な形態である。11 は珪質頁岩 25 を母岩とする。素材の縦長剥片を斜めに用い、基部が尖るように調整加工される。先端は切断状の加工により、挿入する鋭角な先端部を形成する。10 と同様に特徴的な形態である。

**削器** 12 は削器である。幅広平坦な縦長剥片の末端部を鋭角に断ち割るような急角度の調整加工が連続している。

**U 剥片** 13 は U 剥片とした。器体の左側縁に刃こぼれ状の微細剥離痕が看取される。背面は両側縁からの剥離面が観察され、尖頭器の器面を大きく剥がした剥片であることが想定される。

**剥片** 14～21 は剥片である。14 は細長い石刃状の縦長剥片である。15 は打面側の細かな剥離が顕著である。16 は流紋岩 10 を母岩とするものである。17・18・20・21 は黒曜石 3 を母岩とするものである。19 は黒曜石 6 を母岩としている。明確に尖頭器の調整削片と認識されるのは 21 のみであるが、その後も尖頭器の器体整形の初期段階で剥がされたものであろうか。21 は主要剥離方向に対向する平坦剥離が看取される。

### 3 第 24 ブロック (第 98～100 図, 表 37・38, 図版 6・23)

**分布状況** 調査区南側で調査されたブロックである。ブロック群の北東端に位置している。西側に第 22 ブロックが離れて、南西側に第 25 ブロック・第 26 ブロックが数 m 離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積はほぼ水平に堆積している。

遺物総数は 5 点であり、小規模なブロックである。その分布は散漫である。各遺物が数 10cm～数 m 離れて点在する状況である。12 J 28 区から 12 J 38・39 区にかけて北西－南東方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北 4.6m, 東西 3.1m を測る。垂直分布ではおよそ 0.2m の高低差がある。土層断面への投影ではやや高く投影され、III 層に分布し、III 層中部に遺物が集中している。産出層位は III 層にレベルを求めることが出来る。

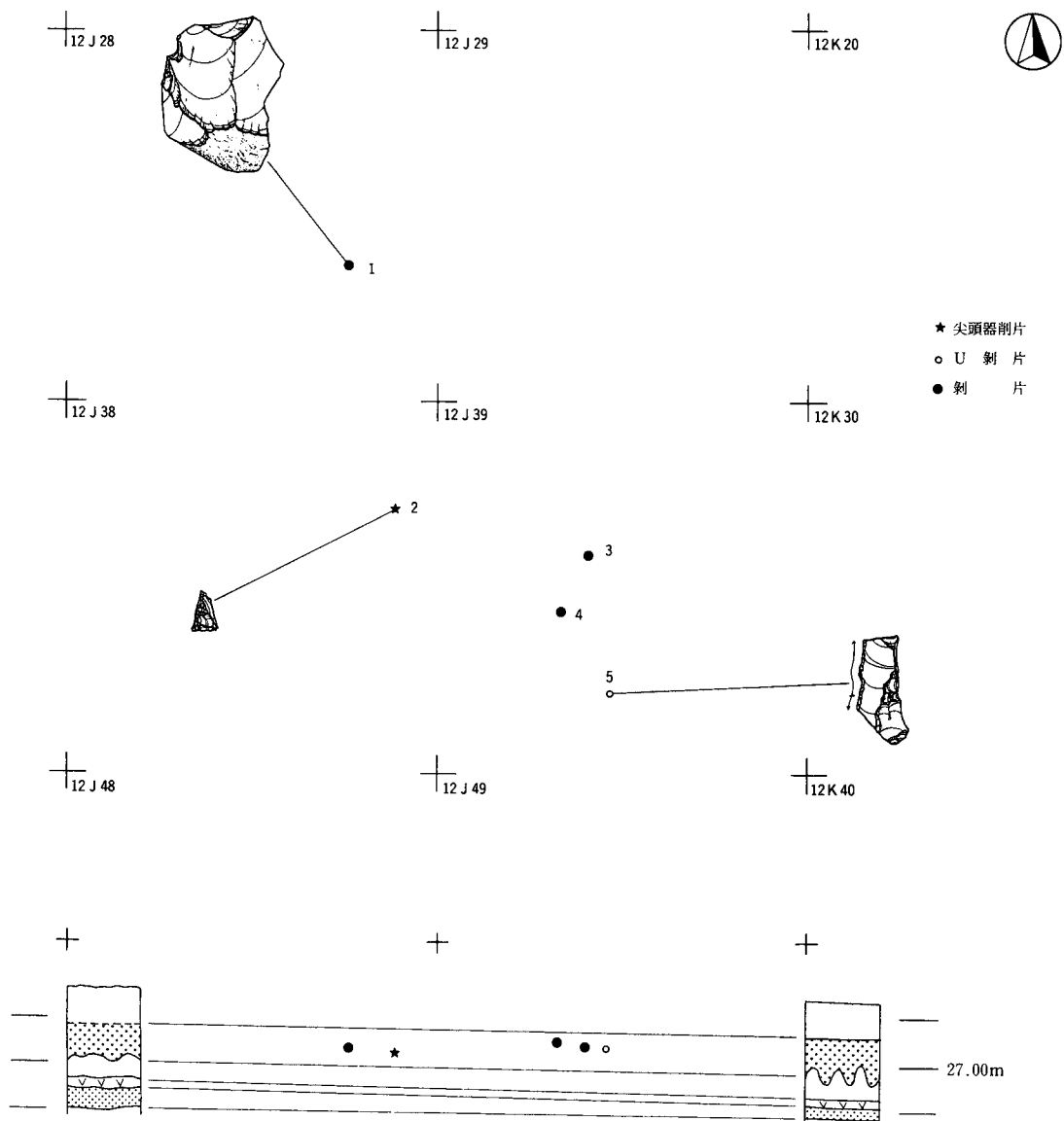
**母岩別資料** 2 母岩が認められ、内訳は、黒曜石 1 母岩 4 点、珪質頁岩 1 母岩 1 点である。点数の多い

母岩を挙げると、黒曜石4が4点であり、母岩構成の大部分を占めている。母岩の分布を見ると、黒曜石4は分布の南東側に散在している。単独母岩の珪質頁岩26は北西端に離れて点在する。母岩と器種の関係では、主要な利器は生産されず、黒曜石4でU剥片と尖頭器調整削片がそれぞれ1点生産されるのみである。

**出土遺物** 小規模なブロックであり、主要な利器は検出されていない。他にはU剥片1点、尖頭器調整削片1点が検出されている。

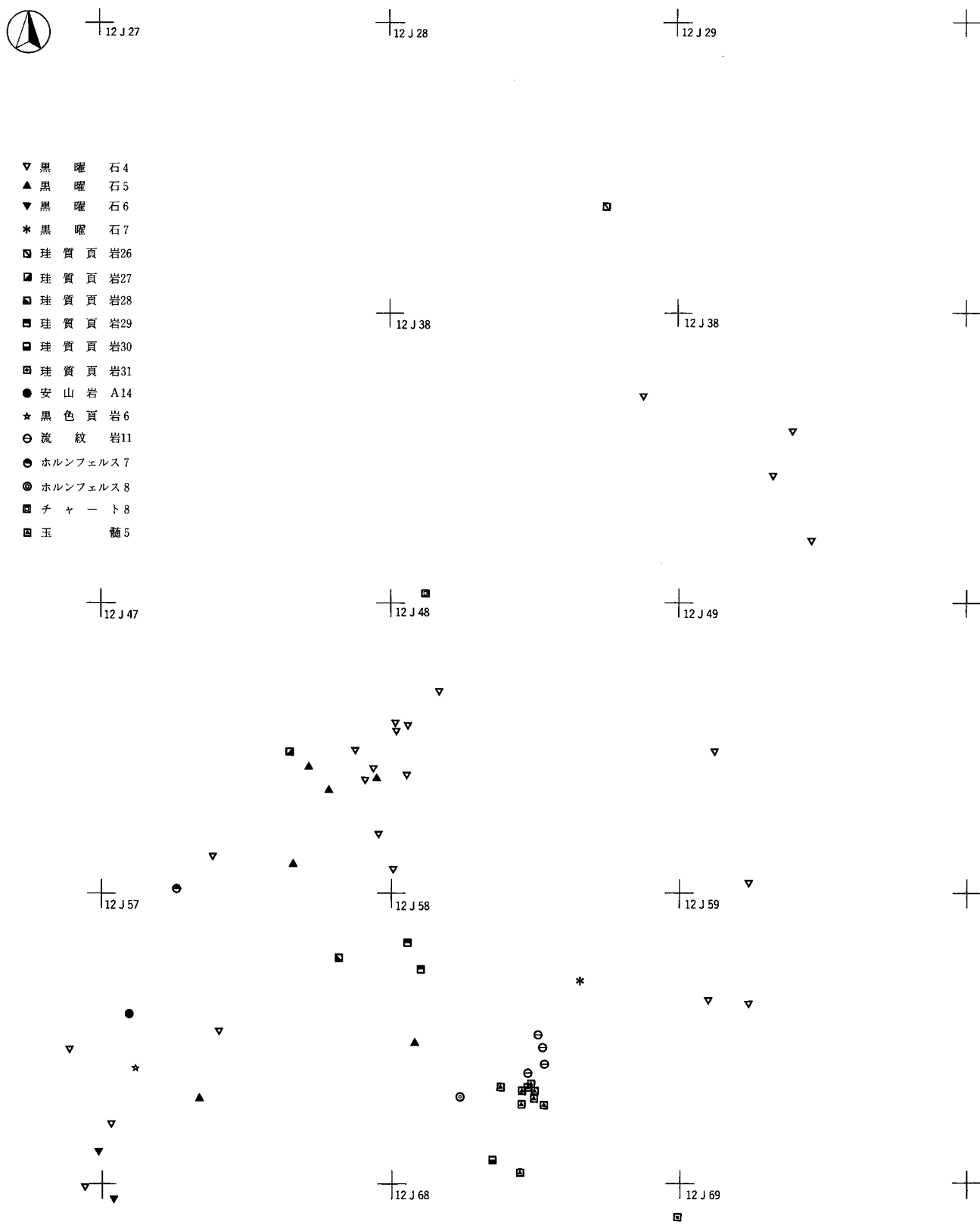
**尖頭器調整削片** 1は尖頭器調整削片である。黒曜石4を母岩とする。小形の扇状の削片で裏面に先行する尖頭器の調整痕が残っている。

**U剥片** 2はU剥片とした。器体裏面や右側縁に先行する調整が残っており、器体の再生に介在する削片であることが理解されるが、尖頭器調整削片とは判然としないためU剥片とした。左側縁に連続した微細剥離痕が看取され、これ自体が利器として使用されていたことを物語っている。

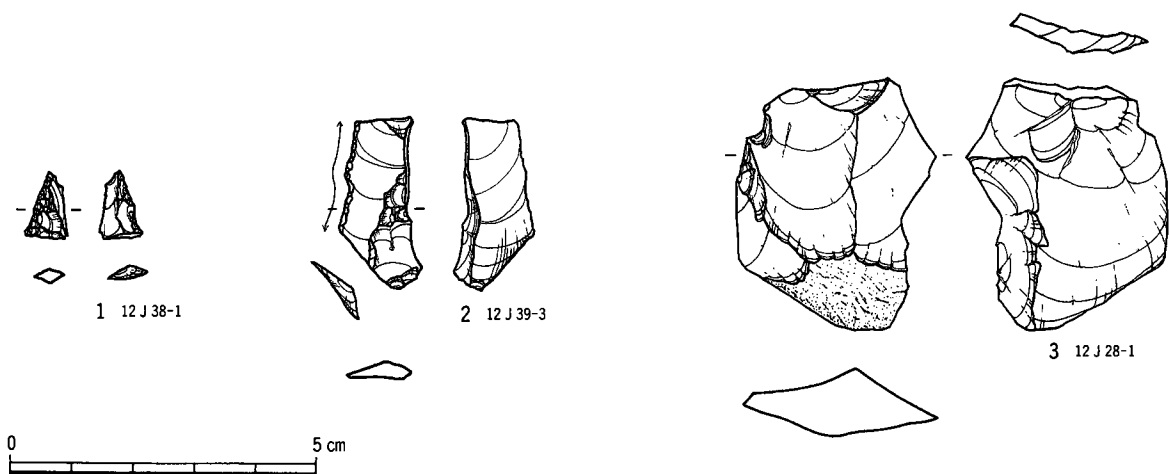


第98図 第24ブロック器種別分布

剥片 3は剥片である。珩質頁岩26を母岩とする。黄白色の凝灰岩質の石材である。やや大形で厚みのある縦長剥片で下端部に礫面を残している。裏面の剥離痕は節理面で割れたもので二次加工ではない。



第99図 第24～26ブロック母岩別分布



第100図 第24ブロック出土石器

#### 4 第25ブロック (第99・101・102図, 表39・40, 図版6・23)

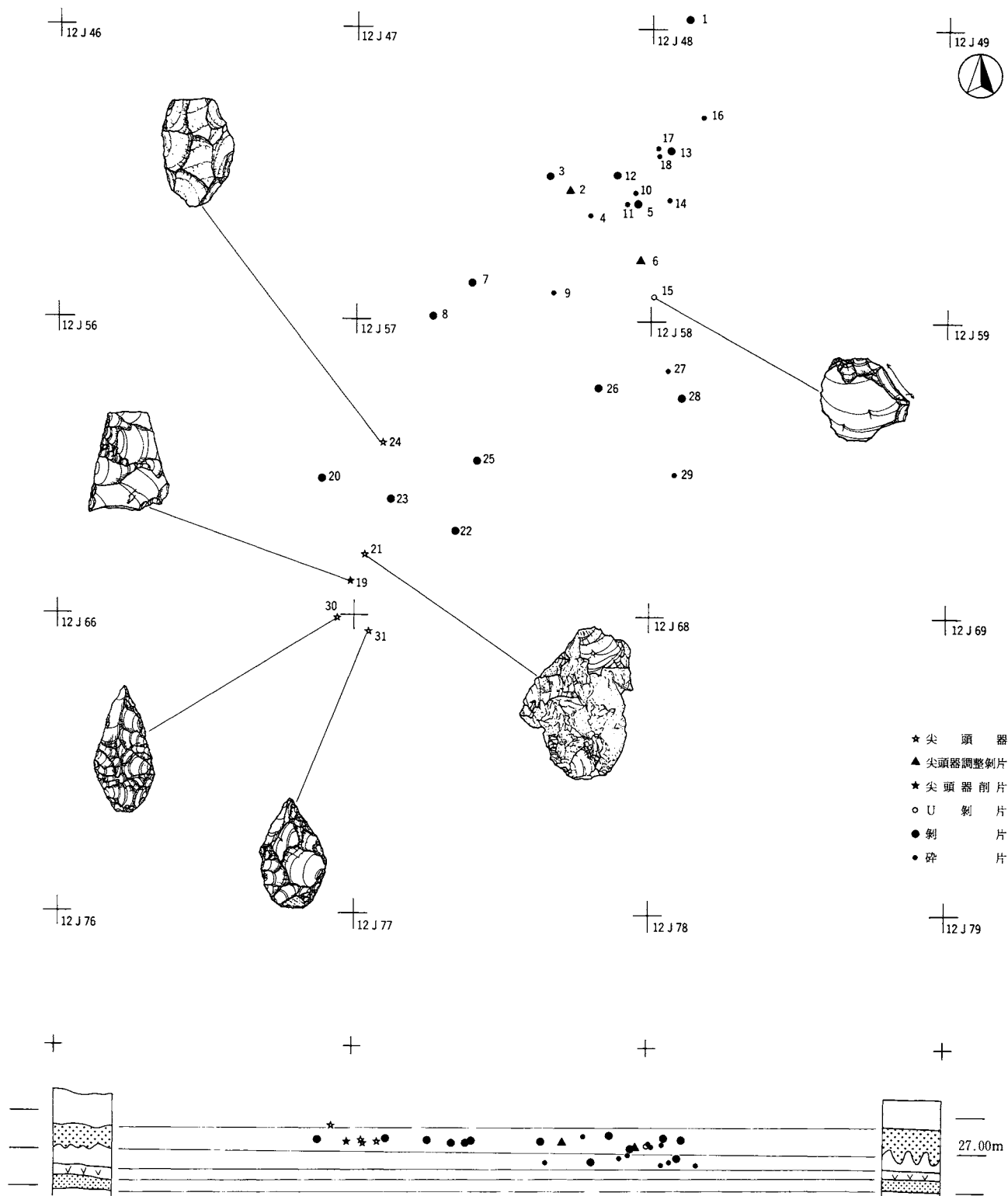
**分布状況** 調査区南側で調査されたブロックである。ブロック群の南端に位置している。北西側に第22ブロック・第23ブロックがやや離れて、北東側に第24ブロックが離れて、西側に第26ブロックが近接して分布する。現況では、立川ローム層の堆積は僅かに西側に傾斜して堆積している。

遺物総数は31点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの北東端にややまとまる部分があり、そこから南西側に遺物が散在する状況である。12J38・47・48区から12J56・57・58・66・67区にかけて北東-南西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北8.4m, 東西5.2mを測る。垂直分布ではおよそ0.6mの高低差がある。土層断面への投影では、IV・V層からIII層にかけて分布し、III層下部に遺物が集中しており、産出層位はIII層下部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 10母岩が認められ、内訳は、黒曜石3母岩23点、珪質頁岩3母岩4点、安山岩A1母岩1点、黒色頁岩1母岩1点、チャート1母岩1点、ホルンフェルス1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、黒曜石4が15点、黒曜石5が6点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、黒曜石4・黒曜石5は分布の全域に広がっている。単独の母岩或いはごく少数で構成される母岩は分布の周縁に分布する。母岩と器種の関係では、黒曜石4で尖頭器が2点生産されている。他の尖頭器は単独で構成される母岩であり、製品の形で搬入されている。当ブロックの南西側に尖頭器類はまとまって分布している。主要な母岩である黒曜石4からは、碎片・剥片が生産され、尖頭器調整剥片、尖頭器調整削片も検出されている。

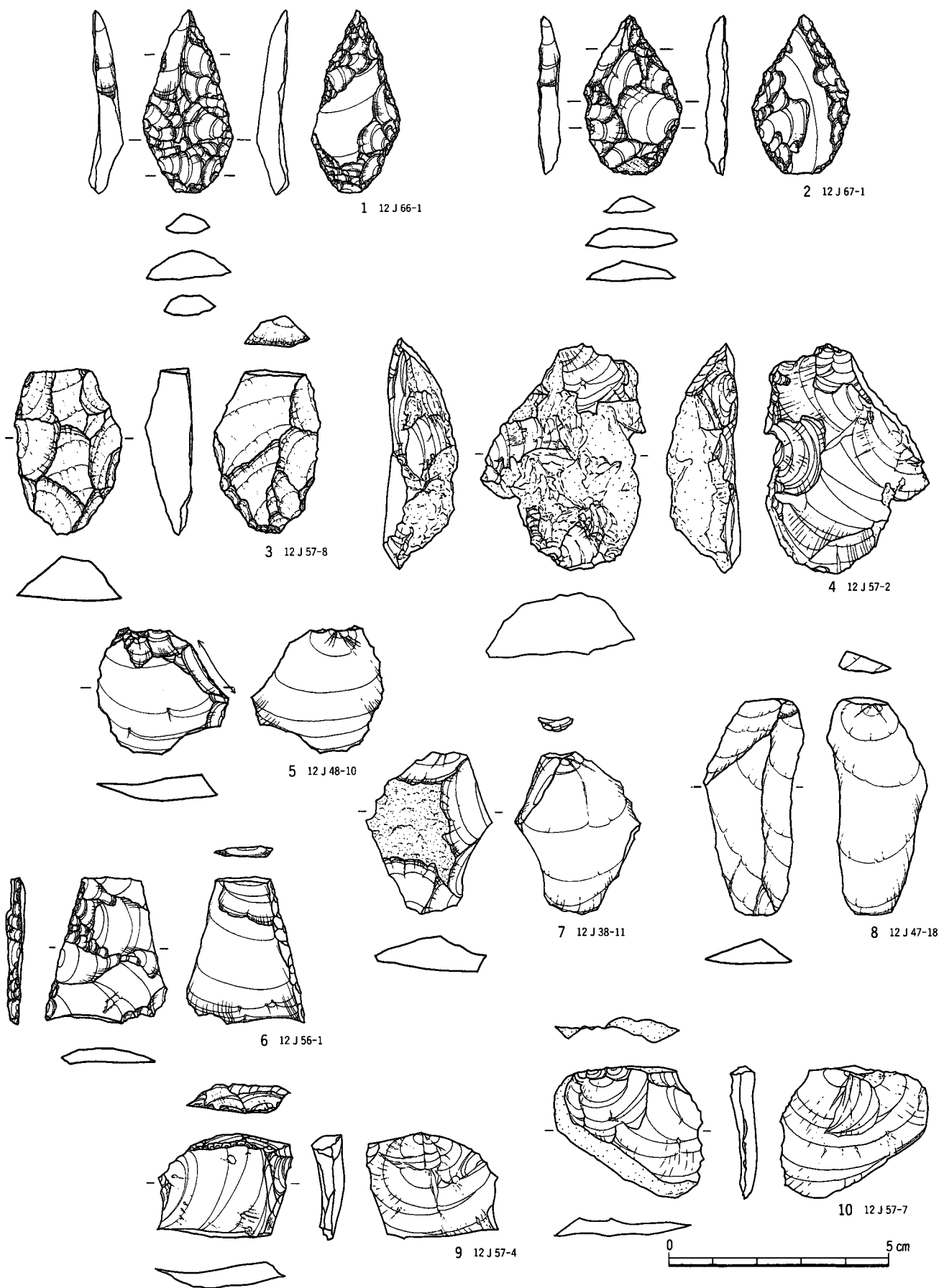
**出土遺物** 中規模なブロックであり、主要な利器は尖頭器4点が検出されて、他にU剥片1点が検出されているのみである。

**尖頭器** 1～4は尖頭器である。1・2が東内野型尖頭器である。1は黒曜石4を母岩とする。縦長剥片を素材としており、横断面形は蒲鉾形を呈し下端部が膨らむ平面形状を呈する。先端から左側縁上半部に平坦な面取りが見られる。面取り後に背面左側縁、裏面先端部が調整加工され直線的で鋭角な先端部に整形している。2は黒曜石6を母岩とするものである。横長剥片を横位に設定してやや幅広の平面形状となるものである。先端から左側縁に平坦な面取りが施されている。面取り後に左側縁下半部の調整と面取り面からの裏面調整が行われている。3は安山岩A14を母岩とする。上端が欠損する。縦長剥片を斜めに



第101図 第25ブロック器種別分布

設定している。比較的平坦幅広な剥離により器面が覆われ、尖頭器の未成品段階のものと思われる。4は尖頭器の未成品である。背面は原礫面で覆われており、搬入素材の状況を示す資料である。素材の背面で上下からの平坦剥離、裏面で上端からの剥離と横からの幅広平坦な剥離が観察される。



第102図 第25ブロック出土石器

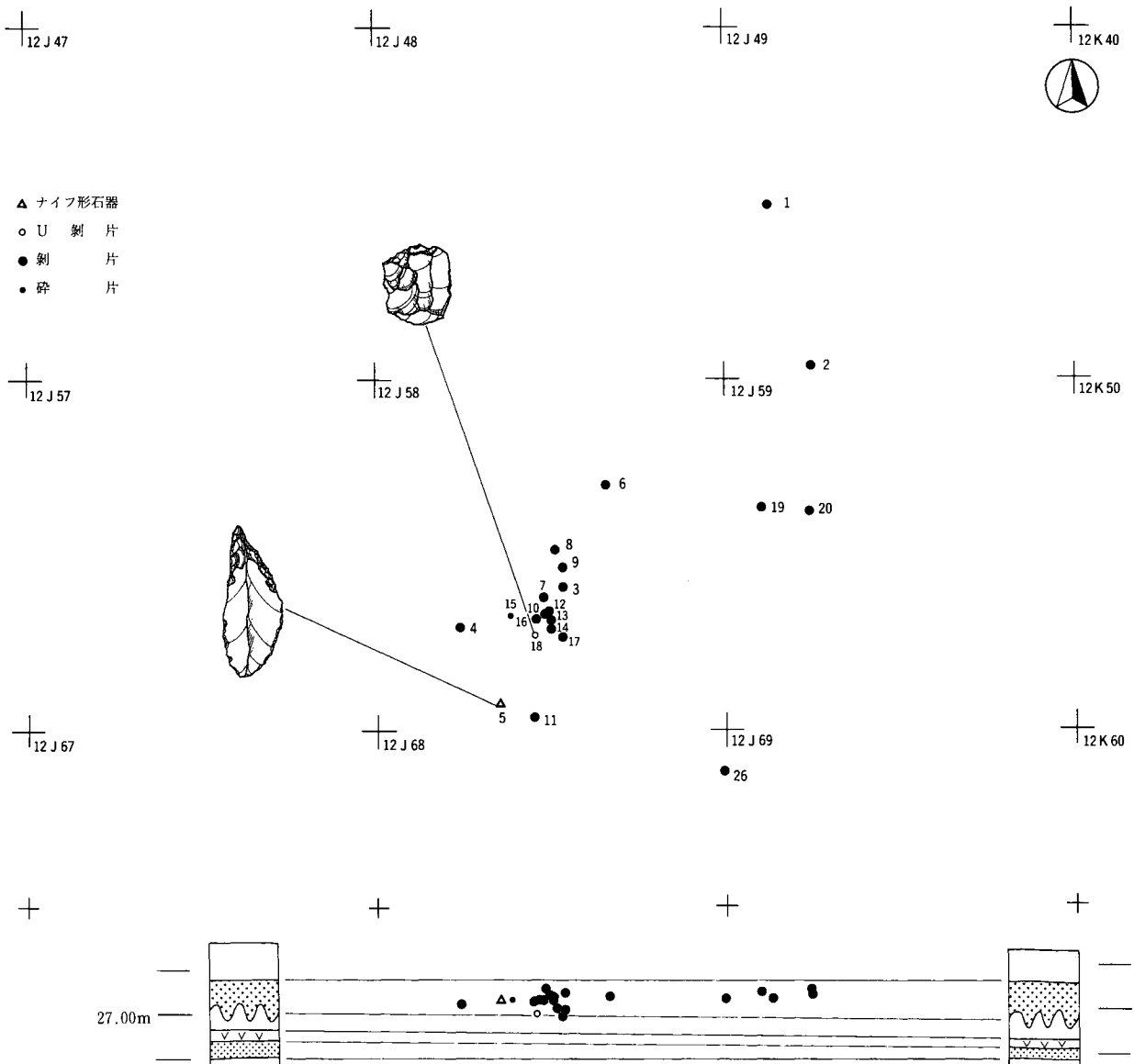
**U剥片** 5はU剥片である。幅広な剥片の右側縁肩に微細剥離痕が連続する。

**尖頭器調整削片** 6は尖頭器調整削片である。黒曜石6を母岩とする。上端を欠損するが、薄手大形のものである。幅広な面取りが行われていることを示している。右側縁、端部には使用痕が観察されないが、背面左側縁の先行する調整加工面と裏面の稜には微細な剥離痕が連続し、調整加工と区別が付かないが使用痕の可能性もある。

**剥片** 7～10は剥片である。7・8は縦長剥片で、9・10が横長剥片である。7はチャート8を母岩とし、背面に広く礫面を残す。8はホルンフェルス7を母岩とする石刃状の剥片である。9は黒曜石5を母岩とするもので、打面調整が顕著である。10は黒色頁岩6を母岩とするもので、打面及び左側縁から下部が礫面である。

5 第26ブロック（第99・103～106図，表41・42，図版6・23・24）

**分布状況** 調査区南側で調査されたブロックである。ブロック群の南西端に位置している。西側に第25

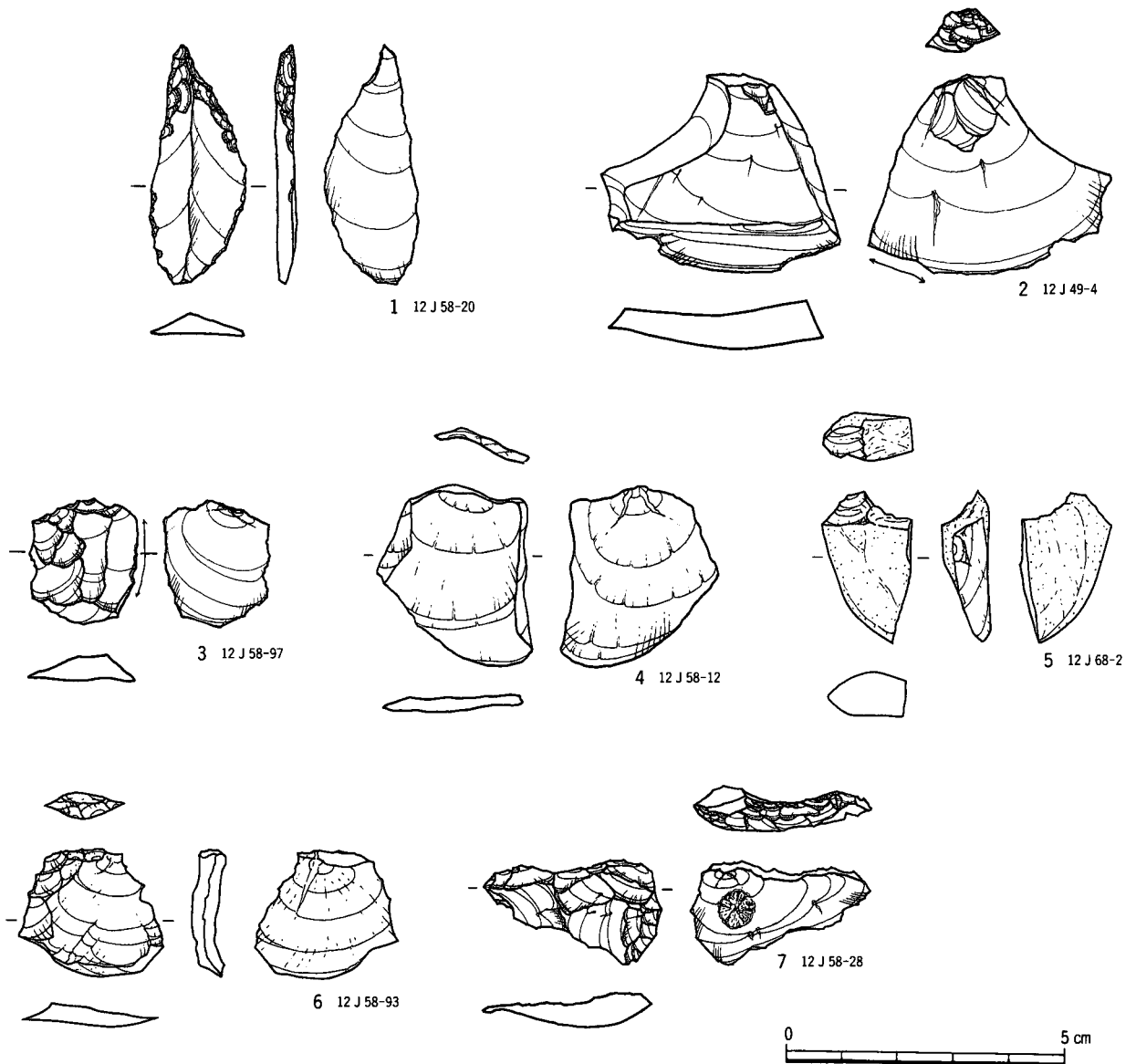


第103図 第26ブロック器種別分布

ブロックが近接して、北側に第24ブロックが離れて分布する。現況では、立川ローム層の堆積は僅かに東側に傾斜して堆積している。

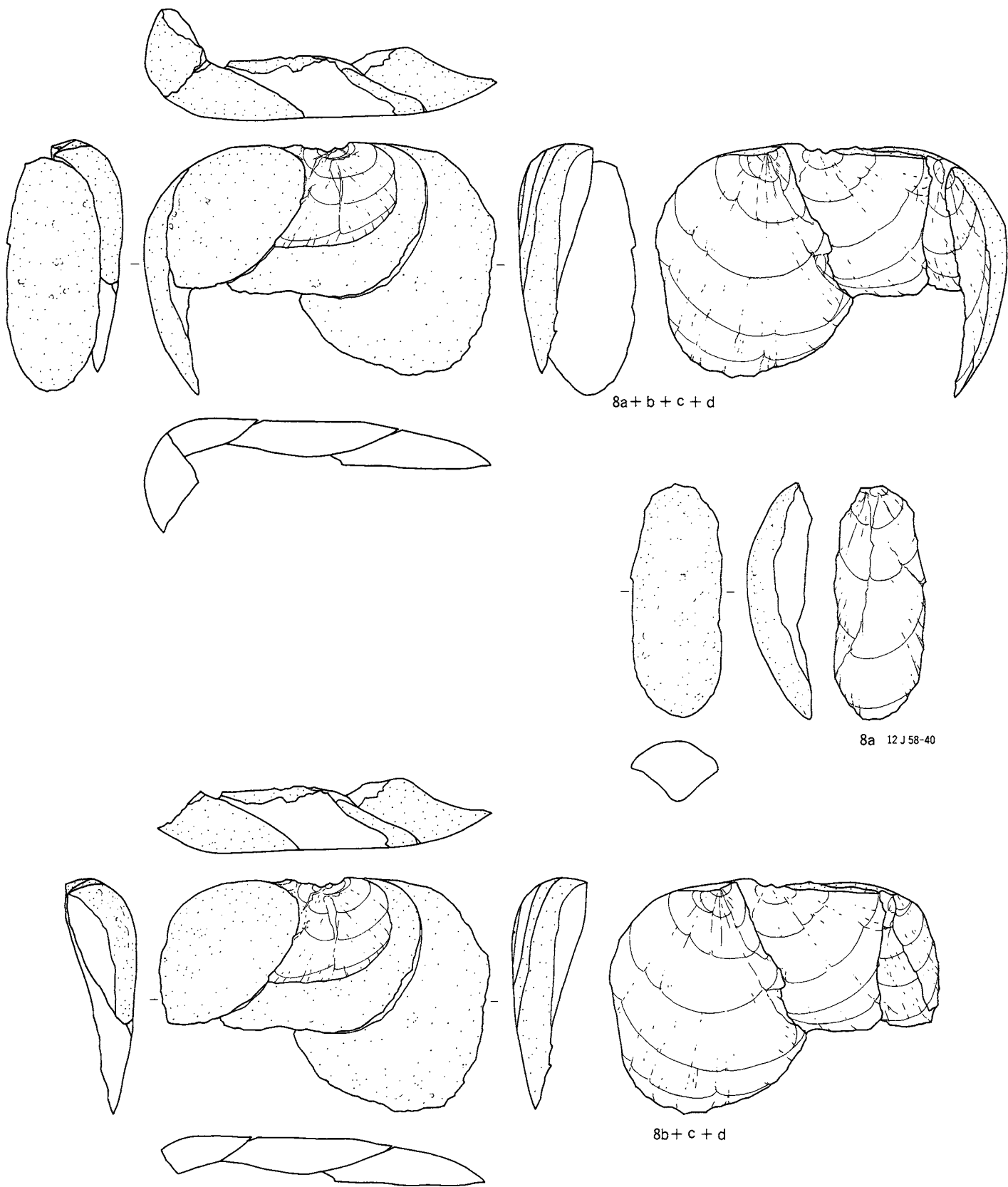
遺物総数は21点であり、中規模なブロックである。その分布は比較的まとまっている。ブロックの南西端にややまとまる部分があり、そこから北東から西側に遺物が離れて点在する状況である。12J 49区から12J 58・59区にかけて北東-南西方向に長い楕円形状に分布する。分布範囲は南北6.4m、東西4.1mを測る。垂直分布ではおよそ0.4mの高低差がある。土層断面への投影では、IV・V層上面からIII層にかけて分布し、III層下部に遺物が集中しており、産出層位はIII層下部にレベルを求めることが出来る。

**母岩別資料** 7母岩が認められ、内訳は、玉髓1母岩9点、流紋岩1母岩4点、黒曜石2母岩5点、珪質頁岩2母岩2点、ホルンフェルス1母岩1点である。点数の多い母岩を挙げると、玉髓5が9点、流紋岩11が4点、黒曜石4が4点であり、母岩構成の主体を占めている。母岩の分布を見ると、玉髓5は南西の密集部から西側に、流紋岩は密集部に、黒曜石4は北西側に離れて分布している。母岩と器種の関係では、珪質頁岩30でナイフ形石器が1点生産される。主要な母岩である玉髓5からは、U剥片が1点検出さ



第104図 第26ブロック出土石器 1

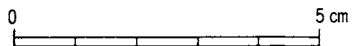




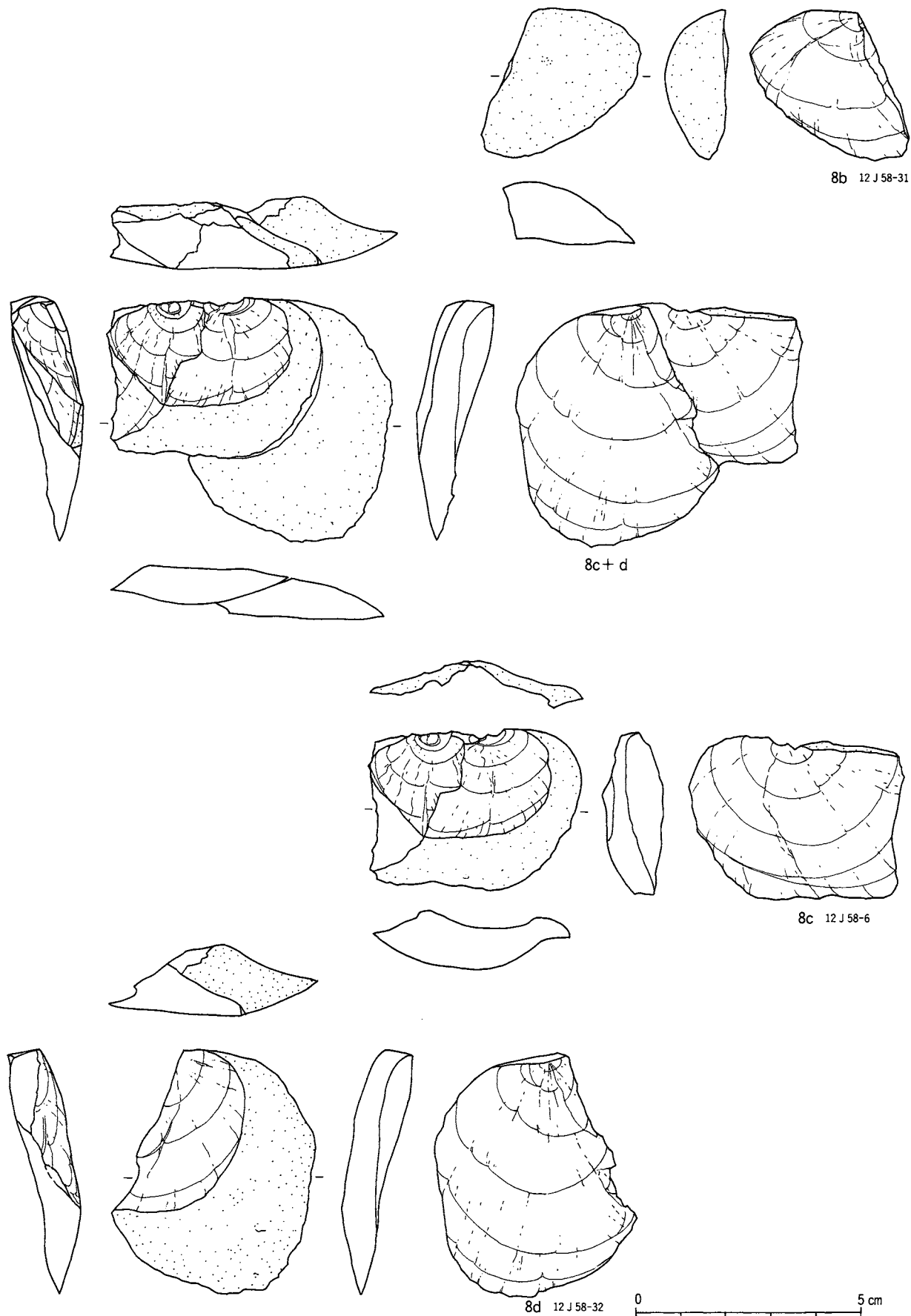
8a + b + c + d

8a 12 J 58-40

8b + c + d



第105図 第26ブロック出土石器 2



第106図 第26ブロック出土石器 3

れる他は剥片・碎片が生産されている。

**出土遺物** 中規模なブロックであるが、主要な利器はナイフ形石器 1 点が検出されるのみである。他に U 剥片 1 点が検出されている。

**ナイフ形石器** 1 はナイフ形石器である。単独母岩の珪質頁岩30を母岩とする。母岩は褐色の色調で白色斑晶が胡麻塩状に斑に入る特徴的な珪質頁岩である。縦長剥片を縦位に用いて、素材の打面部を両側縁から調整加工して尖った先端部に整形している。右側縁から左側縁下半部には切断状の細かな調整が施されている。平面形状は下半部が丸みを持ち先端部が細く尖る形状を呈している。

**U 剥片** 3 は U 剥片である。玉髓 5 を母岩とする。右側縁に刃こぼれ状の微細剥離痕が見られる。

**剥片** 2・4～8 は剥片である。2 は黒曜石 4 を母岩とする。扇状に開く形状を呈し、厚みのあるものである。4 はホルンフェルス 8 を母岩とするものである。5 は珪質頁岩31を母岩とするもので、扁平礫から節理を利用して剥がされている。6 は玉髓 5 を母岩とするもので、打面が調整されている。7 は単独母岩の黒曜石 7 を母岩とするもので、尖頭器の調整剥片と思われる。8 a～d は剥片の接合資料である。流紋岩11を母岩とする。楕円礫の上端部から剥離され、8 a が剥離され、続いて 8 b が削出される。正面で 1 回ほどの剥離が行われた後、8 c が削出され、続いて 8 d が削出されている。剥片剥離は、端部を左から右に打点移動して比較的幅広な剥片を削出している。

## 第 8 節 礫群

本遺跡からは 7 か所で礫の集中が確認された。各礫群は分布状況、出土層位からすべて第 V 文化層に属するものである。それぞれの礫群は第 22 ブロック～第 26 に対応するように分布している。

### 1 第 1 礫群 (第 90・107・110・111 図, 表 43, 図版 6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の北西端に分布している。第 22 ブロックと分布が重複する。

礫総点数は 7 点、総重量は 174.9 g である。分布状況は散在している。12 J 15・26 区に北西－南東に細長い楕円形に分布する。分布範囲は南北 2.4 m、東西 1.2 m を測る。垂直分布はおよそ 0.4 m の高低差がある。

礫の属性をみると、礫の重量は最大 65.5 g、最小 6.6 g で平均 25.0 g である。重量分布は 5 g～30 g で 6 点と高い比率を示す。石材が砂岩 3 点 (42.86%)、流紋岩 2 点 (28.57%)、チャート 2 点 (28.57%) であり、砂岩が主体を占める。遺存度は d ランク 6 点 (85.71%) であり、完形礫の 50% 以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で 1 ランクが 4 点 (57.14%)

で、薄く赤化するものが多い。付着物はスス状付着物が 1 点 (14.29%) 認められる。接合は 2 個体 2 点で確認された。

### 2 第 2 礫群 (第 90・107・110・111 図, 表 44, 図版 6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の北端に分布している。第 22 ブロックと分布が重複する。

礫総点数は 23 点、総重量は 552.72 g である。分布状況は比較的まとまっている。12 J 26・27 区から 12 J 37 区にかけて北西－南東に細長い楕円形に分布する。分布範囲は南北 4.4 m、東西 3.4 m を測る。垂直分布はおよそ 0.6 m の高低差がある。

礫の属性をみると、礫の重量は最大 102.0 g、最小 1.2 g で平均 24.0 g である。重量分布は 0 g～15 g で

11点と高い比率を示すが、15g～45gでも10点と万遍なく分布する。石材が砂岩12点(52.17%)、流紋岩5点(21.74%)、ホルンフェルス3点(13.04%)、凝灰岩2点(8.70%)、チャート1点(4.35%)であり、砂岩が主体を占める。遺存度はdランク21点(84.35%)であり、完形礫の50%以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で1ランクが10点(43.47%)、2ランクが9点(39.13%)で、薄く～中間的な赤化を示すものが多い。付着物はスス状付着物が8点(34.78%)認められる。接合は8個体14点で確認された。

### 3 第3礫群(第90・107・110・111図, 表45, 図版6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の西端に分布している。第23ブロックと分布が重複する。

礫総点数は22点、総重量は700.9gである。分布状況は散在している。12J35・36区から12J45・46区にかけて北西-南東に長い楕円形に分布する。分布範囲は南北6.0m、東西4.8mを測る。垂直分布はおよそ0.5mの高低差がある。

礫の属性をみると、礫の重量は最大153.9g、最小0.1gで平均31.8gである。重量分布は0g～30gで17点と高い比率を示す。石材が流紋岩10点(45.45%)、砂岩5点(22.73%)、チャート4点(18.18%)、ホルンフェルス2点(9.10%)、珪質頁岩1点(4.55%)、であり、流紋岩が主体を占める。遺存度はdランク18点(81.81%)であり、完形礫の50%以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で2ランクが10点(45.45%)、1ランクが8点(36.36%)で、中間的な赤化から薄く赤化を示すものが多い。付着物はスス状付着物が3点(13.63%)認められる。接合は9個体14点で確認された。

### 4 第4礫群(第90・108・110・111図, 表46, 図版6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の北東端に分布している。第25・26ブロックと分布が重複する。

礫総点数は27点、総重量は900.7gである。分布状況は比較的まとまっている。12J37・38区から12J48・49区にかけて北西-南東に長い楕円形に分布する。分布範囲は南北4.8m、東西6.6mを測る。垂直分布はおよそ0.6mの高低差がある。

礫の属性をみると、礫の重量は最大131.7g、最小2.0gで平均33.4gである。重量分布は0g～30gで17点と高い比率を示す。石材がチャート14点(51.85%)、流紋岩8点(29.63%)、砂岩2点(7.40%)、安山岩1点(3.70%)であり、チャートが主体を占める。遺存度はdランク24点(88.88%)であり、完形礫の50%以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で1ランクが10点(37.03%)、2ランクが8点(29.62%)、3ランクが8点(29.62%)で、各度合いの赤化を示すものが拮抗する。付着物はスス状付着物が2点(7.41%)、タール状付着物が1点(3.70%)認められる。接合は9個体17点で確認された。

### 5 第5礫群(第90・108・110・111図, 表47, 図版6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の中央部に分布している。第25ブロックと分布が重複する。

礫総点数は18点、総重量は230.5gである。分布状況は比較的まとまっている。12J47・48区から12J57区にかけて北東-南西に長い楕円形に分布する。分布範囲は南北3.2m、東西2.9mを測る。垂直分布はおよそ0.4mの高低差がある。

礫の属性をみると、礫の重量は最大62.0g、最小1.1gで平均12.8gである。重量分布は0g～5gで7点と高い比率を示す。石材が砂岩7点(38.89%)、流紋岩5点(27.78%)、安山岩1点(5.56%)、角閃石

12 J 15

12 J 16

12 J 17

12 J 18



12 J 25

12 J 26

12 J 27

12 J 28

12 J 35

12 J 36

12 J 37

12 J 38

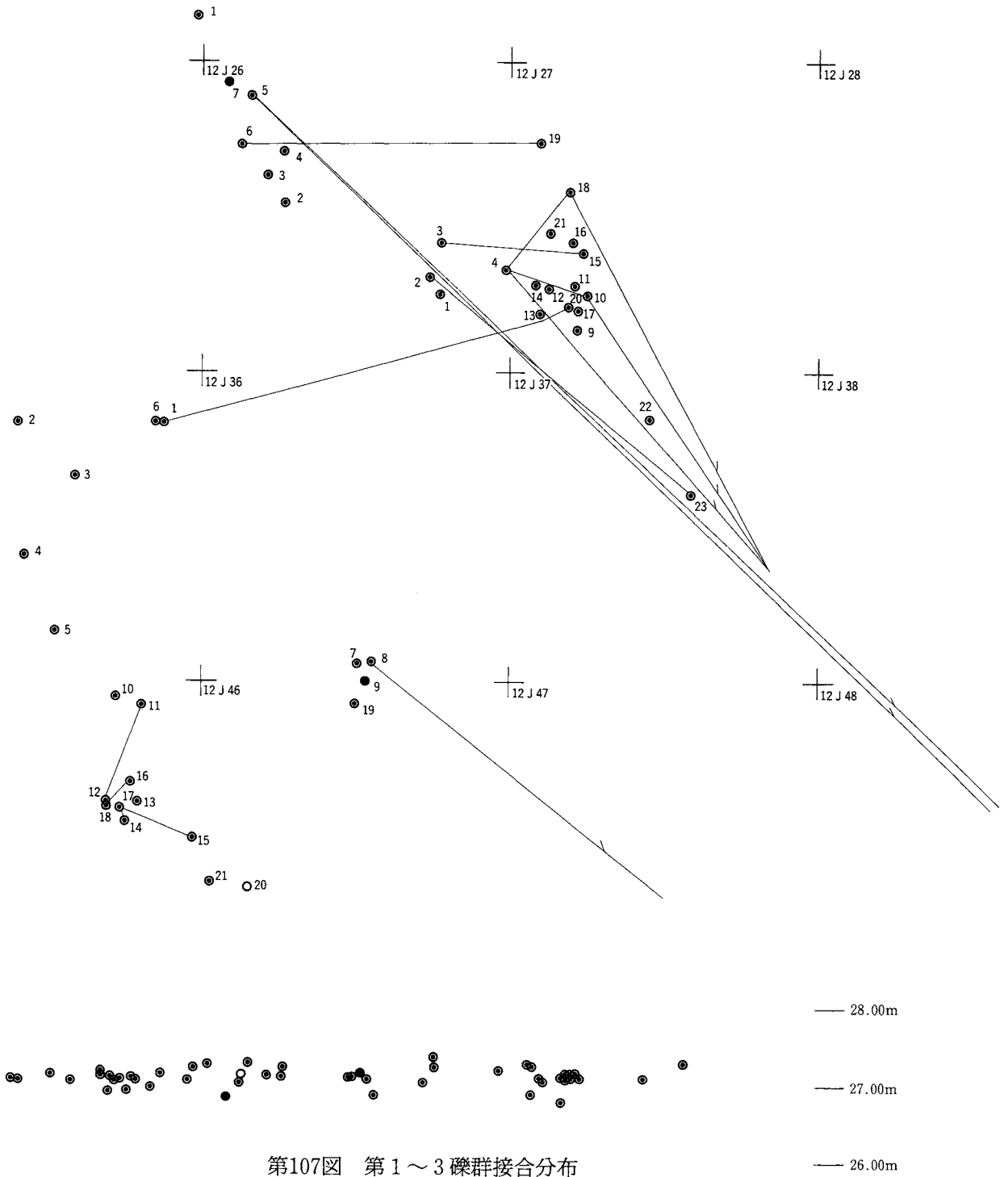
12 J 45

12 J 46

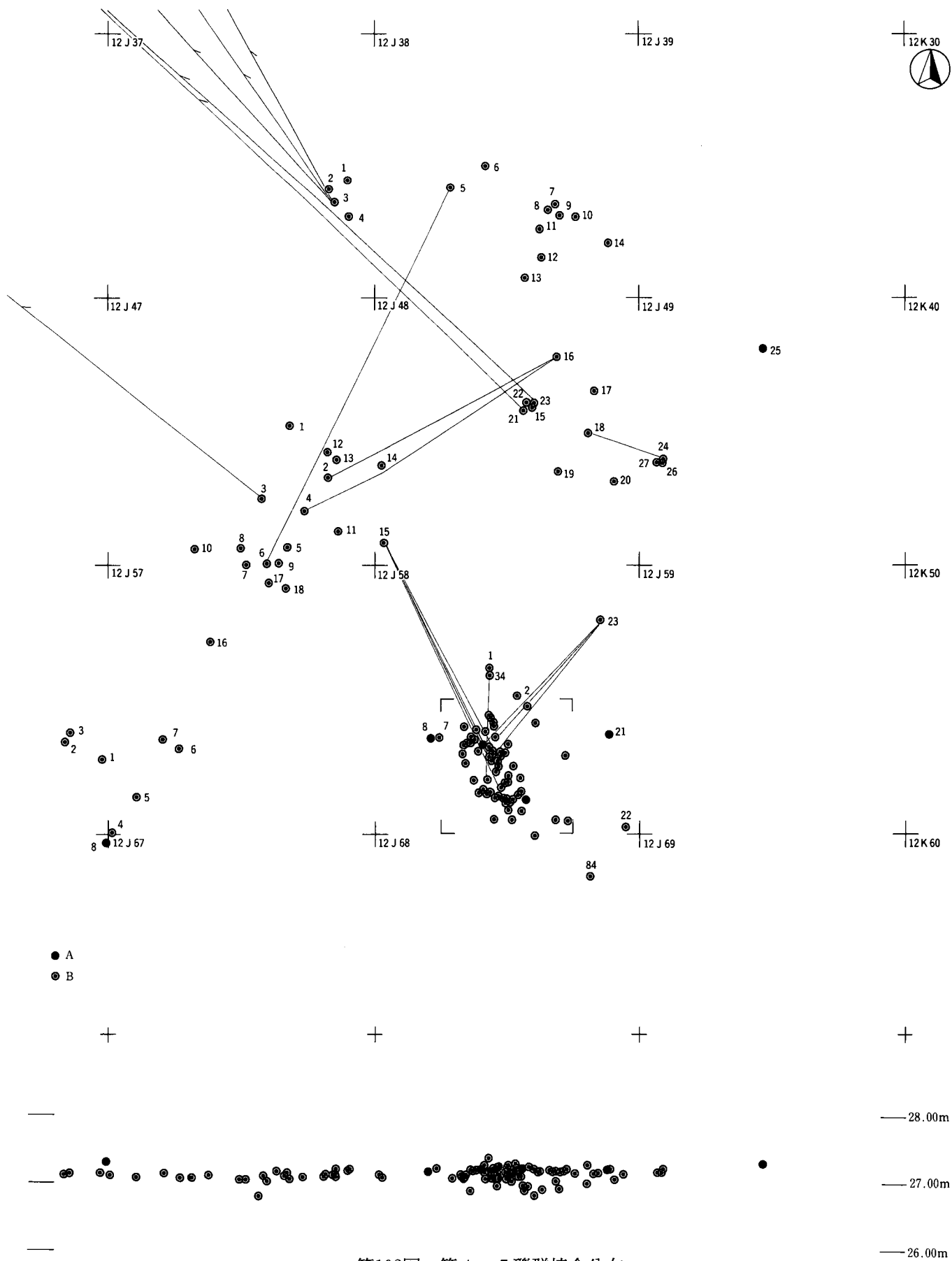
12 J 47

12 J 48

- A
- ⊙ B
- C



第107図 第1~3 礫群接合分布



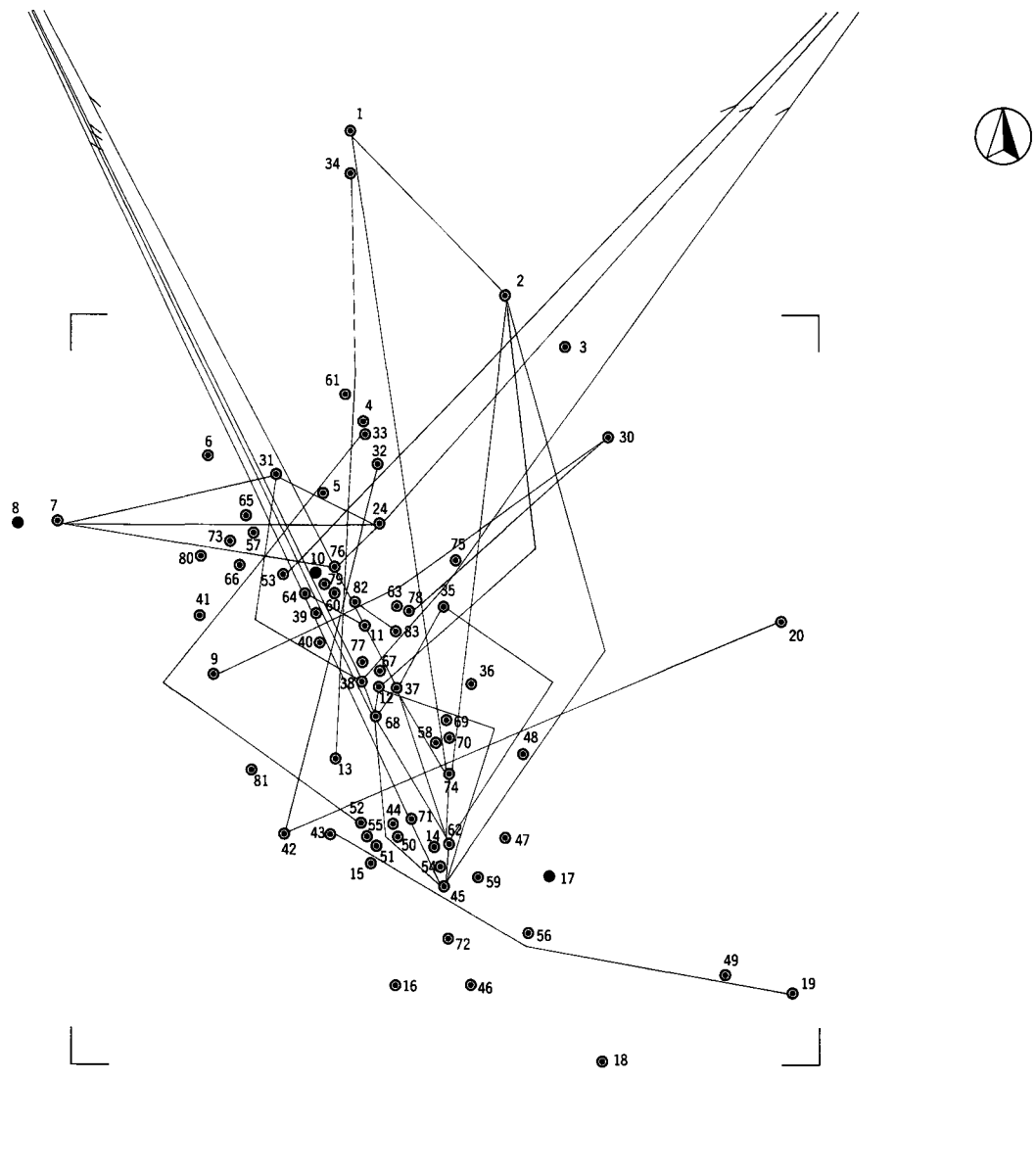
第108図 第4～7 礫群接合分布

1点(5.56%), ホルンフェルス1点(5.56%)であり, 砂岩が主体を占める。遺存度はdランク18点(100.00%)であり, 完形礫の50%以下がすべてである。赤化度は表面で1ランクが7点(38.89%), 2ランクが7点(38.89%)で, 薄く~中間的な赤化を示すものが多い。付着物はスス状付着物が1点(5.56%)認められる。接合は4個体5点で確認された。

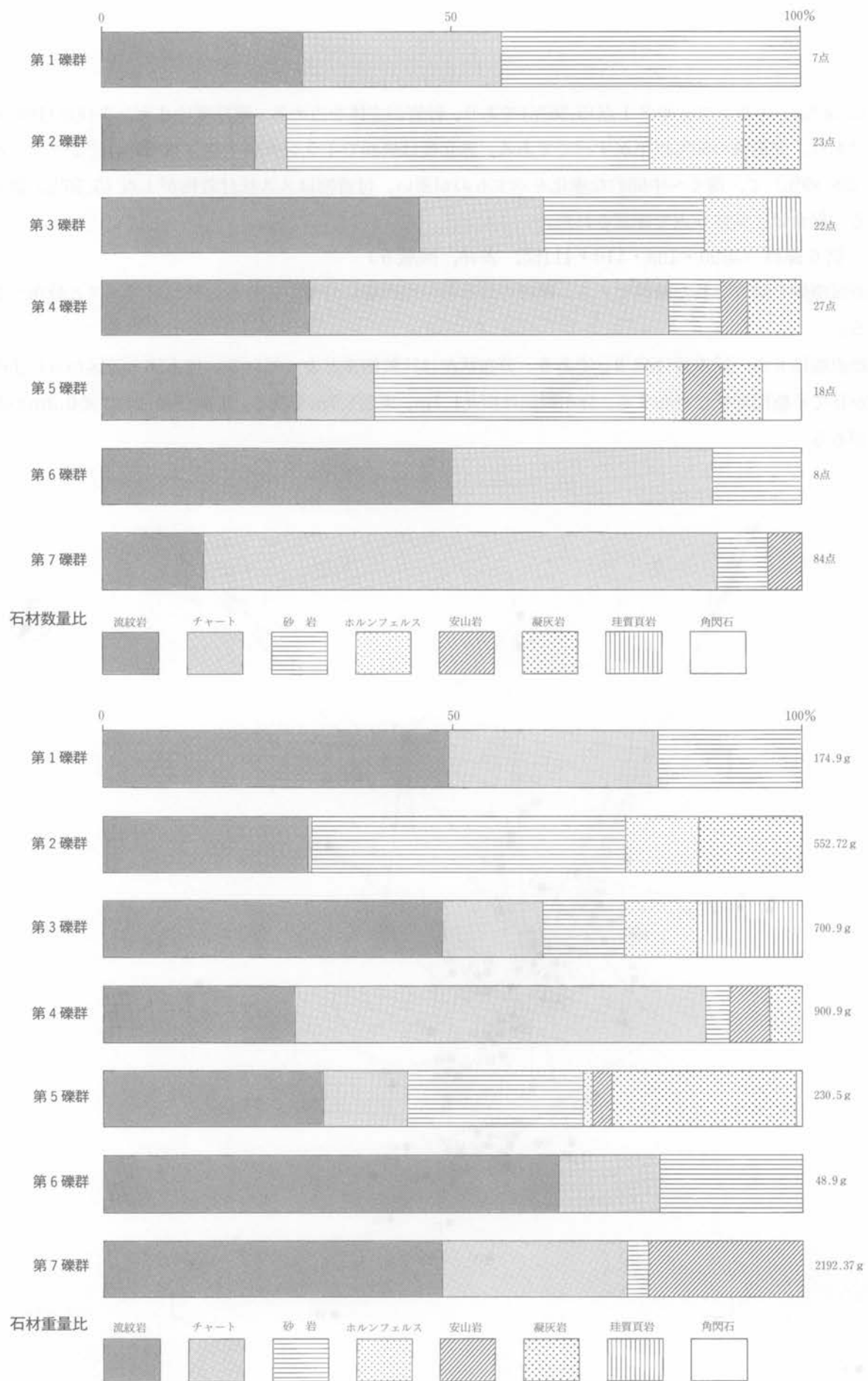
6 第6礫群(第90・108・110・111図, 表48, 図版6)

調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の南西端に分布している。第25ブロックと分布が重複する。

礫総点数は8点, 総重量は48.9gである。分布状況は比較的まとまっている。12J56・57区から12J66区にかけて不整形形状に分布する。分布範囲は南北1.7m, 東西1.7mを測る。垂直分布はおよそ0.3mの高低差がある。

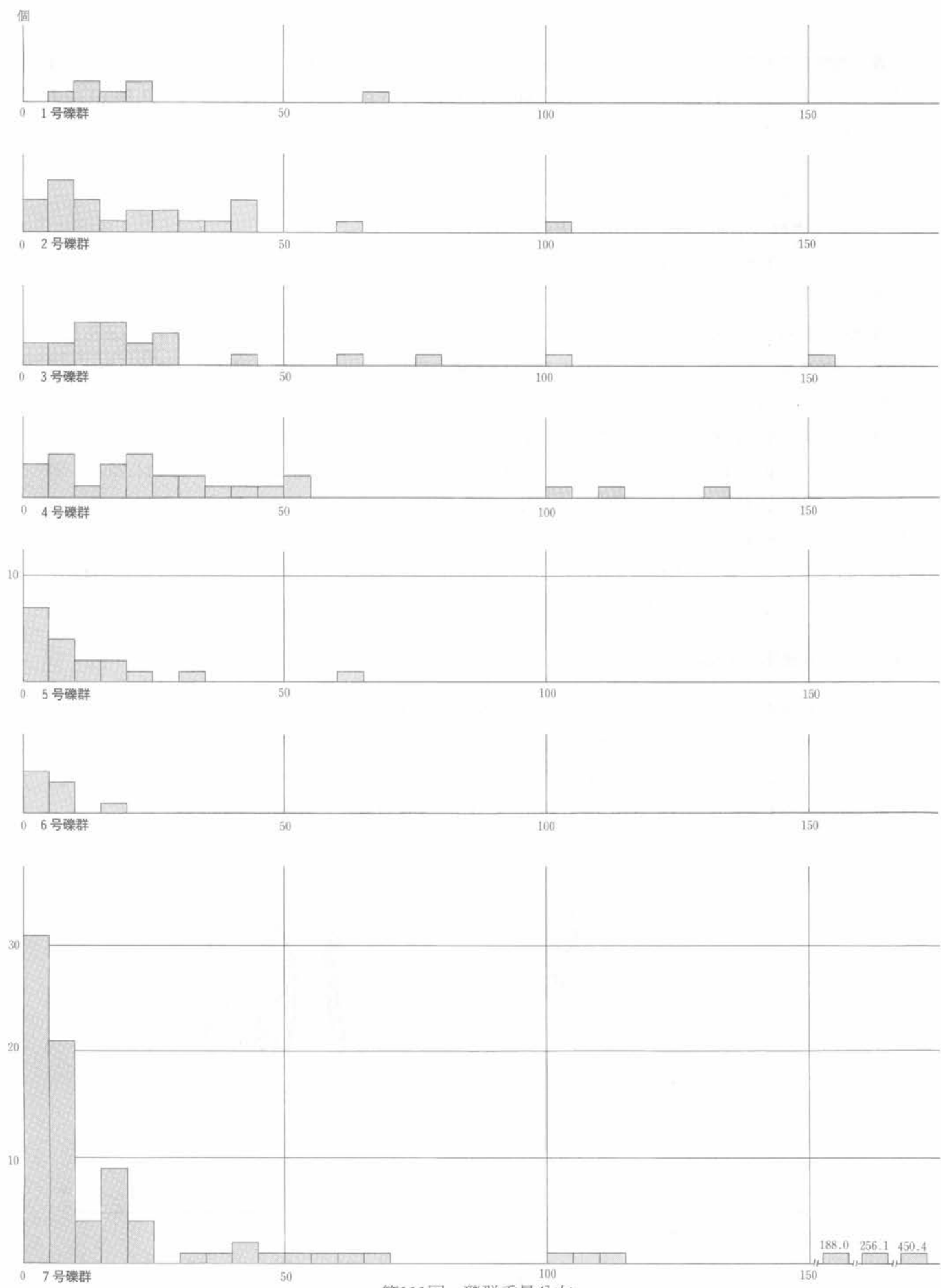


第109図 第7礫群接合分布



第110図 礫群石材構成比グラフ





第111图 碟群重量分布

礫の属性をみると、礫の重量は最大17.6g、最小0.1gで平均6.1gである。重量分布は0g～5gで4点と高い比率を示す。石材が流紋岩4点(50.00%)、チャート3点(37.50%)、砂岩1点(12.50%)であり、流紋岩が主体を占める。遺存度はdランク7点(87.50%)であり、完形礫の50%以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で2ランクが5点(62.50%)で、中間的な赤化を示すものが多い。付着物は認められなかった。接合は2個体5点で確認された。

### 7 第7礫群(第90・108～111図, 表49, 図版6)

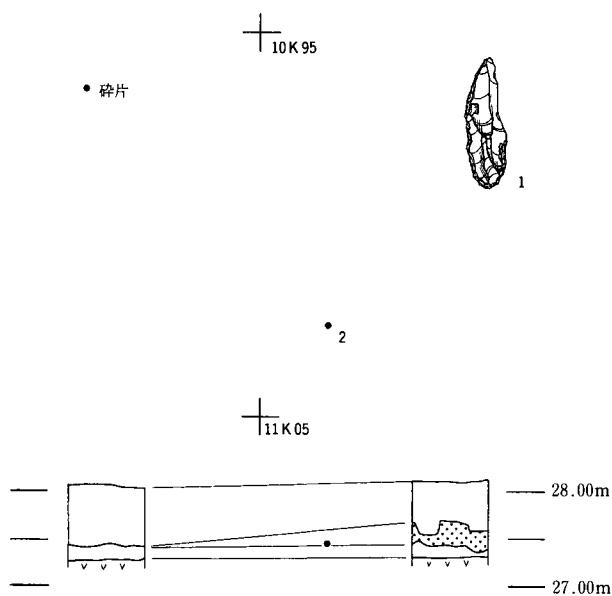
調査区南側で調査された礫群である。礫群の分布群の南東端に分布している。第26ブロックと分布が重複する。

礫総点数は84点、総重量は2,192.37gである。分布状況は狭い範囲に密集している。12J58区から12J68区にかけて北-南に長い楕円形に分布する。分布範囲は南北3.8m、東西3.0mを測る。垂直分布はおおよそ0.6mの高低差がある。

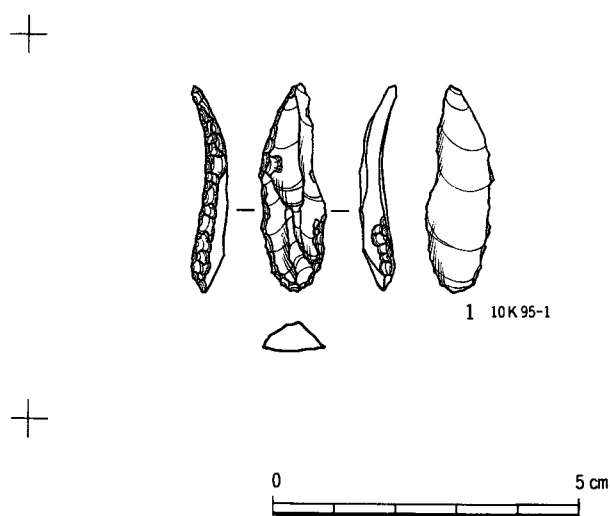
礫の属性をみると、礫の重量は最大450.4g、最小0.3gで平均26.1gである。重量分布は0g～5gで31点、0g～10gで21点と高い比率を示す。石材がチャート62点(73.81%)、流紋岩12点(14.29%)、砂岩6点(7.14%)、安山岩4点(4.76%)であり、チャートが主体を占める。遺存度はdランク76点(90.48%)であり、完形礫の50%以下が圧倒的に多い。赤化度は表面で3ランクが40点(47.62%)、2ランクが34点(40.48%)で、著しく赤化しているものから中間的な赤化を示すものが多い。付着物はスス状付着物が4点(4.76%)、タール状付着物が2点(2.38%)認められる。接合は10個体61点で確認された。

## 第9節 単独出土石器

旧石器時代調査の過程でブロックの広がりや認められないもので出土地点・層位が明確なものを、ここで単独出土として扱う。又、上層調査の過程で出土した明らかに旧石器時代石器と判断されるものもここで扱う。この中には前節で記載した各文化層に含まれるものもあるが、便宜的にこの項で扱うこととする。単独出土としたものは3地点であり、それぞれ、単独出土1～単独出土3の名称を付した。



第112図 単独出土1器種別分布



第113図 単独出土石器1

1 単独出土1 (第112・113図, 表50, 図版24)

**分布状況** 調査区中央部南側で2点が検出された。10K95区に分布している。石器はⅢ層下面から碎片が1点出土している。もう1点はクラムシェル調査により詳細な出土地点, 層位は不明である。

**出土遺物** 1はナイフ形石器である。黒曜石9を母岩とする。両設打面の石核から削出された石刃を素材としている。打面部を先端部に設定し, 左側縁全縁と右側縁基部側に連続したブランディングが認められる。

2 単独出土2 (第114・115図, 表50, 図版24)

**分布状況** 調査区中央部西側で1点が検出された。10L71区に分布している。石器はⅣ・Ⅴ層上面で検出されている。

**出土遺物** 1は剥片である。ホルンフェルス9を母岩とする。下端部が広がる横長剥片で礫面を大きく残している。

3 単独出土3 (第116・117図, 表50, 図版24)

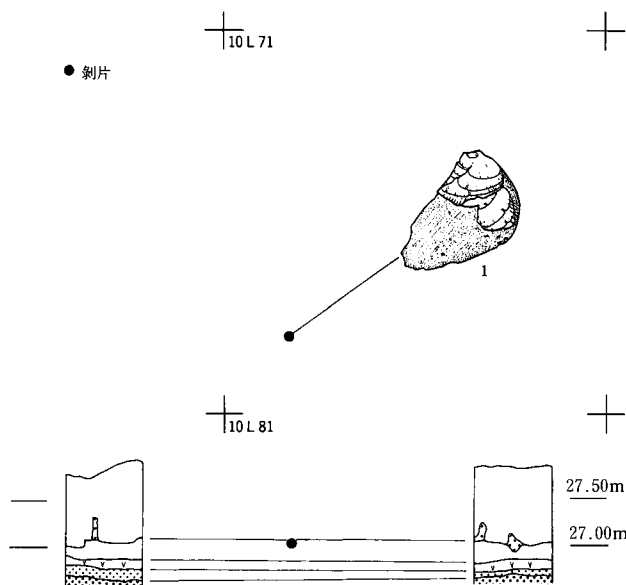
**分布状況** 調査区南側で2点が検出された。12J77・87区に分布している。石器はⅢ層中部から上部で検出されている。

**出土遺物** 1は剥片である。黒曜石6を母岩とする。背面には横方向からの剥離面と, それを切る打面方向からの長い面取りの剥離痕が看取される。おそらく尖頭器の調整削片と思われる。2は石核である。黒曜石10を母岩とする。90度を基調とした打面転移により賽子状の残核となっている。出土層位・同一の母岩, 器種の状況から第Ⅴ文化層に含めて考えられるが, その関係は不明である。

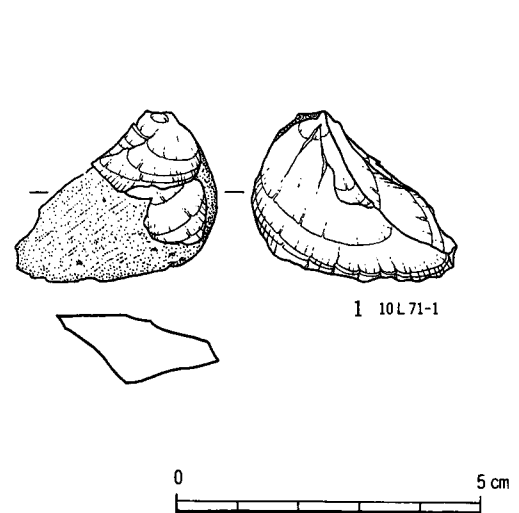
4 単独出土4 (第118図, 表50, 図版24)

1はナイフ形石器とした。黒曜石を石材とするもので上半部を欠損する。石刃状の剥片を素材として, 背面右側縁に細かな調整, 主要剥離面に比較的平坦な調整加工が施されている。

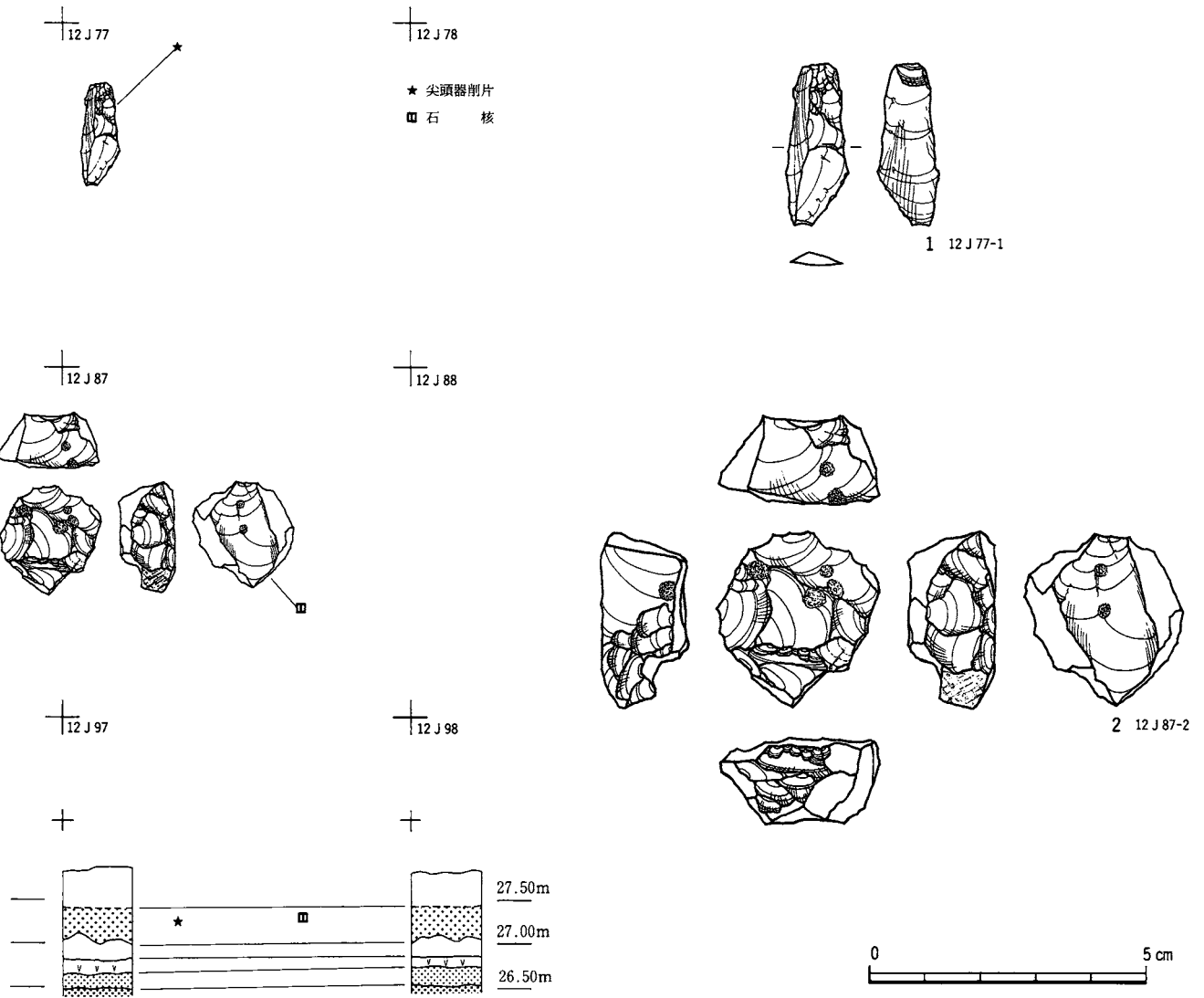
2は剥片である。珪質頁岩を石材としている。自然面打面の大形な横長剥片である。



第114図 単独出土2 器種別分布

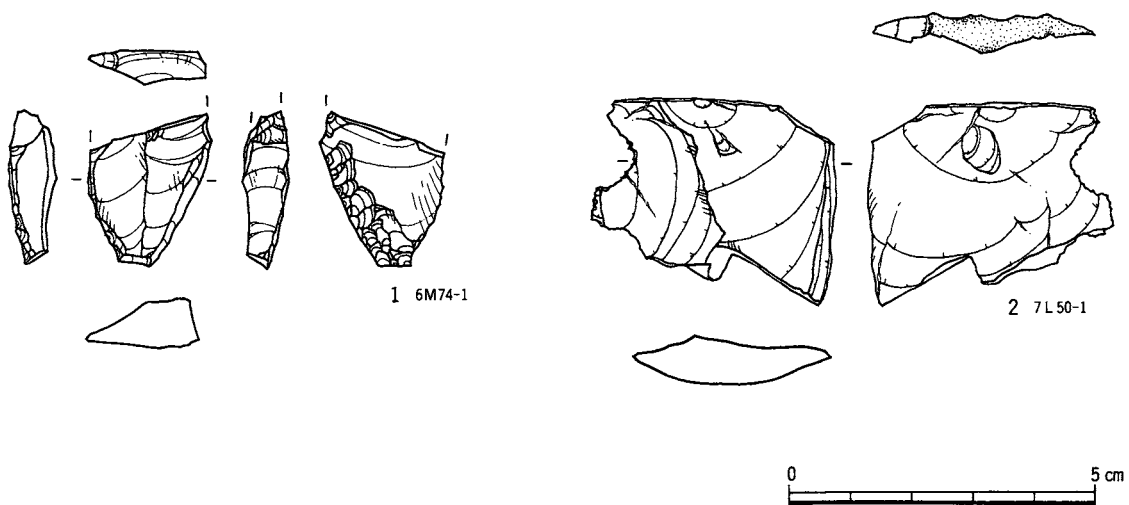


第115図 単独出土石器2



第116图 单独出土3器種別分布

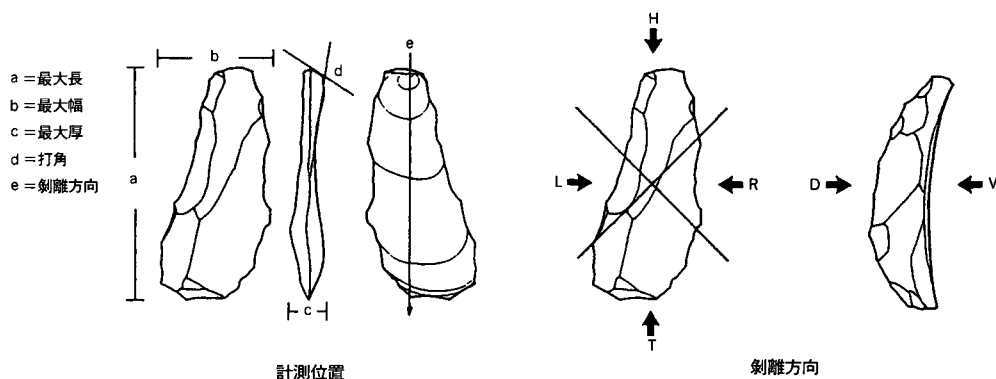
第117图 单独出土石器3



第118图 单独出土石器4

## 石器属性表について

- 1 **番号** ブロック毎の通し番号である。基本的には遺物登録番号の若い順に番号を付した。平面分布図の番号に一致する。
- 2 **遺物番号** 遺物登録番号である。基本的には調査時においてグリッド単位で遺物取り上げ順に番号を付してある。同一番号で複数の遺物が存在する場合は番号の後ろにアルファベット文字でaから順に番号を付した。
- 3 **器種** 器種名を記した。ただし、尖頭器石器群の剥片類・削片類の内特徴的なものについては、器種名の前に技術形態的な特徴の名称を付した。
- 4 **母岩** 石材名とその母岩番号を下層の文化層・ブロック番号順に記した。安山岩については石材の大別をアルファベット大文字で、黒曜石については母岩の細別を数字とアルファベット小文字の組み合わせで記した。旧石器時代のすべての石器について母岩番号を付した。石材の大別及び母岩の細別の分類基準については本文中に記した。
- 5 **最大長・最大幅・最大厚・打角** 計測方法については下図に示した。
- 6 **挿図番号** 実測図を掲載した遺物のブロック単位毎の通し番号。挿図及び写真図版の番号に一致する。
- 7 **打面形状** Cは自然面，Sは節理面，Pは点状打面，Lは線状打面，1は平坦打面，2以上は複剥離打面を示し，数字はその剥離面数を示す。空欄は欠損等による打面なし，計測不可を示す。
- 8 **打面調整・頭部調整** 調整の観察されるものに○を記した。また調整の顕著なものにP1を記した。
- 9 **背面構成** 主要剥離面の剥離方向を基準として，背面を構成する剥離面の剥離方向の下図を剥離方向毎に記した（下図参照）。さらに，背面に自然面(C)・節理面(S)が観察されるものについてそれぞれ○を付した。
- 10 **末端形状** Fはフェザーエンド，Hはヒンジフラクチャー，Oはウートラパッセを示す。
- 11 **折面部位** 主要剥離面の剥離方向を基準とした折れ面の部位。Hは頭部側，Mは中間部，Tは尾部側，Rは右側，Lは左側を示す。これらを単独或いは組み合わせることによって，折れている部分の部位を示した。



### 礫群属性表について

- 1 **器種** 礫の基本的な属性（焼成・非焼成・完形・破損）によりA～Dの4つの器種に分類した。
  - A 焼成完形礫
  - B 焼成破損礫
  - C 未焼成完形礫（完形礫）
  - D 未焼成破損礫（破損礫）
- 2 **大きさ** その礫の最大の距離を設定しそれを最大長とする。それを軸としてその軸に二次元的に直交する最大の距離を最大幅とする。そして、最大長と最大幅の形成する平面に三次元的に直交する最大の距離を最大厚とする。このように設定し大きさを計測した。
- 3 **遺存度** 礫の現存の遺存状態により完形の状態を想定し、次のa～dに分類した。
  - a 完形のもの（遺存度100%のもの）
  - b 遺存度100%>礫个体片（x）>80%
  - c 遺存度80%>礫个体片（x）>50%
  - d 遺存度50%>礫个体片（x）
- 4 **復元度** 接合により復元される状態により完形の状態を想定し、次のa～dに分類した。
  - a 完形に復元されるもの（復元度100%のもの）
  - b 復元度100%>礫个体片（x）>80%
  - c 復元度80%>礫个体片（x）>50%
  - d 復元度50%>礫个体片（x）
- 5 **赤化** 礫の赤化の度合いを観察し、次の1～3の度合いに分類した。なお、赤化していないものは—で示す。表面と割れ面を区別して分類した。
  - 1 うすく赤化しているもの
  - 2 1と3の中間の赤化
  - 3 濃く赤化しているもの
- 6 **付着** 礫に観察される付着物について、次のア・イを識別して記した。
  - ア スス状の付着物があるもの
  - イ タール状の付着物があるもの
- 7 **接合** 礫の同一個体資料のうち接合するものを**遺物番号**で表示した。ただし、表枠の制限より多い接合資料について接合資料番号で示した。例) 接合資料①

第1表 第1ブロック属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面形状	打角 °	打面調整	頭部調整	背面構成												調整角 °	先端角 °	調整部位	折面部位	末端形状
													C	S	H	T	R	L	D	V									
1	12J61.0001	剥片	チャート1	2	1.82	2.00	0.95	2.82	C							2	1		1										
2	12J61.0002	礫	流紋岩1		2.02	1.74	0.38	1.9																					
3	12J61.0003	剥片	珉質頁岩1	1	3.21	3.29	0.85	7.76	1							1		2									F		
4	12J61.0004	礫	軽石1		3.56	2.48	1.51	3.26																					
5	12J61.0005	碎片	石灰岩1		0.61	0.74	0.38	0.19																					
6	12J62.0001	礫	砂岩1		2.32	1.55	1.04	4.61																					

第2表 第1ブロック組成表

	剥片	砕片	礫	総計	総計比%
珉質頁岩1	1 7.76	0	0	1 7.76	16.67 37.82
流紋岩1	0	0	1 1.88	1 1.88	16.67 9.16
砂岩1	0	0	1 4.61	1 4.61	16.67 22.47
チャート1	1 2.82	0	0	1 2.82	16.67 13.74
軽石1	0	0	1 3.26	1 3.26	16.67 15.89
石灰岩1	0	1 0.19	0	1 0.19	16.67 0.93
総計	2 10.58	1 0.19	3 9.75	6 20.52	100.00 100.00
総計比%	33.33 51.56	16.67 0.93	50.00 47.51	100.00 100.00	

第3表 第2ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面形状	打角 °	打面調整	頭部調整	背面構成												調整角 °	先端角 °	調整部位	折面部位	末端形状
													C	S	H	T	R	L	D	V									
1	10I26.0001	碎片	黒曜石1a		1.70	1.31	0.26	0.5																					
2	10I26.0002	剥片	黒曜石1a	7	2.23	2.18	0.43	0.9	1	118							1		1		2						F		
3	10I26.0003	剥片	黒曜石1a		1.68	0.82	0.30	0.4																					
4	10I26.0004	U剥片	黒曜石1b	4	2.53	1.41	0.46	1.7	1								4				1	2							
5	10I26.0005	碎片	黒曜石1a		1.13	0.65	0.19	0.1																					
6	10I26.0006 a	碎片	黒曜石1a		0.83	1.04	0.19	0.2																					
7	10I26.0006 b	碎片	黒曜石1a		0.45	0.53	0.18	0.1																					
8	10I26.0007	U剥片	黒曜石1c	3	2.48	2.48	0.32	2.0									4				2						F		
9	10I27.0001	磨製石斧	砂岩2	1	0.54	1.30	0.35	0.2																			T		
10	10I36.0001	碎片	黒曜石1a		0.81	0.67	0.14	0.1																					
11	10I36.0002	碎片	黒曜石1a		1.46	0.69	0.22	0.2																					
12	10I36.0003	碎片	黒曜石1a		0.89	0.59	0.12	0.1																					
13	10I36.0004	碎片	黒曜石1a		0.68	0.61	0.10	0.1																					
14	10I36.0005	碎片	黒曜石1a		0.59	0.53	0.14	0.1																					
15	10I36.0006	碎片	黒曜石1a		1.20	0.93	0.19	0.2																					
16	10I36.0007	碎片	黒曜石1a		1.45	0.52	0.12	0.1																					
17	10I36.0008	剥片	安山岩B1	6	3.47	1.59	0.40	2.3	1									2		1							F		
18	10I36.0009	剥片	黒曜石1a		0.50	1.58	0.12	0.1																					
19	10I36.0010	剥片	黒曜石1a		1.91	1.16	0.27	0.6																					
20	10I36.0011	碎片	黒曜石1a		1.07	1.42	0.28	0.4																					
21	10I36.0012	碎片	黒曜石1a		0.67	0.68	0.07	0.1																					
22	10I36.0013 a	碎片	黒曜石1a		0.77	0.52	0.32	0.1																					
23	10I36.0013 b	碎片	黒曜石1a		0.96	0.55	0.10	0.1																					
24	10I36.0014	碎片	黒曜石1a		0.77	0.45	0.11	0.1																					
25	10I36.0015	碎片	黒曜石1a	12c	1.30	1.62	0.67	0.9										3									H	F	
26	10I36.0016 a	碎片	黒曜石1a		1.07	0.98	0.18	0.1																					
27	10I36.0016 b	碎片	黒曜石1a		0.49	0.93	0.16	0.1																					
28	10I36.0017	碎片	黒曜石1a		1.03	1.28	0.13	0.2																					
29	10I36.0018	剥片	黒曜石1a		1.77	0.72	0.28	0.4																					
30	10I36.0019	剥片	黒曜石1a		1.67	1.23	0.43	0.9																					
31	10I36.0020	碎片	黒曜石1a		1.32	1.31	0.23	0.3																					
32	10I36.0021	剥片	黒曜石1a		1.54	1.63	0.22	0.4																					
33	10I36.0022	剥片	黒曜石1a		1.83	0.72	0.23	0.2																					
34	10I36.0035	碎片	黒曜石1a		1.07	1.19	0.18	0.2																					
35	10I36.0036	R剥片	黒曜石1a	2	2.94	1.67	0.69	2.6														1					F		
36	10I36.0037	碎片	黒曜石1a		1.39	0.84	0.27	0.4																					
37	10I36.0038	剥片	珉質頁岩2	5	4.79	2.63	1.07	10.8	3									3		5			1				F		
38	10I36.0039	碎片	黒曜石1a		0.35	0.21	0.05	0.1																					

第4表 第2ブロック組成表

	磨製石斧	R剝片	U剝片	剝片	砕片	総計	総計比%
黒曜石1a	0	1 2.6	0	8 3.93	24 4.91	33 11.44	86.84 40.17
黒曜石1b	0	0	1 1.7	0	0	1 1.7	2.63 5.97
黒曜石1c	0	0	1 2	0	0	1 2	2.63 7.02
珪質頁岩2	0	0	0	1 10.8	0	1 10.8	2.63 37.92
安山岩B 1	0	0	0	1 2.3	0	1 2.3	2.63 8.08
砂岩2	1 0.24	0	0	0	0	1 0.24	2.63 0.84
総計	1 0.24	1 2.6	2 3.7	10 17.03	24 4.91	38 28.48	100.00 100.00
総計比%	2.63 0.84	2.63 9.13	5.26 12.99	26.32 59.80	63.16 17.24	100.00 100.00	

第5表 第3ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状
													C	S	H	T	R	L	D	V								
1	10I36,0023	砕片	黒曜石1a		1.18	1.36	0.33	0.4																				
2	10I36,0024	砕片	黒曜石1a		0.86	1.07	0.27	0.2																				
3	10I36,0025	剝片	黒曜石1a	12b	3.33	3.05	2.13	14.0								4		1								O		
4	10I36,0026	砕片	黒曜石1a		0.81	1.00	0.36	0.2																				
5	10I36,0027	剝片	黒曜石1a		2.44	2.07	0.58	2.3																				
6	10I36,0028	剝片	黒曜石1a		2.25	1.28	0.36	0.8																				
7	10I36,0029	砕片	黒曜石1a		1.04	0.45	0.24	0.1																				
8	10I36,0030	砕片	黒曜石1a		0.56	0.96	0.21	0.1																				
9	10I36,0031	剝片	黒曜石1a		1.64	1.54	0.26	0.6																				
10	10I36,0032a	剝片	黒曜石1a	5	2.41	1.82	0.62	2.6								4										H,T		
11	10I36,0032b	砕片	黒曜石1a		0.48	0.55	0.16	0.1																				
12	10I36,0033	R剝片	黒曜石1c	2	2.27	2.27	0.55	2.4	1	120						3					62		L	T				
13	10I36,0034	砕片	黒曜石1a		0.93	0.51	0.22	0.1																				
14	10I46,0001	剝片	珪質頁岩3	7	2.14	1.30	0.62	1.3	2							3										F		
15	10I46,0002	剝片	黒曜石1a		1.69	1.50	0.18	0.4																				
16	10I46,0003	砕片	黒曜石1a		1.07	0.44	0.48	0.3																				
17	10I46,0004	砕片	黒曜石1a		1.25	0.47	0.08	0.1																				
18	10I46,0005	砕片	黒曜石1a		1.13	0.87	0.37	0.4																				
19	10I46,0006	剝片	黒曜石1a		1.61	1.59	0.52	1.2																				
20	10I46,0007	砕片	黒曜石1a		0.58	0.79	0.13	0.1																				
21	10I46,0008	砕片	黒曜石1a		0.84	0.47	0.28	0.4																				
22	10I46,0009	砕片	黒曜石1a		1.28	1.32	0.28	0.4																				
23	10I46,0010	剝片	黒曜石1b	6	3.18	1.29	0.53	1.2			○					2		2	1	2	1					F		
24	10I46,0011	砕片	黒曜石1a		1.46	1.08	0.31	0.4																				
25	10I46,0012	砕片	黒曜石1a		0.44	0.43	0.03	0.1																				
26	10I46,0013	砕片	黒曜石1a		1.03	0.51	0.30	0.2																				
27	10I46,0014	U剝片	黒曜石1a	12a	5.21	2.66	2.03	14.8	1	112						8			1							T		
28	10I46,0015	R剝片	黒曜石1a	1	1.63	1.46	0.59	1.2		108						2		1	1	1				L,T	T			
29	10I46,0016	砕片	黒曜石1a		0.80	1.37	0.32	0.3																				
30	10I46,0017	砕片	安山岩A 1		0.96	0.55	0.37	0.1																				
31	10I46,0018	砕片	黒曜石1a		0.87	1.43	0.15	0.2																				
32	10I46,0019	剝片	安山岩A 1		1.96	1.73	0.53	1.6																				
33	10I46,0020	砕片	黒曜石1a		0.59	1.17	0.18	0.1																				
34	10I46,0021	砕片	黒曜石1a		0.87	0.83	0.26	0.2																				
35	10I46,0022	剝片	流紋岩2	4	3.63	2.06	1.04	4.8	1							1		2		1						F		
36	10I46,0023	剝片	チャート2	8	2.13	0.31	0.80	1.8	P							1			1	1					T			
37	10I46,0024	剝片	ホルンフェルス1	10	2.29	2.59	0.34	1.6	L									1								F		
38	10I46,0025	剝片	珪質頁岩4	11b	3.30	2.38	0.50	3.8	1				○			2		2			1					H		
39	10I46,0026	剝片	チャート3	9	2.28	0.95	0.60	1.1	L			○				4			1							H		
40	10I46,0027	砕片	黒曜石1b		1.11	1.20	0.50	0.3																				
41	10I46,0032 a	砕片	黒曜石1a		1.03	1.38	0.22	0.2																				
42	10I46,0032 b	砕片	黒曜石1a		0.78	0.82	0.16	0.1																				
43	10I46,0033	砕片	黒曜石1a		0.58	0.92	0.08	0.1																				
44	10I46,0034	砕片	黒曜石1a		1.13	0.79	0.65	0.2																				
45	10I46,0035	砕片	黒曜石1a		0.76	0.61	0.09	0.1																				
46	10I46,0036	砕片	黒曜石1a		0.78	0.96	0.08	0.1																				
47	10I46,0037	U剝片	黒曜石1a	3	3.04	2.96	0.89	5.9	L			○				3			2					L		H		
48	10I46,0038	剝片	安山岩A 1		1.94	2.33	0.55	2.1																				
49	10I47,0012	剝片	黒曜石1c		1.32	1.71	0.63	1.1																				



第6表 第3ブロック組成表

	R剝片	U剝片	剝片	砕片	総計	総計比%
黒曜石1a	1 1.24	2 20.7	7 21.87	26 5.2	36 49.01	73.47 67.87
黒曜石1b	0	0	1 1.21	1 0.3	2 1.51	4.08 2.09
黒曜石1c	1 2.41	0	1 1.1	0	2 3.51	4.08 4.86
珩質頁岩3	0	0	1 1.33	0	1 1.33	2.04 1.84
珩質頁岩4	0	0	1 3.83	0	1 3.83	2.04 5.30
安山岩 A1	0	0	2 3.7	1 0.1	3 3.8	6.12 5.26
流紋岩2	0	0	1 4.8	0	1 4.8	2.04 6.65
ホルンフェルス1	0	0	1 1.57	0	1 1.57	2.04 2.17
チャート2	0	0	1 1.76	0	1 1.76	2.04 2.44
チャート3	0	0	1 1.09	0	1 1.09	2.04 1.51
総計	3.65	20.7	42.26	28 5.6	49 72.21	100.00 100.00
総計比%	4.08 5.05	4.08 28.67	34.69 58.52	57.14 7.76	100.00 100.00	

第7表 第4ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V										
1	10137.0002	剝片	黒曜石1c		1.95	2.86	0.94	5.9																						
2	10137.0003	剝片	チャート3	1b	1.49	1.95	0.66	2.0						○	2	1		2												
3	10137.0004	砕片	黒曜石1c		0.98	0.63	0.13	0.1																						
4	10137.0005	剝片	珩質頁岩5		3.00	2.12	0.36	1.8																						
5	10137.0006	剝片	黒曜石1c		1.77	1.63	0.28	0.8																						
6	10137.0007	剝片	珩質頁岩5	7f	2.24	1.73	0.44	1.7							3		4										H			
7	10137.0008	剝片	砂岩3		0.87	1.63	0.30	0.7																						
8	10137.0009 a	剝片	珩質頁岩5	7c	2.24	2.05	0.48	2.4	1						3													T		
9	10137.0009 b	砕片	珩質頁岩5		1.42	1.39	0.37	0.7																						
10	10137.0010	R 剝片	黒曜石1a	2	4.17	1.97	1.41	7.3							3	1													F	
11	10137.0011	剝片	珩質頁岩2	6	3.41	2.11	0.91	3.7	2							7												T		
12	10137.0012	砕片	珩質頁岩2		0.89	0.68	0.37	0.2																						
13	10137.0013	剝片	珩質頁岩2		1.35	2.18	0.20	0.5																						
14	10137.0014	砕片	珩質頁岩2		1.43	1.02	0.14	0.2																						
15	10137.0015	剝片	珩質頁岩5		1.53	1.54	0.32	0.6																						
16	10138.0001	剝片	珩質頁岩5	7g	6.87	2.66	0.93	9.5	2					○	5	1	1	1	2										O	
17	10138.0002	楔形石器	チャート3	1a	2.60	2.28	1.10	6.1	1					○		4	1	1		1										
18	10138.0003	砕片	珩質頁岩2		1.34	1.03	0.34	0.4																						
19	10138.0004	剝片	黒曜石1a		2.16	0.92	0.33	0.8																						
20	10138.0005	剝片	黒曜石1c		2.23	2.60	0.51	2.4																						
21	10138.0006	剝片	珩質頁岩5		2.21	1.13	0.23	0.7																						
22	10138.0007	剝片	黒曜石1b	5	3.03	2.16	0.64	3.7	1	108				○	5	1		1												
23	10138.0008 a	剝片	黒曜石1c		2.93	2.10	0.63	4.8																						
24	10138.0008 b	砕片	黒曜石1c		0.44	1.25	0.22	0.1																						
25	10138.0008 c	砕片	黒曜石1c		0.31	0.48	0.05	0.1																						
26	10147.0001	剝片	珩質頁岩5		1.70	1.32	0.27	0.5																						
27	10147.0002 a	砕片	珩質頁岩2		1.01	1.27	0.13	0.2																						
28	10147.0002 b	砕片	黒曜石1c		0.32	0.45	0.06	0.1																						
29	10147.0003	剝片	珩質頁岩5	7d	3.42	2.75	0.76	5.6							1	5	2												T,H	
30	10147.0004	剝片	珩質頁岩5	7b	2.27	3.22	0.76	4.1	1							4													T	
31	10147.0005	砕片	珩質頁岩2		1.22	0.93	0.12	0.2																						
32	10147.0006	剝片	珩質頁岩5		0.34	1.50	0.31	0.2																						
33	10147.0007	剝片	黒曜石1c		1.18	2.15	0.33	0.8																						
34	10147.0008	剝片	珩質頁岩5	7e	1.26	1.48	0.34	0.6	1							3													T	
35	10147.0009	砕片	黒曜石1c		1.26	1.12	0.34	0.5																						
36	10147.0010	剝片	黒曜石1a	4	3.58	1.89	0.73	3.7	1	104						4		5											F	
37	10147.0011	剝片	黒曜石1b	3	4.02	1.52	0.51	2.9	1							4													T	
38	10147.0014	砕片	珩質頁岩5		1.02	1.29	0.29	0.3																						
39	10147.0015	砕片	チャート3		1.46	0.62	0.19	0.2																						
40	10147.0016	砕片	珩質頁岩5		0.98	1.06	1.18	0.3																						
41	10148.0001	砕片	珩質頁岩5		1.66	1.15	0.27	0.4																						
42	10148.0002	剝片	珩質頁岩5		0.82	0.83	0.13	0.1																						
43	10148.0003	剝片	珩質頁岩5		1.62	0.96	0.28	0.3																						
44	10148.0004	剝片	黒曜石1b		1.85	1.92	0.43	1.4																						
45	10148.0005	剝片	珩質頁岩5		2.95	0.56	0.43	1.0																						

第8表 第4ブロック組成表

	楔形石器	R剝片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石 1a	0	1 7.3	2 4.45	0	3 11.75	6.67 14.59
黒曜石 1b	0	0	3 8.01	0	3 8.01	6.67 9.94
黒曜石 1c	0	0	5 14.7	5 0.9	10 15.6	22.22 19.37
珪質頁岩 2	0	0	2 4.18	5 1.2	7 5.38	15.56 6.68
珪質頁岩 5	0	0	14 29.1	4 1.7	18 30.8	40.00 38.24
チャート 3	1 6.12	0	1 1.99	1 0.2	3 8.31	6.67 10.32
砂岩 3	0	0	1 0.7	0	1 0.7	2.22 0.87
総計	1 6.12	1 7.3	28 63.13	15 4	45 80.55	100.00 100.00
総計比%	2.22 7.60	2.22 9.06	62.22 78.37	33.33 4.97	100.00 100.00	

第9表 第5ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成							調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D						V	
1	10I48,0006	楔形石器	黒曜石1b	1	2.98	1.08	1.05	2.6					○	3	1	1	1									
2	10I48,0007	剝片	黒曜石1a	4a	1.77	1.26	0.89	0.9					○	3		1	1								M	
3	10I48,0008	剝片	黒曜石1a	4b	1.64	1.26	0.89	1.9						4		1	1								H,T	
4	10I48,0009	剝片	黒曜石1a	4c	0.91	0.67	0.59	0.3	1						2	1									T	
5	10I48,0010 a	砕片	黒曜石1c		0.87	0.70	0.13	0.1																		
6	10I48,0010 b	砕片	黒曜石1c		0.42	0.47	0.16	0.1																		
7	10I48,0011	剝片	黒曜石1b		1.63	0.72	0.37	0.3																		
8	10I48,0012	剝片	黒曜石1a	5	2.88	1.48	0.79	1.6					○	2		1									H	O
9	10I48,0013	砕片	黒曜石1c		1.12	0.89	0.09	0.1																		
10	10I48,0014	砕片	黒曜石1c		0.78	0.60	0.04	0.1																		
11	10I48,0015 a	剝片	黒曜石1c		1.86	1.07	0.51	0.9																		
12	10I48,0015 b	砕片	黒曜石1c		0.39	0.32	0.05	0.1																		
13	10I48,0017	剝片	黒曜石1b		1.76	1.43	0.51	1.5																		
14	10I48,0018	剝片	黒曜石1c		1.40	1.76	0.23	0.4																		
15	10I48,0019 a	剝片	珪質頁岩 5	6	2.39	0.93	0.41	0.6	L					2											T	
16	10I48,0019 b	砕片	黒曜石1c		0.57	0.42	0.18	0.1																		
17	10I48,0020	砕片	珪質頁岩 5	7a	1.48	1.38	0.37	0.7					1	2												
18	10I48,0021	砕片	黒曜石1c		1.22	0.79	0.28	0.3																		
19	10I49,0001 a	石核	黒曜石1b	8	4.79	3.83	3.77	64.5																		
20	10I49,0001 b	剝片	黒曜石1b	7	2.69	2.88	1.16	7.1	6	106				2	1	1									F	
21	10I49,0001 c	剝片	黒曜石1a	3	3.98	3.01	0.77	4.8	2		○			4	1				1						R	F
22	10I49,0002	剝片	黒曜石 2	2	4.18	3.12	1.21	11.5						2	2		2									H

第10表 第5ブロック組成表

	楔形石器	石核	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石 1a	0	0	5 9.44	0	5 9.44	22.73 9.40
黒曜石 1b	1 2.62	1 64.5	3 8.91	0	5 76.03	22.73 75.70
黒曜石 1c	0	0	2 1.3	7 0.9	9 2.2	40.91 2.19
黒曜石 2	0	0	1 11.47	0	1 11.47	4.55 11.42
珪質頁岩 5	0	0	1 0.6	1 0.7	2 1.3	9.09 1.29
総計	1 2.62	1 64.5	12 31.72	8 1.6	22 100.44	100.00 100.00
総計比%	4.55 2.61	4.55 64.22	54.55 31.58	36.36 1.59	100.00 100.00	

第11表 第6ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状			
													C	S	H	T	R	L	D	V											
1	10145.0001	砕片	黒曜石1a		1.05	1.33	0.33	0.3																							
2	10146.0028	砕片	珪質頁岩5		0.96	1.31	0.23	0.2																							
3	10146.0030	剝片	黒曜石1c	5	1.48	2.43	0.80	1.7	2		○		○	1																	T
4	10146.0031 a	砕片	黒曜石1c		1.03	1.20	0.23	0.3																							
5	10146.0031 b	砕片	珪質頁岩5		0.77	0.60	0.13	0.1																							
6	10146.0031 c	砕片	珪質頁岩5		0.55	0.46	0.09	0.1																							
7	10146.0039	砕片	黒曜石1b		0.42	0.62	0.42	0.1																							
8	10155.0001 a	砕片	黒曜石1a		0.74	0.38	0.18	0.1																							
9	10155.0001 b	砕片	黒曜石1c		0.42	0.38	0.03	0.1																							
10	10155.0002	砕片	黒曜石1b		0.47	0.52	0.42	0.1																							
11	10155.0003	剝片	黒曜石1c		1.72	1.47	0.13	0.4																							
12	10155.0004	剝片	黒曜石1c		1.52	0.82	0.21	0.1																							
13	10155.0005	砕片	黒曜石1c		0.98	0.61	0.15	0.1																							
14	10155.0006	砕片	黒曜石1c		0.76	1.12	0.12	0.1																							
15	10155.0007	剝片	珪質頁岩5		1.72	0.61	0.13	0.2																							
16	10155.0008	剝片	黒曜石1c		1.98	1.13	0.10	0.3																							
17	10155.0009	剝片	安山岩B1		0.87	2.28	0.22	0.5																							
18	10155.0010	剝片	黒曜石1a		2.19	1.02	0.47	0.8																							
19	10155.0011	砕片	黒曜石1c		1.34	1.32	0.42	0.8																							
20	10155.0012	砕片	黒曜石1c		1.13	0.69	0.12	0.1																							
21	10155.0013	剝片	珪質頁岩5	2	3.14	2.15	0.95	5.0	1																						H
22	10155.0014	砕片	黒曜石1c		1.03	0.78	0.11	0.1																							
23	10156.0001	砕片	黒曜石1c		0.89	1.07	0.18	0.2																							
24	10156.0002	剝片	黒曜石1c		1.05	1.52	0.36	0.5																							
25	10156.0003	剝片	黒曜石1b	4	2.37	2.96	0.88	4.7						○	3																H
26	10156.0004	剝片	黒曜石1c		1.47	1.84	0.18	0.2																							
27	10156.0005	砕片	黒曜石1c		1.13	0.86	0.12	0.1																							
28	10156.0006	砕片	黒曜石1c		0.71	0.56	0.08	0.1																							
29	10156.0007	砕片	黒曜石1c		1.31	0.77	0.17	0.2																							
30	10156.0008	剝片	珪質頁岩5	3	2.51	2.06	0.46	1.8	2																						F
31	10156.0010	砕片	黒曜石1c		1.45	0.83	0.19	0.2																							
32	10156.0011	剝片	黒曜石1c		1.73	1.23	0.25	0.5																							
33	10156.0012	剝片	黒曜石1c		1.80	1.92	0.22	0.6																							
34	10156.0013 a	砕片	黒曜石1a		0.77	1.13	0.32	0.3																							
35	10156.0013 b	砕片	黒曜石1a		0.52	0.83	0.11	0.1																							
36	10156.0014	削器	チャート3	1	2.96	1.85	1.28	5.5	S		○				2	1		1													F
37	10156.0020	砕片	黒曜石1c		1.38	1.13	0.24	0.2																							
38	10156.0021	砕片	黒曜石1c		1.18	0.43	0.17	0.1																							
39	10156.0024	砕片	黒曜石1a		0.52	0.37	0.18	0.1																							
40	10156.0025	砕片	黒曜石1c		0.95	0.92	0.21	0.2																							
41	10156.0026	砕片	黒曜石1c		1.03	1.12	0.19	0.2																							
42	10156.0027 a	剝片	黒曜石1c		0.78	1.85	0.10	0.1																							
43	10156.0027 b	砕片	黒曜石1c		0.53	0.74	0.08	0.1																							
44	10156.0028	砕片	黒曜石1c		0.53	0.35	0.04	0.1																							

第12表 第6ブロック組成表

	削器	剝片	砕片	総計	総計比%
黒曜石1a	0	1 0.8	5 0.9	6 1.7	13.64 6.17
黒曜石1b	0	1 4.68	2 0.2	3 4.88	6.82 17.70
黒曜石1c	0	9 4.36	18 3.3	27 7.66	61.36 27.78
珪質頁岩5	0	3 6.93	3 0.4	6 7.33	13.64 26.59
安山岩B1	0	1 0.5	0	1 0.5	2.27 1.81
チャート3	1 5.5	0	0	1 5.5	2.27 19.95
総計	1 5.5	15 17.27	28 4.8	44 27.57	100.00 100.00
総計比%	2.27 19.95	34.09 62.64	63.64 17.41	100.00 100.00	



第14表 第7ブロック組成表

	台形石器	U剝片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石 1a	0	0	1 2.59	0	1 2.59	1.49 3.69
黒曜石 1b	0	1 0.68	7 5.6	19 3.1	27 9.38	40.30 13.38
黒曜石 1c	0	0	1 6.64	0	1 6.64	1.49 9.47
珪質頁岩 2	0	0	0	0.1	0.1	1.49 0.14
珪質頁岩 4	1 1.17	0	12 23.62	6 1.3	19 26.09	28.36 37.20
安山岩 B 1	0	0	5 21.7	10 1.3	15 23	22.39 32.80
流紋岩 3	0	0	1 2.03	2 0.3	3 2.33	4.48 3.32
総計	1 1.17	1 0.68	27 62.18	38 6.1	67 70.13	100.00 100.00
総計比%	1.49 1.67	1.49 0.97	40.30 88.66	56.72 8.70	100.00 100.00	

第15表 第8ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V							
1	10I67.0015	剝片	珪質頁岩 4	4	2.92	1.27	1.03	2.3	C																		F
2	10I67.0016	砕片	流紋岩 2		0.93	1.39	0.19	0.2																			
3	10I68.0001 a	砕片	黒曜石 1b		1.08	0.73	0.19	0.2																			
4	10I68.0001 b	砕片	黒曜石 1b		1.11	0.63	0.14	0.1																			
5	10I68.0002	剝片	黒曜石 1b		2.78	1.66	0.51	1.9																			
6	10I68.0003	剝片	黒曜石 1b		1.96	1.47	0.48	1.5																			
7	10I68.0004	剝片	珪質頁岩 4		2.02	1.95	0.33	1.6																			
8	10I68.0005	石刃	黒曜石 1b	1a	1.60	1.84	0.38	0.9							2		1										T
9	10I68.0006	石刃	黒曜石 1b	1b	1.70	1.32	0.43	0.7	L	90		○			2												
10	10I68.0007	剝片	黒曜石 1b		1.80	1.00	0.26	0.5																			
11	10I68.0008	砕片	黒曜石 1c		0.80	0.65	0.34	0.2																			
12	10I68.0009	砕片	黒曜石 1c		1.40	1.06	0.67	0.8																			
13	10I68.0010	剝片	黒曜石 1b		1.86	1.52	0.23	0.6																			
14	10I68.0011	剝片	安山岩 B 1	3	4.57	1.59	0.79	3.4	2	106					2	2											O
15	10I68.0012	砕片	黒曜石 1b		0.93	0.63	0.30	0.2																			
16	10I69.0001	石核	黒曜石 1b	21o	3.07	4.26	3.96	41.2							○												
17	10I69.0002	剝片	黒曜石 1c	2	7.63	3.68	2.59	40.6	1	78		○			2	3		4									O

第16表 第8ブロック組成表

	石刃	石核	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石 1b	2 1.6	1 41.2	4 4.5	3 0.5	10 47.8	58.82 49.32
黒曜石 1c	0	0	1 40.6	2 1	3 41.6	17.65 42.92
珪質頁岩 4	0	0	2 3.88	0	2 3.88	11.76 4.00
安山岩 B 1	0	0	1 3.44	0	1 3.44	5.88 3.55
流紋岩 2	0	0	0	1 0.2	1 0.2	5.88 0.21
総計	2 1.6	1 41.2	8 52.42	6 1.7	17 96.92	100.00 100.00
総計比%	11.76 1.65	5.88 42.51	47.06 54.09	35.29 1.75	100.00 100.00	



番号	遺物番号	器種	母岩	插图番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 調整	頭部 調整	背面構成									調整角	先端角	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
												C	S	H	T	R	L	D	V								
76	10I78,0062	碎片	黑曜石1b		0.57	0.69	0.07	0.1																			
77	10I78,0063	碎片	黑曜石1b		0.98	1.02	0.23	0.3																			
78	10I78,0064	碎片	黑曜石1b		0.95	0.78	0.19	0.1																			
79	10I78,0065	碎片	黑曜石1b		0.28	0.24	0.02	0.1																			
80	10I78,0066	碎片	黑曜石1b		0.57	1.08	0.31	0.2																			
81	10I78,0067	碎片	黑曜石1a		0.87	1.03	0.11	0.1																			
82	10I78,0068	剝片	黑曜石1b	14a	2.34	3.94	1.03	5.6																			H
83	10I78,0069	剝片	黑曜石1b		1.74	1.69	0.27	0.7																			
84	10I78,0070	碎片	黑曜石1b		0.83	1.01	0.08	0.1																			
85	10I78,0072	碎片	黑曜石1b		0.32	0.14	0.08	0.1																			
86	10I78,0073	碎片	黑曜石1b		0.66	0.50	0.21	0.1																			
87	10I78,0075	碎片	黑曜石1b		0.36	0.19	0.09	0.1																			
88	10I78,0076	碎片	黑曜石1b		0.70	1.15	0.11	0.1																			
89	10I78,0077	碎片	黑曜石1b		0.82	0.76	0.20	0.1																			
90	10I78,0078	剝片	黑曜石1b		1.78	0.85	0.60	0.5																			
91	10I78,0080	碎片	黑曜石1b		0.86	0.86	0.38	0.3																			
92	10I78,0081	剝片	黑曜石1b		1.20	1.63	0.46	0.6																			
93	10I78,0082	碎片	黑曜石1b		0.57	0.62	0.08	0.1																			
94	10I78,0083	碎片	黑曜石1b		0.45	0.69	0.16	0.1																			
95	10I78,0084	碎片	黑曜石1b		0.45	0.22	0.09	0.1																			
96	10I78,0085	碎片	黑曜石1c		1.43	1.35	0.32	0.6																			
97	10I78,0086	碎片	黑曜石1b		0.43	0.33	0.15	0.1																			
98	10I78,0087	碎片	黑曜石1c		1.31	0.62	0.45	0.3																			
99	10I78,0088	碎片	黑曜石1b		1.07	0.53	0.17	0.1																			
100	10I78,0089	剝片	黑曜石1c		2.08	0.97	0.39	0.9																			
101	10I78,0090	碎片	黑曜石1b		1.05	0.50	0.11	0.1																			
102	10I78,0091	碎片	黑曜石1b		0.46	0.22	0.02	0.1																			
103	10I78,0092	碎片	黑曜石1b		0.52	0.43	0.15	0.1																			
104	10I78,0093	碎片	黑曜石1b		0.53	0.49	0.05	0.1																			
105	10I78,0094	碎片	黑曜石1b		0.46	1.28	0.13	0.1																			
106	10I78,0095	碎片	黑曜石1b		0.64	0.98	0.22	0.2																			
107	10I78,0096	碎片	黑曜石1b		0.62	0.74	0.09	0.1																			
108	10I78,0097	碎片	黑曜石1b		0.82	0.55	0.07	0.1																			
109	10I78,0098	碎片	黑曜石1b		0.34	0.57	0.03	0.1																			
110	10I78,0099	碎片	黑曜石1b		0.53	0.88	0.21	0.1																			
111	10I78,0100	剝片	黑曜石1b	14b	4.86	3.56	2.04	28.4	1						1	3											O
112	10I78,0101	ナイフ形石器	流紋岩2	1	2.55	1.50	0.71	1.5																			
113	10I78,0102	碎片	黑曜石1b		0.52	0.31	0.12	0.1																			
114	10I78,0103	碎片	黑曜石1c		0.83	0.89	0.34	0.2																			
115	10I78,0104	碎片	黑曜石1b		0.47	0.47	0.06	0.1																			
116	10I78,0105	剝片	黑曜石1b		1.73	0.97	0.24	0.3																			
117	10I78,0106	碎片	黑曜石1b		0.79	0.90	0.07	0.1																			
118	10I78,0107	碎片	黑曜石1c		0.61	0.32	0.26	0.1																			
119	10I78,0108	碎片	黑曜石1b		0.28	0.36	0.03	0.1																			
120	10I78,0109	碎片	黑曜石1b		0.72	0.67	0.12	0.1																			
121	10I78,0110	碎片	黑曜石1b		0.53	0.43	0.12	0.1																			
122	10I78,0111	碎片	黑曜石1b		1.26	1.12	0.26	0.3																			
123	10I78,0112	碎片	黑曜石1b		0.40	0.42	0.03	0.1																			
124	10I78,0113	碎片	黑曜石1b		1.07	0.93	0.23	0.2																			
125	10I78,0114	碎片	黑曜石1c		1.36	0.30	0.28	0.1																			
126	10I78,0115	碎片	黑曜石1b		0.25	0.33	0.04	0.1																			
127	10I78,0116	碎片	黑曜石1b		0.63	0.98	0.13	0.1																			
128	10I78,0117	碎片	黑曜石1b		0.31	0.60	0.04	0.1																			
129	10I78,0118	碎片	黑曜石1b		0.90	0.92	0.31	0.2																			
130	10I78,0119	碎片	黑色頁岩1		0.22	0.09	0.04	0.1																			
131	10I78,0120	碎片	黑曜石1b		0.34	0.66	0.08	0.1																			
132	10I78,0121	碎片	黑曜石1b		0.45	0.58	0.20	0.1																			
133	10I78,0122	碎片	黑曜石1b		0.38	0.13	0.04	0.1																			
134	10I78,0123	碎片	黑曜石1b		0.41	0.53	0.07	0.1																			
135	10I78,0124	碎片	黑曜石1b		0.58	0.53	0.09	0.1																			
136	10I78,0125	碎片	黑曜石1b		0.11	0.31	0.06	0.1																			
137	10I78,0126 a	碎片	黑曜石1b		0.87	1.01	0.43	1.6																			
138	10I78,0126 b	碎片	黑曜石1b		0.12	0.43	0.07	0.1																			
139	10I78,0127	碎片	黑曜石1b		0.27	0.30	0.08	0.1																			
140	10I78,0128	碎片	珪質頁岩5		0.29	0.15	0.12	0.1																			
141	10I78,0129	碎片	黑曜石1b		0.60	0.31	0.03	0.1																			
142	10I78,0130	碎片	黑曜石1b		0.83	0.36	0.20	0.1																			
143	10I78,0131	碎片	黑曜石1b		0.24	0.38	0.06	0.1																			
144	10I78,0132	碎片	黑曜石1b		0.71	0.43	0.47	0.1																			
145	10I78,0133	碎片	黑曜石1a		0.47	0.62	0.07	0.1																			
146	10I78,0134	碎片	黑曜石1b		0.53	0.45	0.19	0.1																			
147	10I78,0135	碎片	黑曜石1c	21aa	1.46	0.34	0.39	0.2																			
148	10I78,0136	碎片	黑曜石1b		0.52	0.52	0.08	0.1																			
149	10I78,0137	碎片	黑曜石1c		0.62	1.14	0.30	0.2																			
150	10I78,0138	碎片	黑曜石1b		0.24	0.22	0.02	0.1																			
151	10I78,0139	碎片	黑曜石1c																								

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 。	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 。	先端角 。	調整 部位	折面 部位	末端 形状
													C	S	H	T	R	L	D	V								
153	10178,0141	碎	片 黑曜石1c		0.41	0.23	0.21	0.1																				
154	10178,0142	碎	片 黑曜石1b		0.36	0.34	0.05	0.1																				
155	10178,0143	碎	片 黑曜石1b		0.92	0.81	0.23	0.2																				
156	10178,0144	碎	片 黑曜石1a		0.78	0.32	0.09	0.1																				
157	10178,0145	碎	片 黑曜石1b		0.83	0.46	0.06	0.1																				
158	10178,0146	碎	片 黑曜石1b		0.43	0.70	0.16	0.1																				
159	10178,0147	碎	片 黑曜石1b		0.39	0.83	0.13	0.1																				
160	10178,0148	碎	片 黑曜石1c		0.69	0.50	0.06	0.1																				
161	10178,0149	碎	片 黑曜石1b		0.43	0.18	0.05	0.1																				
162	10178,0150	碎	片 黑曜石1b		0.32	0.18	0.07	0.1																				
163	10178,0151 a	碎	片 黑曜石1b		0.76	0.39	0.07	0.1																				
164	10178,0151 b	碎	片 黑曜石1b		0.53	0.18	0.07	0.1																				
165	10178,0151 c	碎	片 黑曜石1b		0.59	0.27	0.03	0.1																				
166	10178,0152	碎	片 黑曜石1b		0.29	0.19	0.01	0.1																				
167	10179,0001	剝	片 黑曜石1c		1.33	1.54	0.56	0.6																				
168	10179,0002	碎	片 黑曜石1c		0.46	0.79	0.18	0.1																				
169	10179,0003	剝	片 黑曜石1c		1.64	2.43	0.82	2.8	1		○	○				3									M			
170	10179,0004	剝	片 黑曜石1c		1.59	0.73	0.68	0.5	1			○				1										L,M		
171	10179,0005	剝	片 黑曜石1c	21c	2.52	1.22	0.81	-																				
172	10179,0006	剝	片 黑曜石1c	9	2.42	3.14	0.53	4.4								2										M,T		
173	10179,0007	剝	片 黑曜石1b		1.92	1.13	0.31	0.5																				
174	10179,0008	剝	片 黑曜石1b	8	3.04	1.76	0.41	1.3								4										H,T		
175	10179,0009	剝	片 珪質頁岩5	17	5.62	3.41	0.72	14.8	1	97						5										F		
176	10179,0010	剝	片 黑曜石1b	7c	1.38	1.73	0.31	1.0																				
177	10179,0011	碎	片 黑曜石1c		1.00	0.88	0.37	0.3																				
178	10187,0004	碎	片 黑曜石1c		0.55	0.52	0.06	0.1																				
179	10187,0005	碎	片 黑曜石1c		0.87	1.27	0.45	0.3																				
180	10187,0006	碎	片 黑曜石1b		0.78	0.51	0.08	0.1																				
181	10187,0007	U 剝	片 黑曜石1b	3	3.09	2.41	0.47	3.2	L			○				2										T		
182	10188,0001	碎	片 黑曜石1c		0.78	1.12	0.22	0.2																				
183	10188,0002	碎	片 黑曜石1c		0.82	1.17	0.18	0.2																				
184	10188,0003	碎	片 黑曜石1c		0.63	0.63	0.22	0.1																				
185	10188,0004	剝	片 黑曜石1c	21j	2.22	1.79	0.73	1.8					○															
186	10188,0005	剝	片 黑曜石1a	21aj	1.18	2.30	0.58	1.6					○			2												
187	10188,0006	碎	片 黑曜石1c		0.43	1.08	0.32	0.2																				
188	10188,0007	碎	片 黑曜石1a		1.25	1.45	0.49	0.8																				
189	10188,0008	碎	片 黑曜石1c		1.01	1.05	0.13	0.1																				
190	10188,0009	剝	片 黑曜石1c	21p	1.33	2.19	0.78	1.3					○															
191	10188,0010	碎	片 黑曜石1b	21i	1.33	1.03	0.27	0.2					○			1												
192	10188,0011	碎	片 黑曜石1c	21k	1.02	1.43	0.43	0.4	1							2		1										
193	10188,0012	碎	片 黑曜石1c		1.63	0.82	0.31	0.4																				
194	10188,0013	碎	片 黑曜石1c		1.37	1.03	0.43	0.6																				
195	10188,0014	碎	片 黑曜石1b		0.63	0.58	0.14	0.1																				
196	10188,0015	碎	片 黑曜石1b		0.47	0.41	0.05	0.1																				
197	10188,0016	碎	片 黑曜石1c		0.89	0.87	0.24	0.2																				
198	10188,0017	剝	片 黑曜石1b	21y	1.77	1.02	0.27	0.5	1							4										T		
199	10188,0018 a	剝	片 黑曜石1b		0.92	1.73	0.51	0.6																				
200	10188,0018 b	碎	片 黑曜石1b		0.35	0.45	0.02	0.1																				
201	10188,0019 a	碎	片 黑曜石1b		0.57	0.84	0.27	0.1																				
202	10188,0019 b	碎	片 黑曜石1b		0.81	0.61	0.14	0.1																				
203	10188,0020	碎	片 黑曜石1c		1.08	1.07	0.43	0.6																				
204	10188,0021	碎	片 黑曜石1b		0.57	0.21	0.02	0.1																				
205	10188,0022	碎	片 黑曜石1b		0.51	1.27	0.31	0.2																				
206	10188,0023	碎	片 黑曜石1b		0.79	0.58	0.36	0.1																				
207	10188,0024	碎	片 黑曜石1b		1.13	0.97	0.10	0.1																				
208	10188,0025	石	核 黑曜石1b	5	3.47	2.17	1.49	8.9																				
209	10188,0026	敲	石 砂岩4	4	9.80	4.43	3.12	163.6																				
210	10188,0027	剝	片 黑色頁岩2	19	5.65	3.35	0.84	12.2	1	127			○				3									F		
211	10188,0028	碎	片 黑曜石1c		0.67	0.23	0.25	0.1																				
212	10188,0029	碎	片 黑曜石1c		0.36	0.71	0.19	0.1																				
213	10188,0030	碎	片 黑曜石1c		0.87	0.38	0.17	0.1																				
214	10188,0031	石	核 黑曜石1a	21ak	2.27	2.85	1.89	9.8																				
215	10188,0032	碎	片 黑曜石1c		1.09	0.73	0.31	0.2																				
216	10188,0033	石	核 黑曜石1a	21s	2.58	2.42	1.58	9.0																				
217	10188,0034	碎	片 黑曜石1b		0.30	0.41	0.15	0.1																				
218	10188,0035	碎	片 黑曜石1c		1.25	0.70	0.20	0.2																				
219	10188,0036	剝	片 黑曜石1b		2.63	2.45	0.60	2.4																				
220	10188,0037	剝	片 黑曜石1a	21t	4.52	2.58	1.20	11.4					○				2											
221	10188,0038	剝	片 黑曜石1a		1.22	2.03	0.44	0.9																				
222	10188,0039	剝	片 黑曜石1c		1.62	2.03	0.37	0.5																				
223	10188,0040	剝	片 黑曜石1b		1.86	1.93	0.30	0.9																				
224	10188,0041	碎	片 黑曜石1b		0.64	0.56	0.17	0.1																				
225	10188,0042	碎	片 黑曜石1c		0.67	0.51	0.23	0.1																				
226	10188,0043	剝	片 黑曜石1a		6.75	4.49	2.23	53.5	6				○	○														





番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角	打面 調整	頭部 調整	背面構成										調整角	先端角	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V									
307	10188,0124	碎	片	黑曜石1c		1.37	1.23	0.16	0.2																				
308	10188,0125	碎	片	黑曜石1c		0.26	0.08	0.01	0.1																				
309	10188,0126	碎	片	黑曜石1c		0.78	1.37	0.23	0.3																				
310	10188,0127	剝	片	黑曜石1a		1.17	1.85	0.38	0.5																				
311	10188,0128	碎	片	黑曜石1b		0.21	0.27	0.10	0.1																				
312	10188,0129 a	剝	片	黑曜石1b	21m	5.96	3.91	3.13	43.0				○		2														
313	10188,0129 b	碎	片	黑曜石1c		0.69	0.57	0.12	0.1																				
314	10188,0130	碎	片	黑曜石1a	21a	1.28	1.03	0.25	0.4				○														M		
315	10188,0131	碎	片	黑曜石1c		1.07	1.11	0.25	0.4																				
316	10188,0132	碎	片	黑曜石1c		0.27	0.13	0.08	0.1																				
317	10188,0133	碎	片	黑曜石1c		0.96	0.49	0.13	0.1																				
318	10188,0134	碎	片	黑曜石1a		0.89	1.32	0.54	0.6																				
319	10188,0135 a	碎	片	黑曜石1c		0.83	0.79	0.26	0.2																				
320	10188,0135 b	碎	片	黑曜石1c		0.45	0.19	0.10	0.1																				
321	10188,0136	碎	片	黑曜石1b		0.20	0.27	0.09	0.1																				
322	10188,0137	碎	片	黑曜石1b		0.41	0.25	0.01	0.1																				
323	10188,0138	碎	片	黑曜石1b		0.42	0.37	0.03	0.1																				
324	10188,0139	碎	片	黑曜石1b		0.10	0.19	0.02	0.1																				
325	10188,0140	碎	片	黑曜石1c		0.28	0.31	0.04	0.1																				
326	10188,0141	碎	片	黑曜石1b		0.36	0.19	0.05	0.1																				
327	10188,0143	碎	片	黑曜石1c		0.26	0.29	0.04	0.1																				
328	10188,0144	碎	片	黑曜石1b		0.19	0.10	0.01	0.1																				
329	10188,0145	碎	片	黑曜石1c		0.21	0.12	0.01	0.1																				
330	10188,0147	碎	片	黑曜石1c		0.30	0.21	0.07	0.1																				
331	10188,0148	碎	片	黑曜石1c		0.53	0.51	0.08	0.1																				
332	10188,0149	碎	片	黑曜石1b		0.32	0.37	0.05	0.1																				
333	10188,0150	石核	核	黑曜石1b	21x	2.28	3.14	1.86	15.0																				
334	10188,0151	碎	片	黑曜石1b		0.19	0.30	0.05	0.1																				
335	10188,0152	碎	片	黑曜石1c		0.13	0.07	0.01	0.1																				
336	10188,0153	碎	片	黑曜石1b		0.38	0.72	0.12	0.1																				
337	10188,0154	碎	片	黑曜石1b		0.80	0.69	0.10	0.1																				
338	10188,0155	碎	片	黑曜石1c		0.36	0.30	0.02	0.1																				
339	10188,0156	碎	片	黑曜石1c		0.90	0.74	0.05	0.1																				
340	10188,0157	碎	片	黑曜石1b		0.12	0.29	0.06	0.1																				
341	10188,0158	碎	片	黑曜石1b		0.32	0.31	0.10	0.1																				
342	10188,0159	碎	片	黑曜石1b		0.20	0.29	0.09	0.1																				
343	10188,0160	碎	片	黑曜石1b		0.39	0.47	0.02	0.1																				
344	10188,0161	碎	片	黑曜石1b		0.24	0.32	0.01	0.1																				
345	10188,0162	剝	片	黑曜石1a		2.11	1.08	0.47	0.9																				
346	10188,0163	碎	片	黑曜石1b		0.28	0.32	0.02	0.1																				
347	10188,0164	碎	片	黑曜石1b		0.38	0.45	0.04	0.1																				
348	10188,0165	碎	片	黑曜石1b		0.46	0.16	0.01	0.1																				
349	10188,0166	碎	片	黑曜石1c		0.41	0.38	0.09	0.1																				
350	10188,0167	碎	片	黑曜石1c		0.53	0.73	0.03	0.1																				
351	10188,0168	碎	片	黑曜石1b		0.96	0.61	0.13	0.1																				
352	10188,0169	碎	片	黑曜石1c		0.86	1.04	0.21	0.1																				
353	10188,0170	碎	片	黑曜石1b		0.49	0.26	0.02	0.1																				
354	10188,0171	碎	片	黑曜石1b		0.56	0.36	0.05	0.1																				
355	10188,0172	碎	片	黑曜石1c		0.63	1.11	0.10	0.1																				
356	10188,0173	碎	片	黑曜石1c		0.12	0.16	0.01	0.1																				
357	10188,0174	碎	片	黑曜石1b		0.62	0.21	0.03	0.1																				
358	10188,0175	碎	片	黑曜石1c		0.16	0.19	0.01	0.1																				
359	10188,0176	碎	片	黑曜石1b		0.21	0.29	0.01	0.1																				
360	10188,0177	碎	片	黑曜石1b		0.22	0.37	0.04	0.1																				
361	10188,0178	碎	片	黑曜石1b		0.37	0.23	0.02	0.1																				
362	10188,0179	碎	片	黑曜石1c		0.53	0.49	0.11	0.1																				
363	10188,0180	碎	片	黑曜石1c		0.56	0.41	0.18	0.1																				
364	10188,0181	碎	片	黑曜石1b		0.31	0.56	0.05	0.1																				
365	10188,0182	碎	片	黑曜石1b		0.24	0.29	0.02	0.1																				
366	10188,0183	碎	片	黑曜石1c		0.29	0.21	0.01	0.1																				
367	10188,0184	U剝	片	黑曜石1c	21h	1.12	2.74	0.39	1.1				○		1									R	T,M				
368	10188,0185	碎	片	黑曜石1c		0.73	0.17	0.18	0.2																				
369	10189,0001	碎	片	黑曜石1b		1.20	0.78	0.19	0.2																				
370	10189,0002	碎	片	黑曜石1c		1.16	0.45	0.07	0.1																				
371	10189,0003	剝	片	黑曜石1c	21d	3.39	3.82	1.12	12.8	1			○		4														
372	10189,0004	剝	片	黑曜石1c		2.61	1.23	0.76	2.3																				
373	10189,0005	剝	片	黑曜石1c		0.85	1.53	0.23	0.3																				
374	10189,0006	剝	片	黑曜石1b	15	4.33	3.08	0.73	6.6	1			○		3													F	

第18表 第9ブロック組成表

	ナイフ形石器	石刃	石核	敲石	U剝片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石1a	0	0	4 130.7	0	0	17 146.6	11 3.9	32 281.2	8.56 34.20
黒曜石1b	0	0	2 23.93	0	2 3.59	33 141.13	182 23.2	219 191.85	58.56 23.33
黒曜石1c	0	0	1 58.5	0	2 4.3	22 51.23	87 15.3	112 129.33	29.95 15.73
珪質頁岩5	0	0	0	0	0	1 14.8	1 0.1	2 14.9	0.53 1.81
珪質頁岩6	0	1 1.27	0	0	0	0	0	1 1.27	0.27 0.15
珪質頁岩7	0	0	0	0	0	1 8.1	0	1 8.1	0.27 0.99
黒色頁岩1	0	0	0	0	0	1 18	1 0.1	2 18.1	0.53 2.20
黒色頁岩2	0	0	0	0	0	1 12.2	0	1 12.2	0.27 1.48
安山岩B1	0	0	0	0	0	0	2 0.2	2 0.2	0.53 0.02
流紋岩2	1 1.53	0	0	0	0	0	0	1 1.53	0.27 0.19
砂岩4	0	0	0	1 163.6	0	0	0	1 163.6	0.27 19.90
総計	1 1.53	1 1.27	7 213.13	1 163.6	4 7.89	76 392.06	284 42.8	374 822.28	100.00 100.00
総計比%	0.27 0.19	0.27 0.15	1.87 25.92	0.27 19.90	1.07 0.96	20.32 47.68	75.94 5.21	100.00 100.00	

第20表 第10ブロック組成表

	ナイフ形石器	敲石	石核	R剝片	剝片	碎片	総計	総計%
黒曜石1b	1 5	0	1 17.2	0	18 35.44	34 6.3	54 63.94	84.38 19.88
黒曜石1c	0	0	0	0	3 1.7	1 0.9	4 2.6	6.25 0.81
珪質頁岩6	0	0	0	1 20.4	0	0	1 20.4	1.56 6.34
黒色頁岩1	0	0	0	0	1 40.4	0	1 40.4	1.56 12.56
黒色頁岩2	0	0	0	0	1 16.8	0	1 16.8	1.56 5.22
砂岩5	0	1 126.6	0	0	0	0	1 126.6	1.56 39.36
ホルンフェルス2	1 9.9	0	0	0	0	0	1 9.9	1.56 3.08
結晶片岩1	0	1 41	0	0	0	0	1 41	1.56 12.75
総計	2 14.9	2 167.6	1 17.2	1 20.4	23 94.34	35 7.2	64 321.64	100.00 100.00
総計比%	3.13 4.63	3.13 52.11	1.56 5.35	1.56 6.34	35.94 29.33	54.69 2.24	100.00 100.00	

第19表 第10ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図 番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角	打面 調整	頭部 調整	背面構成							調整角	先端角	調整 部位	折面 部位	末端 形状					
													C	S	H	T	R	L	D						V				
1	10185,0001	剝片	黒曜石1b	8	4.54	1.79	1.21	5.0																				H, T	F
2	10185,0002	剝片	黒曜石1b	12a	1.37	2.17	0.49	1.2																					
3	10185,0003	剝片	黒曜石1b	12b	1.65	1.47	0.47	0.9																					
4	10185,0004	剝片	黒曜石1b	6a	2.09	2.82	1.16	6.0									1	3										T	
5	10185,0005	剝片	黒曜石1b	6b	3.84	2.26	0.65	5.9									3	2										H	O
6	10185,0006	剝片	黒曜石1c		1.70	0.79	0.46	0.6																					
7	10186,0001	剝片	黒曜石1b		1.52	1.57	0.31	0.6																					
8	10186,0002	剝片	黒曜石1b		1.86	1.10	0.34	0.5																					
9	10186,0003	剝片	黒曜石1b		1.62	1.55	0.45	0.7																					
10	10186,0004	砕片	黒曜石1b		0.52	1.12	0.16	0.1																					
11	10186,0005	砕片	黒曜石1b		1.17	1.17	0.25	0.4																					
12	10186,0006	剝片	黒曜石1b		3.49	1.42	0.39	1.5																					
13	10186,0007	砕片	黒曜石1b		0.92	0.85	0.19	0.2																					
14	10186,0008	砕片	黒曜石1b	13a	0.80	0.82	0.11	0.1																					
15	10186,0009 a	砕片	黒曜石1b		1.87	1.06	0.37	0.5																					
16	10186,0009 b	砕片	黒曜石1b		0.64	0.41	0.25	0.1																					
17	10186,0010	砕片	黒曜石1b		1.15	0.94	0.23	0.3																					
18	10186,0011	砕片	黒曜石1b		0.79	1.03	0.17	0.1																					
19	10186,0012	砕片	黒曜石1b		1.05	0.29	0.09	0.1																					
20	10186,0013	砕片	黒曜石1b	9a	1.54	1.18	0.18	0.2																					
21	10186,0014	砕片	黒曜石1b		0.69	0.85	0.21	0.2																					
22	10186,0015	砕片	黒曜石1b		1.17	1.02	0.13	0.2																					
23	10186,0016	砕片	黒曜石1b		1.49	0.83	0.24	0.3																					
24	10186,0017	剝片	黒曜石1c		1.78	0.82	0.40	0.5																					
25	10186,0018	砕片	黒曜石1b		0.94	1.21	0.12	0.2																					
26	10186,0019	砕片	黒曜石1b		1.42	0.92	0.28	0.4																					
27	10186,0020	剝片	黒曜石1b	13b	2.64	3.01	0.44	3.0																					
28	10186,0021	剝片	黒曜石1b	11a	2.36	2.97	0.47	2.6																					
29	10186,0022	砕片	黒曜石1b		1.04	0.73	0.19	0.1																					
30	10186,0023	砕片	黒曜石1b		0.63	0.51	0.08	0.1																					
31	10186,0024	剝片	黒曜石1b	9b	1.52	0.87	0.18	0.3																					
32	10186,0025	剝片	黒曜石1b	11b	1.27	2.33	0.19	0.6																					
33	10186,0026	砕片	黒曜石1b		0.73	0.52	0.11	0.1																					
34	10186,0027	砕片	黒曜石1b		0.94	1.00	0.14	0.1																					
35	10186,0028	砕片	黒曜石1b		1.47	1.03	0.18	0.3																					
36	10186,0029	剝片	黒曜石1b	14b	3.11	1.91	0.52	2.9						○		3	2										H	H	
37	10186,0030 a	砕片	黒曜石1b		1.13	0.96	0.08	0.1																					
38	10186,0030 b	砕片	黒曜石1b		0.32	0.67	0.03	0.1																					
39	10186,0030 c	砕片	黒曜石1b		0.51	0.38	0.11	0.1																					
40	10186,0031	砕片	黒曜石1b		0.38	0.38	0.10	0.1																					
41	10186,0032	ナイフ形石器	黒曜石1b	2	3.77	2.08	1.09	5.0																					
42	10186,0033	砕片	黒曜石1b		0.75	0.92	0.23	0.2																					
43	10186,0034	剝片	黒曜石1b		2.33	1.41	0.53	0.8																					
44	10186,0035	剝片	黒曜石1c		1.72	1.21	0.33	0.6																					
45	10186,0036	剝片	黒曜石1b	14d	2.23	1.60	0.34	1.2	2					○			2										M		
46	10186,0037	剝片	黒曜石1b		1.21	1.73	0.31	0.7																					
47	10186,0038	砕片	黒曜石1b		0.43	0.87	0.03	0.1																					
48	10186,0039	砕片	黒曜石1b		0.46	0.33	0.11	0.1																					
49	10186,0040	砕片	黒曜石1b		0.63	0.88	0.17	0.1																					
50	10186,0041	剝片	黒曜石1b		1.68	1.79	0.45	1.0																					
51	10186,0042	砕片	黒曜石1b		1.17	1.00	0.12	0.2																					
52	10186,0043	砕片	黒曜石1c		0.87	1.39	0.58	0.9																					
53	10186,0044	砕片	黒曜石1b		0.52	0.73	0.21	0.2																					
54	10186,0045	砕片	黒曜石1b		0.98	0.54	0.13	0.2																					
55	10186,0046	砕片	黒曜石1b		0.98	0.62	0.18	0.2																					
56	10186,0047	石核	黒曜石1b	14e	2.32	4.52	2.50	17.2																					
57	10186,0048	砕片	黒曜石1b	14a	1.15	1.25	0.33	0.4						○															
58	10187,0001	敲石	砂岩5	3	9.76	4.02	2.49	126.6																					
59	10187,0002	ナイフ形石器	ホルンフェルス2	1	5.82	2.44	0.91	9.9																					
60	10187,0003	剝片	黒色頁岩1	7	7.66	4.11	1.47	40.4	1	107				○	○	2												F	
61	10196,0001	砕片	黒曜石1b		0.54	1.07	0.09	0.1																					
62	10197,0001 a	剝片	黒色頁岩2	10	5.76	3.94	0.98	16.8	1	93				○		3												F	
63	10197,0001 b	R 剝片	珪質頁岩6	5	6.29	2.82	1.24	20.4	2					○		3													
64	10197,0002	敲石	結晶片岩1	4	8.87	2.66	1.25	41.0						○															





第22表 第16ブロック組成表

	ナイフ形石器	石刃	彫器	敲石	石核	R剥片	U剥片	剥片	碎片	礫	総計	総計比%
珪質頁岩8	0	1 21.2	0	0	0	0	0	0	0	0	1 21.2	0.66 2.23
珪質頁岩9	1 3.8	0	0	0	1 14.2	0	1 1.06	11 30.64	4 1.1	0	18 50.8	11.84 5.33
珪質頁岩10	0	0	0	0	2 22.2	0	0	14 24.66	4 2	0	20 48.86	13.16 5.13
珪質頁岩11	1 3.8	0	0	0	0	1 0	0	1 1.1	0	0	2 4.9	1.32 0.51
珪質頁岩12	0	0	0	0	0	5.00	0	0	0	0	1 5.00	0.66 0.53
珪質頁岩13	0	0	0	0	0	0	0	1 0.75	0	0	1 0.75	0.66 0.08
珪質頁岩14	0	0	0	0	0	0	0	1 3.74	0	0	1 3.74	0.66 0.39
珪質頁岩15	0	0	0	0	0	0	0	3 1.8	2 0.3	0	5 2.1	3.29 0.22
黒色頁岩3	1 3.4	0	1 24.4	0	2 82.4	0	0	28 135.54	19 4	0	51 249.74	33.55 26.22
黒色頁岩4	0	0	0	0	1 124.8	0	0	15 94.1	11 2.6	0	27 221.5	17.76 23.26
黒色頁岩5	0	0	0	0	0	0	0	1 5.22	0	0	1 5.22	0.66 0.55
流紋岩4	0	0	0	0	0	0	0	1 1.1	0	0	1 1.1	0.66 0.12
流紋岩5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 52.8	2 52.8	1.32 5.54
流紋岩6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 3.8	1 3.8	0.66 0.40
流紋岩7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 10.4	1 10.4	0.66 1.09
流紋岩8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 9.9	1 9.9	0.66 1.04
安山岩A2	0	0	0	0	1 10.6	0	0	0	0	0	1 10.6	0.66 1.11
安山岩A3	0	0	0	0	0	0	0	1 2.58	0	0	1 2.58	0.66 0.27
砂岩6	0	0	0	1 96.5	0	0	0	0	0	0	1 96.5	0.66 10.13
砂岩7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.9	1 0.9	0.66 0.09
ホルンフェルス3	0	0	0	0	0	0	0	4 33.93	0	0	4 33.93	2.63 3.56
ホルンフェルス4	0	0	0	0	0	0	0	2 15.4	0	0	2 15.4	1.32 1.62
チャート4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 10.8	1 10.8	0.66 1.13
チャート5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 16.8	1 16.8	0.66 1.76
チャート6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 20.8	1 20.8	0.66 2.18
チャート7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 7.7	1 7.7	0.66 0.81
玉髓1	0	0	0	0	0	0	1 2.43	1 3.22	0	0	2 5.65	1.32 0.59
玉髓2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 20.4	1 20.4	0.66 2.14
玉髓3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 18.5	1 18.5	0.66 1.94
総計	3 11	1 21.2	1 24.4	1 96.5	7 254.2	1 5	2 3.49	84 353.78	40 10	12 172.8	152 952.37	100.00 100.00
総計比%	1.97 1.16	0.66 2.23	0.66 2.56	0.66 10.13	4.61 26.69	0.66 0.53	1.32 0.37	55.26 37.15	26.32 1.05	7.89 18.14	100.00 100.00	

第23表 第17ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿入番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 。	打面 調整	頭部 調整	背面構成							調整角 。	先端角 。	調整 部位	折面 部位	末端 形状			
													C	S	H	T	R	L	D						V		
1	6K87,0002	ナイフ形石器	安山岩 A 4	1	7.01	2.10	1.10	14.0																			
2	6K88,0001	砕片	安山岩 A 4		0.65	0.64	0.11	0.03																			
3	6K88,0002	剝片	安山岩 A 4	2	7.35	2.28	1.32	11.2	L																		F
4	6K88,0003	剝片	安山岩 A 5	3	6.65	5.85	2.32	105.00						○													

第24表 第17ブロック組成表

	ナイフ形石器	剝片	砕片	総計	総計比%
安山岩 A 4	1 14	1 11.2	1 0.03	3 25.23	75.00 19.37
安山岩 A 5	0	105	0	105	25.00 80.63
総計	1 14	2 116.2	1 0.03	4 130.23	100.00 100.00
総計比%	25.00 10.75	50.00 89.23	25.00 0.02	100.00 100.00	

第25表 第18ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿入番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 。	打面 調整	頭部 調整	背面構成							調整角 。	先端角 。	調整 部位	折面 部位	末端 形状			
													C	S	H	T	R	L	D						V		
1	6L93,0001	剝片	珪質頁岩16	7b	2.27	1.16	0.52	1.1	3																		
2	6L94,0011	剝片	安山岩 A 6	5	4.37	1.12	0.67	3.1	2				○														F
3	6L94,0012	石刃	安山岩 A 6	1	6.61	2.35	1.15	15.4		105	○		○														O
4	6L94,0013	石刃	安山岩 A 7	2	3.53	2.18	0.39	2.92	1				○	○													T
5	6L94,0014	剝片	安山岩 A 8	4	6.00	2.35	1.02	10.8	5				○	○	○												F
6	6L94,0015	剝片	珪質頁岩16	7a	1.79	2.63	0.58	2.21	1																		F
7	6L94,0016	剝片	安山岩 A 6	6	5.71	2.36	0.68	10.6																			F
8	6L94,0017	剝片	安山岩 A 9	3	9.95	3.65	1.48	63.0																			

第26表 第18ブロック組成表

	石刃	剝片	総計	総計比%
珪質頁岩16	0	2 3.3	2 3.3	25.00 3.02
安山岩 A 6	1 15.4	2 13.7	3 29.1	37.50 26.67
安山岩 A 7	1 2.92	0	1 2.92	12.50 2.68
安山岩 A 8	0	1 10.8	1 10.8	12.50 9.90
安山岩 A 9	0	1 63	1 63	12.50 57.73
総計	2 18.32	6 90.8	8 109.12	100.00 100.00
総計比%	25.00 16.79	75.00 83.21	100.00 100.00	



第27表 第19ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状					
													C	S	H	T	R	L	D	V													
1	6L94,0001	ナイフ形石器	安山岩A10	4a	8.04	1.18	0.95	7.5																									
2	6L94,0002	石 刃	安山岩A7	11	4.40	1.30	0.74	3.8	2	100			○		2																	F	
3	6L94,0003	ナイフ形石器	珧質頁岩17	6	3.90	1.46	0.55	2.1																									
4	6L94,0004	剝 片	安山岩A6	27	2.73	2.78	0.59	5.34	3				○		2	1	1														T		
5	6L94,0005	剝 片	安山岩A6	16	4.08	2.16	0.81	6.93	1				○		3			1													T		
6	6L94,0006	ナイフ形石器	安山岩A6	2	3.72	2.24	0.68	4.2																									
7	6L94,0007	U 剝 片	安山岩A6	12	5.41	2.90	1.04	12.6	4	111					2																F		
8	6L94,0008	石 刃	安山岩A8	15	5.35	2.30	1.02	11.0	3	95	○				3	1															F		
9	6L94,0009	剝 片	安山岩A6	20	5.41	1.52	0.81	4.1	1				○		3	1															F		
10	6L94,0010	ナイフ形石器	安山岩A10	4b	8.04	1.18	0.95	7.5																									
11	6L94,0018	剝 片	安山岩A6	26	6.06	3.70	1.25	24.4	L				○		1																H		
12	7L04,0001	剝 片	安山岩A4	13	7.55	3.16	1.45	21.4					○		2	1															O		
13	7L04,0002	剝 片	安山岩A4	23	2.96	1.16	0.53	2.15					○		1															H,T			
14	7L04,0003	剝 片	ホルンフェルス5	14	7.20	1.32	1.20	6.0	1	106					3																H		
15	7L04,0004	剝 片	安山岩A4	22	5.93	1.52	0.85	6.3					○		1																F		
16	7L04,0005	石 刃	安山岩A7	10	4.70	2.13	0.80	8.3	1	125			○		3																F		
17	7L04,0006	石 刃	安山岩A7	7	6.85	2.05	0.85	12.4	1				○		3																H		
18	7L04,0007	ナイフ形石器	安山岩A4	1	4.70	1.73	0.75	5.1																									
19	7L04,0008	剝 片	安山岩A7	17	3.11	1.58	0.46	2.66	8	117	○				1	1															T		
20	7L04,0009	剝 片	安山岩A8	24	5.66	4.33	1.16	15.4	1				○		1		1														F		
21	7L04,0010	剝 片	安山岩A4	19	3.98	1.87	0.66	4.42	1				○		4		1														F		
22	7L04,0011	剝 片	安山岩A4	18	3.64	1.76	0.35	2.02	2						2	1	1														T		
23	7L04,0012	ナイフ形石器	安山岩A4	3	3.75	1.34	0.60	2.4																									
24	7L04,0013	剝 片	安山岩A4	21	6.02	1.61	1.05	6.2	1				○		3																F		
25	7L04,0014	ナイフ形石器	安山岩A7	5	4.24	1.31	0.70	3.3																									
26	7L04,0015	石 核	安山岩A11	28	5.67	6.32	1.54	77.5																									
27	7L04,0016	石 刃	安山岩A7	8	5.71	2.02	0.70	6.2	1	115			○		4																F		
28	7L04,0017	石 刃	安山岩A7	9	5.02	1.72	0.80	7.0	2		○				4																F		
29	7L05,0001	剝 片	安山岩A6	25	6.45	4.51	2.77	88.0					○		5																		

第28表 第19ブロック組成表

	ナイフ形石器	石刃	石核	U剝片	剝片	総 計	総計比%
珧 質 頁 岩 17	1 2.1	0	0	0	0	1 2.1	3.45 0.57
安 山 岩 A 4	2 7.5	0	0	0	6 42.49	8 49.99	27.59 13.65
安 山 岩 A 6	1 4.2	0	0	1 12.6	5 128.77	7 145.57	24.14 39.75
安 山 岩 A 7	1 3.3	5 37.7	0	0	1 2.66	7 43.66	24.14 11.92
安 山 岩 A 8	0	1 11	0	0	1 15.4	2 26.4	6.90 7.21
安 山 岩 A 10	2 15	0	0	0	0	2 15	6.90 4.10
安 山 岩 A 11	0	0	1 77.5	0	0	1 77.5	3.45 21.16
ホルンフェルス5	0	0	0	0	1 6	1 6	3.45 1.64
総 計	7 32.1	6 48.7	1 77.5	1 12.6	14 195.32	29 366.22	100.00 100.00
総 計 比%	24.14 8.77	20.69 13.30	3.45 21.16	3.45 3.44	48.28 53.33	100.00 100.00	

第29表 第20ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成											調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V										
1	7L05.0002	石 刃	安山岩 A 6	7	5.50	2.35	0.80	10.8	1		○			5	1														T	O
2	7L05.0003	剝 片	珪質頁岩18	15	2.40	0.92	0.36	0.6																				M	F	
3	7L14.0001	石 刃	安山岩 A 6	8	5.35	1.95	0.90	7.5	2		1	○		5														T		
4	7L14.0002	剝 片	安山岩 A 6	22	4.18	2.45	1.10	11.0	1					1														T		
5	7L15.0001	R 剝 片	安山岩 A 6	9	4.21	1.39	0.88	5.0						1											M	H,T				
6	7L15.0002	石 刃	安山岩 A 4	19	5.46	3.35	1.29	14.0	1			○	○	5	1														F	
7	7L15.0003	剝 片	安山岩 B 2	30	3.40	3.95	0.80	6.4	3	110	4			5															H	
8	7L15.0004	剝 片	安山岩 A 4	29	4.50	4.91	1.69	25.2	2				○	1	2														F	
9	7L15.0005	石 刃	安山岩 A 4	5	7.68	3.40	1.92	37.4	1	104			○	○	5	1	1	2											H	
10	7L15.0006a	剝 片	安山岩 A 6	26	7.32	4.58	0.88	34.8	P				○																F	
11	7L15.0006b	石 刃	安山岩 A11	2	6.95	1.84	1.00	12.0	2		1	○				4	2	1								T	T			
12	7L15.0007	石 刃	安山岩 A 6	4	6.68	2.31	1.04	24.0	1		3	○				4		1	6										O	
13	7L15.0008	剝 片	安山岩 A12	27	6.36	4.14	1.85	52.5	P				○																F	
14	7L15.0009	剝 片	安山岩 B 2	34	3.15	3.84	1.11	13.0	P				○																F	
15	7L15.0010	石 刃	安山岩 A 6	18	4.54	1.85	0.90	5.2	1				○	○	4														O	
16	7L15.0011	剝 片	安山岩 A 6	32	2.53	2.61	0.84	4.46					○	○	1														F	
17	7L15.0012	石 刃	安山岩 A 6	6a	3.50	1.10	0.87	2.8							2													T		
18	7L15.0013	石 刃	安山岩 A 6	6b	1.05	0.60	0.37	0.3	C						2	1	2									H				
19	7L15.0014	剝 片	安山岩 A 6	33	2.74	3.16	0.61	5.34	1	105			○	○	3															
20	7L15.0015	ナイフ形石器	安山岩 A11	1	6.08	1.60	0.85	7.9																		H,T				
21	7L15.0016	U 剝 片	安山岩 A 4	11a	7.32	2.36	1.00	14.9	2				○			1										H	M			
22	7L15.0017	剝 片	安山岩 A 4	20	4.30	1.57	0.79	5.84					○	○		1		1	2										O	
23	7L15.0018	石 刃	安山岩 A 4	12	6.64	3.00	1.21	19.2	1	106	3				4														F	
24	7L15.0019	剝 片	安山岩 A 6	35	2.81	4.28	1.18	10.4	1	113			○																F	
25	7L15.0020	R 剝 片	安山岩 A11	10	3.30	3.20	1.31	12.0							1	1			1	2							M			
26	7L15.0021	U 剝 片	安山岩 A 4	11b	7.32	2.36	1.00	14.9					○			2		2	1									M		
27	7L15.0022	剝 片	安山岩 A 6	28	5.88	4.48	0.80	24.6	1			○																	F	
28	7L15.0023	剝 片	安山岩 A 6	23	4.82	1.85	1.35	11.98	2			○			3														F	
29	7L15.0024	剝 片	ホルンフェルス 5	24	4.42	3.42	0.88	6.7	1	113			○	1															O	
30	7L15.0025	石 刃	安山岩 A11	17	4.82	2.20	0.96	9.8	1				○	4												H			F	
31	7L15.0026	剝 片	安山岩 A 6	31	2.83	3.67	0.74	5.13	3	96			○	○	2														O	
32	7L15.0027	石 刃	安山岩 A 4	13	4.98	1.99	1.20	8.82	1						2	1		1											H	
33	7L15.0028	石 刃	安山岩 A 4	16	6.10	1.56	1.14	8.3	1	101			○	2		1		4	1										F	
34	7L15.0029	剝 片	安山岩 A11	25	6.35	5.57	2.30	87.0					○	3		1													O	
35	7L15.0030	石 刃	安山岩 B 3	3	5.91	2.17	0.85	7.02							3	1													F	
36	7L15.0031	石 刃	安山岩 A 4	14	4.22	1.57	0.38	2.60							3												H,T			
37	7L15.0032	剝 片	安山岩 A 6	21	2.54	1.23	0.46	1.55	1				○	○		1												T		

第30表 第20ブロック組成表

	ナイフ形石器	石刃	R剝片	U剝片	剝片	総計	総計比%
珪質頁岩18	0	0	0	0	1 0.6	1 0.6	2.70 0.11
安山岩 A 4	0	6 90.32	0	2 29.8	2 31.04	10 151.16	27.03 28.47
安山岩 A 6	0	6 50.54	1 5	0	9 109.26	16 164.8	43.24 31.04
安山岩 A11	1 7.9	2 21.8	1 12	0	1 87	5 128.7	13.51 24.24
安山岩 A12	0	0	0	0	1 52.5	1 52.5	2.70 9.89
安山岩 B 2	0	0	0	0	2 19.4	2 19.4	5.41 3.65
安山岩 B 3	0	1 7.02	0	0	0	1 7.02	2.70 1.32
ホルンフェルス 5	0	0	0	0	1 6.7	1 6.7	2.70 1.26
総計	1 7.9	15 169.68	2 17	2 29.8	17 306.5	37 530.88	100.00 100.00
総計比%	2.70 1.49	40.54 31.96	5.41 3.20	5.41 5.61	45.95 57.73	100.00 100.00	

第31表 第21ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成										調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状
													C	S	H	T	R	L	D	V							
1	13J05.0001	砕片	珩質頁岩19		1.23	0.67	0.21	0.17																			
2	13J05.0002	砕片	珩質頁岩19		0.78	0.92	0.14	0.04																			
3	13J05.0003	砕片	珩質頁岩19		1.05	1.24	0.29	0.33																			
4	13J05.0004	ナイフ形石器	珩質頁岩19	1	2.37	1.85	0.90	3.0	1		○				1	2								T,R		F	
5	13J05.0005	ナイフ形石器	珩質頁岩19	5a	3.36	1.80	1.02	2.88							3	1								H,M			
6	13J05.0006	砕片	珩質頁岩19		1.36	1.25	0.31	0.34																			
7	13J05.0007	ナイフ形石器	珩質頁岩20	2	1.78	1.65	0.52	1.11									1	1						L			
8	13J05.0008	剝片	珩質頁岩19		1.75	0.88	0.66	0.80																			
9	13J05.0009	砕片	珩質頁岩19		0.59	1.41	0.10	0.05																			
10	13J05.0010	砕片	珩質頁岩19		0.90	0.96	0.21	0.23																			
11	13J05.0011	砕片	珩質頁岩19		1.47	1.18	0.38	0.47																			
12	13J06.0001	U 剝片	珩質頁岩19	8	2.57	1.22	0.81	1.60	2		○				1									T		H	
13	13J06.0002	剝片	珩質頁岩19	5b	1.20	1.69	0.51	0.69	1						1									T		O	
14	13J06.0003	U 剝片	珩質頁岩20	6	1.86	2.98	0.94	2.3	1						3									T		S	
15	13J06.0004	剝片	珩質頁岩20	7c	2.03	1.92	0.52	1.4	1									1								O	
16	13J06.0005	剝片	珩質頁岩20	12	1.71	1.69	0.27	0.65	1						3	1			1							F	
17	13J06.0006	砕片	珩質頁岩19		0.78	1.10	0.17	0.12																			
18	13J06.0007	砕片	珩質頁岩19		1.34	1.49	0.33	0.61																			
19	13J06.0008	剝片	珩質頁岩20	14	1.38	1.82	0.26	1.53	1			○			3			1								H	
20	13J06.0009	砕片	珩質頁岩19		1.10	1.25	0.22	0.26																			
21	13J06.0010	U 剝片	珩質頁岩20	7b	2.09	2.20	0.73	1.8	1						3									R		F	
22	13J06.0011	剝片	珩質頁岩21	10	2.50	2.26	0.64	1.7	1			○	○													O	
23	13J06.0012	剝片	珩質頁岩21	11	2.18	2.75	0.82	2.6	1				○		1											O	
24	13J06.0013	剝片	珩質頁岩21	9	2.58	1.91	0.79	2.6	1		○				1			1								O	
25	13J06.0014	砕片	珩質頁岩20	19	0.81	0.84	0.24	0.14	1			○			2											H	
26	13J06.0015	砕片	珩質頁岩19		1.12	1.47	0.30	0.25																			
27	13J06.0016	剝片	珩質頁岩20	7a	2.15	2.92	0.85	3.0	1						3	1										O	
28	13J06.0017	剝片	珩質頁岩19		1.23	1.73	0.39	0.54																			
29	13J06.0018	砕片	珩質頁岩20	18	0.85	1.10	0.20	0.19	1			○			4											H	
30	13J06.0019	砕片	珩質頁岩20	13	1.33	0.94	0.49	0.45	1						1	1										F	
31	13J06.0020	砕片	珩質頁岩19		1.35	1.08	0.24	0.24																			
32	13J06.0021	砕片	珩質頁岩19		1.06	1.25	0.23	0.18																			
33	13J06.0022	ナイフ形石器	珩質頁岩20	3	2.29	1.67	0.63	1.49									2							T			
34	13J06.0023	砕片	珩質頁岩19		0.72	0.44	0.09	0.03																			
35	13J06.0024	剝片	珩質頁岩19		2.10	1.03	0.68	0.93																			
36	13J06.0025	砕片	珩質頁岩19		1.00	1.45	0.39	0.36																			
37	13J06.0026	剝片	珩質頁岩19		1.38	1.81	0.35	0.76																			
38	13J06.0027	砕片	珩質頁岩20	16	1.08	1.23	0.25	0.22	1			○			2											F	
39	13J06.0028	砕片	珩質頁岩19		0.45	0.74	0.08	0.01																			
40	13J06.0029	砕片	珩質頁岩19		0.61	0.29	0.06	0.01																			
41	13J06.0030	砕片	珩質頁岩19		1.49	0.87	0.28	0.39																			
42	13J06.0031	剝片	珩質頁岩19		1.91	0.96	0.20	0.31																			
43	13J06.0032	ナイフ形石器	珩質頁岩20	4	2.11	1.72	0.82	2.62							1			1		1				L			
44	13J06.0033	剝片	珩質頁岩20	15	1.59	1.03	0.54	0.37	1			○			3											F	
45	13J06.0034	砕片	珩質頁岩19		0.83	0.49	0.17	0.06																			
46	13J06.0035	砕片	珩質頁岩20	17	0.92	0.89	0.14	0.11	1			○					1							T			
47	13J06.0036	砕片	珩質頁岩19		0.48	1.15	0.41	0.2																			
48	13J06.0037	砕片	珩質頁岩19		0.97	0.92	0.21	0.20																			
49	13J06.0038	砕片	珩質頁岩19		0.74	0.85	0.17	0.08																			

第32表 第21ブロック組成表

	ナイフ形石器	U剝片	剝片	砕片	総計	総計比%
珩質頁岩19	2 5.88	1 1.6	6 4.03	22 4.6	31 16.11	63.27 39.89
珩質頁岩20	3 5.22	2 4.1	5 6.95	5 1.11	15 17.38	30.61 43.03
珩質頁岩21	0	0	3 6.9	0	3 6.9	6.12 17.08
総計	5 11.1	3 5.7	14 17.88	27 5.71	49 40.39	100.00 100.00
総計比%	10.20 27.48	6.12 14.11	28.57 44.27	55.10 14.14	100.00 100.00	

第33表 第22ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状			
													C	S	H	T	R	L	D	V								
1	12J25,0001	尖頭器	珪質頁岩22	4	2.27	1.93	0.92	3.9					○															
2	12J26,0002	尖頭器	チャート8	2	3.50	2.27	0.80	6.1																				
3	12J26,0006	剝片	黒曜石3	11	2.78	3.22	0.50	3.3	1			○			3													
4	12J26,0007	碎片	黒曜石3		0.53	1.32	0.21	0.1																				
5	12J26,0009	R剝片	ホルンフェルス6	7	8.13	2.98	1.30	29.2	P			○	○	1			1							M		S		
6	12J26,0013	尖頭器	安山岩A13	5	3.27	3.43	1.32	16.0					○	3	2		7						R	M				
7	12J26,0015	剝片	安山岩A14	15	3.52	6.52	0.37	9.9	1			○	3													F		
8	12J27,0001	尖頭器調整剝片	黒曜石3	10	1.92	1.90	0.26	0.3	1																	O		
9	12J27,0003	剝片	安山岩A13	13	3.04	2.46	0.74	6.5	2		○		○				1									S		
10	12J27,0012	剝片	安山岩A13	12	2.87	2.08	0.68	4.0					○	1	1	1								M				
11	12J27,0013	剝片	安山岩A13		1.32	1.84	0.66	1.4																				
12	12J27,0017	尖頭器	安山岩A13	3	3.71	2.39	0.83	9.7																				
13	12J36,0017	U剝片	黒曜石4	9	2.86	1.79	0.65	2.6					○	○	2	1								R,T,L		F		
14	12J37,0002	R剝片	安山岩A15	6	4.54	2.96	1.68	24.6	2		○		○	1			1							T		O		
15	12J37,0003	尖頭器	流紋岩9	1	4.59	2.13	0.98	8.4																				
16	12J37,0005	剝片	安山岩A16		1.59	1.39	0.31	0.5																				
17	12J37,0006	石核	安山岩A16	8	2.83	3.89	3.63	39.4																				
18	12J37,0007	剝片	安山岩A16	14	2.60	3.62	0.92	8.7	C						2												S	

第34表 第22ブロック組成表

	尖頭器	石核	R剝片	U剝片	尖頭器調整剝片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石3	0	0	0	0	1 0.3	1 3.3	1 0.1	3 3.7	16.67 2.12
黒曜石4	0	0	0	1 2.6	0	0	0	1 2.6	5.56 1.49
珪質頁岩22	1 3.9	0	0	0	0	0	0	1 3.9	5.56 2.23
流紋岩9	1 8.4	0	0	0	0	0	0	1 8.4	5.56 4.81
安山岩A13	2 25.7	0	0	0	0	3 11.9	0	5 37.6	27.78 21.53
安山岩A14	0	0	0	0	0	1 9.9	0	1 9.9	5.56 5.67
安山岩A15	0	0	1 24.6	0	0	0	0	1 24.6	5.56 14.09
安山岩A16	0	1 39.4	0	0	0	2 9.2	0	3 48.6	16.67 27.84
チャート8	1 6.1	0	0	0	0	0	0	1 6.1	5.56 3.49
ホルンフェルス6	0	0	1 29.2	0	0	0	0	1 29.2	5.56 16.72
総計	5 44.1	1 39.4	2 53.8	1 2.6	1 0.3	7 34.3	1 0.1	18 174.6	100.00 100.00
総計比%	27.78 25.26	5.56 22.57	11.11 30.81	5.56 1.49	5.56 0.17	38.89 19.64	5.56 0.06	100.00 100.00	



番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 。	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 。	先端角 。	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V							
76	12J46,0039	砕片	黒曜石5		0.71	0.59	0.05	0.1																			
77	12J46,0040	砕片	黒曜石5		0.67	0.55	0.09	0.1																			
78	12J46,0041	砕片	黒色頁岩9		1.18	0.90	0.12	0.1																			
79	12J46,0042	剝片	黒曜石5		1.92	1.37	0.22	0.4																			
80	12J46,0043	尖頭器調整剝片	安山岩A13		1.28	2.73	0.27	1.0																			
81	12J46,0044	砕片	黒曜石3		1.16	0.73	0.07	0.1																			
82	12J46,0045	尖頭器調整剝片	黒曜石3		1.72	1.40	0.30	0.5																			
83	12J46,0046	剝片	黒曜石5		1.78	1.92	0.34	0.8																			
84	12J46,0047	砕片	黒曜石5		0.98	1.12	0.10	0.1																			
85	12J46,0048	砕片	黒曜石3		1.08	0.57	0.16	0.1																			
86	12J46,0049	砕片	黒曜石3		0.59	0.96	0.10	0.1																			
87	12J46,0050	砕片	黒曜石3		1.15	0.65	0.09	0.1																			
88	12J46,0051	砕片	黒曜石5		0.57	0.85	0.11	0.1																			
89	12J46,0052	砕片	黒曜石3		0.85	0.87	0.13	0.1																			
90	12J46,0053	剝片	黒曜石3	17c	1.72	1.52	0.21	0.6				○			1	1										M,R	
91	12J46,0054	剝片	黒曜石3		1.96	2.21	0.28	1.3																			
92	12J46,0055	砕片	チャート8		0.66	1.29	0.10	0.1																			
93	12J46,0056	剝片	黒曜石5		1.31	1.64	0.29	0.4																			
94	12J47,0023	剝片	黒曜石3		1.84	1.23	0.10	0.4																			

第36表 第23ブロック組成表

	尖頭器	ナイフ形石器	削器	U剝片	尖頭器削片	尖頭器調整剝片	剝片	砕片	総計	総計比%
黒曜石3	0	0	1 7.9	0	2 0.7	5 2.4	14 11.41	21 2.78	43 25.19	45.74 25.15
黒曜石4	0	0	0	0	0	0	1 0.6	2 0.3	3 0.9	3.19 0.90
黒曜石5	1 3.2	0	0	1 2	2 1.0	2 0.6	8 8.44	13 1.4	27 16.64	28.72 16.62
黒曜石6	0	0	0	0	0	0	1 3.3	0	1 3.3	1.06 3.30
珪質頁岩23	0	0	0	0	0	0	1 0.3	0	1 0.3	1.06 0.30
珪質頁岩24	1 3.7	0	0	0	0	0	0	0	1 3.7	1.06 3.69
珪質頁岩25	0	1 7.1	0	0	0	0	0	0	1 7.1	1.06 7.09
黒色頁岩6	1 5.1	0	0	0	0	0	0	1 0.41	2 5.51	2.13 5.50
黒色頁岩7	1 19	0	0	0	0	0	0	0	1 19	1.06 18.97
黒色頁岩8	0	1 2.1	0	0	0	0	0	0	1 2.1	1.06 2.10
黒色頁岩9	0	0	0	0	0	0	0	1 0.1	1 0.1	1.06 0.10
安山岩A13	0	0	0	0	0	1 1	1 1.1	1 0.1	3 2.2	3.19 2.20
安山岩A16	0	0	0	0	0	0	1 3.9	0	1 3.9	1.06 3.89
安山岩A17	0	0	0	0	0	0	1 0.7	0	1 0.7	1.06 0.70
安山岩B4	0	0	0	0	0	0	1 0.9	0	1 0.9	1.06 0.90
流紋岩10	0	0	0	0	0	0	1 2.8	0	1 2.8	1.06 2.80
チャート8	0	0	0	0	0	0	1 0.6	2 0.2	3 0.8	3.19 0.80
玉髓4	1 4.5	0	0	0	0	0	1 0.5	0	2 5	2.13 4.99
総計	5 35.5	2 9.2	1 7.9	1 2	4 1.7	8 4.0	32 34.55	41 5.29	94 100.14	100.00 100.00
総計比%	5.32 35.45	2.13 9.19	1.06 7.89	1.06 2.00	4.25 1.70	8.51 3.99	34.04 34.50	43.62 5.28	100.00 100.00	

第37表 第24ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V							
1	12J28.0001	剝片	珪質頁岩26	3	4.13	3.37	1.13	14.2	1				○		3			1									F
2	12J38.0001	尖頭器削片	黒曜石4	1	1.07	0.62	0.21	0.1																		T	
3	12J39.0001	剝片	黒曜石4		2.13	2.22	0.69	2.4																			
4	12J39.0002	剝片	黒曜石4		1.87	1.46	0.45	0.9																			
5	12J39.0003	U剝片	黒曜石4	2	2.82	1.37	0.28	1.0							1	1								3		L	H,T

第38表 第24ブロック組成表

	U剝片	尖頭器削片	剝片	総計	総計比%
黒曜石4	1 1	1 0.1	2 3.3	4 4.4	80.00 23.66
珪質頁岩26	0	0	1 14.2	1 14.2	20.00 76.34
総計	1 1	1 0.1	3 17.5	5 18.6	100.00 100.00
総計比%	20.00 5.38	20.00 0.54	60.00 94.09	100.00 100.00	

第39表 第25ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V							
1	12J38.0011	剝片	チャート8	7	2.67	3.24	0.89	8.4	1				○		1	1	3										F
2	12J47.0001	尖頭器削片	黒曜石5	6b	2.23	1.19	0.56	1.2								1	3	1								M	S
3	12J47.0002	剝片	珪質頁岩27		1.23	1.88	0.33	0.5																			
4	12J47.0004	砕片	黒曜石5		0.77	0.35	0.26	0.1																			
5	12J47.0006	剝片	黒曜石5		1.78	1.13	0.10	0.1																			
6	12J47.0007	尖頭器調整剝片	黒曜石4		1.37	2.22	0.36	0.8																			
7	12J47.0014	剝片	黒曜石4		1.22	1.52	0.19	0.3																			
8	12J47.0018	剝片	ホルンフェルス7	8	4.98	2.17	0.72	7.5	1						2	1	1										F
9	12J47.0019	砕片	黒曜石5		0.50	0.60	0.05	0.1																			
10	12J47.0020	砕片	黒曜石4		1.25	1.27	0.07	0.1																			
11	12J47.0021	砕片	黒曜石4		0.36	0.62	0.05	0.1																			
12	12J47.0024	剝片	黒曜石4		1.47	1.30	0.17	0.4																			
13	12J48.0001	剝片	黒曜石4		1.11	2.01	0.36	0.7																			
14	12J48.0002	砕片	黒曜石4		0.67	1.20	0.17	0.1																			
15	12J48.0010	U剝片	黒曜石4	5	2.92	2.86	0.49	3.5					○		2		3								R	T	F
16	12J48.0015	砕片	黒曜石4		0.98	0.98	0.07	0.1																			
17	12J48.0016	砕片	黒曜石4		0.75	0.67	0.05	0.1																			
18	12J48.0017	砕片	黒曜石4		0.41	0.45	0.03	0.1																			
19	12J56.0001	尖頭器削片	黒曜石6	6	3.32	2.78	0.47	3.4								1		3							L	H	
20	12J56.0005	剝片	黒曜石4		2.18	1.85	0.20	1.0																			
21	12J57.0002	尖頭器	黒曜石4	4	4.04	4.87	1.43	27.2					○														
22	12J57.0004	剝片	黒曜石5	9	2.39	3.15	0.67	4.8	2	93	○							3	1							T	
23	12J57.0007	剝片	黒色頁岩6	10	3.02	3.41	0.39	4.8	C	110		○	○		3												F
24	12J57.0008	尖頭器	安山岩A14	3	3.72	2.40	1.12	11.0																			
25	12J57.0009	剝片	黒曜石4		2.51	2.02	0.19	0.8																			
26	12J57.0013	剝片	珪質頁岩28		1.20	1.78	0.22	0.6																			
27	12J58.0001	砕片	珪質頁岩29		1.25	0.74	0.57	0.4																			
28	12J58.0002	剝片	珪質頁岩29		0.88	1.50	0.28	0.4																			
29	12J58.0034	砕片	黒曜石5		0.39	0.99	0.12	0.1																			
30	12J66.0001	尖頭器	黒曜石4	1	4.27	2.02	0.59	4.6																			
31	12J67.0001	尖頭器	黒曜石6	2	3.64	2.15	0.47	3.8					○													T	

第40表 第25ブロック組成表

母岩	尖頭器	U剝片	尖頭器削片	尖頭器調整削片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石4	2 31.8	1 3.5	0	1 0.8	5 3.2	6 0.6	15 39.9	48.39 45.81
黒曜石5	0	0	1 1.2	0	2 4.9	3 0.3	6 6.4	19.35 7.35
黒曜石6	1 3.8	0	1 3.4	0	0	0	2 7.2	6.45 8.27
珪質頁岩27	0	0	0	0	1 0.5	0	1 0.5	3.23 0.57
珪質頁岩28	0	0	0	0	1 0.6	0	1 0.6	3.23 0.69
珪質頁岩29	0	0	0	0	1 0.4	1 0.4	2 0.8	6.45 0.92
黒色頁岩6	0	0	0	0	1 4.8	0	1 4.8	3.23 5.51
チャート8	0	0	0	0	1 8.4	0	1 8.4	3.23 9.64
ホルンフェルス7	0	0	0	0	1 7.5	0	1 7.5	3.23 8.61
安山岩A14	1 11	0	0	0	0	0	1 11	3.23 12.63
総計	4 46.6	1 3.5	2 4.6	1 0.8	13 30.3	10 1.3	31 87.1	100.00 100.00
総計比%	12.90 53.50	3.23 4.02	6.45 5.28	3.23 0.92	41.94 34.79	32.26 1.49	100.00 100.00	

第41表 第26ブロック石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状		
													C	S	H	T	R	L	D	V							
1	12J49,0002	剝片	黒曜石4		0.97	1.63	0.14	0.3																			
2	12J49,0004	剝片	黒曜石4	2	3.57	4.33	0.90	10.6	4			○			2			1	1								F
3	12J58,0006	剝片	流紋岩11	8c	3.54	4.78	1.39	20.1	C	100		○		2													F
4	12J58,0012	剝片	ホルンフェルス8	4	2.97	3.03	0.24	3.5	2						3												F
5	12J58,0020	ナイフ形石器	珪質頁岩30	1	4.28	1.72	0.43	2.5																			
6	12J58,0028	剝片	黒曜石7	7	1.93	3.27	0.69	2.3				○			5	1	1									T	
7	12J58,0031	剝片	流紋岩11	8b	3.33	3.55	1.40	12.6	P			○															F
8	12J58,0032	剝片	流紋岩11	8d	5.36	4.51	1.63	12.6	C			○		1													F
9	12J58,0040	剝片	流紋岩11	8a	5.38	2.11	1.51	12.7	P			○															F
10	12J58,0041	剝片	玉髓5		1.45	2.12	0.29	0.8																			
11	12J58,0053	剝片	玉髓5		0.90	1.67	0.09	0.2																			
12	12J58,0071	剝片	玉髓5		0.47	1.58	0.13	0.1																			
13	12J58,0088	剝片	玉髓5		1.73	1.94	0.23	0.8																			
14	12J58,0089	剝片	玉髓5		0.81	1.79	0.17	0.2																			
15	12J58,0090	砕片	玉髓5		1.12	1.02	0.10	0.1																			
16	12J58,0092	剝片	玉髓5		1.86	1.87	0.18	0.5																			
17	12J58,0093	剝片	玉髓5	6	2.34	2.59	0.62	2.5	4			○			4		1										O
18	12J58,0097	U剝片	玉髓5	3	2.24	2.22	0.43	2.0							5		1										F
19	12J59,0001	剝片	黒曜石4		1.81	0.75	0.89	0.8																			
20	12J59,0003	剝片	黒曜石4		1.78	1.65	0.16	0.6																			
21	12J68,0002	剝片	珪質頁岩31	5	1.70	2.57	0.82	4.0	C			○		1			1										

第42表 第26ブロック組成表

	ナイフ形石器	U剝片	剝片	碎片	総計	総計比%
黒曜石4	0	0	4 12.3	0	4 12.3	19.05 13.69
黒曜石7	0	0	1 2.3	0	1 2.3	4.76 2.56
珪質頁岩30	1 2.5	0	0	0	1 2.5	4.76 2.78
珪質頁岩31	0	0	1 4	0	1 4	4.76 4.45
流紋岩11	0	0	4 58.03	0	4 58.03	19.05 64.60
ホルンフェルス8	0	0	1 3.5	0	1 3.5	4.76 3.90
玉髓5	0	1 2	7 5.1	1 0.1	9 7.2	42.86 8.02
総計比	1 2.5	1 2	18 85.23	1 0.1	21 89.83	100.00 100.00
総計比%	4.76 2.78	4.76 2.23	85.71 94.88	4.76 0.11		100.00 100.00



第43表 第1礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J15,0001	B	流紋岩11	4.16	2.26	2.18	21.00	d	d	1	1	ア	
2	12J26,0008	B	砂岩10	2.61	1.79	1.39	6.60	d	d	1	-	-	
3	12J26,0010	B	流紋岩12	4.61	3.47	3.42	65.50	d	d	2	2	-	
4	12J26,0011	B	砂岩11	4.02	2.87	1.20	13.80	d	d	1	-	-	
5	12J26,0012	B	チャート8	4.19	3.90	1.82	29.20	d	d	3	1	-	12J48-4.12.13.14
6	12J26,0016	B	砂岩12	3.49	2.39	1.57	15.20	d	d	2	2	-	12J27-15
7	12J26,0017	A	チャート9	3.56	2.85	1.94	23.60	a	a	1	-	-	

第44表 第2礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J26,0003	B	ホルンフェルス6	2.18	2.48	1.63	9.13	d	d	1	-	-	12J26-5,12J27-9,12J35-4
2	12J26,0004	B	砂岩13	4.92	2.52	1.48	23.20	d	c	1	-	-	12J37-8
3	12J26,0005	B	ホルンフェルス6	3.77	3.14	2.79	31.79	d	d	1	1	-	12J26-3,12J27-9,12J35-4
4	12J26,0014	B	砂岩14	2.74	2.07	1.35	10.80	d	d	2	-	-	12J27-1e.4.14,12J37-11
5	12J27,0001e	B	砂岩14	3.19	2.65	2.38	25.98	d	d	2	-	-	12J27-4.14,12J37-11
6	12J27,0001f	B	凝灰岩1	4.07	2.81	1.99	21.31	d	c	3	2	ア	12J27-5
7	12J27,0001g	D	砂岩15	2.28	2.08	1.69	10.49	d	d	-	-	-	
8	12J27,0001h	B	チャート10	1.81	1.20	0.67	2.32	d	d	1	1	-	12J58-84
9	12J27,0002	B	流紋岩13	4.26	1.71	1.28	6.90	d	d	1	1	ア	
10	12J27,0004	B	砂岩14	4.67	3.55	2.53	43.20	d	d	2	-	-	12J26-14,12J27-1.4,12J37-11
11	12J27,0005	B	凝灰岩1	4.54	4.47	2.00	61.50	c	c	2	-	ア	12J27-1
12	12J27,0006	B	砂岩16	4.79	2.97	2.91	42.60	d	d	3	-	ア	
13	12J27,0007	B	砂岩17	2.12	0.99	0.58	1.20	d	d	1	-	-	
14	12J27,0008	B	流紋岩14	2.74	1.60	0.64	2.10	d	d	1	-	ア	
15	12J27,0009	B	ホルンフェルス6	3.42	3.26	1.99	17.40	d	d	1	-	-	12J26-3.5,12J35-4
16	12J27,0010	B	砂岩18	1.88	1.86	1.45	5.60	d	d	1	-	-	
17	12J27,0011	B	流紋岩15	2.94	2.31	0.69	5.90	d	d	2	2	ア	
18	12J27,0014	B	砂岩14	4.37	3.11	2.98	27.20	d	d	2	-	ア	12J26-14,12J27-1.4,12J37-11
19	12J27,0015	B	砂岩12	4.64	3.32	1.90	37.00	d	d	2	2	-	12J26-16
20	12J27,0016	B	流紋岩16	5.60	3.64	1.72	44.20	d	d	2	2	-	12J35-2
21	12J27,0018	B	流紋岩17	5.72	5.11	3.46	102.00	b	b	2	2	ア	
22	12J37,0004	B	砂岩19	2.72	2.06	1.26	6.50	d	d	-	1	-	
23	12J37,0008	B	砂岩13	2.66	2.32	2.09	14.40	d	c	1	-	-	12J26-4

第45表 第3礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J35,0002	B	流紋岩16	4.67	2.54	1.89	27.40	d	d	3	2	ア	12J27-16
2	12J35,0004	B	ホルンフェルス6	4.48	2.96	2.76	29.40	d	d	1	1	-	12J26-3.5,12J27-9
3	12J35,0005	B	流紋岩18	3.04	2.48	1.74	15.00	d	d	2	1	-	12J45-3.5
4	12J35,0007	B	チャート11	5.04	3.94	2.95	62.00	b	b	1	1	-	
5	12J35,0009	B	流紋岩19	3.70	2.75	1.80	18.20	d	d	2	2	-	
6	12J35,0010	B	砂岩20	3.34	3.17	2.32	26.40	d	d	1	1	-	
7	12J36,0009	B	流紋岩20	6.19	4.85	4.10	153.90	d	b	3	3	ア	
8	12J36,0010	B	ホルンフェルス7	5.84	3.21	1.69	44.20	d	d	2	1	-	12J47-8
9	12J36,0012	A	流紋岩21	6.02	3.99	2.36	79.50	a	a	2	-	ア	
10	12J45,0001	B	流紋岩22	2.25	1.90	0.51	1.80	d	d	1	-	-	12J45-7
11	12J45,0003	B	流紋岩18	3.02	2.65	2.20	14.40	d	d	2	1	-	12J45-5,12J35-5
12	12J45,0005	B	流紋岩18	3.58	2.55	2.23	18.00	d	d	2	1	-	12J45-3,12J35-5
13	12J45,0007	B	流紋岩22	0.63	0.52	0.26	0.10	d	d	1	-	-	12J45-1
14	12J45,0008	B	砂岩14	3.60	3.15	2.39	21.80	d	d	2	-	-	12J45-9.16,12J27-1e.4.14,12J37-11
15	12J45,0009	B	砂岩14	3.36	2.15	1.83	10.60	d	d	2	-	-	12J45-8.16
16	12J45,0015	B	チャート12	2.33	2.27	1.36	6.60	d	d	1	1	-	12J45-18
17	12J45,0016	B	砂岩14	3.10	2.74	2.65	15.80	d	d	2	-	-	12J45-8.9,12J27-1e.4.14,12J37-11
18	12J45,0018	B	チャート12	3.32	2.60	1.85	23.40	d	d	1	1	-	12J45-15
19	12J46,0006	B	チャート13	2.54	2.48	1.93	11.20	d	d	2	2	-	12J58-13.35.87
20	12J46,0026	C	砂岩21	4.20	1.53	0.97	7.20	a	a	-	-	-	
21	12J46,0028	B	流紋岩23	3.17	2.38	1.37	11.00	d	d	1	1	-	
22	12J46,0033	B	珪質頁岩32	6.17	3.71	3.68	103.00	b	b	3	3	-	

第46表 第4礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J37,0009	B	流紋岩24	5.01	4.01	1.75	36.20	d	d	2	-	ア	
2	12J37,0010	B	安山岩1	5.48	4.10	2.65	51.50	d	d	2	2	-	12J58-9
3	12J37,0011	B	砂岩14	2.36	1.91	1.40	8.60	d	d	2	-	-	12J26-14,12J27-1.4.14
4	12J37,0012	B	流紋岩25	6.56	3.02	2.28	44.20	c	d	1	-	-	
5	12J38,0002	B	凝灰岩2	3.73	3.28	2.23	22.20	d	d	2	1	-	12J47-11,12J38-3
6	12J38,0003	B	凝灰岩2	3.08	2.50	1.66	16.40	d	d	2	1	-	12J38-2, 12J47-11
7	12J38,0004	B	チャート14	2.11	1.61	1.14	3.10	d	d	1	1	-	12J38-12.9
8	12J38,0005	B	流紋岩26	3.43	2.65	1.85	17.40	d	d	1	-	-	
9	12J38,0006	B	流紋岩26	2.41	2.33	1.07	5.30	d	d	-	1	-	
10	12J38,0007	B	チャート14	3.87	3.41	2.18	29.80	d	d	1	1	-	12J38-4.9.12
11	12J38,0008	B	流紋岩18	4.95	3.44	3.21	34.80	d	d	2	1	-	12J45-3.5,12J35-5
12	12J38,0009	B	チャート14	2.18	1.57	0.97	2.90	d	d	1	1	-	12J38-12.4
13	12J38,0010	B	チャート15	2.82	2.67	2.19	23.40	d	d	1	1	-	
14	12J38,0012	B	チャート14	2.04	1.41	1.03	2.00	d	d	1	1	-	12J38-9.4
15	12J48,0004	B	チャート8	5.32	4.37	2.43	48.20	d	d	3	3	-	12J26-12,12J48-12.13.14
16	12J48,0005	B	砂岩22	3.86	3.48	1.27	24.20	d	d	1	1	-	12J47-5.9
17	12J48,0006	B	チャート15	4.03	2.73	2.52	27.00	d	d	1	1	-	
18	12J48,0007	B	チャート16	3.43	2.82	2.14	17.60	d	d	3	-	-	12J49-1
19	12J48,0008	B	流紋岩28	3.85	2.67	2.14	23.00	d	d	2	1	ア	12J47-12, 12J57-10
20	12J48,0009	B	チャート17	3.52	2.43	0.99	9.70	d	d	3	2	-	
21	12J48,0012	B	チャート8	6.28	6.02	2.82	102.00	d	d	3	3	-	12J26-12,12J48-4.13.14
22	12J48,0013	B	チャート8	5.78	4.29	3.66	112.50	d	d	3	3	-	12J26-12,12J48-4.12.14
23	12J48,0014	B	チャート8	7.14	5.25	3.19	131.70	d	d	3	3	-	12J26-12,12J48-4.12.13
24	12J49,0001	B	チャート16	2.64	2.16	2.30	11.40	d	d	3	-	-	12J48-7
25	12J49,0003	A	チャート18	2.57	2.14	1.41	9.80	a	a	2	-	-	
26	12J49,0005	B	流紋岩29	5.98	4.09	2.44	51.00	b	b	3	2	イ	
27	12J49,0006	B	流紋岩30	4.81	3.41	1.89	34.80	d	d	1	1	-	

第47表 第5礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J47,0003	B	角閃石1	1.40	1.01	0.65	1.10	d	d	-	-	-	
2	12J47,0005	B	砂岩22	4.97	3.79	1.22	24.60	d	d	1	1	-	12J47-9,12J48-5
3	12J47,0008	B	ホルンフェルス7	1.92	1.76	1.12	3.20	d	d	2	1	-	12J36-10
4	12J47,0009	B	砂岩22	2.98	2.38	1.14	10.80	d	d	1	1	-	12J47-5,12J48-5
5	12J47,0010	B	砂岩22	2.24	1.95	0.92	3.60	d	d	1	1	-	
6	12J47,0011	B	凝灰岩2	6.16	5.02	1.59	62.00	d	d	2	2	-	12J38-2
7	12J47,0012	B	流紋岩28	2.55	1.46	0.98	3.20	d	d	2	1	-	12J48-8, 12J57-10
8	12J47,0013	B	砂岩22	1.45	1.39	1.37	3.50	d	d	-	1	-	
9	12J47,0015	B	チャート14	3.28	2.92	1.43	12.00	d	d	2	1	-	
10	12J47,0016	B	砂岩22	1.88	1.41	1.18	2.80	d	d	1	1	-	
11	12J47,0017	B	砂岩22	2.64	2.40	0.66	4.70	d	d	1	1	-	
12	12J47,0022	B	安山岩2	3.97	2.14	0.72	6.30	d	d	2	1	ア	
13	12J47,0025	B	流紋岩31	2.91	2.84	2.59	19.60	d	d	2	1	-	
14	12J48,0003	B	流紋岩32	3.74	2.85	2.26	33.00	d	d	1	-	-	
15	12J48,0011	B	チャート13	3.42	3.16	1.48	15.40	d	b	3	2	-	接合資料①
16	12J57,0010	B	流紋岩28	2.23	1.89	1.68	7.40	d	d	1	1	-	
17	12J57,0011	B	砂岩23	2.51	2.33	1.69	8.30	d	d	1	1	-	
18	12J57,0012	B	流紋岩33	3.34	2.29	1.44	9.00	d	d	2	1	-	

第48表 第6礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤化		付着	接合
										表面	割れ面		
1	12J56,0002	B	チャート15	0.89	0.45	0.31	0.10	d	d	-	2	-	
2	12J56,0003	B	チャート15	1.57	1.08	0.72	1.10	d	d	2	2	-	
3	12J56,0004	B	チャート15	2.85	1.76	1.37	5.90	d	d	-	2	-	
4	12J57,0001	B	流紋岩34	1.45	1.26	1.09	1.60	d	d	-	2	-	12J57-3.5.6
5	12J57,0003	B	流紋岩34	3.91	2.67	2.13	17.60	d	d	2	2	-	12J57-1.5.6
6	12J57,0005	B	流紋岩34	2.26	1.69	1.32	5.60	d	d	2	2	-	12J57-1.3.6
7	12J57,0006	B	流紋岩34	2.62	1.94	1.81	7.00	d	d	2	2	-	12J57-1.3.5
8	12J66,0002	A	砂岩24	3.23	1.77	1.54	10.00	a	a	2	-	-	12J58-76

第49表 第7礫群属性表

No.	遺物番号	分類	母 岩	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	遺存度	復元度	赤 化		付着	接 合
										表面	割れ面		
1	12J58,0003	B	チ ヤ ー ト13	2.43	1.86	0.80	4.20	d	b	3	2	-	接合資料①
2	12J58,0004	B	チ ヤ ー ト13	3.12	2.39	0.95	9.90	d	b	3	2	-	接合資料①
3	12J58,0005	B	流 紋 岩35	5.68	3.59	2.46	52.00	d	d	2	1	-	
4	12J58,0007	B	流 紋 岩36	5.76	5.03	3.06	105.00	b	b	3	2	ア	
5	12J58,0008	B	チ ヤ ー ト10	3.31	2.65	1.70	16.60	d	d	3	2	-	12J58-84,12J27-1
6	12J58,0009	B	安 山 岩1	5.83	3.71	2.57	58.00	d	c	2	1	-	12J37-10
7	12J58,0010	B	チ ヤ ー ト13	2.96	1.94	1.28	7.10	d	b	3	2	-	接合資料①
8	12J58,0011	A	流 紋 岩37	6.53	5.08	2.46	112.50	a	a	2	-	-	
9	12J58,0013	B	チ ヤ ー ト13	3.64	2.93	1.71	18.40	d	b	3	2	-	12J46-6,12J58-35,87
10	12J58,0014	A	安 山 岩2	5.97	3.57	3.49	103.50	a	a	1	-	-	
11	12J58,0015	B	チ ヤ ー ト19	3.66	3.47	2.64	30.20	d	c	2	1	-	12J58-73
12	12J58,0016	B	チ ヤ ー ト13	2.57	2.47	1.46	13.20	d	b	-	2	-	接合資料①
13	12J58,0017	B	チ ヤ ー ト20	3.94	2.94	1.47	19.40	d	d	2	2	-	12J58-39
14	12J58,0018	B	砂 岩11	2.41	1.52	0.47	2.10	d	d	2	2	-	12J26-11
15	12J58,0019	B	チ ヤ ー ト21	1.68	1.60	1.09	4.10	d	d	2	2	-	
16	12J58,0021	B	チ ヤ ー ト22	2.65	1.79	1.81	6.90	d	d	1	1	-	
17	12J58,0022	A	流 紋 岩38	6.66	5.41	4.19	188.00	a	a	2	-	ア,イ	
18	12J58,0023	B	チ ヤ ー ト10	3.73	2.57	1.12	9.10	d	d	2	1	-	
19	12J58,0024	B	チ ヤ ー ト13	2.39	1.56	1.24	3.70	d	d	3	3	-	12J58-50
20	12J58,0025	B	砂 岩25	3.45	3.19	0.91	9.50	d	d	2	-	-	12J58-37,49
21	12J58,0026	A	流 紋 岩39	10.19	6.30	6.21	450.40	a	a	2	-	-	
22	12J58,0027	B	流 紋 岩34	3.60	3.19	2.40	21.40	d	d	-	-	-	
23	12J58,0029	B	チ ヤ ー ト13	4.05	2.10	1.70	19.20	d	b	3	2	-	接合資料①
24	12J58,0030	B	チ ヤ ー ト13	2.88	2.33	1.47	7.50	d	b	3	2	-	接合資料①
25	12J58,0033a	B	チ ヤ ー ト15	2.81	2.43	1.60	9.35	d	d	2	1	-	
26	12J58,0033b	B	流 紋 岩40	2.95	2.28	1.23	7.70	d	d	-	-	-	
27	12J58,0033c	B	流 紋 岩34	2.26	2.09	1.89	7.69	d	d	-	-	-	
28	12J58,0033d	B	チ ヤ ー ト15	2.30	2.22	1.38	6.97	d	d	2	1	-	
29	12J58,0033e	B	チ ヤ ー ト22	1.85	1.61	1.06	2.26	d	d	1	1	-	
30	12J58,0035	B	チ ヤ ー ト13	2.60	1.14	1.63	2.80	d	b	3	2	-	12J46-6,12J58-13,87接合資料①
31	12J58,0036	B	チ ヤ ー ト13	3.47	2.48	2.08	22.00	d	b	3	2	-	接合資料①
32	12J58,0037	B	砂 岩25	3.96	2.85	1.06	16.80	d	d	2	-	-	12J58-25,49
33	12J58,0038	B	安 山 岩3	8.42	7.31	4.15	256.10	d	c	2	1	イ	12J58-60
34	12J58,0039	B	チ ヤ ー ト20	4.86	2.39	1.76	18.80	d	d	2	2	-	12J58-17
35	12J58,0042	B	チ ヤ ー ト13	2.39	1.93	0.86	6.00	d	b	3	2	-	接合資料①
36	12J58,0043	B	チ ヤ ー ト13	1.74	0.98	0.81	1.50	d	b	-	3	-	接合資料①
37	12J58,0044	B	チ ヤ ー ト13	2.94	2.60	1.43	8.40	d	b	-	2	-	接合資料①
38	12J58,0045	B	チ ヤ ー ト13	4.06	3.51	2.41	36.40	d	b	3	2	-	接合資料①
39	12J58,0046	B	チ ヤ ー ト13	0.95	0.81	0.42	0.30	d	b	3	2	-	接合資料①
40	12J58,0047	B	チ ヤ ー ト13	1.65	0.68	0.59	0.90	d	b	3	3	-	接合資料①
41	12J58,0048	B	チ ヤ ー ト13	1.86	1.42	1.34	3.00	d	b	3	2	-	接合資料①
42	12J58,0049	B	砂 岩25	3.46	2.95	1.90	16.20	d	d	2	-	-	12J58-25,37
43	12J58,0050	B	チ ヤ ー ト13	2.46	1.53	1.45	18.00	d	b	3	2	-	12J58-24接合資料①
44	12J58,0051	B	チ ヤ ー ト19	4.58	3.30	1.80	23.80	d	b	2	1	-	
45	12J58,0052	B	チ ヤ ー ト13	2.95	1.42	1.25	3.70	d	b	3	3	-	接合資料①
46	12J58,0054	B	チ ヤ ー ト10	2.19	1.75	0.94	3.30	d	d	3	2	-	12J58-56,58,64
47	12J58,0055	B	チ ヤ ー ト10	1.65	1.30	1.24	1.90	d	d	2	1	-	12J58-54,58,64
48	12J58,0056	B	チ ヤ ー ト10	2.38	1.77	1.06	4.20	d	d	2	2	-	12J58-54,55,64
49	12J58,0057	B	砂 岩25	4.16	2.55	0.75	8.20	d	d	2	1	-	12J58-25,37
50	12J58,0058	B	チ ヤ ー ト13	1.74	1.31	1.05	2.70	d	d	3	2	-	接合資料①
51	12J58,0059	B	チ ヤ ー ト13	1.47	1.06	0.89	1.20	d	d	3	2	-	
52	12J58,0060	B	安 山 岩3	6.20	4.49	2.79	68.50	d	c	2	1	-	12J58-38
53	12J58,0061	B	チ ヤ ー ト13	5.08	4.44	1.70	44.80	d	b	3	3	-	接合資料①
54	12J58,0062	B	砂 岩22	2.77	1.94	1.90	10.80	d	d	2	1	-	
55	12J58,0063	B	チ ヤ ー ト10	2.41	2.04	1.05	6.20	d	d	2	2	-	12J58-24,48,56,64
56	12J58,0064	B	チ ヤ ー ト10	1.95	1.85	1.05	3.50	d	d	2	2	-	12J58-24,48,55,64
57	12J58,0065	B	チ ヤ ー ト13	1.28	0.66	0.37	0.40	d	d	2	1	-	
58	12J58,0066	B	チ ヤ ー ト13	2.10	1.72	1.64	6.50	d	b	3	3	-	接合資料①
59	12J58,0067	B	チ ヤ ー ト10	4.37	1.97	1.09	11.00	d	d	2	1	-	12J58-24,55,56,58,64,68
60	12J58,0068	B	チ ヤ ー ト10	2.38	1.35	1.26	4.90	d	d	3	2	-	12J58-24,55,56,58,64,67
61	12J58,0069	B	チ ヤ ー ト13	1.89	1.00	0.62	0.90	d	b	3	2	-	接合資料①
62	12J58,0070	B	チ ヤ ー ト13	2.68	2.07	1.04	6.50	d	b	3	2	-	接合資料①
63	12J58,0072	B	チ ヤ ー ト10	1.14	0.78	0.72	0.60	d	b	2	1	-	12J58-24,55,56,58,64,67,68
64	12J58,0073	B	チ ヤ ー ト19	3.11	3.10	1.75	10.80	d	c	2	-	-	12J58-15
65	12J58,0074	B	流 紋 岩40	5.64	3.83	2.81	64.00	d	d	1	1	ア	
66	12J58,0075	B	チ ヤ ー ト13	1.82	1.60	1.14	3.80	d	b	3	2	-	接合資料①
67	12J58,0076	B	流 紋 岩41	7.19	3.48	1.69	44.80	d	d	2	1	-	12J58-95
68	12J58,0077	B	チ ヤ ー ト13	4.12	2.72	1.33	19.60	d	b	3	3	-	接合資料①
69	12J58,0078	B	チ ヤ ー ト13	2.11	2.03	1.32	5.20	d	b	3	3	-	12J58-66
70	12J58,0079	B	チ ヤ ー ト23	4.34	2.71	1.82	23.00	d	d	3	2	-	
71	12J58,0080	B	チ ヤ ー ト13	2.46	1.79	1.42	5.40	d	b	3	2	-	接合資料①
72	12J58,0081	B	流 紋 岩34	2.34	1.38	1.05	3.60	d	d	2	1	ア	12J58-27,33c
73	12J58,0082	B	チ ヤ ー ト10	1.53	1.09	0.65	1.40	d	d	3	2	-	
74	12J58,0083	B	チ ヤ ー ト13	2.94	2.08	0.93	6.70	d	b	3	3	-	接合資料①
75	12J58,0084	B	チ ヤ ー ト10	2.34	1.35	1.17	2.80	d	d	3	2	-	12J27-1h
76	12J58,0085	B	チ ヤ ー ト13	1.94	1.43	1.13	2.30	d	b	3	2	-	接合資料①
77	12J58,0086	B	チ ヤ ー ト13	1.50	1.41	0.95	1.70	d	b	3	3	-	接合資料①
78	12J58,0087	B	チ ヤ ー ト13	6.35	2.96	2.76	45.40	d	b	3	2	-	12J46-6,12J58-13,35
79	12J58,0091	B	チ ヤ ー ト10	2.97	2.29	1.38	10.00	d	d	2	1	-	12J58-24,54,55,56,58,64,67,68
80	12J58,0094	B	チ ヤ ー ト13	2.35	1.27	0.80	3.00	d	b	3	3	-	接合資料①
81	12J58,0095	B	流 紋 岩41	3.31	1.33	0.87	2.70	d	d	2	1	-	
82	12J58,0096	B	チ ヤ ー ト13	2.21	1.72	1.03	3.00	d	b	3	3	-	接合資料①
83	12J58,0098	B	チ ヤ ー ト13	2.63	1.71	1.45	5.70	d	b	3	2	-	12J58-96
84	12J68,0001	B	チ ヤ ー ト13	1.43	1.37	0.38	0.80	d	b	2	-	-	接合資料①

第50表 单独出土石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面 調整	頭部 調整	背面構成								調整角 °	先端角 °	調整 部位	折面 部位	末端 形状				
													C	S	H	T	R	L	D	V									
1	6M74,0001	ナイフ形石器	黒曜石8	1	2.53	2.06	0.77	3.28																			R,L	M	
2	7L50,0001	剝片	珪質頁岩32	2	3.18	4.01	0.81	11.02	C,1																				
3	10K95,0001	ナイフ形石器	黒曜石9	1	3.40	1.09	0.63	2.0																			L,T		H
4	10K95,0002	砕片	珪質頁岩33		1.35	1.21	0.50	0.8																					
5	10L61,0001	剝片	安山岩A18		1.46	1.56	0.83	1.7																					
6	10L71,0001	剝片	ホルンフェルス9	1	3.64	2.57	1.43	7.5					○																
7	12J77,0001	尖頭器削片	黒曜石6	1	2.97	1.06	0.19	0.6					○															T	
8	12J87,0002	石核	黒曜石10	2	3.14	2.91	1.61	14.4						○															

## 第3章 縄文時代

### 第1節 概要

本遺跡で縄文時代の所産とした遺構は、陥穴6基、土坑8基である。陥穴は調査区南半側において、西端から南端にかけて弧を描くように散漫に分布している。土坑は調査区北側部を中心にややまとって分布している。

縄文時代の土器は調査区全域からはごく少数の出土であったが、調査区北側（7L区～7M区）で土器の集中出土が確認され、土器集中遺構1か所（約400m<sup>2</sup>）の本調査が実施された。縄文土器は中期前半の阿玉台式土器群を主体としている。先の土坑のほとんどもこの本調査の精査に伴って検出された遺構である。石器は量的には多くはないが、土器分布範囲に一致するように検出された。多くは当該期の可能性が高い。

### 第2節 遺構と遺物

#### 1 陥穴

##### S K 001（第120図，図版25）

調査区中央部西側，10J 08・09・18区に位置する。平面形は細長い楕円形を呈する。規模は長軸約3.5m，短軸0.8m，深さ1.6mを測る。坑底は幅が狭く，緩やかに南壁側に深くなる。ピットは確認されなかった。長軸方位はN-15°-Eを示す。壁は長軸方向で壁下部でオーバーハングし上部で垂直に立ち上がり，短軸方向では壁下部で垂直に立ち上がり開口部でやや広がる。覆土は，上層が暗褐色土を主体にし，中層から下層部ではロームブロックを多く含む黄褐色土となり，最下層が暗黄褐色土となっており，自然堆積を示している。遺物は出土しなかった。

##### S K 003（第120図，図版25）

調査区南東端，13K 44区に位置する。平面形は隅丸長方形に近い楕円形を呈する。規模は長軸約3.1m，短軸1.0m，深さ1.3mを測る。坑底は幅が狭く，短軸方向は平坦であるが長軸方向では椀状に中央部が深くなる。ピットは確認されなかった。長軸方位はN-24°-Wを示す。壁は垂直に立ち上がり開口部でやや広がる。覆土は，上層が暗褐色土を主体にし，中層から下層部ではローム主体の黄褐色土となり，最下層が褐色土・暗褐色土となっており，自然堆積を示している。遺物は出土しなかった。

##### S K 006（第120図，図版25）

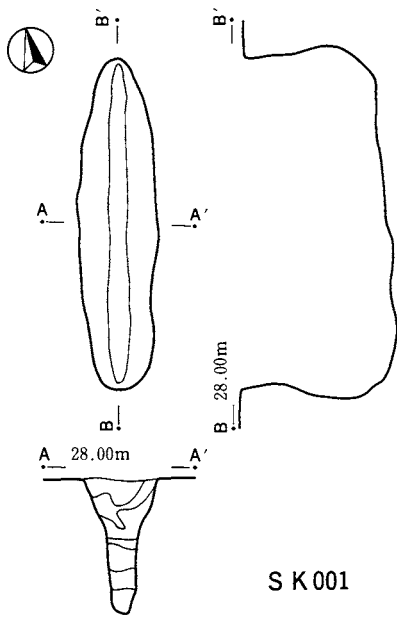
調査区南側，12J 46区に位置する。平面形は細長い楕円形を呈する。規模は長軸約2.9m，短軸0.5m，深さ1.0mを測る。坑底は長軸方向に棒状を呈し長軸北西壁側がやや深くなる。ピットは確認されなかった。長軸方位は，N-67°-Wを示す。壁は，長軸では坑底に向かってオーバーハングし，短軸では垂直に立ち上がり，開口部はやや広がる。覆土は，上層が暗褐色土で，中層から下層部ではロームを多く含む暗褐色・褐色土となり，最下層は黒色土となっており，自然堆積を示している。遺物は出土しなかった。

##### S K 007（第120図，図版25）

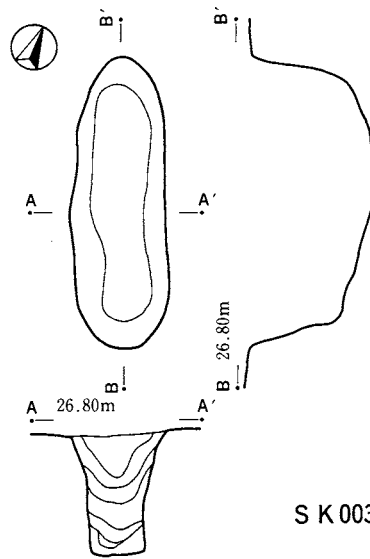
調査区南側，12J 14区に位置する。旧石器時代調査の表土除去中に検出された。平面形は長軸端が尖る細長い楕円形を呈する。規模は長軸約3.2m，短軸0.9m，深さ1.2mを測る。坑底はほぼ平坦である。ピッ



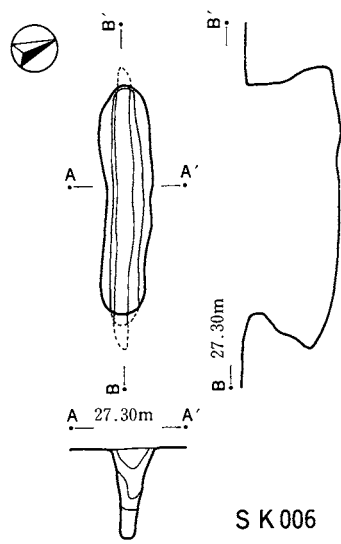
第119図 上層遺構分布図



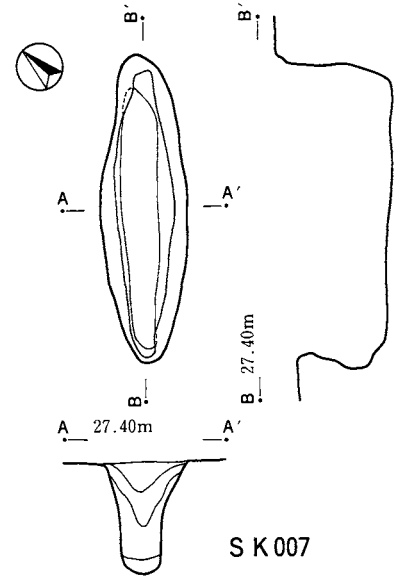
S K 001



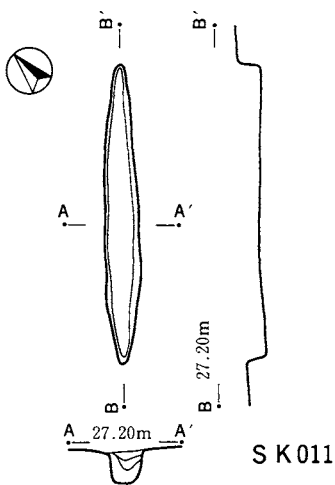
S K 003



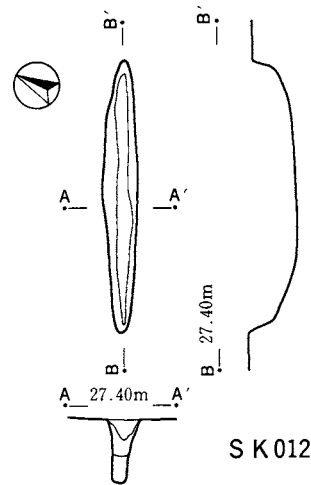
S K 006



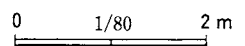
S K 007



S K 011



S K 012



第120图 S K 001 · 003 · 006 · 007 · 011 · 012

トは確認されなかった。長軸方位は、N-58°-Wを示す。壁は、長軸南西壁でオーバハングするが、他は壁下部で垂直に近く立ち上がり上半部で広がる。覆土は、上層が暗褐色土で、中層がローム主体の褐色土から黄褐色土で、最下層は黒色土となっており、自然堆積を示している。遺物は出土しなかった。

#### S K 011 (第120図, 図版25)

調査区西端, 10 I 28・29区に位置する。旧石器調査の表土除去後に検出され、検出面はハードロームとなるため遺構上部は削平されている。規模は長軸約3.1m, 短軸0.4m, 深さ0.3mを測る。坑底はほぼ平坦である。ピットは確認されなかった。長軸方位は、N-47°-Eを示す。壁は垂直に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K 012 (第120図, 図版25)

調査区西側, 10 J 50・51区に位置する。旧石器調査の表土除去後に検出され、検出面はハードロームとなるため遺構上部は削平されている。規模は長軸約2.8m, 短軸0.4m, 深さ0.5mを測る。坑底は中央部が皿状にやや深くなる。ピットは確認されなかった。長軸方位は、N-64°-Eを示す。壁は短軸方向では垂直に立ち上がり、長軸方向では緩やかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

## 2 土坑

#### S K 014 (第121図, 図版25・26)

調査区北西端, 7 K 22区に位置する。S K 015が南側に近接する。平面形は、楕円形を呈する。長軸1.3m, 短軸0.7m, 深さ0.2mを測る。坑底は中央で段をもち北西側で楕円形状に深くなる。その段をなす部分に径30cm, 深さ10cmの小ピットがある。遺構内からは出土しなかったが、周囲で縄文土器が出土している。

#### S K 015 (第121図, 図版25・26)

調査区北西端, 7 K 12・22区に位置する。S K 014が南側に近接する。平面形は、楕円形を呈する。長軸0.9m, 短軸0.5m, 深さ0.15mを測る。坑底はほぼ平坦である。ピットは確認されなかった。遺構内からは出土しなかったが、周囲で縄文土器が出土している。

#### S K 031 (第121図, 図版26・27)

調査区北東側, 7 L 28区に位置する。平面形は、ほぼ円形を呈する。長軸・短軸共に0.4m, 深さ0.15mを測る。坑底は楕円形を呈し、中央部が深くなり、椀状に壁が立ち上がる。ピットは確認されなかったが、遺構自体がピットほどの規模である。遺物は、覆土から阿玉台式土器(1)が1点出土している。

1は器面が剥落し明瞭でないが、弧状の結節沈線文が認められる。

#### S K 032 (第121図, 図版26・27)

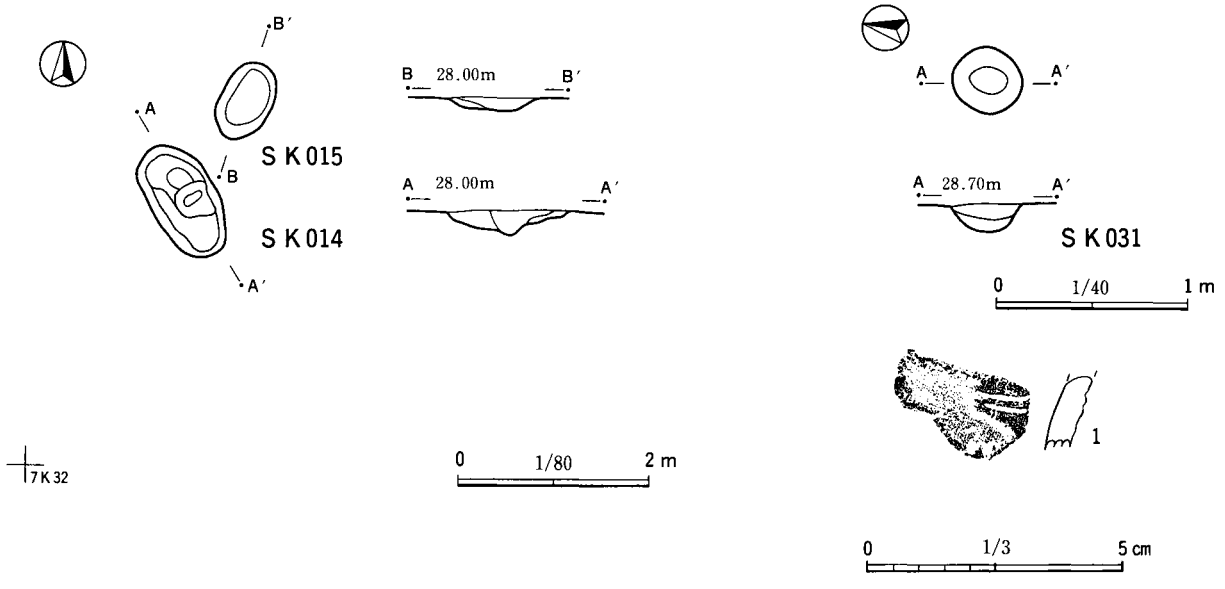
調査区北東側, 7 M 60区に位置する。西側から南側にかけて数m離れてS K 033・034・035が位置する。平面形は、楕円形を呈する。長軸1.4m, 短軸1.2m, 深さ0.3mを測る。坑底は、ほぼ平坦であるが、南壁側に径0.45m, 深さ0.1mの小ピットがあり、その部分が浅く窪み壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、覆土から阿玉台式土器(1)が1点, 黒曜石製の石鏃調整剥片(碎片)が1点出土している。

1は大波状口縁の把手である。波頂部から上面を押捺された隆帯が垂下し、区画内が無紋となる。

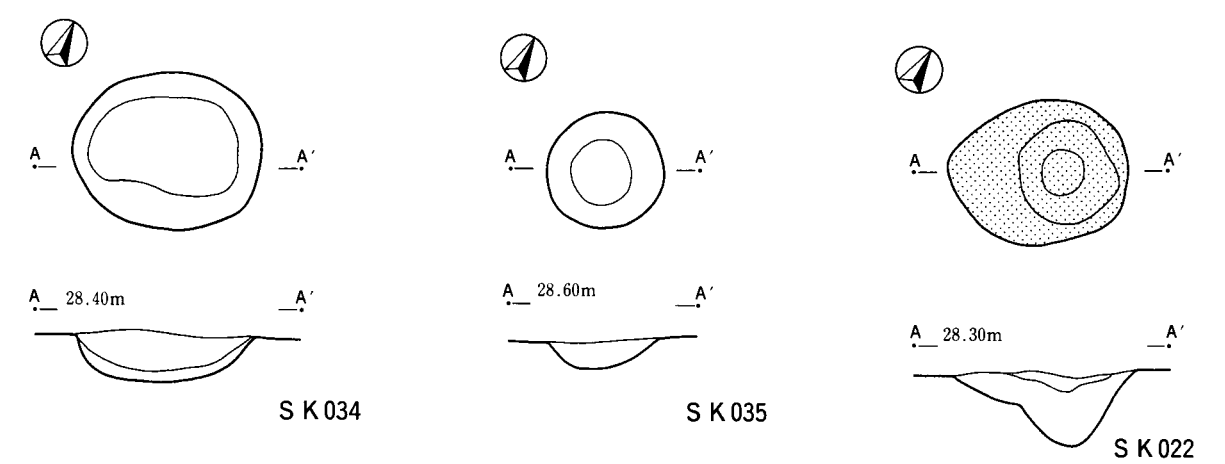
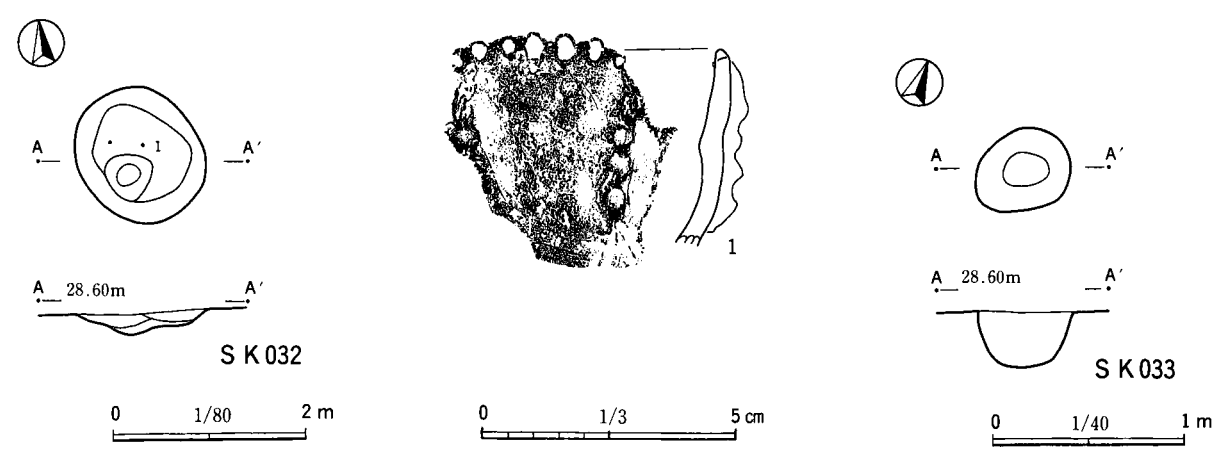
#### S K 033 (第121図, 図版26)

調査区北東側, 7 L 58区に位置する。東側から南側にかけて数m離れてS K 032・034・035が位置する。平面形は、不整円形を呈する。長軸0.5m, 短軸0.4m, 深さ0.3mを測る。坑底は、長軸方向に楕円形を呈





7K32



第121図 S K 014・015・031・032・033・034・035・022

し、ほぼ平坦である。壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかったが、縄文中期土器集中部で検出されている。

#### S K 034 (第121図, 図版26)

調査区北東側, 7 L 78区に位置する。東側から南側にかけて数m離れてS K 032・033・035が位置する。平面形は、不整形円形を呈する。長軸約1.0m, 短軸約0.8m, 深さ0.3mを測る。坑底は、長軸方向に楕円形を呈し、ほぼ中央部が深くなる。壁は東壁では緩やかに西壁で急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかったが、縄文中期土器集中部で検出されている。

#### S K 035 (第121図, 図版26)

調査区北東側, 7 L 78区に位置する。北側, 西側, 南側に数m離れてS K 032・033・034が位置する。平面形は、ほぼ円形を呈する。径約0.6m, 深さ0.15mを測る。坑底は円形を呈し中央部が深くなる。壁は皿状に緩やかに立ち上がる。遺物は出土しなかったが、縄文中期土器集中部で検出されている。

#### S K 022 (第121図, 図版26)

調査区北側, 7 K 18・19区に位置する。平面形は、一端が尖る楕円形を円形を呈する。長軸約0.9m, 短軸約0.7m, 深さ0.4mを測る。坑底は円形を呈し、中央で段をもち西側がピット状に深くなる。壁は西側で急角度に立ち上がる。覆土は上層が炭化物を少量含む焼土主体の赤褐色土で、下層が焼土・焼土ブロックを含む褐色土である。便宜的に土坑に区分したが掘り込みをもつ焼土跡である。遺物は出土しなかった。

### 第3節 包含層出土遺物

#### 1 土器 (第122～131図, 図版27～31)

縄文土器に関しては、ほとんどが遺構外から出土した。阿玉台式土器, 勝坂式土器および加曾利E式土器などが出土し、阿玉台 I b式～II式が主体を占めている。

##### 第1群 (4～7) 縄文時代前期の土器を一括した。

4は、胎土に白色粒を多く含み、半竹管文が格子目状に施される。5は口縁部に斜位の条線帯があり、その下端には凹凸文が施紋される。興津式土器である。6は口縁部に縄文原体の側面圧痕が横位に施されている。破片下端には、輪積みの痕跡が顕著に残されている。前期末葉期 (いわゆる粟島台式) のものである。7は鋸歯状工具により肋骨文を描出し、同一工具による刺突文および竹管による刺突文を加えている。諸磯 a 式土器である。

##### 第2群 (8～10) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器を一括した。

8は平行沈線に沿って、細かい刺突が加えられる。9・10は同一個体である。平行沈線が文様を構成し、これに沿って刻目状の刺突文が加えられる。また、9には横位の交互刺突文も施紋される。

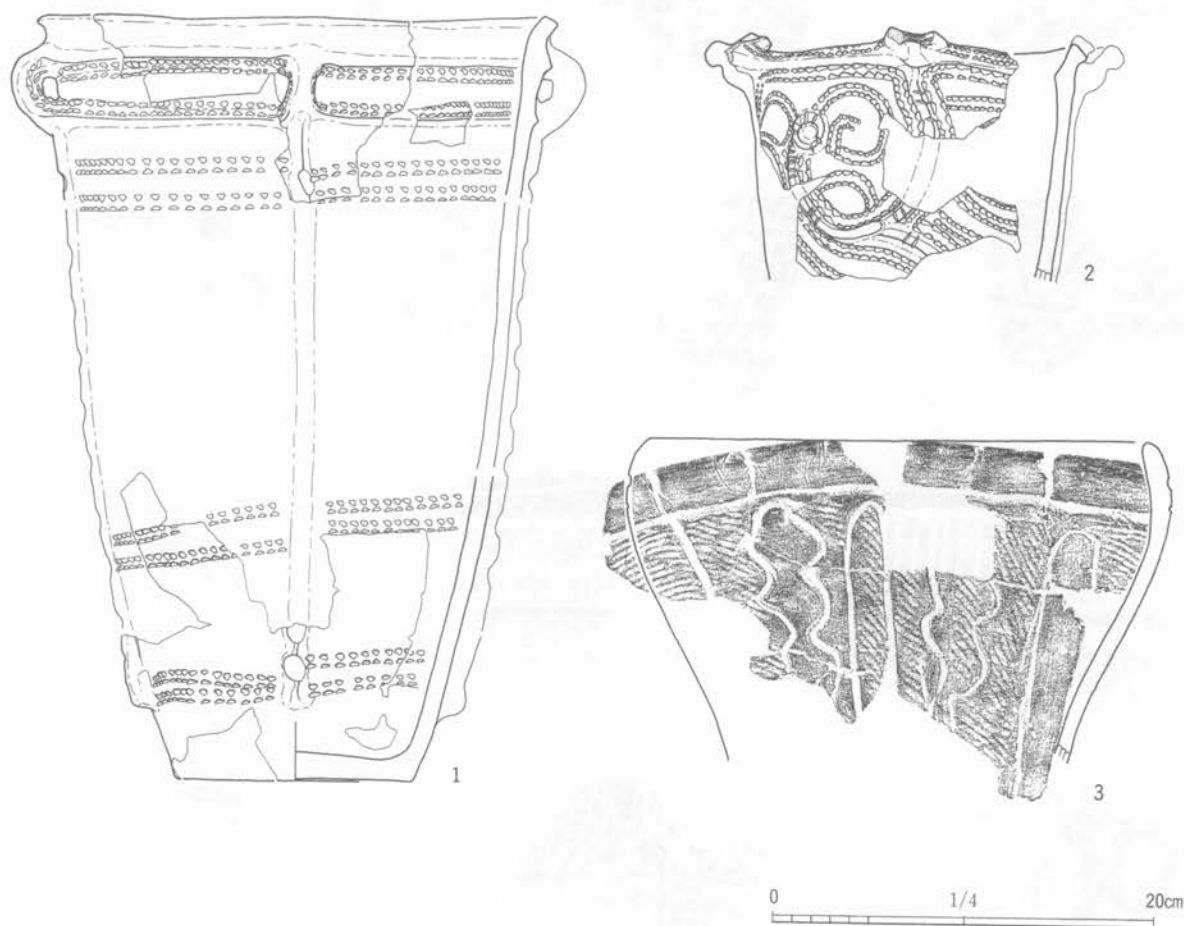
第3群 (11～52) 阿玉台 I b式を一括した。隆線による楕円形区画文で口縁部文様が構成され、それらに沿って一条の結節沈線が施されるものを基本とする。

口縁部の区画内文様は、弧状曲線文 (11・19), 半円状曲線文 (12), 鋸歯状直線文 (21・30), 斜位および縦位の集合結節沈線 (18・22), これらの文様が組み合わさるもの (13・14・23・24～29) などが見られる。なお、13・14および24～29は、同一個体である。また、16・17の同一個体片のようにゆるい波状口縁で、波頂部から垂下する隆起帯のみで、基本的に無文となるものもある。また、31～33は扇状把手の破片資料と思われる。20・34～40・44・45は胴部片である。20は断面三角形の隆線と結節沈線により文様が描

かされている。34～40は同一個体である。断面三角形の隆線により、胴上部の横位区画文および懸垂文が施文されている。さらに、横位隆線下に単列の結節沈線による弧状の曲線文が連続する。44・45は同一個体である。結節文により、弧状の曲線文が連続すると思われる。41・42・47～52は大波状口縁の深鉢形土器である。41・42、47～49、50～52がそれぞれ同一個体片である。41・42は波頂部から隆起帯が垂下する無文の土器である。47～49は環状把手が波頂部にみられ、口縁部区画文内には横位5条の結節沈線が充填される。また、把手にも縦位の単列結節沈線と刻目が施される。50～52は波頂部から、上面を押捺された隆線が弧状に垂下する。

第4群（1・53～101） 阿玉台Ⅱ式土器を一括した。隆線に付随し、複数列の結節沈線文が施されるものを基本とする。なお、隆線の断面は第3群の三角形から半円形に変化する傾向にある。

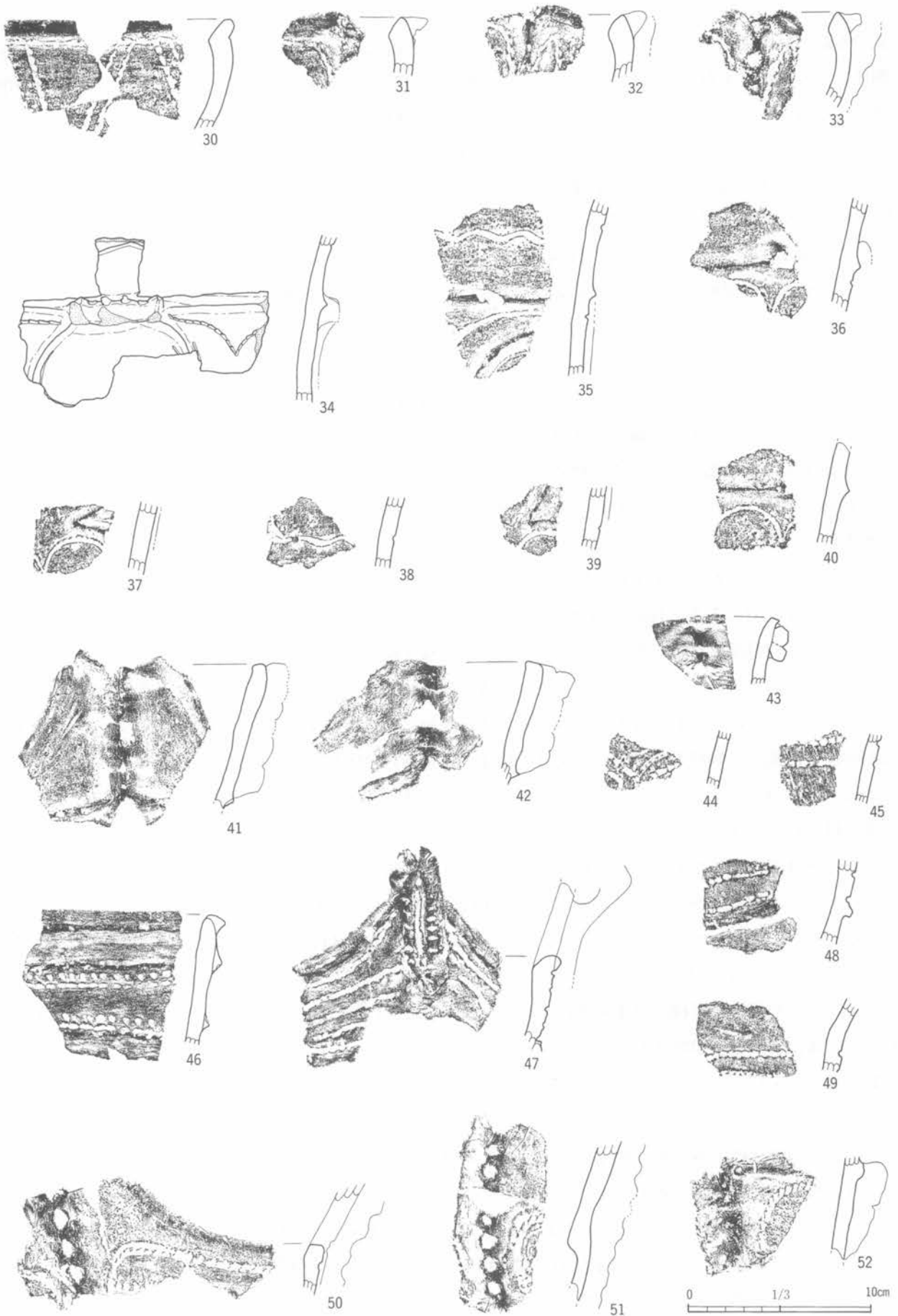
1は深鉢形土器の復元個体である。器形は、胴部がやや膨らみ、頸部で内曲してから口縁部が外反する。口縁部文様は隆線で楕円形区画文を構成し、区画文の連結部分には橋状把手が付され、区画文の内側には、半截竹管による平行結節沈線が施される。橋状把手から指頭よる押圧を加えられた隆線が垂下し、これに直交して2単位4条の平行結節沈線が繰り返して施文される。また、土器の底部内面に炭化物が付着している。なお、結節沈線は連続押圧的であり、阿玉台Ⅲ式により近い特徴と思われる。さらに、胴部を垂下する隆線および直交する結節沈線のあり方は、勝坂式の影響も看取できる。従って、この資料は阿玉台Ⅱ



第122図 縄文土器 1



第123図 縄文土器 2



第124図 縄文土器 3

式でも新しい段階のものと思われる。53は波状口縁の波頂部、54～57は把手や突起である。58・59は同一個体である。刻目を有する波状口縁、平行結節沈線で文様が描かれる。60～62は同一個体で、口縁部が隆線による楕円区画文で構成され、その区画内を平行結節沈線が施される。63は半截竹管による平行結節沈線で渦巻き状の文様を描く。64～72は同一個体である。隆線により渦巻き状文が構成され、それに付随して平行結節沈線が施される。また、胴部に2本1組の隆線が垂下していることも特徴的である。73～76も同一個体の深鉢形土器の破片である。口縁部は緩やかな波状口縁で、上面に刻目を有する隆線によって楕円形に区画される。77も刻目を持つ隆線により区画されるが、隆線が2本1組で結節沈線がないなど特異である。隆線の断面形態などから本時期に分類した。79～86は同一個体である。隆線とそれに付随する平行結節沈線が胴部を垂下し、その間に平行結節沈線で幾何学的な文様が施される。87～89は同一個体である。口縁部上端に刻目を有する隆帯が貼付され、口縁部文様は平行結節沈線によって区画される。区画内には横位の刻目文が施される。90～101は同一個体の深鉢形土器である。破片点数は多いが、復元実測をするには至らなかった。波状口縁で波頂部から隆線が垂下するが、この隆線は区画文を形成せず、かわりに平行結節沈線による楕円形区画文が構成される。区画内には半截竹管による平行波状沈線が施される。また、胴部上半には、区画内と同様に平行波状沈線が横位に繰り返し施される。

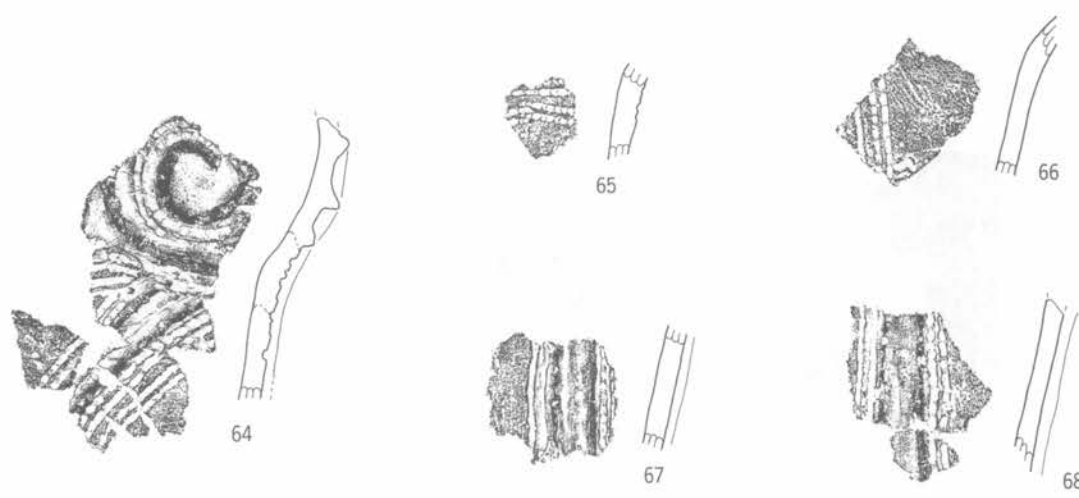
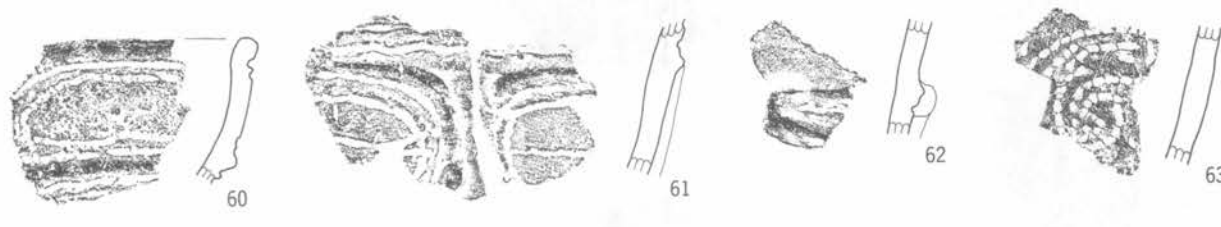
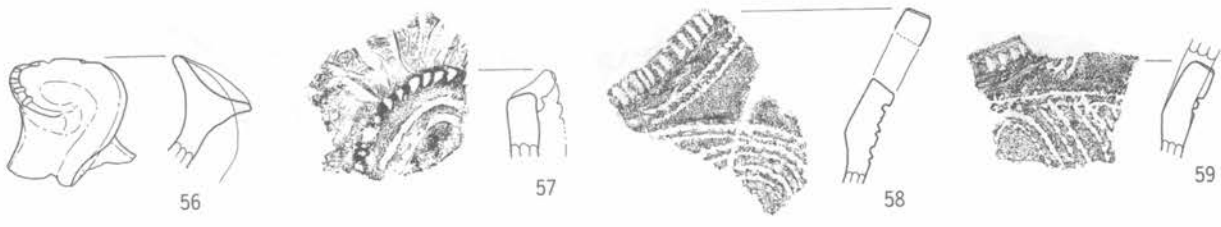
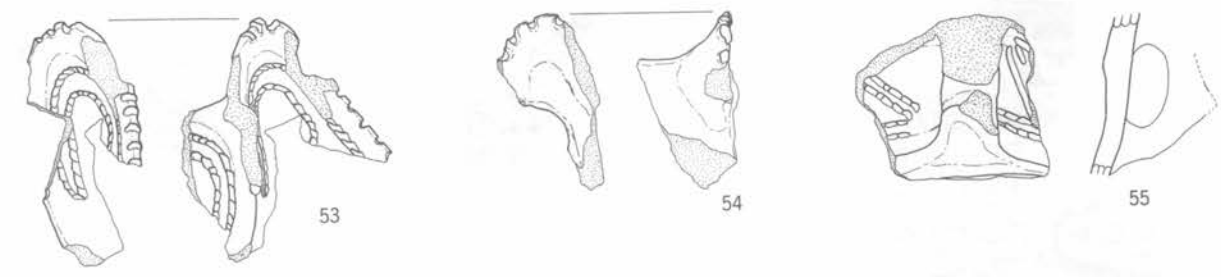
**第5群 (102～120)** 阿玉台Ⅲ式に対比されるものを一括した。文様を構成する隆線に沿って幅広の角押文や爪形文が施される。頸部無文帯が目立ち、把手の発達も顕著である。口縁部下端の隆線が高くなり、やや張り出す傾向にある。109～114は同一個体である。爪形文を伴う隆線が口縁部を区画し、頸部に無文帯を有する。口縁部文様は爪形文により、鋸歯状の文様が描出される。115～120は同一個体である。深鉢形土器の破片資料である。口縁部の区画文を構成する隆線に沿って、放射肋をもつ貝の腹縁を連続押圧する。また同様の施紋具を用いて、波頂部から垂下する隆線に刻目を施す。胴部には隆線が垂下する。115～120は胴部片で、幅広と幅狭の角押文が、文様を構成する隆線に付随している。異種の角押文が複列に施されている点では勝坂式に近いが、117から推測される文様が阿玉台式のものと思われるので本群とした。

**第6群 (125～156)** 阿玉台式土器の胴部片で、型式細別ができなかったものを一括した。

125・126は同一個体である。ひだ状の圧痕文が施され、断面三角形の隆線が垂下する。阿玉台Ⅰb式の可能性が高い。128・129、138～142は不明瞭な圧痕文が横位に施される。このうち、139～141は同一個体である。また、縦位のスリット状の刻目を施したもの(130、143～144)や斜位の刻目文を施したもの(145・146)は、その施文具を限定することは難しい。132や148・149などは半截竹管内面による縦位の短い平行沈線によって刻目文と同様の効果をあげている。133～137と150～156はそれぞれ同一個体である。両者とも貝殻腹縁により刻目が施される。

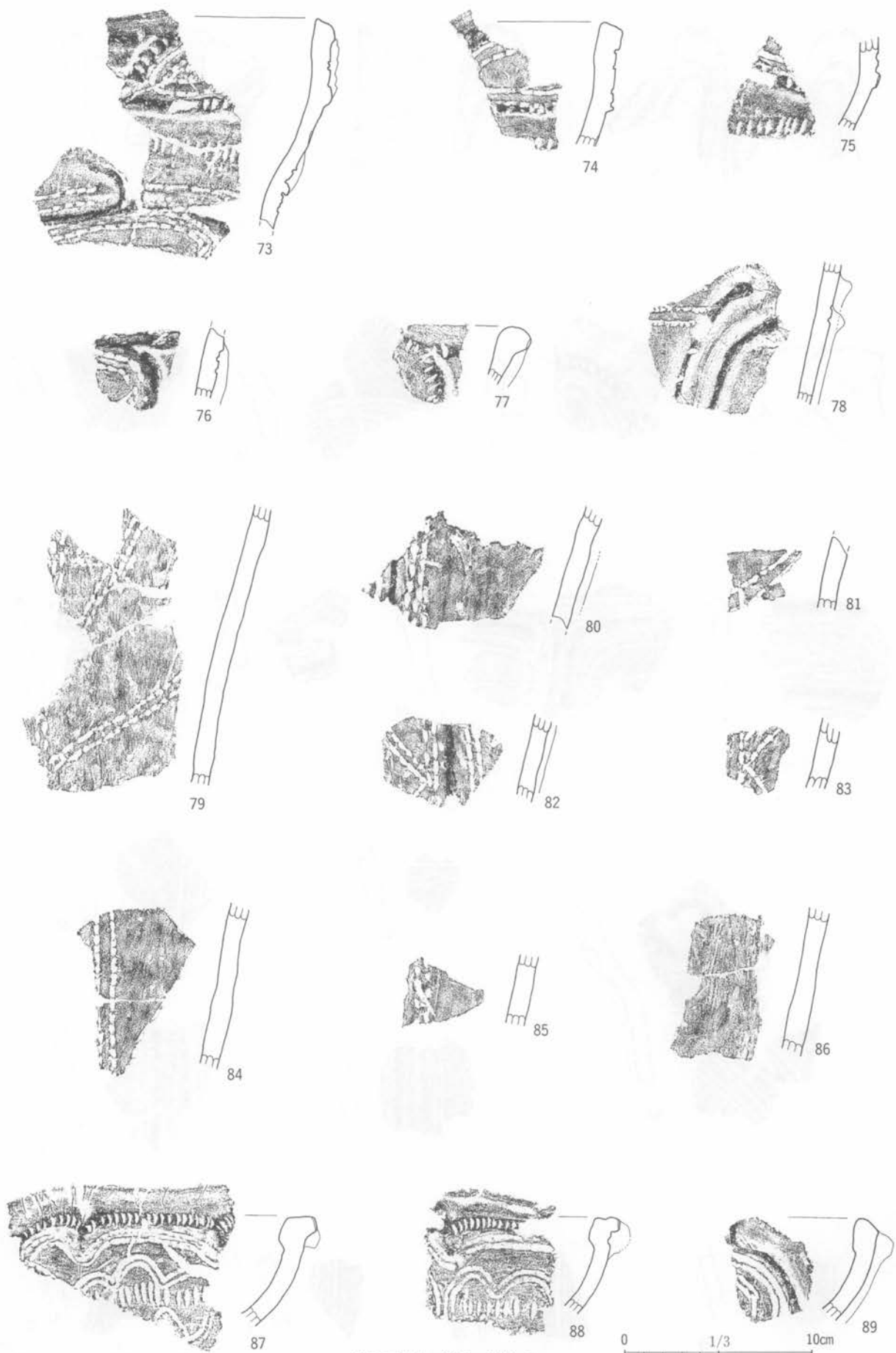
**第7群 (2・157～175)** 基本的には阿玉台式であるが、文様の要素や構成に勝坂式の影響を強く受けている土器群を一括した。

2は平縁の深鉢形土器の復元個体である。胎土の色調は赤褐色で胴部下半を欠くが、底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がる器形と思われる。口唇部には平行結節沈線が巡り、4単位の突起が付される。突起からは刻目を持つ隆線が垂下し、それに沿って平行結節沈線が施される。弧状に垂下する隆線の連結部には、さらに隆線が貼付され、J字状の文様を構成する。これらの文様間には、平行結節沈線による弧状や渦巻状の文様が描出される。時期的には阿玉台Ⅱ式に併行するものと思われる。157・158は半截竹管による平行沈線に沿って爪形文や刺突文を施す。159～171は同一個体である。口縁部上端には円形の突起が



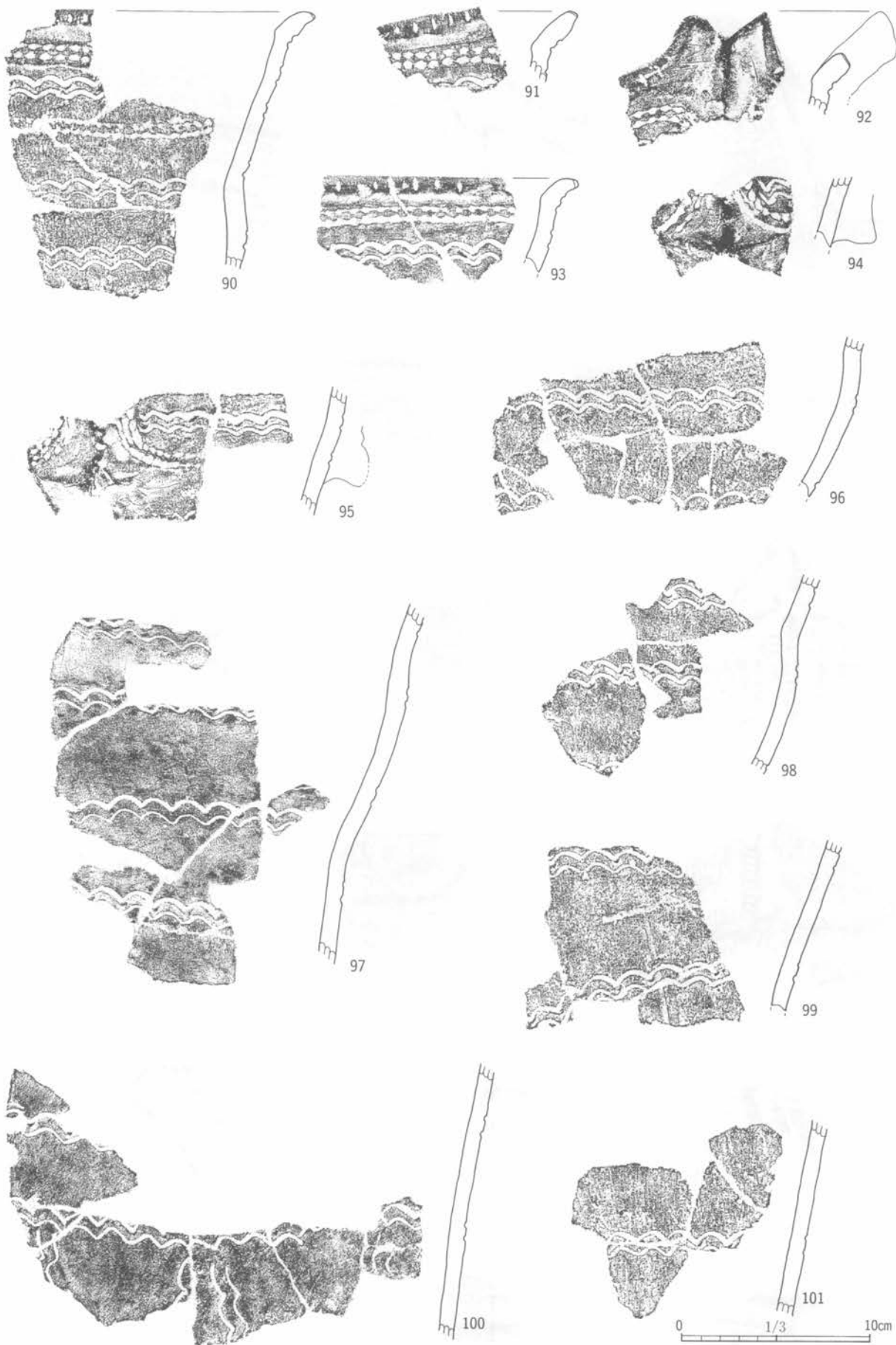
第125図 縄文土器 4

0 1/3 10cm



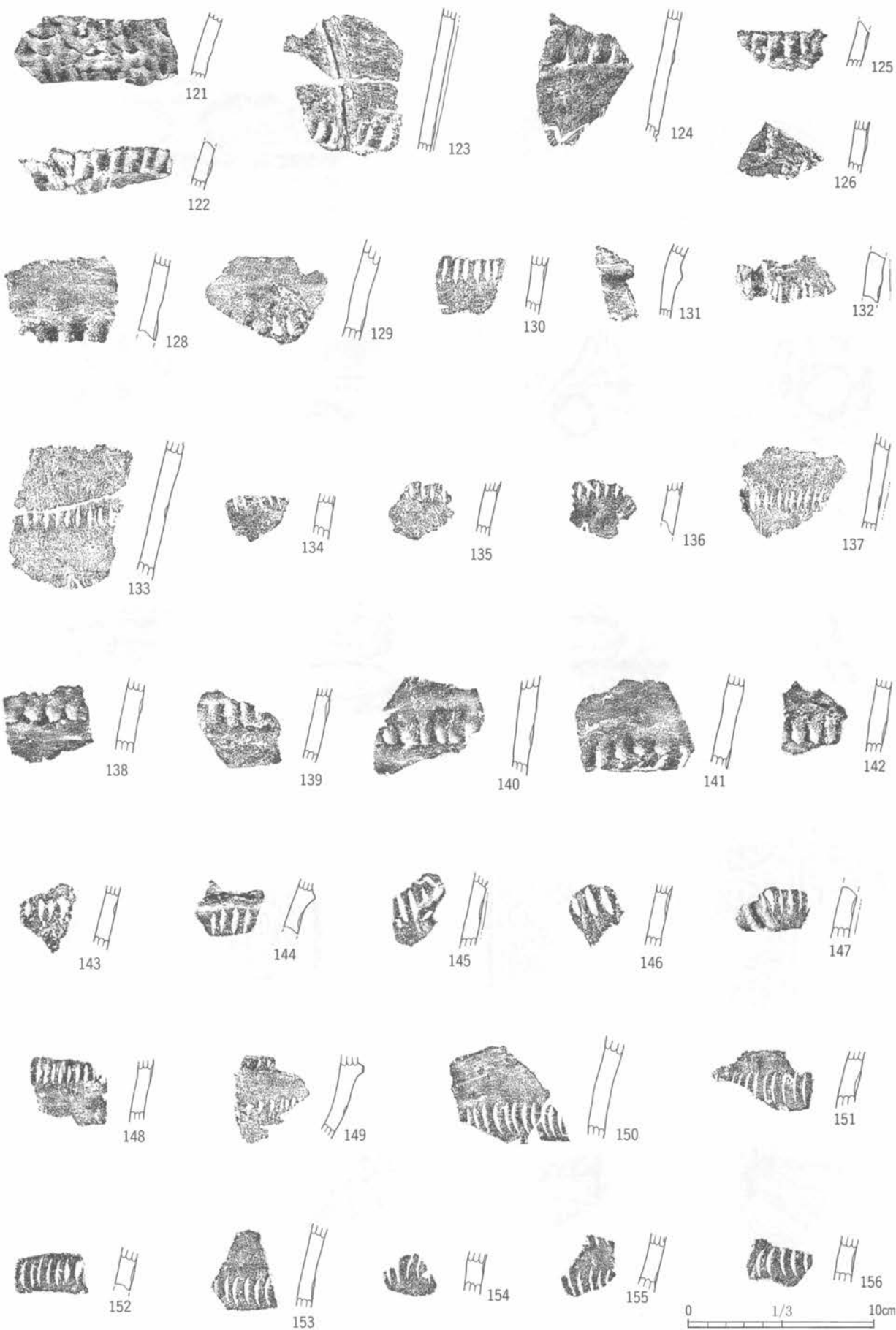
第126図 縄文土器 5





第127図 縄文土器 6





第129図 縄文土器 8



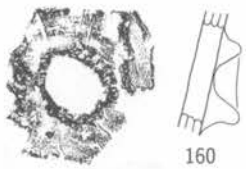
157



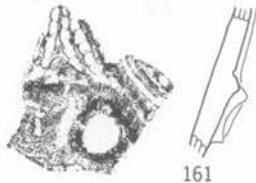
158



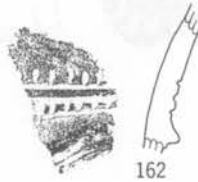
159



160



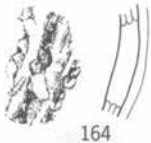
161



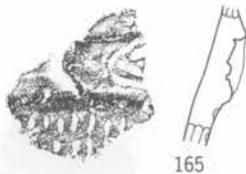
162



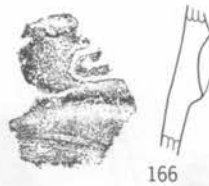
163



164



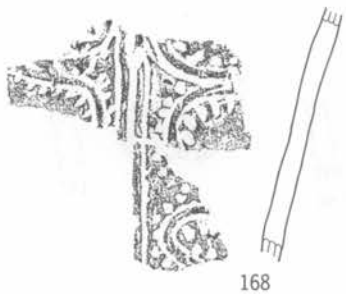
165



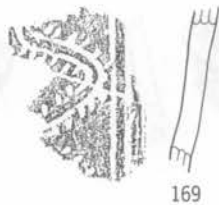
166



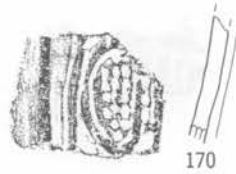
167



168



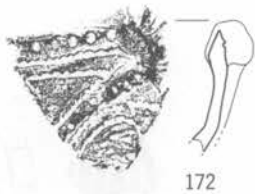
169



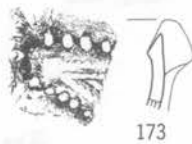
170



171



172



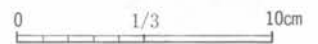
173



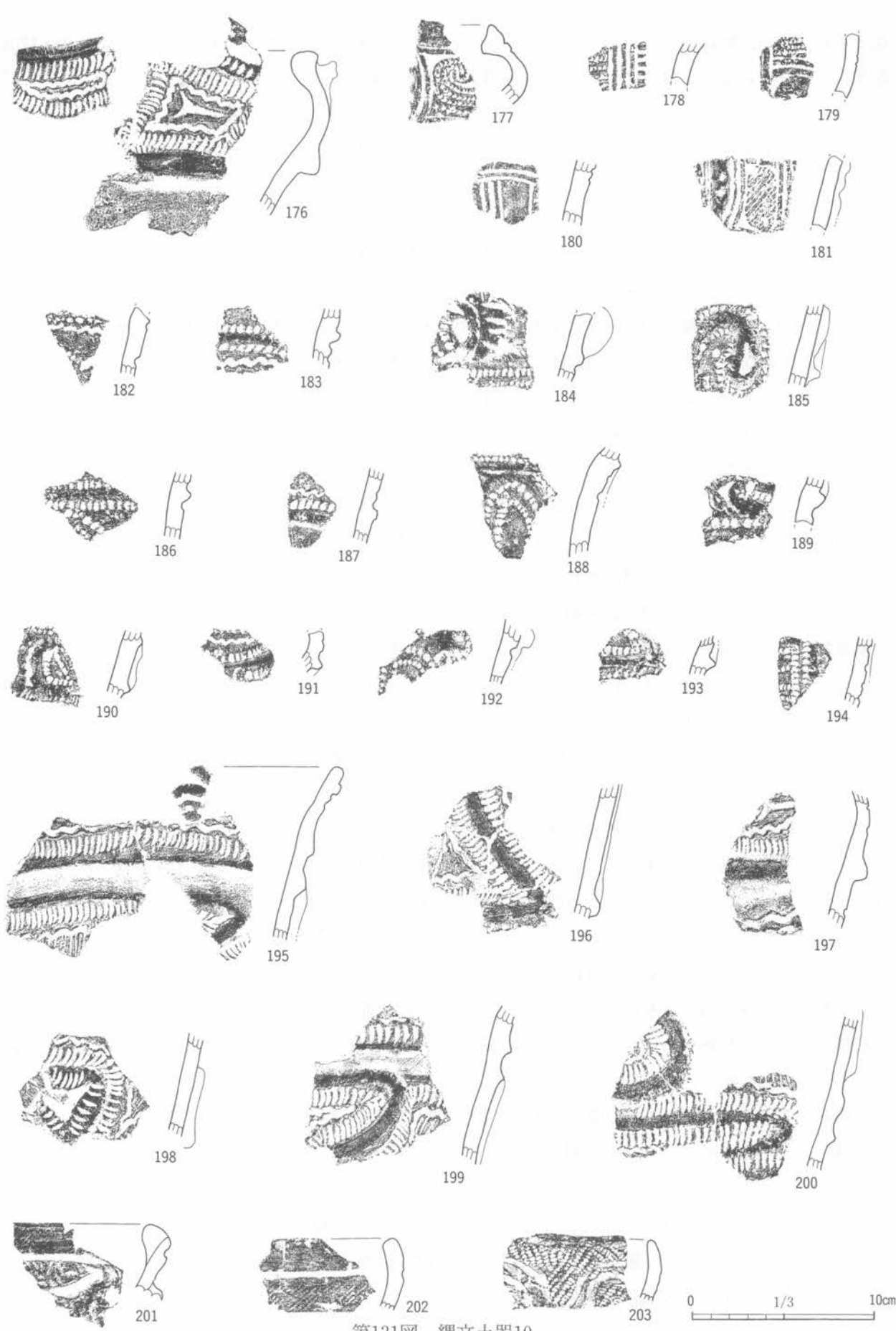
174



175



第130図 縄文土器 9



第131図 繩文土器10

加えられ(163)、隆線区画に付随して平行結節沈線が巡り、区画内には角押文が充填される(159・170)。胴部は平行沈線によって縦位に区画され、その間に爪形状の刺突文を伴う平行沈線で文様を描く。172～175は同一個体である。口唇に刻目を持つ緩やかな波状口縁で、波頂部には小突起が付される。小突起から、刻目を持つ隆線が二股に垂下する。隆線脇には単列の結節沈線が巡る。時期的には阿玉台Ib式に併行すると思われる。

#### 第8群(172～200) 勝坂式に属する土器群を一括した。

176は内湾した口縁部に、太い隆線によって区画文が構成される。隆線にはキャタピラ文が付随し、区画内には波状沈線や三叉文が充填される。177・178は同一個体である。口縁部は強く内湾し、平行沈線による区画文内は、幅狭で複列の爪形文により渦巻き状文様が描かれる。179はその文様が177・178と酷似しているが、胎土の様子が異なるため別個体と判断した。180は平行沈線で文様が構成される。施文具の竹管内面が器面にあたり、沈線間の断面がカマボコ状になっている。181は上面を押捺された隆線が垂下し、それに平行沈線が付随する。平行沈線による区画内には縦位の集合細沈線が充填される。年代的には、177、181の区画内の角に印刻文がみられること、文様要素および構成から、やや古い段階の土器群とも考えられる。182～194は同一個体である。赤褐色の胎土が特徴的である。隆線によって楕円形区画や曲線的文様が描かれ、隆線に沿って角押文が施される。195～200は同一個体である。幅広の低位隆線によって重三角区画文や楕円形区画文などの文様が構成されていたと思われる。隆線に付随してキャタピラ文が施され、区画内には波状文や縦位の集合沈線文が充填される。

#### 第9群(3) 縄文時代中期後葉の加曽利E式土器を一括する。

3は深鉢形土器の復元個体で、器形はキャリパー形を呈する。口唇下の無文帯下端を沈線が巡り、口縁部から胴部にかけて波状線と直線による磨消し懸垂文が交互に配される。地文は無節の斜縄文Lが縦位に施文されるが、懸垂文の一部が磨り消されず、懸垂文を描く沈線も雑に引かれている。時期的には加曽利E4式と考えられる。

#### 2 石器(第132～134図、表51、図版32・33)

石器はすべて遺構外から出土している。それらは、縄文中期前半の阿玉台式土器群の包含層の分布と重複して検出されているものが多く、当該期の石器群である蓋然性が高い。なお、火打石など縄文時代以降の石器と考えられるものも、便宜的にこの節で記載した。

**尖頭器** 1は尖頭器である。細身長身のもので、比較的厚みがあり横断面は菱形を呈する。縄文草創期の尖頭器とは一線を画するものであり、石錐(ドリル)の可能性も否定できない。

**石鏃** 2・3は石鏃である。2点とも凹基の石鏃で、逆V字に基部が挟入する。両側縁は先端が直線的で下半部の脚部が膨らむ形状を呈している。

**火打石** 4は火打石である。石英製のもので、角柱状の形状を呈し、上下端部に焼成痕が観察される。

**石錐** 5は石錐である。チャート製のもので、横長剥片の一端を嘴状に挟入させている。

**剥片** 6は剥片である。ホルンフェルス石材としている。横断面が三角形状となる縦長剥片である。

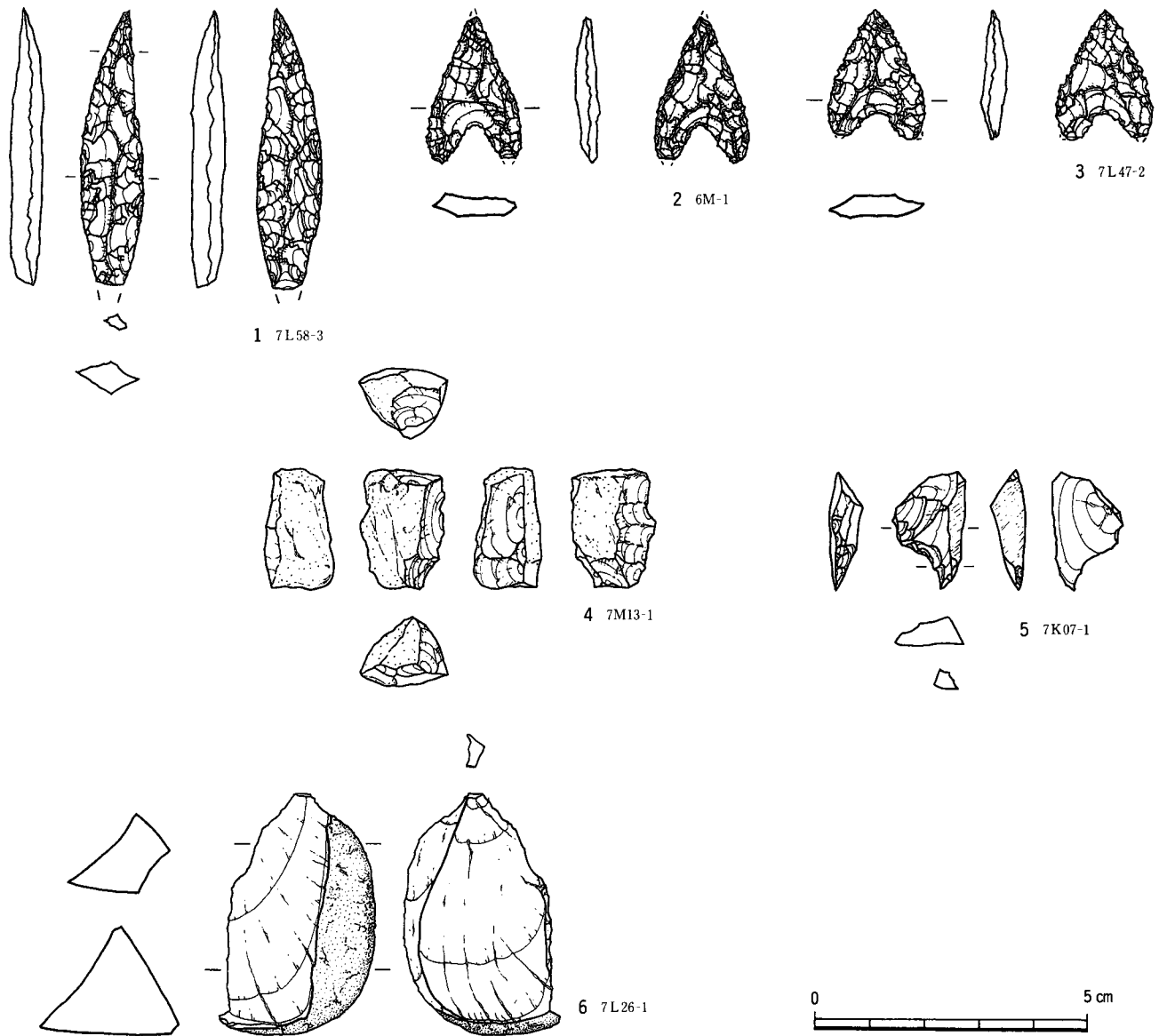
**打製石斧** 7・8は打製石斧である。7は大形のもので、素材の礫面のカーブを生かし表面としている。平面形状は刃部が丸みを持つ撥形である。8は素材の礫を分割し、側面を直線的に仕上げ、刃部も直刃となるものである。平面形状は長方形を呈する。

**石錘** 9は石錘である。扁平楕円礫の短軸方向の両端部に裏面側から調整加工し挟入部を作り出している。

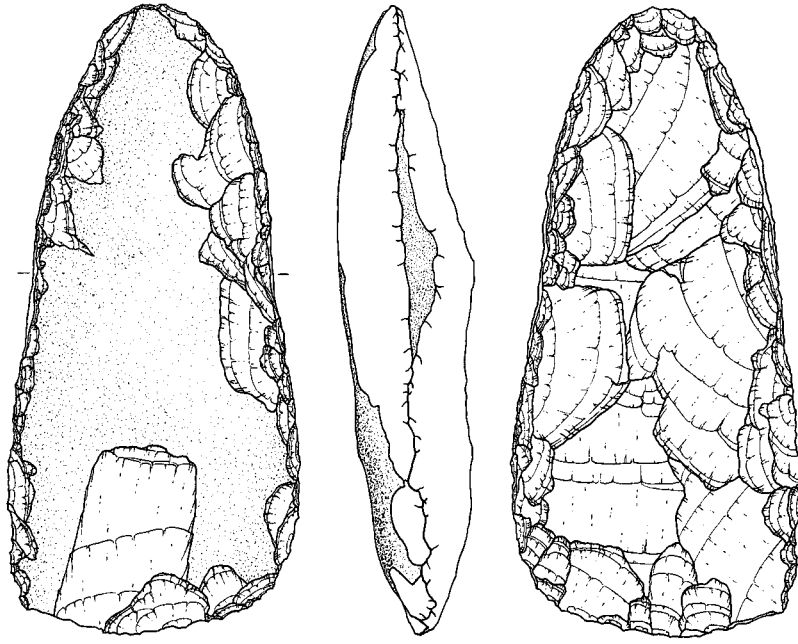
る。

**石核** 10は石核である。裁断された礫の鋭角な角を打点として、正面と上面を作業面として剥離作業が認められる。

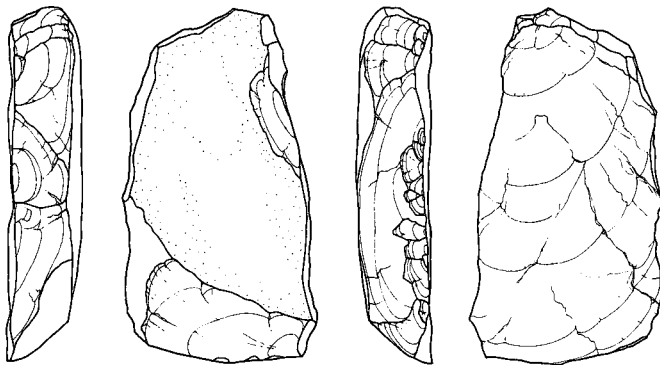
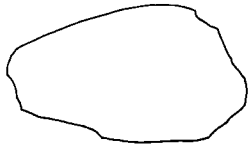
**石皿** 11は石皿である。約10～14mほど離れて出土した2点が接合し完形の半分ほど復元された。比較的小型円形状の石皿である。表裏面中央に擦り面を持ち、その窪みが浅いものである。表裏の擦り面に凹部があり、残存で表面に5か所、裏面に4か所の凹部が観察される。



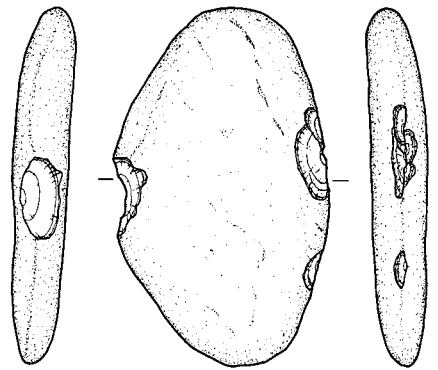
第132図 縄文時代石器 1



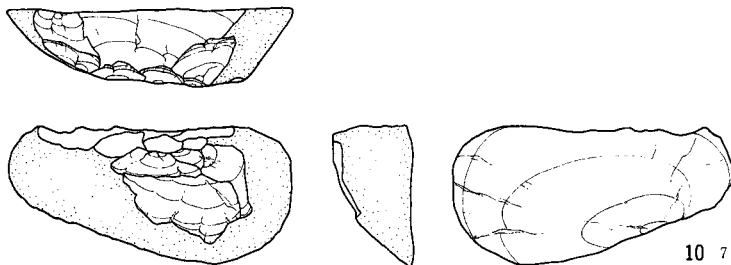
7 7L27-1



8 7L48-2



9 12J87-1

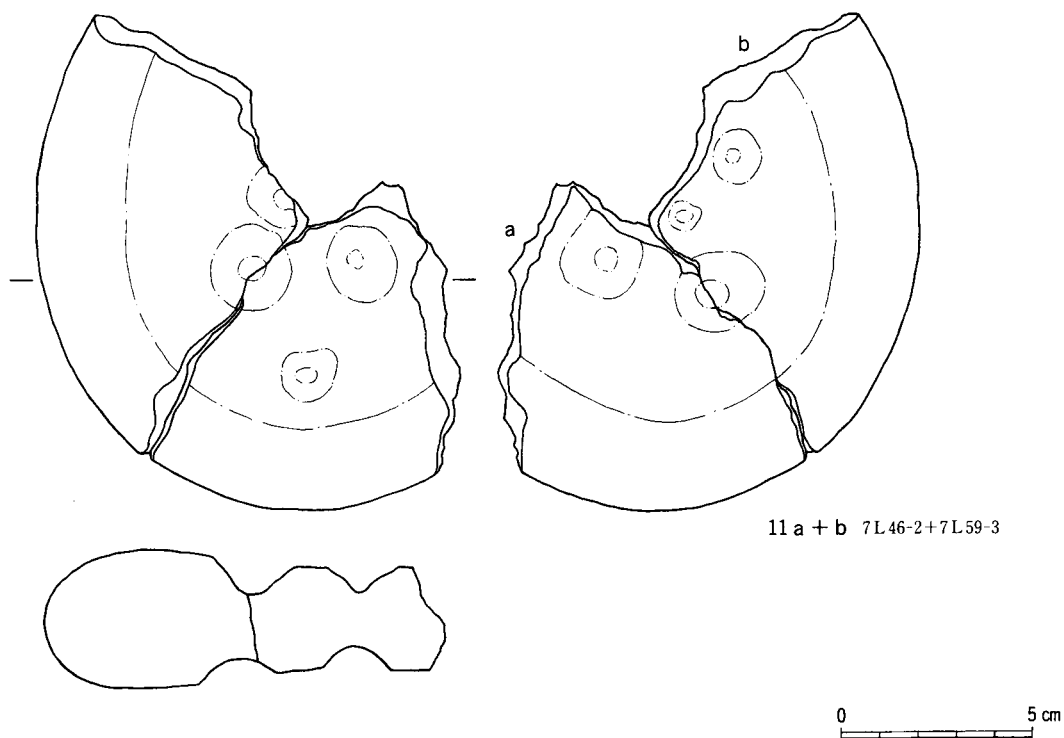


10 7L38-2



第133図 縄文時代石器 2





11 a + b 7L46-2+7L59-3

第134図 縄文時代石器 3

第51表 縄文時代石器属性表

番号	遺物番号	器種	母岩	挿図番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	打角	先端角	調整部位	折面部位	使用痕	備考
1	7L58,0003	尖頭器	黒曜石	1	5.04	1.19	0.68	3.21						
2	6M,0001	石鏃	チャート	2	2.68	1.74	0.47	1.48						
3	7L47,0002	石鏃	チャート	3	2.39	1.83	0.49	1.4						
4	7M13,0001	火打石	石英	4	2.29	1.34	1.25	4.72						
5	7K07,0001	石錐	チャート	5	2.12	1.33	0.62	1.4						
6	7L26,0001	剝片	ホルンフェルス	6	4.47	2.66	1.86	25.03						
7	7L27,0001	石斧	砂岩	7	16.70	7.70	3.57	515.0						
8	7L48,0002	石斧	流紋岩	8	9.17	5.11	2.04	147.0						
9	12J87,0001	石錘	砂岩	9	9.45	5.72	1.56	115.3						
10	7L38,0002	石核	砂岩	10	2.65	7.40	3.30	60.70						
11	7L46,0002	石皿	安山岩	11a	13.60	10.60	3.85	580.0						7L59-0003接合
12	7L59,0003	石皿	安山岩	11b										7L46-0002接合

## 第4章 奈良・平安時代

### 第1節 遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、住居跡が1軒、竪穴建物跡が1棟、土坑が5基検出された。住居跡は古代末期に営まれたものである。土坑からも該期に近い時期の土師器が検出されている。

#### 1 住居跡

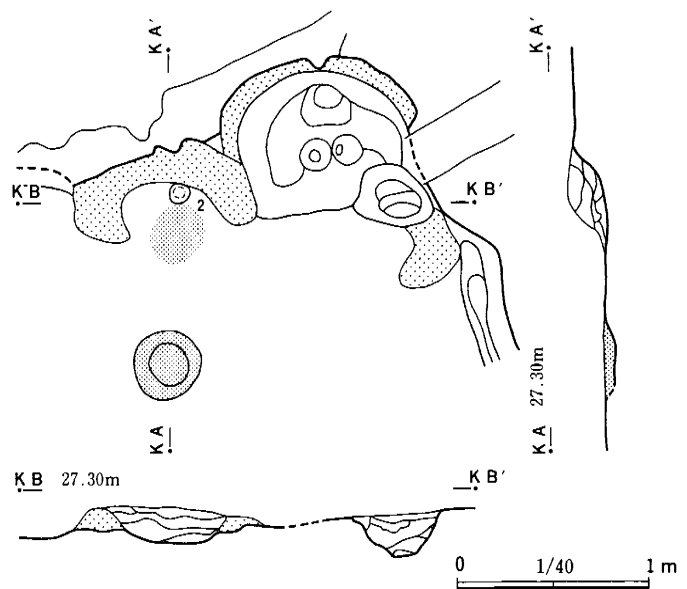
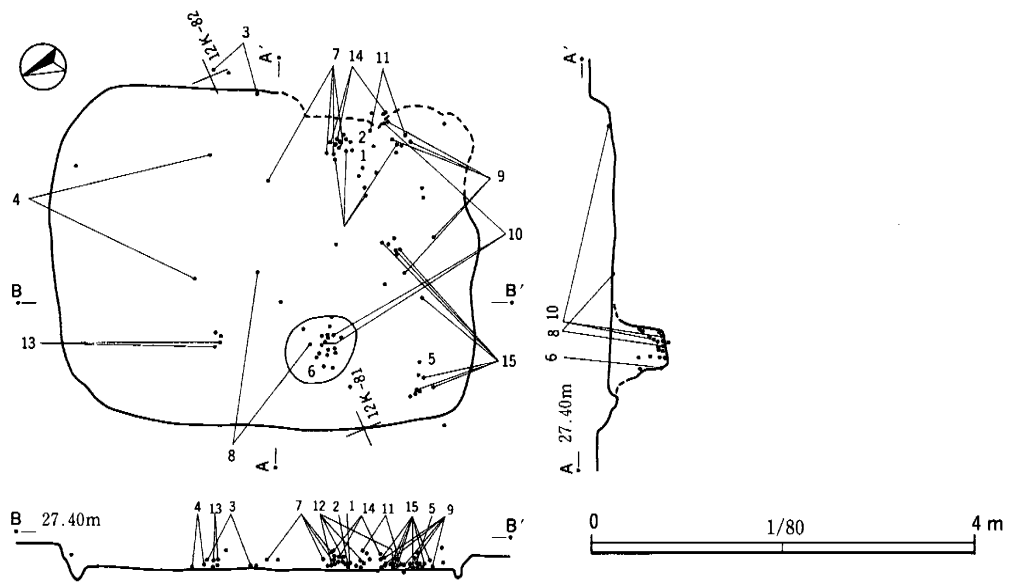
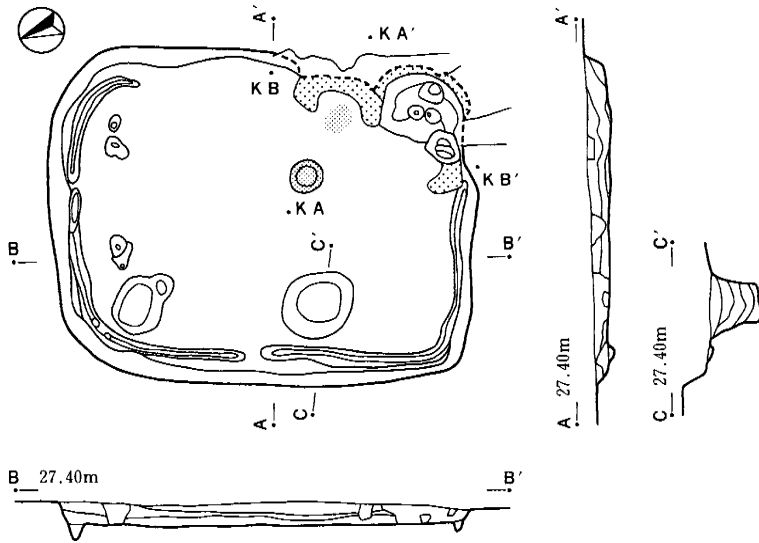
S I 002 (第135・136図, 図版34・37)

調査区南東側, 12K71・80・81区に位置し, 台地平坦部に立地する。平面形状はほぼ隅丸長方形を呈する。規模は南東壁が4.0m, 北西壁が3.9m, 南西壁が3.1m, 北東壁が3.0mを測る。主軸方位はS-66°-Eである。覆土は, 上層が黒色土, 中層が暗褐色土を主体とし, 下層の床面上位層がローム土を含む暗黄褐色土が堆積する。床面はほぼ平坦で貼床は確認されず, 硬化面も明瞭ではない。床面直上の焼土の分布はカマド周辺に限られ顕著ではない。壁高は最大20cmで, 急角度に立ち上がる。壁溝は南東壁側が巡らず, その他の3方は巡るが部分的にとぎれる。規模は最大幅20cm, 深さ15cmを測る。小ピットは10数か所検出されるが, いずれも支柱穴と想定されるものはない。北西壁の南西寄りで見出されたピットは, 長軸80cm, 短軸70cm, 深さ60cmの楕円形状を呈し, 貯蔵穴と思われる。覆土は, 中層にロームブロックを多く含む黄褐色土が, それを挟むように上層・下層が暗褐色土となっている。

カマドは南東壁の南隅寄りに位置する。遺存状態は良くない。主軸方位はS-42°-Wである。壁外への掘り込みは攪乱により削平され明瞭ではないが, 全長約0.6m, 幅1.0mを測る。底面の掘り込みは浅く, 深さ最長5cmを測る。袖部は壁面からの長さ約45cm, 床面からの高さ約10cmを測る。構築材は黄褐色を呈する山砂が主体である。カマド内の覆土は天井部の構築材崩壊土とみられる山砂・焼土粒を多量に含む暗褐色土・褐色土を主体とする。底面の赤色硬化面は認められなかったが, 焼土主体の薄い層が径30cmの範囲で認められた。煙道部は約40度で立ち上がる。南東壁と南西壁のコーナー, カマド右手側に接して, カマドの構築材と想定される山砂が壁に張り付いた状態と袖状のブロックが検出されている。その内側はやや浅くなり壇状を呈している。攪乱を受けており明瞭ではないが, 左手のカマドの構築以前に使用されていたカマドの痕跡であろう。

遺物は覆土下層からややまとまって出土した。床面直上から出土したものは少なく, やや浮いた状態で出土している。カマド及び貯蔵穴を中心に, カマドに向かって右側に多く散在している。図示したものは, 土師器坏11点, 土師器甕4点である。

1~6はロクロを使用して作られた土師器坏である。1は遺存度が30%程度で, 口縁部の残りが悪い。推定口径は12.5cm, 推定底径は7.3cm, 器高は3.5cmである。底部中央が薄くなりすぎたため, 内外面に粘土が貼り付けられている。外面は指の圧痕がよく残り, 内面もナデが施されている。色調は内外面とも黒褐色, 褐色で, 焼成は良好である。2は完形である。口径は10.85cm, 底径は6.45cm, 器高は3.1cmである。1同様, 底部中心が補修され, 粘土が内外面に貼り付けられている。外面は指の圧痕が残り, 内面はナデが施されている。口縁部の一部が凹んでいるが当初からのものである。色調はややにぶい褐色で, 焼成はややあまい。3は底部は遺存するが, 口縁・体部は20%の遺存である。推定口径が11.1cm, 底径が5.0cm,

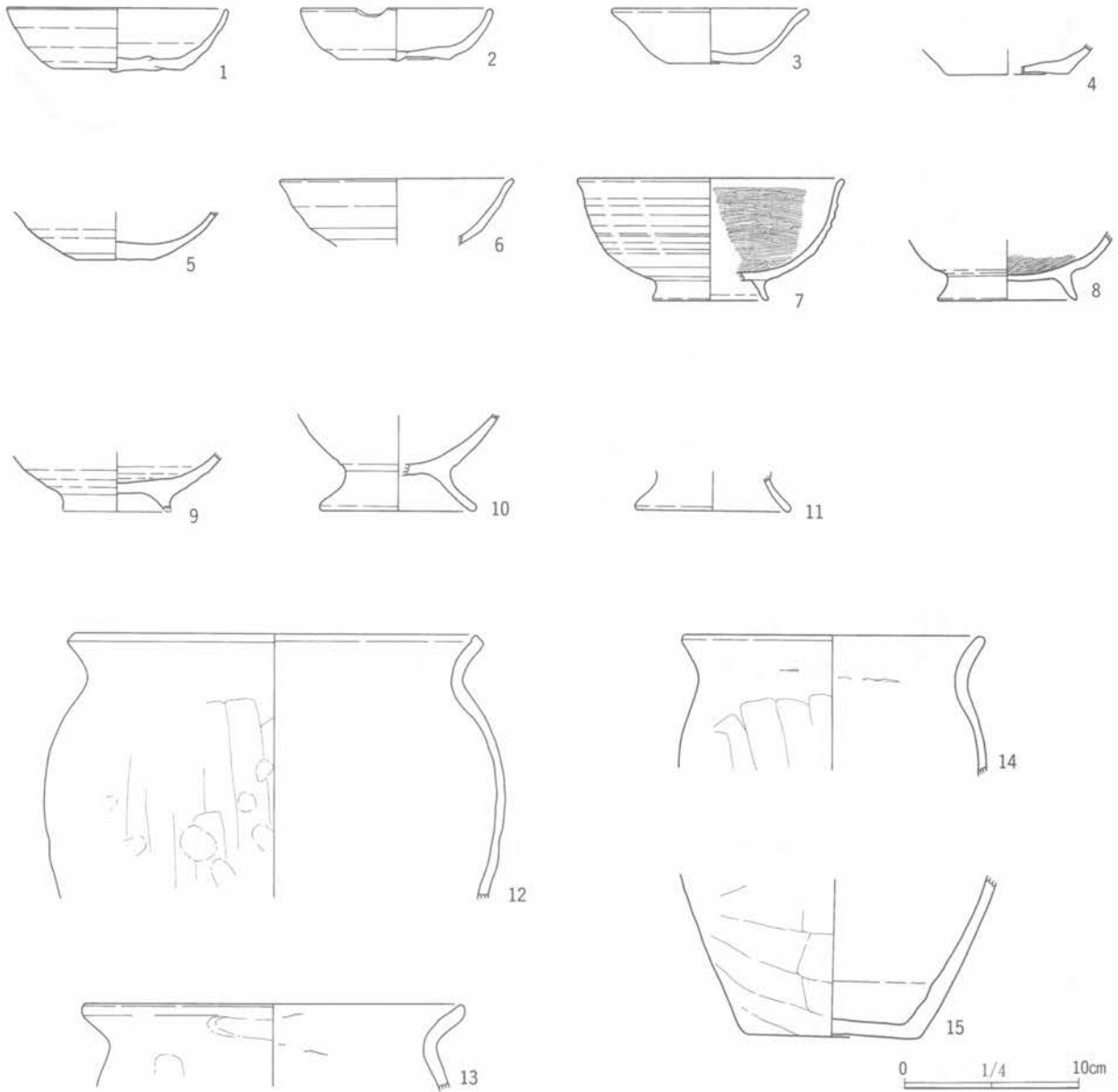


第135图 S I 002

器高が3.2cmである。色調は淡褐色、焼成は良好である。4は底部周辺が1/3程度の遺存で、推定底径は7.0cmである。底部中心がかなり薄くなっているが、粘土を貼り付けた痕跡は認められない。色調は淡褐色で、焼成は良好である。5は体部の下部から底部にかけて遺存し、全体では40%程度の遺存度である。底径は4.5cmである。色調は黒褐色・暗褐色で、焼成は良好である。6は口縁部の1/4強、全体で20%程度の遺存である。推定口径は13.2cmである。外面体部下部は回転ヘラケズリが施される。色調は内面が褐色、外面が淡橙褐色、褐色である。焼成は良好である。底部の遺存する1～5はすべて回転糸切りによる切り離しであり、6も同様と推測できる。底部の調整は1～3が無調整で、4が一部強いナデまたは弱いヘラケズリ、5が回転ヘラケズリである。5のヘラケズリは底部から体部下端まで及ぶ。ロクロの回転は右回りである。内面はいずれもヨコナデ及びナデ調整が施されている。

7～11はロクロを使用して作られた高台付椀である。7～9は高台部が低いタイプのものであり、10・11は高台が発達したいわゆる足高高台の椀である。7は遺存度が35%程度で、推定口径は15.2cm、推定底径（高台部径）は6.4cm、推定器高は6.9cm、高台部高は1.2cmである。口縁・体部外面にはロクロ目が密にみられる。体部下端は回転ヘラケズリまたは強いヨコナデが施され、椀の内面はヘラミガキ調整がなされている。色調は黒褐色・暗褐色で、焼成は良好である。内面に若干の剝落痕があり、外面も荒れていることから火熱を受けた可能性が考えられる。8は体部下部のごく一部と高台部が遺存する。底径は7.8cm、高台部高は1.3cmである。椀部底部の切り離し痕はヨコナデ・ナデにより消されているが、回転糸切り痕がうっすらと認められる。内面はヘラミガキが密に施される。体部のヘラミガキは図化していないが、横方向である。色調は外面が淡橙褐色、内面が黒色、暗褐色である。焼成は良好である。9は高台部から体部下部にかけて部分的に遺存する。全体としては30%程度の遺存である。底径は6.1cmである。内外面ともロクロによるヨコナデ調整である。椀部の切り離し痕跡は消されてみえない。器肉が厚く、ずんぐりとした作りである。色調はにぶい褐色で、焼成はあまい。器面がやや荒れて、内面に若干の剝落痕があることから、火熱を受けた可能性が考えられる。10は高台部の1/4と体部下部の一部が遺存する。推定底径は8.9cm、高台高は2.3cmである。内外面ヨコナデ調整で、椀部の底部切り離し痕は消されている。色調は淡橙褐色で、焼成は良好である。11は高台部1/2弱の遺存である。推定底径は8.7cm、高台高は2.0cmである。色調は淡褐色、焼成は良好である。

12～15は土師器甕である。12は口縁部・胴部の一部が遺存する。推定口径は23.0cm、推定胴部最大径は26.5cmである。胴部外面はヘラケズリが施され、所々に指頭圧痕がみられる。胴部内面はヘラナデによる調整と思われるが、火熱・使用による剝離痕が著しく、不明瞭である。色調は内外面とも暗褐色部分が多いが、胴部外面の一部が淡赤褐色である。焼成は良好である。13は口縁部の1/4弱が遺存する。推定口径は21.6cmである。胴部はほとんど遺存せず、あまり明瞭でないがヘラケズリが施されたものと思われる。色調は褐色・赤褐色で、焼成は良好である。14は口縁部・胴部上部の一部が遺存する。推定口径は17.0cmである。胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。粘土帯の積み上げ痕が内外面にみられる。器面の所々に剝離痕がみられ、特に口縁部が目立つ。色調は全体的には暗黄褐色であるが、口縁部の一部が赤褐色である。焼成は良好である。15は底部から胴部下部を遺存する個体である。底部は一部が欠けるのみで遺存が良い。底径は9.95cmである。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ・ヘラナデ、底部外面はナデが施される。胴部内面は剝離がやや目立つ。色調は外面が暗褐色、内面が黒褐色で、焼成は良好である。

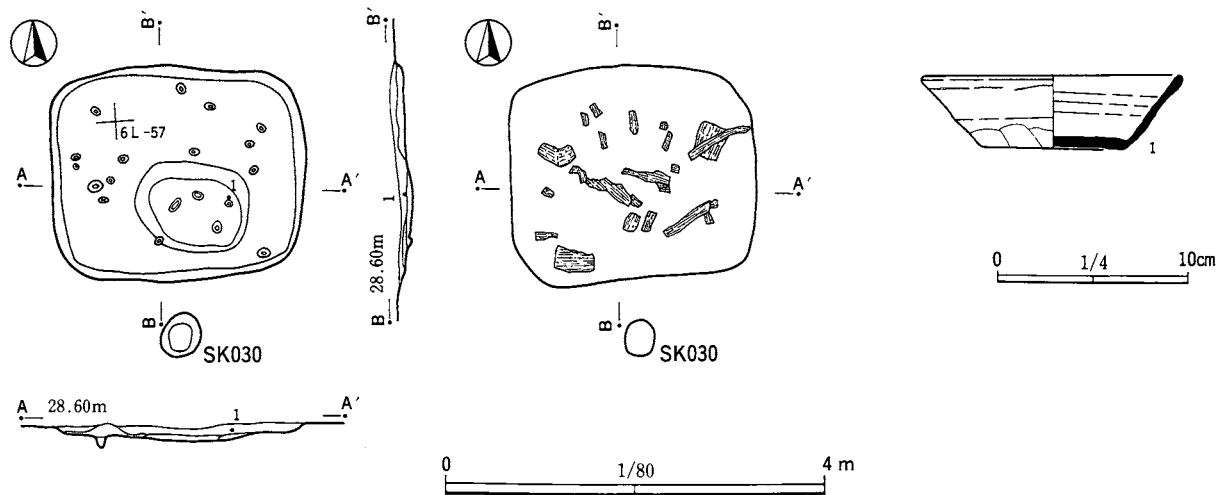


第136図 S I 002出土土器

## 2 竪穴建物跡

S I 021 (第137図, 図版34・37)

調査区北端, 6 L 46・47・56・57区に位置し, 台地平坦部に立地する。平面形状はほぼ隅丸長方形を呈する。規模は北壁が2.4m, 南壁が2.3m, 東壁が1.9m, 西壁が1.9mを測る。主軸方位はN-5°-Wである。覆土は, 上層が焼土粒・炭化物を含む暗褐色土で, 下層の床面上位が焼土粒・炭化物を含む褐色土が堆積する。床面はほぼ平坦で貼床は確認されず, 硬化面も明瞭ではない。床面直上で炭化材が壁端を除く一面に確認された。炭化材の残存状況は良くない。材はほとんどが板状で中心方向に向かって長軸をとるものが多い。壁高は最大15cmで, 緩やかに立ち上がる。周溝は確認されない。小ピットは19か所検出され, 不規則に存在し明確に支柱穴と想定されるものはない。南側で長軸1.2m, 短軸1.0m, 深さ8cmの不整長方形の浅い落ち込みがある。覆土は, 単層で炭化物を多く含む黒褐色土となっている。カマド及び炉は



第137図 S I 021

確認されなかった。S I 021の南側に近接してS K 030が検出されている。便宜的に遺構番号を配し土坑として扱うが、当遺構に付帯した施設であろう。

遺物は、南側の落ち込み範囲で、床面よりやや浮いて正位の状態に1個体の坏が出土したのみである。図示したのは、須恵器坏1点である。

1は須恵器坏で、遺存度は85%である。口径は13.4cm、底径は7.6cm、器高は4.0cmである。体部外面下部には手持ちヘラケズリが施される。底部外面にも一定方向の手持ちヘラケズリが施され、切り離し痕跡は消されている。口縁部外面に接合痕が残る。ロクロ回転は右回りである。胎土は小石を多く含む。色調はやや暗い灰色で、焼成は良好である。新治窯産の須恵器と思われる。

### 3 土坑

#### S K 004 (第138図, 図版35)

調査区南東端, 13K65区に位置する。北西側にSK005が存在する。平面形は、ほぼ円形を呈する。径約0.9m、深さ0.5mを測る。坑底はやや楕円を呈し平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は上層が黒色土で、中層・下層がローム土を多く含む暗茶褐色土である。遺物は、土師器片が9点出土した。小破片のため図示しなかったが、S K 005で図示した坏と同形態の坏1個体を含む。

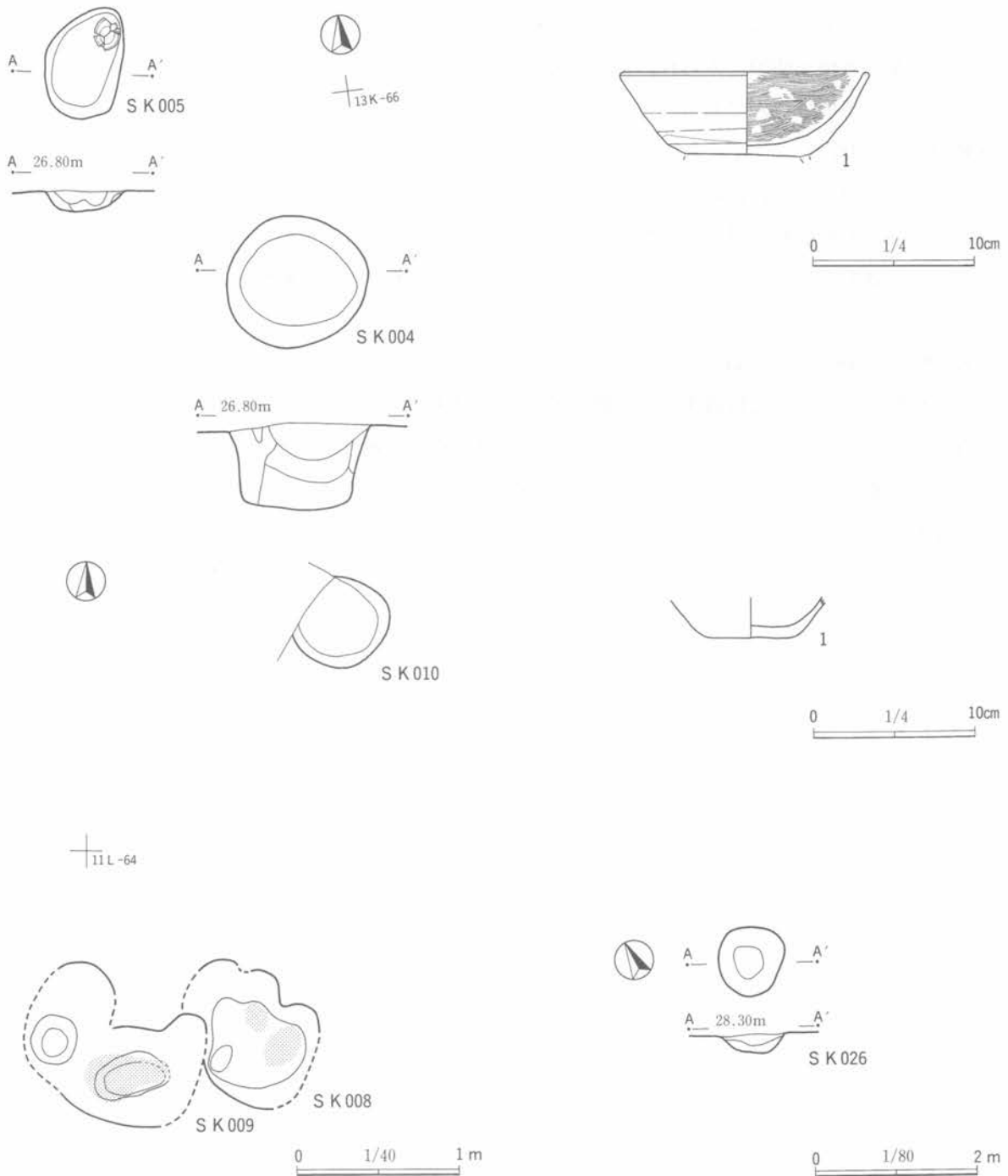
#### S K 005 (第138図, 図版35・37)

調査区南東端, 13K55区に位置する。南東側にS K 004が存在する。平面形は、一方が尖る卵形を呈する。長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。坑底は楕円を呈しほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は上層が暗褐色土で、下層がローム土を多く含む黄褐色土である。遺物は、土師器坏が、構底に張り付くように割れた状態で6点出土した。すべて同一の個体で他の遺物は出土していない。

1は土師器高台付坏である。高台部を欠損するが、坏部は口縁端部をわずかに欠くのみでほぼ遺存する。口径は15.6cm、坏部底径は7.7cm、坏部の器高は5.2cmである。坏部底部は回転糸切りによって切り離され、高台際は高台貼り付けに伴い、強いヨコナデが施されている。体部外面下部は回転ヘラケズリが施される。ロクロ回転は右回りである。内面は炭素吸着による黒色処理がなされ、その後ヘラミガキが施される。器肉が厚く重量感がある。色調は内面が全面黒色で、外面は淡褐色である。焼成は良好である。

S K 008 (第138図, 図版35)

調査区中央部西端, 11K64区に位置する。西側でS K 009と接し, 北側にS K 010が約2.1m離れて存在する。耕作による攪乱が著しく平面形状及び土層断面は明瞭でなかった。平面形は, 楕円形に北西壁が蕨手状に突出する形状を呈する。長軸約1.0m, 短軸0.7m, 深さ0.1mを測る。坑底は不整楕円を呈し中央部が深くなる。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は単層で炭化物と焼土を多く含む暗褐色土である。蕨手状に膨らむ壁寄りで焼土範囲が2か所確認されている。規模は, 東側焼土は長軸0.3m, 短軸0.2m, 西側焼土は長



第138図 S K 004・005・008・009・010・026

軸0.2m, 短軸0.1mである。遺物は, 土師器坏・甕が焼土範囲を主体に土師器が10数点検出されている。

#### S K 009 (第138図, 図版35・37)

調査区中央部西端, 11K63・64区に位置する。東側でS K 009と接し, 北側にS K 010が約2.1m離れて存在する。耕作による攪乱が著しく平面形状及び土層断面は明瞭でなかった。平面形は, 楕円を2つ重ねた形状で, 北西壁が突出しS K 009を切る。長軸約1.2m, 短軸0.8m, 深さ0.1mを測る。坑底は東西に2つの不整楕円を呈する底があり, それぞれ段をもつ。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は単層で炭化物と焼土を多く含む暗褐色土である。東側坑底に重複するように焼土範囲が確認されている。規模は, 長軸0.5m, 短軸0.3mである。遺物は, 土師器坏が焼土範囲を主体に土師器坏・甕が10数点検出されている。

1は土師器坏である。遺存度は30%で, 底部・体部下部の一部が遺存する。底径は5.0cmである。底部外面には回転糸切り痕が明瞭にみられ, 糸切り後は無調整である。体部内外面の一部に剝離痕がみられる。色調は褐色で, 焼成は良好である。

#### S K 010 (第138図)

調査区北側, 11K54区に位置する。南側に約2.1m離れてS K 008・009が存在する。北西壁側を削平されるが, 平面形は不整円形を呈すると推定される。径0.6m, 深さ0.1mを測る。坑底は円形を呈しほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は単層でローム土を多く含む暗褐色土である。遺物は, 検出されていない。

#### S K 026 (第138図, 図版35)

調査区北側, 7 L 84区に位置する。南側にS D 013が近接する。平面形は不整円形である。径0.8m, 深さ0.1mを測る。坑底は円形を呈しほぼ平坦である。壁はやや急角度に立ち上がる。覆土は上層がローム土を多く含む暗褐色土で, 下層がロームブロックを多く含む褐色土である。遺物は, 土師器坏・甕の小破片が検出されている。



## 第5章 中・近世

### 第1節 遺構と遺物

本遺跡の中世以降の遺構は、土坑4基、溝3条である。これらの遺構は、明確に伴出する土器等がなく時期を確定できるものが少ない。それぞれの遺構は、調査区北側の溝3条を中心として、その溝に近接して土坑が検出されている。

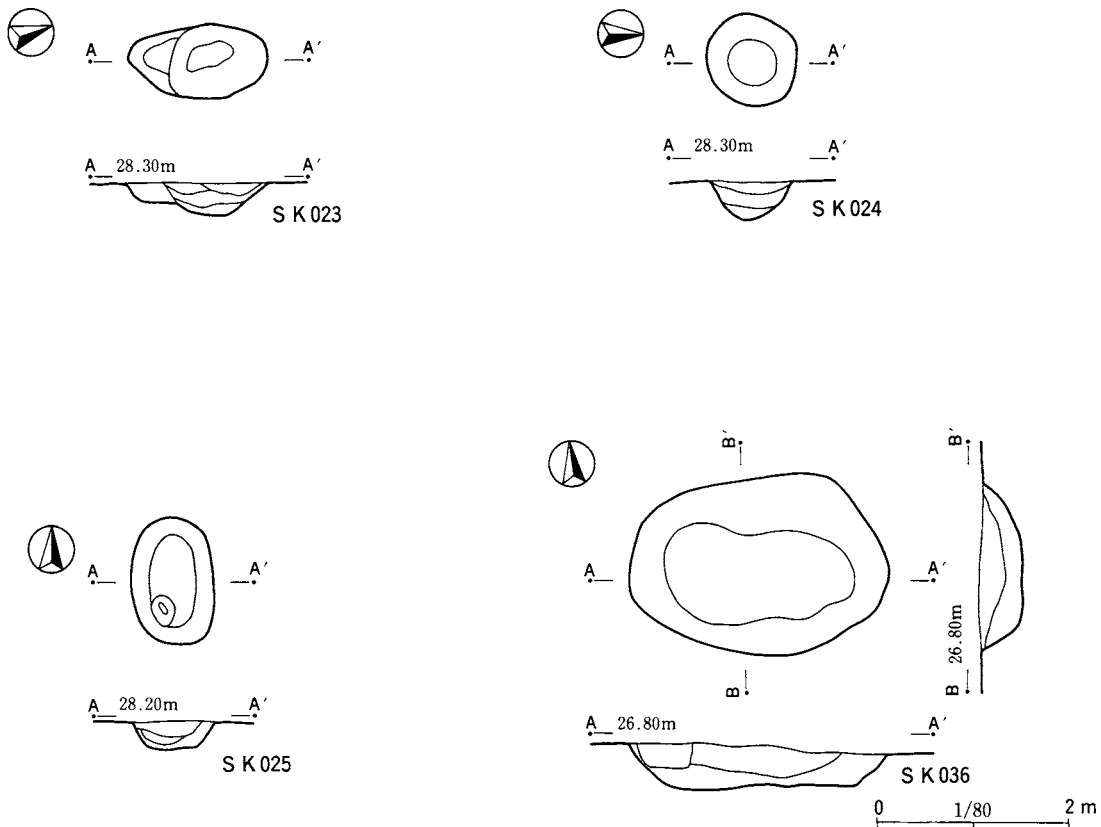
#### 1 土坑

##### S K 023 (第139図, 図版35)

調査区北側, 7 K 28・29区に位置する。北西側にS D 028が約4 m離れて存在する。平面形は一端が尖る長楕円形を呈する。規模は長軸1.4m, 短軸0.8m, 深さ0.3mを測る。底面は平面形が不整形を呈し, 平坦である。壁は南側で段をもち, 平坦面を介して鉢状に立ち上がる。覆土は上層から中層にかけてローム粒が多くなる暗褐色土で, 最下層はローム粒を少量含む褐色土が堆積する。遺物は出土しなかった。

##### S K 024 (第139図, 図版35)

調査区北側, 7 K 47区に位置する。南側にS D 029が約1.5m離れて存在する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は径0.9m, 深さ0.4mを測る。底面は平面形が円形を呈し, 中心部が深くなる。壁は椀状に立ち



第139図 S K 023・024・025・036

上がる。覆土は上層がローム粒を多く含む暗褐色土で、中層がロームブロックを少量含む暗褐色土、下層はローム粒を多く含む暗褐色土が堆積する。遺物は出土しなかった。

S K 025 (第139図, 図版35)

調査区北側, 7 L 71・72・82区に位置する。北側にS D 029が近接して存在する。平面形は楕円形を呈する。規模は長軸0.65m, 短軸0.45m, 深さ0.15mを測る。底面は平面形が楕円形を呈し, ほぼ平坦である。壁は急角度に立ち上がる。南西壁コーナーで小ピットが確認された。規模は最大径15cm, 深さ15cmである。覆土は上層がローム粒を少量含む黒褐色土で, 中層がロームブロックを多く含む暗褐色土, 下層はローム粒を非常に多く含む褐色土が堆積する。遺物は出土しなかった。

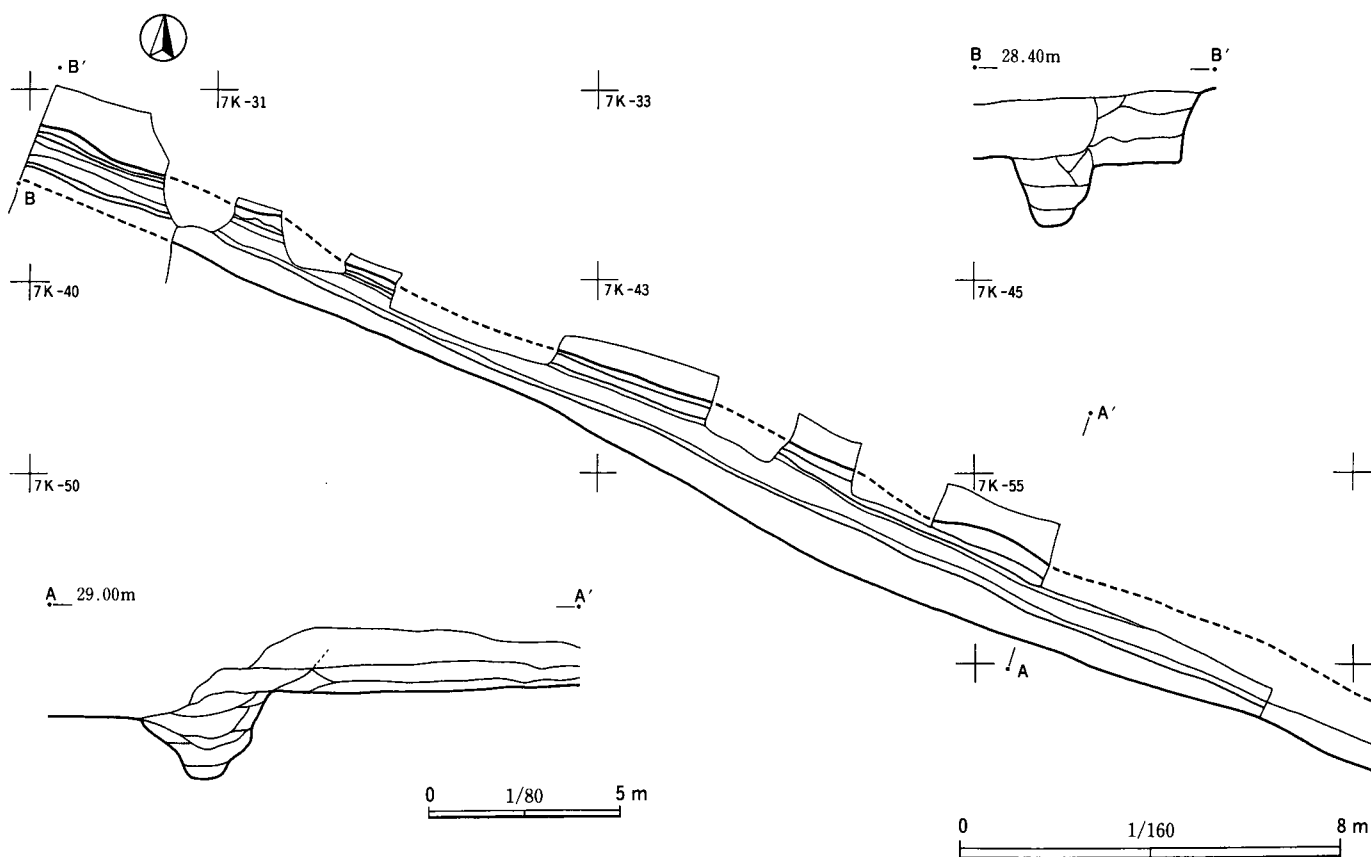
S K 036 (第139図, 図版36)

調査区南東端, 13K74区に位置する。北側にS K 004・005が約6m離れて存在する。平面形は不整な楕円形を呈する。規模は長軸2.7m, 短軸1.8m, 深さ0.5mを測る。底面は平面形が中間部で括れる不整な楕円形を呈し, 細かな凹凸が認められ, 西側が皿状に浅く窪む。壁は三方では急角度であるが, 北側壁では緩やかに立ち上がる。覆土は上層はローム粒を少量含む黒褐色土で堅く締まっている。下層はローム粒を少量含む暗褐色土が堆積する。遺物は出土しなかった。

2 溝

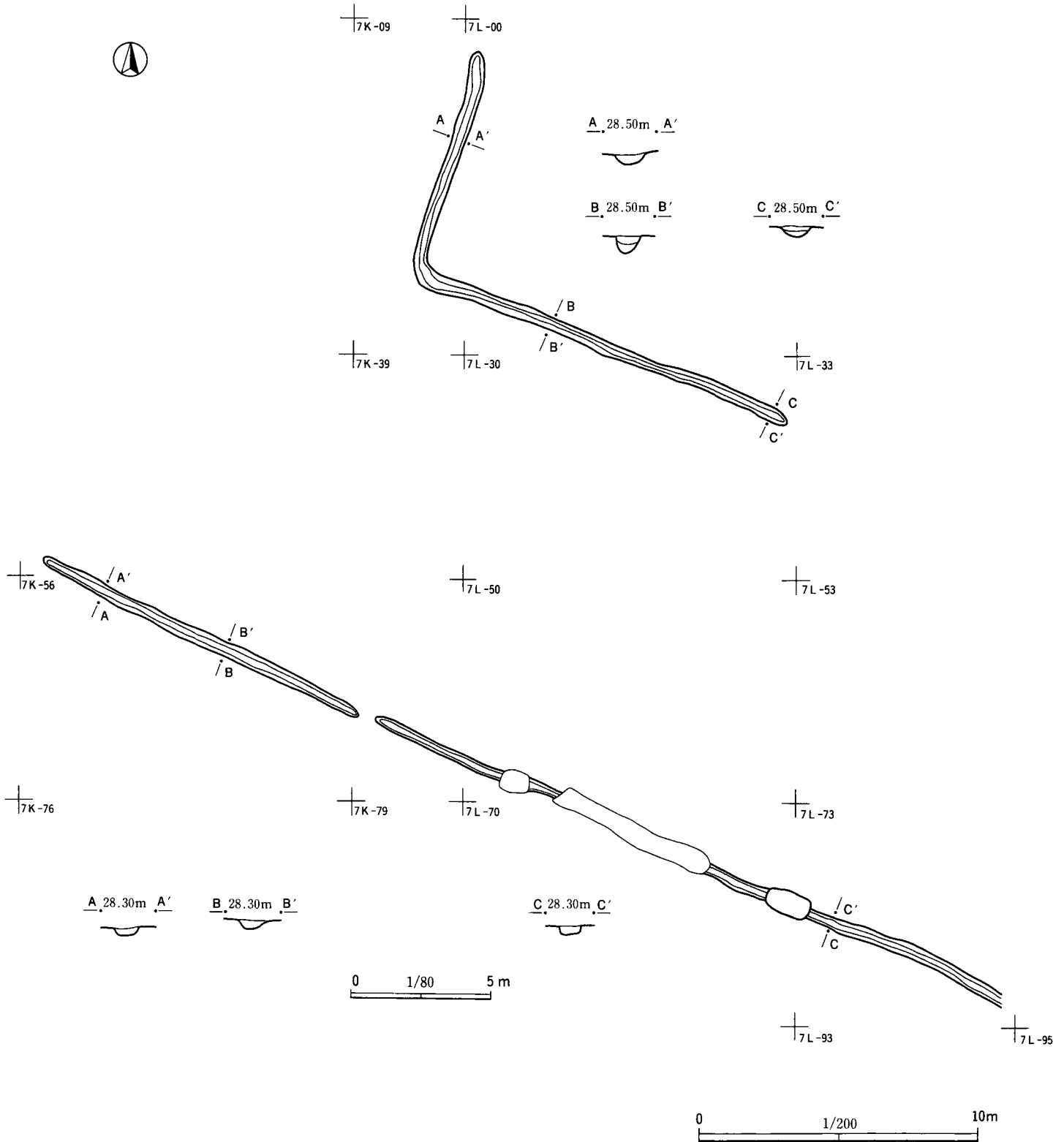
S D 013 (第140図, 図版36)

調査区北側, 7 K 29区から 8 M 21区にかけて位置する。北側に2, 3m離れてS D 029が並行して位置し



第140図 S D 013

ている。長さ99m、幅2.0m～1.2mのほぼ西北西から東北東方向に延びる溝である。調査区西端で浅くなり、確認されなくなるが、調査区東端では調査区外に連続して延びている。横断面形はV字状の底面が平坦な形状を呈し、現存の深さは約40cm～50cmである。覆土は、上層がローム粒を多く含む暗褐色土で、中



第141図 S D028・029

層（確認面）で非常に硬い暗褐色土となり、中層で黒色土を介在して、下層はロームブロックを多く含む褐色土となる。溝の北側に接して地境となり、横断面Aと横断面Bの間では現状では立木が存在し、高さ10cm～20cmの高まりが認められた。横断面で観察される場所では、柔らかい表土層となり何らかの盛り土とは判断されない。但し横断面Aを見るとII c・II b層を切るように壁が立ち上がり、高まり方向から流れ込むように土層が堆積しているため、表土層の堆積以前に高まりがあった可能性も否定できない。中層で確認された硬い層は硬化面を形成し、溝の範囲内で同方向に延びる。このことは、この溝が埋没する過程で道として使用されていた期間があったことを物語っている。時期を特定するような遺物は検出されていない。

#### S D 028（第141図，図版36）

調査区北側，7 L 00区から7 L 32区にかけて位置する。南側に約15m離れてS D 029が並行して位置している。7 K 29区付近で鉤の手状に直角に屈曲して，S D 029と並行するように延びている。長さ22.5m，幅0.6m～0.4mのほぼ北北東から南南西，西北西から東北東方向に延びる溝である。横断面形は椀状からU字状を呈し，現存の深さは約25cm～10cmである。覆土は上層がローム粒を含む暗褐色土で下層がローム粒を多く含む褐色土が堆積する。時期を特定するような遺物は検出されなかった。

#### S D 029（第141図，図版36）

調査区北側，7 K 46区から7 L 84区にかけて位置する。南側に2，3 m離れてS D 013が，北側に約15m離れてS D 028が並行して位置している。溝が跡切れるところもあるが，長さ38m，幅0.6m～0.4mのほぼ西北西から東北東方向に延びる溝である。横断面形はお椀状からコ字状を呈し，現存の深さは約10cm～20cmである。覆土は，単層でロームブロックを含む暗褐色土が堆積する。

### 3 その他の遺物

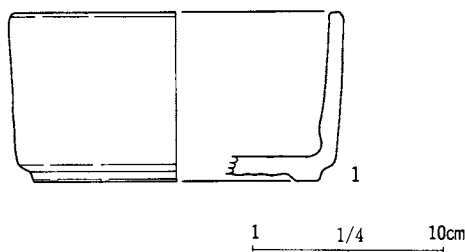
本遺跡では明確に中世に時期認定される遺物は出土しなかった。ここでは近世以降の遺物を掲載する。近世以降の遺物は少量出土している。遺物は小片が大部分であり，実測できるものは1点のみである。

#### (1) 土器（第142図，図版37）

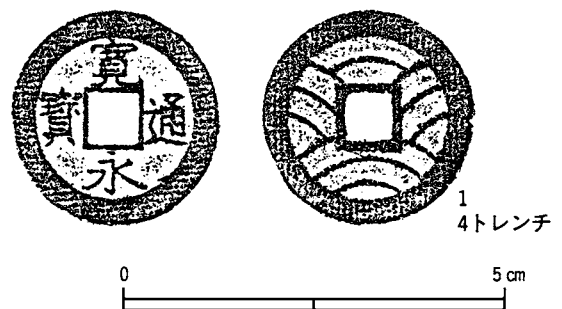
1は香炉形の土器である。遺存度は30%で，推定口径は17.0cm，推定底径は14.8cm，器高は8.8cmである。器肉は8mm～1cmと厚みがある土器である。低い高台を有し，口縁・体部は底部から垂直的に立ち上がる。高台内側の底部外面は約1cm単位の間隔で同心円状の凹凸がみられる。色調は器表面全面が黒色であるが，破断面からみる器肉の色調は淡褐色である。高台部接地面は器表面が摩滅し，淡褐色の地色となる。胎土は白色粒・赤色粒と若干の小石を含む。焼成は良好である。

#### (2) 銭貨（第143図，図版37）

1は寛永通寶である。いわゆる波銭である。



第142図 中・近世土器



第143図 銭貨

## 第6章 まとめ

### 第1節 旧石器時代

本遺跡からは21か所のブロック、1か所の土坑、7か所の礫群からなる5つの文化層と2つの亜文化層が設定された。ここでは、各文化層の器種構成、石器製作技術、石材の特徴について検討し、それぞれの様相をまとめることとする。

#### 第I文化層

第I文化層の石器群は、第1ブロックの1か所のブロックが帰属し、立川ローム層のIX層下部に出土層位がある文化層である。石器の総数は僅かであり、石器群の様相を十分に把握できない。

石材構成はチャート、流紋岩、珪質頁岩、軽石、石灰岩、砂岩がありすべて単独母岩である。石材の偏在性は看取されない。器種構成も剥片と礫で構成される。礫の占める割合が高いが、すべて小円礫である。

剥片は小礫素材のもので、チャート、珪質頁岩を母岩としている。剥片も一般的な形状を呈し、特徴的な類型性は看取されない。第I文化層は本遺跡での最下層の文化層であり、第2黒色帯下部（IX層下部）から人間の活動の痕跡があったという内容程度に止めておく。

#### 第II文化層

第II文化層の石器群は第2ブロック～第10ブロック、第16ブロックの10か所が帰属し、立川ローム層の第2黒色帯中部（IX a層）に出土層位がある文化層である。さらに、第II文化層はブロック群を構成する第2ブロック～第10ブロックの第II a文化層と第16ブロックの第II b文化層の2つの文化層に細分された。

第II a文化層の石材構成は黒曜石が主体を占め、これに珪質頁岩、安山岩B、安山岩A、流紋岩、ホルンフェルス、チャートが少量加わっている。これは、原礫の形で搬入された黒曜石1の母岩が集中的に消費されているためであり、第4ブロックの珪質頁岩5、第7ブロックの安山岩B1、珪質頁岩4の母岩のように黒曜石1の母岩に匹敵する母岩消費がされるブロックもあるが、その母岩消費は散発的であり、全体としては黒曜石1母岩の集中的消費が当文化層を特徴づけるものである。器種構成はナイフ形石器・台形石器・楔形石器がごく少数検出されているのみである。磨製石斧が1点であるが伴出することも特徴的である。高原山産黒曜石と考えられる黒曜石1の母岩では多量の縦長剥片が生産され、製品に適した秀麗な石刃状剥片も残されているが、ナイフ形石器は1点しか残されていない。このナイフ形石器は切出型の形状を示し、第9ブロックで観察された縦長剥片石器製作技術による素材とは齟齬のあるものである。逆に少量あるは単独で持ち込まれた石材は、ナイフ形石器などの製品として搬入されている傾向がある。このように、第II a文化層の器種構成は製品類の少なさと、単独搬入石材の製品率の多さをその特徴としてあげることができる。石器製作技術は、発達した縦長剥片製作技術を基盤としている。黒曜石1の剥片剥離技術で観察される平坦単設打面から打点を後退させて、連続的な剥片剥離を行う手法は広義の石刃技法である。生産された縦長剥片は母岩の制約もあり、打点をジグザクに後退させ器体の稜と側縁が平行する目的剥片を剥離する剥片剥離工程は見られない。企画的で真正な石刃であると剥片の形態から分類されるものはほとんどないが、縦長剥片を連続して生産する剥片剥離技術を広義の石刃技法とするならば、そうした企図が看取される剥片剥離技術であり、縦長剥片剥離技術では縦長指向の強い剥離技術を有している

と評価される。第II a文化層はこうした要素を有する文化層である。出土層位はIX a層、特にブロックの遺物の集中的な分布状況からはIX a層下部に出土層位が求められる。この文化層が出土した調査区の西側隣接地は、平成13年度の調査で同一文化層と思われる石器集中箇所が連続し、本報告の調査区と合わせて環状ブロック群状の平面分布を呈している。未報告のため詳細は不明であるためそれらの資料の分析を待って改めて検討したい。

第II b文化層の石材構成は黒色頁岩、珪質頁岩が主体を占め、これにチャート、流紋岩、ホルンフェルス、安山岩A、玉髓が少量加わっている。特に黒色頁岩3・4及び珪質頁岩9・10の母岩は接合資料を構成し集中的な母岩消費が行われており、当亜文化層を特徴づけるものとなっている。器種構成はナイフ形石器・石刃・彫器・敲石がごく少量検出されている。これらの利器は上記の母岩から生産されたものもあるが、秀麗なナイフ形石器（第52図1）や石刃は少量あるいは単独で搬入されている。こうした器種構成のパターンは第II a文化層と同様である。石器製作技術は、縦長剥片製作技術を基本としている。第II a文化層に比較して、石核素材形状による制約のためか大形長身な石刃状剥片の生産は少なく、比較的小型細身の縦長剥片或いは小形幅広な縦長剥片を多く生産している。さらに、打面を一定にし連続した縦長剥片を生産することは少なく、数回の剥離で打面を転移して剥片を生産している。縦長剥片生産技術の内でも、第II a文化層に比べると、一般的剥離手法に近いものである。また、こうした石核に、厚手の剥片素材を石核素材としてその小口から剥片剥離を行う石核があり、プレイド・リダクション戦略の萌芽が認められることも注目される。第II a文化層と第II b文化層の相違は、石材獲得戦略の違いと使用石材による剥片剥離手法の違いに還元されるが、基本的な構造は同様であり同一文化層と判断される。両亜文化層の石材獲得戦略の相違は、第II b文化層のこれらの珪化岩類の石材産地が利根川上流域の第三紀層に由来するものか、古鬼怒川上流域の第三紀層に由来するものか判然としないが、石材獲得における活動域の相違、時期的差違を反映しているものと考えられ、遺跡における使用石材の石材産地の追求がより重要になると考えられる。

### 第III文化層

第III文化層の石器群は第17ブロック～第20ブロックの4か所が帰属し、立川ローム層の第2黒色帯上部（VII層）に出土層位がある文化層である。石材構成は専ら安山岩Aを使用し、ごく少数の珪質頁岩、ホルンフェルスが伴う。安山岩Aによる使用石材の専用性が看取される。器種構成は、石刃とナイフ形石器の占める割合が高く、特に、石刃素材の基部に素材の打面部を設定した刺突形のナイフ形石器が特徴的である。これらの主要な利器は、珪質頁岩17を素材とするナイフ形石器1点以外はすべて安山岩Aを使用石材としている。剥片剥離技術は、石刃技法を基盤とするものであるが、ブロック群内で原礫からの連続した剥片剥離が看取されない資料であり、剥片剥離初期段階の剥片も存在するが、石刃技法による残核も残置しておらずブロック群外に持ち出されている状況である。石刃、ナイフ形石器には数母岩が存在するが、同一母岩での連続した資料がないことから母岩消費は限定的で且つ小規模であったことが考えられる。おそらく石刃、ナイフ形石器は製品の状態で搬入されたと思われる。下総台地の北西部地域において、安山岩A（黒色緻密質安山岩）を主体とするVII層の石刃石器群は類例に乏しいが、松戸市野見塚遺跡第6ブロックで黒色頁岩と安山岩Aを主体とする資料や鎌ヶ谷市東林跡遺跡の石刃石器群が知られている。当該地域では珪質頁岩・黒色頁岩・ホルンフェルス等の石材を使用石材として各種の石材で構成される石刃石器群が一般的である。この点からも当該地域において希少な資料が追加されたと評価できる。

#### 第Ⅳ文化層

第Ⅳ文化層の石器群は第21ブロックの1か所が帰属し、立川ローム層のⅣ層下部・Ⅴ層に出土層位がある文化層である。石材構成は専らチョコレート頁岩と呼ばれる珪質頁岩を使用している。器種構成は、ナイフ形石器の占める割合が比較的高く、これらのナイフ形石器には縦長剥片を素材とするやや幅広い刺突形ナイフ形石器と横長剥片を素材とする幾何形(切出型)ナイフ形石器が特徴的である。剥片剥離技術は、一般的な剥片剥離手法が用いられているが、剥片素材石核の平坦面を作業面として横長剥片を生産する接合資料例があり、翼状剥片剥離技術に関連しながらも在地性の強い板状剥片剥離技術と評価される。縦長剥片素材の刺突形ナイフ形石器が存在することと国府系石器群に関連する板状剥片剥離技術が認められることから、立川編年の「Ⅳ層下部・Ⅴ層段階」でも古い段階の石器群と考えられる。

#### 第Ⅴ文化層

第Ⅴ文化層の石器群は第22ブロック～第26ブロックの5か所が帰属し、立川ローム層の第Ⅲ層下部に出土層位がある文化層である。石材構成は黒曜石、珪質頁岩、黒色頁岩、安山岩A、流紋岩、玉髓、チャート等の各種石材で構成される。器種構成は、尖頭器が14点と多量に検出され、ナイフ形石器と削器が少数検出される。これらの尖頭器はほとんどが剥片を素材とする有樋尖頭器であり、左右非対称のいわゆる東内野型有樋尖頭器石器群である。尖頭器には先端からの面取りの剥離が看取され、この剥離による扇状の尖頭器削片も存在している。石器製作技術は尖頭器製作に関わる調整加工が見られるが、尖頭器調整削片や碎片類の多さに比して原礫面を残置する削片類が少ないことから、製品或いは製品に近い形状で搬入され、面取りの再調整や、再細部調整を施すようなメンテナンス的な母岩消費であろう。パイフェース・リダクション戦略の段階的な母岩消費形態を示している。本遺跡の有樋尖頭器は各種石材により製作されるが、黒曜石製の資料については「千葉県文化財センター研究紀要22」において石材産地同定分析が行われている。それによると黒曜石3は麦草峠産、黒曜石4は星ヶ塔産、黒曜石5が麦草峠産、黒曜石6が小深沢産との同定がされている。いずれも信州産であるが信州系の各系産地の石材が使用されていることが注目される。「紀要22」の分水界による地域区分によれば、当該地域は下総台地の「Y字状分水界」の太平洋-東京湾分水界以北、土気-銚子分水界以西の地域に当たる。この地域の有樋尖頭器の利用石材の傾向は、東北系珪質頁岩(頁岩)或いは関東北部珪質頁岩が主体を占め、これに信州系黒曜石が少量伴うことが多いが、本遺跡では各信州系黒曜石が主体を占め、これに単独製品で関東北部の黒色頁岩、流紋岩、珪質頁岩の珪化岩類が伴う石材構成である。こうした石材構成は、石材獲得戦略において信州系黒曜石をストック・製品として携え、広域長距離な往還の採取過程で、関東北部の石材原産地近傍で珪化岩類の製品を製作して補充し、あるいは交換により製品を補充したことも考えられる。いずれにしろ、石材獲得の状況を探ることは、石材採取における活動領域・移動ルートや獲得構造といった具体像を明らかにする手がかりとなる。

#### 旧石器時代土坑について

第Ⅱa文化層において土坑が発見されている。第9ブロックの集中部で検出され、平面形が不整形な隅丸長方形で長軸1.9m、短軸1.2m、深さ0.1mの規模を呈する土坑である。この土坑からは巻頭カラー図版に掲載した黒曜石1の接合資料及びそれと同一母岩の石器が、平面・断面分布から土坑の掘込みに沿うように土坑内に集積的に検出されている。掘り込みが浅く皿状になだらかに壁が立ち上がるため人為的な掘り込みではないとの考えもあるが、覆土の状況や遺物の出土状況から人為的な掘り込みによる土坑或いは

人為的な掘り込みでないにしても、落ち込みを利用した人為的な活動痕跡として積極的に土坑として判断しておきたい。そうした評価の上に立ってこの土坑の性格を考えてみる。遺物の出土状況からは、石器を土坑に埋設（埋納）したような状況ではなく、一つは穴を掘り生活面より低い窪地を作ってその場で石器製作行為を集約的に行ったことが考えられる。もう一つには他の場所で石器製作行為を行い、そこから生産された剥片・碎片類を集め、生活面より低いこの窪地に廃棄したことが考えられる。いずれの仮説においても遺跡形成の面から考えて可能であるが、黒曜石1の母岩の接合資料の接合状況・接合の分布状況からは前者の仮説のほうが整合性が高いと考えられる。いずれにしても、第II a文化層の評価と同様にこの旧石器時代土坑についても、隣接した同一文化層の石器群の分析後に改めて検討したい。

## 第2節 縄文時代

本遺跡においては、中期の阿玉台式土器を中心とした資料が出土している。時期的にもI b式～II式にまともっており、伴出する勝坂式土器も1式後半段階のものが大半を占めている。また、出土グリッドも7 M・7 L区を中心としてその周辺に限られている。今回の調査では、住居跡等は検出されなかったものの、生活域がかなり限定されている様相である。出土土器片の数量や大きさ、さらに時期的なことを合わせてみると、比較的短期間に人々が居住し、遺跡が形成されたと考えられる。周辺遺跡からも本時期の土器片が散見される例が多く、遺構の検出例が少ないながらも活発な人間行動が予想されよう。これに関するデータをまとめ、より実証的にしていくことが今後の課題となろう。

## 第3節 奈良・平安時代

五本松遺跡で検出された奈良・平安時代の遺構は竪穴住居跡1軒、竪穴建物跡1棟、土坑6基と少数である。しかし、8～9世紀代のまとまった集落遺跡と比べ一風変わった遺構がみられる。

出土遺物の様相により、古いものからみていく。竪穴建物跡のS I 021から出土した須恵器坏は8世紀後半の遺物と思われる。この1点の須恵器をもって竪穴建物跡の年代を断定することは危険であるが、確認面から床面まで浅いこと、須恵器坏の遺存度が良いことから、遺構の年代が遺物の年代と近い可能性はあると考える。

竪穴住居跡のS I 002は、遺存状態は不良であるがカマドを持つことから、住まい又は何らかの作業に使用された建物であると考えられる。建物の平面形が横長であることから、通常の住居とするよりは何らかの作業場所とした方が良いかもしれない。作業場所と仮定した場合、林跡遺跡群でみられる鍛冶工房が想起されるが、調査では鉄滓や鍛造剥片の出土はなかった。出土遺物群の年代については明瞭な根拠をもたないが、9世紀代の土器様相より考えて、10世紀代に属するものと思われる。住居中央寄りの焼土跡は炉であることも考えられるが、炉とカマドの双方をもつ建物であるならば、この点からも新しい竪穴住居といえよう。

土坑S K 005出土の高台付坏は高台が欠損しているため、やや難しいがおそらくは10世紀代と思われる。また、土坑S K 009出土の土師器坏は回転糸切り後無調整で底径も小さいことから、さらに新しい様相であり、平安時代後期の遺物と考えておきたい。

### 参考文献

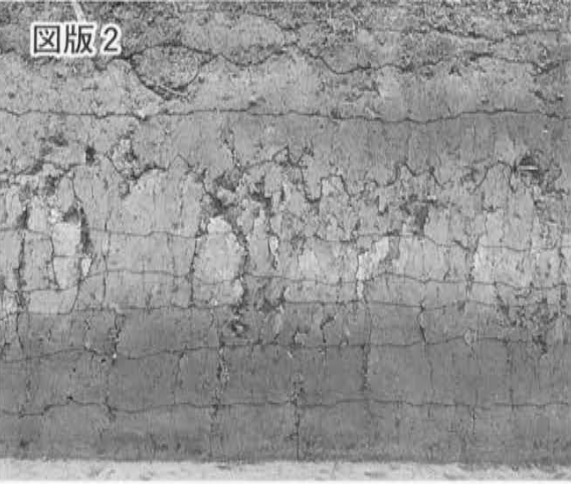
『千葉県文化財センター研究紀要22』 財団法人千葉県文化財センター 2001



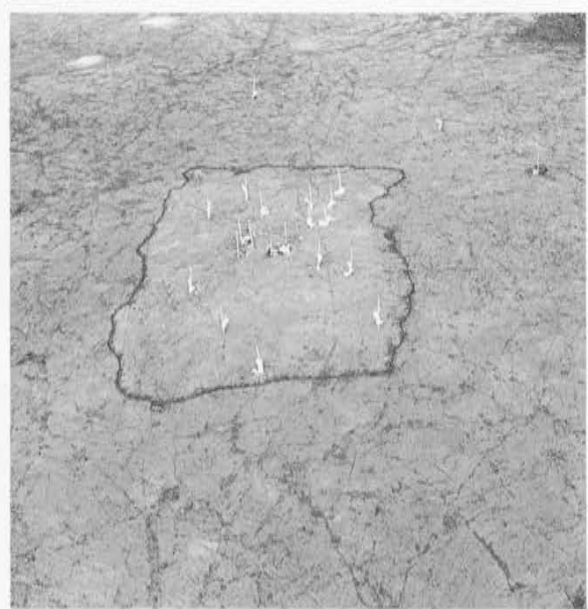
# 写真図版



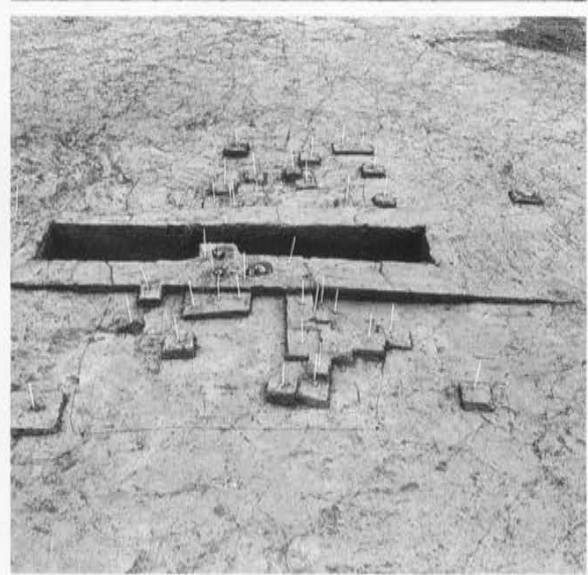
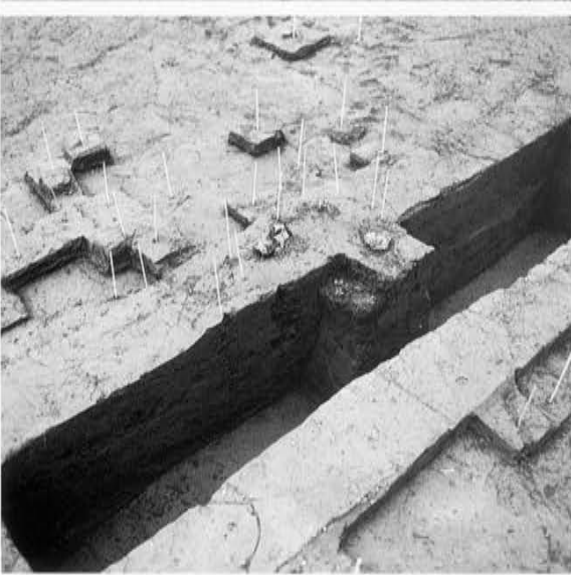
五本松No.3遺跡の周辺地形



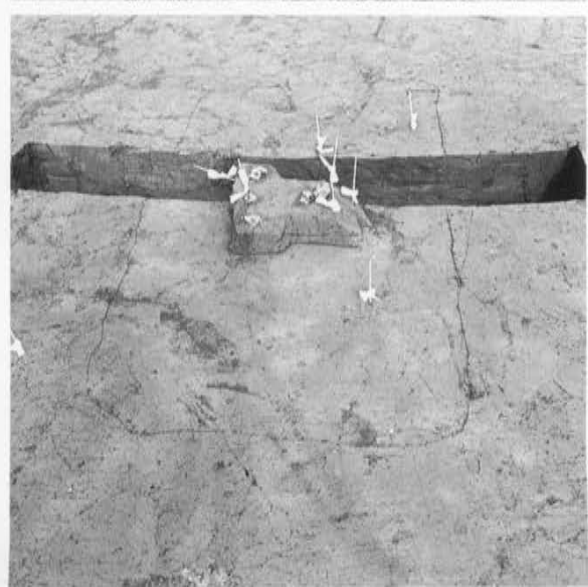
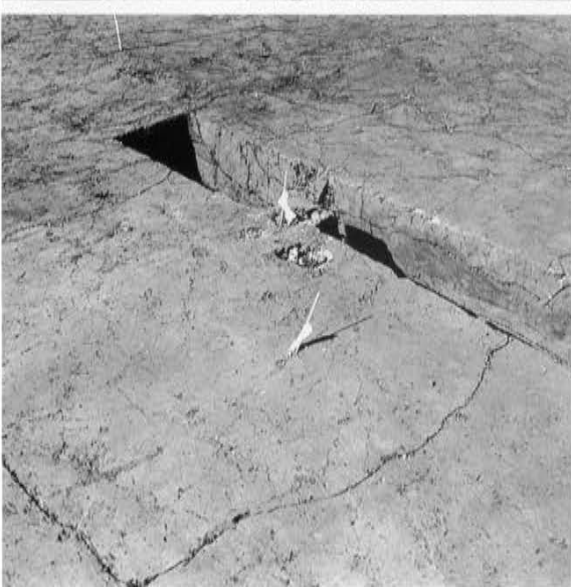
基本層序



旧石器土坑検出状況  
(左；南西から、右；南から)



旧石器土坑石器出土状況



旧石器土坑土層状況；左  
旧石器土坑底面；右





第1ブロック  
南から



第2～10ブロック  
南東から



第2～10ブロック  
北から



第2～9ブロック  
南東から



第9・10ブロック投影  
北から



第7～10ブロック  
南から



第2～5ブロック投影  
東から



第16ブロック  
北東から



第16ブロック  
南から





第18～20ブロック  
南から

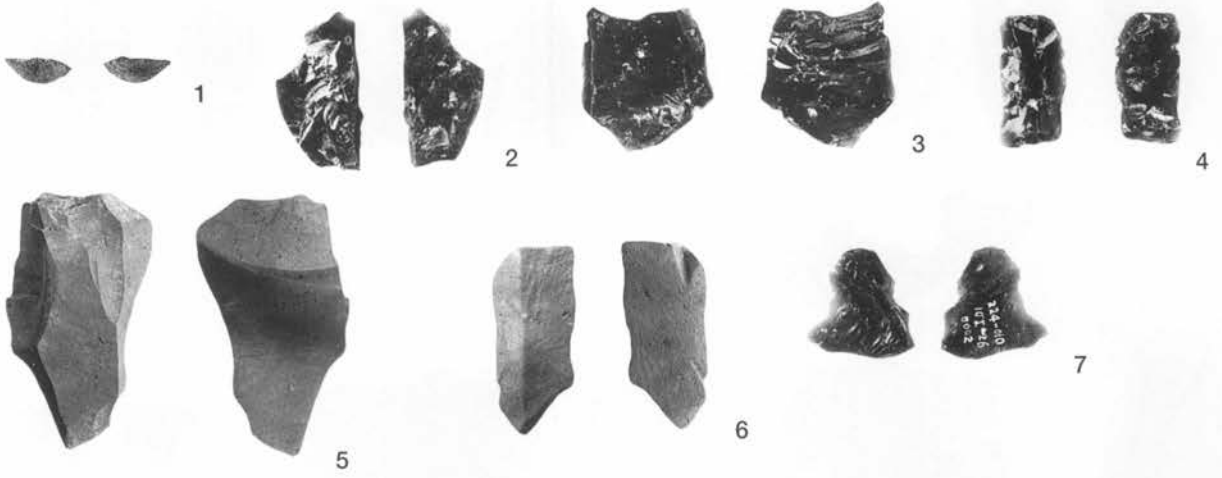


第21ブロック  
南から

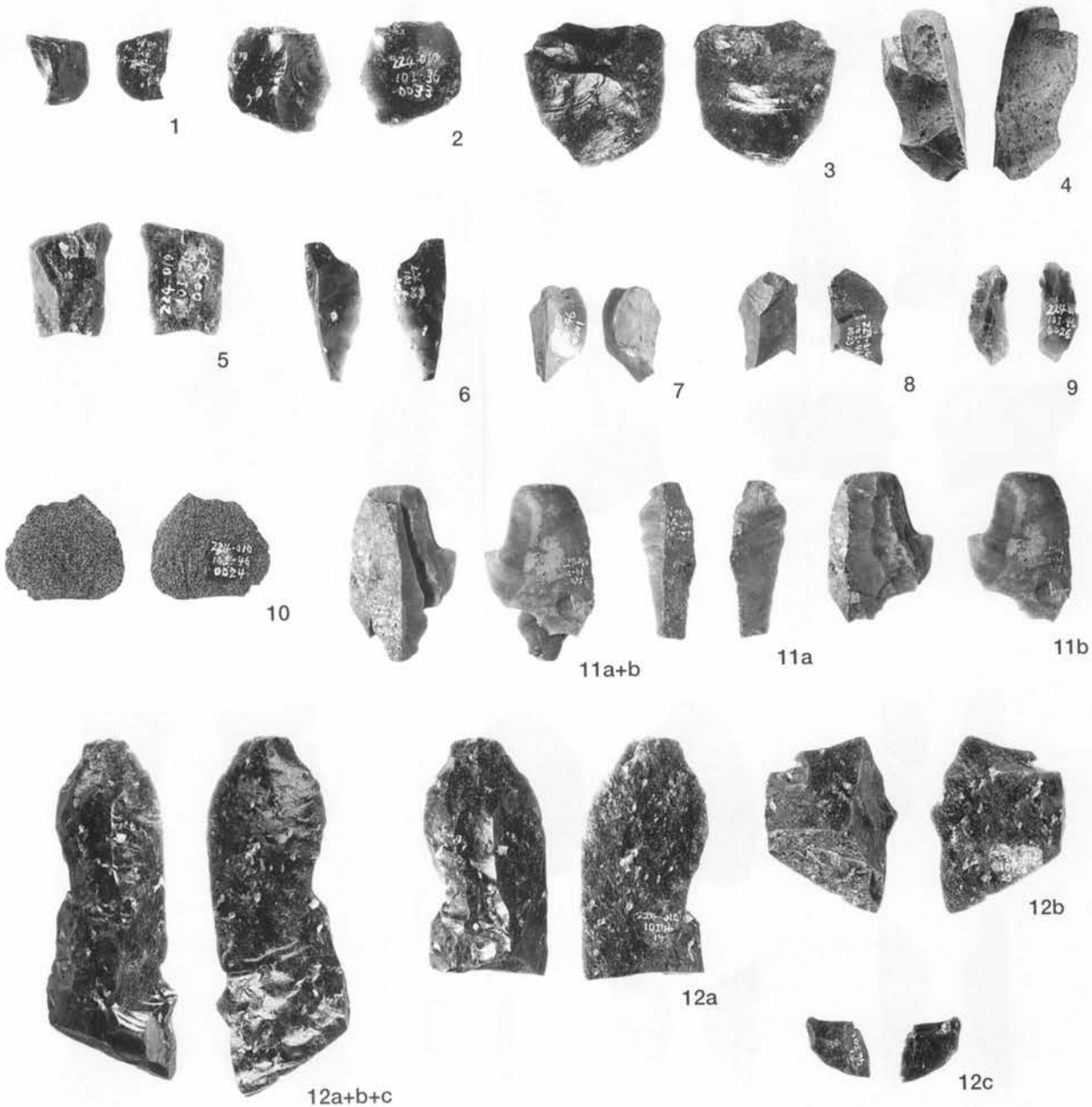


第22～26ブロック  
南から

第1ブロック



第2ブロック

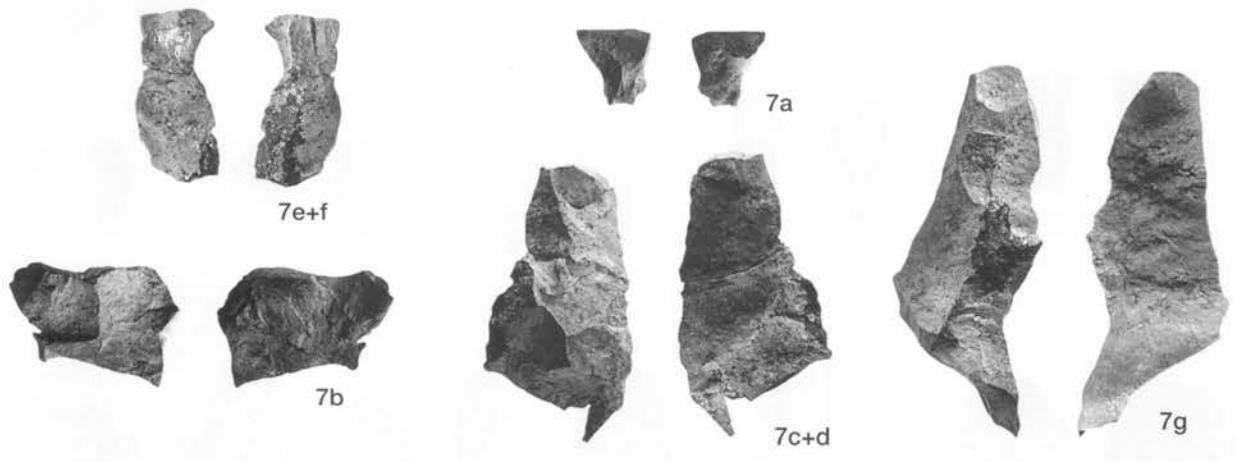
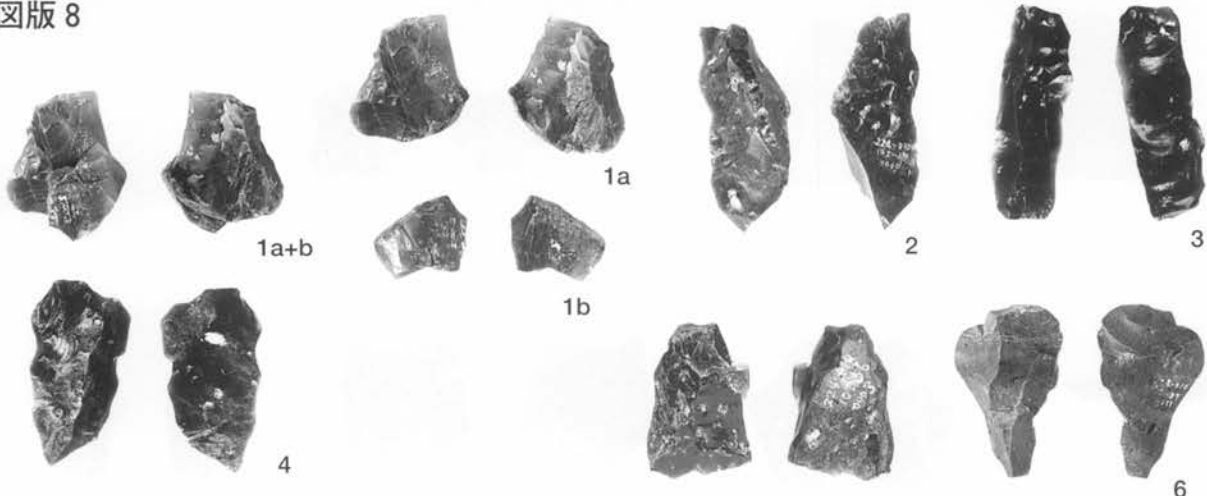


第3ブロック

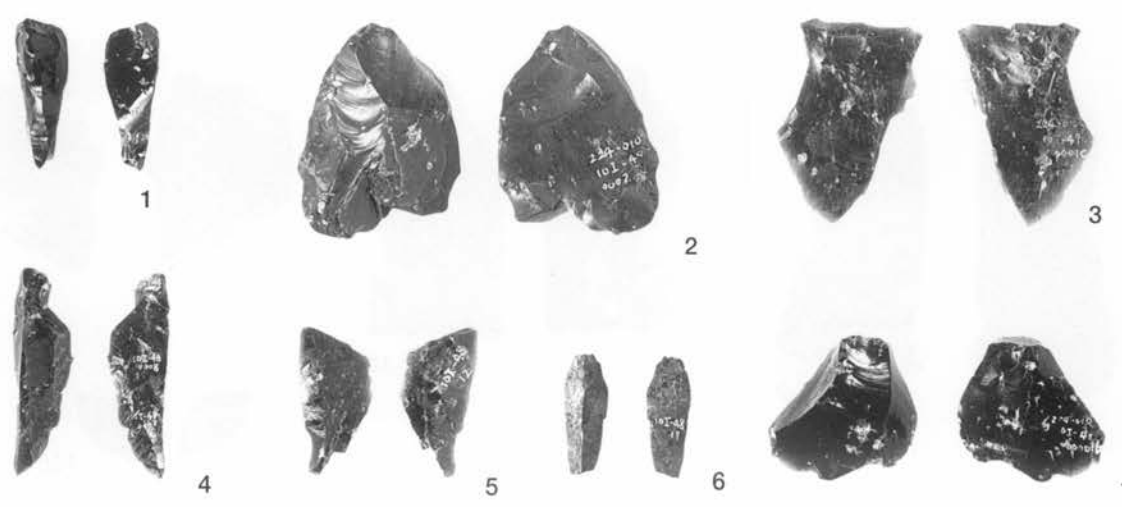
12a+b+c

12c



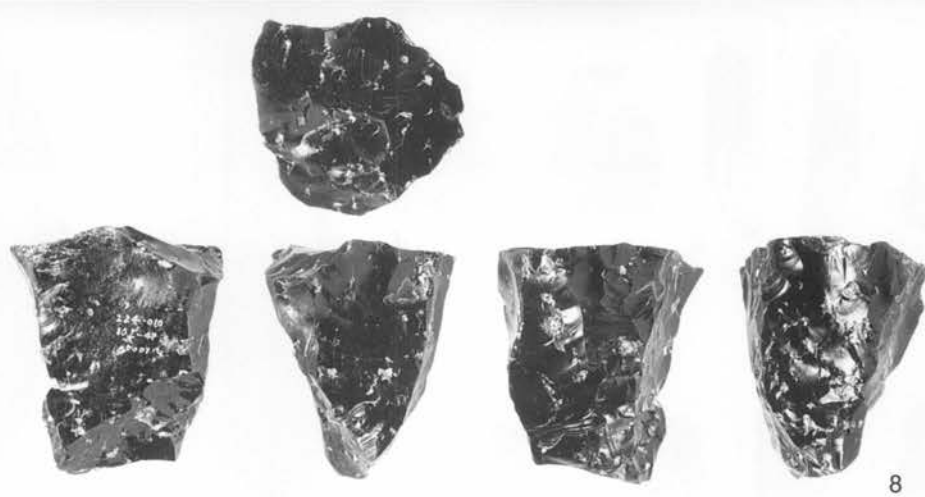


第4ブロック



第5ブロック1

第5ブロック 2



8

第6ブロック



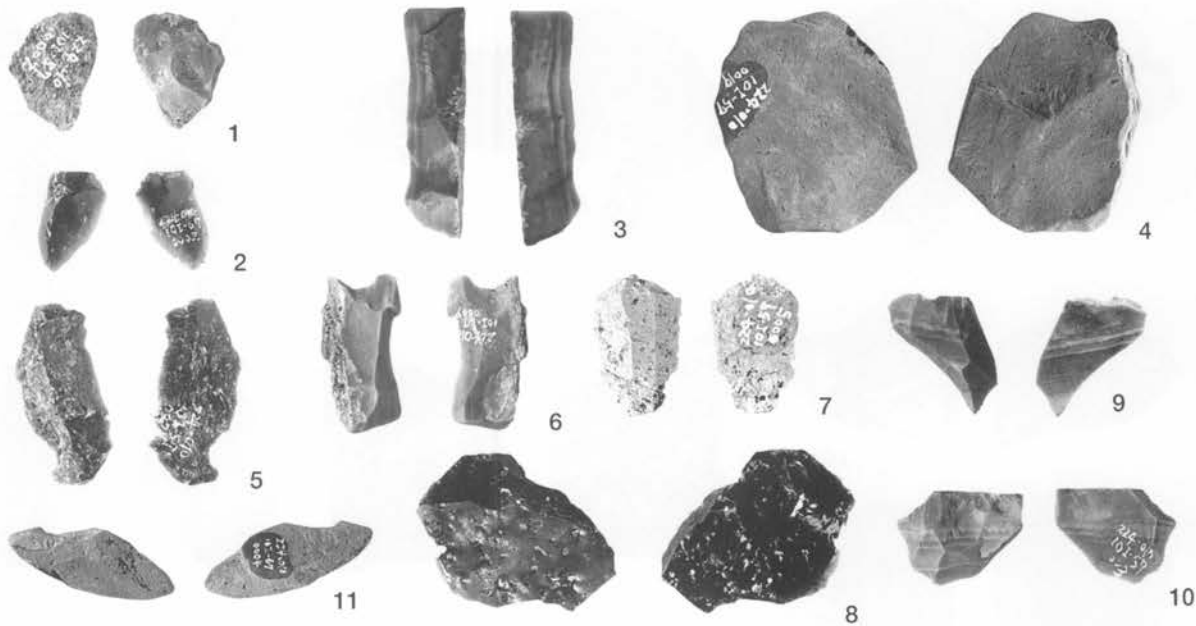
1

2

3

4

第7ブロック



1

2

5

11

3

6

7

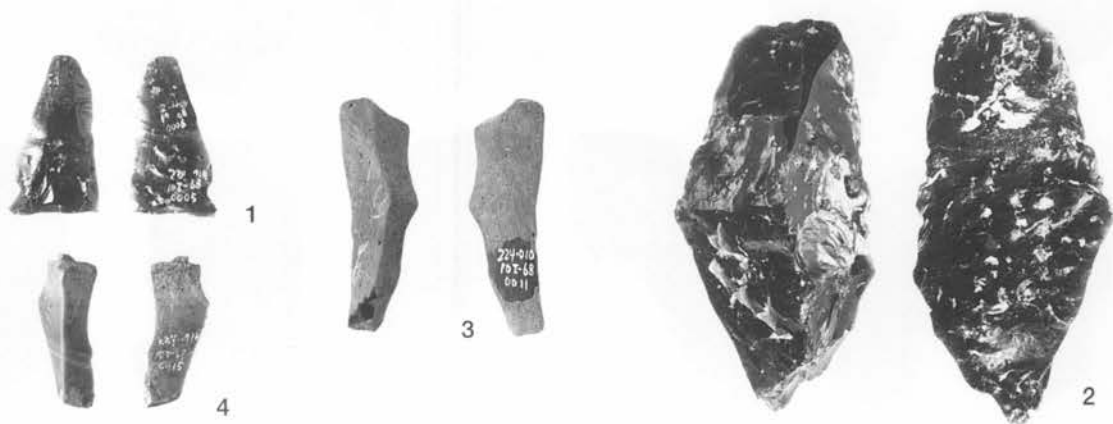
8

4

9

10

第8ブロック

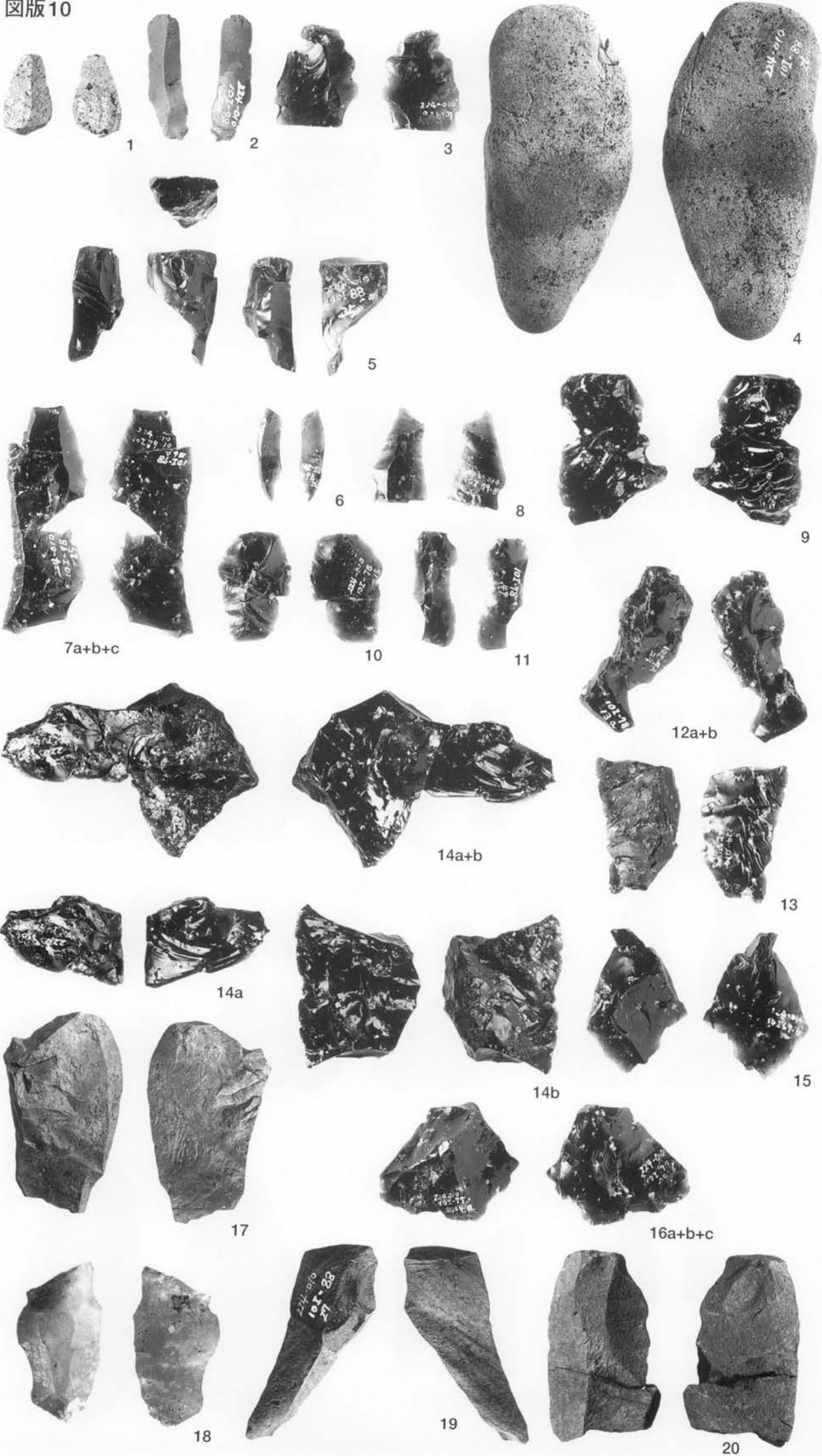


1

3

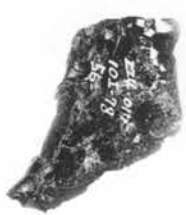
2

4





21a~al



21a

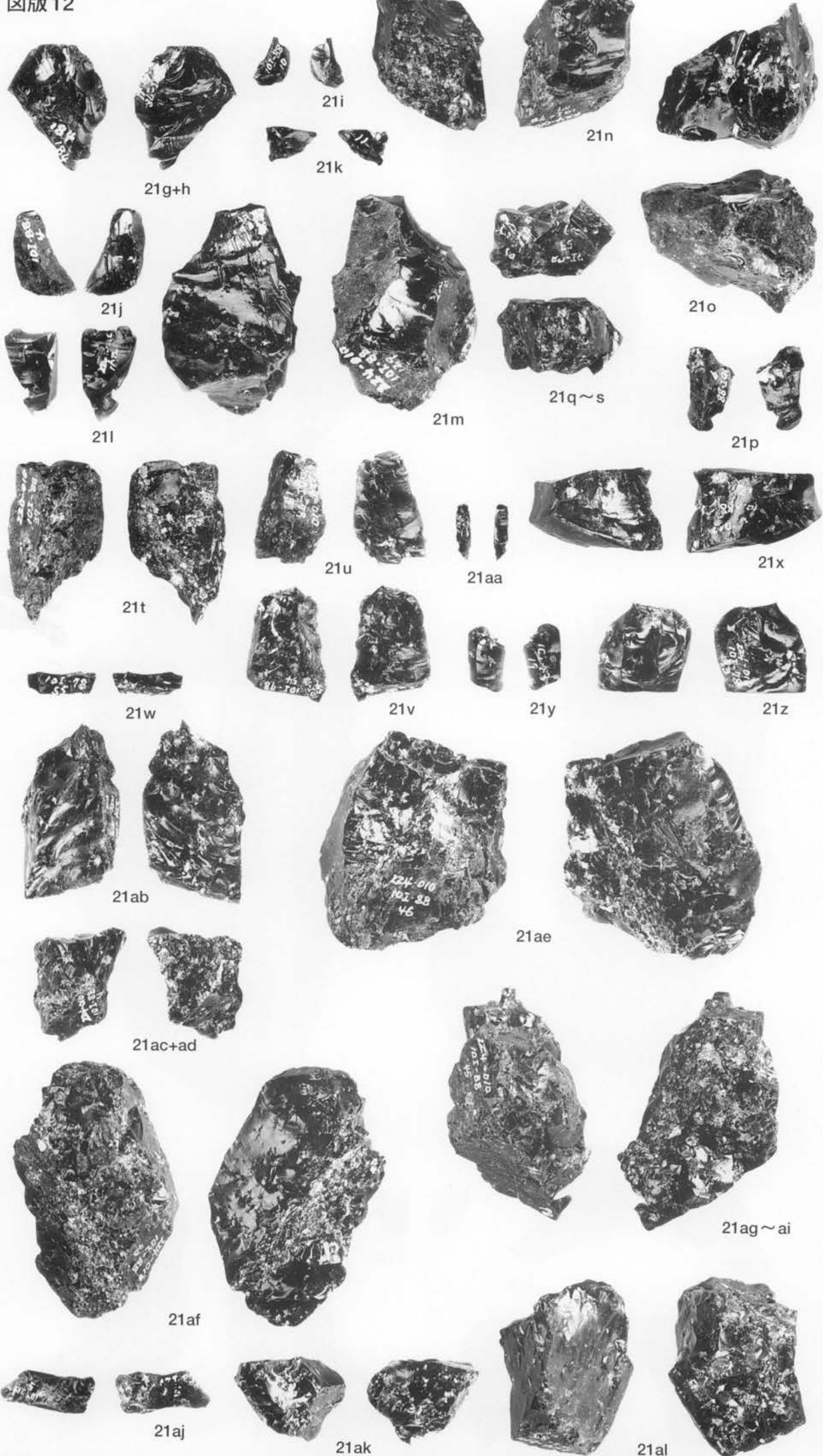
21b



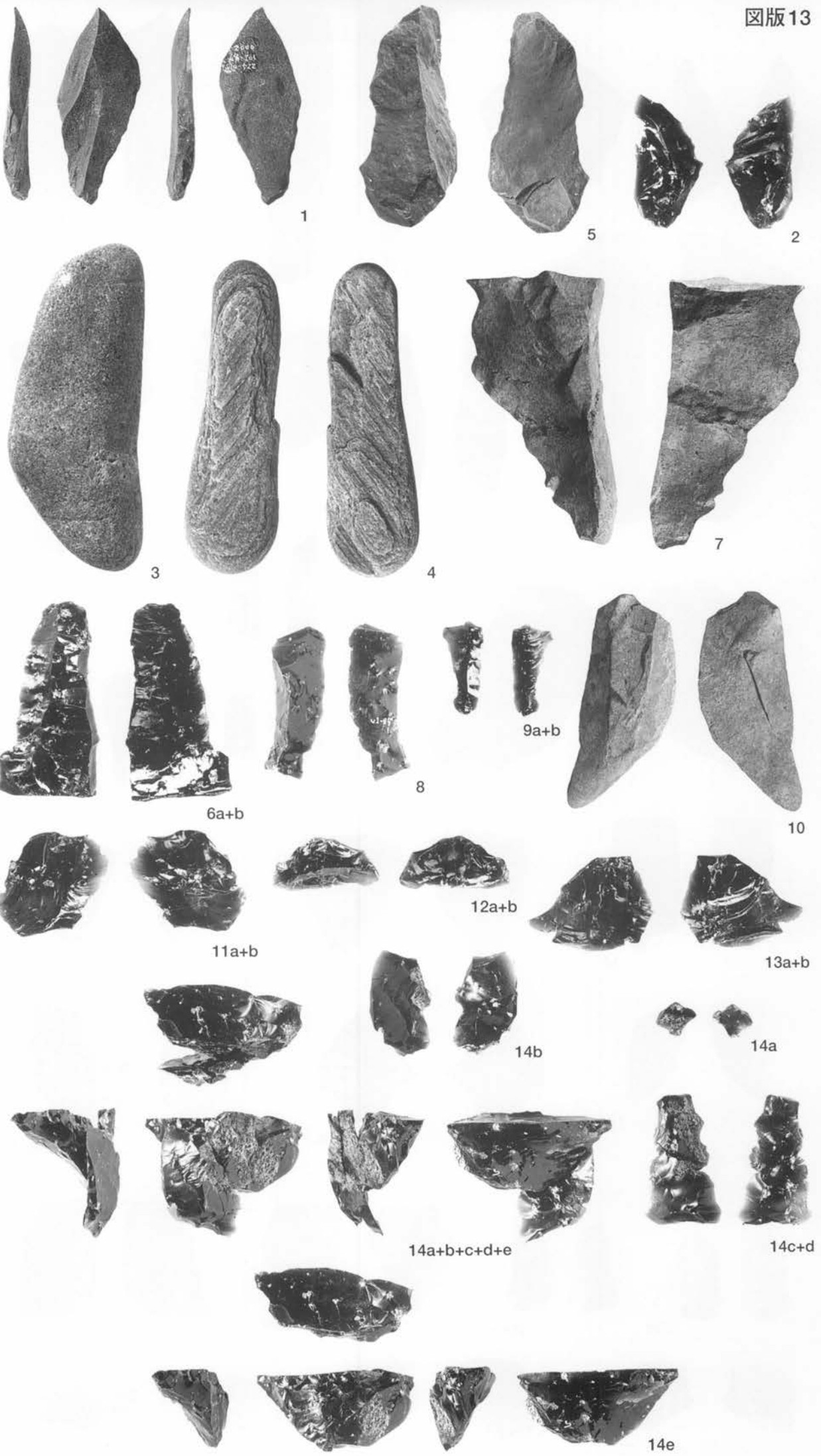
21c+d



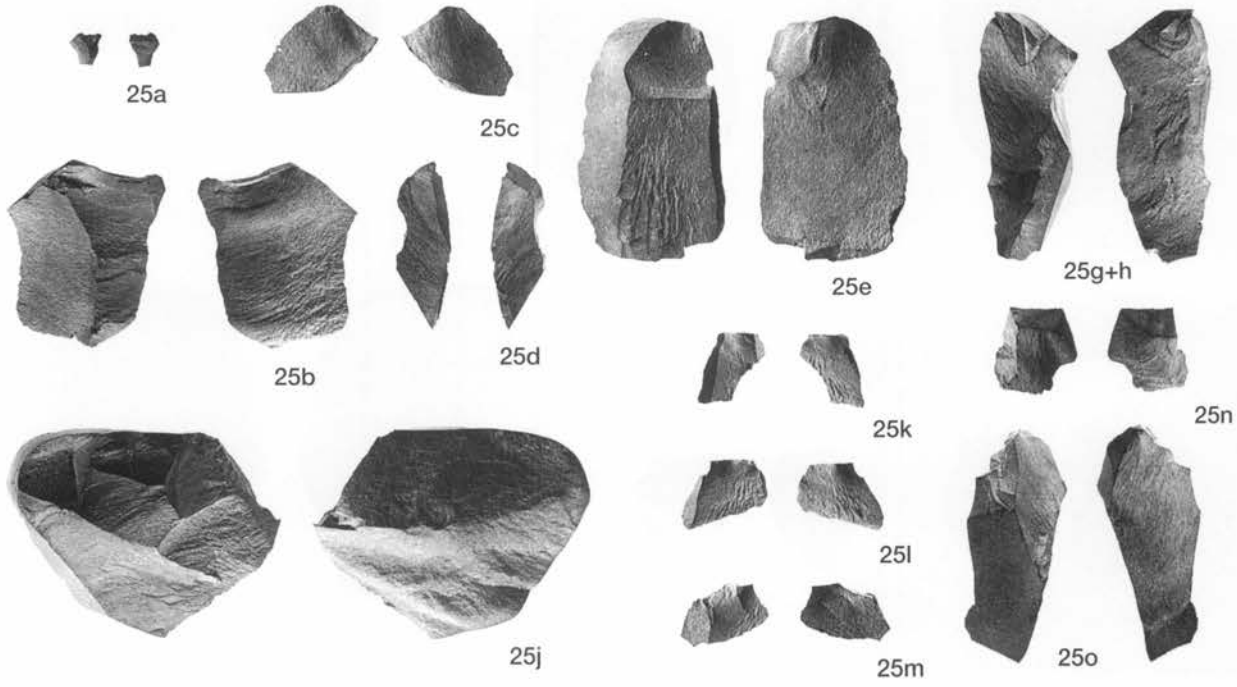
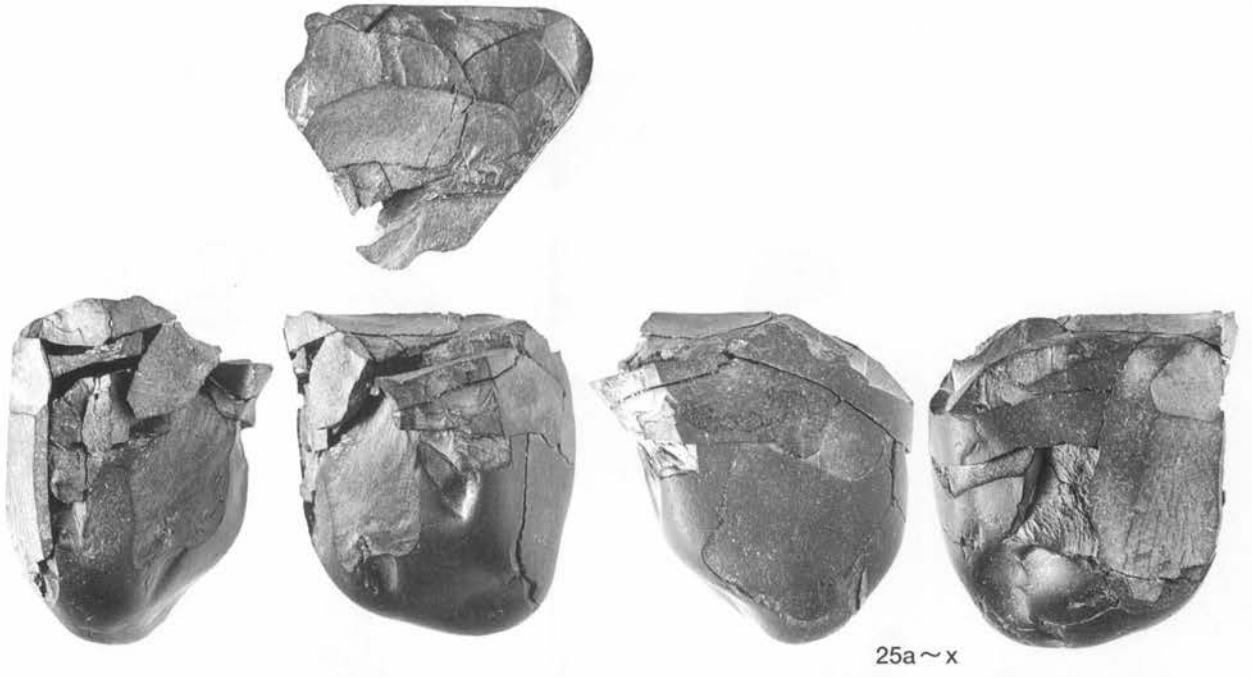
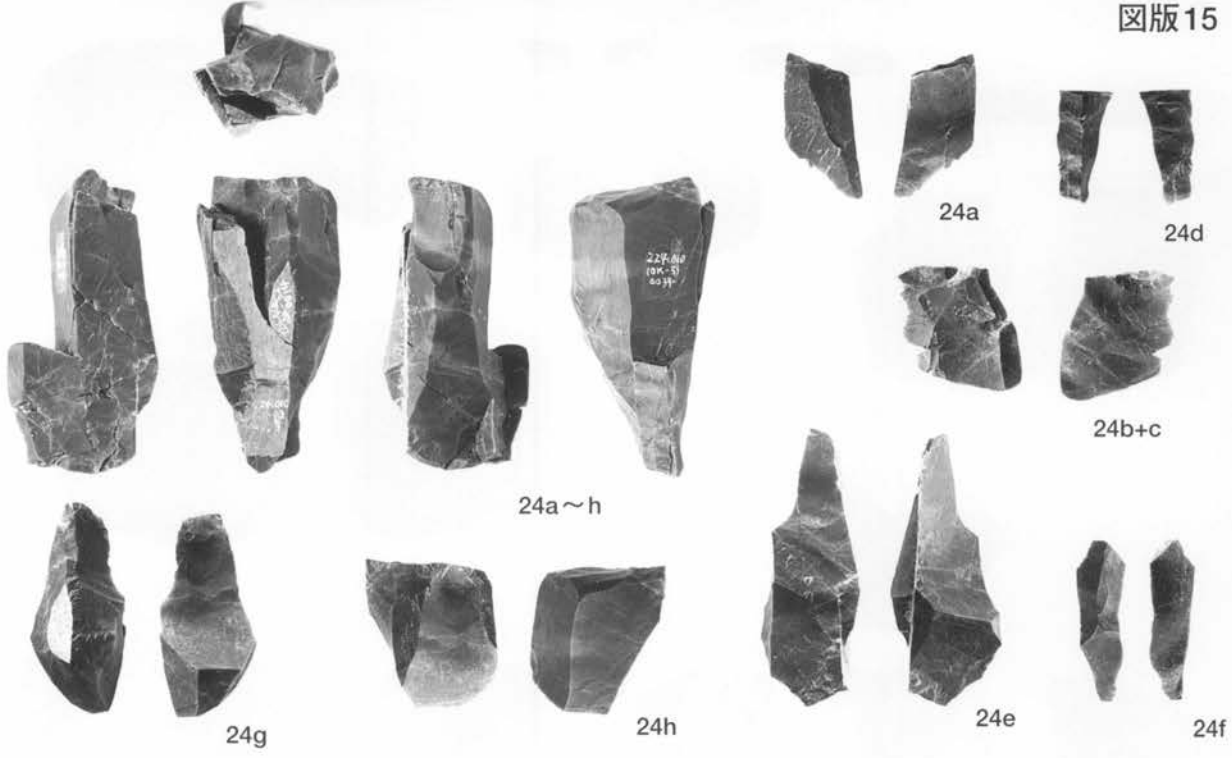
21e+f



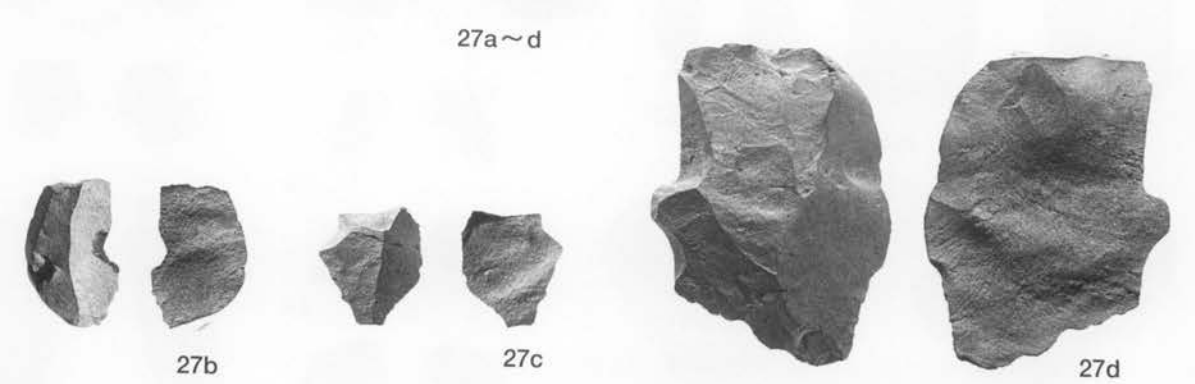
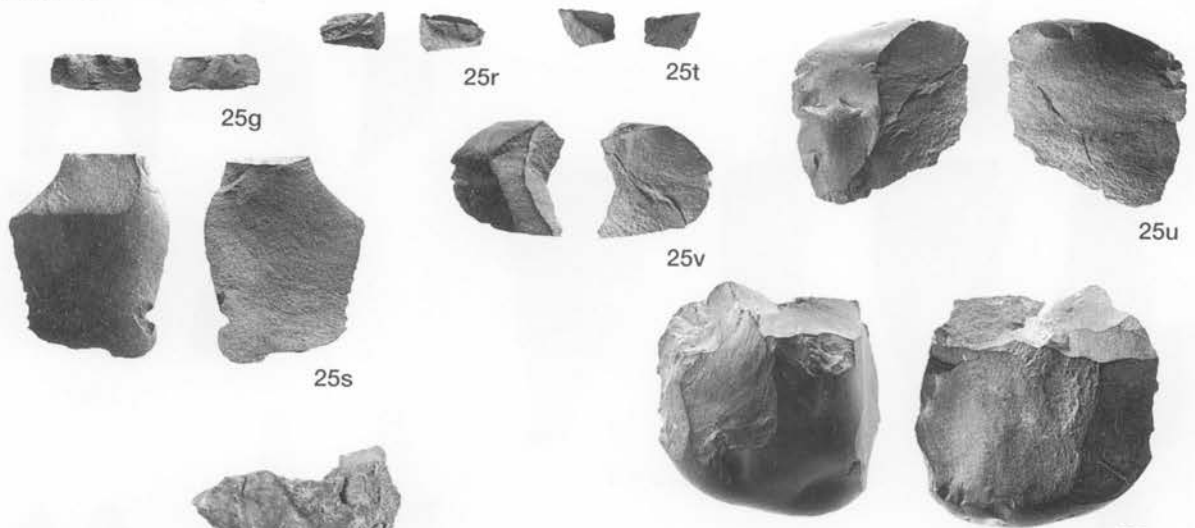


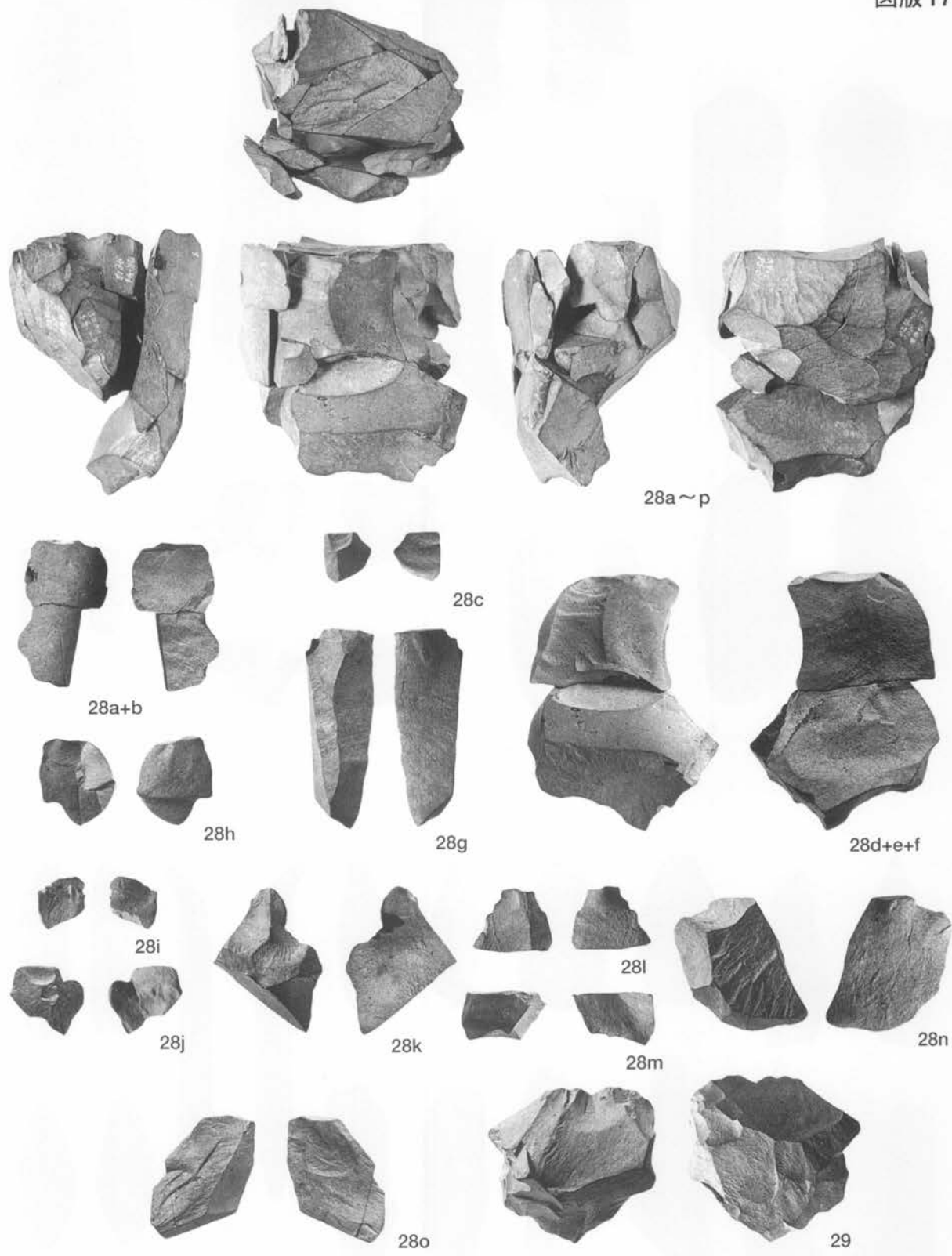




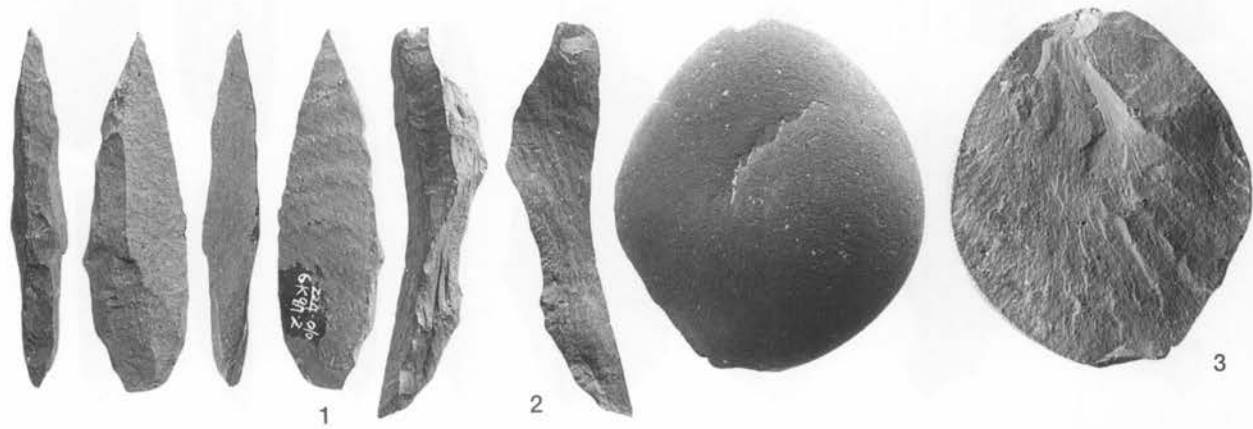




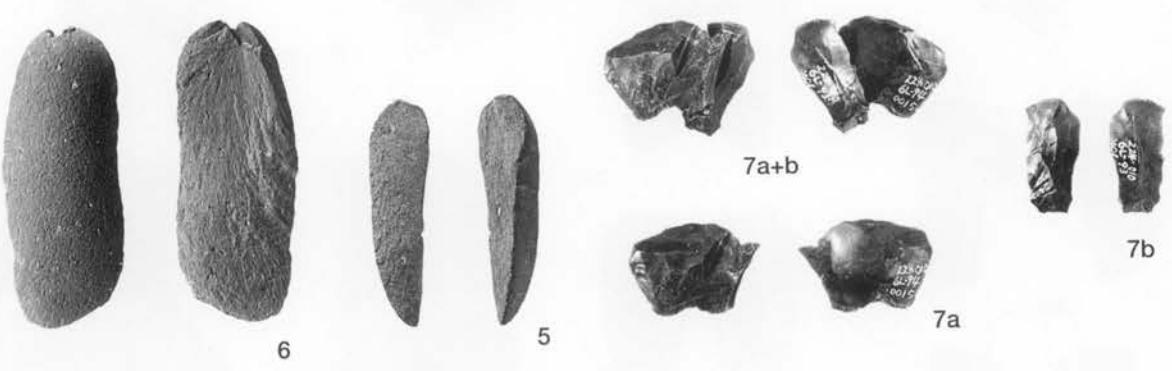
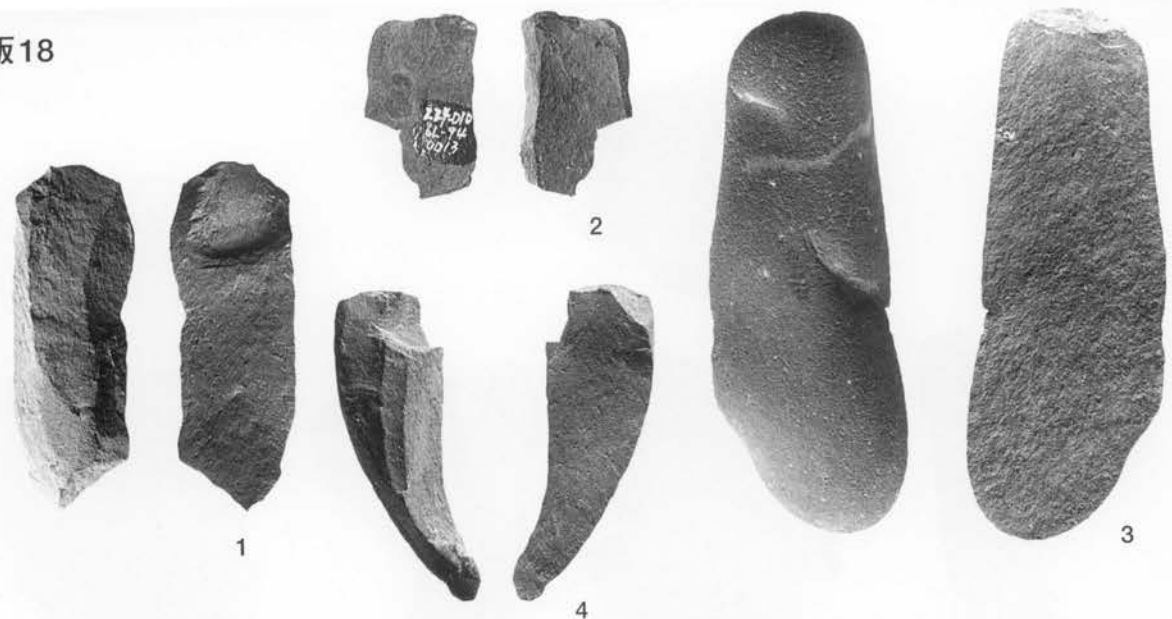




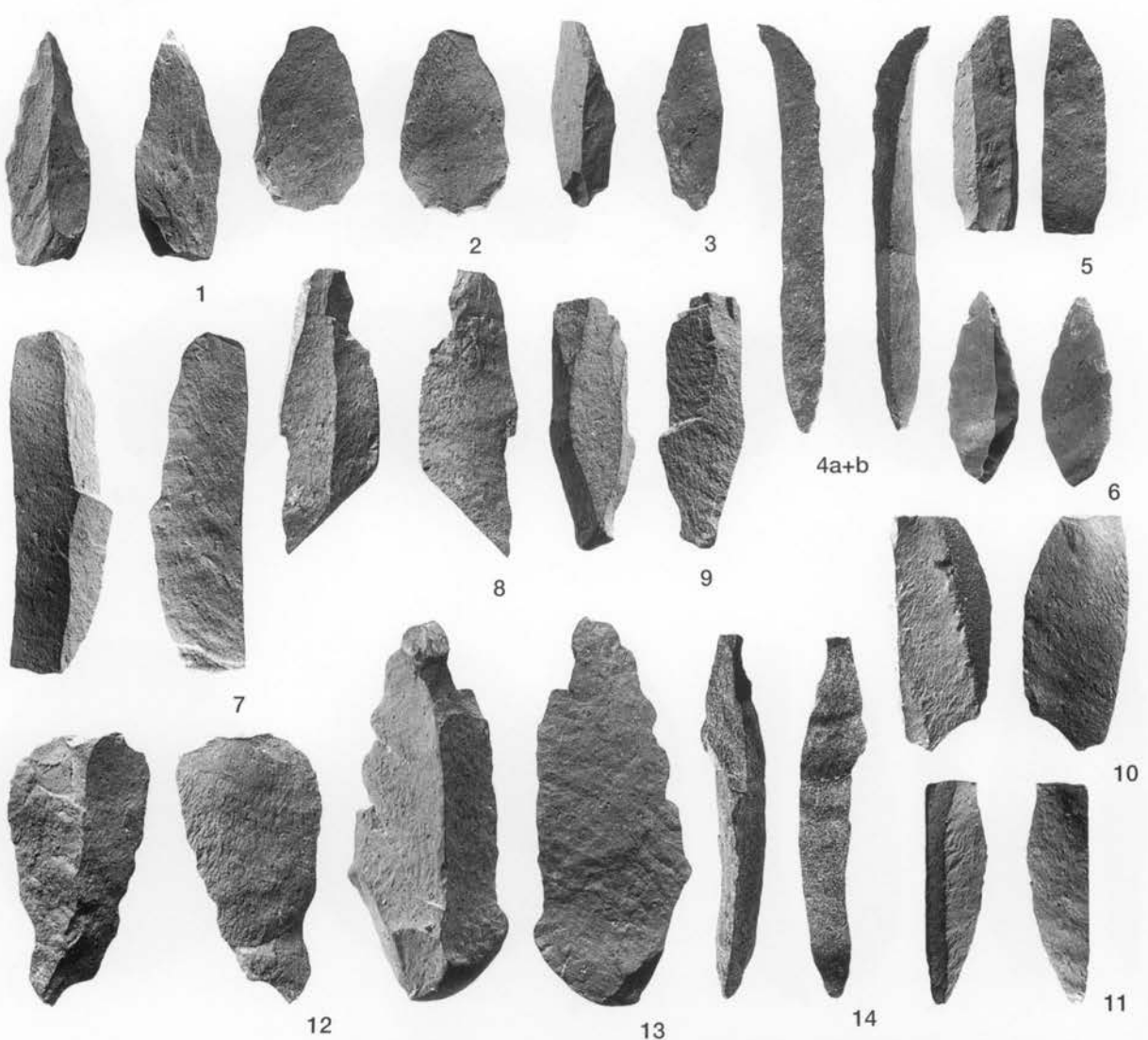
第16ブロック 4



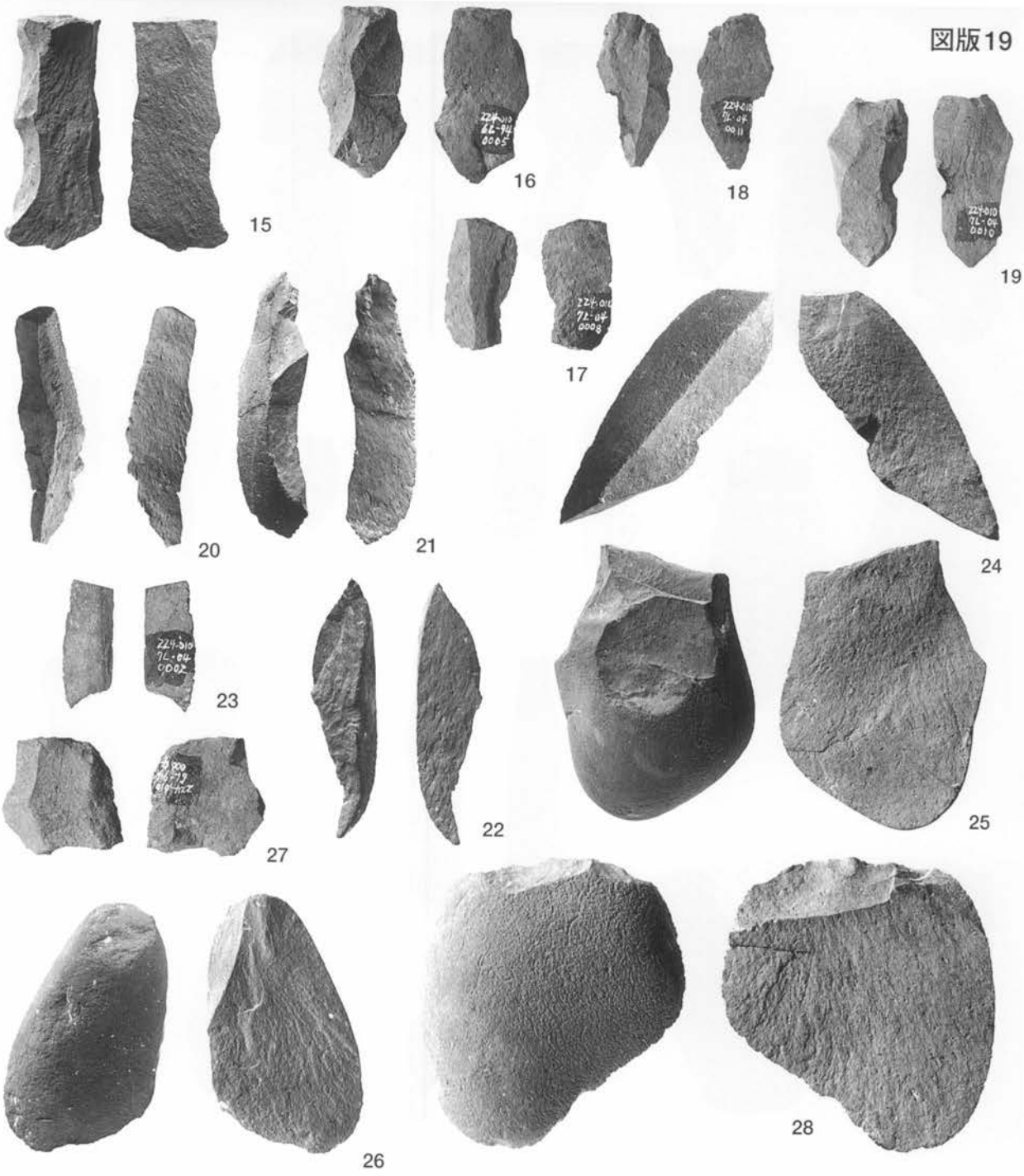
第17ブロック



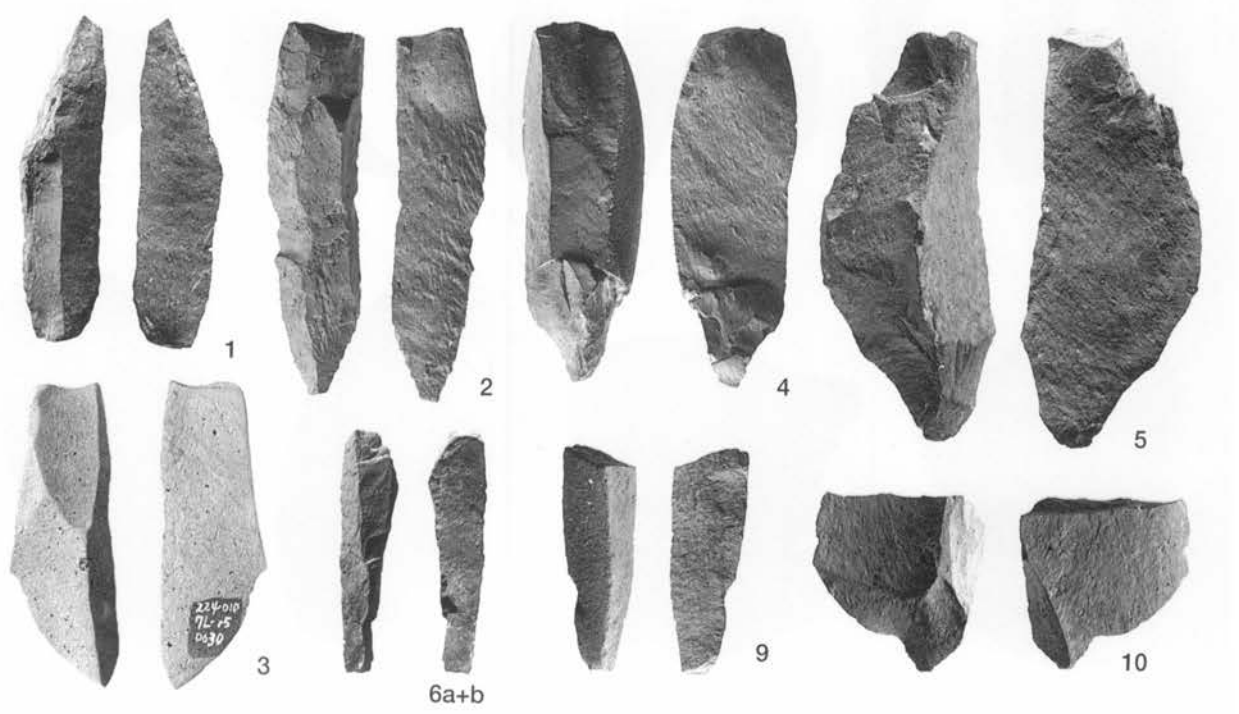
第18ブロック



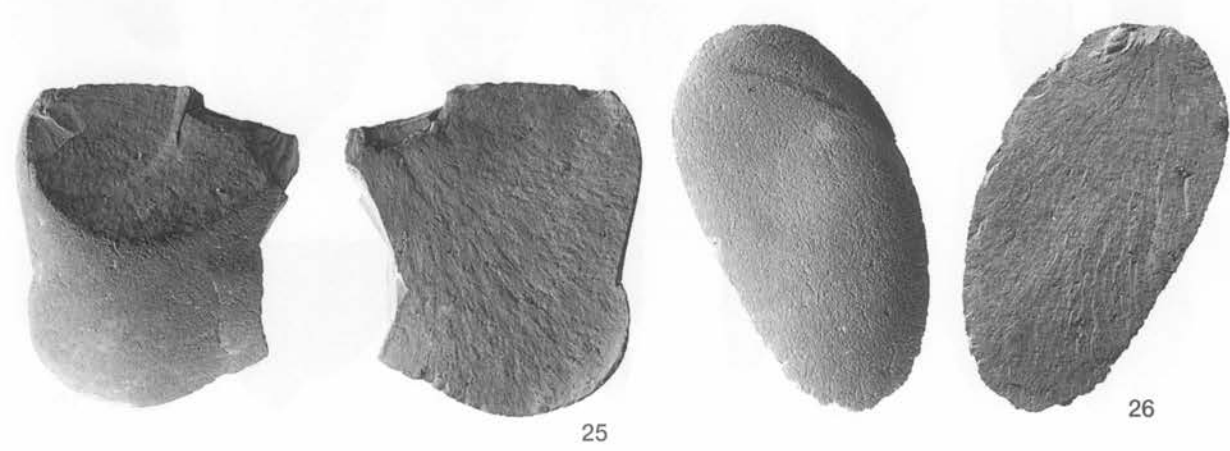
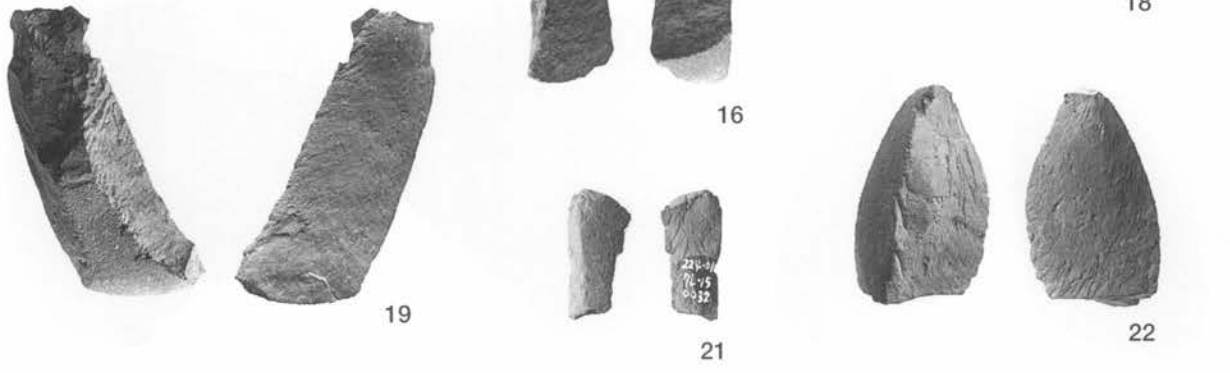
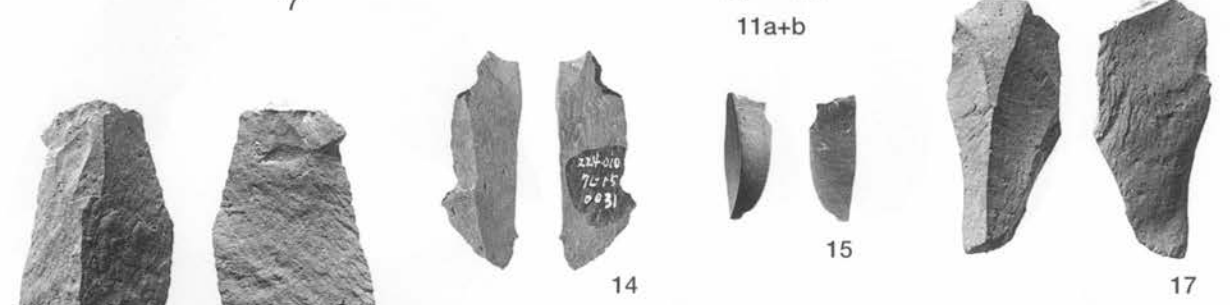
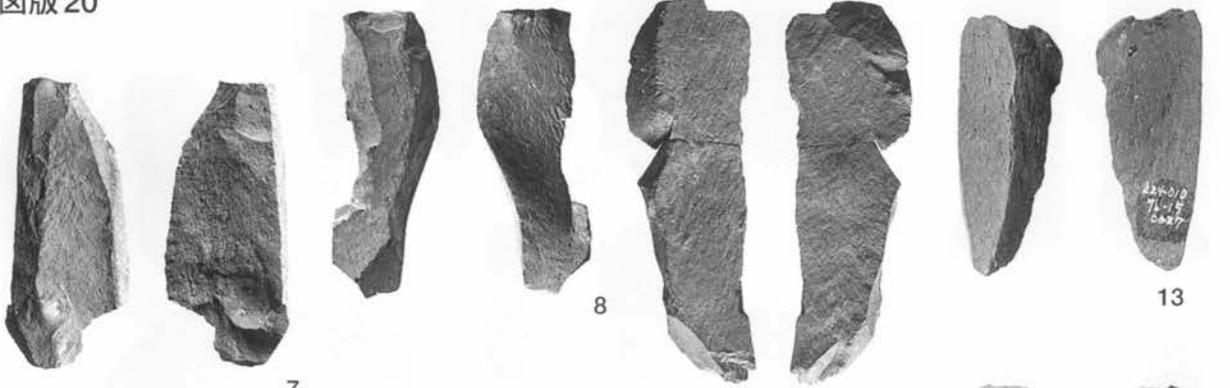
第19ブロック 1



第19ブロック 2



第20ブロック 1







27



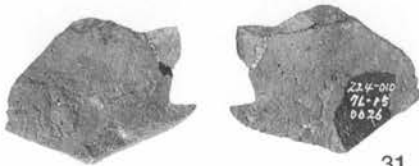
28



29



30



31



32



33



34



35

第20ブロック 3



1

2

3

4

5b



5a+b

5a

6

7a+b+c



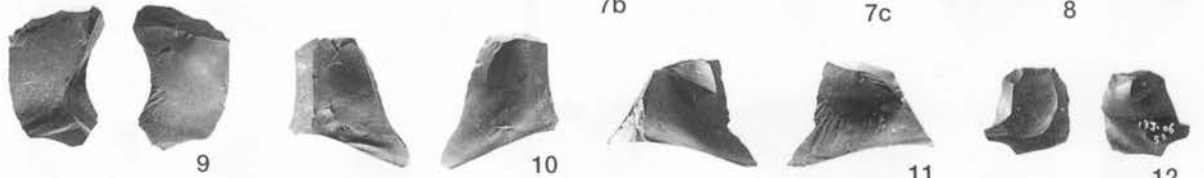
7a

7b

7c

8

13



9

10

11

12

第21ブロック



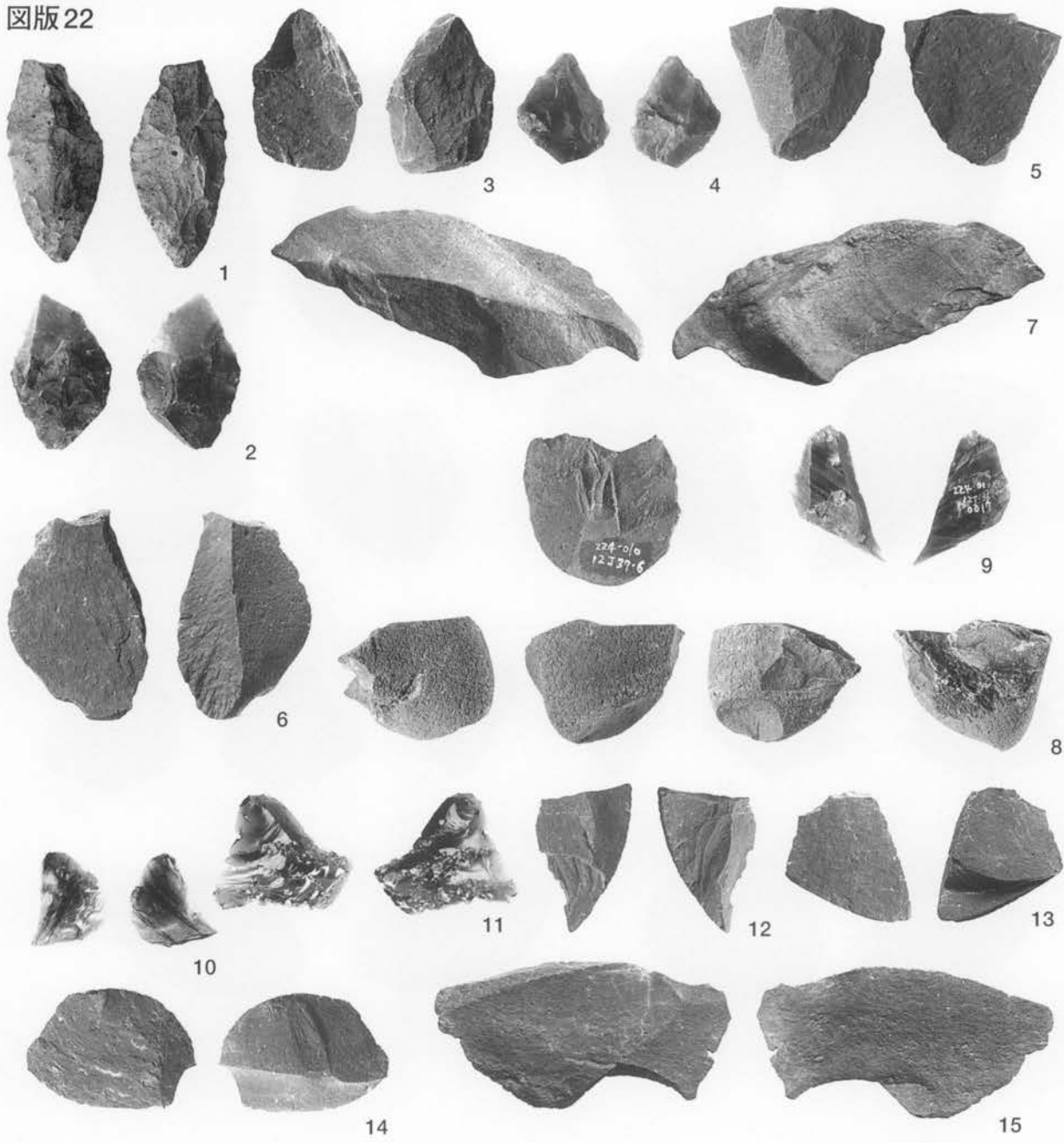
14

15

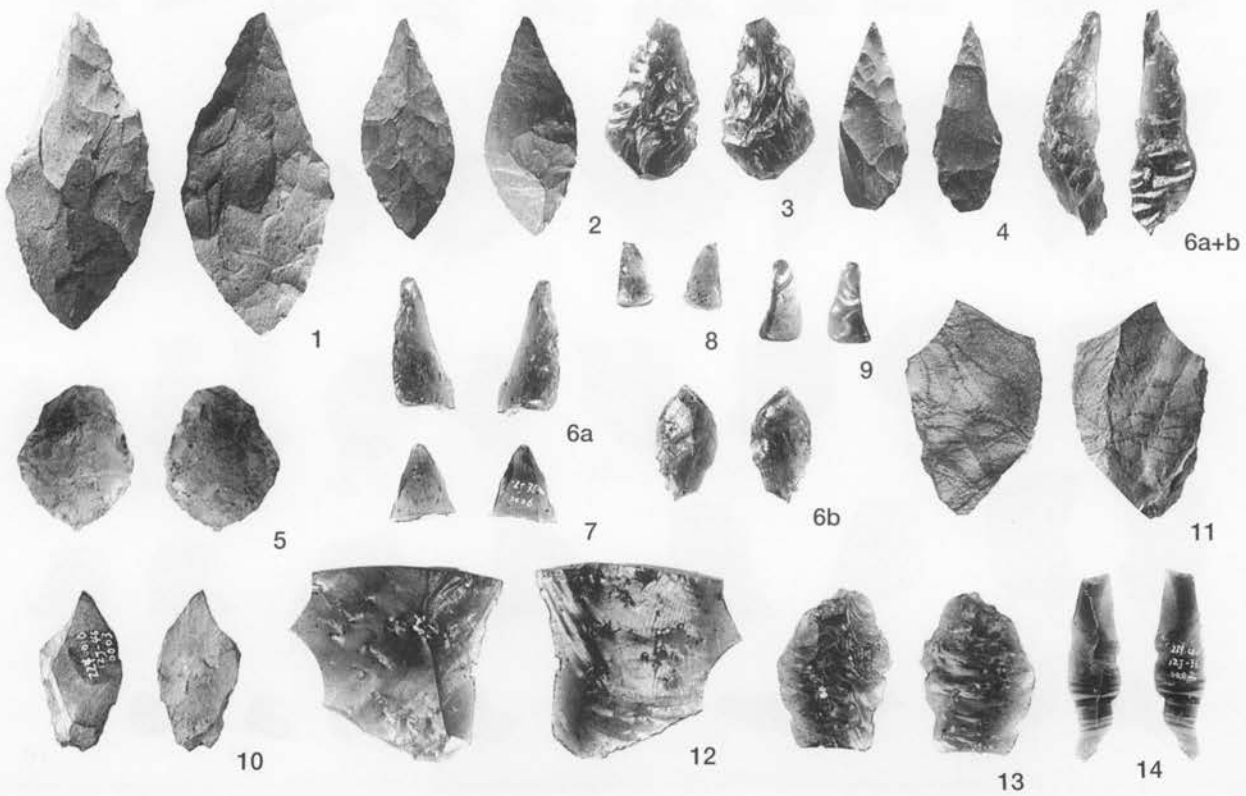
16

18

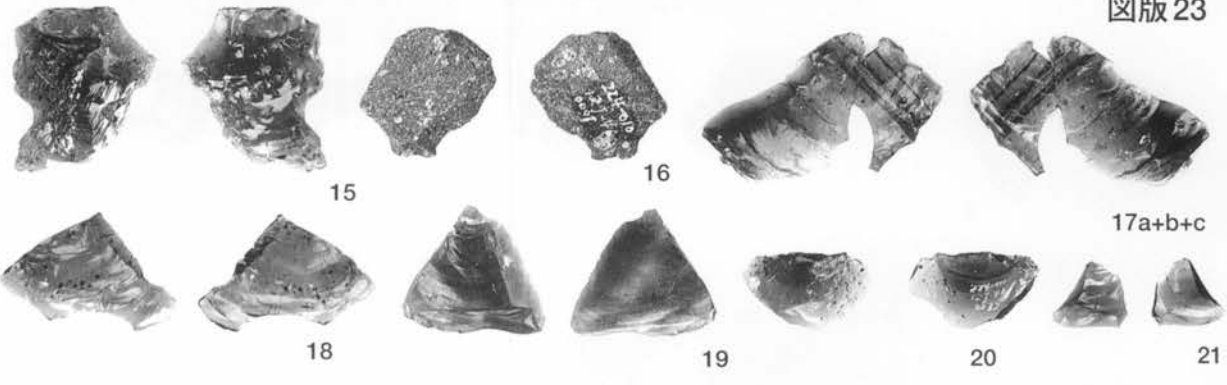
19



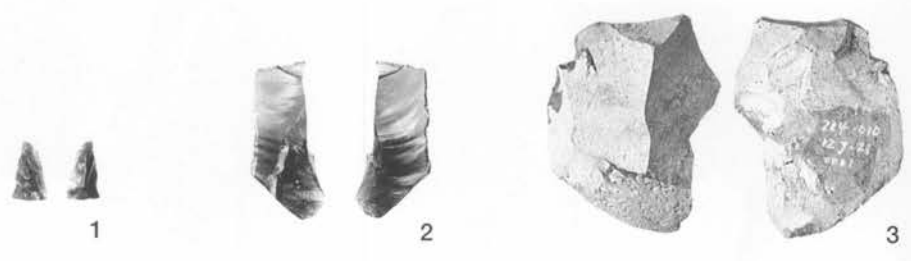
第22ブロック



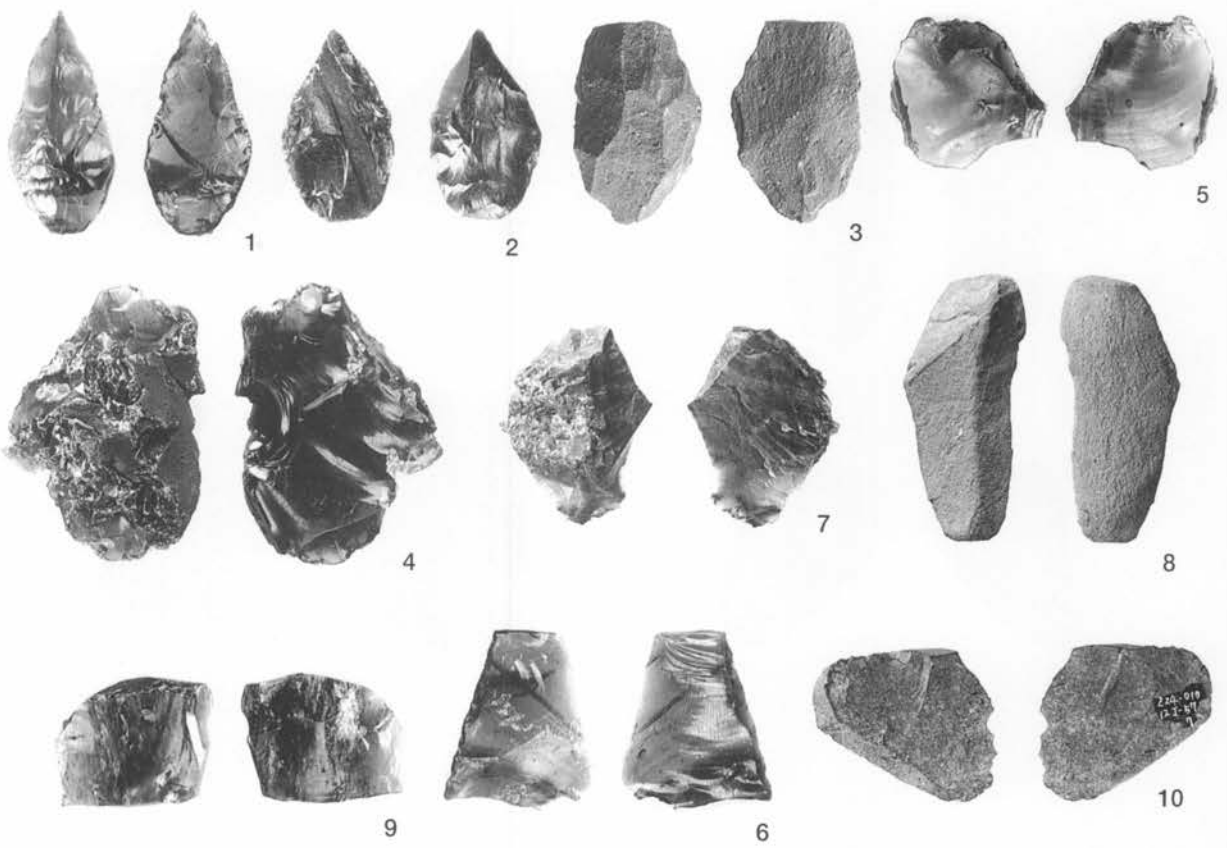
第23ブロック 1



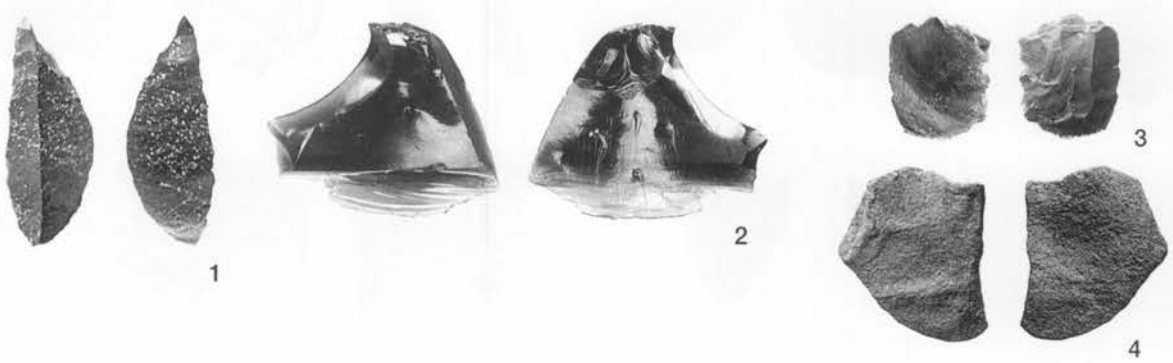
第23ブロック 2



第24ブロック

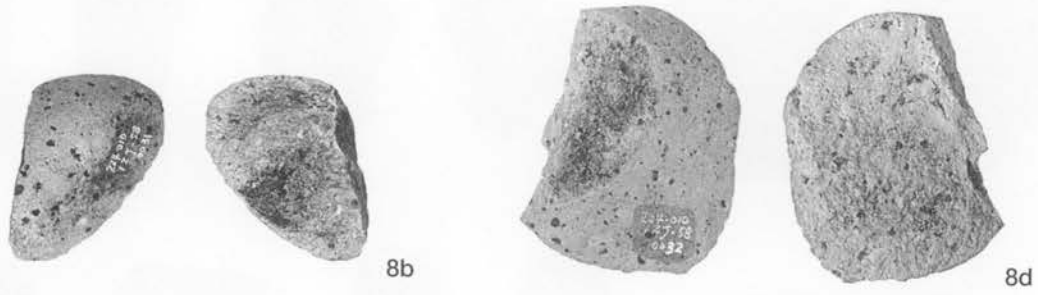


第25ブロック

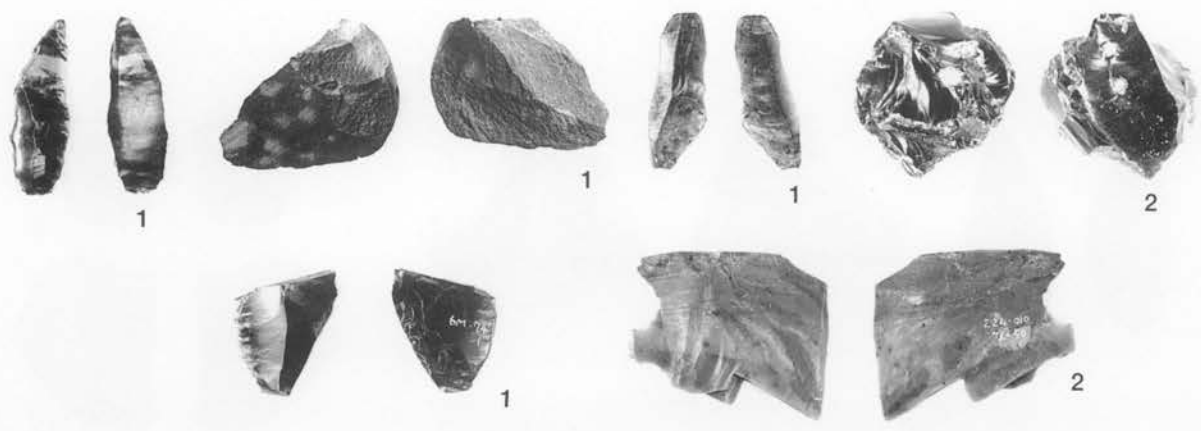


第26ブロック 1

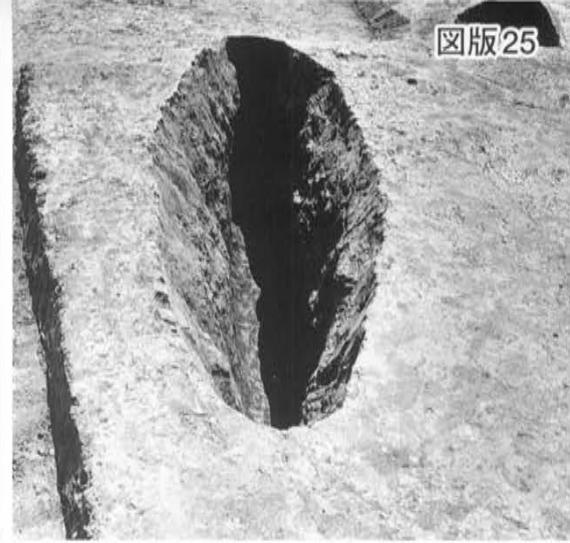




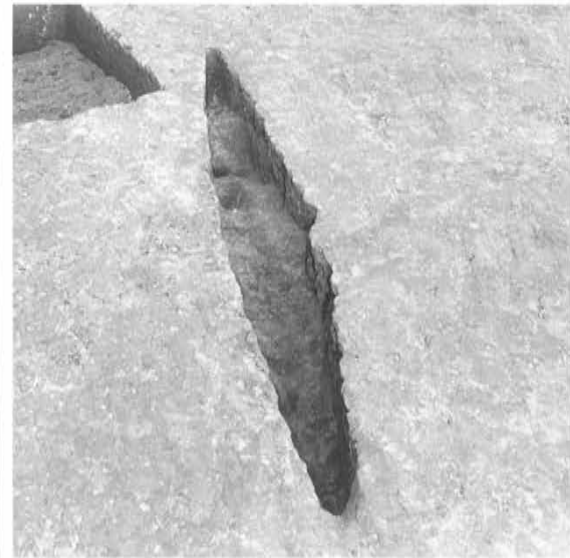
第26ブロック2



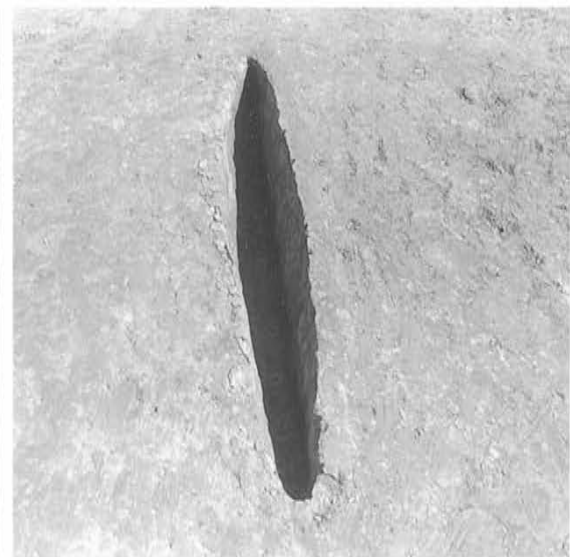
単独出土



S K 001 ; 左  
S K 007 ; 右



S K 003 ; 左  
S K 011 ; 右



S K 006 ; 左  
S K 012 ; 右



S K 014 ・ 015 南東から  
S K 014 ・ 015 西から



S K 014 ; 左  
S K 015 ; 右



S K 031 ; 左  
S K 032出土状况 ; 右



S K 032 ; 左  
S K 033 ; 右



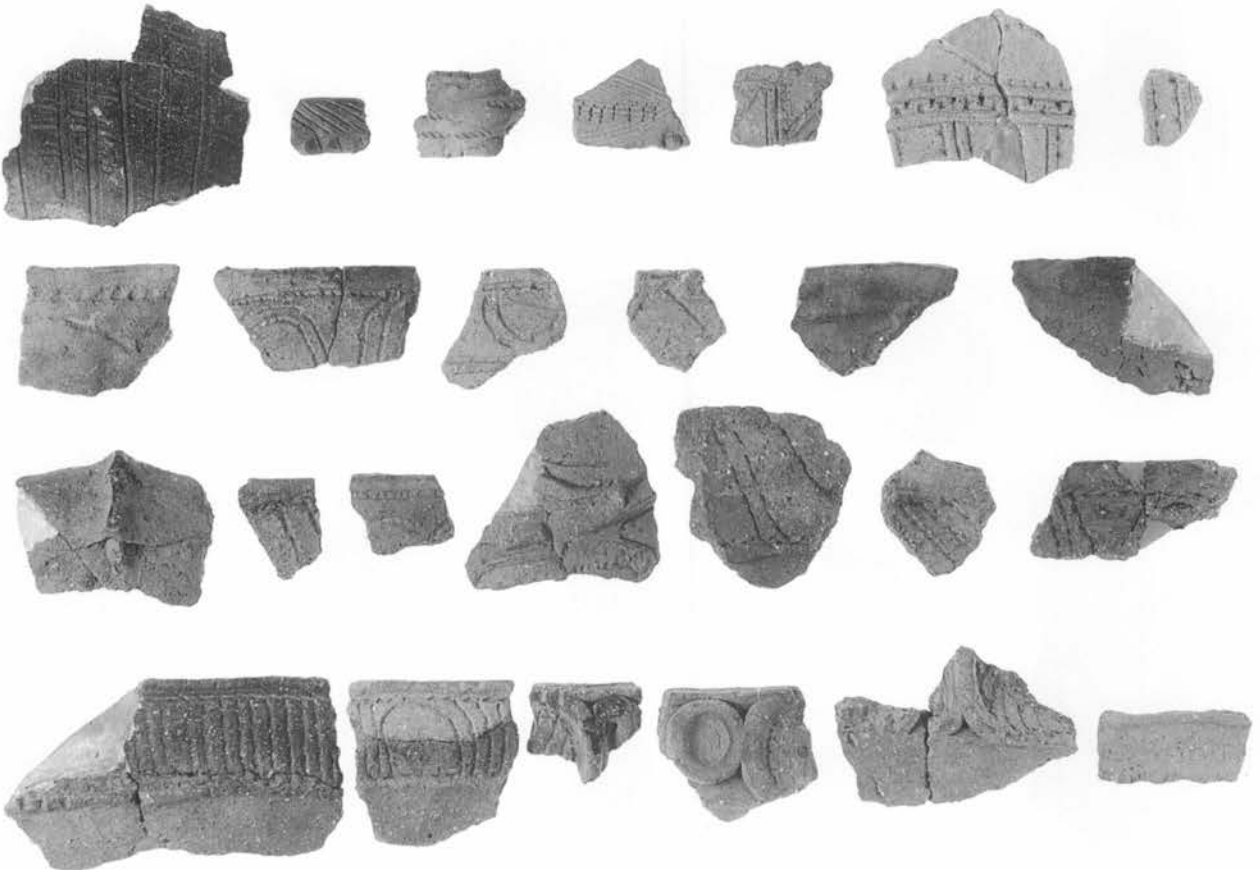
S K 034 ; 左  
S K 035 ; 右

SK31

SK32

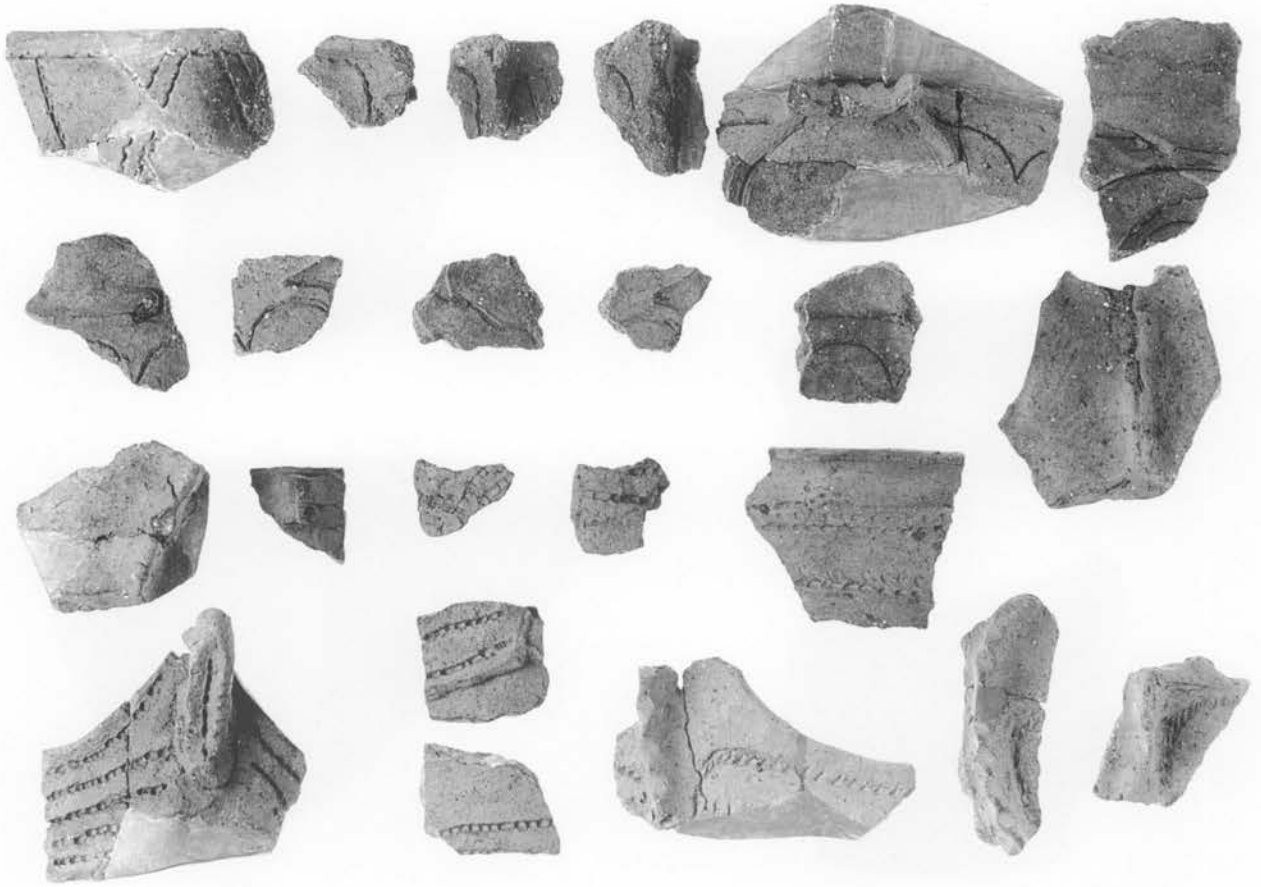


縄文土器 1

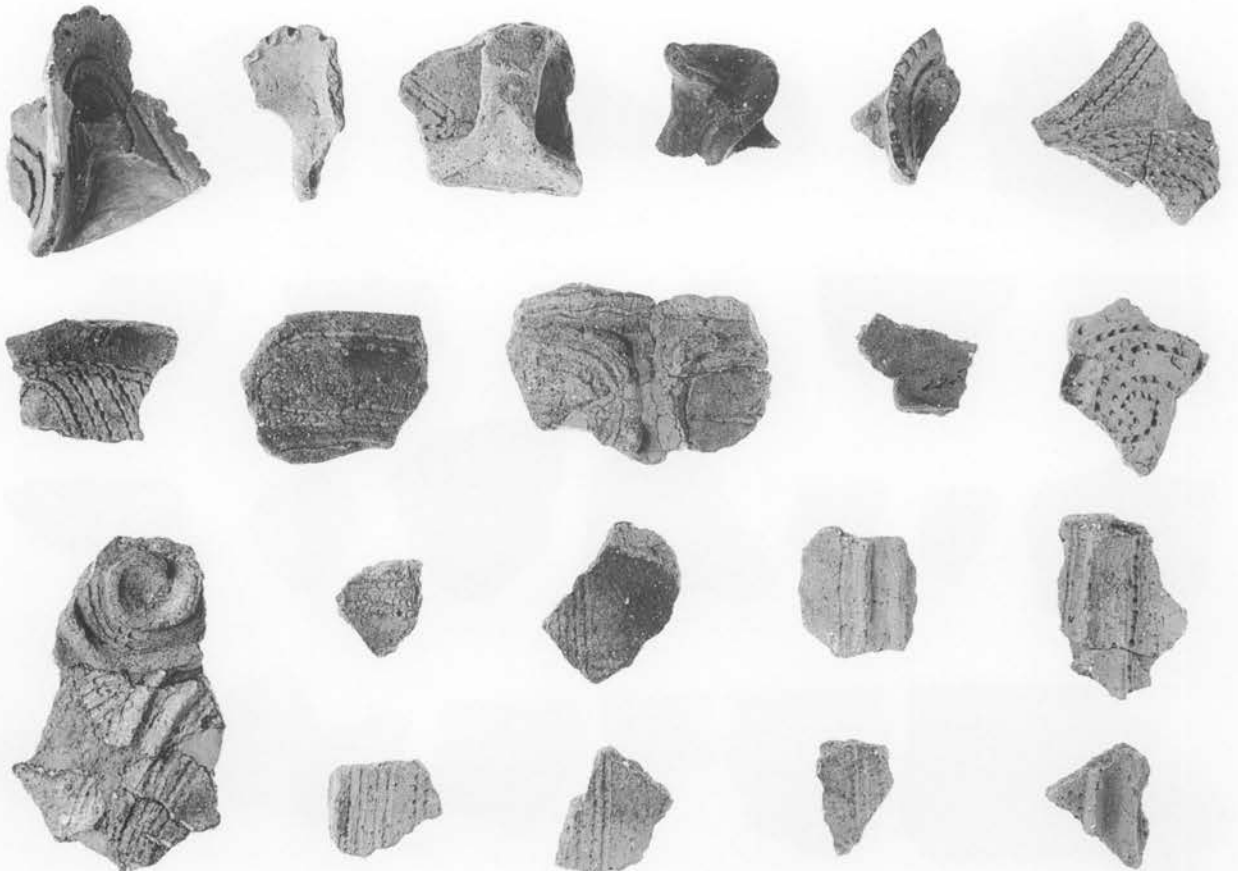


縄文土器 2

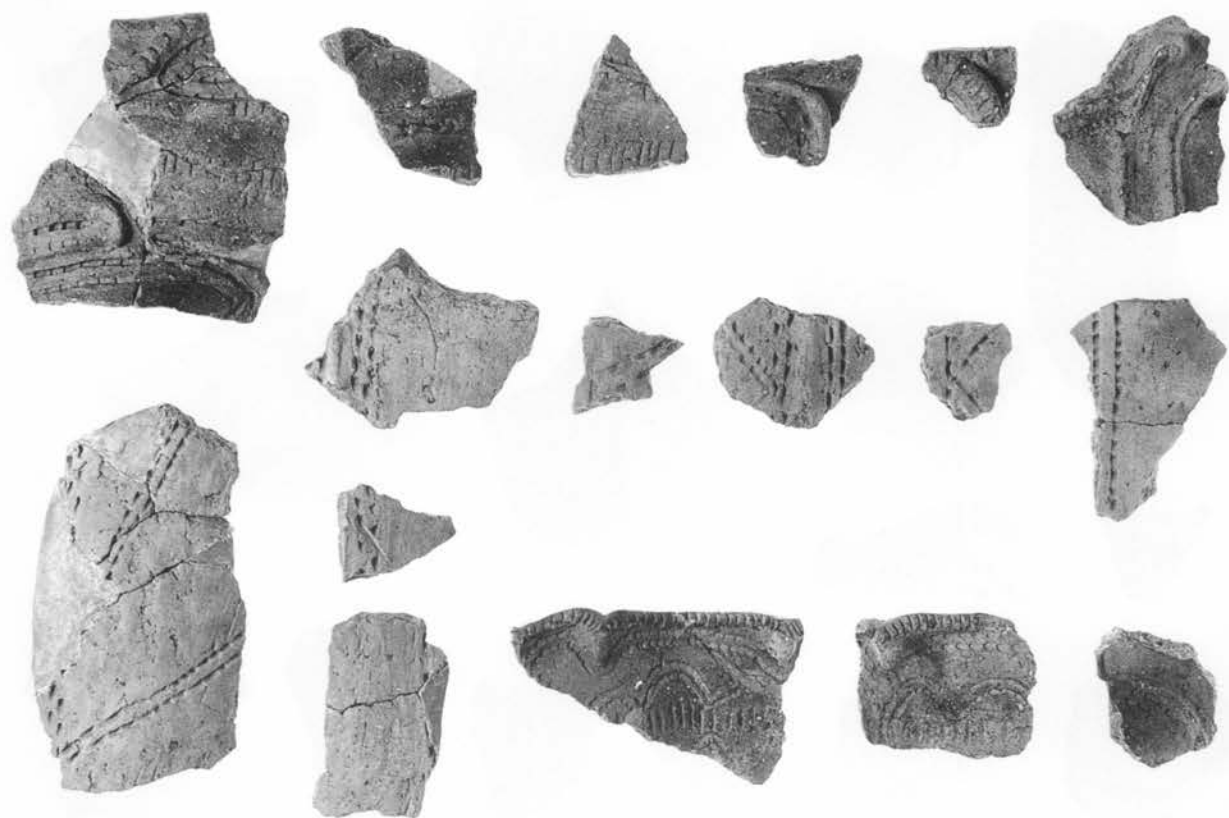




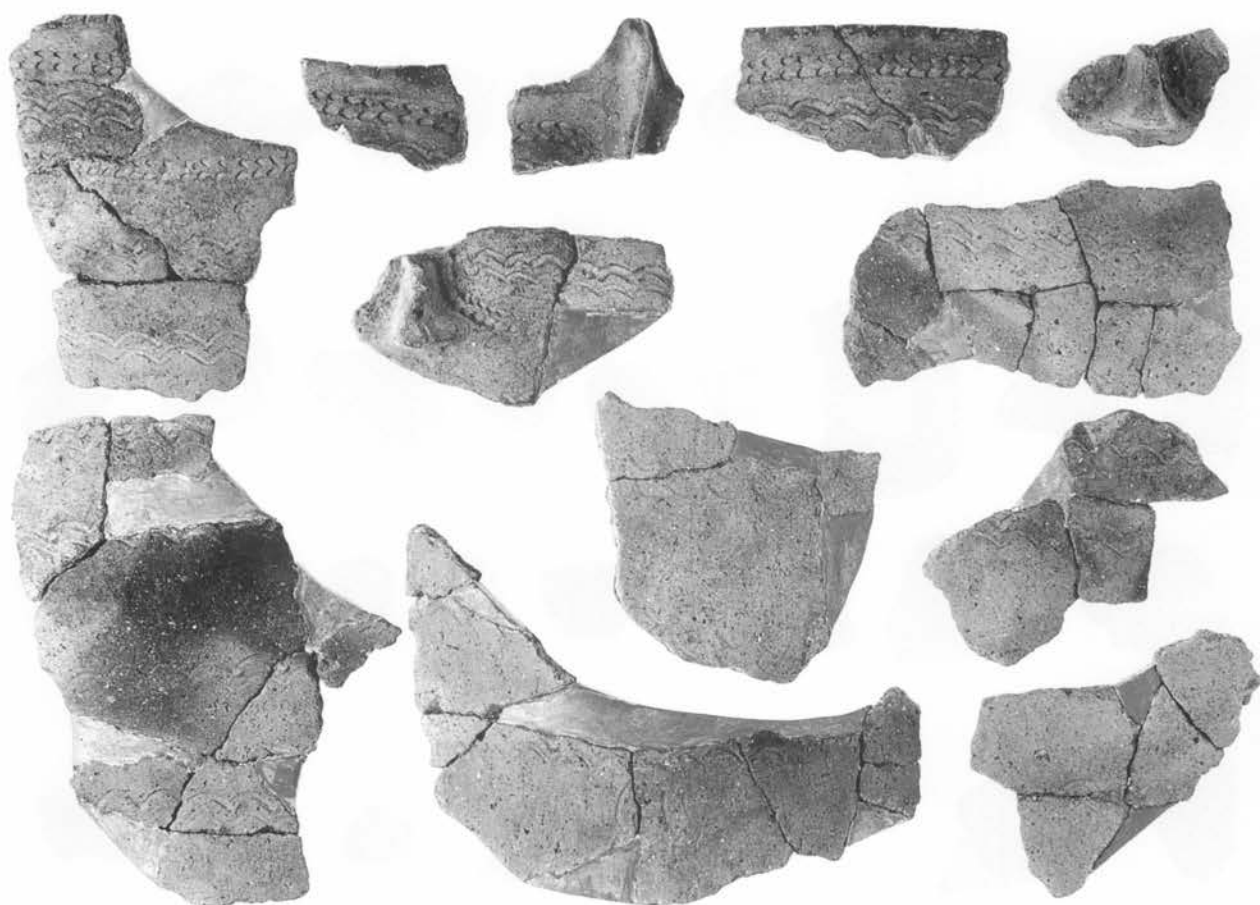
縄文土器 3



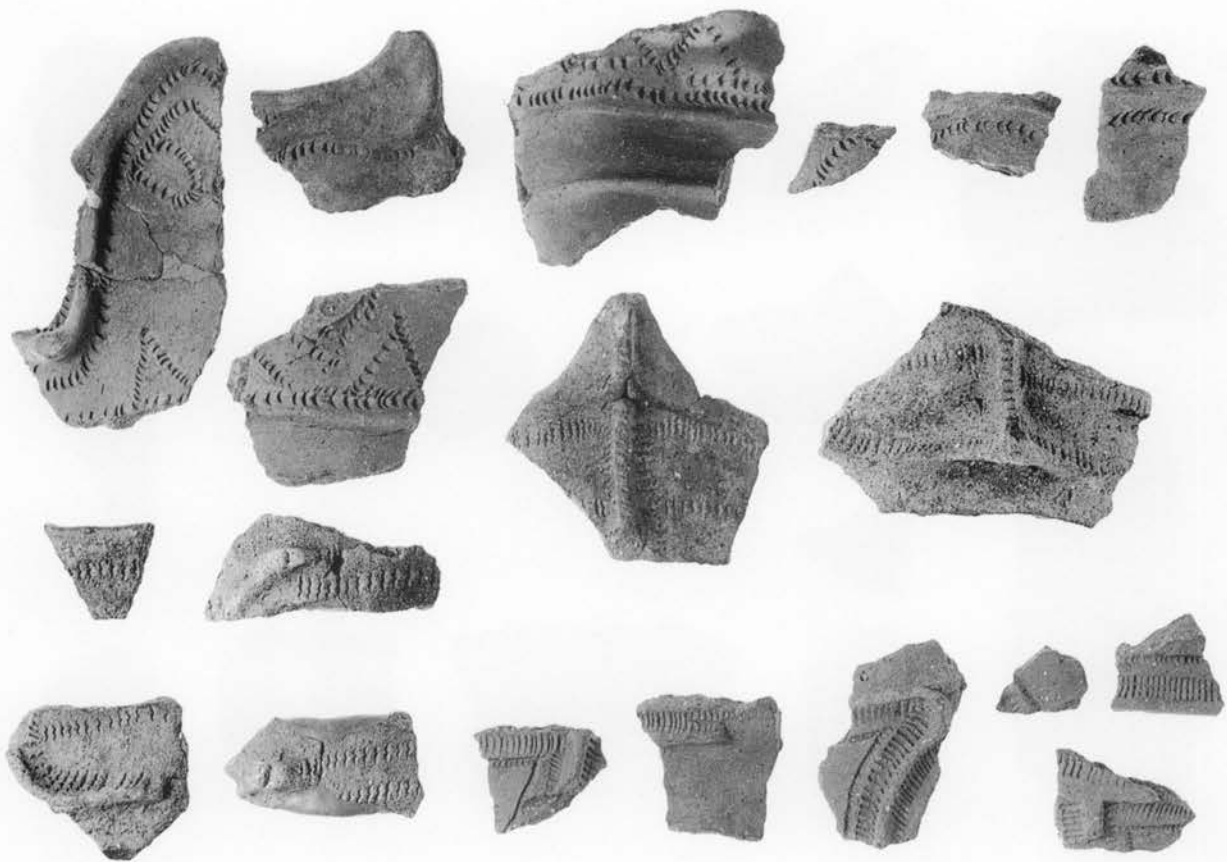
縄文土器 4



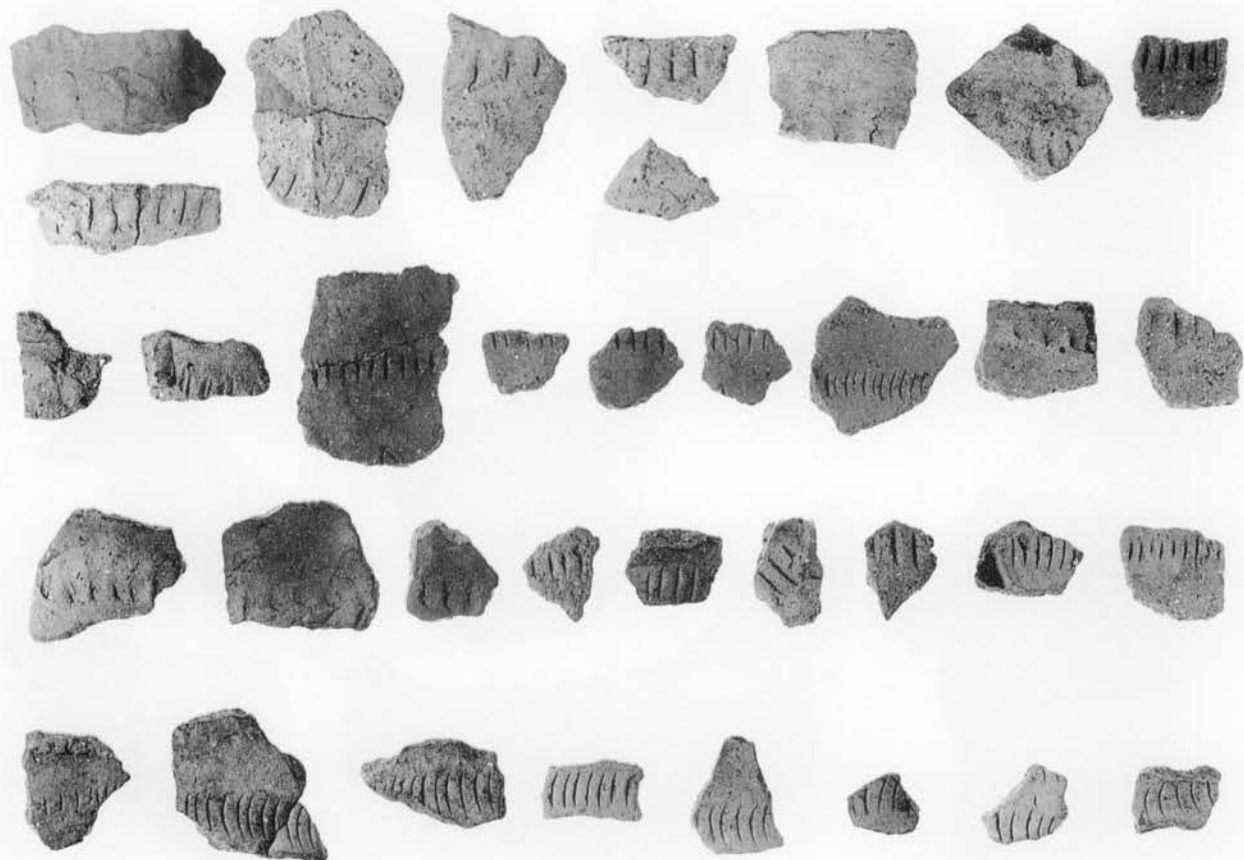
縄文土器 5



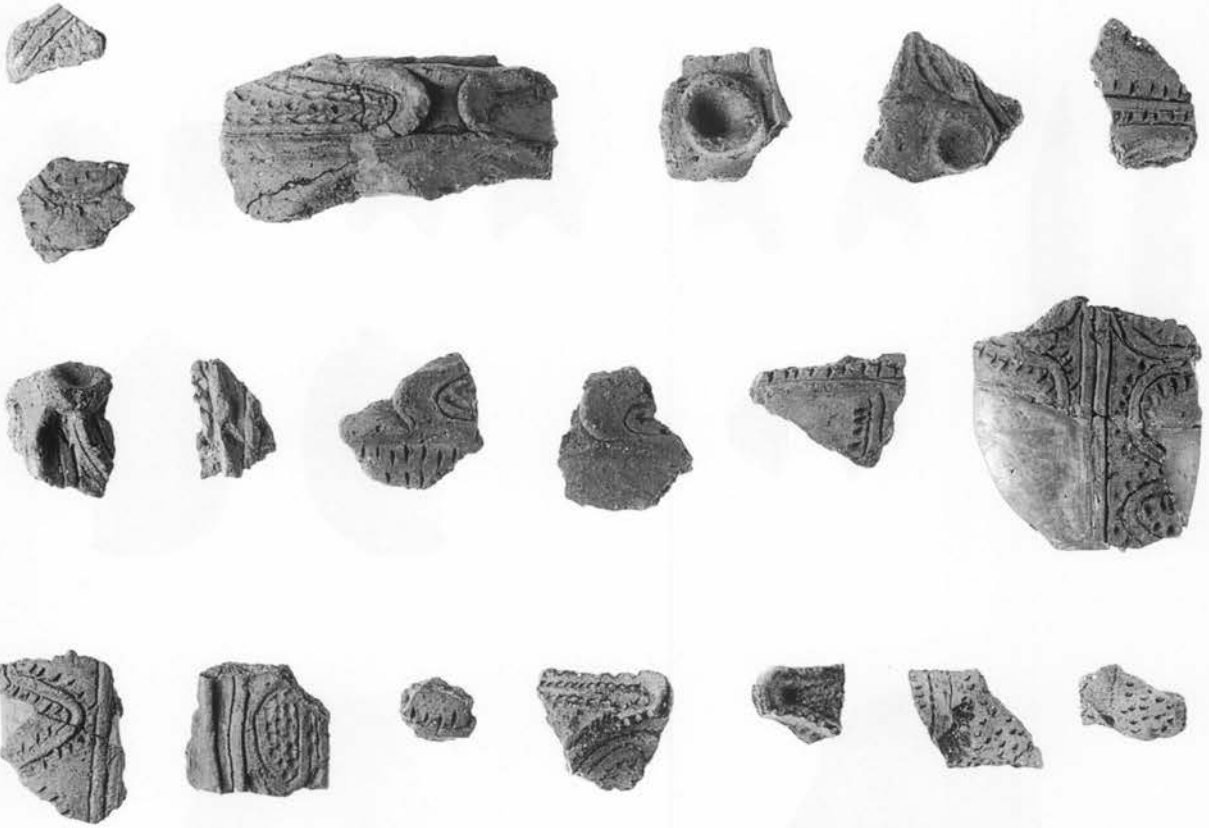
縄文土器 6



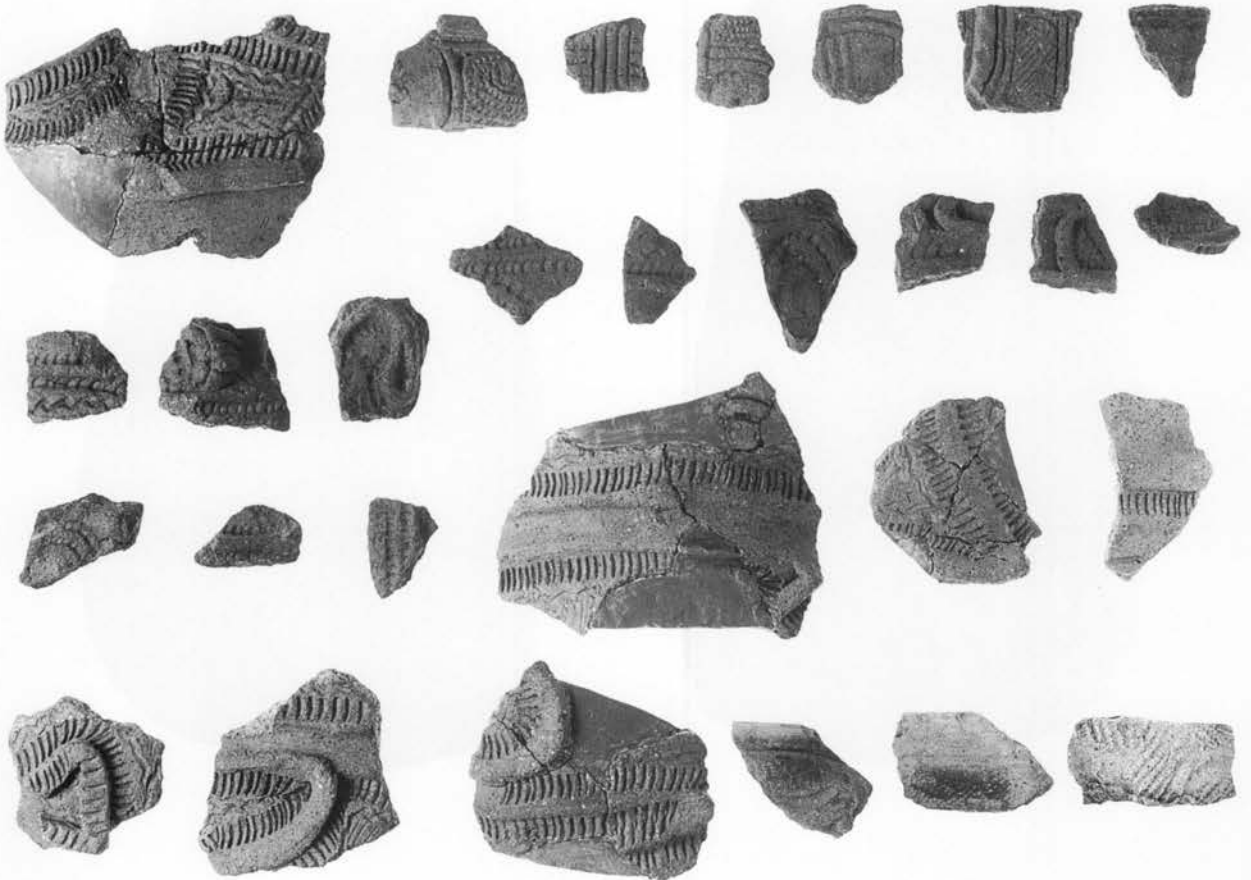
縄文土器 7



縄文土器 8

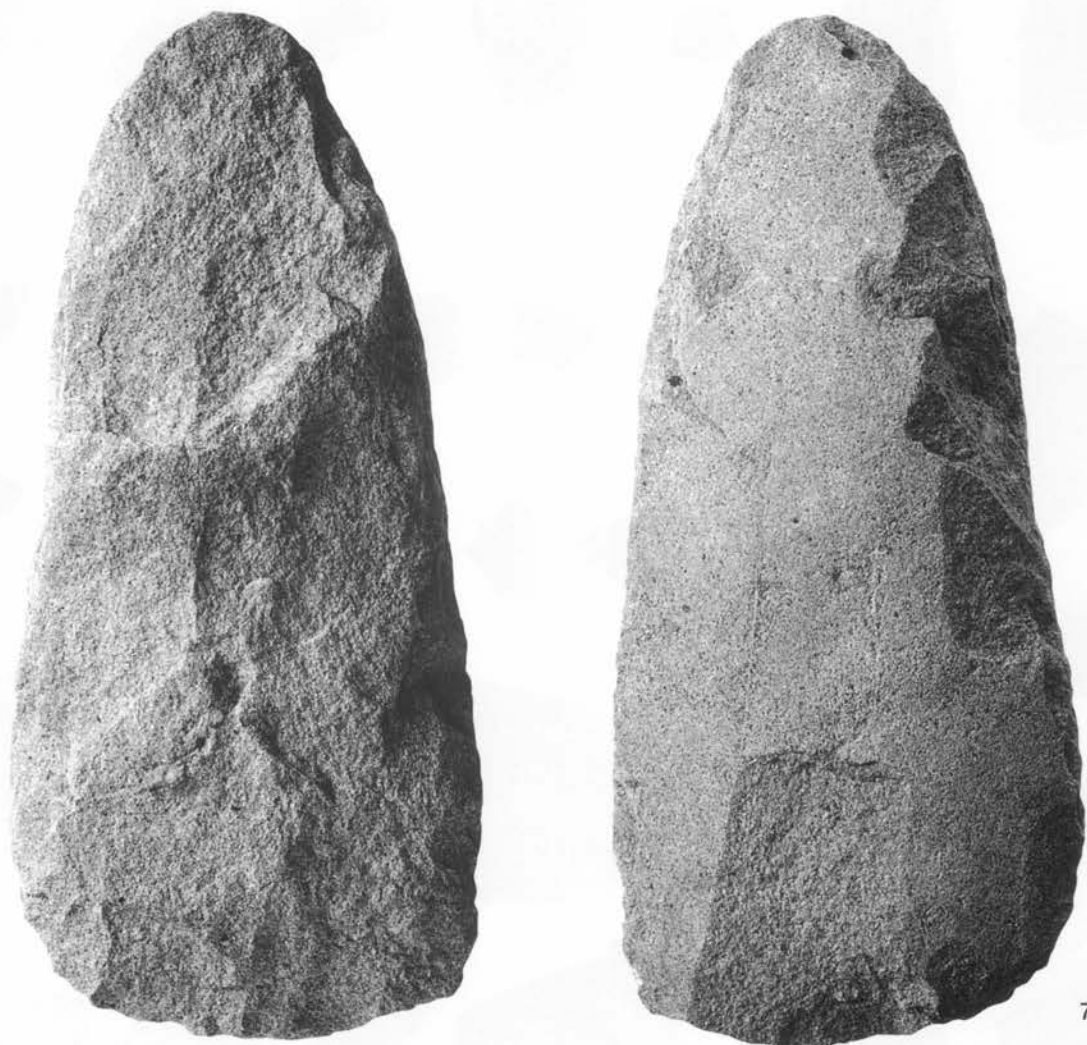
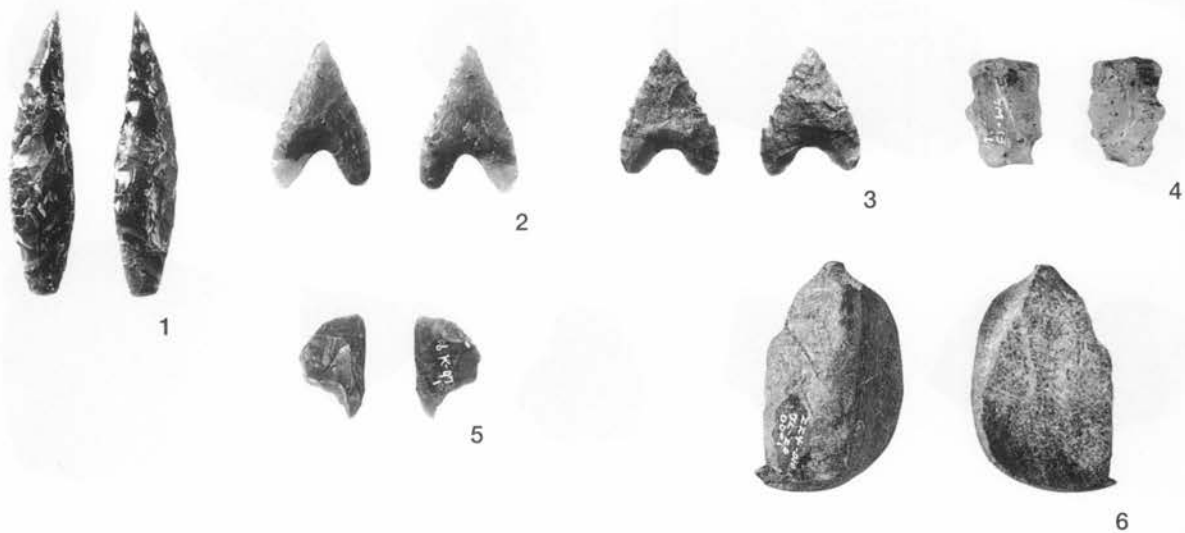


縄文土器 9



縄文土器 10





縄文時代石器 1



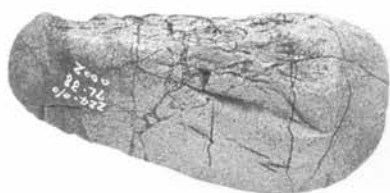
224-416  
7.48  
0092



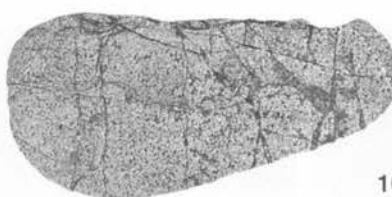
8



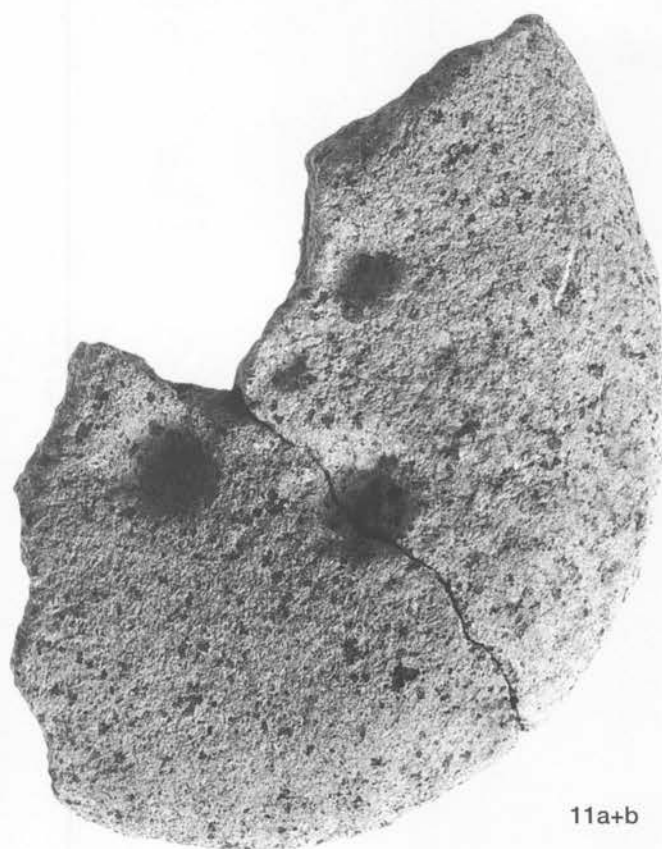
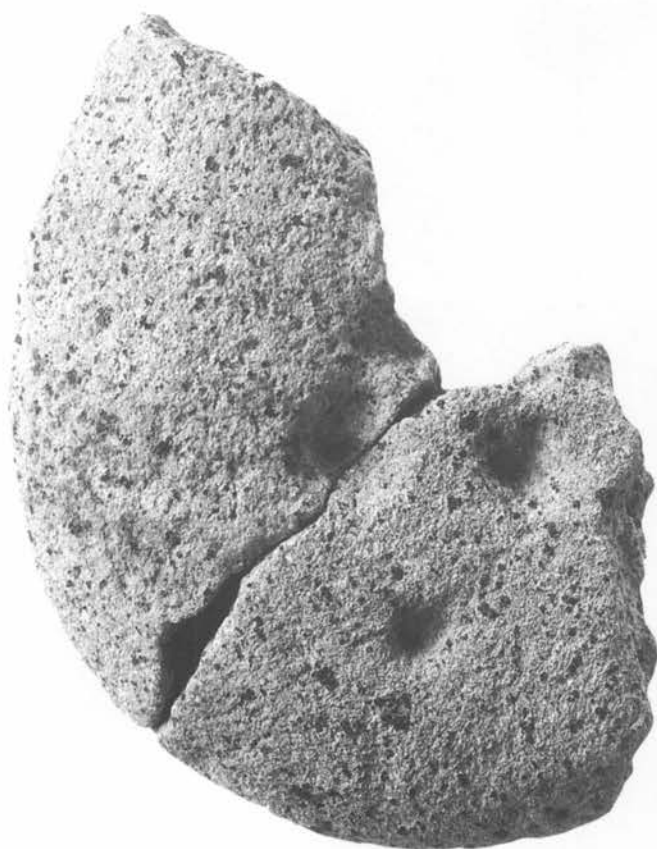
9



224-416  
7.48  
0092



10



11a+b



S I 002  
北西から



S I 002カマド；左  
S I 021出土状況；右



S I 021, S K 030  
南から





S K 004 ; 左  
S K 004 · 005 ; 右



S K 005 ; 左  
S K 008 · 009 ; 右



S K 026 ; 左  
S K 023 ; 右



S K 024 ; 左  
S K 025 ; 右



S K 036検出状況；左  
S K 036；右



S D 013, 南東から；左  
S D 013, 西から；右



S D 028, 南西から；左  
S D 028, 北西から；右



S D 029遠景；左  
S D 029近景；右



002-2



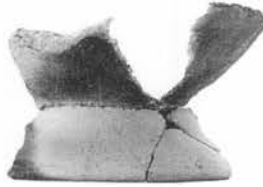
002-8



002-14



002-3



002-10



002-13



002-5



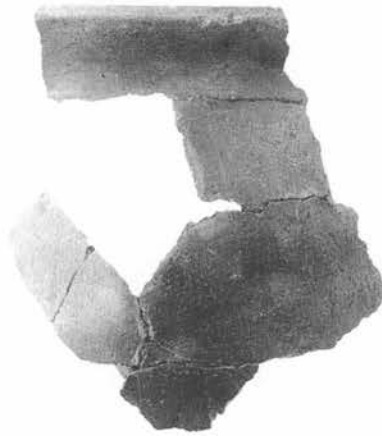
002-11



021-1



002-6



002-12



005-1



002-7



009-1

奈良・平安時代土器



中・近世出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	しんかまがやちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ								
書名	新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書 I								
副書名	鎌ヶ谷市五本松No.3 遺跡								
巻次	I								
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第457集								
編著者名	矢本節朗、小笠原永隆、糸川道行								
編集機関	財団法人千葉県文化財センター								
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2						Tel043-422-8811		
発行年月日	西暦 2003 年 3 月 25日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
ごほんまつ 五本松No.3	かまがやしほつとみあざごほん 鎌ヶ谷市初富字五本 まつ 松980ほか	12224	010	35度 46分 47秒	140度 00分 38秒	19941201～	2,422	新鎌ヶ谷地区整 備事業に伴う埋 蔵文化財調査	
						19951219			
						19970602～			15,668
						19971031			
						19981001～			
19981116	6,806								
19990802～									
19991029									
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
五本松No.3	集落跡 包蔵地	旧石器時代	石器集中地点 21地点 土坑 1基 礫群 7基	ナイフ形石器、尖頭器		Ⅸ a 層から検出され た土坑とその土坑か ら検出された黒曜石 の接合資料。Ⅲ層下 部から検出された東 内野型尖頭器石器 群。  阿玉台式土器がまと まって出土。  古代末期の住居跡の 検出。			
		縄文時代	陥穴 6基 土坑 8基	阿玉台式土器、石器					
		奈良・平安時代	住居跡 1軒 竪穴建物跡 1棟 土坑 10基	土師器杯、土師器甕、 須恵器坏					
		中・近世	溝 3条	寛永通寶					

千葉県文化財センター調査報告第457集

## 新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書 I

— 鎌ヶ谷市五本松No.3 遺跡 —

---

平成15年3月25日発行

編	集	財団法人 千葉県文化財センター
発	行	都市基盤整備公団千葉地域支社
		千葉県美浜区中瀬1-3
		幕張テクノガーデンD棟20階
		財団法人 千葉県文化財センター
		四街道市鹿渡809番地2
印	刷	株式会社 弘 文 社
		市川市市川南2丁目7番2号

---